AP
95
T2
K13
v.9 no.3-4

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

春光遍き三越

……春の流行品實用品を取揃へ……

春の光遍く、潑溂たる生氣に漲つて居ります。三越の店内には清新の百貨充實し、燦然として新彩に輝いて居ります。春のお買物は何卒三越へ御用命の程御願ひ申上げます

三月の催物としては格安反物賣出しを初め、呉服雜貨の流行品陳列、繪畫幷に美術工藝品展覽會等いづれも趣味に滿ちた數々を御高覽に供します

三越呉服店

◆東京駿河町◆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



その明晰なる頭腦……
絶倫なる精力は、皆……
朝夕の**ヴィタモーゲン**より！

小冊子……「腦力と活動力とを増進するには」と題するもの、藥種店頭御申越次第送呈す

劇務家、學生、藝術家その他頭腦を用ふる人々には、その腦力が過度の緊張に耐え得るやう特別の養分を與ふることが如何に効果を與ふるかは、恰かも果物を栽培して特別の肥料を與ふるとき良き果實を得るに異らず。

殊に都市の生活者は筋肉の運動不足勝ちとなり、神經は過敏となり、然かも他方に於て頭腦の活動率はこれを益々増進せしめざるべからず、文化が進むに比例して神經衰弱患者が増加する事實は今日の米國が良く例證せり

頭腦の肥料として燐、ヴィタミンその他の貴重成分を濃厚に且つ最も吸收同化され易き形態にて含まるゝ美味の粉末は**ヴィタモーゲン**なり。

朝夕の食事後に用ふる一杯は日々の劇務に對する保險とも見做すべきなり

目方……一円八十錢　二百五十匁……四円　各有名藥店にあり

英國ロンドン　ヴィタモーゲン會社

日本總代理店　東京日本橋區本町　株式會社田邊元三郎商店
大阪東區道修町　田邊五兵衛商店

Vitamogen NERVE TONIC Regd

VT 20

改造三月號目次

◇市川一郎譯著◇

好評 中等學校上級用 哲學の一斑 基礎概念講義

（四六判最上製美本 全壹册六百餘頁菊入）

正價金五圓八拾錢 送料金廿七錢 ◇

（哲學初歩研究者）（必満の參考用書）

本書は高等學校初級生若くはそれと同程度の素養を有する人々に廣義の哲學概念を與へ從來閑却せられてゐた新しき世界に對する興味を喚起せしめ兼ねて既得の自然科學の知識を完成せしめる爲に叙述せるものである。尙心理學・論理學・倫理學等をも所謂廣義の哲學的學科と認めて加へられてゐる。今や哲學は一部の智識的階級の專有物でなく一般人にとつて必要な智識となつて來た時本書の如きは誠に貢獻する所多からんと信ず。（萬朝報）

稻毛金七著 **哲學教科書** 參圓八拾錢 送料十八錢

市川一郎著 高尙な理論平易に講義 **哲學概論** 四圓八拾錢 送料廿七錢

渡部政盛著 **最新哲學辭典** 五圓八拾錢 送料廿七錢

一條忠衛著 **社會道德論** 參圓五拾錢 送料十八錢

吉波彥作著 精要 **韓非子詳解** 參圓八拾錢 送料十八錢

森山右一著 文檢受驗用 **史記選釋** 參圓五拾錢 送料十八錢

笠井義夫著 ● 理論鑑賞揮毫 **習字法精義** 本書は斯道研究者の爲に習字に關する一際の事を詳述せる良書なり （新刊） 金參圓五拾錢 送料十八錢

白濱徵氏序 宮本幸惠著 ● **色彩の研究と其取扱法** 美麗なる石版廿五度刷色圖十六葉調和表を挿入す （三版） 金參圓五拾錢 送料十八錢

佐藤種治著 ● 參考 **日本歷史精說** 太古より現代までの史實を探究し其上諸種の史籍を參酌補充す （新刊） 金六圓八拾錢 送料廿七錢

石川誠著 ● 參考 **古今和歌集新釋** 古今和歌集諸抄大成とも稱すべき詳密なる詳釋書天下一品の書 （新刊） 金參圓八拾錢 送料十八錢

森山右一著 ● **神皇正統記新釋** 本書出で神皇正統記は究明し盡されて餘りあり現代必讀の書也 （新刊） 金貳圓五拾錢 送料十二錢

大久保龍著 ● 少年 **源賴光と四天王**（大江山鬼退治） 各地の賊退治等血を湧す様な面白き書である （新刊） 金貳圓五拾錢 送料十八錢

奈良島知堂 ● **少年乃木大將** 將軍靜子夫人の全傳及逸話の數々を詳細に興味深く叙述せる良書である。 （新刊） 正價金貳圓 送料十八錢

東京市神田區表神保町七番地 大同館發行 振替貯金口座東京八七貳番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Japanese studies
Tuttle
3-24-49
665247

日本の重大なる轉機

我國が經濟的にも政治的にも刻々支那に於て寒心すべき地位に陷りつつあることは御承知でせう。第一に英國に代りて支那を支配せんとする米國資本の壓迫、第二に來るべき支那の新秩序建設に偉大なる功勞を樹てつつある勞農ロシア勢力の瀰漫、第三に支那革命運動の當然の歸結として我が勢力の漸退することこれ。

英國の勢力が支那より驅逐されるのは早や時日の問題であり、尚印度その他の東洋に於ける既成勢力の崩壞も遠くはあるまい。今世紀は東洋の政治地圖と共に經濟的勢力圏の大變革を豫想さるる。西歐の沒落前に東洋の危機に遭遇するのだ。我々は奈何にこの難局を突破したらいいでせう。

現在まで英支葛藤に面して若槻内閣の執つた態度は――資本主義内閣の立場としては――さまでの過誤はなかつたが、しかし若槻内閣は革命政府が英國に對し其目的を貫徹したあとにその鋒先きが何れの國に向けられるかも承知の上で對支策を決定したのであらうか、今回の英國勢力の排斥は決して表面に現れたやうな單純性のものでなく覺醒せる彼等革命政府の筋書きは支那全土より帝國主義の總驅逐にある。彼等の黑表中には滿洲問題の如きも無論藏されておる。幣原氏が此邊を篤と考慮の上、現在の態度に出でおるものならば革命政府側の第二計畫、第三計畫が矢繼早に出現しやうとも驚くことはあるまいが、不幸我々の聞く所では、ただ當面を糊塗し、そして消極的に革命政府の歡心を得やうとするのに過ぎないものだと。しかし支那大衆の膨湃たる覺醒が今日の如き狀勢を呈しおる以上、根本的の問題に觸れなくては彼我釋然として友好を永續して行くことは出來ない。我國は實に右するが、左するの岐路に立つておる。右せんとせば寧ろ英、米と深結し、兵火を以てまで現狀の勢力維持に死守すべきであり、左せんとせば氣前よくすべての利權、特權を抛棄して同等の國家的地位に立ちあくまで對等國民として永久に結合するにある。此二つの何れを撰ぶによつて截然と我國の進むべき路筋がハッキリするであらう。さもなくばいつも闇夜の手さぐり足さぐりの危い崖路を歩かなくてはならぬであらう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

司法官と社會思想

——暴力行爲處罰法其他に關する大審院最近の判決について——

末弘嚴太郎

はしがき

官憲に對する吾國社會一般の信頼は遺憾ながら今や漸次に薄らぎつゝある。然るに、此一般的傾向の中に在つて、獨り司法官のみは依然として其厚い信用を維持して居る。否司法官の淸廉と公正とは以前にも増して愈々社會一般の尊重する所となりつゝある。

行政官に對しては制度上上級官廳の監督權が及び得る。又政黨其他政治的勢力の不當なる壓迫が加はり勝ちである。其結果、彼等の處置に對しては世人動ともすれば其公正を疑ひ其不當を訴へる傾向がある。然るに、司法官に對しては、今尙殆ど此種の非難をきくことなくすべてが司直の手によつて正しく裁かれつゝあることを喜ぶのは吾國社會一般の現狀である。

成程、司法官に對しても時に或は其裁判の具體的に妥當ならざるを非難するものがあり、又或は其世間知らずを笑ひ其杓子定規を憤る聲を聞くことがあるけれども、其種の缺點は寧ろ彼等が「公平」に專念するの餘り已むを得ずして出で來る短所であつて、これが爲め彼等の公平と正義とは少しも傷けられない。世人は今や均しく仰いで彼等の公正を讃美しつゝある。

私は此事實を否定しない。而して世人と共に此現象を喜んで居る。從つて、此現象が今後も尙長く續いて益々其長所を發揮すべきことを衷心より希つて居る。然るに、一兩年此方彼等司法官の與へる裁判の流れを心靜かに眺めて居ると、不思議にも時々私の心に暗い影が映つて來る。私はその度毎に極力其陰影を追ひ拂ふべく努力した。そうして動ともすれば暗くならうとする心に燈を點じて暗い影を打消そうと力めた。しかし、其努力は不幸にして成功しない。暗い影は益々其暗さを增して私の心を傷ましめる。最近に至つて私は終に殆ど其傷みを堪え忍ぶことが出來なくなつたのである。

然らば、其暗い影とは何か。彼等の不公正か否。彼等の世間不識か否。乃至は又彼等の杓子定規か否。今までの所私は彼等に對し此等の諸點について殆ど何等の甚しく非難すべきものを發見しない。而かも

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

司法に對する社會一般の信頼に對して一種の悲しむべき暗い影が投ぜられつゝあると言ふ事實を遺憾ながらどうしても否定することが出來ない。然らば、其暗い影とは果して何であるか。私は一言之に答へて「社會思想の缺乏」と言ひたいのである。

司法官は確に公正である。しかし、彼等の公正は彼等と階級を同じうし彼等と思想を同じうする人々の間にのみ通用する公正ではあるまいか。彼等は決して意識的に不公正を行はない。從つて、彼等と社會意識を同じうする人々は均しく仰いで彼等の公正を讃美しつゝある。けれども、彼等も亦社會の或階級に屬し從つて又無意識的に其階級意識に支配されつゝある事實をどうして否定することが出來るか。彼等が自ら公正なりと確信しつゝある事柄も實は彼等階級意識の所産に過ぎずして、彼等と社會意識を異にする人々の目から見れば實は甚しき不公正であることがあり得るのではあるまいか。私は最近に於ける裁判の流れを眺めつゝ密かに此感に打たれざるを得ないのである。

果してそうだとすれば、現に一派の人々が唱へて居るやうな、裁判も法律も乃至は又正義も公平も實はすべて唯或階級にのみ通用すべきものであつて、階級を異にする人々より見ればすべて皆惡であり敵であると言ふ說をどうして否定することが出來るか。私にはどうしても吾國現在の事實が漸次に此說を裏書すべく其歩みを進めて居るやうに思はれてならない。そうして、それを心から悲しむのである。

此故に、私はこの私が恐れて居る事實をありのまゝに書き記して讀者諸君に示したい。そうして諸君と共に此問題を考へ、諸君と共に司法を社會乖離の深淵より救ひ出し、其公正をして永遠に光輝あらしむべき方策を講究せねばならないと考へるのである。

一

抑も裁判は——動ともすれば世人が考へて居るやうに——單純な形式的の三段論法から機械的に生み出されるものではない。勿論裁判官は法律によつて裁判せねばならない。彼の專恣により感情によつて任意の裁判を下すことは其最も愼まねばならない所である。

しかしながら裁判官も亦畢竟人間である。彼等が具體的事件に當面するとき、先づ其所に出て來るものは常に其人間としての全人格的判斷でなければならない。彼等は良心の命ずる所に從ひ其抱持する理想に準據して一定の判斷を下す。而かも、彼等は其地位として法律による裁判を爲すべく强要されて居る。此故に、彼等が裁判上常に苦心するのは法律によつて而かも如何にして其全人格的判斷を裁判の上に表はすべきかの問題であつて、これこそは實に常に裁判の中心を成すべき問題である。

幸にして裁判官は法律解釋の自由と事實認定の自由とをもつて居る。若しも、「法律」が初めより不可動的に彼に向って與へられたものであり、又「事實」が彼の認定を待たずして客觀的に確定して居るものであるならば、裁判官としては單に計算器の把手を廻轉すると同じ仕事をしさへすればよい。かれはそれ以上何等の仕事をも爲すことが出來ないのである。所が、彼が一定の判斷を與へる爲めに一定の理想を以て「事實」に臨むとき、混沌として其所に横たはつて居る生地の事實は忽に整理されて法律の適用を受くべき事實に化成する。そうし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てかくして整理された事實は決して單に客觀的に存する與へられたる事實にあらずして、理想によつて洗錬された構成せられたる事實である。次に又裁判官に與へられた「法律」は決して初めから不可動的に定まつた準縄ではない。古來立法者は屢々其與ふる法典に向つて解釋を加ふることを禁止した。傳ふる所によれば、ナポレオン大帝に向つて其法典最初の註釋書を奉獻したるものあるとき、彼は密に「吾が法典失はれたり」との嘆聲を漏したと言ふ話である。法典を作る者は飽くまでもそれを通して自己の理想を社會的に實現したいと熱望する。しかしながら、古來如何なる法典と雖も解釋を免れ得たものはないのであつて、かくしてこそ死したる法典尙生きて百年の後にまで行はれ得るのである。人間としての裁判官は常に人間としての理想をもつて居る。そうして必ずや裁判の上に其理想を實現せむと努力するのであつて、其努力こそは實に「法律解釋」の苦しみである。苟も人間をして裁判の仕事に當らしめる以上、此努力を抑止することは不可能であり、法律の解釋を禁制することも亦全く不可能である。

かくの如く、裁判官は一面に於て事實認定の自由を有し、他面に於て法律解釋の自由をもつて居る。而してそれ等の自由は裁判官の理想によつて統御せられつゝ其所に裁判を生み出すのである。勿論、法律解釋の自由にも又事實認定の自由にも事物の性質上各一定の限度がある。裁判官は勿論其限度を破つてまで裁判上に其理想を實現し得るものではないけれども、其限度の範圍内に於て理想の實現に努力することは裁判官の行動として實に已むを得ざる事柄であるのみならず、否却つて其正に爲さゞるべからざる職責である。

此故に、司法制度上吾人は一面「法律」をして常に社會上妥當のものたらしむべく注意しなければならないけれども、他面同時に裁判官の「人」に向つて充分の注意を拂ふ必要がある。さればこそ、裁判所構成法に於ても裁判官の資格に關して嚴格なる規定を設け又其地位に向つて一定の保證を與へて居るのであり、訴訟法が管轄の問題を重要視するのも亦全く同じ見地に出發して居るのである。

二

かの陪審法の如きも右の見地に立つてこそ初めて其妥當性を理解することが出來る。

もしも、裁判が單なる機械的の三段論法によつて生み出されるものであるとすれば、陪審は寧ろ裁判の退步である。それは卑しむべき民衆迎合に過ぎずして、何等公正の要求に適合するものではない。然るに陪審が制度として廣く價値を認められて居る所以のものは何であるか。私は敢て此問に答へて言ふ。裁判に於ける「人」的要素の重要性が即ちそれである、と。

裁判の基調が裁判官の「人」にある以上、裁判の對象たるべき民衆は素より其「人」を問題とせざるを得ない。從つて、陪審制度の最も強く要求されるのは「裁判官の人」と民衆の「人」との間に最も大きな隔離のある時代であり、又陪審の實際上最も成功するのは民衆そのものが其「人」によつて其仲間を正しく裁判し得べき資質と素養とを備へた國である。私は現代の吾國が果して其種の時代であり又其種の國に相當するや否やを知らない。しかし、ともかくも民衆の「人」的

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

要素を裁判の上に加味する目的を以て陪審制度が採用されたものと私は解するのである。

無論、吾國の陪審法による陪審は單に「事實」を認定する權限を與へられて居るだけで、法律を解釋する權能を與へられて居ない。被告人の有罪無罪を決定すべき基礎たる事實は陪審員之を認定し得るけれども、有罪無罪それ自身は——歐米諸國の陪審制度と異なつて——飽くまでも裁判官自ら之を決定するのである。けれども、先に述べたるが如く、裁判官が事實認定の上に其理想を働かしむることによつて、裁判そのものゝ上に其理想を實現し得るものである以上、陪審員に向つて事實の認定を許すことは即ち或る程度に於て彼等の「人」——理想——を裁判の上に實現することをす許ものと言はねばならない。而して此所にこそ——吾國陪審法の程度でさへ尙——陪審制度の價値が存在するのである。

かくの如く陪審制度は其性質上飽くまでも民衆の「人」を裁判の上に加味せむとする制度である。從つて、若しも民衆が「人」として統一性をもつて居るならば、特に問題は起らないけれども、民衆の中に階級を異にし社會思想を異にする二種以上の「人」が包藏されて居るならば、民衆の中特に何人をして具體的事件の陪審員たらしむるかによつて、裁判上著しき差異を生ずる譯である。

然るに、吾國現在の陪審法によると陪審員たるには「引續キ二年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムルコト」を必要とする。即ち今回の新選擧法によつて新に選擧權を取得するが如き無產階級の人々は全く陪審に干與することを許されない。而して又多數の陪審資格を有するものゝ中何人が具體的事件の陪審員たるかは陪審法の定むる所に從つて極めて偶然的に定められるのである。

從つて、一見陪審の手續を經さへすれは、民衆の「人」を裁判の上に加味するを得、之によつて裁判を民衆化し得るやうであるけれども若しも陪審資格ある人々の屬する階級と被告人の屬する階級との間に著しき社會思想の差異があるならば、裁判は毫も陪審の爲めに「民衆化」せらるることなく、反つて法律及び裁判の素養なき反對階級の民衆により、彼等の感情と階級意識とによつて極めて不利益な裁判を受けることゝなり得るのである。而して、若しも此種の事柄が極端且露骨に行はれるならば、陪審の爲め反つて社會階級間の反目乖離を一層惡化する虞があると言はねばならない。勿論陪審法に於ても此種の弊害を豫防する爲め、政治的諸犯罪其他騷擾罪等は之を陪審の評議に附せざることにして居るけれども（陪審法第四條參照）、陪審員の社會思想と被告人のそれとの間に著しき差異を見ることは此等以外の犯罪に付いても多く之を見得るのである。

實を言ふと、陪審制度は專制君主と其官僚とに對立する意味に於て民衆が一個の統一的陣營を成して居た時代の遺物である。當時にあつては民衆の中何人を陪審員たらしめても民衆の利益は能く之を擁護することが出來た。何故なれば民衆は專制君主と其官僚とに對立する意味に於て能く統一を得て居たからである。所が、一度ブルジョア・デモクラシーの社會と政治とが成立してより此方、今まで統一體を成して居ると思はれた民衆そのものゝ中に顯著なる階級の對立があると言ふ事實が曝露された。そうして民衆政治なる名の下に或階級者は政治

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を其手中に壟斷し盡したのである。而して今日吾國に施行されやうとして居る陪審制度の中にも、吾人は遺憾ながらその色彩の極めて明瞭なるものあるを認めざるを得ないのである。

三

かくの如く、裁判について吾人の最も注意すべき事柄は、裁判者——裁判官なると陪審員なるとを問はず——の「人」と其社會思想とである。

此故に、裁判者の「人」と社會思想とが一方に偏して居る限り、特に治安警察法治安維持法の如き階級的立法を竢たずと雖も、普通一般の刑法を適用するによつて容易に階級的裁判を實現することが出來るのであつて、裁判者の最も意を致して愼まねはならないのは蓋し此點である。何故なれば、裁判者の「人」が或種の行爲を以て反社會的なりと考へ之に向つて法律的制裁を加ふべしとの社會思想を有する限りあらゆる法律は能く彼等の理想を實現すべき手段として利用せられ得べき可能性を充分にもつて居るからである。

私は以下此種の事例として最近裁判事件の中より二三の例を擧示したいと思ふ。

第一の事件は大體次の如くである。小作人Aは長男Bの名義でC所有の桑園を賃借して居た。所が、D合資會社はCに對する抵當權の實行として該土地を競賣に附し、其結果Eに競落して桑園は其所有に歸した。Bには言ふまでもなく小作權があるけれども、現行民法は不幸にして登記なき賃借權に何等の物權的對抗力を認めないから、新所有者Eの返地請求があれば、之に向つて小作權を對抗することは法律上全然不可能である。其所で、Eは小作權にかくの如き法律弱點あるを奇貨とし、Bに對して現に其耕耘中の桑園を返還すべきことを訴求し終に勝訴の判決を得て强制執行を行つたのである。所が、Aは從來の通り特に「所有者Eの許諾なく耕作施肥の行爲を爲し因りて發芽したる桑葉を摘採して收穫」した。依つて、Eから竊盗の告訴をした所、檢事も之を取り上げて公訴に及び、其結果Aは終に竊盗罪として所罰を受けたのである(大審院刑事判例集第五卷第八號一二六頁以下所載同院第一刑事部大正十五年七月十六日判決參照)。

本件に於ける桑樹は初めから桑園に植付けられて居たもので小作人の植付けたものではないらしく思はれる。何故なれば、若しも小作人の植付けたものであれば、——民法第二百四十二條但書「但權原ニ因リテ其物ヲ附屬セシメタル他人ノ權利ヲ妨ゲズ」なる規定の適用によつて——桑園の所有權が何人に歸しやうとも桑樹そのものゝ所有權は依然として小作人にあり、從つて、竊盗罪の如き問題は初めから全然起り得ないからである。然らば、桑樹の所有權が初めから地主の所有に在るとして、小作人は之に對して如何なる權利を有するであらうか。彼が小作契約の相手方たる舊地主Cに對する關係に於て桑樹の使用收益權を有することは明である。所が彼の權利は法律上舊地主Cに對する債權に過ぎないから、新地主Eが之を認めずして土地明渡を强要する以上、Bとしては舊地主Cに對して債務不履行に因る損害賠償を請求することが出來るだけで、Eの請求に對しては素より之に應ぜねばならない。而してEが其權利に基いて土地取戾の强制執行までを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も實行して仕舞つた以上、土地は既にEの占有に在ること明かであつて（民事訴訟法第七百三十一條第一項參照）、Aが濫に侵入して耕耘を續けるが如きは明に法律上不當の行爲である。

けれども、法律上の形式論から言ふても、小作人の耕耘によつて生じた耕作物は小作人の所有物である。例へば、小作人甲が乙との契約によつて土地を借入れて播種耕作した以上、收穫前に其土地の所有權が乙から丙に移轉するやうなことがあつても、作物其物の所有權は依然として甲にあると言はねばならない。果して然らば、甲が乙との契約によつて桑樹附きの土地を借入れ、之に施肥耕作を加へて成育せしめた桑葉は右と全く同樣の理によつて甲の所有にありと言はねばならない。甲が事實收穫を行ふ前に桑園の所有權が乙より丙に移りたるの故を以て甲の桑葉所有權までが直に丙に移轉すべき理由は少しもないのである。即ち桑葉は甲の勞力及び投資の結晶であり、而して甲が乙との契約によつて桑樹の使用收益權を有する以上、其中途桑樹の所有權が丙に移轉したること夫れ自身は直に甲の桑葉所有權を害すべき理由は少しもないのである。

大審院は「本件地所ハ桑樹定着ノマヽEノ所有ニ歸シ且同人ニ於テ占有スルモノナルヲ以テ、其ノ定着物タル桑樹ヨリ定時ニ收得スベキ桑葉ガEノ所有ニシテ且其ノ占有ニ在ルヤ論ヲ竢タズ」と言ふて居るけれども、右の桑葉にして小作人が舊地主との契約に基いて耕作育成せしめたるものである以上、其所有權は飽くまでも小作人に在りと言はねばならない。從つて、本件に於て法律上問題とすべきは寧ろ小作人が舊地主との契約に依つて取得した權利が何時に於て消滅したかであるにも拘らず、大審院が毫も此點に考慮を拂はずして漫然桑葉所有權の新地主にあることを斷定したのは甚だ不用意である。

假りに、小作人舊地主間の契約は新地主の所有權取得と同時に消滅するものだとしても、一體無權利者が他人の土地を耕作することは夫れ自身當然に竊盜であらうか。成程それは民法上の不法行爲であり不當利得である。けれども、他人の土地の無權利使用は即ち土地生產力の無權利盜取なりとして、之に「他人ノ財物ヲ竊取シタル者」を竊盜として處罰する規定を適用すべきや否やは甚しき問題である。大審院は會々桑樹の所有權が新地主の所有に在ることから直に桑葉所有權亦新地主に在ることを論定し、其桑葉を竊取するは即ち「他人ノ財物ヲ竊取」するものなりと論じて居るけれども、本件に於て注意すべきは有體物たる桑葉にあらずして寧ろ桑葉を發生せしめたる土地生產力である。從つて、假りに小作人の耕耘施肥が全然權利なしに行はれたとしても、依つて彼の奪ひ取りたるものは土地生產力である。何故なれば、問題の桑葉は土地生產力と耕耘施肥との成果に外ならず、而して耕耘施肥は飽くまでも小作人自らの作爲したる所であり、從つて彼の奪ひ取りたるものは唯土地生產力のみであると言はねばならないからである。然らば、大審院は土地生產力の無斷盜取に對して一般的に竊盜の規定を適用する勇氣を有するのであらうか。大審院が此根本問題について何等の說明を與ふることなく、漫然桑葉所有權の所在に依つて竊盜罪の成否を決定して居るのは明に不都合である。

假に形式的法律論に於て大審院の所說が何等の缺陷を包藏しないとしても、一度事件の內容を實質的に觀察するとき、之を竊盜罪として

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處罰するの甚しく不穩當なるは何人も容易に看取し得る所である。何故なれば、本件は元來小作人の權利が偶々現行民法上單に債權的効力を有するに過ぎず、從つて新地主に對抗し得ざるが爲めに生じ得た事件だからである。小作人は地主との契約によつて正當に小作權を取得したのである。然るに、地主が其小作地を抵當に入れた結果、結局競賣によつて新地主其所有權を取得し、そうして新地主が飽くまでも民法上小作權の薄弱なるを利用して小作人を追拂はむとしたのである。して見れば、小作人が飽くまでも何とかして自己の權利を擁護せむと努力するのは當然である。彼としては明に充分言ひ分のある事件であつて、社會は彼の立場に對して滿幅の同情を寄せて然るべきである。後に第三の事件についても述ぶるが如く、若しも先頃小作調査會の議決發表した小作法要綱第一が法律になつて居れば、彼は如何なることありと雖も立退を命ぜらるゝことなく、從つて竊盜の如きいまはしき惡名を負はされることもなかつたのである。然るに、法律の不備によつて地主の乘ずる所となり、單に土地の明渡を强要されたのみならず自らの耕作した桑葉を採取した爲めに竊盜の罪に陷つたのである。

近時小作爭議の末地主が强ひて其主張を貫くが爲め、竊盜の告訴を以て小作人を脅すの例は吾人屢々之を聞くことが出來る。伏石事件の如き又近く岡山縣に起りたる落穗盜取事件の如きすべて其例である。而して本判決の事件の如きは、それ自身新聞記事となつて廣く朝野の注意を惹くに至らなかつたけれども、地主が小作人を立退かしむる爲め告訴權を濫用した最も顯著の例であつて、吾人は之を取上げて事件とした警察の官憲に對して非難の矛を向けざるを得ざると同時に、裁判所が形式的法律論としてさへ尙多大の疑を容れ得べき本件に向つて何等の假借する所なく、竊盜の罪を言渡したことを甚しく遺憾とするものである。

四

次に第二の事件は、警察犯處罰令第二條第五號「他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者」に關する規定の適用によつて、小作爭議に際して行はれた Picketing の行爲を處罰した事件である。

大正十三年十月日本農民組合山陰聯合會大國村支部と地主との間に小作料減額請求の小作爭議が起り、其結果地主は小作料請求並土地返還請求訴訟を提起し、且小作人等の「立入及耕作ヲ禁止シ地主ニ於テ耕作スル者ノ假處分命令」を得て、係爭耕地の自營的共同耕作を爲すことを企て、それが爲め人を雇入れ又は他の助力を得て田植を初めた。其所で小作人の側でも之に對抗する手段として次の如き諸行爲を行つた。(一)地主の爲めに小作に從事して居るAに對し「地主ノ爲メ小作ヲ爲シ居ルハ不人情ナリトノ嫌味ヲ述ベ以テ暗ニ作業ノ中止ヲ迫リ」たること、(二)同じく地主の爲めに小作せるBに向つて「地主ノ爲作業ヲ爲スノハ宜イト思ヒテ出タカ惡イト思フテ出タルカト其ノ不都合ヲ責メ遂ニ同人ヲシテ煩累ヲ患フルノ餘其ノ翌日ヨリ右田植ヲ中止スルニ至ラシメ」たること。(三)地主より係爭土地の田植を請負つて居るCに對し「植付ヲシテ與レテハナラヌト强ヒテ申入レ」、「同人ヲシテ煩累ヲ患フルノ餘遂ニ右契約ヲ解除スルニ至ラシメ」たること、(四)地主の爲めに小作に從事せるDに對し「地主ニ助力スルハ諾ラヌ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コトナリト云ヒテ其ノ不都合ヲ責メ遂ニ同人ヲシテ小作人等ノ感情ヲ害スルヲ患フルノ餘翌日ヨリ作業ヲ中止スルニ至ラシメ」たること等

所が、裁判所は小作人此等の行爲を以て「他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル」ものなりとし、上記の警察犯處罰令第二條によつて被告人各に對して「科料十五圓宛ニ處シ其ノ罰金不完納ノ場合ハ刑法第十八條ニ依リ當該被告人ヲ十日間勞役場ニ留置ス」る旨の判決を下したのである。而して其理由として右處罰令の條項には「單ニ他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者トアリテ、惡戲ト妨害トヲ同軌ニ置キタル點ヨリ見ルモ、刑法ノ業務妨害罪ノ如ク特種ノ手段又ハ威力ヲ用フルヲ要セズ、苟モ他人ノ業務ニ對シ其ノ自由意志ヲ阻害スル行爲アリテ直接間接ニ業務ニ支障ヲ來サシメタルトキハ、其ノ程度ノ輕微ナルモノト雖モ之ヲ處罰スルノ法意ナルヲ以テ」云々との説明を與へて居る（大審院刑事判例集第五卷第三號一一三頁以下所載同院第二刑事部大正十五年三月二十二日判決）。

私は此判決に向つて、裁判所は小作爭議の社會的意義に付いて何等の理解を有せず、思想上唯所有權の重むずべきことを知るのみであつて、耕作者の立場に同情するの念慮を全く缺いで居るものであるとの批評を加へざるを得ない。抑も小作爭議は——私が屡々他の場合に於て論述して居るが如く——小作條件改定の爲めにする Bargaining に外ならない。小作人が從來の小作條件に滿足せずして其改定を迫り、地主亦之に應ぜずして爭議の開始を見るとき、地主小作人の兩者はいづれも事實上法律上利用し得べき一切の術策を傾け盡して其交渉を自己の有利に導かむとする。地主は素より其最も有力の武器たる「所有權」を振りかざして專ら法律的訴訟的戰術を利用せむとする。小作人は又其最も有力の武器たる數により實力によつて地主を壓倒し去らむとする。それが爲め、或は小作料不納同盟を行ひ、或は立毛差押に備ふべき共同刈取を行ひ、或は競賣場の占領によつて差押物の競賣を自己の有利に終らしむる等其他あらゆる對抗手段を講ずるのである。兩者の爲す所は何れも小作交渉を自己の有利に導かむが爲めに行はるゝ駈引に外ならないのであつて、それは商人が賣買取引上有利の契約を得むが爲めに各種の駈引手段を用ゐるのと全然同一である。

從つて、小作條件の決定が原則としてすべて當事者相互の自由協定に放任されて居る現行法制の下に於ては、其協定上自己に有利な結果を得る爲めに、當事者各自の行ふ取引手段は暴行脅迫詐欺等の如き誰が見ても能く〱不穩當なりと認められるものゝ外成るべく自由に之を許さねばならない譯である。然るに、地主側の闘爭手段は專ら所有權を楯として法律的合法的の形式をとつて居るが爲め、實質的には如何にそれが四圍の事情に照して不穩當であり權利濫用的であつてもすべて自由に之を許し、之に反し小作人側の戰術はいづれも數と團結を武器とする實力的のものである爲め直に之を不法視するならば、自く許さるゝに反し、相手方は殆ど其戰術の全部を封ぜられることゝなるのであつて、其結果小作人が取引上敗北に終るべきは當然である。而してかくの如きは契約自由を基調とする現代法制の精神と根本的に矛盾するものなること素より言ふを俟たない。

翻つて本件を見るに、小作人等の爲したる所はいづれも平和的勸説

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の範圍を越えて居ない。若しも彼等の爲す所が暴行脅迫の程度に至つて居るならば一般刑法によつて之を處罰する素より何の妨げもないであらう。けれども、事玆に至らずして單に或は同情を求め或は興味を述べ或は又勸誘交渉を爲したるに過ぎざるが如きは、今や地主と生死の闘爭に從事して居る彼等として常識上極めて當然の所爲なりと言はねばならない。然るに、大審院は偶々警察犯處罰令の條項が「他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者」とあるのみで、「刑法ノ業務妨害罪ノ如ク特種ノ手段又ハ暴力ヲ用フル」ことを要求して居ないのを利用して、彼等の行爲を所罰したのである。小作爭議の實情を理解せず、小作人の立場について何等の同情を有せざることこれよりも甚しきもの果していづれにあり得るであらうか。法律には如何に唯「他人ノ業務ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者」とあつても、其妨害手段が適法の範圍を超えず善良の風俗に反せず從つて又何等の反社會性を帶びざる限り、其處罰に値せざること、法學第一年の學生にして尙能く辨へて居る事柄である。然るに、大審院が此點について何等の說明を與へず、唯法律の條句に何等の制限なきことを唯一の理由として、小作人としてあの場合爲し得べき唯一の闘爭手段を奪ひ去つたことは甚しき不都合である。

大審院は、かくの如き場合に立ち至つた小作人に向つて果して何を爲すべきことを要求するのであらうか。訴訟尙未だ進行中にして理非曲直必ずしも未だ決定せざるに際し、地主は假處分によつて耕地を取戻した上、人を雇つて自ら其耕作を爲さむとして居る。今まで其土地を耕作するによつて貧しい生存を續けて來た小作人は此際何事をも爲さずして唯袖手傍觀せよと言ふのであらうか。それならば小作交渉上小作人の敗北すべきは極めて明瞭である。大審院は果して、小作人敗北せよと命令せむとして居るのであらうか。大審院はよろしく小作人も亦契約の自由を許されて居ると言ふ明々白々たる事實を反省すべきである。それならば、小作人をして其自由を利用せしむる爲め、出來得る限り廣い手段を許し與へねばならない筈である。然るに、事實大審院の爲す所は、小作人より契約の自由を剝奪するものである。彼等に向つて何時までも地主の言ふがまゝの小作條件を甘受して居れと命ずるものである。これを階級的偏見と言はずして何であらうか。

勞働爭議についても Picketing の中平和的なるものゝ適法にして犯罪を爲さゞることは今や各國法制の殆ど均しく認むる所である。何故ならば、爭議を許す以上之を成功せしむべき手段として Picketing を行ひ、之によつて罷業破りを防止し仲間の結束を固めることを許さねばならないのは、事物の性質上極めて當然なりと言はねばならないからである。勿論 Picketing の手段として暴行脅迫を爲す等非平和的なるものは之を禁ぜねばならない。之に反して、平和的 Picketing は苟も爭議を許す以上必然に之を許さねばならないのである。果して然らば、契約自由の原則必至の產物たる小作爭議についても平和的 Picketing を許さねばならないのは極めて當然であつて、私の切に大審院の猛省を促す所以である。

五

尙第三の事件は、「暴力行爲等處罰ニ關スル法律」第一條の適用によ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて小作組合員を處罰した事件である。

農民組合員Aの兄BはCの田地を小作してゐた。處がCが其田地をDに賣つたので、新にBD間に「爾後引續キ該田地ヲ小作スルヤ否ニ付交渉」が始まつた。所が他面EなるものがDの依頼によつて該田地を小作しやうとして居る事實が發見されたので、Aは「憤慨ノ餘同人ニ對シ荒キ言語ヲ以テ、此ノ田地ハ未ダ話付居ラザルニ小作スレバ自分ハ農民組合ニ加入セル故後日大事ニ至ルモ知レヌゾ、又兄ハ斯ル者故如何ナルコトラ爲スヤモ計ラレズ、自分モ汝ガ他村ノ者ナラバ毆リ倒スベシト申聞ケ、農民組合ナル團體ノ威力ヲ示シ、同人ヲ脅迫シタ」。

所が、大審院は此行爲を以て上記法律第一條に所謂「團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ」て「刑法第二百二十二條ノ罪――即ち脅迫罪――ヲ犯シタル者」なりとし、上告人が同法に所謂「團體」とは「常ニ暴力行爲ヲ用フル團體若ハ尠クトモ無頼漢ヲ組織分子ト爲ス團體」を指稱するのであつて、「農民組合ノ如キ小作人ト地主トノ間ニ在リテ穩便ナル手段ニ依リ兩者ノ利益ヲ增進セントスルガ如キ而カモ眞面目ナル農民勞働者ヲ組成分子トスル團體」を言ふものではない、と抗爭したるに拘らず、「縱令團體其ノモノハ正當ノ目的ヲ有シ常ニ暴力行爲ヲ爲サズ又は團體員ニ不良ノ徒ナシトスルモ、之ヲ背景トシテ其ノ威力ヲ利用シ暴行又ハ脅迫ノ罪ヲ敢行スルトキハ、其ノ行爲ハ該法律第一條ニ該當スルモノト解セサルベカラズ」と唱へ、被告人の行爲は農民組合なる團體を背景として身體に危害の及ぶべきことを通知したのだから同法第一條によつて處罰せらるべきだと判示した(大審院刑事判例集第五卷十一號一四五頁以下所載同院第五刑事部大正十五年十一月二十二日判決)。

顧るに暴力行爲處罰法案が初めて議會の議に上つたのは昨年三月十八日である。而して其席上代議士山口政二氏より、同法は獨り之を所謂暴力團に適用するのみならず、勞働組合小作組合等に對しても之を適用せむとするものにあらずやとの質問ありたるに對して、江木法相は「……勞働ナリ小作ナリ其他水平運動ナドヲ此法律ニ依ツテ取締ル意見ガアルカドウカ、是ハ全クサウ云フ意思ヲ持ツテ居ラヌノデアリマス」と明瞭に答へて居る(衆議院速記錄第三十二號八七〇頁)。無論其後三月二十四日の議場に於ける代議士山口義一氏の演說によると、委員會に於ける政府委員の此點に關する答辯は可成り明瞭を缺いたらしい。其所で同代議士は上記江木法相の答辯趣旨を明かにし置くが爲め「本案規定の暴力行爲等ヲ檢擧スルニ當リ當局ハ須ク其運用ニ戒心シ苟モ人權蹂躪ノ非違ナキコトヲ期スベシ」との附帶決議を爲すべきことを提議した。而して此提議は正式の決議にはならなかつたけれども次の辯士代議士原夫次郎氏も亦明に其趣旨を認めて。法案は終に其空氣の下に衆議院を通過したのである。(衆議院議事錄第三十五號九四九頁)。

然るに、爾後幾何もなくして吾々は同法が屢々小作組合に適用せられつゝありとの情報を耳にしたのであるが、今回の大審院判決は不幸にして終に右情報の眞實なることを裏書したのである。

私は法案討議の際に述べられた各種の意見が到底裁判官を拘束し得るものでないことを信じて居る。從つて、裁判官が上記江木法相の言

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明を無視したことそれ自身を非難しやうとは思はない。乍併、委員會の席上既に政府委員の答辯二途に分れて分明を缺きたるにも拘らず、終に其疑ひを法文の上に解かずして曖昧のまゝ原案を通過せしめた代議士の無責任を責めざるを得ない。又傳ふるが如くむば、司法當局は初めより必ずしも小作組合勞働組合を除外するの意思なく、法文を曖昧ならしむることによつて、あはよくば此等正當の組合をも處罰する考をもつて居たとのことである。果して然らば、江木法相の言明は明かに政治的虛言であつて、議會は一面彼の責任を問ふべき責任を有すると同時に、同法の改正を實行して前議會に於て彼等の表明した意思を法文の上に明示する責任があると言はねばならない。

翻つて、本判決の事案を見るに、事件の內容は——先に說明した第一事件と同じく——正に先頃發表された「小作法要綱」第一によつて保護を受くべき事柄である。小作人Bは地主Cとの契約によつて小作權をもつて居た。然るに、C濫に當該の小作地を第三者Bに賣渡し、而してDは外見上引續きBに貸與し置く意思あるが如くに見せかけつゝ、實は裏面に於て他の小作人Eに之を貸與せむとして居たのである。若しも小作法要綱第一が法律になつて居たとすればDの企ては法律上初めから不可能であつた。然るに、現行民法上Bの權利の薄弱なるに乘じ、CDEの陰謀によつてBの權利を侵犯せむと企てたのである。小作組合員にあらずと雖も、誰かBの爲めに一掬の淚を垂れ、CDEの陰謀に對して憤激の情を抱かないものがあらう。Bの實弟Aが之を見て憤慨しEに對して判示せられたるが如き程度の言動に及ぶが如きは人として極めて當然の事柄ではないか。相手方が法律の不備に乘じて不當に財産を侵奪せむとして居る、誰れか默して之に抵抗せざるものがあらう。而かもAの爲したる所は單純なる荒々しき言動であつて、刑法第二百二十二條の脅迫罪を構成するや否やすら疑はしき程度のものである。加之、暴力行爲處罰法の制定に際して江木法相其他が上記の如き言明を爲したるの事實は大審院に於ても亦極めて顯著なるべき譯である。然るに、一方に於ては叙上の立場に立ちたる小作人の心情に對して何等の同情と理解とを與ふることなく、他方に於ては法文の不明確なるを幸ひとし立法の際に於ける諸事情をも無視して、小作人に嚴罰を加へたるものは實に此判決である。これをしも階級的判決と呼ばずして何であらうか。私は切に大審院諸公の猛省を促さゞるを得ないのである。

六

以上は最近大審院の判例集中に公表された一二の事例に過ぎない。しかしながら、吾々はこれを通して最近に於ける裁判所大體の趣向を推知することが出來る。

そうして、私が嘗て別の機會に於て述べた通り、如何に治安警察法其他直接勞働運動乃至小作人運動の抑壓を目的とする法律が形式上廢止されやうとも、警察檢察の職にある人々乃至は又裁判官の思想にして改まらざる限り、普通刑法其他一般の刑罰法令を以てするも尙無產者階級を抑壓すべき刑事處分の今後尙盛に行はれ得べき可能性のあることが今茲に遺憾ながら實證されたのである。

既に世人の弘く知れるが如く、無產階級の或理論家は、政治も法律

も裁判も皆唯有産支配階級の道具に過ぎないと唱へて居る。そうして其理由の下に政治を無産階級の手中に奪ひとらざる限り眞に彼等の爲めに公正なる社會は實現しないと主張して居る。而して現在有產階級の人々及び其代辯者は極力此理論を否定して、ブルジョア・デモクラシーの理想を説いて居るにも拘らず、事實はかくの如くにして着々此種の主張を裏切つて居る。そうして人々によつて最公正であり最信頼すべきものとされて居る司法官すら、唯彼等と階級を同じうし社會思想を同じくする人々の間に於てのみ公正且信頼すべきものであるに過ぎずして、無產階級の人々より見れば矢張り敵陣中の人々に過ぎないと言ふ事實を彼等自らの行爲によつて實證しつゝあるやうに思はれてならない。司法當局は果して此事實を如何に考へて居るのであらうか。

私は司法官の公正と清廉とを疑はむとするものではない。彼等が意識的に不公正を働く限り之を意識的に是正すべき途は尙之を考へることが出來る。之に反して、無意識的に不公正を敢てするものは容易に之を救ふことが出來ない。何故なれば、彼等の行動は彼等の人格と信念とに發し、彼等の自ら公正と信じて與ふる裁判も實は彼等社會思想の發現に外ならないからである。而して、私は現在司法官の無產階級に對する態度が此意味に於ける無意識的不公正なるの故を以て特に之を恐れるのである。

傳ふるが如くむば、頃者司法省は省内に思想課なるものを置いて思想犯罪の研究を企てむとし、又同様の趣旨に於て若き法官の特別なる修養を促しつゝあるとのことである。私は此種の企てが司法官を導いて更に右せしめむとするのであるか又は左に向つて理解と同情とを有せしむべく進行せむとするものであるかを知らない。しかし、もしも幸にして之によつて多少とも司法官の間に新しき社會問題に關する正しき理解を弘めることが出來るならば、國家の慶事之に過ぐものなきを信じつゝ、私は玆に社會大衆と共に司法官今後の趨向に向つて注意深き監視を加へたいと考へるものである。（終）

◇支那問題漫畫

支那のフットボール季節が來た。そして軍閥も外國の利權も遠慮なく蹴飛ばして了ふ。デ・モアネ・レヂスター紙所載



THE CHINESE FOOTBALL SEASON IS ON
—Brown in the Des Moines *Register*

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

早稲田の學徒に與ふ

大山郁夫

一 『早稲田よ! さらば!』

親愛なる早稲田大學の青年學生諸君!

私の本大學に於ける永き學究生活は、遂にその極限に達した。私が諸君に訣別の言葉を以て呼び掛けねばならぬ日は、遂に到來した。數年來私は、何時かはこの事のあるべきを心ひそかに豫期してゐた。が幾ら豫期してゐたこととはいへ、それが愈々眼前の事實となつて見ると、私は或る新たなる感慨が私の心に湧き上つて來るのを防ぎ止めることが出來ないのである。

もとより、私が早稲田に容れられなくなつたのは、私の日頃の理論のためであり、その理論に基礎づけられた私の主張のためであり。更らにまた、その主張の具現としての私の實踐のためであるといふより外に途のないものであつて、決してさうしたものに何等の交渉のない單純なる一片の感情問題から來てゐるものではないのである。それ故に、今些かでも純然たる感情問題の立場から物を言ふやうなことは、如何なる點からしても、決して私の本志ではあり得ない。そしてまた、私はそれをしないであらう。だが諸君、私が本大學への一新入生として始めて校門を潜つた昔から、追放された一教授として此處に諸君の面前に立つてゐるこの瞬間まで、私は前後二十六年間に跨がる永い歳月を、殆んど連續的に本大學の學窓で送つて來たものである。この意味に於て私は、諸君と同じく、永久に早稲田學園を自分の學問生活の故鄕として誇り得る權利を持つてゐるものである。が、その學園に向つても、私は遂に『早稲田よ! さらば!』と叫ばなければならなくなつたのである。そこで私は今、この生活上の一大轉機の上に立つた刹那に於て、不可抗的に或る一種異様の心境に置かれてゐる自分を見出さないでは居られない。そして私はその一端を諸君に傳へるだけのことが、必ずしも絶對的に私に許されないことでないことを信じようとするものである。

私がこのたびこの學園を去らなければならなくなつたのは、まことに已むを得ない事由から來たものであるから、私は今更らそれについて未練がましく兎や角いはうとしてゐるものではない。けれども、それと同時に私は、今や最終的にそこから出て行かうとするに臨んで、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私が如何に心の底からこの學園に對して熱烈なる愛着を感じてゐるかを、他の如何なる場合に於てよりも、一層痛切に意識せしめられてゐることを、諸君に告白しなければならぬ。

だが、何故に私はかくまでに、心の底から早稻田學園に對して熱烈なる愛着を感じてゐるのであるか？　私は玆で暫らく、そのことの根據を探つてみたい。それはもとより、私の學問生活の故鄕に對する深き憧憬から來てゐるものだ、といふのが最も簡單な答辯になるかも知れない。だが、私の考へるところでは、さういふことは、縱しそれの一應の說明にはなつても、決してそれの最後の說明にはならないのである。といふのは、それは如何にもその通りであるには違ひないが、しかしさう言つてしまつたところで、その次には、その私の學問生活の故鄕への深き憧憬が私の心のうちに醸し出されるやうになつたのは何のためであるか？　といふ新たな問題が、當然それにつづいて不可避的に起つて來ない譯にゆかないからである。

この第二の問題に對しては、私は直ちにかう答へる。――それは、私の學問生活の故鄕としての早稻田學園が、現在の私が私の全生活――必ずしも學問生活だけに限らずに――の上に於て他の何物にも代へ難き貴重なものとして極度に愛護してゐる或る物を私に與へてくれたからである。

といふと、『その或る物とは一體何を指してゐるのであるか？』といふやうなその次の問ひが、私に向けられるであらうことを、私は期待する。しかも、それに對して答へることは、私に取つては最も容易な仕事である。否、それは單に私に取つてさうであるばかりでなく、すべての早稻田學徒に取つてさうでなければならぬ。なぜならば、それはこの學園を慕つて來り集るもののすべてに向つて、所謂『早稻田の學風』の根源として、何よりもまづそれを尊重することを敎へ込まれるものだからである。かく言へば、それが何であるかは、諸君には電光石火の速さを以て確實に把握が出來たであらう。即ちそれはいふまでもなく、わが早稻田學園の『建學の本旨』を貫いて、そのアルファでありオメガである地位に置かれてゐるところの、『學問の獨立、研究の自由、及び學問の活用』の三大綱を眼目としてゐる我が學園の大學意識そのものである。我々早稻田の學徒が常に口から絕たない『早稻田精神』といふものは、要するにそれを指してゐるものに外ならないのである。

二　『早稻田精神』の本來の意義

我々が知つてゐる通りに、『學問の獨立、研究の自由、及び學問の活用』によつて貫かれてゐる早稻田精神といふものは、創立以來絕えず官僚閥族から向けられて來た煩瑣なる干涉及び壓迫と鬪ひ、時としてはその存立に對する脅威をも排除しつつ、極力自由討究の領域を擁護して來た我が早稻田學園の生活歷史を背景としてでなければ、その全意義を把握することが出來ないものであるが、しかしそのことは、私は玆で問題外におかなければならぬ。

だが、早稻田學園の生活歷史と言つても、それが直接に一般社會生活歷史と有機的に聯關してゐるものであることは、いふまでもないことである。それは、早稻田學園が問題とするところのものは、常に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一般社會が問題としてゐるものを反映してゐるものだからである。この點は殊に、『學問の活用』といふ一項目をその『建學の本旨』に挿入することによつて、今日の我々の慣用語であるところの、『科學の現實性』もしくは『理論と實踐との辯證法的統一』の趣旨を夙くから高揚して來たわが早稻田學園の場合に於ては、最も自然的な成行だといはなければならないのである。

この意味に於て我々は、早稻田精神の發展について語ることが出來る。元來、我々の早稻田精神の因つて立つてゐる學問の獨立、研究の自由、及び學問の活用といふことは、沿革的見地から言つても、理論的見地から言つても、決して一片の裝飾的附加物でもなければ、また一種の內容の空虛なスローガンでもなく、それは現實的の活きを働きを働くべく企てられたものでもあり、また實際上さういふ風に働いて來たものでもある。それは『學問の活用』といふ言葉それ自身、若しくはそれと略々同意義語と見られる我々の近來の慣用語である『理論と實踐との統一』といふ言葉が示唆してゐる通りに、早稻田の學風は、極度に擴充された現實的具象性をその內的生命とする學術の諸部門——それは屢々『實學』とも呼び做されて來た——をその研究の目標として進められて來たものだからである。殊に早稻田學園は、現在では理工科や商科の如きものをも包含するやうになつて來てはゐるが、しかし本來は政治學經濟學の如き社會科學關係の諸學術の研究を以てその生命とし特色として來たもの——無論、文學もさうだが、しかしそれは今の場合問題外におく——であるから、そこでの學術研究と現實社會の動きとの接觸面が特に多端であることを免れなかつた、といふやうな事情も存してゐるのである。そして早田稻學園が、その創立當時から『私學の權威』の標榜の下に、絕えず政府當局からの干涉壓迫と戰つて學問の獨立と研究の自由とを絕叫しなければならなかつたのも、一つには、そこから來てゐるのだ、とも言へるのである。だとすると、現實社會の不斷の發展そのものが、それと密接に聯關する諸學術の媒介を通じて、結局絕えず早稻田精神の發展を激成する結果を見せて來たのも、決して理由のないことではないのである。

早稻田精神は、かくの如く刻々發展をつづけることに依つて不斷にそれ自身を更新し、不斷にそれ自身を更新することによつて永久にそれ自身を新鮮に保つて行くことが出來るのである。沈滯は早稻田精神の死滅を意味する！

三　『早稻田精神』の最近の發展とその分裂

かくして發展から發展への道程を辿り續けつつあつた早稻田精神は一度それ自身の上に大なる衝激を受けなければならない時を持つた。それは言ふまでもなく、世界大戰以來の社會生活の上に急激に到來した一大變動期に於てであつた。

しかも一般社會に於ける政治的デモクラシーの勃興時代に於ては、早稻田精神は、尙ほ全線的にそれに追隨することが出來た。けれども舞臺がそこから更らに急轉直下して、一般社會に於て階級對立關係が現實に尖銳化するやうになつてからは、初めから學問の獨立研究の自由及び學問の活用を目標とする學風の上に立脚せしめられてゐた早稻田精神は、その尖銳化された階級對立の分界線に沿うて、徐々に——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しかしその結末に於て確實に——左右兩翼に分裂されて行つた。そしてその右翼は依然として對官僚閥族抗爭時代そのままの自由主義の主張の形骸を固執しつつ、それから先きの自己發展を拒否する態度に終始しつつ今日に及んでゐる。が、それに反して、その左翼は、飽くまで理論と實踐との統一の原則の指導の下に、不斷の進轉をつづけてゆく現實社會が問題とするものを問題としようと努力したところから、段々と無產階級的鬪爭原理の方向へ突入して行つて、學問の獨立及び研究の自由の名に於ての社會科學研究自由のための戰ひの趨勢を急速度に展開せしめて行つたのである。

かういふ關係上から、曾ては『私學の權威』を高揚する共通の一個の大學意識の下に完全に統一された姿で全線的に進出して居た早稻田精神が、最近約十年間に行はれた現實社會生活の激變の影響として、中途から二翼に分裂したのを見るのである。そしてその一つは本來の早稻田精神が一定の發達段階に到達したところで忽ち固定狀態に入つたものであり、他の一つは、そこから更らに一飛躍を遂げてその次の段階に轉入し、それからも尙ほ不斷の流動狀態を持續しつつ、刻々にその生命を更新しつつあるものである。それ故に我々が前者を『舊き早稻田精神』の名で、そして後者を『新しき早稻田精神』の名で、それぞれ區別して呼んでも、決して妥當を缺くものとは思はれないやうな形勢が馴致されて來たのである。そして、前者は主として學園の行政管理の任務を執つてゐる大學當局によつて最も典型的に代表されてゐるに反して、後者は主として社會科學の研究に執掌してゐる進步的靑年學徒によつて最も典型的に代表されてゐるのである。無論我々はかうした左右兩翼の間に介在する中間派に屬する相當多數の學生たちの存在に眼を塞がうとしてゐるものではないが、しかし事實上學園生活の活きた潮流の動きを現實的に指導してゐるものは、實にかうした早稻田精神の左右兩翼を別々に代表してゐる大學當局及び學生大衆に外ならないのであつて、そしてそれらの兩側の勢力の對立及び衝突が、曾ては比較的平靜であつた學園生活の內部に於て、現在では如何に巨大なる波瀾を起し、渦紋を卷いて居るかは、我々が現在日々まざまざと我々の眼前に見てゐる通りである。

四 『學校教育の反動化』

上に述べたことによつて示唆されてある通りに、我々が象徵的に早稻田精神と呼んでゐるものは、畢竟するに、我々の早稻田學園に於ける學術研究を中心として展開せしめられる對社會的全生活態度の指導原理を指してゐるものに外ならないものである。で、この意味に於ける早稻田精神が現在に於て如何に完全に二つのものに分裂して來てゐるかは、私が今しがた述べた通りである。即ちその一翼をなす舊き早稻田精神が今尙ほ依然として對官僚閥族抗爭時代に於て全學園を指導したブルジョア自由主義の形骸に固執してゐる側に、他の一翼である新しき早稻田精神は、眼前の社會の刻々の進轉に適應しつつそこから一步進出して、新たに加へられるやうになつたブルジョアジーの階級專制に對して學園に於ける學術研究の自由を擁護しようがために惡戰苦鬪することを決心してゐるのである。

かういふ風に、現在では二つの早稻田精神が學園生活の上に渦卷い

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

てゐるが、ただ現在の早稲田學園に於ては、純粋の反動主義的もしくは國粋主義的勢力が殆んど絶無の姿に見えてゐる。若しくは縦し幾分さうしたものがあつても、それは殆んど眼につく程の活動力を持つてゐないのである。この點だけは、兎も角早稲田學園の一特色と見做され得るものであるが、しかし今後それがどう轉換して行かうとしてゐるかは、大に注目すべきことだと思ふ。一般社會に於ける小ブルジョア的諸分子のファシズム化的傾向が相當に顯著に見えて來だした今日、私は學園を去るに臨んで、特にこの點に關して幾分の關心を懷かなで居られない。

いづれにしても、所謂舊き早稲田精神を代表してゐる人々といへども、曾て或る時代に於て現實の生命力を持つてゐたには違ひないブルジョア的自由主義の主張の窩中に今尙ほ依然として閉ぢ籠もつて居るところから、甚だ無力な聲でではあるが、兎に角「學問の獨立、研究の自由、及び學問の活用」を包含する『建學の本旨』を唱へつづけては居る。けれども、實際上に於ては、彼等がその獨立を擁護し、その活用を保全しようとするの學問や彼等がその自由を確保しようとする研究やは、今日では最早支配階級が單に認容してゐるといふだけでなく、更らに積極的に歡迎もしくは支持してゐるものでさへある。それ故に、彼等が今尙ほ依然として繰り返してゐる學問の獨立研究の自由の主張は、最早著るしく內容の空虛な、そして唱へ甲斐のない題目となつて來てゐるものである。かくて彼等は曾て對官僚閥族抗爭時代に於て全早稲田學園に漲ぎつてゐたやうな、眞理の擁護のための鬪爭意志を、全然無用に歸してしまつたものとしてかのやうに、どこかに置き去りにしてしまつてゐる姿でゐるのである。否、彼等の對支配階級的鬪爭意志などいふやうなことは、今日ではそれを問題にすることすらが、既に迂愚の譏りを免れない位になつて來てゐるのである。そして若しそこに問題にしなければならないものがあるとすると、それは寧ろ、彼等が意識的にか無意識的にか、兎に角その結果から見れば、多くの點に於て支配階級との協調の傾向を段々と顯著に示すやうになつて來てゐるといふ一事である。この點は、一般に所謂『學校教育の反動化』に關聯して最も適切に言ひ得られることであるが、わが早稲田學園の行政管理の任務を担當してゐる大學當局も、今日では最早この趨勢の外に超然としてゐることが出來なくなつて、遂に創立以來の誇りであつた自由の傳統を自分たちの手で傷つける運命に陷つてしまつたのである。少くとも、さういふのが、私たちの悲むべき觀測の偽らざる告白である。私たちは衷心から、この觀測が幾分でも間違つてゐることを希望する。けれども私たちは、事實を事實として認識するより外はない。そして私たちはまた、さうすることが結局、全早稲田學園を本來の軌道に立ち歸らせるための努力の第一着歩として、我々に課せられた義務だと信じてゐるものである。

五、教育の階級的管理への反抗

學校教育の反動化的傾向は、近來極度に尖鋭化し始めた。それはいふまでもなく、その核心に於て、帝國主義時代に於ける支配階級の反動化的傾向そのものを反映してゐるものである。我々は最近數年來に於て、國家資本主義トラストの周密なる指導管理が、文部省による千

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

涉及び彈壓手段を通じて、學校及び學生の上にまで、如何に現實的に臨むやうになつたかを、次々と見せつけられて來た。所謂學校の兵營化及び教育の軍國主義化を意味する軍事教練の實施。學校教育に於ける階級專制の露骨なる具現ともいふべき社會科學研究への壓迫。各地方に於ける各種の學生運動に對する高壓手段。等々。

この傾向は、學校教育に於ける煩瑣なる官僚的支配の全的復活の趨勢として現はれるやうになつた。そして、かうした趨勢の助成に關して官公私立諸大學諸學校の當局は、どこでも殆んど見るに足るほどの例外もなく、實質的に支配階級との協調に終始して來てゐるものである。かくて、學問の獨立及び研究の自由の領域は益々狹められて行くばかりになり、從つて諸大學諸學校に於ける學術研究は、益々沈滯の空氣の中に投げ込まれようとする危險に瀕してゐるのである。

かうした狀勢に對して、諸大學諸學校の青年學徒のすべてが甘んじて屈從するやうなことは、到底期待の出來ないことである。若しさういふことが現實に期待できる程になつてゐるとすれば、それは社會生活の前途のために寒心に堪へないことだといはねばならぬ。果然、多くの青年學徒は、學校教育に於ける官僚的支配の復活の趨勢に勇敢に反抗して起つた。しかも、最も直接に支配階級の彈壓の衝に當つた社會科學の學徒は、最も積極的に學校教育に於ける階級專制に應戰すべく決意を固めた。

新らしき早稻田精神を代表する學園の青年學徒の多くが、最初からこの戰線の一翼として活躍して來たことは、もとより當然のことであつた。彼等はさうすることによつてのみ、學問の獨立、研究の自由、及び學問の活用を中心とする建學の本旨に、新時代の生命を吹き込み得るものであることを確信した。彼等から見れば、學園の當局が動々もすれば、意識的にか無意識的にか、支配階級との協調と見えるが如き行動を取つてゐたことが、學園が傳統的に誇つてゐた『私學の權威』を傷つけるものに外ならなかつた。殊に學園の當局が、文部省の社會科學抑壓方針に關して言はれてゐたやうな、『研究はいゝが實行はいけない』などと言つた口實を是認してゐるやうな態度を示してゐたのを理論と實踐との統一を基調として來た學園の傳統的學風の根據から否認した。かくて彼等は、大正十二年初夏に於ける軍事研究團事件、若しくは司法官憲による研究室蹂躪事件に對する抗爭の敢行以來、或ひは軍事教育への反對運動、或ひは社會科學抑壓への抗議、等々の場合に於て、新しき早稻田精神が學術研究の自由の擁護のために彼等に命じたところに從つて、屢々彼等自身の生命に對する脅威を冒してまでも、飽くまで抗爭し奮鬪した。

さうした學術研究自由擁護運動の連續に於て、私自身もまた、それらの青年學徒の驥尾に附して、私の微力の許す限りの貢獻をつくして來た。私はさうすることが、私の學問生活の故鄕であり、且つまた現在の私の全生活態度の創造者であるわが早稻田學園に酬ゆる唯一の眞正の道だと考へた。更らにまた、私は學園の內部に於ては、彼等青年學徒が當局から受けてゐたところの、各種の形式に於ける壓迫——しかも私には不當と思惟されたやうな種類の壓迫——に對して、私に及ぶ限りの防衛の意味に於ける助力の手を彼等にさし延べた。無論私はそれを學園の一教授としての地位が私に與へたすべての便宜を通じて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なした。かくすることが、私は眞の早稻田精神を新時代に活かすために、私が當面の情況の下に於て取るべき最善の手段だと考へたのであつた。私はそれ故に、學園內に於ては、講堂內で學生たちに接觸する以外に、講堂外でも學術研究自由擁護運動のために共同戰線の上に立つて、一敎授としての私に可能な役割を演ずることに努力した。かくして私は、今では私に忘れられない記念となつてゐる軍事研究團事件以來、多數の早稻田學園の靑年學徒を私の戰友と見て、共に行動に携はり共に喜憂を分つて來たのであつた。

六　早稻田を去るまで

それと同時に、學園外に於ける私の活動は、段々と私を無產階級解放運動の戰線へ驅り立てて行つた。もとより、私の學園內に於ける活動と、學園外に於けるそれとは、私に取つては異つた二つのものではなくて、同じものゝ二つの異つた現はれにすぎないのであつた。卽ちまづ第一に、學園內に於ける學術思想鬪爭は、殊に最近數年來に於て、旣に完全に學園外に於ける階級鬪爭を反映したものとなつてゐそして私が私の身を投じて行つたのは、學園の內外に拘らず、一樣に無產階級の側であつた。次に、私の學園內に於ける政治理論の研究と學園外に於ける實際政治上の行動とは、相互疏通及び相互聯關によつて、私に於て完全に統一體となつてゐるものであつた。更らにまた、さういふ意味に於ける理論と實踐との統一の原則を、私の永い學園生活に於て充分私に吹き込んだ早稻田精神は、苟くもそれが一種の Scholarism に終るものでない限り、學園外の廣い社會での私の實際的行動を、それ自身の名に於て承認する筈のものであつたことを、私は疑ふことが出來なかつた。

かくて、大正十二年の軍事研究團事件に際して私が始めて研究室を出て街頭に立つた時代を一劃期として、その頃から私は、無產階級の解放運動の戰線に一步進出を試みることを決意した。そしてその翌年には、私は先づその最初の第一步として、政治研究會の運動に參加した。その後――殊に大正十四年十二月一日に於ける農民勞働黨の結成及び解散後――政治研究會の存立が社會的に極度に危險な地位におかれてあつたやうに見られだした頃から、同會の中央執行委員長としての地位を占めてゐた私は、早晩早大敎授としての地位を去らなければならない時機の到來する日を見るであらうことを豫感し始めた。少くとも、私が當時旣に一步踏み出してゐた道から轉向しない限り、それは免れられない運命として私に迫つて來るに違ひあるまい、と考へさせられるやうになつた。もとより、私が一旦或る信念を以て進みかけた方向から、或るさもしき動機の下に退却するといふやうなことは、私が恥なしになし得る最後のものであつた。で、その時分から私は、心に固く決するところがあつた。否、私が生命や地位の安危に拘らず、一途に私の信ずる所に突進しようとの覺悟をきめたのは、決してその頃に端を發したものではないが、しかし私が早晩早大敎授としての地位を去らなければならないであらうといふやうな豫感が、從前よりも一層切實なる現實性を以て私を襲ひかけたのは、大體その頃からだつた、といふこともまた、私が否定することの出來ない事實である。

けれども、早稻田學園の當局は、さうしたことの理由では、尙ほ私

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を呼號しなかつた。その上に彼等はまた、軍事教育反對運動や、社會科學研究への抗爭にも私が現實に參加したのを見ても、毫もそれを掣肘しようとはしなかつた。そこに私は、わが早稻田學園に取つては歴史的文書となつてゐるところの『學問の獨立、研究の自由、及び學問の活用』を中心とする『建學の本旨』の上に現はれてゐる自由主義の立場を顧慮しなければならなかつた學園當局の心遣ひを見た。

　私は無論、私學と財閥との關係について、この頃盛に世間に喧傳されてゐるやうな事實を否定する理由を持つては居ない。だがしかし、私自身としてはそれを一々擧證的に確說することは出來ないだけである。私はまた、近來の學校教育の反動化の一般的傾向に我々の母校が或る程度に卷き込まれてゐる事實を見逃がさうとしてゐるものではない。たしかに、私が私の周圍の多くの同僚たちの行動や態度を見たとき、私は彼等に對して學園當局からの或る種の示唆が行はれたであらうことを疑ふことが出來なかつた。更らにまた私は、私が日々接觸することが出來た青年學徒の社會科學研究に對して加へられつつあつた學園當局からの干渉、監督、取締等々の增進の趨勢に氣附かないで居ることは出來なかつた。けれども、私自身の關した限りでは、學園當局は久しい間に亘つて、學園の內外に於ける私の行動の上に殆んど何等の制限をも附するやうなことをしないで、私を可なり自由な境地に置いてくれた。私は、今茲にそのことの理由を一々指摘しないであらう。だがただ一つ茲で言つておきたいことは、そのことの最も主要な原因が、學園當局が解釋したままの早稻田學園の傳統的自由主義の上にあつたといふ一事である。この點を私は、學園當局が決して徹頭徹尾純粹の反動主義的思想の囚となつてゐたものでなかつたことを證明するために、特に强調しておかなければならない必要を感じる。

　けれども、それと同時に私は、樣々の關係から私の所謂『舊き早稻田精神』の殼を破ることが出來ないでゐる學園當局の自由主義には、到底一定の限界として踰ゆべからざる限界が存してゐるものであることをも、深く考慮しない譯にはゆかなかつた。もとよりそれは、更らに幾倍も切迫した現實的テストに打ッ突かるまでは、その最後の徹底的破綻を曝露するまでにはなるまいが、しかしさうした現實的テストは早晩到來しないでは濟まないであらう。――と、かう私は思惟した。

　果然、その現實的テストは遂に到來した。學園當局の自由主義は、脆くも最後の徹底的破綻を暴露した。それは何等の疑ひを容れる餘地のないまでに明確に、それ自身に一定の踰ゆるべからざる限界の存してゐるものであることを證明した。そして私は、最終的に早稻田學園を去らなければならないことになつた。かくして、私の久しい間の豫感は、遂に事實となつて現はれたのである。私は今、そこに至つたまでの經過を、次に簡單に語るであらう。

七　勞働農民黨に入る

　昨年十二月中に擧行された勞働農民黨の大會に於て、私は同黨の中央執行委員長に選擧され、次いで黨本部から就任受諾に關する交渉を受けた。それに對して私は、しばらく愼重に考慮した末、受諾の旨を答へた。その際に於ける私の考慮の焦點は、私の早大教授の地位と無產政黨の中央執行委員長の地位とが、及び事實上理論上兩立するか否

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かの問題であつた。

ところで、これらの二つの地位の事實上の兩立の件は、私の場合に於ては、問題にならなかつた。といふのは、黨本部では私が早大教授の現職にあることを慮つて、黨の中央執行委員長としての私の手に委ねなくとも濟むやうな種類の雜務は、できるだけ私に宛てがはないことにし、且つそれに應じて、私が黨本部に顏を出さなければならない時間を極度に減少する工夫を講じてくれた。無論、黨の中央執行委員長の責任は非常に重大なものであるに相違ないが、しかしそれは、少くとも常時にあつては、そのための所要の時間の多寡には、必然的の關係のあるものとはいへない。そこで、黨本部はなるべく私の黨に於ける執務時間を少くして、早大教授としての私の仕事になるべく多くの時間の餘裕を殘すやうに取り計つて吳れた。それに加へて、私の立場から見れば、早大に於ける私の政治學上の理論の研究と、黨に於ける私の政治上の實踐とは、相互的に疏通し聯關し合つてゐるものであるから、從つて双方が相互的補償の關係に立つ可能性のあるものとさへ思へたのである。

だが、事實上の問題はそれでいいとしても、理論上の問題はどうであるか？　普通のブルジョア式乃至小ブルジョア式常識論からは、この場合の兩立論が否定される見込は充分にあるが、しかし私がこの問題の解決に際して基準としなければならないものは、さうした一片の常識論であつてはならない。私は少くとも、無產政黨及び大學の各別の立場からこの問題の核心を理論的に解剖しなければならない。そして若しその兩立論が成立し得ないものとするならば、私は勞農黨の中央委員長の就任の受諾と同時に、早大教授の地位を辭さなければならないが、しかし若しそれが成立し得るものとするならば、四圍の客觀的狀勢が私の早大教授の地位を擲つことを私に强要しない限りは、飽まで現職に留まることにして、そして假りに辭職の已むなきに至るやうな破目に陷ることがあらうとも、それらの二つの地位の理論上の非兩立論を私が承認してゐるものでないことだけは、私はどうしてもそれを明かにしておかなければならぬ。

かう考へて私は、その理論上の兩立非兩立の問題の考察に取り掛つた。そして私は、樣々の見地からそれを檢討した末、結局兩立論の肯定に導かれて行つた。私はもとより、玆でその論據を一々詳細に述べてゐる時間の餘裕を持たないが、しかしせめてはその最も主要な二三點だけをなりとも、次に示しておかうと思ふ。

八　所謂『兩立論』の理論的根據（上）

——無產政黨の立場から——

私はまづ全問題を無產政黨の——殊に勞農黨の——立場から見たと。そこでは兩立論の成立不成立などは頭から問題とならない、といふ結論へ來た。何故に？——

まづ第一に、勞農黨には如何なる職業を持つてゐるものでも入黨ができる。そして一旦それに入黨してその黨員となると、誰れにしても、大會の選擧によつて中央委員とか中央委員長とかの地位に推されないとは限らないのである。しかも勞農黨の現狀の下に於ては、さうした地位は當然のこととして無給のものであるから、從つてそれに選擧

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

されたものが、その度毎にその時までに持つてゐた職業を抛つことを要求されることとなると、他に何等かの收入の途を持たないものは、そのために生活手段を失はなければならないやうなことになるのである。殊に、翌日の生計にも差し閊へるやうな勞働者の場合となると、折角その地位に選擧されながら、一日もそれを引受けることが出來ないやうなことにもなるのである。さういふことがあつてはならないことは、無論のことである。

ブルジョア諸政黨の場合にあつても、黨首や幹部連は、恐らくは皆無給で勤めてゐるものであらうが、しかし事實上彼等は、彼等が背景にしてゐる財閥や富豪との經濟の關係を通じて、外部的には出處不明に見える巨大なる財源を擁してゐるのを常としてゐるのである。だが、眞正の無産政黨の場合に於ては、さうしたことがあらう筈もなく、またあつてはならぬ筈である。それ故に、無産政黨の中央委員や中央委員長やが、他に生活費の泉源としての收入を生ぜしめる職業を持つことを許さるべきことは、當然以上の當然だとしなければならぬ。私自身の場合にしたところで、私は勞農黨の中央委員長の地位に在る間は、縱し教授としての現職に離れることがあらうとも、文筆勞働――若しくは他の然るべき職業――に就いて、私の生活を支へる途を求めない譯にゆかないことは、判り切つたことだといはねばならぬ。

且つまた、無産政黨の役員が他の職業を兼ねて居ることは、今日最も多くの場合に於て現實の事實となつてゐるものであるが、しかしその現實の事實を理論的に肯定された原則として確立しておくことは、無産政黨が當然主張しなければならない職業的政治家の排撃の論據から見ても、極めて正しいことである。現在のブルジョア政治の腐敗墮落は、無論その根本に於て資本主義經濟組織の缺陷を反映してゐるものであるが、しかし最も直接的には、ブルジョア政治に必然的に附隨する寄生蟲ともいふべき職業政治家の群れによつて醞釀されてゐることも少くないのである。いふまでもなく、職業的政治家の排撃によつてブルジョア政治が根本的に廓淸されることは期待の出來ないことであるが、しかしそれにしても、職業的政治家の排撃はブルジョア政治糾彈の一項目として、相當に重要なる或る意義を持つものであることは、否定のできない事實である。從つて、無産政黨の立場からは、その役員が生活費の泉源としての然るべき職業を持つことを理論的に承認することは、當然のことだといはなければならないのである。そしてその職業は、大學教授や原稿生活の如き頭腦勞働に屬するものと、何等かの筋肉勞働に屬するものとを問はないのである。

九　所謂『兩立論』の理的根據（下）

――大學の立場から――

私は更らに轉じて、同じ問題を大學の立場からも見た。そしてこの場合にもまた、私は前と同じ結論に導かれて行くより外はなかつた。

まづ第一に、職業的政治家排撃の主張が一の政治理論として正當なものと視られ得る限りは、特に大學の立場から理論的にそれに反對するが如きことは、あつてはならないことである。それは、大學は理論上、實際政治の腐敗墮落を歡迎すべき何等の理由を持たないものと見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

做されてゐるからである。

けれども、若し大學が或る特殊事情から、その教授が他の如何なる業務をも兼ねるとを許さないと主張するならば、大學は自らその所謂特殊の事情なるものを明示しなければならないのである。一般人の淺薄なる常識論からは、或ひは大學教授が他の何等かの業務を兼ねるとは、その大學教授の能率を害するといふやうなことが言はれるかも知れないが、しかし大學生活の實際上の經驗を少しでも持つ人々なら、頭の頂上から足の爪先まで所謂プロフエッサー型で固まつてゐて他の何物でもないやうに見えるやうな教授たちは、却てその教授としての能率をも充分に擧げるとが出來ない、といつたやうな、甚だ矛盾に見える事情が屢々實在してゐることを知つてゐる筈である。で、結局大學教授が他の業務を兼ねることが教授としての能率を害するか否かは、その兼ねられた業務の種類に依據することもあれば、また當該教授のそれに對する態度などに依據することもあるものであつて、それに關してすべての場合に共通する概括的の立言を下すことは出來ないのである。殊にたとへば、大學教授が同時に著作上の業務を行つてゐるやうな場合には、その業務が却て彼れの教授としての能率を幾層も高めるやうなことは屢々ありがちのことである。それ故に、一般的見地からいへば、大學教授の能率の高下は、そのこと自身に就いて定められるべきものであつて、彼れの兼業の有無に就いて問はれるべきものではないのである。

實際上に於てもまた、大學教授が同時に他の何等かの業務を兼ねて居るやうなことは餘りに頻繁に見られることである。即ち官立大學の教授たちが屢々政府の何々調査會若しくはその他の機關の委員とか顧問とかになつてゐるやうなことを始めとして、一般の官立私立の大學の教授たちが、或ひは新聞社員もしくは客員となつて居たり、或ひは辯護士の事務を取つて居たり、或ひは或る種の官吏の地位を兼ねて居たり、時とするとさういふことよりも一層教授の地位に縁の遠く見える仕事に從事してゐたりするやうな場合があることも、決して稀れではないのである。しかのみならず、大學若しくは專門學校の教授に在る人々で、ブルジョア政黨所屬の代議士となつて政治的に活動してゐるやうな人々も、現在では決して少くはないのである。

最後に掲げた一例は、殊に『大學教授が無產政黨の中央執行委員長を兼ねてはならない』などといふ議論を、それ自身の力で打破つてゐるものと見ることが出來るのである。若しこの場合にも尙ほ、『無產政黨の中央執行委員長は無產政黨員なるが故にいけない』といふならば、大學は斯の如く特に無產政黨に不利な區別を設けることによつて、それ自身ブルジョアジーの階級支配の具となつてゐることを自白してゐるものだといはなければならないことになるのである。今日の一般の大學は、よし實質に於てはブルジョアジーによつて階級的性質を賦與されてゐるものであるにもせよ、少くとも表面上だけは全然超階級的地位に立つてゐるやうに裝つてゐるだけでなく、同時にそのことを大學理論に依つても主張してゐるのである。それ故に、大學が自ら進んで露骨に無產政黨に關係する教授を特に不利な地位に陷れるが如きことをしては、それはそれ自身の手で、それの社會的存在を意味づける大學理論をさへも裏切る譯になるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或ひはまた『大學教授といへども、無産政黨の普通の黨員となることは妨げないばかりでなく、その中央委員となることすらも構はないが、しかし唯その中央執行委員長となるのはいけない』といふやうな小ブルジョア式な繊細な區別の上におかれた議論を肯定しようとする人々があるかも知れない。この立場を取る人々の主張の骨子とするところは、一黨の黨首は特に重大な責任を負擔してゐるものであるから、他の業務を兼任することは決して許されない、といふことの上に置かれてゐるものである。しかし、それは主として、無産政黨の――少くとも勞農黨の――中央委員執行委員長の職責を、ブルジョア政黨の總裁などのそれと同一視するところから來る見解である。勞農黨の中央執行委員長の職責に關しては、玆で詳述する限りではないが、それは形式上の點では黨の規約を、そして實質上の點では、その實際上の活動の種類及び範圍を、幾分入念に檢討すれば、直ちに知れることである。もとより、勞農黨の中央執行委員長の職責は、當然のこととして、黨に取つては非常に重大なものであるには相違ないが、しかしそれは前にも言つた通りに、少くとも普通の場合に於ては、それをつくすために所要とされる時間の多寡には根本的に關係のないことである。のみならず、私から見れば、ブルジョア政黨の總裁にしても、若し彼が教授としての能力を立派に具備し、且つそのために所要とされる時間の餘裕を充分に持ち合はせてゐて、しかも大學が彼の勤務を緊切に要求するやうな場合が起つたとするならば、大學は躊躇なく彼を招聘したところで、何等の政策を混じない純粋の大學理論の立場からは、毫もそれを非とする根據が見出されない筈である。

玆で一言私自身の專攻科目である政治學の場合に就いて述べるとにすれば大學で政治學を講ずる教授が、入つては講堂で政治理論を講じ、出でてはその理論を政治的實踐の上に活かし、更らにその實踐から得られた各種の經驗を參酌することによつて、その理論を補修したり、訂正したりする機會を以て惠まれるやうなことは、それが事實問題として可能である限りは、非常に望ましき境地だといはなければならないのである。かういふ點から見ても、一旦大學の教授や學生の政治運動加入の原則が承認される以上は、それを無條件的のものであらしめなければならないことを主張する理由も生じて來るし、從つてまた、特に教授や學生が無産政黨の中央委員長となることを非とするやうな片手落ちの議論を排撃する根據も見出されるのである。

教授學生の政治運動加入のことは、以前は餘り問題視されなかつたが、近來無産政黨が擡頭して、そして彼等のそれに關與しようとする傾向が漸增するに及んでから、それは段々と、支配階級によつて異常の疑念を以て注意され始めたのである。そこにもまた、大學教育の階級的管理の證跡が歷々と示されてゐる。從つて、この際かかる狀勢に對抗して、大學の教授學生の政治運動加入の無條件的承認の原則を確立しておくことは、單に早稻田學園の眞の自由のために喜ぶべきことであるばかりでなく、學界一般のそれのためにもまた、非常に望ましきことだ、と言はなければならぬ。何となれば、教授學生の多くが益々彼等の學問上の確信から無産政黨の陣營に來り投じようと志すが如きことは、今後の學界一般の上に於ける益々顯著なる傾向として現はれるべきことを約束してゐるものだからである。のみならず、この

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

原則が一旦理論的に確立されるときには、それからの好影響として、現在社會科學の研究に從事してゐる教授學生の上に臨んでゐる不當に辛辣な干渉や壓迫やが、それにつれて段々と排除もしくは緩和されて行くべき見込みさへが、全然ないとは言へないのである。ところが、かうした重要な意味のある原則確立のために貢獻し得る大學が若し今日の我國の學界のどの一隅かに現存してゐるものとすれば、それは全國の諸學校のうちにあつて、今尙ほ比較的に自由な立場におかれてあると考へられてゐるわが早稻田學園を外にして求め得られようとは思はれないのである。例の治安警察法中の教員學生の政治結社加入禁止の條項の如きは、普選法中にそれに反する規定が設けられてある今日、最早問題にされる必要はないと言へるであらう。が、今若し強ひてそれを問題にしてゐれば。却て普選法制定以前から教授であつて同時にブルジョア政黨所屬代議士を兼ねて來てゐる人々の上にこそ、累が及ぶことになるであらう。また假りに、治安警察法中のその條項の解釋上に何等かの疑義があるとするにしても、それは一個の法律問題として解決されるべきものであつて、決して純大學理論上に於て教授學生の政治運動加入の無條件的承認の原則を確立することの妨げになるものではないのである。そこで若し我々が、我々の母校である、早稻田學園をして、全學界のために率先してこの原則確立に成功することを得しめることが出來たならば、我々はその學園の學徒としても、一種の欣びと誇りとを禁ずることが出來ないやうにもなるであらう。だが、萬一、早稻田學園が傳統的に誇りとしてゐるところの自由も、現在ではその問題を解決することすら出來ないほどに無力のものになつてゐるものとしても、我々が今日その問題を提唱しておいて、それを我々の將來の鬪爭の一目標としておくことだけでも、決して無意義なことだとは言へまい。

私が、早大教授の地位と勞農黨の中央執行委員長のそれとの兩立論及びそれに密接に聯關してゐるところの、大學の教授學生の政治運動加入の原則の無條件承認の原則の確立の主張の根據として考へついた諸點は、大體以上の如きものであつた。そして私は、機會が來れば、さうした主張を提げて、新しき大學理論上の鬪爭を鬪爭しようと決心した。間もなく、その機會は到來した。

一〇　辭表提出の前後の事情

今年に入つてから、學園の當局と私との間の或る會見に於て、私が勞農黨の中央委員長に在任してゐる間は、教授の地位を退いて講師となるやうにとの提議が、當局から私に向つてなされた。その際尙ほそれに附け加へて、それより先き社會民衆黨の中央執行委員會議長となられた安部磯雄氏が、既に自發的に教授をやめて講師として在任する意志を當局に傳へられたといふことが、當局から私に傳へられた。安部氏と當局との間にさうした交渉のあつたといふことは、私にとつては全く初耳であつたが、しかしそれは別問題として、私はその時の對談を通じて、勞農黨が學園の當局によつて如何なる眼で見られてゐるかを確かめて、私自身が最近數年來引續いて豫感して來たことの愈々最終的に現實化される時機がやつて來たことを、本能的に私の心の底に直感した。だが私は、その場では一切の即斷を避け、當局の提議には確

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

答しないで、それを一應考慮してみることを告げておいて、その席から退出した。

それから私は自宅に歸つて、眼前の問題に關して私が取るべき態度について熟慮し始めた。その時私は、私の前に三つの道が開けてゐて、そして私がそれらのうちの何れかの一つを擇ばなければならないことを要求されてゐることを感知した。

第一の道は、私が學園當局の提議に從つて、安部氏の蹤を追うて教授の現職を辭して講師の地位に就くことであつた。第二の道は、私がその提議に應ぜずに、飽くまで教授の現職に踏み留まつて、學園當局から辭職を强要されるのを待つて始めて、前に述べた通りの私の『兩立論』と『原則確立』の主張を提げて戰ふことであつた。第三の道は教授の現職を辭すると共に、講師としての受任をも拒否して、別に或る他の方法で、その『兩立論』と『原則確立』の主張との貫徹のために戰ふことであつた。

しかも第一の道に就くことは、私に取つては到底不可能な事であつた。といふのは決して、私が教授とか講師とかの名目に拘泥する意志を持つてゐたためではなかつた。さうした些々たる名目上のことは、單に私に取つてだけとは言はず、誰れに取つても問題にするほどの價値のあることではない。けれども、特に私の場合に於ては、それに關して細心に考慮しなければならない別の一つの大切なる問題があつた。といふのは、かうである。——從來私は、私の微力の限りをつくして、各種の學生運動——殊に學生の社會科學研究を中心とする學術運動——の上に向つて文部當局や學園當局から加へられてゐたところの、あらゆる干渉や彈壓に對して學生たちを防衛するとに努めて來たが、若し私が從來その方面に幾らかでも貢獻することが出來たとすれば、それは偏へに、私が一教授として、學生生活指導の機能を持つ教授會に出席發言の權を持つてゐたためでもあり、また私が學生たちの各種の學會に對して指導教授として關係することが出來たためでもあつた。けれども、若し私が教授の現職を辭して講師の地位——講師の大學に於ける地位は單に雇傭關係の上におかれてゐるものにすぎないのである——に就くことになるならば、最早私にさうした一切のことをすることが許されなくなるのは必然である。從つて私は、その場合には、私が折角今日まで助力を捧げて來た學生たちが、今後彼等の正當な運動の上に於て如何なる彈壓や迫害を加へられてゐるのを私の眼前に見てゐようとも、私はそれを拱手坐視してゐなければならないであらう。だが、それは、私には堪へられないことである。

それに加へて尙ほ、私は教授の現職と無產政黨の中央執行委員長の地位との兩立論を提げて戰ふことをも私の企圖のうちに加へてゐるのに、その戰ひがまだ戰ひつくされないうちから、私が教授の現職を擲つて講師の地位を甘んじて受任するが如きことをしては、それは、私の氣の弱さから問題の解決を曖昧模糊のうちに葬り去るといふ結果に終らなければならないのである。この點からしても私は、教授の地位を去つて講師として在任するようにとの學園當局の提議に應ずることは出來なかつたのである。

そこで、若し私がその次の第二の道を擇んだとしたならば——換言すれば、私が學園當局の辭職强要を待つて、私の『兩立論』と『原則

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

確立』との主張を提げて當局に挑戰したとしたならば、その結果はどうであつたらう？　その場合には、恐らく全學園が收拾のできないやうな混亂と騷擾との中に投げ込まれると言つたやうな結果が現出したであらう。私は切にそれを虞れた。で、私は、さういふことは、絕對的に避けねばならないと考へた。のみならず、その場合、種々の關係上私が學園當局を敵として戰ふことは、同時に高田總長を敵として戰ふことに當ることにもなつてゐたのであつた。だが、高田總長は、個人的には私の永年の恩人である。二十六年前に私の眼を始めて政治學に見開かしめたものは、實に總長その人であつた。しかもそれ以來に於ても、總長は常に蔭になり日向になつて、私を庇護してくれた人であつた。更らにまた、かうした個人的關係を離れて考へても、高田總長こそは早稻田學園創立以來の功勞者中の第一人者として見らるべき人である。かういふ譯であるから、この老高田總長を向ふに廻はして挑戰するが如きことは、私には情誼上なすに忍びないことであつた。もとより、我々のやうに早稻田學園の學徒としての誇りを負ひ、且つまた無產階級解放運動の戰線の一端にも列して居るものは、如何なる情誼にも代へられない或る他の物を持つてゐる。そしてそれが、主義であり、主張であり、眞理のための鬪爭意志であることは、無論である。けれども、今の場合私は一方に於て高田總長に對して私が感じてゐた情誼に殉する如き行動に出ても、更らに別途の方法によつて、當面の問題に關する私の主義主張を立て通し、且つ眞理のための鬪爭意志に自由活動を與へ得る手段が、最後の、即ち第三の道を取ることを通じて、私に提供されてあることを見て取つた。で、結局私は、その第二の道をも棄てて、その次の第三の道を擇ぶべく決心したのである。

そこで私はまづ、私の教授としての現職に關する辭表を高田總長の手許に提出し、且つ講師としての受任を拒否する趣旨をも言明したと同時に、他方に於ては直ちに一の聲明書を發表し、その中で、私の辭職が單純に四圍の客觀的狀勢に激成されただけのものであつて、決して理論上教授の地位と無產政黨の中央執行委員長とのそれとが兩立しないといふ論據を承認したところから來たものではないといふ意味を明らかにしておいた。更らにまた私は、來るべき教授會でその問題が討議に上程されるであらうときに、先づそこで私の理論的立場を詳說しておいて、その次に同じ論旨を世間に向つても發表し、それを切ッ掛けとして、飽くまで大學の教授學生の政治運動加入の無條件的承認の原則の確立のために戰ふ上に於て適當と認められる限りの手段を取りつゞけて行かうと決心したのである。

一一　最後の歸結

ところが、親愛なる青年學生諸君！　今更ら私の口から特に諸君に告げるまでもなく、私の辭表提出と同時に、諸君の間から、猛烈なる留任運動が起つたのを、私は見たのである。そして諸君が、その運動のスローガンとして、所謂『原則確立』の叫びを採用することによつて、私の理論的立場への完全なる共鳴を與へたことは、私の感激に堪へないところである。しかも、この留任運動に於て諸君が多年諸君と共に學術研究自由の擁護のための戰ひを戰つて來た私に向けてくれた好意と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

熱情とは、私は涙なしに受けることが出來ない。また諸君が我々の所謂『原則確立』のための戰ひに於て示したところの、その勇敢な、組織的な、正々堂々たる進退行動は、たしかに學生運動の上に一の新たな典型を加へたものである

しかし、諸君のかうした努力も、理事會や教授會の必死になつて阻む所となつて、今日に至るまで、まだその最後の目標に到達し得ないでゐるのは、私の遺憾に堪へないところである。私はもとより、當初から私の留任が問題にならないであらうことを、充分に豫期してゐた。だが私は、諸君の留任運動が、教授學生の政治運動加入の無條件的承認の原則確立の主張の、最も力強く、最も徹底的に提唱された機會となつたことを、限りなき滿足を以て迎へたものである。そして諸君のその熱烈なる叫びが全學園内に反響され、そのために學園當局が、少くとも教授の政黨──無產政黨を含めての──への加入を實質的に承認する結末を見るに至つたことは、せめてもの慰めだといはなければならないのである。けれども、無產政黨の中央委員長の地位が頑强にその承認の範圍から除外され、且つまた學生の政黨加入の原則の問題が未解決になつてゐるところに、問題が殘されてゐるのである。

要するに、諸君は力に於て敗れ、理論に於て勝つたのである。しかも諸君が學園當局に向つて投げ掛けたその理論は、今後新たに加へられるに違ひないであらうところの諸君の組織の力によつて、必ず最後の勝利を日を惠まれるであらう。兎にも角にもその理論が、諸君の今後の努力への階段となり、將來の闘爭への目標となつてゐることは事實である。それだけでも、諸君の今回の運動が、その現在までに擧げられて來た收穫の如何に拘らず、極めて有意義のものだつた言へるのである。殊に今回の事件が一轉機となつて、諸君の運動が學生自治同盟の結成への轉向となつたことは、學生運動の一步前進をしるしづけたものとして、大に注意して見られなければならないのである。

我々は今回の事件によつて、舊き早稲田精神の殘骸にすぎない學園の傳統的自由主義には一定の嚴格なる限界がおかれあるものであることが最終的に證明されたのを見た。この自由主義は今でも尚ほ學園當局に依つて傳承されてゐるものであるが、それは最早、新時代が要求する學術研究の自由の擁護の目的のためにさへ、少しも役立たなくなつて來てゐるのである。否、それだけでなく、更らにこの點に關して最も皮肉に見えることは、この自由主義は、今日では全然支配階級への抗爭を必要としなくなつてゐて、寧ろ却て意識的にか無意識的にか、何時しか支配階級との協調の方向に動きだしてゐることである。そしてこの傾向と、それに對する反對傾向との隱れたる衝突の數年間に亘る鬱積が一時に爆發したものが、たしかに今回の事件の一面を構成してゐるものである。かかる事情の下に於て、久しく自由の傳統で包まれてゐるやうに考へられて來たわが早稲田學園に於ても、新時代が要求する學術研究の自由は、新しき早稲田精神を以て充たされてゐる諸君青年學徒の手による闘爭を通じてのみ獲得されなければならなくなつて來てゐるのである。で、若し早稲田學園にして既にさうなつてゐるものとするならば、他の諸學校に於ける一般的傾向の如きも、容易に推して知ることが出來るのである。

かうした經緯を通じて我々が學び得た教訓の一つは、今日に於ては

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學術研究の自由といふものも、畢竟學校内に於ける青年學徒の手による政治闘爭を通じてのみ獲得し得られるものであつて、しかもさうした學校内に於ける青年學徒の手による政治闘爭は、一般の社會に於ける無産階級の手による自由獲得のための全線的政治闘爭の一翼を現實に形成するやうになつて來てゐるものだ、といふ點である。舊き自由主義は、曾て永い間に亙つて我々に學問の獨立及び研究の自由といふものが、現實社會生活關係に超越して存在してゐて、學校に於て擁護され保育されるものであることを思はせてゐた。けれども、近年來の學校教育に於けるブルジョアジーの階級專制の露骨なる具顯は、さうした迷妄を一掃しつくして餘蘊なからしめるに至つた。今日に於ては、學校教育もまた階級闘爭の圏外におかれてゐるものでないことが、最早誰れもに疑はれなくなつて來てゐるのである。かくて、大學に於ける學術研究自由の獲得運動もまた、外部の一般社會に於て急速に展開せしめられつつある無産階級の政治戰線と相聯關し相呼應するやうにもなり、また、さうならなければならないやうにもなつてゐるのである。今日學術研究自由の獲得及び擁護に熱中してゐる青年學徒は、否でも應でも、この生々した現實を認識せしめられてゐるのである。從つて、早稲田學園に於ける諸君青年學徒の學術研究自由擁護運動が、今や學生自治同盟の結成へと轉向して、政治闘爭的形態を取り始めたやうに見えるのは、この點だけから見ても、決して偶然ではないやうに思はれる。思ふに、諸君の行進の途上に於ては、惡戰苦闘の日の連續が、尚ほ無際限に諸君の上に臨むであらう。けれども私は、諸君がそれにも拘らず、萬難を排して勇敢に前進をつづけつつ、一歩一歩と諸君の努力の効果をしるしづけて行くであらうことを信ずる私は、今、二十六年の早稲田學園生活をあとにして社會に出ようとしてゐるが、私の心はいつまでも學園の上に繋がれ、私の眼はいつまでも諸君の上に結びつけられて、絶えず心からの同情と共鳴とを以て諸君の進退行動を見守り、且つ私の力の及ぶ限りは、外部から支持應援の手を諸君にさし延べるであらう。私はこれを以て、諸君へのかたみの言葉とする。かくて私は、早稲田を去るに臨んで、切に諸君の健康を祈るものである。

（昭和二年二月十日の早稲田大學に於ける私の告別演説の趣旨を書き改めたもの。）

堺利彦傳　堺利彦著

堺氏は我國社會運動の大立物である。「この自傳が明治大正の社會史として社會運動史として多少の意義あれかしと望むでゐる」と謙遜の中にも斷言し得るは氏を措いて他に無い。斯る意圖の下に筆を取つたのであるから自身を語ると同時により多く當時の社會を語り、より多く當時の社會運動を語つてゐる。而も一方文壇の老將たる氏が其の輕妙の快筆によりて縱横に社會變革期に於ける明治大正の社會を解剖するのだから一讀卷を蔽ふ能はざる面白味がある。（定價貳圓　送料　廿一錢　改造社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國の帝國主義と支那の國民運動

山川均

（一）

最近の『レヴイユ・オヴ・レヴイユス』は支那問題が「まかり間違へば一方には太平洋の全問題を惹き起こし、他方にはアジア民族の團結の問題を惹き起こす』危險を孕んでゐることを指摘し、南方の國民運動を向うに廻はすことの不得策を警告し、この機會こそ『ロシアのボルセヸキばかりが彼等の唯一の友人ではなく、吾が商業居留地に對する武力的の襲擊こそ甘んじて受けることは出來ないが、吾々は決して支那の上に外國の支配を固めようなどゝ思つては居らぬといふことを支那人に知らしめる絕好の機會である』ことを敎へてゐる。

『英國の自由思想はたゞ自國消費用だけのもの、帝國內だけのためにあるもので、一度び英帝國外に踏み出したら、英國は最も專制的な國と同じほど反動的高壓的にもなるといふ非難を裏書きするようなことを避けるのは、何よりも大英國に取つて、徹底的に必要である。』

『英國の自由思想』の感激に滿たされて『レヴイユ』誌はかう云つてゐる。

しかしその英國は、今どんな英國だらうか。それは一〇〇%の帝國主義的反動主義の使徒——ボールドヰン、チエムバレン、チヤーチル、ジインソン・ヒックス等——を政治上の指導者として戴いてゐる英國ではないか。英國の生產は減退した。『自由思想』の生產も減退した。それはもはや英帝國內の「自家用」にさへも足りないのではないか。自由とデモクラシーとが大英國を支配してゐるといふことは、大英國が資本主義の世界を支配してゐるといふことゝ共に、もはや昔の夢なのである。

（二）

しかし英國の帝國主義の指導者には、この『自由思想』の禮讚者よりも、却つて遙かに『自由思想』的であつた。なぜならば彼等は『レヴイユ』誌の忠告に先だつて、『ロシアのボリセヸキばかりが彼等の唯一の友人ではないこと』を支那人は知らしめようとしたからである。

これが即ち昨年十二月の、英國の新提案となつて現はれた。

けれどもこの對支政策の變化によつて、支那四億の被抑壓民の大衆

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、帝國主義の支配するこの地球の上に、『ロシアのボリセギキ』以外に、なほもう一人の親切な友人のあることを悟つたか、どうか。これは全然別個の問題である。(若し支那人にこれを悟るの明がなかつたとしても、それはもちろん英國帝國主義の罪ではなくて、恐らくは支那人の罪なのである!)。漢口英租界の『武力的襲撃』これが親切なジョン・ブルの小父さんに對する支那人の回答であつた。

『商業居留地に對する武力襲撃』には、もとより甘んじてはゐられない。そこで英國の出兵となつた。たしかにこゝまでは、『英國自由思想』の定石通りである。

しかるにこの出兵に對しては、支那國民の強烈な反抗を喚び起こしたばかりでなく、資本主義列國の仲間うちでも、極めて不評判であつた。もし英國が、振り上げたこの握り拳を何とかしなかつたなら、獨りアジア民族といはず、すべての被抑壓民族の團結の問題を惹き起こす危險があるばかりでなく、『太平洋の全問題』を惹き起こす恐れがあつた。幸ひ英國は、八十五年前に、支那から香港を貰つておいた。八十五年後に、やり場に困つたこの握り拳の置き所になるために!　かうして英國の兵隊を、一と先づ香港にとゞめることにしたのである。

そこで英國の對支外交は、成功か失敗か?　私は、かような無益な問答をしようとしてゐるのではない。英國の對支外交の失敗は何を意味するか?　これがほんとうの問題である。

英國の失敗は、先づ第一には、帝國主義の支配と搾取に對する全被抑壓民族の解放運動の一部として見た支那の國民運動が、如何に力強いものであり、從つて國際資本主義の全體系に對して、いかに強大な破壞力として働いてゐるものであるか、といふことを物語つてゐる。

第二には、列國の帝國主義の間には、いかに調和することのできない利害の對立があるかといふこと、そして國際資本主義がその體内に宿してゐるこの矛盾と對立――自壞の力――は、被抑壓民族の鬪爭によつて、いかなる作用を受け、いかなる反動作用を起こすかといふことを物語つてゐる。

第三には、世界に君臨してゐた英國の資本主義が、もはや明らかに傾いたことを物語つてゐる。それ故に英國はもがいてゐる。そしてもがけばもがく程、その兩脚はぬかるみの中へ沈んでゆく。

(三)

英國資本主義の頽勢は、第一に基礎的工業の衰退に現はれてゐる。戰前と昨年初めとの石炭の產額をしらべて見ると、米國は四三・一(單位百萬噸)から四四・一に、フランスは四・五から五・一に增加してゐるが、英國は二四・三から二一・七に減つてゐる。同じく鐵の產額は米國は二六〇一(千噸)から三四八五に、フランスは四三四から七〇〇に增加してゐるが、英國は八九六から五一〇に減つてゐる。この間に鋼鐵の產額だけは、六四九から七一五に增加はしたものゝ、米國が二五六四から三八五六に、フランスが三九六から六三〇に激增したのとくらべることは出來ぬ。造船業も依然として不振をつゞけ、綿織物業も極端な操業短縮によつて、僅かに命脈を保つてゐる。

同じことは對外貿易の上にも現はれてゐる。英國の對外貿易は輸出入ともに減退してゐるが、特に輸出が減つたゝめ、年々莫大な輸入超

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過となり、しかもその額は年々殖えてゐる。一九二三年の入超二億三四千萬磅は、翌年には二億磅を越し、一九二五年には四億磅近くになつてきた。英國の輸出が減じたのは、世界的に購買力が減じた影響があるにはちがひない。ロシアが資本主義經濟の體系から拔けたのもその理由の一つであり、戰爭によるヨーロッパの荒廢もその一つである。けれどもそれと同時に、英國以外の資本主義國の工業が發達し、または有利な地位に立つやうになつたゝめ、世界市場において、英國の商品はそれと競爭することが六かしくなつたこと。これが大きな理由の一つである。

ことに英國の資本主義にとつて致命的に重要なことは、この輸出の減少が、かなりの部分、殖民地への輸出減少にもとづいてゐることである。

かうして曾ては國際資本主義の中心に坐つてゐた英國は、その地位をアメリカのために奪はれた。そしてこの事實は、國際資本の動きの上にも現はれてゐる。英國から外國及び殖民地に輸出せられた資本の總額は、戰前の一九一三年には一億六千萬磅であつたが、一九二五年には僅かに七千七百萬磅となつた。これに反して、英國がこの一ヶ年に外國に投資した額は、ヨーロッパへ七二〇・五（單位百萬弗）アジアへ六六・九、濠州へ七五、ラテン系アメリカへ二二〇・七カナダへ二二六、合計十三億四千九百萬弗に達してゐる。

（四）

資本主義はその工業に必要な原料の源泉を保つておくために、その商品の販路を獨占するために、その資本を安全にかつ有利に投資するために、そして國內の勞働者が組織の力によつて抵抗力を增大してくると、今度は安價な勞働力を得るために、自國外の國土と民衆とを、その隷屬の下におく必要を感じて來る。かうして十九世紀の七十年代から大戰前までに、ヨーロッパの資本主義强國が分け取りにした土地は二千五百萬平方キロメートルであつて、全ヨーロッパの二倍に上ると云はれてゐる。このうちでも、最も大きな配け前を取つたのは英國であつて、一八八五年以後の三十年足らずのうちに、英國はその本國に百倍する殖民地を獲得したのである。

かうして英國はこの地球の上に、最も廣大な殖民地を持つ國となつた。これらの殖民は本國のために原料と食料とを與へ、その商品の市場となり、本國の資本主義の屋臺骨となつた。そしてこれが英國の資本主義が廣大をなした理由であつた。

しかしその結果はどうなつたか。英國が古くから持つてゐた殖民地は母國の開發的努力のお蔭で、今日は一とかどの立派な資本主義國になりすまし、逆さまに母國の商品の競爭者になつたものもある。そこまでになれないものも、土着の工業が發達するにつれ、多かれ少なかれ、母國と異つた經濟上の利害を持つやうになる。かうして十九世紀の半には、早くもカナダがまつ先きに自治政府を持ち、つゞいて濠洲の殖民地、ニュファウンドランド、ニュジランド、ケープ殖民地も自治權をも獲得した。これらの殖民地は今日にいたるまで、謂ゆる自治領として英國にくつ着いてはゐるものゝ、殖民地の經濟上の發達は、本國との間の遠心力となつて働らいてゐる。歐洲戰爭が始まると、英

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國はこれらの殖地民の支持し得る必要から、帝國戰時內閣といふものをこしらへ、自治領の首相をこの內閣の一員とした。その結果は、英本國と殖民地との結合を緊密にしたかのようであつた。しかし事實はこれらの殖民地が、實際上の獨立國となつて、ロンドンの政治的支配から完全に脫してしまふ一歩であつた。『平等の立場に立つて』ロンドンの戰時內閣會議に列席したこれらの殖民地の代表者は、ヴエルサイユ平和條約にも調印した。昨年の英帝國會議は、本國と殖民地との『平等の立場』を完全に承認することによつて、僅かに英帝國の離散を避けることに成功したのである。

殖民地が、英國から政治的に自立したことは、英國がその資本主義の根底たる搾取の對象を、もはや經濟的に失つたことを意味してゐる。英國はこの地球の上に、依然として廣大な版圖を持つてゐる。けれどもこれらの殖民地は、英國の經濟的搾取にとつては、云はゞ飽和點に達してゐるものであつて、この形勢が、英國の資本主義に取つて、支那を絕對に必要なものとするのである。

（五）

支那には、一千年の間、世界ぢうの需要を滿たすことのできる。石炭がある。支那には少なくことも、十億噸の鐵がある。石炭と鐵のほかにも、いろ〳〵の金屬と石油がある。農業上產物は、ほとんど無限に增大することができる。

支那は今日すでに、おもなる資本主義國に取つての重要な顧客であつて、輸出入總額は三十億に上ぼつてゐるが、人口と比較すれば、一人當り僅かに六圓に滿たぬ。然るに日本の輸出入總額を六千萬人に割當てゝみると約八十一圓となり、支那の輸出入が日本と同一の程度に發達したならば、その總額は三百億圓といふ驚くべき高となる。これは如何なる資本主義國にとつても、決して不足のない市場である。

その上に、鑛業、商工業、交通機關、いづれの方面を見渡しても、有利な投資の機會はいくらでも開らけてくる。そして尙ほその上に、安い勞働力の供給がほとんど無限にある！

これはたしかに資本主義にとつての、蜜と乳香とが流れてゐるカナンである。英國ならずといへども、資本帝國主義の眼は、支那に向つて輝やかざるを得ぬ。

いな今日は、世界の資本主義はその存在のために、この新しい方向を取る焦眉の必要に迫られてゐる。

歐洲戰爭は、資本主義の世界を小さくした。ツアーのロシアが覆滅したゝめに、資本主義はその脚の下から、世界の六分の一に當る地盤を失つた。そのあとに殘つた資本主義のヨーロッパは、生產力を破壞せられたゝめに榮養不足でよろめいてゐる國々と、生產力があり餘り、始末におへぬ商品をかついでよろめいてゐる國々との、二つの塊りに分裂した。

この小さくなつた土臺の上に、資本主義の建物がどうやら、こうやら七分三分のかね合ひで支えられてゐる有樣を指して、資本主義の一時的安定と云ふのである。

けれども一時的の安定は、畢竟、一時しのぎの安定であつて、間斷のない危險と危惧と脅にやかされてゐる極めて不安定的な安定にすぎ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬ。この不安定な安定と、より安定的な安定にする唯一の方法は、面積においても占め、人口においても、全ヨーロッパに匹敵する支那を征服して、その土臺を大きくすることに外ならぬ。

そこで資本帝國主義の一切の勢力は、支那をめがけて殺到する。

(六)

こゝまでは、資本主義列國の利害は精密に一致する。けれども國際資本主義を安定せしめようとする努力、國際資本主義が何より安定的な安定を得ようとする作用そのものが、この安定を破壞する作用となつてゆく。

英國は南支貿易の中心たる香港を踏まへ、揚子江流域をその繩張りとして澤山の資本を投下してゐる上に、對支貿易の首席を占めてゐるところから、關稅の管理權を握つてゐる。日本は滿州に謂ゆる『特殊利害』なるものを持つてゐる。獨り米國は、戰前までは大部分の農業國として、國內に開發すべき充分の資源と市場とを持つてゐたゝめに、支那には繩張りを持つてゐなかつた。それ故に米國は、支那に於ける機會均等と門戶開放とを主張する。支那が關稅自主權を恢復することも、そのために關稅が高くなることも、米國にとつては、それほどの苦痛でない。少なくとも、それは米國の對支輸出にとつては、致命的の苦痛でない。

この點では、英國もほゞ同樣であつて、關稅の引上げのために、土着の粗工業が保護せらるゝにしても、英國は粗工業品において失ふところは、精工業品によつて償ふことを知つてゐる。今日すでに、支那の輸入は粗工業品から、漸次に精工業品や機械類に移つてゐるのであるから英國は、必ずしも關稅引上げに反對せぬ。少なくとも英國には、ロシアのボリセギキ以外の親切な友人であることを證據だてるために必要とあらば、關稅の即時引上げにさへも同意する用意がある。しかしこの親切な友人は、稅關管理權はなか〳〵手放そうとせぬ。

この點で全く反對の立場におかれてゐるのは、善隣の日本である。なぜならば關稅の引上げは、日本に取つては致命的であり。粗工業品の外に持ち合せのない日本にとつては、輸入稅の引上げは、對支輸出貿易に致命的な打擊を蒙るばかりでなく、原料品に對する輸出稅の引上げは、原料なかんづく鐵のない日本の工業にとつては、これまた致命的の打擊であつて、幾十年來の對支政策を水の泡にしてしまふことを意味してゐる。そこで日本にとつては、ワシントン會議の決定を重んじ、完全な自主權の恢復は、長くとは云はず、一九四—五〇年頃まで待つてゐること、それまでは善隣のよしみによつて、直接あい對で關稅率をきめるのが、最も合理的だといふことになる。

利害關係の交叉錯綜は、決してこれだけではない。金融資本は、支那を安全な投資場とするためには、有力な中央政府の出現を望み、まかり間違へば第二のドウズ案の下に支那を統一しようとするかと思へば、一方には、なるべく軍閥の對立をつゞけさせて、既得權を植え付けようと目論むものもある。そうかと思へば、フランスが英國の出兵に反對し、イタリーが英國の出兵を支持するように、最近のヨーロッパにおける英伊、獨佛の對立關係が、そのまゝ支那の舞臺に持ちこまれてゐるものもある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（七）

今日は、英支關係の緊張が、支那問題を蔽ふてゐる。しかし眞實に緊張してゐるのは、英國と支那との關係ではなくて、全世界の資本主義的帝國主義の勢力關係が、支那において緊張してゐるのである。

そこで支那問題は、一面から見れば、國際資本主義が安定を求むる勢力と、被抑壓民族がこれを下から跳ね返へそうとする勢力との闘ひを意味して居り、さらに他の一面から見れば、かうして打ち込まれた楔のために、國際資本主義の龜裂が擴大し、その矛盾と對立とによつて、自壞作用が惹き起こされてゐることを意味してゐる。

英國はどうするだらう！　恐らくは支那の國民運動の前に、うなだれるであらう。

若し英國が、頑強に抵抗したらどうであらう？　恐らくは『レヴイユ』誌の心配したやうに、それは全世界の被抑壓民族の『團結の問題』を惹き起こし、それは『全太平洋問題』を惹き起こし、第二の世界戰爭の導火線に、豫知せられたよりも早く點火するかも知れぬ。

『ロシアのボリセボイキ以外の』支那の眞實の友人となるのは誰だらう。

東北切支丹についての正誤

姉崎正治

村岡氏が仙臺殉教の古文書を紹介せられたことは、當時の書類の殘てゐる一端として有益の發表である。それについて少し記すべき事もあるが、他日に讓つて、此處には先に本誌で公にした自分の「東北切支丹」中、誤つた點と補ふべき事とを申上げる

一は、同文一〇八上段に後藤壽庵が法王からマルチルの位に列せられたと記したのは、全く誤り。此は秀吉の時に長崎で死んだ「五島のジユアン」で、仙臺の壽庵とは全く別人である。疎漏の混同をしたのを陳謝する。

次は、後藤壽庵を筆頭として、十七人の信者が法王へ書面を出した。その署名者の名が他に出て來ないと記したのも早計で、その後四人の行末を確め得た、即ち左の通である。

しゆあん河合喜右衛門はその後一六二四年、秋田で二人の小供と共に火刑。

壽庵大森喜右衛門吉家は、一六三二年、會津若松で妻と共に火刑。

はうろ柴山長左衛門長以は右同年同處で妻と共に火刑。

われんちいの中牧主水懸〇は右同年、二本松で妻と共に火刑。その他補ふべき事も段々あるが、今は此だけに止める。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國民政府の實情と蔣介石及びその周圍

山村時男

一、支那現局殊に南方支那鳥瞰圖の必要

現在支那の國狀は辛亥の革命即ち清朝が倒れて民國が起つた當時に比して社會的にも國際的にも顯著なる改革の氣運に到達して居るのである。民國元年の革命は單に政權の推移に留り何等政治組織や對外關係に根本的の變化はなかつたのであるが今現に起りつゝある革命は世界の輓近の思潮に醒めたる支那國民が（幾分かは蘇露の教唆もあるが）自ら其從來の政治的組織を否定し從來の對外關係を覆して民族的國家の建設と國權の伸張に努力するあがきに外ならぬのである。而して之れが主導者は從來嘗て見ざる勢力を南支那に扶植し得た所謂革命國民政府であつて、之れが影響はひきて北方軍閥者側に迄で及ぼし、幾次幾分なりとも其覺醒を惹起した傾向が見えるのである。此革命の成否は今日に至つては單に時日の問題であつて、假令國民政府が不幸途中で蹉跌したとしても、支那の民意は決して今日より後戻りするものではなく、必ずや徐々なりとも一歩一歩を進め行く事は明かである。

是等支那時局に關する各種の報道は、頻りに新聞紙上に現はれ、支那國內の紛糾と國際關係の切迫を想像せらるゝが、扨て此斷片的の報道のみでは吾人をして結局如何に成り行くべきかを考察せしむるに甚だ困難である。勿論外務や軍部の人々若くは利害關係ある各方面の當事者間には、常に其局部の情報を綜合して大局の情勢に精通せられ、對支國策や經濟上の方策が案出せられるは無論であるが、吾等一般國民としても、友邦支那の出來事、殊に現在の如き狀況を、單に對岸の火災視して之れが對策を當事者のみに一任すべきではないと思ふ、宜しく常に大體の成行きを知悉し自ら友邦國民の爲めに善隣の誼を盡し或は當局を後援し或は之れを鞭撻して日支兩國間の共存共榮に資する事が必要である。此意味に於て、支那に關する情報を見らるゝ人には、今日傳えらるる新聞紙上の報道は支那の複雜なる國情、變幻極りなき時局の關係上餘りに局部的であり且又茫漠として其眞相を摑み之れを統括するに困難な事と思ふ、殊に楊子江以南の狀況に於て然るべきである。之れ玆に禿筆を省みず南方支那の鳥瞰圖を記述する所以である。

二、支那全局と南方支那の現勢

現在の支那は北方軍閥系の奉天勢力と、南方國民黨系の國民政府とが、殆んど楊子江を挾んで對峙の狀況に在るは衆知の事であるが、更らに之れを細別すれば概左記の如くである。

甲、奉天派

張作霖、吳佩孚、張宗昌、孫傳芳、閻錫山諸勢力の聯合より成り、張作霖は安國軍總司令として自ら之れが主領を以て任

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

じ、顧維鈞內閣を北京に置くも其政令は目下東三省及直隷山東河南山西安徽江蘇浙江並に察哈爾綏遠熱河の三特別區域內に行はるるのみである、而して其純奉天系に屬するものは、張作霖直轄下にある安國軍（東三省及熱河察哈爾軍隊）張宗昌所部たる直魯聯軍（直隷山東軍隊）及孫傳芳の指揮下にある安徽江蘇浙江三省聯軍で、河南に在る吳佩孚は已に其大部の實力を喪失せるのみらず、奉軍との協力を口にするも其實行を願はずして猶獨力事を成さんことを希望して居り、山西の閻錫山に至りては常に山西門羅主義を保持し離合曖昧裡に在るのである。

乙、國民派

蔣介石を主領とせる國民政府に屬するもので、馮玉祥の指揮する舊西北國民軍も亦之れに屬し、現在に於ては廣東廣西湖南湖北江西福建及甘粛陝西の諸省を範圍とし、國民政府を南昌に設置して居る。

丙、雲貴派

雲南に於ける唐繼及び貴州に於ける周西成は目下は軍閥系統に屬するものであるが、其位置が僻在して居り中央と交渉が尠くない、殊に唐繼堯は從前大雲南主義に失敗してより以來、たゞ雲南の維持に汲々たるのみで、若し國民系が完全に揚子江以南を入手するに至らば自衞上如何樣に變化するかは圖られないのである。

丁、四川各軍

由來四川は其地域が廣大にして豐沃なる關係上、省內軍隊の紛擾が絕えず、殆んど統一せらるる事が絕えない有樣に在るので、現在に於ても軍閥系に屬するものと國民系に屬するものとが相錯雜紛糾して居るが中原の大局には大なる關係を有たぬのである。

更らに南北對峙の狀況を述ぶれば、二月上旬迄には南方國民政府は揚子江沿岸に於て湖北江西福建を完全に其手中に收め、京漢鐵道方面に在つては湖北の北境武勝關附近を守備して北軍の南下に備へ、武漢より下流揚子江の北岸安徽との省境附近に、湖南に在りし袁祖銘、王天培、彭漢章等の指揮する貴州軍を集中し、併せて江西の北部安徽の省境附近にも、賀耀祖李宗仁の指揮する湖南廣西の軍隊を進めて守勢的に安徽方面に備へ且つ後來の南京方面の進出を準備して居る。一面福建に在る何應欽の所部をして海陸三路より浙口に浸入せしめ、同時に之れと策應して東部江西より白崇禧の所部を進め、先づ抗州を目標として攻勢に出でしめて居る。其目的とする處は浙江の攻略と共に上海の占領に在るは無論である。此頃漸く抗州の西南地區に於て、南北兩軍主力の衝突が惹起せられ蘇浙聯軍（孫傳芳側）の不利が傳へられる、蘇浙皖三省聯軍の組成と孫傳芳の威信より察するに、浙江は早晚南方軍の有に期し上海の危險が目前に迫る樣に想はれるのである。更らに陝西方面に於ては、馮玉祥の甘粛歸來後、着々敗退せる西北國民軍の軍容整頓を終り、于右任を總指揮として陝西の統一に從事せしめ、已に其一部は河南の省境潼關の要害を占領して河南に在る吳佩孚麾下の張治公軍と相對峙して居る。

以上に對し北方軍の軍容を見るに、目下第一戰線に直面して南方軍と交戰しあるものは孫傳芳の所部で、浙江方面に於ては孟昭月李寶義白寶山、馮紹閔等の所部浙江浸入の南軍と抗州附近に於て戰鬪中である、又李寶章（松滬護軍使）所部たる第九師を以て上海を警備させて居る外、安徽方面では陳調元に命じて在來の安徽軍隊を以て江西方面を警戒させてあるが、是等軍隊は甚だ不安心の者で早晚孫傳芳の現在の所部は瓦壞して、其後詰として津浦鐵道沿線に下南しある張宗昌の直

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

發賢軍(程國瑞所部第三軍王棟所部第四軍擧族岱の第七軍等)が之れに代り南軍と對峙することになるであらうと思はれる。

河南方面に在つては、吳佩孚將軍が必死となつて西南兩方面に當り屢々獨力武漢の恢復を廣言して居るけれども、部下の離散甚だしく靳雲鶚魏益三等の所部は或は已に南方軍と提携成立せりとも云ひ其響脅甚だ疑はしく、加ふるに軍費の不足は軍隊に戰意なく吳佩孚將軍一人自國歇踏みある有樣である、免に角吳佩孚の自力を以てしては西南兩方面より來る國民軍の攻勢移轉(當分は之れなきも)を防支することは困難なのである。之れを顧慮して北京に在る安國軍の御大張作霖は張學良に命じ其部下を京漢鐵道に沿ふて南下させ、目下黃河以北直隷の南部に至る邯鄲磁州順德間に第十一軍(趙恩臻)、第四軍、及第十七軍(榮臻)等の部隊を前進させ、又張宗昌の山東軍の一部第六軍(徐源泉)を大名附近に進め、共に河南軍の後詰めとすると共に恰かも吳將軍の自滅を監視させて居るのである。

之れを要するに現在では浙江は已に大半南軍の領域に歸したも同樣で、今後の問題は南方軍が揚子江以南の安徽江蘇の地を得らるるや否やである。而して玆に南北兩軍の眞の衝突が惹き起こされるのである、即ち南方としては河南方面に對しては秦嶺の險に依つて北方軍を抑支し專心皖蘇の占領を勉むべく、之に對し北方軍としては直督軍をして孫傳芳を援助して其失へる所を恢復せしむると同時に出來得べくば江西を脅威し、又奉天軍は迅雷下して武漢を個かんと謀るのであらふ。然し南北何れにもせよ突進して秦嶺の險長江の障碍を越えた者は、共に包圍的大打擊を蒙むり成功は十中八九六つかしき樣考へられる恐らくは利口なる南軍はこの愚策に出ないで、長江以南殊に支那の金穴たる上海を領有したなれば先づ秦嶺の險と長江の障碍に依つて南北對峙の形勢を持續し、其間に內部の整備を完全にし御得意の宣傳戰を以て徐ろに北方の地盤の切り崩しに着手すべく思はれる。

三、國民政府の組織

現在江西南昌に設置されたる中華民國々民政府は、民國十四年七月に公布せられたる組織法に依つて成立したもので、國民黨の所謂以黨治國の精神に基き全國の政務を掌握する機關である。此國民政府は委員若干名を以て組織し、內一人を擧げて主席となし常務委員五人を以て日常の政務を處理することとなつてゐる。而して政府には軍事、外交、財政の各部を置き各一人宛其部長に當るのである。

國民政府には監察院、懲吏院、大理院を設け、監察院は政府所屬各級機關官吏の行動を監察し國庫の收支を調査する機關で、委員五人を以て成り、懲吏院は監察院の起訴に依り官吏を懲辦するところで、此れ亦委員五人より成り、大理院は最高司法機關で院長及副院長之を總理することゝなつて居る。

國民政府に屬する省には省政府を置く、省政府は全省の政務を處理する機關で民政、軍事、財政、敎育、建設、實業、農工、土地の各廳を以て組織し、各廳には廳長一名を設け廳長の合議體を省務會議と名づけ內一人を擧げて主席となす。

省政府の下に屬する都市には市政府を設く、これも委員組織であつて各委員は夫れ〳〵公安局、財政局、衛生局、工務局、敎育局、土地局の局長となり內一人を擧げて主席となす。以上政務各機關はすべて國民黨の指導監督の下にあるので、國民政府組織法第一條には明白に、「國民政府は中國國民黨の指導監督を受け全國の政務を處理す」と規定してあり、又省政府組織法にも第一條に嚴に「省政府は中國國民黨中央委員會及省委員會指導監

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

督の下に於て國民政府の命令を受け全省の政務を處理すと定められてあるのである。而して此等機關の官吏は必ず國民黨々員たる事を要するのであつて、國民黨の勢力の及ぶ時は政治と云はず教育といはず社會と云はず完全に黨化するの主義に基ひてゐる。現在政府を置ける南昌は一時の假設であつて北伐軍湖北成功の始めには武昌に暫置せるが其位置は餘りに突出して南方領土の全域を支配するに不便なると、直ちに北方軍の攻擊の衝に當るの恐れ多きを以て之れを南昌に移轉せしめたもので、南昌は安全なるも交通稍不便にて中央政府の位置に不適當であるから、後來南方軍が更らに發展した曉には之れを南京に移さんとの案もあるのである。

現在國民政府の主要なる役員は

主席委員　譚延闓
軍事部長　蔣介石
外交部長　陳友仁
財政部長　宋子文（兼中央銀行總理）
大理院長　徐謙
交通部長　孫科
政治顧問　ボロヂン
軍事顧問　キヤリン

各省々政府の組織已に緒に就きたるものは廣東、廣西、湖南、湖北、江西の四省であつて、福建は目下準備中で臨時政治及軍事の兩委員會を設けて政務軍務を處理して居る。甘肅及び陝西も亦國民政府の組織に倣ひ其省政府を組織中にして甘肅は略完成を見るに至つたのである。

此外に中央銀行を設置し各省に分行を設け國庫金融の機關となし、廣東には中央軍事政治學校を設けて黨軍の幹部を養成し、又以前の廣東大學を中山大學と改稱して育英の機關として居る。

又孫文氏が其建國大綱に於て述べてある如く、現在の國民政府は正に軍政時代にあるもので、國民政府の節制下にある軍隊は之れを國民革命軍と名け、國民政府が北伐開始當時に在りては八軍約七萬の兵力に過ぎなかつたが、現在では其發展に伴ひ各方面の響應軍を收容して殆んど卅三軍卅餘萬の兵力の多に上つて居る、蔣介石氏が國民革命軍總司令として之を統率して居るのである。

四、國民政府が今日の成功をなしたる所以

孫文氏及其一派國民黨の同志が、民國成立以來、初めは北京の政變に敗れ其後第二第三の革命も其効を奏せず、廣東に於ても絕えざる內訌に惱み民國十一年の北伐も遂に南昌にだに達することの出來なかつたに反し、最近に於ける國民政府の迅速なる北伐の成功は、洵に驚嘆すべきものであるが、仔細に之れを研究すれば決して偶然ではないのである。即ち孫文氏が民國十一年北伐の失敗後過去の苦がき經驗に鑑み、全く從來の行きがかりを捨てゝ新たに中國國民黨を組織し、現在の支那の政治組織を全然否定せる中國々民黨綱、宣言、總章、入黨規則を定めて民國十二年一月一日之れを發表し、民衆の力に依つて思想方面から革命運動の成功を期せられたと共に、蘇俄との提携を開始し、一方黨軍の訓練と建設に着手せられた事が實に其因をなすものである。之れを換言すれば

1、組織的宣傳法の應用
2、訓練組織及素質の建設改良に依る革命軍（即黨軍）の精神的及物質的進步
3、蘇俄勢力（人物及物質）の利用

の三者が今日の成功を致たせるものと云はれるのである。

前述組織的宣傳法に依る民衆の利用は、直接間接に武力を援助するもので、間接には武力戰に策應する一部の脅威又は牽制戰を行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ひ、直接には戰場に於ける民衆心理の操縱に依つて武力其のものに偉大なる援助を與へて居るのである。北方軍閥は顧慮を民衆心理に置かないのみならず往々にして惡感を民衆に與ふる事あるに反し、國民黨軍は深く民衆の心理を捕へて之れを操縱して帝國主義と軍閥に對抗せしむる事に成功して居るのである。而して今日支那に於て革命運動に利用すべき民衆の要部は學生であつて是等學生は全國的なる組織の下に活動して居るが其全國學生聯合會の幹部は全部國民黨系であると斷言しても差支ない程である、隨て平戰兩時を通じて是等學生は國民黨の勢力擴張革命成功に貢献する所甚だ大なるものがある。

最近活動しある國民革命軍の槓幹をなすべき主要なる軍人は、孫文氏が蔣介石氏に命じ民國十二年末より蘇俄（ロシア）に至り其視察せる結果を齎し歸りて廣東黃浦に十三年四月開校せしめたる軍官學校の卒業生である。是等卒業生は新たなる黨軍の活動要素として特に選拔教育せられたる青年であつて、日本式軍事教育に加ふるに蘇俄式宣傳能力及國民黨々綱に關する政治智識を養成せられて居るから、之れを從來の軍隊に比ぶれば精神的にも物質的にも雲泥の差があるのである勿論國民革命軍の全部が悉く是等同一の素質より成るものではないが、巧妙なる人員の配置と組織に依つて最も有効的に使用せられてあるから、比較的劣惡なる素質のものも漸次進步改善せらるる傾向があつて其能率を增加して居る。又無智なる兵卒も此等幹部に指導せらるる事に依て軍紀風紀を維持し戰鬪が常に有意義なる目的に向ふて遂行せられるのである。

人物及物質上に於ける蘇俄勢力の利用は確かに國民革命軍を力強きものになした一因である。勿論始めは單に之れを利用して利益を得るに在つたものだが今では却て蘇俄勢力の充實に惱まされて居るの傾向は見えるが、兎に角最初軍官學校開校の時に二十萬圓の設立費と多數の小銃軍輕砲機關銃を寄與されたのを始めとし、其後浦鹽から數回軍艦に依て運送せられた兵器彈藥及びボロヂン、キヤリン以下約百名に近い蘇露應聘者主として軍人）に依つての援助、又事實の眞否は不明なるも最近一九二六年十月頃取結はれた密約による毎年二百萬留の收入等之れである。

革命國民軍の組織と軍事教訓價値に就は北京公使館附武官補佐官たる佐々木到一中佐が北京に在る週間雜誌北京週報上（昨年十一月以降の）に詳細適切に記述されてあるから之を參照せらるれば甚だ明瞭である。

五、國民黨の現狀

現在に於ける南方支那は其大部が國民政府に依て支配されてあり、國民政府は中國國民黨の以黨治國の基礎の上に成形されてある關係上、南方支那の現狀を知悉する爲めには國民黨の現狀を知る必要がある。

過去の國民黨は幾多の變遷があつたが現在の國民黨は前に述べた如く民國十二年一月一日孫文氏の發表せる中國々民黨々綱、宣言、總章、入黨規則に依て全然從來のものと其體形を異にして新生したものである。其後民國十二年十一月蘇露代表ボロデン氏の廣東到着と共に其提携が成立したので蘇露と關係の深ひ共產黨員を入黨させる事となり共黨則も一部改正されたのである。孫文氏は十三年一月の第二次全國代表大會に共產黨の入黨案とボロヂン氏の指導に依て改造した國民黨の黨綱と章程とを提出し馮自由氏等一部の反對者が在つて遂に脫退者まで出す騷動はあつたが政綱の一部を改正して之れを通過したのである。此共產黨の合併は確かに國民黨の革命的氣力を增大させた點には有効であつたが、又一方には所謂左右兩派の爭が之に依りて生れ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出したのである。然し孫文氏の在世中は兎に角も破綻を生ぜずに來たが十四年三月孫文氏が北上して北京に仆るるや左右兩派の內爭が劇烈となつて來た而して十四年八月國民黨中央執行委員で國民政府の財政部長として又共産黨的施設の先達者であつた廖仲愷氏が廣東で刺客の手に仆れた爲め左右兩派の反目は益々劇しく遂に八月廿五日蔣介石氏はクーデターを行つて廣東に於ける反共産派を驅逐してしまつた、かくて黨內共産派勢力の擡頭に不安を抱いた右派の連中は十四年の十二月北京西山に會議して共産黨員排除を企て上海に國民黨中央執行委員會なるものを設けて廣東と對抗するに至つたが廣東に在る左派は是等に顧慮なく益々其結果と蘇露との提携を密接にして勢力の發展に努めたのである。然し十五年の半ば頃には支那全國に國民黨赤化の聲が餘りに喧しいので黨內の結束も稍緩和された傾向が見え、五月廿五日の中央委員會では黨務整理案を決議し國民黨と共産黨との關係を嚴定した其案の要項は

一、他黨員にして本黨に加入するものは孫總理の遺囑及三民主義に對して懷疑或は批評を加ふべからず。

一、他黨員にして本黨に加入するものは高級黨部（中央黨部、省黨部、特別市黨部）の執行委員に任ずる時各該黨部執行委員總數の三分の一を超ゆべからず。

一、他黨々員の本黨に加入せるものは本黨中央機關の部長に就任するを得ず。

一、凡そ國民黨籍に屬するものは最高級黨部の許可を得るに非れば別に政治關係の組織及行動をなすを得ず。

等であつて此整理案に對しては黨內の共産黨も異存はなかつたのである。而して左派を主體として成立せられた如く思はれる今日の國民政府內の主要人物を吟味するも、必ずしも全部が左派の因ではない、譚延闓氏の如き孫科氏の如き、又軍司令官の大部分殆んど全部は、左右兩派の中間若くは右派と思はれるものも尠くないのである。のみならず最近汪兆銘氏や戴天仇氏若くは吳鐵城氏等を更らに重用せんとするの傾向は、確かに國民黨內部の緩和傾向を顯せるものとも見られる。兎に角孫文氏の逝去は國民黨否支那の爲にも一大損失であつて孫文氏が死去せられなかつたならば國民黨內の紛糾も緩和され更らに其發展に見るべきものがあつたかも知れぬと思はれるのである。然し先きに述べた如く假令今日國民政府が蹉跌しても已に變化しつゝある支那國民思想の進歩は早晩現在の國民政府が目的とせる革命の實現せらるべき時が豫期せらるると同じく、孫文氏の逝去、國民黨內部の紛糾、左傾派の挑梁、赤露の宣傳があつたとしても、孫文氏が北上の途次日本で新聞記者に「假令支那が蘇露と同一の革命の目的を有するため之れと親善を結ぶも國家の制度に至つては支那には支那の制度あり露國には露國の制度あり國情相同じからざれば從つて其制度も同じからず支那の將來は三民主義五權憲法の制度ならざるべからずと」云はれた通り東洋特殊の文物の上に置かれたる中國々民黨が支那勢力の中心たるためには、必ず支那の國情に適應するものでなくてはならないゆえ若し存立するとすれば左右兩派の爭い早晩緩和一致されるであらふ、然らざれば其共産分子の爲めに破壞の時期に到着するのである。現在の國民黨が對外政策として規定したものは次の如くである

對外政策

當さに帝國主義を打倒すべく、其必要の手段は

一、世界革命の先進國と聯合すること。

二、世界上一切の被壓迫民族と聯合すること。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三、帝國主義者本國内大多數被壓迫の人民と聯合すること。

對内政策

當さに一切の帝國主義の工具を打倒すべく工具の首たるものは軍閥にして次は官僚、土豪、買辦階級なり、其の必要の手段は、

一、人民の軍隊を造成すること。

二、廉潔なる政府を造成すること。

三、國内の新興工業を提倡保護すること。

四、農工團體を保障して其發展を扶助すること。

以上國民黨の政策は今や帝國主義打破と軍閥推倒とに全力を集中しあるものである。而かも此主張は孫文氏が將さに世を去らんとして遺した遺囑に於ても之れを窺はれるのである即ち

孫中山先生遺囑

余力を國民革命に致すこと凡そ四十年、其目的は中國の自由平等を求むるに在りき、四十年の經驗を積みて深く此の目的に到達するには必ず須く民衆を喚起し及び世界上平等に我を待つの民族と共同して奮鬪すべきを知れり、現在革命尙未だ成功せず凡そ我が同志務めて須く余の著すところの建國方略、建國大綱、三民主義及び第一次全國代表大會宣言に依照して繼續努力し以て貫徹を求むべく、最近主張するところの國民會議の開催と不平等條約の廢除とは須く最も短期間に其の實現を促すべし、是至囑とする所なり、

孫文　三月十一日補簽

中華民國十四年二月二十四日

六、國民政府に活動しある人物

國民政府が廣東より發起して迅雷の勢ひを以て今日迄の成功を來たした運動中に活動して居る者は皆國民黨員であつて其多くは邦人間に知己を有するものである今玆に餘り知られない經歷と人物を紹介する。

蔣介石氏　國民革命軍總司令たる蔣介石氏(浙江人中正と稱す本年四十一歲)は孫文氏の北上迄では餘り其名が一般に聞えて居らなかつたのであるが古い國民黨員で我國陸軍の留學生士官學校を卒業せずして歸國した支那の革命運動には孫文氏等と終始行動を共にして居た、孫文氏が第一回北閥施行の前後には其參謀後に秘書として民國十一年の北閥に陳烱明の反擧に依て孫文氏が廣東觀音山の大本營から脫れて軍艦永豐に移り約一ヶ月間勇敢にも孤獨で白鵞潭(廣東居留地沙面の沖)に頑張つて陳烱明軍の各種の脅威に對峙して居られた時終始離れずに孫文氏を補佐して居つたのである、故に孫文氏の信任は甚だ深かつた。十二年の春孫文氏が再び廣東に歸り大本營を河南に置いた頃には許崇智氏の指揮する廣東軍の參謀長となつた。其後孫文氏の命を奉じて十二年の暮れから露西亜に至り約一年間各種の視察を遂げて歸つてからは黃浦の要軍司令官及び軍官學校の校長に任じ今日國民革命軍の精華と稱せられて居る軍官學校の出身將校を第一期から教育したのである、孫文氏の死後以來の活動は世間衆知の事故玆に略す、性怜悧稍決斷に缺ける嫌ひがある個人としては甚だ友誼にも厚い樣であるが黨人としては屢々其舊友を犧牲として居る軍事上の智能は左程でもないが今日の成功は顧問ボロヂン氏進言の力が預つて大である。然し現在では餘程自ら蘇露勢力の跋扈に苦しんで居る形ちが見えないでもない。

陳友仁氏　國民政府の外交部長として目下盛んに英國を相手に辣腕を振つて居る、同氏は寧ろ外人間には Yu'ng Cheng (ユーゼン、チエン) として有名なる人、大西洋の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

チェチカといふ英領の孤島で生れて後英國に留學した人である故に支那人であるけれど支那語は充分に話せず無論漢字の智識もない處に其人物の價値は窺はれる。然し孫文氏の英文秘書として孫文氏は常に其堪能なる英文を賞賛自慢して居られた。民國十二年廣東大本營時代には一時航空局長をもして居つた事もあつたのである、其英文が上手な丈け東洋殊に支那の國情にも餘り精通して居るとは思はれないが其處に又其外交振りの突飛さが豫想せられるのである。

何應欽氏　目下浙江方面に出でて國民革命第一軍長として革命軍の精華たる第一軍（幹部の大部分が黄浦軍官學校出身者）を率ひて戰鬪して居る何應欽氏は貴州省の人（前貴州督軍劉顯世氏の親戚）我陸軍士官學校出身者で温厚篤實なる人物である、嘗ては貴州で旅團長をなし後廣東に來り孫文氏の大本營に參謀處參議となり黄浦軍官學校の設立に際し其籌備委員で教官として同校に日本式の軍事教育制を採用した。後國民第一軍長として東部廣東に陳烱明掃蕩に成功し（惠州の攻城には露西亞顧問の攻城不成功に終るや自ら案を立てて之れを陷落せしめた事もある、次で福建に出で周蔭人を驅逐して福建の統一を完成し今や浙江に向ひ其所部を率ひて前進中にあるのである。

政治顧問ボロヂン氏　露西亞共產黨員中の老黨員で支那に來る前には英國に於て革命運動を援助し之れが爲め捕へられて入獄され數ケ月の後に釋放された事もある民國十二年の十一月に蘇露代表として廣東に來て國民黨と蘇露の提携を成立させた。其後國民黨の政治最高顧問として前には孫文氏を後には廖仲愷、蔣介石氏等を助けて國民政府今日の盛大を來たさしめたのである。國民黨の組織變更、孫文氏北上の決行、蔣介石氏のターデター施行、北伐の決行等皆其建議に出づるものである。

七、國民革命軍の實力と配の概要

北伐開始當時即民國十五年六七月の頃の國民革命の實力は七軍團二十個師團であつて、兵員約七萬野砲卅門山砲二十七門機關銃三十二を有したに過ぎなかつた、其後北伐の成功に伴ひ湖南湖北江西福建の攻略と共に該方面に在つた地方軍の招撫に依り格大の膨脹を來たし、今日に於ては已に廿三軍廿餘萬の兵員を算するに至つたが、此總數は單に計算上の數目で其内には名義上國民革命軍に附屬したもので其黨軍たるの組織も訓練も有せないものも多々あるから之れを革命軍の實力に計上するは不適當なものがある、玆に從來革命軍の主體となつて今日迄北伐戰鬪に從事した主なるものを擧れば。

第一軍　長　何應欽
第一師　王俊
第二師　薛任
第三師　譚曙卿
第十四師　馮軼裴
（浙江侵入軍として目下福建より浙江に闖入戰鬪中）

第一軍は國民革命軍の精華部隊で大部分の幹部は第一期軍官學校卒業生を以て編成され廣東々江戰及福建の攻略に其精鋭を顯はした。勇敢と軍紀の嚴正なので著名である。

第二軍　長　譚延闓
第一師　魯滌平
第二師　張輝瓚
第三師　譚道源
第四師　戴岳
（湖南より次て江西攻撃に參加し、目下江西省に在り副軍長魯滌平に依り指揮さる）

第二軍は元湖南督軍趙恒惕の部下であつた湖南軍である、勇敢で中等の素質である。民國十四年の北伐に際し國民政府に加擔したものである。

第三軍　長　朱培德

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一師　王　均
第二師　朱世貴
第三師　章　杵
第四師　李明揚
江西攻略に奮闘し南昌の攻擊には多大の損害を蒙むつたが目下恢復江西省に駐屯

第三軍は第三次革命時李烈鈞に從つて雲南から廣東に來た雲南軍であつて其後湖南貴州四州に轉戰した、民國十二年廣東から陳烱明を驅逐して孫文氏を回粤させるに力あつた、雲南軍中終始孫文氏に忠實であるもので戰鬪にも勇敢である。

第四軍・長　李濟琛
第一師　張發奎
第二師　陳繼棠
第三師　徐景棠
獨立團　葉　挺
大部は副軍長陳銘樞に指揮されて江西戰鬪に參加、一部は廣東に駐屯す。

第四軍は元陳烱明麾下の廣東第一師を基幹として改編せられた純廣東軍隊である、後許崇智の指揮に屬して居つた、素質稍不良現在では軍長李濟琛は省政府軍事廳長として廣東省の軍務を擔當して居る。

第五軍　長　李福林
第一師　練炳章
第二師　錢大鈞
第三師
廣東に殘留警備に任ず。

第五軍は昔廣東土匪出身たる李福林の手兵を擴張改編したもので純粹の廣東土着軍である、素質が最も不良であるから蔣介石氏は之れを後方に留めて其訓練を命じ戰場に使用しないのである。

第六軍　長程　潛
第一師　鄧彥華
第二師　鄧兼任
第三師　楊源源
江西駐屯。

第六軍は民國十四年北伐に際し革命軍に參加した湖南軍で下級幹部に多數の軍官學校出身者をもつて居る故相當の戰鬪能力を有つて居る。

第七軍　長　李宗仁
第一師　夏　威
第二旅　李明瑞
第三旅　陶　均
第四旅　夏威兼
第五旅　伍廷颺
第六旅　胡宗鐸
第七旅同右（兼）
第八旅　羅祖培
湖北江西に歷戰し、目下其主力を江西東北部に集中して安徽に對峙す。

第七軍は廣西軍隊で半匪半兵の舊式軍ではあるが行動輕快、稍戰鬪能力がある、武漢の攻略、江西南潯沿線の戰鬪では大に働いて居た。

第八軍　長　唐生智
第一師　葉　琪
第二師　何　鍵
第三師　李品仙
第四師　劉　興
教導師　周　瀾
警備一旅　廖家棟
警備二旅　王者師
警備三旅　陳　章
外步兵團　六團
湖北に奮戰湖北及湖南に分屯し一部は京漢の線に依て河南に對峙す。

第八軍は原來湖南の省軍である、湖南で其競爭者たる葉開鑫軍を壓倒するため最初革命軍と協力のた湖南を取るに及國民革命軍に加入して湖北に進出したのである、それ故直系革命軍ではない將來之に政治委員細胞組織を附し確實に革命政府の統制下に置く迄は其離合が不確實である恐れがある。

第九軍　長　彭漢章
第一師　賀　龍
第二師　楊　昌
第三師　毛鴻翊
湖南より武漢東方地區に移動中

第十軍　長　王天培
第一師　王天錫
第二師　楊勝治
第三師　王天生
右に同じ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第九第十軍は共に貴州軍で元と袁祖銘麾下にあつたもので、未だ革命軍の訓練と組織がなく素質も不充分である。

此外湖西にある袁祖銘の所部軍隊五混成旅も湖北に向ひ南下中である

第十一軍　長　方本仁

　第一師（不　明）

從前より江西に駐屯せる第一師（唐福山）第二帶（蔣鎭臣）の所部を收容改編したものである。

第十三軍　長　樊鍾秀

　三旅（兵力約五千餘）河南省西南部に在る。

元河南省の土匪軍で十三年江西から廣東に入り廣東政府に屬したが其後又廣東より河南に歸來したものである。

第十四軍　長　賴世璜

　第一師　吳中英
　第二師　謝　傑　｝江西福建の境界附近に駐屯す
　第三師　熊式輝

李烈鈞の舊部であつて大部は江西人より成つて居る、一時陳烱明に附屬した事もある。

第十五軍　長　陳家謨

　第一師　夏斗寅
　第二師　（不明）　｝武漢附近に駐屯す。

吳佩孚軍の敗退に際し南軍に附屬せる湖北軍で素質不良である。

獨立第一師　長　王柏齡　江西に在り。

獨立第二師　長　賀耀祖　江西に在り。

以上の二獨立師中第一師は元第一軍の一部で軍官學校出身者より成り革命軍の精華を以て聞えたものであるが南昌附近の戰鬪で大損害を被むつた。又第二師は湖南軍で素質良好、九江占領には善戰したのである、共に蔣介石の直轄部隊として信頼されて居る。

以上の外にも最近新附の部隊が國民革命軍の一部として多數任命發表を見たが、何れも名義の上で國民革命軍たるの訓練を經て居らず其組織も改良されて居らない隨て革命軍の實力中に加算するには足らぬのである。

附　甘肅陝西に在る馮玉祥氏所部の舊西北國民軍最新の改編は左の通りである。

西北國民軍

總司令　馮玉祥

總指揮　于右任　參謀長　劉驥（目下不在）

第一軍　長　張之江　第二軍　鹿鍾麟

第三軍　宋哲元　第四軍　劉郁芬

第五軍　蔣鴻遇　第六軍　李雲龍

第七軍　弓富魁　第八軍　劉賓珊

第九軍　方振武　第十軍　衞定一

森有禮　小山內薰著

本書は、我が新劇運動の先覺者として、劇作に演劇に、不斷の努力と奮鬪を續けられつゝ著者の近業の中より、會心の作五篇を蒐められたものである。氏の作は、巧緻に陷らず、小手先を使ひず。正面より堂々と立向ふ所に、その長所を稱へらる。又何れの作を取上ぐるも、氏が劇に關する含蓄の豐富よりして幾多の暗示を與へる。劇に志す人士の缺くべからざる良書として薦む。（定價壹圓參拾錢送料十七錢）

（內容）——1.森有禮（五幕）2.吉利支丹信長（一幕）3.ある敵討（四幕）4.奈落（一幕）5.財（一幕）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那の時局と民衆運動

池田桃川

一

支那に於ける近年の民衆運動は、大正四年の日支交渉事件所謂二十一ヶ條問題に始まる。當時學生を中心とする民衆は、日本の侵略主義なるものに對して、猛烈なる排日の氣勢を煽り、二十一ヶ條の高獸的交渉と、帝國主義の危險とを大袈裟に喧傳して、輿論の喚起に努めた。その結果、支那は各階級を通じて、著るしく排日の傾向を帶ぶるに至り、路傍三尺の童子さへ、日本人を見れば、之を仇敵視して投石し、日本婦女子は、言外の暴行を被りしこと一再ならず、海外發展の第一線に立つわが國民は、その生命財産を脅やかさるゝこと一通りでなかつた。殊に彼等民衆が、支那內地各所に於て行つた經濟絶交即日貨排斥運動は、それは實際的にして永續性を帶び、執拗にして强硬なりし爲め、わが對支貿易者航海業者其他一般商工業者の受けた被害のいかに多大なりしかは、當時の直接關係者でなくとも、尙記憶に新たなる所であらう。支那の國民性を知らず、時勢を洞察するの明なかりし當時のわが當局は、對支貿易の半減といふ事實に由つて、對支外交上、偉大なる教訓を得た。而してそれは何といふ高價な教訓であつたらう。がそれは、又わが不賢明なる當局としては、それだけの高價なる犠牲を拂ふに非ざれば悟り得ぬ教訓でもあつたのだ。空文に近く外交に勝つた報酬として受け取つたこの皮肉な報酬も、鈍重豚の如きわが當局には、その當座は蠅のとまつたほどにも感ぜなかつたであらう。かくして、多年のあらゆる壓迫屈辱とから遁れて、新らしき支那を建設すべく覺醒した民衆の對外運動は、玆に刺戟せられて勃發し、日本を第一の試金石として猛然と擡頭した。而もこの民衆運動は、その第一歩に於て殆んど完全に近い目的を達し、民衆運動の效果に就き、確乎たる自信を得るに至つた。支那の內治外交を或る程度に支配せんとする民衆運動は、かくして胚胎した。

民衆運動の中心をなす物は勿論學生であるが、この學生は、安福派倒壞所謂五四運動當時に於て全國學生聯合會を組織し、上海に本部を置き、北京、漢口、長沙、南京、天津その他主要都市に支部を設け、殆んど全國の學生を網羅する一大體系を作り、スハと言へば直ちに相呼應して起つべき組織と準備を整へた。支那の社會に生れたこの一大

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勢力は、その後彼等一流の執拗なる直接行動と、巧妙なる宣傳と、而して某々國の後援とに由つて爾來十餘年に亘つて排日運動を持續した。多寡を括つてゐたわが朝野も、經濟絶交の痛手には全く困惑し、今更の如く支那民族の反發性彈力性に驚ろいたが、その時は既に遲く、彼等の爲すまゝに任す外はなかつた。かくて民衆運動は、その膨湃たる氣勢を以て、國內的には軍閥打破、基督反對、教育革命等を叫び、對外的には、國權回收、不平等條約の廢止を唱へて、宣傳に、實行に、夫々大なり小なりの効果を收め、その力を遺憾なく內外に悟らしむるに至つた。丸腰の彼等が、國家の危急を救ふといふ名義を眞向に振りかざし、堂々隊を組んで市中を示威運動し、日貨を售る商店を叩き壞し、日本船に働らく支那水火夫を引き下し、日本人に薪炭を商ふ支那商人を拘引する等、横暴至らざるなき行爲の數々を敢てしても、警官は之を咎めず、地方行政長官は知らぬ顏をして之を默許した。いや默許せねばならなかつた。若し之を防害せんとするものあるに於ては、彼等民衆の報復は、「國賊」とか「賣國奴」としてその官位より逐ひ歸さずんば已まざる迄忌憚なく加へらるゝので、見て見ぬ振りをしてゐるより外仕方がなかつた。茲に於て、民衆運動は天下御免となり、いやが上にその威力を發揮すべき機運に際會した。この現象は支那のため果して喜ぶべきことであらうか。それとも悲しむべきことであらうか。

二

元來支那は、國家と社會と分離して、別々に存在し得る不思議な國である。それは過去の歴史が證明してゐる。二千年以前の封建時代に在りては、社會は政治に支配せられ、政治は社會を離れてなかつたけれども、その後專制政治が敷かれてからは、國家の政治といふものと、社會は、何等の交渉なしに、自然的に分離して存在するに至つた。それといふのは、支那といふ廣大なる土地と多數の人民とは、專制政治を行ふには頗る不便に出來てゐるからである。換言すれば、中央主權の下に、この廣い土地と多くの民とを治めんとするのは、事實上不可能のことである。政治とは唯單に首都の安寧を保ち、東夷南蠻の邊境に備ふるのみであつて、進んで民の福利を計るといふ如きは、中々困難である。それが兎も角統一されて、李氏や朱氏の天下として纒まつてゐたのは、地方自治のお陰である。中央の政治は遠く地方には及び難い。故に中央に惡政が行はれても、地方ではさまで迷惑を被らない代りに、善政も以て生命財産を托すべき絶對のものではない。地方ではその自治が警察であり、實際政治である。又再々起る匪禍天災に對しては、一々中央政府に訴へてその救援を待つては居らない。自治は自然の道であり、自衞は當然の現象である。このやうにして、專制政治の結果は、中央と地方に政治的に相離れ、社會は國家と離れても存在し得るに至つた故に支那は國家としての影が薄くなつても、社會及民族は、國家に比例して衰ふるものではなく、全然影響を被ることになしにでも、存するものである。支那は國家は滅んでも、社會と民族とは存すといふのは、之を謂ふのである。かくて支那の社會とは、二千年間の專制政治の反映として、社會的に著るしく發達し、すべてを同化包容する力を得た。支那の社會の存續力生活力は、人間が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

形作つた集團のうちでも最も偉大なるものゝ一つである。

革命以來、支那は政體を變じて共和となつたが、新らしき支那が果して共和政治に由つて治まるべきものであるか否か、或は支那は尙專制政治下に在るべきものかどうか、それは自ら別問題として、國家として極度に衰微した支那が、嚴然として存するのは、その社會の偉大なる彈力生活力の爲めである。事實上支那を支ふる親柱は社會であり民衆である。

あらゆる壓迫を排して自立せんとする支那、あらゆる舊套を脫して更生せんとする支那、その先鋒が民衆であることは、滅びざる偉大なる社會の芽ぐむものとして、支那社會の過去の發達より見て、敢て不思議はない。

三

最近支那政局の一大轉換期と目せられつゝある革命軍の北方進出は、又列國の對支方針に一大センセーションを起し、その動搖に多大の注意が拂はれつゝあるは玆に言ふを俟たない。革命軍今次の成功は、廣東に於けるかねての軍事教育の整備、軍隊組織の整頓、主義の下に戰はんとする意氣と熱、而して間接には湖南唐智生の協同、連坐法の實施而して民衆の賛成應援であることを忘れてはならない。

而し乍ら部分的に見れば、國民政府革命軍の內容も種々の黨派あり、必ずしも純一の主義に統一され居らず、軍規肅正といふには餘りに暴慢なる行動もないではない。即ち黨派には共產黨あり、反共產黨あり、三民主義あり更に夫等の勢力に由つて何物かを得んとする機會主義者あり、革命軍の威勢に理由なく吸ひ寄せられたる浮浪分子あり、或はそれにより衣食せんとする者等あつて、軍卒の總てが必ずしも一つの主義の下に身命を賭して大同團結したものゝみとは言へない。軍規の點から言つても、頗る亂暴な行爲もあつた。即ち九江漢口間を往來する彼等は、何れの國の船たるを問はず無賃にて乘船し、滿員の際は先客を下船せしめて自分等が乘り空室には平氣で侵入し、船員が苦情を言ふと、ピストルを擬して脅やかしたりなぞする。英國汽船などは、一ボーイが革命軍兵から言ひがかりをつけられ、百數十弗を捲きあげられた例もある。又出征軍兵が家郷友人に出した手紙の中には、經過したる地方都邑に於て、竊かに掠奪暴行したる形跡を述べたるあり、革命も共產もないと歎息してゐる等より見れば、從來の不規律な傭兵の如き慘虐な行爲はないにしても、軍規嚴肅を以て純なる誇りとすることは出來ない。江西で不換紙幣を用ひ、九江で大掠奪をやる如きは、從來の傭兵軍と何等の相違はない。

以上の如き黨派の色別及軍隊一部の內情は、勿論今日の大勢を動かすに足る何等の原因ともならないが、一朝悲境に陷つた際破綻を生じ、忽ち混亂を生ずべきを知つてをかねばならない。

革命軍の戰鬪を强からしめた連坐法といふのは、一種の背水の陣である。軍長、師長、團長、營長、連長、排長、班長等が、その率ゐる部下と共に退却した場合は、その各長を殺し、又軍長を見殺しにした場合は師長を殺し、師長を一人殘して陣歿せしめた場合は團長を殺し、團長の時は營長、營長の時は連長、連長の時は排長、排長の時は班長、班長を陣頭に殘し、全班退いて戰死せしめた時は全班の兵卒を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

死罪に處するといふ怖ろしい掟である。之に由れば、革命軍は、總司令の命令を除きては、如何なる場合も絶對退却を許さない。若し退却する時は直ちに殺さるゝので、どうせ殺さるゝものであるならば、退いて死すより、進んで戰死した方が、死花が咲くといふもので、死を期して突撃する。人は捨身になれば強い。すべて怖るゝものがない。アワよくば敵を突き破つて生きてゐたいと、捨鉢的な奮戰が奇功を奏し、敗を勝とすることができる。而し之も濫用すれば、却つて部下の反感を買ひ、多數を恃んで、逆襲しないとも限らない。そこは蔣介石も考へてゐたと見え、對陣中あまり之を應用したことを聞かぬ。南昌に於ては、この大事な最後の一戰なるが故に、退却する各指揮官を銃殺したと傳へられてゐる。嘘ではあるまい。退却の機を逸し、全滅した部隊もあるやうに報ぜられてゐる。かくして內亂の爲めに死に行く者は誠に悲しむべき犧牲者である。

民衆の人氣に投じたことは、革命軍成功の間接原因である。流石目先の利く蔣介石は、民衆の向背を氣にし、巧妙なる喧傳を以て、民衆の言はんと欲する所を高く標榜して、その意に迎合せんとした。曰く不平等條約廢止、曰く租界回收、曰く帝國主義打破等々と、何一つとして民衆の喜びそうな事象たらざるはない。民衆は双手を擧げて革命軍の勝利を祝ひ、多くの好意と、出來るだけの利便を與へ、下級勞働者の如きは、三民主義は三倍主義即ち賃金三倍と言ひ聞かされ、勇躍してその驅使に甘んじた。かうして、きう然たる同情を得た革命軍は行軍、食糧、運搬、軍用金等あらゆる點に於て非常の利便を得、天下の人氣を博して、尙北進の計畫にをさ〳〵怠りない。數十年來、支那國民が翹望して已まず、筆に口に、聲盡くるまで絶叫し、運動した租界回收が、苦もなく國民政府の手に成つたことは、民衆をしていかに狂喜せしめたか。この國民政府の一目的と、民衆の希望とが、偶然的に一致し、而も成效を遂げたことは、もはや、國民政府を正式に國民的に認められたも同樣である。支那を取らんとする者は、民衆を手なづけることを忘れてはならない。が、それと共に、民衆を、只支那の天下を取るために利用したといふ事實が現はれる時、民衆は直ちに仇敵となるを覺悟せねばならない。嘗て某々國は、排日運動の影武者となつて頻りに策動し、以て、民衆運動の效果あらしめたが、後年その民衆運動の利き目は、彼の身の上にふり掛つて猛烈なる排斥を喰つたではないか。今日民衆を利用せんとする國民政府が、後日民衆の爲め排斥せらるゝが如き政策行爲なくんば仕合はせと言はねばならない。

四

革命軍の今後を論ずる前に、玆に國民政府の內情を說く必要がある。

廣東政府の組織せられたのは、民國六年であつて、その後絶え間なく起つた政變に政府にも消長あり、幾度か計畫したる南北和議も北伐も悉く失敗に歸し、廣東には內訌絶えず、孫文氏の革命理想の實現もかくていつ成功すべしとも覺束なく見られた。この革命黨一派を劃時代的に改造して、今日の如き活動の基礎をなしたるものは、民國十三年に組織せられた中國々民黨である。更生の支那は、まづ玆に發すると見てよい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

中國國民黨の大綱は言ふ迄もなく例の三民主義と五權憲法とである。而してこの大綱は孫文氏が過去四十年間の革命運動中に體得したる支那爲政上の一意見であつて、その是非は暫らく措き、今日支那人の間には、更生の政綱として一般に歡び迎へられ、三民主義の一語は、黎明の光りを捧ぐる神人の聲の如くにも聞かれつゝある。序に同主義の內容を掲げてみよう。

三民主義

（甲）民族主義　中國現在の民族を以て大中華民族を構成し民族的國家を實現す

（乙）民權主義　直接民權の實現と男女平等の全民政治の完成を謀り人民は左の各權を有するものとす

選擧權、創制權、複決權、罷免權

（丙）民生主義　勞資階級の不平等を防止し社會經濟の調節を求め全民の資力を以て全民の富源を開發すその實施大要左の如し

一、實業の國營　國內大規模の實業は全民に屬し政府之を經營管理す

二、地權の平均　國家に於て土地法土地使用法及び地價税法を規定し以て地權の平均を謀る

三、貨幣の改革　貨幣制度を革新し以て國內經濟の進步を謀る

三民主義の綱領は右の通りであるが、これは孫文氏が興中會を起して以來唱ふるところであつて、民國十二年に始めて發案したものでないことは言ふまでもない。只その解釋が孫文氏の思想と共に時代的に變り、新らしい解釋とその實行方法とを附して、之を政綱として發表したものである。而して右の三主義のうち問題となつたのは民生主義であつて、孫文氏はこの主義は共產主義、集產主義、社會主義を包括するものであると說いてゐるが、黨內右派はも少し極限的に之を論じてゐる、國民黨と共產黨との關係は次に述ぶるとして國民黨が民衆に由つてその目的を達せんことを期したのは、一大發見であり、而してその成功を早めた大なる原因と言はねばならない。

五

國民黨とソヴエツトロシアとの關係は、民國十一年上海に於けるヨツフエ氏と孫文氏との會見に始まる。その一年後ボロデン氏は既にソヴエツトロシアの代表として廣東に來り、孫文氏は之を顧問として直ちに國民黨を改造して共產黨員の入黨まで許すに至つたことは、以てヨツフエ孫文兩氏の間に、いかほどまでの諒解共鳴があつたかを想像するに足る實證である。ボロデン氏來つてよりロシアの勢力は次第に廣東に入り、十三年一月には國民黨政綱の一部を改正し、同年春には軍事政治學校を開いてガロン將軍以下多數のロシア敎官を迎へて高級軍人を養成し、翌年七月には國民政府を組織してボロデン氏その總指揮の任に當り、遂に今日大成の基を固めた。

而し乍ら、ボロデン氏の來廣が動機となつて、黨內左右兩派の政爭が烈しくなつたのも自然の勢として已むを得まい。十四年三月孫氏逝世するや、彼等の爭ひは著るしく露骨となり、左派は、

國民革命を遂行するには餘りに微弱なる今日の革命勢力に於ては各方面との聯絡は必要以上に必要である。共產黨員の入黨も何等防

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

げはない。革命成功の後共産黨と國民黨と分離するか否かはその時の問題である。兩者はその主義に於て毫も抵觸するところがない。

と說いて、共産黨化することを寧ろ是認し、右派は、

國民黨の左傾は國民黨の本來の主義目的と相違し黨の運命を危うからしめ引いては國家を紊し他國に賣るものである。

と極論して、暗鬪烈しくなり、不統一分裂の不穩なる形勢に在つたが、偶十四年八月共産黨の有力者廖仲愷氏の暗殺さるゝや、反共産黨派は遂に自滅する運命に立ち到つた。即ち共産黨派は之を以て反對黨のなす所とし、蔣介石は胡漢民を捕へてロシヤに送り、反共産黨派を驅逐して、廣東は忽ち共産黨の天下となつた。之に對し舊國民黨員は、十四年末北京西山に會して、國民黨より共産黨員を排除すること及びロシア顧問を解除すること等を議決したが、共産黨側では又之に對して、該會議の發起者なる謝持、鄒魯の二人を永遠に黨籍より除名すること。上海中央執行委員（西山會後の結果上海に設けたるもの）の主持者邵元冲、葉楚傖は警告を發して開かざれば除名することその他北京同志倶樂部（馮自由馬君武氏等が十三年三月北京に於て組織したるもの）及上海中央執行委員會々員も、二ケ月以内に脫離を聲明せざれば除名すと宣言し、反共産黨は事實上廣東を迫はれて處々に分立し、僅かにその名義のみを止むる狀態に陷つた。

かくして勢力を得るに至つた共産黨派は、十五年一月第二次全國代表大會を開き、ロシアに向ひ、貴國と提携して帝國主義を打破せんことを期す、願はくば永久に助力を與へて、中國革命をして成功せしめられんことを、本會は又世界革命運動を促進すべしといふ意味の電報を發した。兩者の握手は既にゆるがすべからざるものとなつて、その勢力は燎原の火の如く四方へ擴がるに至つた。

國民黨と共産黨としかく接近し得たのは、一にその根本目的が似てゐるからである。即ち中國共産黨は、民主派と連絡し、軍閥を倒して民主政治を建設し、私有財産制を廢して共産主義の社會を實現するを以て主義としてきた。その實際運動として、關稅自主權の回復、軍閥打破、普選實行、結社集會言論出版の自由、幼年及女工保護徵稅率の制定、義務教育の實施、法律上男女同權を認む者を目標として進みつゝある。而して之等の主張目標は、國民黨が他年主唱し來つた根本目的と大同小異であつて、精神的に大いに近寄つてゐる。

以上を綜合して之を考ふれば、孫文氏ヨッフエ氏との握手から國民黨とロシアとの提携成り、次で國民黨と共産黨の協同となり、國民黨は共産黨といふ大民衆の力に由つて革命運動を成功し、共産黨は又國民黨の軍力に於て、堂々その主義主張を遂行する機運を得たのである。然し乍ら國民黨の現勢を以て見れば、同黨が全く左傾したものと言ふよりも、寧ろ、共産黨が國民黨化したといふ位の程度の色彩ではあるまいか。將來は知らず現在に於ては、國民黨を悉く赤化したりと言ふは當らず、共産黨を加入し、ロシアと提携しながらも、國民黨本來の革命目的は依然として存す。今後いかように進むかは結論に述べるとして、國民黨の左傾的色彩は、さほど憂ふべきでないと思ふ。寧ろ支那はこの機運に於て更生すべきであらうことを、竊かに喜ぶものである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六

玆に國民黨の組織と、軍隊及中央軍事政治學校に就て一言述べる必要がある。

國民黨の現行黨則は、十三年一月ボロデン氏の意見に基き改組したものを、更に十五年一月第二次全國代表大會に於て修正を施したのが即ちそれである。その組織に由ると、廣東に中央黨部を置いて總本部とし、各省には省黨部（特別行政區及び蒙古、西藏、青海には特別地方黨部）廣東、上海、北京等の重要都市には特別市黨部を置く。之等は何れも中央黨部に直屬し、又省黨部特別地方黨部の下には縣黨部及び市黨、政黨部、市黨部、特別市黨部の下に各區黨部その下に區分部を設け、その連絡系統は行政區劃に從つて截然と組織されてゐる。

權力機關の最高機關は、全國代表大會であつて、毎年一回之を開き、之に由つて、中央執行委員、中央監察委員を選び、又政綱政策等を修正立案する。中央執行委員會は、平生の最高行政機關で、全國に亙る各黨部との連絡から庶政一切を掌つてゐる。現在委員會主席一名、委員三十六名、候補委員二十四名で、中央執行委員會には、常務委員九名執務し、特別委員會としては、政治委員會、教育委員會等あり、夫々その方面の研究に從事しつゝある。目下中央執行委員會の主席は蔣介石で、常務委員は汪精衛、譚延闓、譚平山、胡漢民、陳公博、甘乃光、楊匏安、蔣介石、林祖涵の九名である。中央監察委員會は、中央執行委員の庶務會計の如き職權を持ち、部員の勤惰行政の實狀をも監督する。又中央執行委員會は、中央機關を設け、左の如く各部に分つて夫々事務を分擔してゐる。

組織部（部長蔣介石）宣傳部（部長顧孟餘）工人部（部長吳稚暉）
農民部（部長甘乃光）商民部（部長宋子文）青年部（部長丁惟汾）
婦女部（部長何香凝）海外部（部長彭澤民）

右の組織に倣つて、省黨部、縣黨部、區黨部、區分部にも夫々代表大會、執行委員會、監察委員會を設け、黨部内には、組織宣傳、農工、調査、青年、婦女の各部を置いて執務してゐる。若しそれ革命軍に黨代表なる一役を置き、軍隊の黨化教育に盡力しつゝあるかに至つては、いかに彼等の組織の至れり盡せるかを知るを得るであらう。

主義の爲めに戰ふ革命軍の幹部をなすもの、多くは、中央軍事政治學校の卒業生である。同校は前清時代の軍官學校で、その後廢校になつてゐたのを、孫文氏よりロシアに派遣されたる蔣介石氏が、モスコーより歸來、開かれたもので、ロシアは二十萬圓の設立費と、毎年十萬圓宛の援助をなすとの風說が傳へられてゐる。ロシアよりガロン將軍以下數多の教官が送られ、日々訓練に從事してゐる。

この學校の特色は、その名の示す如く、軍事と政治とを授くるに在り。政治とは所謂革命思想であつて、國民黨の政綱に外ならない。入學資格者は、中學卒業以上であつて、比較的嚴しい學力試驗身體檢査をして許可しその課程は一年である。現在卒業生約四千、在校生千五百位で卒業生はその成績を參考して、官級を定め、之を各軍に配附する。この卒業生は、實戰に於ても頗る強く、反共產黨軍を廣東より驅逐し、客軍たる雲南軍を破り、忽ち廣東を乘り取りたるは、實に之等卒業生軍隊の働きであつて、今日では國民政府とこの軍事政治學校と

の關係は、非常に密接重大なものとなつた。或る意味に於て、新支那を生み出すところの一大動力と言つてよい。試みにその教育要綱を示すと、三民主義の革命精神養成、革命軍人たる高尚なる志操の訓薫、革命軍人たる健全なる身體の鍛練、革命軍人たる智能の養成に在り。その政治學の教授要旨を見ると、學校の目的及卒業生軍官の思想、國民政府の周到にして根底深い用意が想察され、頗る興味が深い。政治教授心得に曰く、

(一) 中國革命史は八十年來の革命運動の發生經過結果を説明すべし各種革命運動に於て得たる教訓或は失敗はその原因を説明するを要す、かくして始めて現在國民革命は我等唯一の出路たることを指摘するを得而して國民革命を速やかに實現せしめんと欲せば革命の策略に注意を要することを明らかになるを得べし

(二) 中國政黨史は中國唯一の敵人たる帝國主義を説明すべし何となれば各個政黨は共に帝國主義に反抗して産出したるものなればなり過去に於て各政黨の帝國主義に反抗したる缺點及現時國民黨が何を以て中國々民革命唯一の政黨たるかを説明すべし

(三) 三民主義に就ては須く三民主義の産生したる所以及其精義を説明し更に三民主義實現の爲めに採るべき方法及策略方針を説明すべし

(四) 帝國主義侵略史は帝國主義が中國を侵略せんとする各種方式及其侵略の目的乃至は何が故に中國を侵略せんとするか並に中國と帝國主義との關係を説明すべし

(五) 世界革命史は社會の形式的發展及過去の歴史を説明すべし之れ皆階級爭鬪史にして之を證するため佛國の大革命と露國の十月革命乃至は殖民地半殖民地等の各種帝國主義に反抗したる革命運動を系統的に説明すべし

(六) 政治經濟學は社會の構造を説明し政治經濟の關係を證明し帝國主義が政治經濟を用ひて殖民を壓制するの事實を説明すべし

以上の教授心得を見れば當局がいかに猛烈に革命思想を鼓吹せんとしてゐるかゞ判ると共に、その軍隊の强き所以を知るであらう。主義のために戰ふ美裝せる同校學生軍の、若くして花やかなる隊列は、支那青年子女の讃好の的であり、又新支那を生まんとする象徴であらう。

七

革命軍の北伐は、從來孫文氏一派が屢計劃して出來ざりし所であつたが、それが近々半歳の間に於て、武漢を中心とする長江一帶に占據し、その爲め北京政府は南北和議の意動き、又英國の如き租界を還附すべく決意したと傳へられ、その他列國も國民政府の勢力に對し、對支政策の變更を餘儀なくせられつゝある模樣である。かくの如く對内的にも對外的にも、甞てなき成功を收めつゝある理由は略前述の通りであるが、其現勢に據つて、吾々は當然次の三事に就て考へねばならない。其一は國民政府及ロシアと支那との關係、其二は支那自身の前途其三は列國及日本の對支方針の變更である。

先づ其一から述べよう。國民政府今回の成功の最大原因は、ロシアとの提携である。ボロデン氏の來廣に由つて國民黨の組織を改め、軍

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事政治學校を開いて革命子弟を訓養し、中國共産黨員の加入を許して民衆の力を得たからである。ロシアと國民政府との關係は、今日誰も疑ふ所なきまで明白の事實であるが、その關係からして當然起るべき問題は、國民政府が支那を取るか或は北京政府と和議するかして、列國から正式に認められ、玆に一段落の成功を遂げた後に於て、ロシアとの關係がどうなるかと言ふに在る。然し乍ら支那は恐らく、いかなる場合に於ても、ロシアの如く左傾し、革命し、共産化することはないと思ふ。第一主義に於て、三民主義と共産主義とは、全然同じものではない。革命が成功したからと言つて、ロシアの手が直ちに支那に伸び、その主義を實施することは難かしい。孫文氏も「支那の革命の目的はロシアと同樣であるから、その親類的關係革命的關係に於て一家と言つてもよい位である、而し乍ら國家の制度に至つては、兩者の間には自ら夫々の面目あり、國情の異なる如くその制度も異なり、而もロシアはそれを諒解するが故に支那の國體にまでロシアと同化しようとする考はない、支那革命の目的を達すれば足れりとするのである」と述べて、飽くまでロシアとの提携の危險ならざるを說き、「支那の制度は三民主義主權憲法以外にない」と高唱してゐる。(孫文氏の思想に就て說くことは、三民主義と共産主義との相異を說明することになるので、玆に述べる必要もあるが、紙數が許さないのでやめる。)それともう一つは、ロシアが支那をロシア主義化せんとすれば、今度は支那の民衆が承知しない。今でさへ一部の民衆間に於ては、蔣介石を賣國奴なりと稱し、露國共産黨の魔手支那を滅ぼさんとするなど標題して、對露警戒の喧傳に努めてゐる者もある位であるから、愈支那赤化の傾向が見えた曉は、此際事々に愛國心の旺盛な民衆は勿論、國民政府側でもロシア排斥を叫んで起つに至るであらう。その際革命に成功した恩義を顧みてなどゐない。そこが支那國民性である。だからロシアの援助は支那の赤化の意味でなら、さまで憂ふるに足らず、支那革命は終に三民主義で終局するであらう。支那國民性を知る者のみ、這般の消息を諒知する。

革命の成功は、支那自身に劃時代的の變動を來すことは必然的の結果であるが、これが爲めに、支那が將來どうなるかは見當がつかない。只こういふことは言ひ得る。即ち一切の外勢を排し、自主獨立せんとし、民衆を基礎とし、時勢に適應した新らしき支那を形成せんとする機運に進みつゝありと。支那北方の勢力は南方に來つて滅び、南方の勢力は終に江を越えず、南北支那は、歷史的に傳統的に、分立する命運を持つ如く見える。故に之を統一することは、至難の事業だ。支那の平和は南北分立か、然らずんば南北妥協であらう。革命の成功とは、南北妥協にまで、南方の勢力を大ならしめたことであると言つてもよい。果して妥協するか、それとも決戰するかそれは將來に待つ外はない。何れにしても、確乎たる支那統一事業は、尙數十年後に之を待たねばなるまい。

列國の對支方針が變つたことは、國民政府の一偉功と言はねばならない。支那より租界を除くことが、支那の文化的に、政治的に、迷惑を被るものは寧ろ支那だとは思ふが、現勢よりすれば、早晩その問題は實現せずんば止むまい。列國が支那に對し著るしく讓歩的方針に出でつゝあることは、支那の自主獨立を援けんとすると共に又、これま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で植えつけた經濟的根據を保護せんとする一種の新政策である。が兎も角、列國が積弱の支那に對し、過去の行掛りを捨て、可及的讓歩の意向あるは事實で、これは支那をして南北妥協に向はしむる有力なる一機會である。支那としては、この機會を逸するほどにまでこの際内亂を延長してはならない。日本が特殊の關係上、その特殊の關係を保持すべき獨自の對支方針に出づべきは論を俟たない。

支那はどう動くか。それは一に民衆の力である。が民衆も今はそれを知らない。民衆の意志は、他動的に、時勢的に、極めてデリケートに動く。支那の將來は、その民族性の如く神秘ではあるが、今は黎明が來た。その光りの輝やくと消ゆるとは、民衆の國民的自覺如何に在る。

（完）



雪の日の記憶（俳句）

萩原井泉水

雪ふかい驛の札賣場の窓明けた
雪山晴れて雪の散りくるは溫泉の町
橋から見て雪の障子の牡蠣船へはいる
通夜の雪に明けた門をまづ掃く
雪の夜吹きやめた尺八磨いてゐる
雪折れの音のあと音もなく更ける
ヘッドライトの雪となつた二人です
雪の夜の自分の心音を聽かれる
雪はれのやはらいだ今朝の狂女の顔
雪の夜灰に文字書いて待つてゐたか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

アンチ福本イズム

『辯證法』の美衣を纏へる神祕主義の最後の避難所

北浦千太郎

史的唯物主義の新建設者

『……唯物史觀は其の創設者により、完成さるべくして、しかも完成されずに終つたのである』と福本氏は其の著『唯物史觀と中間派史觀』の一九頁で述べ、更に其の二一頁で

『私は以上で、唯物史觀を眞實に理解することは、同時に唯物史觀を建設（！）展開（！）すること――マルクスによつて基礎づけられたる方法に從ひて――でなければならぬ……』と力說してをられる。そして氏獨特の交互作用と下向上向と四つの唯物辯證法的方法が建設展開され、マルクスによつて完成さるべくして、完成されなかつた唯物史觀が、日本に於て福本氏によりて完成されたのである。

だが斯かる偉大なる人物は日本だけではなかつた。

『バクダノフはその論文「社會及び自然に於ける生命の發達」に於て「偉大なる社會學者」即ちマルクスの „Zur Kritik" の序文の史的唯物主義の根據を分析した有名な個所を引用してゐる。マルクスの言葉を拉致し來つてバクダノフは『史的モニズムの古い公式は、未だに其の根柢に於て正しいには違ひないが、既に我々を充分に滿足させはしない』故に著者（バクダノフ）は、其の理論の根據から出發して、理論を訂正し或ひは展開させやうと欲してゐる。』（レーニン全集第十卷二七二頁）

即ちバクダノフも福本氏と同じくマルクス主義を建設展開させやうとしたのである。そしてエンゲルスを攻擊してゐることも亦東西其軌を一にしてゐる。即ちバクダノフはエンゲルスの著『アンチ・デューリング』の中に絕對的眞理と相對的眞理を二つとも認めてゐることを指して彼を折衷主等者と罵り、福本氏はエンゲルスが「これら双方の偉大な發見――唯物史觀並に、餘剩價値の發見によつての資本家的生產の秘密の闡明――それらを我々はマルクスに負ふ。この双方の發見と共に社會主義は一の科學となつた」と同じ著書で結んでゐることを指して「この點に關しては、エンゲルスは却つて自ら既に、後の俗學的マルキシストの陷ゐるべき道を準備したと譏つてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福本氏の認識論

だがバクダノフ、福本氏によりて建設展開されたる『史的唯物主義』の根底をなす認識論は、一體唯物主義であらうか、將亦唯心論であらうか。

バクダノフは曰ふ。

『……人間は自己の生存鬪爭のために、自覺の助けを藉りることなしには團結することが出來ない。自覺なしには交際はない。だから社會生活はその全ての表示に於て自覺的心理的である。……社會性は自覺性と不分割である。社會的生存と社會的自覺は的確な意味に於いて同一である』(レーニン全集第十卷二七二頁)

福本氏は曰ふ。

『第一、事物を媒介性に於て觀察し得べく、またしないではゐられない。第二、事物を生成に於て第三、全體性に於て觀察し得べく、またしないではゐられない。故にこの階級にとつては、其の自己認識は同時に全社會の客觀的認識たりうるし、またたらねばならない。第四に、かゝる認識に對して、この階級は、認識の主體たると同時に客體たるべく、またたらずにはゐられない』即ち福本氏にありては、認識の主體は同時に客體であるとなつてゐる。換言すれば「我」は同時に「非我」となつてゐる。更に進んで氏はいふ。

『かくして「社會の構成=並に變革の過程」の全體的考察―かくして私達のもちうる「一つの單純化した見とほしのつく」社會形象―「一定に限られた」社會象―私は之を自然科學に於ける所謂「世界形象の統一」に對して「社會形象の統一」と呼びたいと思ひます』([illegible])

即ち「我」と「非我」は「一つの單純化した見通しのつく」社會形象となつてゐる。

「我」でもなく「非我」でもなく、一つの單純化した見通しのつく社會形象とは、事物と自覺が不分離に結びついてゐることであり、「我」と物體との不分離の統一である。

『世界は自分の感覺である。「非我」は「我」によつて作られるのではない。事物と自覺とは不分離に結合してゐる。「我」と物體の不分離な統一は經驗批判主義の原則的統一である。――之ら全ては廢物に少し化粧し又は化粧レッテルを帖つた同じ定義である』(レーニン全集第十卷五一頁)

即ち福本氏の認識はバクダノフと同じ經驗批判主義である。だからバクダノフの

『社會的生存と社會的自覺は的確な意味に於て同一である』といふ定義と

『認識の主體たると同時に客體たり得る』との福本氏の定義とは同一のものとなる。

そして之等に對する答へは

『社會的生存と社會的自覺は同一でない――全ての生存が全ての自覺と同一でないやうに。人間が交際するに、自覺物としてそれをなすことは、些かも社會的自覺は社會的生存と同一であつたといふことにはならない。少しでも複雑な全ての社會形態――殊に資本主義的社會形態――に於ては人々は交際を開始するや、この點に如何なる社會的

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

關係が置かれてあるか、それは如何なる法則で發達するか等々を自覺しない。……假へば農民が麥を賣ることによつて、世界的市場に於て世界中の麥生産者と「交際」してゐるのであるが、彼はそれを知らないし、交換は如何なる社會的關係に置かれてあるかをも知らない。社會的自覺は社會的生存を反映する――マルクスの學問はこれから成つてゐる。反映は正しく、接近してをり、反映されるものゝ寫本であり得る。だが之を同一と言ふことは愚である。自覺は全て生存を反映する――之が全ての唯物主義の一般的定義である。之を史的唯物主義の定義「社會的自覺は社會的生存を反映する」と直接に不分離に結び付けて見ないことは不可能である』(レーニン全集第十卷二七三頁)

若し社會的自覺は社會的生存を反映するものとしたならば、福本氏の如く「無産者階級の認識は、主體たると同時に客體たり得る」といふ定義は、明かに史的唯物主義を改變したものである。

『些細な形で「マルクスの根本精神に於て」マルクスを訂正し、展開させやうとしたバクダノフの試みは――この唯物主義的根底を明白に唯心論的精神で改變したものである』(同上)

即ちバクダノフと同じく、マルクスを建設展開せんとした福本氏の試みは、明白に唯心論的精神で唯物主義の根底を改變してゐるのである。

『蓋し社會的生存と社會的自覺は同一であるといふ此の理論は徹頭徹尾馬鹿げたものであり、無條件に反動的理論である。』(同上二七四頁)

斯くして我々は福本氏の認識論が全然反動的な唯心論であることを見極めたから、氏の唯物辯證法的方法の檢討に移らう。

辯證法的方法

福本氏の唯物辯證法的方法は

第一――事物を媒介性に於て觀察する

第二――事物を生成に於て

第三――全體性に於て

の三つである。そして常に氏によつて用ひらるゝ方法は第一と第三である。

ブハーリンは其の著「史的唯物主義の理論」に於て

『全ての實在を觀察する辯證法的方法、辯證法的手段は、全ての現象を、第一にその不分離の連絡に於て、第二にその運動に於て見ることを要求する』と述べてゐる。

此の點に就てマルクスは斯う書いてゐる。

『自分の辯證法的方法はその根本に於てヘーゲルのそれと相違してゐる許りでなく、更にそれは全然兩極端である。ヘーゲルによつてアイデアの名稱の下に獨立の主體とさへ變化された思考過程は、ヘーゲルにとつては單に其の外面的表示である所の具體性の創造者である。夫と反對に自分にとつては、觀念は物質を人間的頭腦で飜譯し、再勢作したものに外ならない』。『ヘーゲルでは辯證法は頭で突立つてゐる。神秘的おほひの下にある合理的種子を見出す爲に、辯證法を地に足つけさせることが必要である』(マルクス「資本」第一卷序文)

マルクスにとつて辯證法は、鬪爭に於ての發達は、最つ先に「生存」の法則であり、物質活動の法則であり、自然及び社會に於ける運動の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法則であつた。思考過程はその表現である。故に思考の辯證法的方法辯證法的手段は、それが自然の辯證法を把握し得ることによつて是非必要なのである。』(ブハーリン「史的唯物主義の理論」七六頁)

即ち此の定義がマルクス主義である。然るに福本氏の「唯物辯證法的方法」はその認識論に於て反動的唯心論であるが爲に、ヘーゲルの辯證法が地に足を付け得ないのである。換言すれば思考の辯證法的方法は、自然の辯證法の反映であることを福本氏は、全然自覺することが出來ない。故に氏にありては、

『その自己認識は同時に全社會の客觀的認識たり得』(即ち我々の例に採られた農民が麥を賣るや、之によつて世界市場に於て世界中の麥生產者と「交際」してゐることを世界中の麥生產者と共に認識してをり)『かゝる認識に對して、この階級は、認識の主體たると同時に客體たり得』(即ち社會的自覺は社會的生存と同一である)

といふ風に辯證法は、氏の經驗批判主義の爲に依然として唯心論の域を脫してゐない。故に氏の無產者運動の批判に於て、往々夫が唯心論的であり、「水中に入れた鉛筆」を實在として認識されるのは、全て此の唯心論的辯證法から來るのである。

之と如何に鬪爭すべきかに就て我々はブハーリンの「史的唯物主義の理論」から學ぶことが出來る。

『今日まで——そして發展しつゝある段階に於て——意識過程を物質過程から分離する試みがなされつゝある——具體性に何等該當しない所の二三の方法によつて、辯證法を特に思考構成にのみ變化させやうとする試みがなされつゝある。此の點に於て表象的なのはマックスアドラアを首領とする「オーストマルクス主義」である。此のマルクス主義の曲解——明白に反唯物主義的曲解に對して如何に戰ふことが必要であるか? それは餘りにも明白で、辯證法の物質的根據を解剖することが必要である。即ち活動する物質の形態の中にヘーゲルの辯證法的公式に該當するものを把握することである』(同書附錄)

認識論は辯證法的でなければならぬ

更に進んで我々は福本氏の科學的說明に就て論じやう。福本氏によれば

『もはや我が無產階級の「方向轉換」——「戰線の擴大」は單に機械的な「轉換」「擴大」ではあり得ない』(同氏「社會の構成＝並に變革の過程」二頁)

『かくして——斯かる手續をへまして——私達はそこに所謂媒介性における有產者社會の生活過程——其の全內的連絡、全內的發展を嚴密に跡づけたる一の統一的な社會形像——「單純化された見とほしつく」一つの社會構成＝並に變革の過程の形像——を獲得し得る』(同上三四頁)

即ち福本氏の科學的說明は常に「有機的」「內的」といふ言葉によつて表現されてゐるが、之が如何に非科學的說明であるか、解剖して見やう。

レーニンはその著「唯物主義と經驗批判主義」の八〇頁で、三つの重要な認識論的結論を舉げてゐる。その第三は

『他の全ての分野に於ける科學の如く、認識論に於ても辯證法的に論

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

究しなければならない。即ち我々の認識を出來上つた不變のものと豫想せずに、如何なる形で無知識から知識が出現し、如何なる形で不完全な不的確な智識が一層完全となり、一層的確となるかを研究しなければならない』と述べてゐるが、此の「有機的」と「機械的」の對立「內的」と「外的」の對立はそれ自身辯證法的に變化したのである。即ち現在の原子に對する認識は古い見解を放棄し、絕對に分離しそして無質の原子は存在しなくなり、エレメントの連絡、相互累依、新生質の發生等々は全ての法則に確立されたので、『機械的』と『有機的』の對立は全然無意義になつて仕舞つた。

他方ブルジョア科學及び哲學における唯心論の發達は『有機的』神秘主義となり、『生命』（即ち有機）の理解はベルグソン、ドルシ一派によつて神秘主義にされた。

此の二つの重要な因子――マルクスの死後勃發した物質に就ての認識の革命は、辯證法的に認識することを要求する。故に福本氏の如く全然物質に就ての認識の革命に無智であることは、氏をして未だに非內容に於て既にブルジョア的になつた『有機的』『內的』を使用せしめるのである。此の氏の未だに把持される反動的認識は、明白にベルグソン、ドルシ一派への降服である。此の點に於ても福本氏の科學的說明は、反動的非科學的說明と言はれる。

然らば現在に於ける唯一の科學的說明は何か？　ブハーリンはいふ。

『我々が何等かの現象または社會生活の現象を說明せんとするならば、我々は是非とも原因に就ての問題にブツ附かるのである。凡ゆる宿命的解說の試みは事實上宗教的信仰の反映であり、また何ものをも解說しないのである。斯くて社會及び自然の現象の法則は如何に、我々が前者と後者を觀察して何れが正しいとするかの根本問題に對して答辯は斯う叫ぶ『自然及び社會には現象の原因的法則が客觀的に存在する』と。

原因的法則とは何か？　夫は必然的な、絕えずそして何處でも見られる現象の聯絡である。假へば寒暖計が上騰すると、その容積が膨脹し、液體を充分に熱すると、蒸汽に變化し、紙幣を其の需要を超過して大量に發行すると紙幣が無價値となり、資本主義が存在すると常に戰爭が發生し、小企業が大企業と並立して國內に存在すると結局大企業が勝利を得、プロレタリアートが資本に攻擊を開始すると資本は凡ゆる手段で鎭壓し……、人間が一定量の毒藥を服すると毒殺される等々といふのを指して原因的法則といふのである。約言すれば凡ゆる原因的連絡は狀態（形態）に於て表現し得ると云ひ得る。即ち若し何等かの現象が現在あるとすると、夫に該當した他の現象が必ず起るといふことである。その原因を把握して何等かの現象を說明することは、そこから因つてもつて來た所の他の現象を摑むことである。即ち現象の原因的聯絡を明白にすることである。此の連絡が見極められない間は現象は說明されないのである。この連絡を把握し、發見し、實證され、此の連絡が事實永續的のものであつた時、我々は科學的說明をなし得たのである。この說明が自然及社會の現象に對する唯一の科學的な說明である』（ブハーリン「史的唯物主義の理論」社會科學の原因と目的）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全てを解説する終局的原因としての生産力の問題

意識過程と經濟過程とを交互作用で結び、下向上向で前段的批判過程と基本的批判過程とを回轉させ、その方法は「唯物辯證法的方法」で行はれた福本氏が、いみじくも、マルクスにより、完成さるべくして完成されなかつた史的唯物主義を建設展開された我が福本氏は、然らば

『史的唯物主義の理論にとつて根本的問題たる、何故生産力が全てを解説する終局的原因となるかといふ問題』

を如何に解決されたか？　此の點に關し福本氏は

『唯物辯證法論者は、この作用――關係（諸要素間の作用――筆註）をば「生産を終局的決定要素（過程）とする所の、諸要素間の交互作用」を認むるのであります。』（同氏「社會の構成＝並に變革の過程」一七四頁）

と述べられてゐるが、何故生産力が全てを解説する終局的原因であるかといふことに就ては少しも理解してゐない。我々は此の無理解が如何なる意義を持つてゐるかを再びブハーリンによつて知らう。

『史的唯物主義の理論にとつて根本的問題となるのは、何故生産力が全てを解説する終局的原因となるかといふ問題である。之に就てマルクス主義者の陣營内にも可成り根強い混亂が支配してゐる。……屢々役に立たない『要素の理論』が行はれをり、之に據ると生産力は生産的關係（經濟的要素）に置き換へられてゐる。……

之は社會學の中心問題である。之に若し唯物主義的方法論の見解から解答を與へ得ないならば、獨逸のブルジョア學者エ・ブランデンバルガが正しく公平に指摘してゐるやうに、それは「單に經濟的と精神的の作用評價に際して量的相異に就て」論じてゐることになるのである。そして夫は第一に何物をも説明し得ない所の理論となり第二に夫は何とでもなり得る所の（但しマルクス主義ではない所の）ものである。

ブランデンバルガは斯かるマルクス主義に滿腔の敬意を表してゐるが、歴史の眞のマルクス主義的理解に就て同じ學者は「夫は人々の共同生活の全運動を生産力の分野に置き換へるべく導かうとするものである。だが夫は何故後者が夫自身常に變化し、何故社會主義の方向に向かはねばならない必要があるかを少しも説明してゐない」

この學者の斯かる公式によつて、社會學の中心問題の解決に際し我々個有の方法論を最も鋭く尖銳化して與れてゐる。

この問題の答へ――僕が唯一の正しい答へと考へるのは「生産力は一定の具體的な複雜な容積としての社會と、その物體との相對性を表現してゐるからである。――そして物體と體系との相對性は結局何れの體系の運動をも決定する容積であるからである。之は活動しつゝある形態の辯證法の一般的法則の一つである。之はその内部に於て力の分子的轉換が發生し、協同と衝突の無數の連絡點が結ばれたり解けたりしてゐる限界である。生産力を『上層建築』と『下層建築』の作用で變化するものだと試みるものには試みさせて置くが好い。之等の作用の定義に微塵も根本的事實（社會と自然の相對性、それによつて社會は生存し、また、夫は社會生活過程を如何やうにでも化成さす所の物質的エネルギーの量は、凡ゆる場合決定的容積である）を變化させ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はしない。

斯くの如く、また斯くしてこそ、史的唯物主義の理論の根本問題は解決し得るのである』(ブハーリン「史的唯物主義の理論」附錄)

即ちこの根本問題の福本氏による無理解はブルジョア學者の貫祿を博する價値のあることが之に由つて明かである。

生產關係とは空間と時間の中における人間の勞働的編成である

社會學の中心問題を解決し得なかつた福本氏は、更に生產關係をも正當に理解することが出來ない。

生產關係はマルクスに據れば社會の物質的基礎である。然るに此の物質的基礎は河上博士によつて「生きんとする衝動又はヨリよく生くんとする衝動」なる精神的基礎によつて置き換へられ、高田博士によつて「人と人の關係」「社會そのもの」なる精神的作用に置き換へられてゐる。

だが福本氏は之に對して

『河上博士によれば、所謂終局的決定因はかの生產力を更に決定する所の、人間の意志欲望であるといふ。

唯物史觀は、固より、生產力がこれらの要因によつて決定さるゝことを否定するものではない。

だが、進んで、これらの要因が終局的にはまた生產力によつて決定せられてゐるものであることを認めるのだ』(同氏「唯物史觀と中間派史觀」一〇六頁)

即ち生產力を生產關係(經濟的要素)に置き換へてゐる福本氏は、鷄は卵を生み、卵は鷄となるといふこと以外に、此のマルクス主義の唯心論的曲解者に對して、何等戰ふ武器を持たれ得ない。斯かる堂々廻りは、敵を打ち倒すには全然無力である。

だが夫は福本氏の『生產力』と『生產關係』の混同・誤解が斯かる伽蹟を作り上げたものである。如何に氏が之を混同・誤解してゐるか、例へば「生產(下層建築)(見よ—福本氏は生產を下層建築と呼ぶ)を終局的決定要素とし、歷史に於ける終局的な決定要素は生產……である」(同氏「社會の構成=並に變革の過程」一七四頁)といひ他の著書では「だがこれらの要因が終局的にはまた生產力によつて決定せられる」といふ風に生產と生產力とが何等の斷りなしに氣儘に使用されてゐる。そして生產は氏によりて下層建築とされてゐるから、生產力と生產關係が混同されてゐることも明かである。エンゲルスを抜き下ろした福本氏が斯かる醜態を演じられるのは、眞に同情に絕えない。だが見遁せないのは氏が

「生產(下層建築)は終局的な決定要素である。」と定義してそれ以上はマルクスも亦私(福本氏)も曾て主張したことはないと斷言されることで、マルクスは「マルクスに從へば生產關係は社會の物質的基礎である」(ブハーリン)と言はれてゐるから、福本氏はマルクス主義を歪めたのである。

斯かる曲解、混同は當然に「物質的基礎」を「精神的基礎」にすり換へた河上博士を克服し得ないのは、充分に理解し得る。そして我々が上に知つた樣うに、福本氏はその哲學的黨派に於て唯心論者である

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から、それは眞に必然のことである。生産關係の物質性を如何に說くべきか？

・僕の知る所では此の問題の明確な答へはマルクス主義文献中に與へられてはゐない。

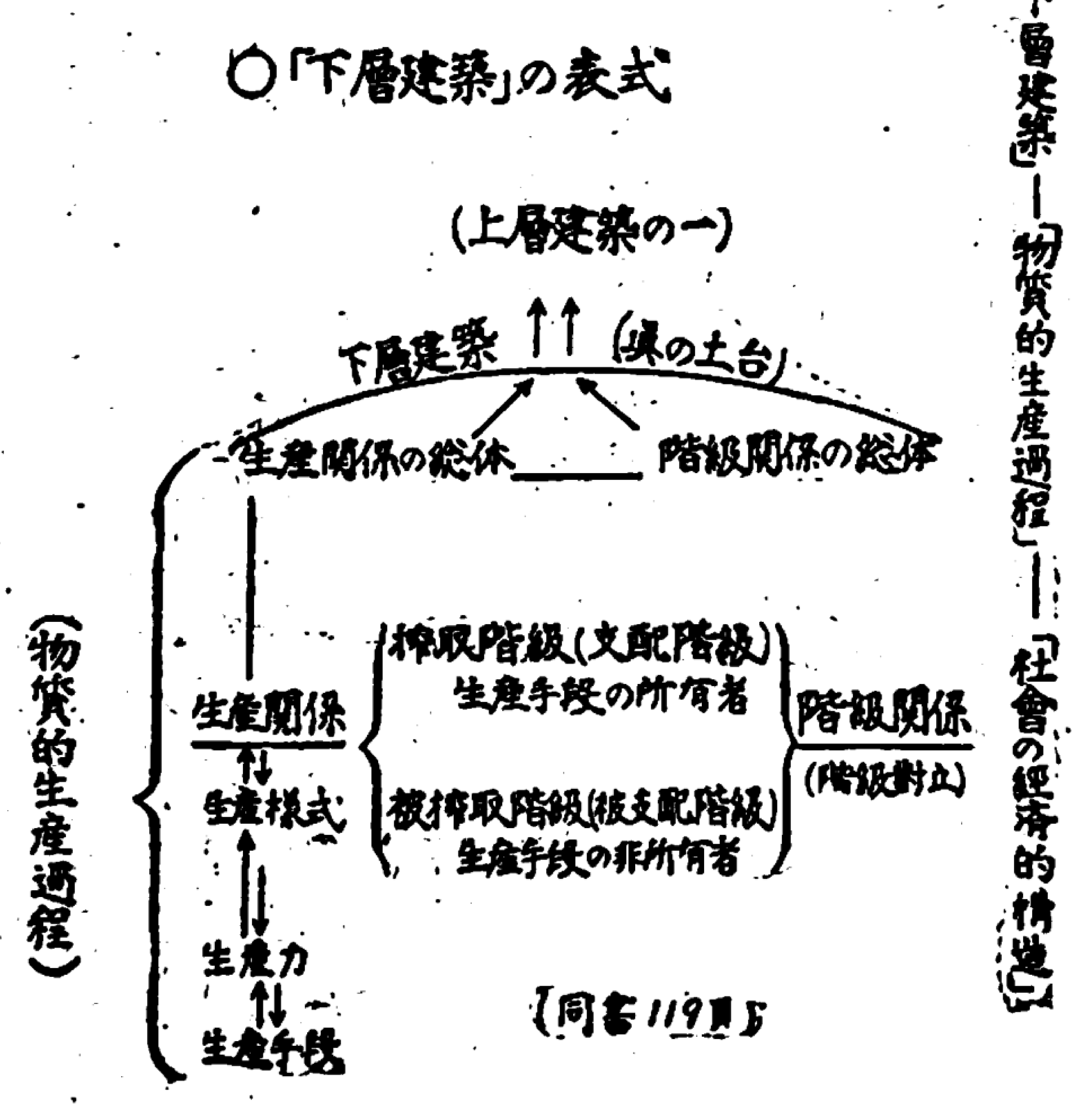
如何に此の任務を解決すべきか？・敵は幾つかの適切なる論證を發表してゐる。最も重要なる論證は、人間間の關係はその精神的交互作用であると假定する解釋である。斯くして勞働的連絡は精神的勞働的連絡となる。建設の過程と、そして同じくこれらの關係の維持とは社會的範圍に於て客觀化された精神的行爲から成る所の精神的過程となるから、それ自身「基礎」の社會的精神的性質を確立することになることは何等疑ひのない所である。

僕は、我々の間では、此の論證に反對してアンチ論證を發表してはゐないと斷言する。この故に僕はマルクス的解決の方向に向ふ所の問題の新らしい唯物主義的解決を提出する。その解決は斯うである――生産關係とは空間と時間の中における人間「生きた機械」と見たてた)の勞働的編成である。――そして媒介的機會(モーメント)が精神的要素であるとしても、我々の論證の組立てを少しも壞さない。媒介的機會(モーメント)(或は要素は社會生活及び夫々の上部構造の複雜な容積としての再生産過程に役立つものである。斯かる解決を僕は唯一の正しい唯一の唯物主義的解決と考へる。これ無しに、そして之を外にしてはアドラー一派に解答することは出來ない』ブハーリン「史的唯物主義の理論」附錄)

福本氏の『下層建築』

生産力と生産關係の問題を眞に唯物主義的に把握することとの出來なかつた福本氏は『下層建築』の說明に於ても、混亂が繰り返されてゐる。即ち氏は

『生産關係即ち階級關係である』と云つてゐるが、此の『即ち』が甚だ曖昧で正當に理解することが困難であるから、我々は氏の圖表を證據に論を進めるより仕方がない。即ち氏によれば、『下層建築』は次表のやうに表現されてゐる。



此の圖表で見ると「生産關係即ち階級關係である」の中に生産樣式生産力、生産手段が何の會釋もなく入り組んでゐる。而も『即ち』が別居し、別々に外に向つてゐる。

而も此の學者的見識を以て、福本氏はブハーリンを攻撃し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『かく考へてまゐりますと、彼（ブハーリン）にもなほまだ多少かの唯物史觀公式化論者の謬見――「階級鬪爭說」は「經濟的批判」の序文に見えてゐる唯物史觀の公式では、ずつと後の方に隱れてゐる」といふ謬見がこびり付いてゐるのではないでせうか？

私が嘗てブハーリンの「史的唯物主義の理論」に嚴密な辯證法的展開の缺如がありはしまいかといつたのは、此の點をも指してゐるのであります』（同氏「社會の構成＝並に變革の過程」八六頁）

と云つてゐるが、福本氏の「生產關係即ち階級關係である」といふ定義は間違つてゐる。

『我々は勞働器具の組合せ、社會的技術それ自身が人間の關係即ち社會的經濟の組合せを決定するものであるといふ結論に到達した。だが然し之等全ては單に生產關係の一面、一部分を構造するものである。さて我々はもう一つの非常に重大且つ根本的な問題、即ち社會的階級に立ち止まらなければならない。』……『階級的關係――生產關係の最も重要な部分――は矢張り生產力の變化と關聯して變化する』（ブハーリン「史的唯物主義の理論」第六章三十七節）

だから生產關係は、福本氏の如く「即ち階級關係である」といふことは明白に間違つてゐるし、圖表の如く生產關係と階級關係が別居、並立してゐる場合は更に大きな間違であり、夫は全然マルクス主義でなくなる。

『エンゲルスはロンドンの新聞「ナロード」（一八五九年八月その六號から二十號）に於てマルクスの著書に就て應答しながら、『經濟學（ポリチ・エコノミー）の批評に與ふ』の中で斯う書いてゐる。「經濟學は物質に就て語つてゐるのではなく、人間間の關係に就て、その最後の段階たる階級間の關係に就て語つてゐるのである。これらの關係は常に物質と結び付き、物質の如く表現される」

之は何を意味するのであるか？　矢張例を以て解說しやう。資本主義社會に於ける最も普通の階級的關係である資本家と勞働者の關係を採らう。彼等は如何なる『物質』と結び付いてゐるか？　即ち資本家の手に握られてゐる生產手段と結び付いて居り、生產手段は資本家の支配下にあり、勞働者は生產手段を絕對に持たない。この生產手段は資本家にとつて利潤吸收の手段となり、勞働階級搾取の手段となる。之は單なる物質ではなく、特別な社會的意義を持つた物質である。何んな？　それは單に生產手段である許りでなく雇傭勞働の搾取手段であるといふことにおいて。……』（同上）

即ち『物質』に於て階級間の關係が言ひ現はされて居り、エンゲルスの言ふ如く階級間のこれらの關係は物質と結び付いてゐるのである。資本家と勞働者の場合では夫は資本である。

だから生產關係と階級關係を別居、並立させることは、『資本』に表現される生產手段と搾取手段を分離させることになる。そして夫は反無產階級的、反動的理論となる。

以上に於て我々は史的唯物主義を建設展開された福本氏が、史的唯物主義の根本問題たる生產力の問題に於ても、社會の物質的基礎たる生產關係の問題に於ても全然、非マルクス主義的混亂に陷られてゐるのを見た。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福本氏の『上層建築』

土臺がグラ〱であつて上層建設がシツカリしてゐる譯がない。

『生産過程――生産關係は同時に階級過程――階級關係であります。既に階級の分裂、對立がありますから、そこに一つの生活過程――支配階級がよつてもつて被支配階級を支配――統制するところの生活過程――所謂政治過程又は國家過程と名づけらるべき生活過程――が必然に生せずにはゐられない』（福本氏「社會の構成＝並に變革過程」一二〇頁）

だがこの福本氏の説明は社會的政治的上部構造の説明としては甚だ不充分である。

『全ての實在を観察する辨證法的方法は、全ての現象を第一にその不分離の連絡に於て第二にその運動に於て見ることを要求する』

だが、福本氏の如く生産――階級――國家と必然の糸で連らね、之を交互作用で運動させても、少しも『基礎』と『上部構造』の本質を明かにすることが出來ない。それどころか夫は單なる氏の所謂「現象の羅列」ではないか。

『社會的政治的上部構造は相互に連絡した異なつた要素からなる複雜な事物である。一般的には夫は社會の階級的構造によつて決定される――この構造はそれ自身生産力即ち社會的技術に束縛されてゐる。……これら全ての要素は、直接又は間接に、社會的生産力の發達に束縛されてゐる』（ブハーリン「史的唯物主義の理論」一六九頁）

斯かる説明によつてのみ『基礎』と『上部構造』との現象を第一にその不分離の連絡に於て、第二にその運動に於て見ることが出來たと云ひ得るのである

玆でも、福本氏の「辨證法」が唯物主義でないことを今一度實證してゐる。即ち氏が「辨證法」を思考構成にのみ局限してゐる結果、氏の思考は、氏の思考から獨立し、氏の感覺から獨立し、氏の外に實在する實在の反映であることを認識することが出來ない。即ち、氏にありては全ての實在は、氏の所謂「辨證法」によりて並列さゝれてゐるが爲め、氏の思考から出發して全ての實在が認識される爲め、全ての實在を正しく反映することが出來ないのである。從つて『生産關係とは空間と時間の中に於ける人間の勞働的編成である』『媒介的機會（モーメント）（又は要素）は社會生活及び夫々の上部構造の複雜な容積として再生産過程に役立つものである』ことを少しも認識、理解することが出來ないのである。

斯くして福本氏の所謂「下層建築」も「上層建築」もマルクス主義の建設展開ではなく、マルクス主義の假面に隱れて、反動的唯心論を打ち建てるものであることを曝露し得たから、次に氏の所謂「並に變革の過程」を分析して見やう。

小ブルジヨア的革命主義

福本氏によれば、社會變革過程が次の如くに示されてゐる。

階級鬪爭過程――一、純經濟過程　二、意識過程　三、純經濟過程　四、政治過程　五、國際過程

階級鬪爭過程（革命點）――一、政治過程　二、純經濟過程　三、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意識過程 四、國際過程 五、世界過程

だが此の理論が正しいか何うか、實際生活を持つて來れば直ちに判別する。氏は現在を指して政治過程と稱してゐるが、然らば現在經濟的鬪爭を全然拋棄すべきかといふと氏は然り！ と即時に答へる。だが、實踐に於て我々は我が無產階級は氏の所謂五つの過程を同時に持つてゐることを知る。蓋し生產關係の矛盾が存在してゐるし、之を意識する者と意識しない者とがあり、經濟鬪爭もやれば、政治鬪爭もやり、國際的協同戰線も弱いながら張つてゐる。故に氏の變革の過程は哲學的虛妄であり虛構である。

『マルクスは一八四五年に、エンゲルスは一八八八年と、一八九一年にマルクス主義の認識論の基礎に實踐の規準を置いたのを我々は見た。實踐を外にして『客觀的眞理が人間的思考に相當してゐるか』といふ問題を提出するのはスコラ哲學である——マルクスはフオイエルバツハに就ての第二のテーゼで云つてゐる。他の全ての哲學的虛構と同樣に、カント、ヒユームの非認識論を最も好く論駁し得るのは實踐である——エンゲルスは繰返してゐる。「我々の行爲の成功は攝取される客觀的自然的事物に我々の攝取が相當してゐることを實證する」——非認識論者にエンゲルスは抗議してゐる』レーニン「唯物主義と經驗批判論一一〇——一一一頁」

だが我々は玆に止まつてはならない。

福本氏に據れば

『生產力と生產關係との矛盾の發展は、必然にまた階級對立の發展從つて革命的階級の發展となる。而してこの革命的階級之が社會變革の支持者であり、主體たるのであります』（同氏「社會の構成＝並に變革の過程」二〇一頁）

『かくして、社會變革の過程は必然に（階級對立社會に於ては）階級形成の過程であり、階級鬪爭の過程である』同上二一〇頁）

社會の物質的基礎たる生產關係を正しく認識されない福本氏は、生產關係の重要な部分たる階級關係に對しても殆ど混亂に陷つてゐる。即ち氏にありては、生產力と生產關係の矛盾の發展が『建設展開』されてゐるが、我々は既に生產力が社會の發達を決定するのは「生產力は一定の具體的な體系としての社會と、その自然との相對性を表現してゐるからである」ことを知り「生產關係とは空間と時間の中における人間の勞働的編成である」ことを知り「階級的關係——生產關係の最も重要な部分——は矢張生產力の變化と關聯して變化する」ことを知つてゐるから、氏の『建設展開』が單に哲學的虛構であることを直ちに看破することが出來る。

だが之を親切に生產關係の矛盾の發展と解しても、生產關係の矛盾の發展は「必發に革命階級の發展」となりはしない。

『階級的精神並びに階級的思想、階級によるその目前の利益ばかりではなく、その永續的な一般的な利益の自覺は生產に於ける階級の狀態から發生する。だが之は、生產に於ける狀態が直ちに自己の一般的根本的な利益を階級として理解するといふことではない。事實は反對で斯かることは殆んど何時だつて無いのである。何故ならば實際の生活は

第一に、生產過程自身色々の異つたその發達の段階を通過するので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あり、經濟的構成に於ける矛盾は單にかなり後の發達の歩みに於て明るみに出されるのである。

第二に、階級は出來上つた姿で天から降つて湧くのではなく、云はゞ自然成長的に社會の他の違つた分派（過渡的、中間的または他の階級、層、社會的分派）から狩り集められるのである。

第三に、階級が自身の鬪爭の體驗に於て自分を特別な、彼にのみ特有な利益と、希望と憧憬と社會的「アイデア」とをもち、その社會の他の階級と決定的に對立した階級として自覺する前には相當の時間を經過する。

第四に、國家機關を掌握する支配階級が常に一方では被壓迫階級の階級的自覺の芽ばえを摘み切ると、他方では支配階級の思想を凡ゆる手段で植え付けやうとし或ひはこの思想の影響を種々な方法で施さうとし、傳染させやうとする計畫的な精神的、思想的の働きかけを忘れてはならない。これら全ての狀態は、階級が既に生産過程に於て一定の役割を演じつゝある人間の複雜な容積として實在しつゝはあるがそれは未だ自分を自覺した階級として存在しないといふ狀態を現はすのである。階級は既に實在する。だが、彼は未だ「無自覺」である。

階級發達過程のこの相異狀態を指摘する爲に、マルクスは二つの表現を用ひてゐる。一は階級『それ自身』二は『自己の爲の』階級。前者は自分を未だ階級として自覺しない階級を指し、後者は既に自己の社會的役割を自覺してゐる階級を指すのである』（ブハーリン「史的唯物主義の理論」三三三―三三四頁）

故に福本氏が、「マルクスの基礎づけた」史的唯物主義を新に「建設展開」された結果は、斯くして單に哲學的虚構と混亂を齎らすに過ぎなかつた。マルクスの階級『それ自身』と『自己の爲の』階級との相異を區別し得なかつた福本氏は、生産力と生産關係を混同したやうに更に階級の問題をも混同してゐる。即ち氏にありては「生産力と生産關係の矛盾の發展は必然に革命階級の發展」となり、「社會變革の過程は階級形成の過程」であるとなつてゐるが、階級形成の過程即ち階級「それ自身」の發達過程と、革命階級の發展としての變革の過程即ち「自己の爲の」階級の發達過程とは全然相異してゐることを知らなければならない。

之に對する福本氏の無理解、無認識――即ち階級『それ自身』と『自己の爲の』階級との相異の無理解無認識は、哲學的に見て『物體それ自身』と『我々の爲の物體』との相異を認識し得ない實證哲學、經驗批判主義從つて反動的唯心論である。

經濟的鬪爭と政治鬪爭の分離

斯くして福本氏の理論從つて福本イズムは唯心論的本質を曝露したが、最後に福本イズムが最も得意とする所の經濟的鬪爭と政治的鬪爭の分離、理論と鬪爭の分離に就て論じる必要がある。

然し此の問題を克服することは我々にとつて差して困難なことではない。我等は福本イズムが生産關係と階級關係を別居並立（時には同居）させてゐることを知つてゐる。この福本イズムによる生産關係と階級關係の別居並立は、『資本』に言ひ現されてゐる生産手段と搾取手段の別居並立――資本は恰かも生産手段で搾取手段でないかの如き紛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論は――やがて後の福本イズムの有名なる經濟鬪爭と政治鬪爭の分離となり、純經濟鬪爭時代、純政治鬪爭時代といふものが『建設展開』されるのである。

だが『資本』は生產手段であるとともに搾取手段である。之を分離させた「純經濟鬪爭」「純政治鬪爭」は、前者は生產手段の鬪爭（大企業と小企業の鬪爭は明かに生產手段の鬪爭である）であり、後者は生產手段の鬪爭の上に立つた「純政治鬪爭」である。故に此の場合「政權」の爭奪は、ブルジョア政黨と小ブルジョア政黨の「政權」の爭奪でしかあり得ない。

故に福本イズムの理論は最初は大企業との「經濟鬪爭」を行ひ、之に破れた後「政治鬪爭」に移つて行く小ブルジョアの反動的理論である。

理論と鬪爭の分離

階級『それ自身』と『自己の爲の』階級との相異を認識し得ない福本イズムは、更に進んで理論と鬪爭とを分離させてゐる。之はブルジョア學者の用ひる手段で、「純科學」は地上の醜い事實には無關係であるといふのと少しも變りはない。假へば氏が

『生產力と生產關係との矛盾が發展すれば革命的階級が發展する』

『階級形成の過程は階級鬪爭の過程である』と認識されることは、階級『それ自身』と『自己の爲の』階級を混同、誤解してゐることであることは我々の既に知つてゐる所であるが、斯かる唯心論的認識は、必然に『理論』と『鬪爭』の分離なる理論を生み出すのである。何故ならば氏にありては理論は、頭から捻り出されるものか又は全ての實在と折り合はせるものであるから、充分に鬪爭を認識しないでも存在の價値があるのである。換言すれば氏の頭で作り上げた辯證法は自然の辯證法と同一であり、折合はせることが出來るものである。

だが我々は之が明に非マルクス主義的「建設展開」であることを知り、それが如何に「氏の思考から獨立して、我の感覺から獨立して、氏の外に實在する事物」を少しも反映してをらず、歪めてゐるものであるかを知つてゐる。それと同樣に理論と鬪爭に關しても充分に同樣の事が言ひ得る。氏によれば無產者階級は

「經濟主義、日和見主義との鬪爭は當分理論鬪爭に局限する」底の「方向轉換」をしなければならないのだが、だが實踐は

『諸主義との鬪爭は理論鬪爭に局限』されてをらず、ヨリ多く實際鬪爭に於ても行はれてゐることを示してゐる。斯くて氏の所謂「理論と鬪爭の分離」も氏の哲學的虛構であることは容易に看破し得る。

マルクスの『建設展開』の完全なる失敗

以上に於て福本イズムによるマルクス主義の『建設展開』が完全に失敗し、夫は遂に反動的唯心論に降服してゐることを知り得たが、福本イズムを綜合すると次のやうになる。

第一に――マルクスの『建設展開』に名を藉つて、其の哲學的な根本問題たる唯物主義を唯心論に置きかへてゐること。

第二に――『唯物辯證法』の名の下に、マルクス主義の、思考範疇の辯證法は自然における法則、物質の運動の反映即ち自然における辯證

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

法の反映であることを、歪めて『辯證法』を特に思考構成にのみ追ひ込めてゐる。全然唯心論的なものとしてゐる。

第三に——『有機』と『無機』『辯證法』と『機械學』を對立させてゐることによつて、認識論を辯證法的に把握してゐないことを曝露し夫はまたベルグソン、ドルシ一派の『有機的』神祕主義に降服してゐる。

第四に——史的唯物主義の理論にとつて根本問題たる何故生產力が全てを解說する終局的原因となるのかの問題に對して、生產力と生產關係の混同によつて、この根本問題を解決し得ずに混亂せしめてゐる。

第五に——生產關係と階級關係の曖昧なスコラ哲學の爲に、社會の物質的基礎たる生產關係を正當に把持し得ず、哲學的虛構を以て此の混同無理解を蔽つてゐる。

第六に——階級『それ自身』と『自己の爲の』階級との相異を認識し得ないが爲に、その所謂『‖並に變革の過程』はスコラ哲學となつてゐる。

エンゲルスの俗學性

斯くしてエンゲルスの

『マルクスはフランスの社會主義及び經濟學の研究を既に社會主義的世界觀から研究するに至つた。そして彼の描いた目的は、彼の發生的價値を『保證』する爲に此の世界觀に『理論的基礎』を與へることであつた。マルクスはリカ・ドから價格の法則を把掬した。だか……フランス社會主義者のリカードからの結論には彼の……世界觀が滿足することが出來なかつた。蓋し此の結論は既に『勞働者資掠への公憤』其他の形で彼の發生的價値の一部を構成してゐたからである。結論は『經濟的に不正的な形式』として排擊された。蓋しそれは單に『經濟學への道德の適用』であつたからである』『だが形式的經濟的意味に於て不正確なものでも、世界的歷史的意味に於て正確なものである。若し或る經濟的事實に對して大衆が道德的自覺を以つて夫を不公平と發表したことは、それは此の事實が自分自身を終熄したこと、他の經濟的事實が現はれてその勢力でこの事實が耐え切れなくなり、維持し難くなつたことを實證するものである。この故に形式的經濟的不正確の後方に眞實の經濟的內容が隱れてゐる』(エンゲルス「哲學の貧困」の序文)

といふ個所を全然認識せずして福本氏が

『かくの如きは、私の見る所によれば、唯物史觀の構成過程のうちのその前段的過程の說明に全注意を奪はれて、其の基本的、決定的構成過程たる、經濟學批判過程の意義を——換言せば、經濟學の批判が、唯物史觀の構成に對して有する重大なる關係を——沒却し去つたものといはなければならない。この點に關しては、エンゲルスは却つて自ら既に、後の俗學的マルキシストの陷るべき道を準備したるの譏を免れないであらう』(同氏「唯物史觀と中間派史觀」一五頁)

『以上の理由により、唯物史觀は其の創設者により、完成さるべくして、しかも完成されずに終つてしまつたのである。しかし私達は、此の點に就て、マルクス自身がいかなる計畫をもつてゐたかに關してはマルクス、エンゲルスの著述を通しては何等知ることができない。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(同上一九頁)

と斷言し、

『私は以上で、唯物史觀を眞實に理解することは、同時に唯物史觀を建設展開すること——マルクスによつて基礎づけられた方法に從ひて——でなければならぬ……』と結ばれて、唯心論をマルクス主義の上に打ち建てられた勳績は、ブルジョア階級とブルジョア學者が滿腔の敬意を表する所であらう。

だが福本氏の建設展開を俟たずして、マルクスはリカードの經濟學を社會主義的世界觀から研究したことは、エンゲルスの上述の序文に於て見ることが出來る。之をも否定し去る福本氏は明かに狂者である。

結論

福本イズムは今『流行』の最中である。此の流行は多くの損害を無產階級に與へつゝある。それを自覺し得ないのは『福本宗』の信者のみである。だが信仰は科學ではない。無產階級の科學は信仰から生れない。故に筆者は斯かる損害が何に原因するかを見極めやうとして、福本氏の著書を漁つた。而して其處に氏の理論の基礎をなす「方法論」と、マルクス主義の「建設展開」を見た。

だが此の「方法論」と「建設展開」が果して無產階級の利益になるか何うかを筆者は先づ檢討した。そして其處に「辯證法」の美服を纒へる「ブルジョア思想」=「反動的唯心論」を發見し、マルクスの「建設展開」に名を藉るマルクス主義の否定を見出した。

だが夫は無產階級に看破されないやうに左翼的な修辭が用ひられてある。斯かる左翼的な修辭に唯心論が隱れてゐる丈け無產階級にとつて損害が大きい。斯かる企ては、堂々と玄關から乘り込む反動よりは恐ろしい。それは彼のコカイン又は阿片の密輸入の如く恐ろしきものである。

筆者の任務は此の「左翼」の翼を折り、「辯證法」のウスモノを剝ぎ取り、其の「唯心論」の本體を曝露してその最後の避難所たる「辯證法」から唯心論を追ひ出すことにあつた。

内務參事官阪千秋著
司法省參事官三宅正太郎著

普通選擧法要綱

普通選擧法に對する出版は十指を屈するが、本書は起草者の解釋であれば本法案に對する基本的解釋である。一千二百萬の新有權者は勿論、司法官、警察官、役場員等も本書の解釋によりて選擧に當り、取締に從はるることを希望します。本書には新選擧法正文をも附錄として添加しました。(定價六十錢送料十四錢改造社發行)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

經濟的國策の確立

堀江歸一

農業立國の動搖

農業若しくは之に類する原始的産業を擁立し、又是等に依頼して、國民經濟の發達を謀るとか、國民生活の繁榮を求めるとか云ふことは、我國の國土の狹隘であり、加ふるに天然の恩惠の豐ならざる今日、到底期圖し得られざる所であつて、强いて之を爲したならば國民をして今日よりも劣等なる程度の生活を忍ばしめるか、或は土地を通じて、給養される人口の數を制限するか、孰れかの一に出でざるを得ない。農業に於ける生産設備を見るに、田畑段別は自作と小作とを合せ、大正二年以來兩者共に、各々二百九十萬町歩から、三百萬町歩を上下するに止まつて、其上に出でず、農家の戸數も五百四五十萬戸の間に居り、米の産額亦五千數百萬石から六千萬石の間を往來するに止まる。然も人口は年々若干の率を以つて、增加するとすれば、右の如き限られた米の産額を以つてしては、彼等に主食物を供給するに不充分であつて、其足らざる分は專ら朝鮮臺灣より移入し、外國から輸入しなければならない。地方農村の從來主要産物としたものは實に米穀であつて、我國が瑞穗國を以つて、稱せられ、又農業を以つて立國の基礎とした事實は國民の肯定する所であつたが、農業其ものに伸張力を失ひ、加ふるに多數の國民を給養するに缺くるものを生じた以上は、右の信念も亦撼搖されざるを得ざるに至つた。固より一國が年來國民經濟の基礎とし、又國民生活の支柱とした或る種類の産業を棄てゝ、新に他の産業に移るに就ては、困難の大なるものがあり、之を成就するには、國民一般に斯る移動を爲すことの必要に就て、正確なる理解を有し、新に國の基礎と爲り、支柱と爲る可き新興産業の代表的勢力が社會の表面に活動し、加ふるに時の政治家殊に當面の事情若しくは將來の利害に就て理解ある政治家が常に右の移動の行はれる勢を指導し、國民的勢力を背景として、行動することを必要とする。英國が農業の保護、國內の自足自給を目的とする關稅制度の改革に着手したのは、實に千八百二十四年ハスキッソンの第一次施政に始まり、其後二十二年を經た千八百四十六年を以つて、保護政策の中堅たる穀物條例廢止され、更に其後十四年を過ぎた千八百六十年を以つて、自由貿易を主義とする關稅制度の徹底的實行を致し、漸く立國の基礎を農業から工業に移すと云ふ積年の希望を實現するを得たのである。其間選擧法の改正、選擧權の擴張が商工業者の政治的代表を容易ならしめたとか、新興都市の住民が政治上に覺醒したとか、コブデン、ブライト以下有名無名の先覺者が此潮流を導くことに努力したとか、農産物の不作に際して、穀物條例あるが爲めに、一般民衆の生活を困難ならしめたとか、サー・エドツード・ウエストやトーマス・マルサスが經濟學說の上から、穀物條例を不可なりとしたとか、サー・ロバート・ピールの自家の政治的權勢の失墜を賭して、穀物條例の廢止を斷行したとか、幾多の劃時代的、犧牲的、獻身的行爲あつて始めて之を見るを得たのであつて、經濟的國策を變

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

更し、國民產業又は國民生活の根柢を一方から他方に移すことの如何に困難であるかは、此英國に於ける一事例に依つて、充分に窺ひ知るを得るのである。（拙著「英國現代の經濟」第二章參照）

我國の農業保護策

故に今我國に於て、農業其ものが繁昌しない、人口の增加に比較して、耕作される田畑の面積は擴大しない、收穫物も亦增殖されない、外國から農產物を輸入して、供給の不足を補充しなければならないと云ふことが當面の問題となつて來ても、簡單に農業を國民產業の地位から見離すことを許されない、如何なる手段を講じても、農業の命脈を維持しやうとするのが、一部人士の希望であつて、地方農村に根據を置く政黨亦之に附和し、農業維持、農村振興を目的とする種々の政策を實行しやうとして已まない。是等政策の內、或は耕地を整理するとか、自作農を獎勵するとか、土地信用を盛にして、當業者に低利の資金を供給するとか云ふ如き、單純に農業其ものを助成するに止まるとすれば、効果の大小有無は兎に角として、他方面に不良の影響を及ぼす虞れ少なきやに考へられるが、我國に於ける農業の保護は此程度に止まらず、關稅政策を利用して、外國から廉價なる米の輸入されることを制限し、以つて內國の米價を騰貴せしめるの手段に出でたのである。此事たる、始め日露戰爭に際し、戰時財政の急に應ずる爲め、非常特別稅の一として、增徵された地租の負擔に對して、國內地主に報ゆる目的の下に、外國から輸入される米並に籾に課稅したのに始まり、其後內地の米價の騰貴した場合には、之を免除する方法が認められたが、要するに課稅に依つて、外國米の供給を遮斷し、以つて內國の米價を或る程度まで高貴ならしめる趣意に至つては、終始一貫して渝らないのである。

外國米に輸入稅を賦課して、其供給を遮斷することに依つて、幾何の程度まで、內地の米價を騰貴せしめるかは、時の狀況に依つて異ならざるを得ないが、兎に角外國米の輸入を仰がざれば、內國に於ける食糧の供給を充す能はざる我國に於て、外國米に課稅する以上は、其價格を高からしめ、外國米の價格騰貴は之と代用品たる關係ある內國米の價格を高からしめざるを得ない。然も外國米に對して、代用品たる關係を有する內國米は內國に於て收穫される米の一部分であり、實に外國米と共に、內國下層社會に居る人々の消費に上り、時に地方農民殊に小作人の消費にも上る有樣であつて、隨つて課稅に依つて、其價格を騰貴せしめた所で、斯くて生ずる保護の利益に浴する者は地方農民の一部分に止まり一方に外國米並に其代用品たる內國米の價格騰貴に依つて、損害を蒙る者は都會に居住する下層社會の全體並に地方に於て內國米を買つて、外國米を購ふ一部の農民に及ばざるを得ない。一方の利益と他方の損失と孰れが大であるかは、別問題として、外國米課稅に依る農業保護が農業の全體に利益を與へる効果に疑はしきもの〻ある一方に、都會住民の多くに苦痛を及ぼす事實の掩ふ可からざるもののあることは、之を否定するを得ない。而して外國米課稅に依つて、其端緒の開かれた農業保護の政策は其後年を重ねるに隨つて、次第に其勢を盛にすると共に、其度を強くし大正十五年現行關稅定率の制定されるや、米並に籾に對する能率は從來の程度に据置かれたが、小麥、小麥粉に對しては勿論、鷄卵の如きに對してすら、其農家の副業として、產出されるの故を以つて、相當の程度まで增率が行はれ、農業保護關稅の徹底される方針を示すに至つたのである。

此種の政策たる、恰も歐洲大陸諸國が往年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

食糧に就て、自國を自給自足の狀態に置き、斯くて國防を充實しやうとか、內國に農業を維持しなければ、强健なる國民を兵卒に徵募するを得ないとか云ふが如き理由の下に、新開國から輸入される小麥其他の農產物に課稅した當時の議論に據るものであつて、我國をして斯る狹隘なる國土の下に、跼蹐し、以つて自給自足の鎖國的生活を營ましめることを可なりとすれば兎に角、然らざる限り、決して肯定す可からざる言說であるとせざるを得ない。

鎖國退嬰と開國進取

鎖國退嬰に對して、開國進取を以つてすることは、維新以來我國の渝らざる方針であつて、經濟政策も亦之を基調に充てたのである日淸戰爭の如き、又日露戰爭の如き、當時我國に於て、軍事上に關しては勿論、政治上の方面にも相當の勢力を挾んで居つた軍閥者流の意見を以つてすれば、領土を外國に擴張し軍國としての我國の權威を發揚する希望の下に行はれたものであるかも知れないが、軍人の外に、一般世人が兩回の戰爭を肯定し、擧國一致の態度を以つて、我國の軍事的行動に贊成したのは何故であつたかと云へば、實に是等の戰爭に經濟上の意義の存するもの丶厚きを信じたからであつた。何を以つて二大戰役の經濟的意義としたかと云へば、日淸戰爭前支那は其權勢を朝鮮に伸ばし、日露戰爭前露西亞は滿洲並に朝鮮を領有する勢を成し、兩國をして其好む如くに爲さしめたならば、結局日本は朝鮮や滿洲に對する經濟上の聯絡を絕たれ、日本の國土內に鎖國的生活を送ることを强要される危險の歷然たるものがあつたからである。兩戰役に於て、日本は多數の同胞を殺し、又巨額の國帑を費して、犧牲の大なるものを蒙つたには相違なかつたが、朝鮮から支那の勢力を、滿鮮から露西亞の勢力を驅除し、日本人の勞力、資本、經營をして自由に是等の方面に伸張せしめるを得れば一時の損害亦深く意に介するに値せず、將來に於て、之に倍加する有形無形の利益の獲得されるを得ることは、固く國民の信ずる所であつた。而して滿鮮地方を經濟的に經營するに當つて、日本は如何なる方法を以つて、其目的を果すであらうか。大連の如き自由港の下に、船舶の出入を自由にして、商業上の利益の獲得される場合があり、滿鐵の事業にも幾多商業上の方面があり、其他金融とか、賣買とか、取引とか云ふが如き種々の方面に向つて、邦人の事業の伸張しつ丶あるは論を俟たないが、大體から云つて、滿鮮の如きは、所謂農業殖民の方針を以つて、我國の經濟的勢力を進め、又斯くして我國との經濟的關係を結ぶことの正しきを認めるのである。既に然る以上は、日淸日露兩戰役に次ぐ結果として、我國は當然原始的產業から生ずる產物を國內に於て、自給する方針を一擲し其供給は之を滿鮮——更に滿洲との關係から進んで蒙古を加へる——方面に求める狀勢を打開したのであつて、今日に至つて、尙ほ此趣意の曖昧に付せられて居ることは、私の奇怪事とする所である。何を以つて此趣意を曖昧に付するものとするかと云へば、往年外國から輸入される米に輸入稅を賦課すると共に、朝鮮から移入される米にも亦同樣の課稅を爲し、以つて我國の滿鮮に向つて、農業殖民の方法に依つて、發展することを妨害し、移入稅は後日に至つて、廢止されたが、輸入稅の嚴存することは、依然として渝らない。內地凶作の場合には、輸入稅は免除されて、無稅輸入の許されることはあるが、豐作に際して、禁止的輸入稅の賦課されること、前の如くであつては、滿蒙に於て農業經營の衝に當る者は母國に向つて、年々若干量の米穀を供給するを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

得るか、之を正確に豫測して、其れに達する標準の下に、經營の規模を律するを得ないと共に、內地に於ても亦如何に凶作事に際して滿蒙方面から米の供給を收めることを必要とし、之に向つて需要を致しても、其れに應ずる用意の存せざる爲めに、需要の增加は徒に米價を暴騰せしめるに止まり、內地に於ける米の需要と滿蒙に於ける米作との間に存す可き關係を疎隔するの嫌なきを得ない。

工業立國の要件

一國が新開地に向つて、經濟的發展を試みる第一步は農業殊に主穀農業に始まり、斯業に成功して、漸次他の方面に力の及ぶを見る可きである。日本の如き滿鮮蒙に於ける經營を全うしやうとするからには、思を此點に致し、內國の農業に加へられる競爭は酷烈と爲つて、其存立を危うするとしても、寧ろ新附の領土なり、在外の權力範圍なりを擧げて我國に向つて、原始的產物を供給する所たらしめることを必要とするのである。原料品並に食料品の供給を豐富にし、又價格を低廉にすることは、一國が工業の興隆を謀るに就て、必要の條件とする所である。北米合衆國の如く、國內の天惠頗る豐富であり、如何なる物資を求めて、得られざるもの丶なき國に於ては、原料品の自給は確實であつて、其供給をして如何にして安全ならしめるやと云ふが如きことは、遂に實際問題と爲るに値しないのであるが、我國に於ては、遂に其然るを得ない。我國の工業に於て需要する原料品の大半例へば棉花、羊毛、生護謨、鐵鑛、生皮等が何れも外國から輸入され、然も之を產出する國は我國に對して幾千哩を距つる遠隔に在つたり、又我國との外交上の關係の如何に急變するか、測り知る可からざる狀態に居つたりすることは、我國の工業をして原料品供給の點に於て、安んぜしめるを得る所以ではない一旦國際間の經濟上に、將た又外交上に或る事變が起つて、原料品の供給に或る異變が起つたとしたならば、平時に於ける其繼續的供給を根據として、築かれて居る我國の諸工業は恰も砂上に建てられた樓閣と異ならないであらう。合衆國は我國から生絲の供給、杜絕して、絹織物業の衰微する影響を忍び得るであらうが、日本は合衆國から棉花の供給の斷絕した場合には、紡績業全部に崩壞を招くの悲慘事に接せざるを得ない。他の原料品の供給に缺陷を生じた場合に於ても爲めに蒙る影響は同樣である。原料品の國內自給の如きは今日到底企及す可からざる所であり、又强いて之を爲す目的の下に、內國の農業に保護を加へることも、食糧自給の場合に於けると同樣、多くの弊害の伴ふものこそあれ、利益の見る可きものを知らず、又如何に保護を加へたとした所で、目的を達し得るかどうか、甚だ疑はしい。斯くて棉花の如き、木材の如き鐵鑛の如き、石油の如き滿鮮蒙に於て產出され得る原料品は總て擧げて、其供給に仰ぐのが日本として、國を富まし、民を豐にするの道であると云はなければならず、日本としては其經濟單位とする所を自國のみに止めず、是等の諸方面に擴張し、物資の移動を自由にするは勿論、日本國民の滿蒙に於ける住居企業等を自由にするの方針に出でなければならない。斯くてこそ我國としては容易ならざる犧牲を拂つて、戰爭に從つた趣意を全うするを得るのであつて、折角戰爭の危險を冒して隣接諸地方に加へられんとする外國の勢力を除却しながら、我國自ら之に代る可き經濟的勢力を扶植せず、國民自己の發意に依つて、之を扶植しやうとすれば、政府の施す政策のために、妨害を蒙るが如き有樣であつては、經濟的國策の首尾遂に一貫せざるの嫌なきを得ないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政府は食糧增收策の一端として、北海道の如き未開の原野の存する所に向つて、內地移住を盛ならしめ、同時に人口問題をも解決する腹案であるやに傳へられるが、北海道に移住を奬勵した所で、兩問題を解決するに如何なる程度まで、資するを得るものがあるであらうか。移住に依つて、人口問題を解決しやうとする以上は、我國民の住居し、營業するに適する風土の地を見出さなければならず、食糧問題を解決しやうとする以上は、我國の地味なり、農事經營者なりが事業を企て、成効を博する條件の存する所例へば勞働者の供給が豐富であるとか、天災を蒙る危險が少ないとか、收穫物を本國に供給するに便利であるとか云ふが如き條件に就て、顧みなければならない。北海道拓殖計畫の如き、今日に至つて、遽に主張されるのは、畢竟政府が我國移住民を送遣す可き場所を海外に求めるに當り、何れも八方塞りの趣きの存するに失望して、已むを得ず、唱へ出し來つた遁辭ではあるまいか。人口問題と食糧問題とは相關聯するが如くであつて、同時に侵す可からざる境界がある、兩者を混同するが如き、却つて兩者の解決を共に困難ならしめる虞れなしとしないのである。

工業保護と關稅政策

原料品供給の自由を確保し、其豐富を實現するを得るものとして、次に起る問題は如何にして此原料品を利用して、內國工業の隆盛を期圖するかと云ふことであつて、是れが第二の問題と爲る。從來、我國に於ける工業は封建時代に行はれた舊式の形態に時勢に伴ふ改良を加へたものと、西洋諸國に行はれる所を傳へ來つたものと二樣の區別のあることが考へられるが、其孰れに屬するを問はず、相當の進步を爲し、其或るもの丶如き、大規模工業として、缺ける所なき發達を遂げるに至つたのに就ては、二個の偶然なる刺戟のあつたことが考へられる。其一は明治十九年前後から七八年を通じて、銀貨、本位制の下に銀價下落した結果、外國競爭品の我國に輸入され來る勢を遮斷し、制限して、一方に我國物資の輸出を奬勵し、双方の作用相重なつて我國の製造工業に劃時代的發達を致さしめたことであり、他の一は永き期間を通じて、我國民の生活程度の低かつた爲め、資本家をして所謂廉價なる勞働の利用に依つて、生產費を節約せしめ、斯くて外國物資に對する競爭上、有利なる地位に立たしめるを得たことであつた。幼稚なる、又は新に誘導された產業を興起して、相當の地步を保たしめる爲めには、斯る刺戟の貴重なるものであつたことは論を俟たないが、第一の事實の如き、固より偶然の出來事であり、暫時の後銀價低落の勢停滯し、殊に明治三十年名目上とは云ひながら、金貨本位制の採用されるに至つてから、右の如き利益は我國の產業に關係を有せざること丶爲つた。更に勞働費の低廉であつた爲めに、我國の產業が外國の同業に對して、競爭上有利なる地位に立つを得たことも、今日から之を見れば、一場の昔語りであつて、賃銀の低廉である一方に、勞働能率の優秀ならざることは、多くの場合を通じて、結局勞働費を高貴のものたらしめる一方に、賃銀其ものも、近年我國に於ける國民生活程度の上進、勞働者の覺醒、彼等の團體的運動等幾多の事相の並び行はれるに至つた結果、從來の如く低廉なる程度に置くが如き、事情の許されざる所と爲り、次第に其高率と爲ることを避け難く、勞働費の低廉を以つて、一の誇りとした事實の如き、夙に過去の事柄と爲つたのである。

此際に我國に行はれた一の產業政策は歐洲大陸諸國に於て、所謂敎化的關稅なる名の下

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に行はれた一種の保護政策であつて、一國の産業が之と競爭する外國の同業に比較して、發達の狀況の幼稚であり、未熟であれば、其幼稚であり、未熟である期間、外國の競爭品に相當の輸入税を賦課して、以つて其競爭を緩和し、又制限しやうとするものであつた。斯の如くすれば外國の競爭は之を遮斷するを得るに相違ない、而して自國産業の産出する物資をして、能く內國市場を獨占せしめる効果あるを誤まらないとしても、更に進んで其物資をして外國市場に進出して、販路を擴張せしめ、輸出工業の基礎を築かしめるを得るであらうかどうか。保護政策の下に、一の産業をして國內の販路を獨占せしめ、其獨占の形狀の成つたものに應じて、産業の規模を擴張し、大量生産の下に、産出された物資の一部分は獨占された內國市場に於て、高價を以つて、賣却する一方に、他の一部は、競爭ある外國市場に向つて、廉價を以つて、賣却し斯くて外國に自國の經濟力を發展せしめた事例は獨逸や、合衆國に之を見るを得たが、斯の如きは果して一國全體の經濟生活に於て、得策とす可きものかどうか、斯くて外國に伸張された一國の經濟力は何處まで鞏固なる基礎を持つかどうか、共に疑問としなければならない。

資本と勞働能率

我國の工業が銀價の下落と勞働賃の低廉とに依つて、培養され、助成されたことは、曩に之を述べたが、是等偶然的事實の消滅した以上は、我國は別に工業隆興の方策を樹立しなければならない。何を以つて之に充てるかと云へば、第一資本供給の潤澤、第二事業の大規模經營、第三勞働能率の改善、第四製品の品質向上、規格統一の如き、即ち之に當るのである。是等の事たる、工業發展策としては、餘程以前から我國に於て唱出されて居り、必ずしも新奇を以つて目するを得ない所であるが、今日に至つて、尙ほ行はれることの少なき以上は、幾回も同一の所論を繰返すの煩を忍ばなければならない。而して曩に掲げた諸政策を實行するに就て、其實行法は時勢の進歩と共に、自ら異なるものがある。例へば資本の供給を增加することの如き、從來其方法として國民に勤儉貯蓄を促し、又外國資本を輸入することが主張された。二者共に今日に於て、其必要なるは論を俟たないのであるが是等の外に私は資本供給の增殖策として、第一國家が濫に公共の利益に藉口して、民間の資金を國庫に吸收する弊を絕つこと、第二國民所得の分配を國家の力に依つて調節し、社會一部の階級が階級として有する特權に依つて、所得の大部分を獲得し、其容易に獲得されるに乘じて、之を濫費する風を制すること第三更に此効果を明ならしめる爲めに、高額の所得、偶爾的利得、不勞所得等に對して、高率の累進課税を爲し、其收入に依つて、他の方面に對して加へられる負擔を輕くすること、第四國家亦國民資本の放下される狀態に對して、或る程度の干渉を加へ、一の目的を達するに必要とするより以上の資本の放下される勢を制限し、以つて資本の消耗なからしむこと、第五國民貯蓄を奬勵する一條件として國家自ら、經濟社會に於ける變動を或る範圍內に制限し、例へば大正七八年に於ける過度の好景氣時代から、同九年以後に於ける極端なる不景氣時代に變轉し、其間放資に危險を及ぼさしめざることの諸件を主張するに躊躇しないのである。

斯の如くして內國に蓄積される資本の高、自ら其多きを致し、金利步合亦下降するに至つたならば、其時を以つて、我國は一部の資本を外國に放下し、邦人自ら外國に於て之を運用する衝に當り、利潤を國內に回收する手

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

段に出でなければならない。斯の如くして、我國は國際貸借に於て、一個の債權國と爲り債權の收入の多きに隨つて、之を外國から輸入する物資の代金に振替へ、國民に向つて、最も容易なる條件の下に、外國の物資を消費するに至らしめるを得るからである。

若し其れ資本の利用と共に、勞働能率の上進を期することの經濟社會振興の爲めに、必要なるは、論を俟たない。賃銀の低廉なる勞働者を長時間酷使して、以つて勞働費を節約するを得たとするが如き時代は旣に經過し去つた。勞働者が團體の力に依つて、勞働條件を改善しやうとする勢は漸く其强きを致しつゝある一方に、國際勞働會議の決議亦我國に實行の義務を加へて已まざる以上は、結局年と共に勞働條件の改善されるのは、當然の勢である。果して然らば我國としては一般の國民教育を高くし、又其及ぶ所を廣くするは勿論、勞働者に對しても、一般國民として、將た又勞働者として必要なる精神的並に技術的教育を授け、標準の高められた勞働條件に値するだけの勞働能率を發揮せしめる工夫がなければならない。一方に勞働組合を堅實にして、勞働者の生活を安定せしめると共に、他の一方に斯く安定した生活の下に、勞働者をして或は技術を上進せしめ、或は人としての修養に資せしめる教育上の設備の存することは、最も必要であつて、先進國に於ける工業の發達の如き、此點に負ふ可きものゝ少なからざることが考へられるのである。

歐洲最近の自由運動

歐洲戰爭前歐洲諸國殊に大陸諸國に於ては保護關稅政策が工業と云はず、農業と云はず殆ど總ての產業に適用され、諸國をして經濟上、鎖國孤立の狀態に近づくに至らしめた。而して戰爭後に於ても、此傾向は毫も改新されるに至らず、多年自由貿易政策の下に、諸外國に對して、寛大なる條件を以つて、通商上の關係を律し來つた英國すら保守黨內閣の下に、產業の保護と對殖民地關係とを名義として、或る種類の外國製造品に課稅すると云ふが如き極端なる變化を生ずることゝ爲つた思ふに此事たる、第一歐洲戰後の財政困難は諸國をして自ら關稅增徵の手段に出でしめ、然も內國產業の疲弊した狀態は新に增徵する輸入稅と均衡を保つ程度の物產稅賦課を不可能ならしめる爲め、增徵された輸入稅は自ら輸入貿易を遮斷する傾向を持つこと、第二更に當初から內國產業の疲弊した狀況を念頭に置き、其れよりも優秀なる條件の下に、生產された外國物資の輸入を遮斷する目的を以つて、輸入稅の賦課を利用すること、第三戰時國際間の交通の杜絕した際、戰前行はれた輸入貿易品の供給缺乏し、之を補ふ目的を以つて、內國に發起された諸種の產業があり、其れ等の未だ充分に發達せざる今日、外國の競爭を蒙つたならば、空しく倒潰するの外なき狀勢に居り、斯る競爭を緩和して、內國新興の產業を保護する爲めに、輸入を制限すること、第四戰時異常の需要に應ずる爲めに、大規模に膨脹した產業が戰後遽に需要を失つて窮境に陷り、之を存在せしめるには、國內の市場を獨占せしめる必要ありとして、外國の競爭品を排斥するに重稅を以つてすることの諸點を理由としたのである。然しながら是等は何れも戰爭直後に現はれた特殊の事情に根據を置いたものであつて、英國が母國と殖民地との關係を密接ならしめる目的の下に實行した特惠關稅制度を除いては、永久的效果あるものと信じられなかつたのである。果せる哉、歐洲諸國に於ては、最近に至つて、經濟政策上の基調を自由の方嚮に就かしめやうとする運動が有力者の間に起り、千九百二十六年十月中旬を以つて、一片の檄文が發表され

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

署名者は墺地利、白耳義、チエツコ、スローヴァキア、丁抹、佛蘭西、獨逸、大英國、和蘭、匈牙利、伊太利、諾威、波蘭、羅馬尼、瑞典、瑞西、合衆國の事業家、金融業者、船主、商業會議所代表者を網羅して居る。思ふに數年に亙つて行はれた歐洲戰爭は關係諸國の國力に大なる疲憊を來し、其恢復治癒せざる限り、再び戰爭に從ふが如き、到底許されざる所であり、又戰爭以來歐洲諸國民の思潮には急劇なる變化を來し、經濟的帝國主義の戰禍を惹起す原因と爲ることを認めて、之を排斥する勢の盛であり、之に加ふるに國際聯盟成立して、國際間の爭議を解決するに、平和的手段を以つてするに至つたことの諸點は戰後の今日に於て、特に認められる事相であつて、斯る事相の著しきものある以上は、諸國に於て貿易上の關係を自由にして、自他相倚る方針に出でんとする主張の起り來つたことも、亦偶然ではない。右檄文の一節に於て「新舊總ての領土に於ける政治家が貿易は戰鬪に非ずして、交換の一科程であること、平和時代に於て、吾人の隣國民は吾人の得意先であること、彼等の繁榮は吾人の幸福の生ずる根源であることを承認するまでは、歐洲に於ける恢復は期待されない」と云ひ、進んで結論として、諸國の間に存する經濟上の障壁を打破することが今日の沈衰狀態に對する最も確實なる救濟である事實は經驗の示す所と爲つた。斯る政策の下に、惡意に代ふるに善意を、排外に代ふるに協同を以つてすることから生ずる價値ある政治上の利益に就ては、今之を論じない。唯吾人は經濟的自由の確立を以つて、世界の商業並に信用を復興する最善の望みとする信念を記錄に止めんとするものである」と云つたのに徴して、新運動の目的の奈邊に存するやを推測するを得るのである。

歐洲の一角に動き來つた斯る經濟上の運動若しくは斯る運動を釀成するに至らしめた經濟上の思潮が今後如何に發展するかは、遽に推測するを得ないが、我國の如く從來歐洲大陸諸國の爲す所を學んで、保護政策から、鎖國政策に類似する邊まで、經濟上の政策を推詰めた國民に取つては、誠に適切なる教訓と爲ることが認められる。私は我國民が經濟的國策を樹立するに就て、此點に就て、三思することを望んで已まないのである。

龍姿蛇姿　幸田露伴著

この高雅なる筆致と、豪壯なる氣魄こそは、我々が世界的に誇り得る巨匠の名作であり、靈の刻印である。かの快雄を拉つし來りて堂々の陣を張り、老獪を點して幽邃の氣を說く、或は神を配し、美女を鑿く、この壯大にして、朗かなる文章は、實に千載に輝く炬火である。本書に收むる觀畫談、不平汗山、望樹記濟系緣起、怪傑干城、春風裏花、等珠玉の如き神品

(竹拔裝訂定價貳圓五十錢　送料廿一錢)
改造社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大學教授と無產政黨

大森義太郎

大學教授たること丶勞働農民黨の中央委員長たることとは兩立しない！　かうした理由を以て早稻田大學は大山郁夫氏をその學園から追つた。このことは忽ちに學生大衆のこれに對する抗爭の運動を喚び起し、やがては勞働農民黨の活動をもうながして、一部には相當に大きな波紋を畫いた　いな、現に畫きつゝある。世間は、しかし、野良猫でもが恐らくは三舍を避けるであらうやうな既成政黨三首領の狎合ひなどに心を奪はれて、この事件にはさまでの注意を拂はぬらしい。けれども、我々が少しく事象の奧に眼をやるならば、そこにはかなり重大な問題の包藏されてゐることがわかる。わたしはそれを明かにして見ようと思ふ。

第一に、早稻田大學が大山教授に對して辭職を强要した理由は何であつたか？　既にわたしが冒頭に掲げたやうに極めて簡單である。繰返して云へば、大學教授たると政黨の黨首たることとは兩立しない、といふにすぎない。

これほど人を小馬鹿にした理由はまたとあるまい。だが、それにもかゝはらず、當時、ブルジョア新聞中の一流の某氏の如きもこの意見に心からの贊意を表してゐた。してみると、こんないゝ加減な理由ですらが、世間には尤もらしく聞えるのかも知れない。そこだ、わたしは、さしあたり、かゝる理由がいかに出鱈目なものであるかを、一應明かにして置かねばならない。

一體、兩立しないとはどういふ意味でか？　早稻田大學の當局者ははつきりした說明をなんら與へてゐない。が、これについては恐らく二つの場合が考へられるわけであらう。第一に、政黨の領袖といつたやうないはゆる激務に就くことは、餘り多くの時間をばこれに奪はれて、しぜん教授の職を怠るであらうといふことである。なんといふか量的の方面からくる抗議である。だが、それならば極く手輕に答へることができる。教授の職責を充分に盡せばいゝであらう。要するにこれは果して教授たる本分を果さなかつたか、どうかによつて決せられる問題で、始めから定めてかゝられるものではない。他になんらかの仕事をもつと、學者としてやれなくなるといふのは、それほどに無能なる者の泣き言である。從來とても、あらゆる方向に活動し、しかもなほ早稻田における最もすぐれた學者であつた大山教授には全然妥當

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しない。

それはかりではない。教授といふものはその全部の時間を學者たる仕事に費すべき義務をもつとでもいふのか？　もしそれであるならば、大山教授よりも先きに辭職を強要さるべき者が他に多くあらう。ひとり早稻田大學とは云はないが、私立大學には裁判官であつて同時に總長、教授たるもの、または、新聞記者であつて教授を兼ねる者が決して少くない。また、官立大學についてみれば世間に名の聞えた教授のほとんど總てが例へば、政府のなんとか調査委員會の字義どほり末席に連つたり、或は公私の種々の機關の責任者になつたりしてゐると云つてよからう。かういふのはどうするのだ。

そこで、第二に考へられるのは、教授の職と政黨の仕事が性質的に相容れないといふ主張である。

そして、さらにその裏づけとしては、學者は靜かに書齋に閉ぢこもつてをるべきものである、政黨員たることは實際に携はることであつて、これと到底兩立し難いといふのである。

しかしながら、この――理論と行動とを引離してしまふ――考へはブルジョアジーに特有な、その宿命的な獨斷である。かうしたイデオロギーがなにゆゑにブルジョアジーに對して生れてくるか、――それを明かにすることは極めて興味深い仕事であるが、こゝではそれを試みる餘裕をわたしは持合せてゐない。たゞこれだけのことは云へる。

資本主義の發展は矛盾をば藏してゐる。そこで、資本主義そのもののうちに囚はれてゐるところの、資本主義の永久性を總ての基礎に置いたブルジョアジーの理論は、資本家制の展開とともに、實踐的な認識價値を全くもちえなくなる。從つてまたブルジョアジーは理論をば――止むなく――實踐から引離すのである。いづれにしても理論と實踐とは矛盾するといふが如きは虚妄であり、獨斷である。眞實の理論は行動と緊密に結びつかなければならない。

だからして、教授たることゝ政黨の領袖たることゝが兩立しないといふことに對する、いま述べたやうな理由もまた、たかだかブルジョアジーの間でだけ通用するにとゞまつて、なんらの意義をなさないと云はねばならない。

かうして、彼等が、大山教授は學園を去るべきであるとした、そのいはゆる理由はまことに子供だましにも劣つたものである。だがしかし、早稻田大學の當局者が、かゝる理由をなさない理由を以て大山教授を辭職せしめんとしたことには、決して理由がないではない。それは、こんどの事件の經過を顧みるならば、直ちに暴露されて來よう。

既に大方の讀者が新聞によつて知つてをられるであらうやうに、この事件が起ると早稻田大學の「理事會」は、いちはやく、大山氏を去らしめることに決した。それではこの理事會とは何か？　「維持員會」の意見を代表する機關である。そして、その維持員會なるものは、早稻田大學を經濟的に維持してゆくことに努めてゐる者の機關である。これが代表的のブルジョアから成つてゐることは更めて云ふまでもない。

實にこの機關こそが大山教授を憎んだのである。驅逐したのである。その理由は、我々がこゝまで見來るならば、既に明白であらう。彼等はブルジョアである。大山教授は、これまでブルジョアジーとは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

相容れることのない、、、、プロレタリアートのために闘つて來た。そして、いまやさらに、無產階級の階級利益を、階級意識を最も的確に表現し、最も忠實に遂行するところの勞働農民黨の中央委員長となつた。それはブルジョアジーに對するより激烈なる闘爭の宣言である。こゝにおいて彼等ブルジョアはその掌中にある學校の機關を動員してこのみづからの階級の敵を追つたのである。教授と政黨員とは兩立しないといふのは、それは單に彼等の「ボロ隱し」にすぎないのだ。

由來、早稻田は自由の學園と稱されて來た。また實際、これを他と比べれば幾分さういふところがあつたやうにも見受けられた。しかるに、かくも露骨に支配階級がこの地においても、壓迫を試みて來たといふことは、そもそも我々に何を語るものであらうか？

我國の資本主義が、世界資本主義の一成員として、現下、、、、の時代にあることは、もはや多くの說明をば必要としないであらう。そして、、、、の一つの特質は資本家階級の――金融資本を中心とする――結成と、極端なる干涉政策とである。この時期にいたるならば、資本家階級は決して「自由」を云はない。外面的に見れば封建主義的な專制、抑壓がこゝにおける彼等の態度である。こゝでは學問といはず、宗教といはず、總てが彼等の嚴密なる、專制的支配下に置かれる。我々は、かうした、、、的專制の一つの明白なる顯現をこんどの事件に見るのである。

さらに、資本家階級が教育機關、大學に對してかゝる專制をあくところなく行ひ始めたことは、別の理由をも具へてゐる。相對峙する兩階級の闘爭が尖銳化されてくるにつれて、理論の分野、これをひろくいへばイデオロギーの領域における闘爭は極めて重大な意義をもつてくる。資本家側にあつて、支配階級はいはゆる民衆をその隸屬のもとに繫いでおくためにはこれをば彼等自身のイデオロギーのうちに眠り込ませて置くべく絕えず努めねばならない。事實努めて來たのである。が、この努力は、無產階級が賃貨の階級意識に醒めてその獨自イデオロギーを强くもち始めるや、前よりは遙かに劇しい熱烈さを以てなされる。なぜなら彼等のこの支配がいまや脅されるのであるから。かくて、彼等は、第一に、總ての教育機關をばみづからのイデオロギーを以て十二分にも充たさねばならない。少しでも彼等の、イデオロギーを傷ける者は斷乎として卻けねばならない。しかして、、、、の我國における兩階級の闘爭は、日一日と、刻一刻と、その銳さを增しつゝある。こゝにおいて我國の資本家階級戰線の一部を守る早稻田大學の維持員會は、從つて理事會は、大山教授を去らしめることにおいて、彼等の任務を忠實に果したのである。

我々は、こゝにシンクレアがあめりかの大學について指摘した事實が、我國の大學において、より甚しい深酷さを以て現れて來たのを見る。そして、この傾向は、我國においても經營上の點から、いはゆる維持員なる資本家にその存立の全條件を握られてゐる私立大學においては、今後日を追ふて甚しくなるであらう。同樣のことは官立大學に對しても、勿論、少しの割引きもなしに云へる。官立大學は全資本家階級の傀儡たる政府の支配下にあるのだから。

かくして、これらの問題は、それが帝國主義的である意味において、結局は無產階級による抗爭によつてのみ解決されうるものであ

る。

ところで、早稻田大學の教授會——この事件に關する決定機關の一つである——がさきの理事會の意見をそのまゝに奉じたことは當然といへば當然である。しかもこゝにもまた我々の顧みておかねばならない問題が横つてゐる。

教授會は、猛烈に起り來つた學生大衆の反對運動に戰慄して、ひとたびは、理事會の決議に對して、保留を宣した。しかし、これはもとより學生大衆の意志を尊重するといふ意味ではなく、たゞ學生を欺かんがためにほかならなかつた。かくして、その後突如として緊急教授會を開いて直ちに大山教授を去らしめることに同意を與へたのである。

これらの事實から我々は二つの問題を拾ひ出さねばならない。教授會の詐欺的態度と、ならびに學生大衆の意志の蹂躪とである。

第一の問題は、倫理的にいつて實に許すべからざるものであるが、倫理的の批評をこゝでいかほど試みたところで始まらない。結局、教授會をしてかういふやうな憎むべき態度を執ることを得しめるその地位、——專制的な地位が問題である。そしてこの地位があるために、教授會は欺瞞的な行爲も、また、學生の意志を蹂躪することも、平然として行ふのである。

元來、大學といふところは——全くの封建的專制國である。このことは官立大學において最もはなはだしい。大學の種々なる制度、課目の決定、講義題目、講座の擔任者の選定といふやうなことは、一として學生の生活に極めて密接な、直接の關係をもたないものはないにもかゝはらず、學生の意見は決して顧みられることがない。例へば、いかに愚劣なる講義をきかされても——しかも、試驗制度によつて强制的に——學生は一言半句の抗議をなすべき機關も有しない。すべてはたゞ、教授またはその群團の一方的意志によつてのみ決定される。これは、いはゆる學者なるものが、生産から全く切離され社會層に屬するために、寺小屋時代の封建的イデオロギーをそのまゝに殘してゐることに基いてゐる。そして、これが帝國主義と結びつくと、こんどの事件となり、また、教授會の暴壓的專横詐欺的行爲ともなるのである。だからして、學生大衆はこの封建的殘滓に對して徹底的に抗爭することが必要である。それには、あらゆる機會において、學校の問題に對する發言權を獲べく努めねばならない。進んでは教授會その他の諸機關に對する參加權、完全なる學生自治權の獲得といふ方向を取るべきである。最近、早稻田における學生の大山氏留任運動はこれに轉換したやうであるが、それは當然であると共に、賢明である。だが、このことはひとり早稻田大學の問題ではない。全國の諸大學、それ以下の諸學校についても同様に緊急な問題である筈だ。大山氏の事件を具體的の出發點として、全國的の運動にまで展開さるべきであらう。

最後に、大山氏が勞働農民黨の中央委員長に就任したの故を以て早稻田大學が氏の職を奪つたといふことは、勞働農民黨にとつて別個な重大なる關係をもつものである。

勞働農民黨は、ひとり組織されたる勞働者、農民ばかりでなく、未組織勞農大衆はいふまでもなく他の種々なる社會層をもそのうちに包含せんとしつゝある。このためには社會各層の大衆が自由に黨加入を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なしうることを確保しておかねばならない。しかるに、この際大山教授が勞働農民黨の故を以てその教授の職を失ふといふやうなことの起るのは――大山氏自身にとつては或はどうでもいゝことであるとしても――これに對して甚しい障害を與へるものである。なぜならばブルジョアジーはこれと全じ方法を以て、例へば下層の會社銀行員、中學校、小學校の教員等が勞働農民黨に加入し、これによつて組織されることを阻止せんとするであらう。いな、既にさうした企てが私營會社等においては行はれてゐると云はれる。勞働農民黨はブルジョアジーのかゝる前哨戰的な意義をもつた對抗策を完全に撃破することが必要であらう。このことについては、或は、大山氏の場合は中央委員長であるがゆゑに問題になつたとも云ひうるであらうが、大山教授のやうに抗爭力を個人的に有しない人々に對しては黨加入をも、種々なる手段を弄して、妨げようとするであらうことは、明瞭である。

そして、このことが勞働農民黨に對して特に甚しいであらうことは、我々のまた豫期しうるところである。既に大山氏を大學から去らしめた早稻田大學の當局者は、教授と似た地位を日本農民黨において占める北澤氏に對しては、これを不問に附してゐる。その表面上の理由は北澤氏の場合は顧問であるからといふにある。けれども、これは區別の理由にならない。――そのことはわたしがこの小論の最初に論じたところからして明かであらう。それゆゑ一は、反動的な非無產政黨であり、他が眞實の無產政黨たる點に、上の態度の差違は基くものと見なければならない。

いまや官憲が意識的に、反動的小ブルジョア黨たる、この日本農民黨、或は社會民衆黨を援助しつゝあることは隠れもない事實である。それは、例へば、社會民衆黨の演說會においては、官憲がいかに場内の整理に盡力しつゝあるかによつても察知しえられるであらう。これはまことに當然のことである。なぜなら資本家階級にとつても、その支配をより長くに亘つて支持せんがためには、小ブルジョア的なる社會層に屬する者をその味方に引き込まねばならない。かくしてのみ彼等は無產階級運動に抗しうるのである。そして、このことの第一段として彼等は社會民衆黨、また農村においては日本農民黨を助けて、まづ、此處に彼等小ブルジョア的社會層を吸收せしめるであらう。勞働農民黨はこれと鬪はねばならない。そして、小ブルジョア的社會層をも、無產階級の指揮のもとに、ブルジョアジーとの鬪爭の戰列に動員せしめねばならない。

そこで、あらゆる職業に對して、黨加入の自由を充分に樹立することは、勞働農民黨にとつて、一つ、さしあたつての重大な仕事たるを失はないであらう。こんどの大山教授の事件は、そのきつかけとして勞働農民黨がまさに擇まねばならないものである。

里見弴著 文藝管見
定價壹圓貳拾錢・送料十六錢
里見弴著 直輔の夢
定價壹圓五拾錢・送料貳拾錢

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奇怪なる三黨首の妥協と國民の深恨

鶴見祐輔

一

昨年の八月政友本黨が愈々洞ヶ峠を下つて、正面から若槻內閣の攻撃を開始し十一月の交に入つては、遂に分裂以來兎角感情の釋然たらざりし政友會と提携し、議會開會と共に、常任委任長の席を、在野兩黨をもつて獨占するに至るや、攻守の分野歷然として天下の視界に映じ來り、この議會が到底無事に納まるまいとの豫感が國民の腦裏に浸潤した。

議會休會中も、在野二大黨の首領幹部等は、衝突の避くべからざることを公言して、全國の黨員を激勵し、合せて自黨に有利なる國民的輿論を作製することに汲々とした。

さらに黨派以外の論調を檢討するに、新聞紙の大部分は、解散の避くべからざることを論議し、又多くはこれを歡迎して、政局を打開すべき殆んど唯一の良策と爲したのである。

かゝる二大誘因を前にして、國民全體は如何なる態度を取りたるやといふに、余が昨年四月以來日本各府縣遊説の實驗によれば、國民は少數黨によつて支持せらるゝ現內閣の基礎の脆弱なることを感じ、晴雨孰れとも、總選擧によつてこれを決するの好ましきを思つてゐたやうである。また同時に、次回の總選擧が所謂普選であるところから、新に有權者となつた約千萬人の國民の意思表明の機會として、多數國民はその來るの速かならんことを望むの情が切であつたやうである。

政治家と新聞紙と國民多數とが、斯の如き狀勢を辿りながら、次第に解散の一路を進んでゐたのである。であるから、本年一月に入つてからは、日本全國の選擧區に於ては殆んど選擧中のごとき活氣横溢し、候補者も選擧民も、既に實戰に入りたるごとき眞劍さをもつて、活動を開始してゐたのである。故に、一月二十日、愈々政友會と政友本黨とが、轡を駢べて、政府不信任決議案を議會に提出し、突如停會の詔勅をうけた刹那には、全日本六十餘州の隅々に、電火のごとき感激が奔騰したのである。愈々解散！ 總選擧！ 之れが日本國民大多數の觀念であつた。老練なる際業學人すら、二十日の議場の光景を目撃した感じを國民新聞紙上に記して、

『惟ふに廿日の議場に於ける、停會の天降りの如きも、若槻內閣と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しては、豫定の行動であらう。此れがやがて解散となるは、只だ時間の問題であるまい乎』

と言つてゐる。蘇峯氏のごとき玄人すら、しか感じたる以上は、天下の素人たる大多數の國民が、朝野兩大勢力の正面衝突を豫期したるは當然中の當然であると言はねばならまい。この秋、大小政治家は解散を覷念し、天下國民は解散を歡迎してゐたのである。さうして、日本國中にはある昂奮の氣が漲つてゐたのである。

如上が停會までの全日本の空氣であつた。如實の姿であつた。これが吾人の議論の出發點である。かゝる狀勢の存在の可否善惡は問題ではない。たゞ存在したりといふ事實が立憲國民たる吾人に取つての大問題なのである。

二

停會の號外が出ると、東京は割れるやうな騷ぎであつた。地方も同樣な狀況であつたに違ひあるまい。須破總選擧といふので、選擧に關係ある連中が血眼になつて騷いでゐると、突如として第二の飛報が我々の耳朶を搏つた。之れは三黨首が今院內で會合してゐる、といふ簡單な報導である。それでも常識のある者は、まだその事件の結果を豫測することが出來ないで、一體何んだらふ位に思つてゐた。すると其の夕刻になつて、所謂三黨首の申合せなるものが洩れて來た。洩れてきたといふより發表されたといふのが正確である。これによると若槻首相と田中、床次、政本兩黨總裁は、廿日午後二時卅分院內總理大臣室に於て會見し、先づ首相から、

『大變に當り今や國民憂慮の裡にあり、只政治家が國の爲め必要なりとして、その主張を貫徹せんとするは、固より妨げなき所なるも、出來るならば昭和の御代の初めにおいて、豫算不成立といふが如きことのなきやう致したきはお互に希望する所なりと信ずるについては、何とかこの際、政戰をやめてこの議會を無事にする譯には行かぬか。切に御考量を乞ふ』

と述べたに對し、田中、床次兩總裁は

『昭和の御代の初めにおいて、豫算不成立の如き事なきは、望む所なるも、事茲に至りたるは止むを得ざる事由がある。この事は政府においても諒とせられたく、しかして政府においても深甚なる御考慮を拂はれんことを望む』

と言つたといふ。情報通の說によれば、初め若槻首相の申出に對し、田中政友會總裁は、即座に賛成の返答をしないで、色々と談判したるに對し、床次政友本黨總裁が間から口を出して仲裁し、上記のやうな返答に落着いたのであるといふ。吾人の常識をもつて考へても、五十分かゝつたこの會合の席上、相談がさうすら／＼と進行した筈はなくまた正統なる反對黨たる政友會の總裁が、首相の申出に對して、一も二もなく右樣の返答をするとは想像され得ないのである。そこで我々の考へることは、一體三人のうちで誰が一番この會合の希望者であり、主動者であつたのか、といふことである。それは後に論じなければならぬ問題である。

それから床次總裁は、この場合一つの申合せをなしたいとて、左の申合せ案を提出した。曰く、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『新帝新政の初めに當り、お互ひに政治の公明を望むを以て、今後は各自黨員を嚴に戒飭して言論を愼み、益々國民の議會に對する信頼を厚くすることに努力すべし』

これに若槻田中兩氏が贊成して、この歴史的會合の場面に幕が下りたのである。勝海舟と西郷南洲とが、江戸城明け渡しの相談を決めた時のごとく、あつさりと、春風駘蕩裡にこの重大事件を片附けたのである。

さうして翌日、兩總裁は、黨員を集めて右の主旨を達示し、不信任案の撤回を論じ黨員も少しばかり議論をした後に、總裁の卓見を丸呑みにして、さしも天下を騒がした若槻内閣倒壞運動はこれで奇麗薩張りとけりが付いたのである。

三

そこで吾人は翻つて、政本兩黨の不信任決議案なるものを點檢する必要がある。その文に曰く、

『(一)現内閣は大逆犯人に對し、みだりに減刑を奏請して輔弼の重責を誤り、大權の發動を豫斷してこれを事前に漏洩し、司法部の失態は司法權の威信を汚損し、綱紀の紊亂は世道人心を廢頽せしむ。しかのみならず、その經濟政策は深刻なる不景氣を招來して、國民生活を脅威す。しかして内閣總理大臣若槻禮次郎は、自黨耆宿より僞證の告訴を受け、國民疑惑の中心となりて信望地に墜ちたり(二)しかもなほ黨利に汲々として恬然自裁することを知らず、議院の質問に對し誠意の認む可きものなく皇室の尊嚴と道義の大本を、維持するにおいて全く闕如せざるものゝ如し(三)衆議院は現内閣を以て昭和の宏猷を翼贊し、大政を輔弼するの責任に堪へざるものと認め、こゝにその處決を促がす。右決議す』

これが全文である。(一)(二)(三)の文字は、余の挿入である。この内容をこの三個の分子に分解して、批評するを便とするからである。

二十日の朝、斯の如き堂々たる理由によつて、天下公衆の面前に於て、解散をも辭せずとして、現内閣の不信任を決議せんとしたる兩本政黨の心事は、實に秋霜烈日、鬼神を泣かしむるものがある。その國を憂へ民を思ひ、一身の榮辱利害を眼中に置かず、勇往邁進せんとせるの氣魄は、これをかの王政維新の志士、殉難報國の義烈にも比すべく、天晴れ大日本帝國の選良として、全世界の黨利的政客輩を耻死せしむるに足る。我々は實にかゝる愛國者を、議會に有するを誇りとし、肩身廣く感じたのである。さうして平生やゝもすれば、新聞紙なとが、日本の政治家の心術を疑ひ、或は嘲笑し、或は惡罵するの實に故なきことを悟り、隱忍自重、世間褒貶を度外視し、最後の期に至りて、その眞骨頂を示されたる衆議院の政客諸公は、かの赤穗義士が、天下の惡罵を甘受して、討入りの夜を待つた心事と等しく、高朗昌大、雲に入るの概ありと感服したのである。否、この決議案の文章を見れば感服しなければならぬ筋合であつたのである。

然るに同じ廿日の午後三時半に至つて、前記三黨首の申合せなるものが、靑天の霹靂の如く吾人國民の頭上に落下し來り、續いて二十一日の三黨代議士會は、總裁の說明に滿足して、政戰を休止することを決議したのである。その電光石火、目も止まらぬ早業は、全國民をし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、アッと驚嘆せしむる外はなかつた。世に謂ふ政界支人の、實返り燕返へしの秘術とは、斯様のものなるかと、吾人を三嘆せしめたのである。しかしその政治戰術としての水際立つた手際はさる事ながら天下の政治が、國民生活の根本事であつて、少數貴族と少數議院政治家との遊戯にあらざる以上は、戰術としての巧拙以外に、國民を首肯せしむべき道理がなければならず、又國民生活の進展に貢献するに足るべき理由がなければならない。果して然らば、この不信任案撤回には、全國民を納得せしむるに足るべき理由があるのか。

若槻首相はその翌日の新聞に於て語つて、

『三黨首の會合といふが如き際に、話の裏などいふものは絕對にあるものでない。兩在野黨の黨首が、決議案を撤回することに努力して、その通りになつたのは、兩黨首も停會を拜し、旁々私の申出でに誠意を認めて、撤回することにしたのだらふと思つてゐます』

と言つてゐる。して見ると、若槻首相の申出に誠意ありと認めたのは、どの點であるのか。若槻首相の申出といふのは、『昭和の御代の初めにおいて、豫算不成立といふが如きことのなきやう致したき』旨である。ところが兩黨總裁はこれに對し『政府においても深甚なる考慮を拂はれんことを望』んだので、首相は『深甚なる考慮とは文字通りに解釋してよいのか』と念を押し、兩在野黨總裁は『文字通りに解釋してよろしい』と答へたので、首相はそれならばと、贊成したとのことである。

而して若槻首相は、翌二十一日朝の定例閣議の席上

『世上自分が、三黨首に對し議會終了後、適當の時機に辭職すべき暗示をなしたる如き風說を流布するものあるも、自分としては、かゝる大權干犯のことを私語する筈なく、絕對にかゝることなき旨』言明したさうである。

越えて一月二十四日の貴族院本會議に於て、志水小一郎氏の質問に答へて、首相は、(速記錄による)

『過般停會の後で、政友會の總裁竝に政友本黨の總裁と私と會見をしたことがある。此會見をしたゞけで政局の安定にはならない。それは會見して其間に何か話が纏まつたやうであるが纏まつたと言ふならば、提出せられたる不信任案が撤回されたと云ふ一方に事實があれば、何か政府で讓步した點があるであらうが、それは何であるか斯う云ふ御質問のやうであります。(中略)目下御諒闇中でありますけれども、御諒闇といふことゝ國事とは別でありますから、國家の爲めに必要であると政治家が考へてその主張を貫徹しやうと思ふならば、御諒闇中と雖、在野の政治家がその主張の貫徹を圖らるゝことは、何等妨げあるのではないと私は思ひます。それと共に政府も亦其所信を以て進むで行く上に於て何等妨げあるものとは思ひませぬ。それ故に衆議院に政府の不信任案が出ましたことも、私は御諒闇中である故に、それは宜しくないなどゝいふやうな意見は持つてゐないのであります。政治家として所信を以て進まるゝことは、是は一向妨げないと思つて居りますが、唯、昭和新政の初に於て、若し出來得ることならば、豫算不成立といふやうなことのないやうにあらしめたいといふ希望は、私十分に之を懷いて居るのであります(中略)唯併し(兩黨が)不信任案を提出するに至つたのは、各々そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れく理由があつて、(中略)それであるから其邊に對して深甚なる考慮を拂つて貰ひたいといふことでありました。唯會見でお互に意見を交換したのは、それだけであります(中略)此以上は私は何等存ずる所では御座ゐませぬ。何で譲歩したとか、降服したとか云ふ、さうゆうことには私は考へませぬ』

また一月二十八日の貴族院に於て、永田秀次郎氏の質問に答へて、首相は三黨首の會合は豫算を成立さす爲めの相談であつて、『その席では、不信任案を撤回して下さいとか又不信任案を撤回しようといふやうな話はなかつたのである』と言明し、更らに深甚なる考慮といふ文字には、裏面にある暗示が含まれてゐるのではないか、との質問に對して

『然らば深甚なる考慮を拂ふといふ事は、政府自らが進退を考慮するといふ暗示をして居ると思ふ事は出來ない。さうゆう話ではなく、豫算成立の道はないものかといふのみであつて、暗示を與へたことも、與へられたことも、決してないのであります。』

と明瞭に答へてゐる。

この首相の答辯に對して、在野兩黨から何等異議の申立てのなかつたことを見ると、兩黨は若槻首相の豫算成立を希望する純眞無垢なる誠意に感激して、無條件に頼まれもせぬ不信任案撤回を斷行したのである。換言すれは、この首相の『昭和新政の初に於て、若し出來得ることならば、豫算不成立といふやうなことのないやうにあらしめたい』といふ誠意の熾烈であつた結果、前記不信任決議文中の(一)即ち若槻内閣の諸罪科は嚴存するに拘らず、(二)の個條は全然一變し、

『黨利に淡泊にして、爾然自裁することを知り、政黨總裁の質問に對して大に誠意の認むべきものあり、皇室の尊嚴と道義の大本を維持するに於て、頗る關心せり』

といふことになつたので、そこで(三)も亦變つて

『衆議院は現内閣を以て、昭和の宏猷を翼賛し、大政を輔弼するの重任に堪ゆるもの』

と認めると爲さるゝも辯護の餘地なきやうな、撤回の擧に出でたのである。

而して反對黨の首領たる田中男は、これを黨員に諮るに當つて

『今回の不信任案の提出は、首相に述べた如く、止むを得ぬ事情が存在するので、これは首相もよく諒としてゐるのである。(中略)私はこゝに諸君に希望したい。それは諸君が熱血を注がれた不信任案は、諸君に於て撤回されたいのである。その趣旨はこれ以上御話せぬでも、首相が私共の意を諒とし、床次君と私とが、首相の意を諒としたと云ふ事について、諸君においても、また私のいふ事を諒とせられたい』

と述べ、政友會員一同は、田中總裁と床次總裁とが、若槻首相の意を諒としたことを諒としたのである。

そこで、國民全體が今度は、田中男と床次氏とが若槻首相の意を諒としたことを政友會員と本黨員が諒としたことを諒とする順番なのである。ところが、國民はこの複雜なる諒ごつこを、果して善意をもつて鵜呑みにしたかどうである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四

その三黨首申合せ成立の翌日から、全國の新聞の大部分は、猛烈にこれを攻撃し、國民は相會して、この妥協を誹罵した。その要點は大體次の如くである。

第一の顯著なる點は、各新聞竝に世間一體が首相及び兩黨首の聲明を、頭から信用しなかつた、といふことである。三黨首の聲明にある理由は本當の理由なのではない、と國民が感じたことである。『昭和の新政だ』と首相に言はれて、成程さうだつたつけと氣の付く程、田中、床次、兩氏が低腦であるとは、世間は思はなかつたのである。

第二には天下は、この取引の手續を批難した。天下の大事を秘密に決したことを攻撃した。さうして、三黨首が『公明の政治』といふことを聲明したのが、甚しく世間を憤らしたのである。三人が密室に會して長々と相談して置きながら、見へすいた白(しら)を切つて、これをもつて『政治を公明』にするのだと言つた皮肉が、滿天下を憤らしたのである。

第三には各新聞紙は、この申合せの動機を頗る不純なるものと解した。政府側に於ては野黨が解散を極度に恐怖する心理を利用し、野黨側ではまた政府より辭職の暗示乃至は口實を得て看板變換への手品の種に供したものと爲したのである。かゝる解散回避の道化芝居を打つために、見へすいた虚僞の聲明をしたのは、議會といふ天下の公器を茶番化したものであるとすらある新聞は急語した。

第四には、かゝる天下僞瞞の筋書を書き上げて、國民の理性を蔑視した作者が、衆議院以外の別天地に活躍してゐるのだ、といふ反感であつて、天下民衆の要望よりも貴族院の數名の策士の方が、國政を左右する力があるのか、といふ憤滿が高騰してきたのである。

さうしてその結論としては、一月二十二日の報知の論じたる如く『昭和の新政を輝かすべき初頭の議會が、かくの如き事態によりて、最初のページを汚された事は、國民と共に、我等の切に遺憾とする所である。』とするに於て一致してゐる。さうして各新聞は申し合せたやうに、議會記事を書かなくなつた。一切默殺といふ方針を取つた。丁度回向院の相撲記事が、時代後れの物言ひや引分けのため新聞面から除かれたやうに。これ等は、公然印刷されたる文字による誹難であつて、檢束なき私人間の言論としては、如何に激越なる攻撃が試みられてゐるかは、殆んど想像の外である。

五

更らに吾人は、抽象的理論の原野より一轉して、具體的現實政治の問題としての、本事件の材料を一瞥する必要がある。

本黨が十九日に至つて、急遽不信任決議案提出に同意したるに關して、説を爲すものがある。それは誰が見ても本議會解散によつて、致命的打撃を被る危險のあるものは本黨である。地方地盤の關係に於て最脆弱なる地位にあるものは本黨である。甚しきは本黨は三十名に減ずるであらふと悲觀する者すらあつた。その結果は床次氏とその一黨は、內閣を組織するの機會を永久に失ふものと見なければならない。よしやかくまで減少せずとも兎に角、當選議員の最減少すべき危險を有

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したのは本黨である。そこで、その本黨を窮境から救はなければならぬとの考は、ある人々の頭にあつたといふのである。そこでその本黨が十九日に至つて、急遽不信任案上程の決意をするといふには、何等かの理由がなければならない。そこで一說には、本黨は、政府に解散の意なきことを、十九日に入つて確實に知つたのであるといふのである。そこで殺される心配のない戰爭であるから、思ひ切り强がりを言つて、突擊と方策を一決したのだといふのである。さうして、終まいにあの妥協の一幕が仕組んであつたので、田中總裁は全部初めから、これを知らなかつたといふのである。

しからば、何故に政府に解散をし切らないか、といふと、昨年暮から、策士が縱橫に奔走して、閣員中に解散反對論者を作つた、といふのである。その策士といふのは貴族院研究會の、靑木、水野兩子や、小笠原伯で、これ等の人々は、某々老政治家達を動かして、陸相と海相とに國防豫算成立の必要上、解散回避の絕對必要なるを說かしめ、以つて若槻首相、ことに解散論者の安達遞相の手を縛り上げたのだといふのである。

さうゆう弱味が政府の方にあるから、强味に出れば、折れると見込をつけて、床次氏が洞ヶ峠から脫兎のやうに驅け下りてきたのだ、といふのである。しかし、若し左樣なら、停戰の申込を拒絕して、もつと一ト押し押せば政府が倒壞するわけであるから、何故あすこで和議の締結をしたか解らぬ。とも言へる。しかし更らに一皮めくれば、あのまゝ政府が倒れゝば、內閣は床次氏に行かないで、田中男に往くことが、あまり明瞭であるから、田中男のために火中の栗を拾ふことを喜ばない床次氏が、そこいら邊で水を入れたのだとの說も成立する。

ところが一說には、內閣內には、解散奏請の副署を拒むやうな强腰の大臣も居ないから、政府に戰意なしとの噂は當らない、といふのである。それよりも適切なのは、實はづつと上の方に、和衷共同論であつたのだ、といふのである。ある人は、宮中で首相が牧野內府に會つた時に、內府が例の重々しい薩摩辯で『なんとか穩かにゆきましえんかなあ』と言つたので、首相は大に啓發して獨斷であの芝居を打つたのだ、と見て來たやうに言ふのである。しかし、いくら老人の勢力の盛んな日本でも、內府と首相との二人ぎりで、國民の意嚮を無視してそんなことを定めやう譯はないから、これも亦甚だ眞を置くに足りない說である。

ところが玆に又一說がある。それは昨年の暮ごろから、策士連の考へてゐた說で、御諒闇中の政爭休止說である。日本の國情として國民性として、先帝陛下崩御の淚痕未だ乾かざる今日、一切の政爭を中止して、新帝御治世の初めを平靜ならしむるは臣子の分である、といふ說で、これを三黨首中の一人から他の二人に提出せしめやう、といふのであつた。これに最初に耳を假したのが水野子で、子から若槻首相や二黨首を說かしめやうといふのであつた。これは或る一部の人々には、如何にも通りさうな議論であるので、大分喧傳せられてゐた。そうして、其の人々の引いたのは、一九一〇年英國のエドワード七世陛下崩御の折、上院改革問題で鎬を削つてゐた朝野兩黨が、ジョージ五世の新政を安泰にする爲めに試みた史蹟であつた。それが今度、出來上つたのだといふのである。しかし、これは若槻首相の上院での聲明

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にある通り、首相はその說ではないので、豫算だけ成立さしたい。政爭はしてもよろしい、といふのであるから、これ等の人々の手柄話ほど效果のあつたのでないことは明白である。

ところが或る人々には、日本の政界を流れてゐる大潮流は、主義政策の異同ではない。個人的競爭心や嫉妬心である。その要點は誰が次の總理大臣になるか、といふことで、誰がなるのは氣に入らぬとの反對と、誰をさしてやりたいといふ感情論との引つぱり合ひである、といふのである。さうして、この個人的愛憎から出發した、もつれ合ひが、色々の政黨の形となつて現れてゐるのであるから、今次の政治取引の根本も誰を總理大臣にしやう、誰はしてはならないといふ軋轢の結果である。そこで、床次派、田中派、濱口派、櫻兵衞派、新平派、上原元帥派、齊藤實派といつたやうなものが、入り亂れて飛び舞つてゐるうちに、かうゆう芝居をこね上げたので、つまりは、政本提携では、田中男が有利になるから、それをぶちこわす爲めに、本黨を政本提携から離脫さすに口實を作つてやつたので、これからは、憲本提携で、床次、濱口時代を作らうといふ筋書きなのだ、といふのである。さうかと思ふと、いやこれは、若槻を倒す策略で、憲政會の一部と本黨と、その他の小黨とを打つて一丸とする新政黨を作りあげて、床次でも濱口でもない老人を擔ぎ出してきて、總裁として新內閣を作らすのだ、といふのである。

これ等玄人政治家の胸算用では、色々の理屈を新聞や雜誌に書いたり、芝居小屋や公會堂で演說したりするのは、若い者の醉狂か、爲めにする處ある者の綴張芝居で、要は政權さへ把握してしまへば、議論の方は後からどうにでも片付く、といふのである。それから代議士連は公には色々强がりを言ふが、腹の底では散解程、恐ろしいものはないのであるから、何の口實でもよい、無解散となれば、ホッと安堵の息を吐いてついて來る、といふ高を括つてゐるのである。であるから少々新聞で惡口を言はれても、七十五日は愚か、一二週間辛抱すればよい。要は次の政權の獲得である、といふのである。

そこで政界の樂屋裏や、大道具方の方では、次の內閣製造とその役割の編成に餘念がない、といふのである。その內閣は、若槻內閣の持續と憲本提携の床次內閣と、政友會の田中內閣と、それから生死の程も世間で忘れられてゐる偉い人々の中間內閣等、等、等である。而してその一人々々の假想首相の周圍にはまた夥しい數の家の子郞黨がついて居る譯であるから、その家の子郞黨一人々々について、千差萬別の役割が想定せられて、作者の忙しさは眼の廻る程であるといふ見て來たやうな話である。

かう言つて仕舞へば、花も實もない話のやうであるが、人間離をれて政治はない。三黨首の妥協は、政治學上の理論の問題でなくして、現實政治上の取引であつた以上、我々はかゝる個人關係を全然度外して政治論を試みることは出來ない。

六

三黨首今回の妥協は、日本政治史上、類例なき現象であり、事は目前的政局變遷の一些事にあらずして、立憲政治そのものゝ根本義に關するがゆえに、吾人は比較的忠實に各般の材料を蒐集して、讀者の眼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前に提供したのである。然らば今次の政治的大取引は如何なる意味において、立憲政治の根本觀念に關係するといふのであるか。

吾人の議論の出發點は、立憲政治といふものは、政治の形式の問題であるといふ點である。善い政治と、惡い政治といふ實質に關する問題ではない、といふことである。この點を我々は明瞭にしなければならない。勿論吾人は、善い政治は立憲政治によることが便宜であると考へて、立憲政治を採用したのである。目的は善き政治にあることは勿論である。乍併、旣に立憲政治を制度として採用したる以上は、政治の運用は、この立憲政治の根本原則に準據しなければならぬ義務を、我々は持つてゐるのである。我々が柔道の試合をする爲めに、道場で敵と顏を合せておき乍ら、ひそかに木刀を背中に秘し持つて、いきなり相手の頭を木刀で撲りつけて、打ち倒したりとしたならば敵を倒すといふ目的は達した、卽ち試合には勝つた譯であるが、それは柔道試合といふ當初の約束を無視したものである。これを我々は、武士道に反するものとして排斥する。何となれば武士道の根本は武士の間の禮儀を守り、作法を守るといふ形式の問題にあるからである。これは、實に見易きの議論である。しかるに不思議なる事には、世上には斯のごとき見易きの論が往々にして閑却せられてゐるのである。本年一月二十五日政友會の發表したる中間報告なるものがその一例である

カーライルが立憲政治を評して、硝子張りの家の中に住むが如し、といつたのは名言である。硝子張りの家の中に住む人の行動は、外部から丸見へである。善惡ともに往來の人、隣家の人に丸見へである。從つて、硝子張りの家に住む人は、うつかり馬鹿な眞似は出來ないといふ自制心が出てくる、それと同時に、何もかも外部に見へてしまふ爲めに、心にもない事をしなければならぬ不便もあらふ。立憲政治は、斯の如き美點と缺點とを包有するものである。ゆえに善政主義者から言へば、何も廻りくどい立憲政治の方法によらずとも、簡單明瞭なる獨裁秘密政治によつた方が、遙かに國利民福を增進すると言へやう。獨乙のビスマークや、伊太利のムッソリーニなどの考はさうである。しかし、それは立憲政治といふ形式には當て箝まらない議論である。柔道の試合に木刀で人の頭を撲る方のやり方である。

立憲政治は一般民衆の意嚮に基く政治である。その機關として議會の票決を用ゐる。しかしその根本の方針は國民多數の意思による政治を行はんとするにある。しかあれば、國民多數の意思は奈邊にあるか、といふことを常に腦裏に置いての政治でなければならぬ。また國民多數が、一つの事件について明瞭なる意識を有せざる際には、これを明瞭ならしむる一切の手段を盡し、その納得を待つて行ふのが立憲政治の根本である。卽ち、立憲政治は納得政治であるとはいはるゝのは、これが爲めである。

しかるに、この理論を移して、三黨首の行動を批判するに、三黨首は、その會合の時までは、解散の避くべからざることを國民に唱導してゐた。さうして、國民は三黨首の言に動かされたるも、動かされざるも、多數は解散と思ひ、また解散を希望してゐたのである。それは吾人が冒頭に於て論じた通りである。

しかるに、三黨首は立憲政治組織中の重要なる機關たる公黨首領といふ地位にあり乍ら、國民多數の意思に反することを斷行した。斷

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行するは、時あつて已むを得ずとするも、その斷行したる主旨を、明瞭に國民の理解に徹せしむることをしなかつた。さうして簡單に、豫算が成立さへすれば、國家のためであると、聲明してゐる。一たい今次の豫算が成立するのが、善いか惡いかは、人によつて議論の異るところであるが、一歩讓つてこの豫算成立が國家の爲めよいことであるとしても、それだから不信任案を撤回するのだといふことは、常識あるものには、如何にしても首肯しがたきことである。若し豫算成立が最重要事なら、初めから議會を設け、主義によつて政黨に分れて議論するなどは、愚の骨頂である。專制獨斷で勝手に定めてゆけばよい筈である。

　しかもその政論休止の理由が、昭和の新政といふに至つては、殆んど人を愚にするも甚しいといはなければならない。昭和新政の隆興を欲するは日本國民一人として異存はない。隆興を欲すればこそ、皆の智慧を絞つてよきが上にもよかれかしと、豫算を修正し、法律を討論するのではないか。しかも、前日不信任決議案を提出したる在野兩黨が何等これ以前に謂はれなくして、その撤回に應ずる理由がない。從て世間の疑惑は『深甚なる考慮』の文字に集中するわけである。この三黨首の談合は、不信任案の撤回と、深甚なる考慮との現物交換ではなかつたかといふ疑惑が、苟も常識ある一切の國民の腦裏に浮んで來るのである。立憲治下にある我々國民は、三黨首に向つて、納得出來るやうな說明を求める權利がある。三黨首に於ては、公黨の首領たる以上、國民の腑に落ちるまで說明する義務がある。

　若し說明しないといふことであれば、それは立憲政治の根本原則を蔑視するものであつて、公黨の首領たる貴き地位を、我れと自ら冒瀆するものである。若槻、田中、床次三氏の個人的利害の爲めでなくして、日本の立憲政治の發達のために、吾人は飽く迄もその端的なる說明を要求する。而して、かゝる國民の要求に應じて、多少一時は不利益でも、公明正大に事實の內容を公表したる政治家は、必らず國民全般の親附を得て、永久に立憲政治家たるの尊敬を確保するに違ひない。

　政治家が死中に活を見出すは、史上その例に乏しくない。嘗て米國大統領選擧の時、民主黨の大統領候補者クリーヴランドの勢望隆々として昇り、多年政權を掌握してゐた共和黨の勢日に蹙まつた時に、共和黨は窮餘の一策として、クリーヴランドの私行をあばきたてた。これはクリーヴランドが未婚の青年時代に通じた婦人があつて、その私生兒がシンシナテイの町で大きくなつて大學に通つてゐるといふ事實を新聞に書き立てゝ、クリーヴランドの聲明を求めたのである。男女の關係の無暗に矢ケましい米國に於て、これはクリーヴランドの致命傷であつた。彼の政友は非常に心配して、これを否定せよとすゝめた。するとクリーヴランドが、新聞記者を呼んで聲明した。

『その子は確かに俺の子だ。若氣の誤ちで、俺はその婦人と關係したのだ。それは事實である。俺は否定しない。』

その聲明書が全米の新聞に出た時に、彼の政友はみんな絕望した。もうこれで選擧は負けた、と思つた。然るに豫想は全然裏切られた。このクリーヴランドの男らしき正直な態度に、全米國民があつと驚嘆した。かゝる眞骨頂ある男子こそ、米國々政を托するに足る人物だ、と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人氣が潮のやうに湧いて、彼は大多數をもつて當選した。こゝに政治家の偉大がある。勇氣あり、正直なる政治家は最後の勝利者である。日本國民は、正義と誠實とに感激し易き性質を持つてゐる。今日の日本國民の痛憤は、三黨首が日本國民を信賴せずして、他人行儀に物をかくし立てしてゐるといふ怒である。民と共にする者は起り、民に背く者は亡びる。百の猾智も、千の術策も、六千萬の民衆の眼を蔽ふことは出來ない。リンカーンの言つたやうに『凡ての人民を一時だますことは出來る。一部分の人民を永久にだます事も出來る。しかし、凡ての人民を永久にだますことは出來ない』のだ。

吾人は必しも、三黨首の言に虛僞ありと斷するのではない。國民に左樣な疑惑があるといふのである。その疑惑を解かぬ限りは、立憲治下の本當の政治家の責任を果してゐないといふのである。

七

若し三黨首の聲明が、飽く迄、そのまゝで本當であり、全部であるといふならば、吾人は、英國議會史中に於ける一大演說中の一挿話にその匹儔を見出すのである。それは一八四六年一月二十二日、英國の天才政治家デイスレリーが、英國下院に於てなしたる不朽の演說である。

それは年久しく續いた穀物條令廢止の運動が、遂に英國朝野の大勢となり、拒止すべからざるに至るや、時の大宰相ピールが、保守黨首領として、多年これに反對し來りたるに拘らず突如として積年の持說を翻し、同條令廢止を議場に聲明したる時、從來ピールの率ゆる保守黨の一員であつたデイスレリーが、敢然立つて試みたピール攻擊の演說で、この一擊によつて、デイスレリーは一躍保守黨首領たるの實權を生じ、ピールは三十年英國議場を濶步したるその位置を永久に失つたのである。而して、デイスレリーが攻擊したるは、ピールが民衆の期待を裏切つた變節改論である。英國の慣例により、辯士は議長に向つて演說してゐる。

『議長、この尊敬すべき紳士（ピール）の取りたる態度の匹儔を、史上に求むることは困難であります。本員の求め得る唯一の匹儔は、トリヴアントの戰爭中に起つた一事件であります。本員の記憶する處によれば、この戰爭中、土耳古帝國の運命正に危からんとしたる時、英邁果敢の前サルタスは、狂瀾を已倒に回さんが爲めに、一大艦隊を艤裝せんと決心したのであります。大戰艦既に成り、精銳の將卒をこれに搭載した。これ等將卒は豫め莫大な賞與金を下賜された相であります（大笑）ソリマン大帝のありし日以來、かゝる精銳なる大軍がダーダネルスの岸を離れたることは無かつた相である。皇帝親臨、お身づから大艦隊の出發を見そなはされ國內の神官擧げてその勝利を神に祈つた――丁度前回の選擧で、當英國中の神官が政府黨の勝利を祈つたやうに。かくて大艦隊は旗幟堂々として君府の岸を去つた。然るに何ぞ測らんこの大艦隊が、戰はずして一直線に敵港に入航致した時に、上帝の驚きは抑々如何でありましたらふ（大笑と大喝采、蓋しピールが變節して敵に降りしを諷するのである）議長閣下、この際に於て、土耳古艦隊司令長官の取りし態度は、頗る世間に誤解せられて居るのであります。彼も亦（ピールを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

言外に諷す）叛逆者と呼ばれたのであります。然し彼も亦（單に亦の字を用ゐて、決して、ビールを指稱せず）、自己の態度を辯明したのであります。彼は申したのであります。然り余は、大艦隊の總指揮官であつた。然り皇帝は、發航に臨み余を抱いて祝福された。然り擧國の神官は、余の遠征の成功を祈禱した。然し乍ら如何せん、我輩は此戰爭に反對であつたのである。我輩はこの戰爭を永引かすの理由を知るに苦しんだ。我輩がこの大艦隊の總指揮官の任務を引受けたのは、この大艦隊を率ゐて敵に投降し、皇帝に裏切つて、戰爭を終焉せしめん爲めであつたのだ。』

此處まで、デイスレリーが述べた時に、萬雷の如き拍手が議場の四隅に一齊に起つた、と議院速記錄にある。それはビールが、穀物條令廢止反對の政策をもつて、英國々民の投票を集め乍ら、何等國民に相談する處なく、政敵の政策を採用したるを誹罵したのである。ビールにはビールの理由があつた。乍併、立憲國政治家として、國民の期待を裏切つた一事のために、彼は遂に政治家として葬られたのである。

吾人は三黨首中の果して誰人が、この土其古提督の地位に立てるやを熟知しない。乍併、今日、日本の議會に天才政治家デイスレリーあらしめば、彼は舌端火を吐くの辛辣味をもつて、國民を裏切る偶像的政治家を、高き權力の祭壇より引き下ろして、寸裂したに違いない。

八

論じて玆に至り、吾人の最も遺憾とすることは三黨首の妥協と、その後の三政黨の態度とが、三黨首の申合を根本的に裏切つたことである。即ち『お互に政治の公明を望む』との聲明は、不幸にして國民をして、不公明の甚しきものなりとの感を抱かしめ『益々國民の議會に對する信頼を厚くすることに努力すべし』との公約は、却て全國民の腦裏に議會政治の價値を疑ふの念慮を生ぜしめ、その結果、新聞紙は擧つて議會記事を減少し、國民はこの小部の議會記事すら讀むを潔しとせざるに至つた。これによつて豫算は成立するであらふ、乍併、昭和の新政は光彩を增さなかつたのである。

吾人は今回の擧を見て、吾人の先輩が、自國の歷史に健忘なるに喫驚するのである。今を去る六十年の昔、王政の御一新は何によつて起つたのか。それは當時勤王の志士が、微溫的なる公武合體論を排斥して、斷乎、德川氏討伐の義軍を起した爲めである。當時若し、長州の藩士が、膝を屈して土佐藩の公武合體論に贊同してゐたならば、機を見るに敏なる薩藩も亦、南洲を捨てゝ公武合體側に追隨したかも知れない。然るに長藩の青年の剛健にして勇斷なるや一藩の兵をもつてよく天下三百諸侯の軍に抗し、二度戰塵を浴びて討幕の烽火を揚げたのである。今や王政維新の鴻業漸くにして其の力を失ひ、明治大正の政治經濟組織は根本的變革の機に迫らんとするに、天下一人の南洲なく、龍馬なく、六十餘州遂に一人の高杉晋作なきか。嗚呼。

九

吾人は、今日の日本の必要とするものは、不合理なる目前的彌縫にあらずして、根本的革新の勇斷であるとなすものである。深刻なる生活苦に惱める國民の眼前に於て、個人の成敗利害を基とする遊戯に等

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しき政爭を行ふは國民の深恨に培ひ、闔國の痛憤を唆り遂に建設的進步の途上に一大障害を置くものである。端的に言へば、現在の衆議院議員の壓倒的多數は解散恐怖病に罹つてゐる。その重患が、外間勢力の利用する處となつたのである。その弱點が、三黨首をして含糊摸稜の聲明を爲さしめたのである。その病弊が日本現代の政治を、斯のごとく連日淫雨のごとき鬱陶しき天候と化したのである。乍併、立憲政治を採用せる今となりては、吾人の往くべき途は、たゞ進むあるのみ。進んで選擧を廓清するより途はない。しからずして、徒らに一時の安を偸んで、千年の憂を殘すごときは、國家に忠なるもの丶爲すべき處ではない。

少しく實地に就いて、地方選擧界の實狀を踏査したるものは、次回の總選が從來に比して一大變革を生ぜんとしつゝあることを、容認するに吝かでであるまい。かく言へばとて吾人は、次回の普通選擧より直ちに、日本政界の分野激變すべしと速斷するものではない。たゞ、次回の總選擧は、日本政界大變化の發端であつて、これを端緒として、日本の現存勢力に一大變化が起るであらうといふに止る。この起らんとする一大分解作用によつて、最も深刻なる影響を受けんとしつゝあるものは、既成政黨であり、その分解作用の速力を早めたるものが、今次の不合理なる三黨首妥協である。ルイ十五世はその全盛の日に於て『朕の後に洪水あるべし』と言つた。敏感なる政治家は、いま日本の千岳萬峯に鳴りよどむ風雨の聲を聞いて、來るべき暴風雨のよさしを感得するに違いない。數人乃至數十人の人々の歡心を買ふために、千萬人の新有權者を憤らすことは賢明なる政治取引ではない。今の日本に於て、新興勢力が未だ組織化せられてゐないといふことだけをもつて、舊勢力保存の唯一の安全辯と觀ずる人があるならば、彼はメッテルニッヒのやうに突然夜逃げをしなければならぬ日が來るであらう。

民と共に往く者は興り、民に背く者は亡びる。三大政黨は今や國民の深恨を買つた。しからば彼等は、長く相提携し相妥協し、脚下に洶湧する新興勢力に對し、共同戰線を張つて、日本保守勢力の代言人たらんとするのか。あるいは果た、此等舊勢力中より三五の天才崛起して狂瀾を既倒に回し、以つて過渡的日本の支柱たるの役割を演ぜんとするのか。(一九二七・二・七)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

指導精神を缺如せる政團の存立と其活動

（三黨首の妥協を評す）

清瀬一郎

一　深甚なる考慮

昭和二年一月二十日、政友會並に政友本黨の名に於て、衆議院に提出せられたる不信任決議案の全文は左の如くである。

現內閣ハ大逆犯人ニ對シ濫リニ減刑ヲ奏請シテ輔弼ノ重責ヲ誤リ、大權ノ發動ヲ豫斷シテ之ヲ事前ニ漏洩シ、司法部ノ失態ハ司法權ノ威信ヲ汚損シ、綱紀ノ紊亂ハ世道人心ヲ廢頽セシム、加之、經濟政策ハ深刻ナル不景氣ノ招來シテ國民生活ヲ脅威ス、而シテ內閣總理大臣若槻禮次郎ハ自黨耆宿ヨリ僞證ノ告訴ヲ受ケ、國民疑惑ノ中心ト爲リテ信望地ニ墜チタリ、而モ猶ホ黨利ニ眷々トシテ恬然自裁スルコトヲ知ラス、議院ノ質問ニ對シ誠意ノ認ムヘキモノナク、皇室ノ尊嚴ト道義ノ大本ヲ維持スルニ於テ全ク關心セサルモノ、如シ衆議院ハ現內閣ヲ以テ昭和ノ宏猷ヲ翼讃シ、大政ヲ輔弼スルノ重任ニ堪ヘザルモノト認メ玆ニ其處決ヲ促ス

右決議ス

右決議案は、一月二十日正午議院に提出せられたものであるが、議院が未だ右決議案を上程討議するに先ち、全日午後一時四十分、議會は停會を命せられ、全日午後三時より三黨首の會合となり、世人、驚異の裡に三黨の妥協は成立し、若槻首相は「深甚なる考慮」を爲すことゝと爲り、政友、政本は右決議案を撤回することゝとなつた。

私は、本稿に於て此妥協に關し、言を下さんとするものであるが、私の所論を明瞭にするため、豫め此二事を約束して置く。其一は、私は右不信任決議案の內容を批判しないことである。私は議員として、此不信認案の討論に加はらんとして準備を爲した一人であつた。此案に包含せられて居る事項については多少の意見を有つては居るが、本稿に於ては、之に論及しない。其二は、右不信認案の撤回其ことの可非を論しないことである。內閣不信認案が輕々に提出せられ、輕々に撤回せられたることについては、議論すべきものが大にある。しかし、かゝる形式論は、今日はせぬ。——唯だ玆に論せんとするは、右の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

様な不信任案が「深甚なる考慮」といふ條件の下に撤回せられたるの一事である。

二　果して政權爭奪の具たりしか

不信認案の骨子は、朴烈事件である。案には、現内閣は大逆犯人に對し濫りに減刑を奏請し、皇室の尊嚴と道義の大本とを維持するに於て全く關心せざる者なりと在る。又、政友、政本の兩黨首は、昨年以來朴烈減刑問題は、政策以上の問題である。政策の贊否にかゝはらず、此一點に於て現内閣の存立は許すべきでないと言つて居る。私は前項に約束した如く、右朴烈問題が、皇室の尊嚴を傷けたか、道義の大本を壞つたか、はたまた、右問題が政策以上の問題たる性質を有するものであるのか。これ等のことには今は論せぬ。然し乍ら、彼等は、此重大問題（彼等の言に依れば）を深甚なる考慮の言質の下に一擲した。深甚なる考慮とは何であるかは知る由もないが、政友會が之を如何に解したりやは知ることが出來る。全會は之を内閣明け渡しの豫約と解した。此事は全會の名を以て發表したる「中間報告」なる文書に明瞭である。政友本黨の解釋も之と大差はあるまい。尤も右は「深甚なる考慮」の正解であるといふことは保證は出來ないが、本論の目的のためには、それは必すしも必要でない。政友會政友本黨が、之を如何に解したかを確めれば即ち足る。彼等は之を内閣の明渡しと解した。自黨への政權移動と解した。自黨に政權が移轉してくる可能性が見へるならば、皇室の尊厳も道義の大本も袂引にする。政策以上の問題も亦之を抛棄する。こゝが論點である。皇室問題を自派政權獲得の手段に供せりなどといふことは、容易に斷定すべき事柄ではないが。しかし乍ら、深甚なる考慮（政權移讓の暗示）に依り忽にして、曾て、倶に天を戴くべからさる不忠者なるが如く言ひ觸らしたる内閣とも妥協したといふ事實がある以上、最の大聲疾呼は、實は憂國の至誠より出たのではなくして、政權獲得の手段たるに過ぎなかつたと疑はれても辨明の途はなからう。彼怪寫眞を散布した者も、彼等の系統の者であると解せられて居る。彼等は怪寫眞を以て、皇室の尊嚴を傷ける者と唱へた。私は左様は思はぬが、彼等は左様に唱へた。皇室の尊嚴を傷けると思つたならば、之を廢棄、焼却して、世人の目に觸れしめぬやうに仕たらどうだ。之を廢棄せずして、復製し、之を焼却せずして之を頒布した。彼等の尊王觀念にも多少の融通はきくものと思へる。彼等の國體の一員は、直訴を企てしめた。直訴といふことは我國の歴史にはある。君側に奸臣汚吏が纏はつて、下情は上聞に達せない。胸臆訴ふるに途がない。止むに止まれず、一封を草して車駕を要す。死は固より決する所、言天聽に達すれは、我事足れりとして自裁を企てる。これが直訴である。彼れ等の企てた直訴は少々之と異る。賃金を與へて直訴を敢行せしめんとしたが、貰つた者は金は欲する所であるが、直訴を敢行するの勇氣がない。躊躇逡巡して決せない。事露はれるや、逃避辨解至らざるはない。眞實、訴ふるの途はなくして玆に至つたものとは見ることが出來る。——朴烈事件は政策以上の問題だと憤慨した顔をしたのも、怪寫眞を撒布したのも、直訴を企てしめたのも、總ては一の手段であつた。政權爭奪の手段であつたのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三　故意に國民生活の脅威を企つるか

不信認決議案中には、現内閣の經濟政策が、深刻なる不景氣を招來して國民生活を脅威すと在る。私は果して、現内閣の經濟政策が國民生活を脅威するか、少くとも之を壓迫しないかについては本稿では論しない。しかし、政友、政本兩黨は現内閣の經濟政策は國民政活を脅するものであると始終唱導し、また右決議等に明言した。この内閣の經濟政策は何に現れて居るか。それは問ふを須ゐない。現内閣提出の豫算案に編み込まれて居る。然るに今回の妥協は「昭和の初に於て豫算の不成立を避くるため」に行はれた。國民生活を脅威する豫算案なりと知り乍ら、此豫算の成立のために妥協した。生活脅威の豫算なりと信じつゝ其成立を圖つた人々は、自ら國民生活の脅威を企てた人々であると言はれても辯解の辭はなからう。毒と知りつゝ飲めと薦めた。人を毒殺する者と言はれても仕方はない。何故に既成政黨は國民に毒を薦めるか。それは、考慮の言質、即ち政權抛け出しの暗示を得たからである。政權獲得のためには國民生活の脅威も亦意としないのである。

四　政權、何がために獲得せざるべからざるか

既成政黨は政權獲得のために狂奔して居る。皇室問題も政權獲得の具である。國民生活の脅威も亦政權獲得のためには之を忍ぶ。脫黨も合同も、皆政權獲得のためである。果して然らば、我國の既成政黨は何が爲めに爾く政權の爲めに顛倒狂奔するのであるか。

元來、私は眞の意味に於ける政黨が、政權獲得のために活動するを怪まぬ。國家や、社會や、民族のため、施さんとする一物があるならば、而して之を施すには政權を必要とするならば、此團體が政權獲得の爲めに活動するは當然である。政治團體にして政權獲得を是認せられる場合之に確乎たる指導精神の存在する場合である。露西亜の共產黨は共產主義の社會を作らんがため政權獲得を企てた、支那の國民黨は三民主義のために戰つて居る。英國の勞働黨でさへもが、「新社會秩序」のために政治活動を爲しつゝあると唱へて居る。同じく政權爭奪を事とする我國既成政黨に何の指導精神がある

或は答へて、資本主義の擁護といふ人もあらう。然り、彼等の頭は資本主義である。しかし乍ら、彼等は、自己が資本主義者であることを意識しては居らぬ。吾々が言ふ資本主義といふものを當然の事物と思つて居る。地球のまわりに空氣が在る如く、人類界に資本主義があるのを當然と思つて居る。資本主義の爲に戰ふなどいふ事を考へたこともない。政黨の指導精神は意識的でなければならぬ。無意識のものは戰の目的とはならぬ。資本主義亦我國既成政黨の政戰を指導するの中心目標と言ふに足らぬ。

彼等も亦政策を立てる。政策は指導精神ではない。政友本黨は今六大政策といつて居る。政友會は產業立國といつて居る。憲政會は明白でないが昨年は勞働立法などと唱へたこともある。此頃人口問題の解決とか、唱へて居るそうである。此等は事務解決の對策である。此對案の出て來る根原たる原理、精神は何處に在るか。

我國の既成政黨には確乎たる指導精神はないものと斷せざるを得ぬ。而も、政權にあこがれること前述の如し。其本意何處に在るか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世人は既成政黨の政權爭奪の目的は利權獲得のためである。といふ。言ふ迄もなく、大臣の地位、政務官の地位も亦此意味に於ける利權の一種である。內閣さへ獲得すれば製鐵會社も買上げられる。預金部の預金も借り出される。地方鐵道の買收も出來る。勅選議員も任命せられる。此間に金錢の授受なしとは誰か之を斷言し得る者ぞ。利權の獲得は金錢のかり集めを聯想せしめる。指導精神なき政團の政權爭奪の動機は畢竟黃金のための鬪爭であるか。黃金について思ひ出す一事がある。それは我國政界に一の黃金の謎があることである。西比利亞に於て鹵獲せられたる金塊の行衛が明でない。世人是亦政黨關係に使用せられたことも傳へる。私は多少之に關して知る所があるが、詳細は別に稿を改めて之を說かう。たゞ此一事だけを玆に附加して置く。私は陸軍大臣に對し、問題の金塊を西比利亞より內地に輸送した所の運送船名を糺した。之に依り積荷目錄を知らんが爲めである。陸軍大臣の答辯は、「右運送船名明ならず」と言ふに至つた。數百萬留の金塊を運送した運送船名が明ならずとは、是は又、不可思議なことである。疑問は依然疑問であるが、金塊を盜んだ者があるとすれば、これ亦個人的利慾の爲めでなく、政黨關係のものであると噂されて居る、

五　何が故に、黃金を是れ漁るか

既成政黨は理想實現の爲めに政權を爭はず。利權のために之を爭ふ利權は黃金に換價せんとする。古く滿鐵事件あり、阿片事件あり、明治神宮參道事件あり。近く松島事件あり、あかぢヶ原事件あり、機密費事件あり、金塊事件あり。彼等、抑々何が故に黃金を漁るに爾く、憂き身をやつすのか。政黨黨首は金錢を愛する事、高利貸の如きか。子孫の爲めに美田を買はんとするか。曰く否、曰く否。

私は玆に格列、政黨領袖を禮讚するの必要を見ないが、彼等は高潔なる人格者とはいはざる迄も、金錢に執着ある人と見るは誤である。故原敬君にしろ、横田千之助君にしろ種々なる問題は起したが、自ら奉ずること儉素である。死後に於て兒孫に財產を貽した者ではない。今生存の某氏は「金が無ければ黨首は勤まらぬ」と稱へて、多年の同志を裏切つて既成政黨へ逃げ込んだ。此人も亦種々の世評はあるが、金錢には淡泊であつたことは、何人よりも私が最もよく之を知る。

政黨幹部は、金錢には淡き人格の者であり乍ら、黃金を漁ることに心肝を碎きつゝある。誠に一見矛盾の現象の如くに思はれる。此、矛盾は何處より來るか。――思ふにこれは矢張り既成政黨の本質より來るものではないか。

既成政黨には明確なる指導精神がない。其活動と結果を催起すべき魂がない。中心理想がなくして而も團體は維持しなければならぬ。その團體に、指導精神さへあらば其首領は、さまで金錢に頭を惱ます必要がない。首領の勤めは此指導精神に忠であるべき一事のみである。政治團體ではないが、我國にも宗敎團體といふものがある。大本敎でも天理敎でも、はた佛敎でも、基督敎でも、彼等は一つの敎理を有つて居る。管長は此敎理に忠ならば團體は自ら維持せられる。活動は自ら催起せられる。支那の孫文でも、露西亞のレーニンでも、自黨の理想に忠であるといふ事を以て信望を博し、團體の維持をなし遂げた。然るに日本の既成政黨には敎理に比すべき理想がない。總裁も理想の抱持

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

者でなければ黨員も亦理想を持ち合せて居らぬ。理想の共通なくして團體を維持し活動を催起せねばならぬ。玆に何等かの魔術がなくてはならなぬ。魔法は何處に潜むか。

神社、佛閣に鳩が居る。固より理想の共通はない。しかし鳩でも集合せしめることは不能ではない。一握の豆を以つて之に臨めば忽ちに雲集して來る。奈良公園に鹿が居る。悠々として漫歩して居る。亦固より理想はない。しかし餌を以て之に向へば忽ちにして數十百頭を集めることは容易である。魔術はこゝに在る。理想なき總裁が、理想なき黨員を集めるには豆では、行けないが、黄金ならば行ける。利權ならば行ける。黄金を與へ利權を約束すれば理想の共通はなくとも人は集まつて來る。黄色の光を望み、利權の臭を嗅ぎつけて集つて來た者を政黨員と名つけ、「黨政有終の美を濟さんことを期す」と決議すれば政黨は成立して居るのである。黄金を以て集つた。黨勢を維持するが爲めには此黄金を絕やさぬやうにしなければ總裁は勤まらぬ。黄金が絕ゆれば黨派は瓦壞する。黄金が少ければ政黨の活動(例へば直訴の類)は萎靡して振はない。是即ち黨首が黄金を漁る動機ではないか。黄金豐富でないときは、黨首はお互に顏を見合せて政戰を避ける。政黨首領が黄金、利權を漁るは必ずしも其人格にあらずして其環境に在る。

私は政黨員を鳩に譬へ、鹿に譬へた。しかし乍ら、玆に亦一の註解を必要とする。私は今日の政黨員が、亦必すしも金錢に執着する高利貸であるといふのではない。事實をいふと、我政黨員は皆窮措大である。金錢の勘定は知らぬ。中には先祖代々の家產を蕩盡して舊[illegible]地に井戸と塀とのみを遺殘して居る人もある。世之を井戸兵衞先生といふ。自ら、金錢を愛せずして、而も金錢を望むこと大旱の雲の如きは何故である。かれは言ふ迄もなく選擧に金がいるからだ。選擧には何故に金がいるか。これには種々な原因もあらうけれども、其重な原因は、彼等が理想信念を以て選擧に臨まないからである。熱烈、火の如き信念と、人民の胸にひたと釘を打ちつけるやうな理想とを以て選擧に望むならば、今日の如き投票買收なくとも選擧は行はれよう。院外團の操縱にも小使錢はいるまい。よく、我國選擧民の無自覺を訴へる聲を聞く。國法の無自覺を訴ふる人は、顧みて自ら自已の熱誠を問へ。自已の理想を採れ。德川末期以來我國に農民運動といふものがあつた。强訴と名つける。名の傳へられた頭目は佐倉宗吾である。汝も亦し佐倉宗吾の熱意を以て政治に活動したとすれば如何。汝に向て金錢を要求する農民があらうか。汝に向て小使錢をせびる有志者があらうか。今の政黨員が候補に立ちて過當の金錢を要する所以の理由は、政黨員に守持して動かざる理想、觸るゝ者を燒盡すが如き熱誠なきが爲めではないか。(我國の政治團體のうちでも舊國民黨、今の革俱樂部は理想の閃きらしいものを持つて居つた。そして相當の熱意を保つて居つた。それ故黨員はあまり金錢の要求をしなかつた。途中一部の者に一貫することが出來なくなつたのは遺憾である。)

六、既成政黨の將來

我國今日の既成政黨の特色は、確然たる指導精神がないといふ一事である。(私は玆に「今日」の文學を加へた。過去に於ける「藩閥打破」

即ち封建思想の驅逐は、當時の政黨の指導精神であつたといふ事が出來やうとも考へるからである。それさへ今日は無くなつた)。精神なき政黨は實は政黨ではない。生命なき人といふと同じく言語の不正確であるが、假りに此略稱に從ふ。それは兎もあれ此指導精神なき政黨の將來如何。之を如何に取扱ふべき。

吾々は、理想なき政黨の存在は國家社會に害毒を流すものである。之を打破撲滅せねばならぬと叫びつゝあるものである。普通選擧の實行と、無産政黨、青年政黨の擡頭に依り理想なくして利權をのみ是れ漁る既成政黨が一日も早く我政界より影を沒せんことを願る。或人は既成政黨をゴマノハイに譬へた。ゴマノハイは今より七八十年前迄は到る所の驛宿には潛在して旅人を瞞した。其初めは親切そうに談しかける。住所を聞く、家族の狀態を聞く、自己も同樣の境遇なることを告げて旅人の友となり、遂に同宿するに至る。同宿するに至るや隙を窺ひ、其荷物を盜みて逃げ去るのである。今の政黨が、民衆に媚び、減稅と唱へ、米價釣り上げと稱し、國民の友なるが如く、言ひ振らしいざといふ場合に妥協苟合、國民をアツと言はせるのを形容したものである。人智は開けた。今やゴマノハイは跡を絕つた。たゞ昔がたりに之を聞くのみである。政界のゴマノハイも人智の開けるに從つて消滅することゝは信ずる。然し乍ら、彼等の我國民中に巢ふ事は既に久しい。之が全滅までには、相當の歲月を要することゝ考へる。今が彼等の最隆盛期なりとすれば、其消滅にも凡そ、其成長までの年月(三十年)を要するものと見ねばなるまい。

七、此弊害を如何に緩和すべき(政黨改革の法案)

既成政黨は打破せねばならぬ。又必ずいつかは消滅する。しかしそれ迄には相當の歲月を要する。此期間、彼等の弊害を除却し又は減する方法がなくてはならぬ。其方法如何。

或人は既成政黨に指導精神を與へたらば好いではないかといふ。しかし、これが左樣手取り早く行くと考へるのは皮相の見である。指導精神がないのが既成政黨である。これに精神を與へたら既成政黨ではない。これに此精神を與ふるのには容易でないが、假りに出來るとする之に例へば右の精神を與ふれば左及び中間の者は去らねばならぬ。左の精神を與ふれば右せんとする者は去らねばならぬ。いづれ此種の經過に依つて既成政黨は瓦解するものと思はれるが、此經過を採るにもやはり相當の歲月を必要とする。それ迄の間はやはり政黨改革の必要はある。

私どもの院內の同志(新正俱樂部)は第五十一議會以來既成政黨の弊害を除却するための三法案を作成し之を議院に提出して居る。三法案とは政治運動のため金品供與に關する法律案、黨勢擴張の方法制限に關する法律案、議員の職務に關する法律案の三である。其骨子とする所は大體。

(1)黨費公開の原則並に政府の保護會社等より黨費の寄附を受くべからざること、

(2)地方特殊利益を條件として政黨加入を勸誘せざること。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(3)議員が其政治的活動に依り金品を受くる場合を一切瀆職罪とすること。

の三である。右三案の詳細は、また筆を改めて披瀝するの機會もあらう。一月三十一日右三案が議會に於て上程討議せられんとするや、政友會、政友本黨は言を構へて其審査を妨碍せんとしたることは、當時の新聞紙の報導に依り讀者諸君の了知せらるゝ所である。

既成政黨は政權爭奪を目的とする株式會社だとは曾て何人かが發明した警句である。此度、彼等が皇室の尊嚴を冒瀆する大問題なりと唱へ、且其世論を喚起すべく相當の投資までした朴烈問題でも、はた國民生活を脅威すると唱へた經濟政策でも、政權拋棄の暗示のある以上は解散を受けて選擧を爭ふよりも安上りであると考へて深甚の考慮の一言で大安賣りに投げ出した所はどうしても、會社も會社、投機を目的とする株式會社とは好く言つた。株式會社には之を監督する法規が必要である。會社法と其罰則。これがなければ詐欺横行である。(あつても相當行はれるが)。政黨が當分右様のものであつて見れば、之が制裁法規が必要なることは勿論である。敢て我々の三案とは言はぬ。天下の明智を集めたる政黨法規の成立を希望する(二、二、二、於福山)

梅の二枝

碧梧桐

蜜柑むぎ殘る一つ二人して火にかけて
水鳥の鳴きかはしよる尾をふりてつがひと番ひ
庭かぎる垣に沿うて細徑のつく椿の森へ
火事を見る崖から崖への聲々の裏にする
鵜を見る波しぶくまゝ一ト漕ぎ出でん小舟を休む
唄をうたふ子うたはずにあれ一人になれば
椴の脂楷いぢるいたづらな手に
葉つめば藪のそゝけし陽ある風吹く
西空はるか雪曇りする家に入り柴折りくべる
梅の二枝挿し具合の莟のおちて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治史の光明面

三浦周行

一 光明の閃

明治九年、我全權公使森有禮が支那に赴いて李鴻章と談判を重ねた時の事、將來亞細亞と歐羅巴との交際は如何の狀を見るに至るべきかとの李の問に對して、森は余も亦亞細亞人ではあるが、鄙見に據ると亞細亞が歐羅巴と互角の地位にあり得るは幾百年の後の事であらう、今日の亞細亞の俗が下賤野卑で禽獸を去ること遠からぬは、人間の母でもあり、一國一家の母でもあるところの貴重なる婦人を卑み、これを遇することの無道なる殆ど獸類を遇するに等しいのでも知れると答へたので、道の李もあつけに取られて、これは甚だ奇異の論である、閣下は西教の徒かといつたさうである。歐米を二回も視察して、一廉の西洋通となり濟ました森の眼には、當年の亞細亞の未開蒙昧が唯忌はしくも厭はしくも映じた事であらう。而かも其亞細亞の一角に位する蕞爾たる島帝國が僅々五十年立つか立たぬ中に早や歐米の或る諸國をも凌駕して、世界五大强國の一に伍するに至らうとは夢にも思ひ設けなかつた。

實際明治初年の我文化を單へに其暗黑面から窺つたならば、官吏の横暴、士族の頑冥、平民の無理解等から、政治上に社交上に種々の醜陋なる事相が活動寫眞のフイルムの如くにそれからそれへと演出され具眼者をして笑止とも滑稽とも思はせ、西洋かぶれの人には嫌氣を起させたのも無理はなかつたが三百年鎖國の夢から醒めたか醒めぬか猶ほ夢現の間にあつたところの我國民が遽に目まぐるしい程の急激なる各種の變革に遭つたのであるから、彼等の判斷や態度の、ともすれば正鵠を失ひ平靜を缺いだことも亦多分の諒恕すべき點があつたと謂はなければならぬ。

然らば我國民は如何にして斯くも識者の豫想を裏切つて逸早く、それらの暗黑面から光明の世界に脱け出でることが出來たであらう。此謎を解くにはもとより微妙なる時の動きと其力とを見遁す譯に行かぬが、同時に暗黑の世界に絶えずほの見えて居た光明の閃が時の流れにつれて、さながら彗星の尾の光の如く、次第に大をなしつゝ、赫々たる光輝を放つて暗黑面の征服に打勝つたことも閑却出來まいと思はれる。私はこれからそれらの断續的に起つた閃が明治の文化を光明の世界に導いて行つた跡を追うて、明治維新に纒はる各種の謎を解くに何程かヒントを與へたい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二　政界の新風潮

明治維新の風雲を捲起した原動力は決して單純ではなく、保守派もあれば進歩派もあり、同じ進歩派にも急進派もあれば漸進派もあつた。併し其何れもを通じて現狀打破には一致して居たのである。あらゆる因襲から脫出して、新しい見地から事物を見詰めるといふ氣分は斯うした時でもなければ望まれない、眞に千歲一遇の時機であつた。

先づ政治の方面に眼を注いで見ると、明治の劈頭第一に國是を御定になつて神明に誓はせられた明治天皇の五箇條の御誓文の第一條に廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシとある會議は近代的のそれとは違つて所謂列侯會議を意味して居り、平民迄を含んで居ないと思はれるが、それにしても會議といひ公論といふは公議輿論の語と共に此時代のモツトーとして識者の口癖としたところである。諸藩の貢士を以て公議輿論を代表させ、貢士を以て公務人とし、後公議人と改め、公議所に詰めさせられたことや（明治元年）天下の衆議公論を以て國是の大基礎を確定せんが爲めに、東京在勤の五等官以上のものからそれぐに忌憚なき意見書の提出を命ぜられたことも（明治二年）又公議所が集議院となり、藩選議員の集議院が官選議員の左院となつたことも（明治四年）皆同一の精神の發露でないものはなかつた。彼明治七年の地方官會議の開催の如きも、五箇條の御誓文の精神に基いて、全國の人民に代つて協同公議を盡くさせられたものである。これを人民の公選に依る代議制度に比すれば、もとより多大の距離があるとはいへ、民度が一般に猶ほ低級にあつた過渡期に於ては、代議制度に導くところの一中間機關になり得たことは彼民選議院の提唱が左院から出でたのを見ても、思ひ半ばに過ぎるであらう。斯くして憲政は生れ出でたのである。

所謂萬機公論に決すといふことの重大なる結果はそれが君主獨裁政治の終熄其者であつたからである。昔は大化改革の母法とも看做すべき聖德太子の憲法十七條に、夫事不レ可ニ獨斷一、必與レ衆宜レ論、少事是輕、不レ可ニ必衆一、唯逮レ論ニ大事一、若疑レ有レ失、故與レ衆相辯、辭則得レ理、と見えるは、大化二年の詔に、夫君ニ於天地之間一而宰ニ萬民一者、不レ可ニ獨制一、要須ニ臣翼一、由レ是代々之我皇祖等共ニ卿祖考一俱治、と仰せられたことと正に相一致して居る。其君主の獨制を不可として朝臣の扶翼に依らんとせられ、殊に衆と共に論ずべしといはれたあたりは五箇條の御誓文と恰も符節を合して居るものではなからうか。これを見ても前後の間に何等か共通の改革氣分のあることが思ひやられやう。

洋の東西を問はず、改革や革命の行はるゝところ、そこには一人若しくは少數者の獨斷擅行から各種の情弊が其極に達して居ないものはない。其根本的革新を圖るものが全然正反對の立場から衆智を集め公論に聽くに傾くは當然の成行である。暴君の專制政治や貴族僧侶の壓制政治に反對して共和政治の起つたことは、其一つの表現と見るべきである。少數の閥族政治の顚覆に依つて成立したところの大化の改革と、將軍の獨裁政治の衰亡に伴つて成立した明治の維新との間に或共通なるものゝあるべきは今更言ふ迄もあるまい。

其時に當つて獨裁を排し衆議を盡くすを可とするの議論と其實行とは一部識者の首唱といはんよりも、寧ろ全時代の聲といふべきものであつて、必ずしも外國の知識を假りた譯ではなかつた。明治維新の場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

合に於ても、會議や公議を尊重するの意見が既に幕末に於て論議を重ねられたのでも知れやう。

さりとて大化明治共に其思想の背景に於て外國的な色彩の混入を全然否定し去るものがあらば、それはみづから欺くものであらう。前者にあつては支那の色彩が濃厚であり、又後者にあつては歐米の色彩に彩られて居る。從つて前者が「衆」といひ「臣」といふも、それは寧ろ少數なる官僚を意味するに止つて居たけれども、後者は順序として同じく官僚や士族を先きにしたとしても、結局は平民をも包擁するところの一般人民に迄擴充されなければ已まなかつた。五箇條の御誓文に「上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ」といはれ、又「官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲ、人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス」といはれた字句の上にも其精神の現れを掩ふことが出來ぬ。

此會議の風潮は獨り中央ばかりでなく、地方に於ても亦滔々として瀰漫して行つた。こゝに一二の例を擧げれば高知縣の如きは、毎月三八の日を以て少屬以上の會議を行ひ、廳內各課長より令、參事に伺出の中上局の決し難きものを其審議に附することにして居つた（明治七年）熊谷縣の如きは管下に秩父、高崎、熊谷等の民情氣風を異にしたものがあつたから、舊入間縣の管下を南組とし、舊群馬縣の管下を北組として、各組一定の日を設け縣令臨席して議事を行つたが、其後南北合併して、毎月一回會議を開くことに改め、二三回これを試みたものゝ、兎角議論が折合ひ兼ねた爲めに、再び南北二組に分つて開會することに復した。（明治七年）これ一つは當時縣の分合が不自然に行はれたのにも依つたらうが、一つは封建割據の餘風が猶ほ消え失せなかつた爲めでもあつたらう。此會議の內容は明らかでないが、筑摩縣の如きは議事所を縣廳內に設けて毎月十六日を開會日として居る。議員は管內の區長、戶長神官等の中から六十餘名を選任し、縣令、參事を始め屬以下が出席して事務上の疑問を解決し、民間の不便を改めんが爲め議題を設けて審議をなすことゝして居た。（明治六年）其他區戶長のみを召集して會議を開催することもあつた。新潟縣の如きがそれである。同縣では縣下各區戶長約二百餘名を縣廳に召集して、先づ議題を交付し、三日間の熟考期を與へた後、書面を以て意見を述べさせ、更に日を期して會議を開催し、縣令出席して、一々議案を讀み乍ら說明を加へ、五日の後に散會した。

これは縣主催の區戶長會議であるが、此會議の風潮は更に民間に迄行渡つたらしく、或地方では（名東縣の如き）大區會、小區會を設け、年齡二十歲以上の戶主の互選に依つて二十人の議員を選擧し、一箇年を任期として地方公共の問題を議したものがあり、又他の地方では（例へば讃岐國山田郡の如き）郡中の區戶長を始め各村の有志が寺院抔に一箇月に二回づゝ會合して、郡內の利害得失について協議したところもあつた。それらの中には、地方官の意を承けて開かれたものもないではないが、又彼等の自發的自主的な會議であつて、何等官憲の干渉を受けぬものもあつた。一寸考へると、郡役所廢止以前に於ける郡會の起源であるかの如くに見えやうが、當時行政區畫としては府縣の下に區があつて區戶長を置かれて居たけれども、郡役所の如きものはなかつたのであつて、却て郡役所廢止後の今日に似て居り、一種の民會と謂ふべきものであつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以上は中央から地方へかけての各種の會議について單に其一端を擧げた迄であるが、明治八年の地方官會議の席上、木戸議長の説明に據ると、當時全國府縣の民會を開くものが七縣、區戸長會を開くものが一府二十二縣の多きに及んで居たとの事である。以て會議の流行の兆をトすべきではあるまいか。政府の施政方針に反對した士族や兵士乃至農民等の隨時隨處に開催した會議はもとより變態ではあつたが、會議の必要が一般に認められた一つの實例とするに足りやう。

此公議輿論を尊重して獨裁專制を排斥することゝ共に、官吏の公選や其任期に制限を加へた事抔も確かに人材に渇した時代思想の一つの現はれであつた。前者は中央に於ては内閣總理大臣ともいふべき輔相以下、地方に於ても藩の家老たる執政參政以下に及んで居る。而かもそれが單なる法制上の明文であつたばかりでなく、明治の初年に於ては現に其實施を見たのである。後者は彼五箇條の誓文の草案に於て貢士（若しくは徴士）期限を以て賢才に讓るべしとの一條があつたことでも、其新陳代謝が如何に重きを置かれつゝあつたかを察すべきであらう。

三　社會の特相

明治維新は言ふ迄もなく、社會の大變革であつたが、これに依つて最も深刻なる打擊を蒙つたものは、何といつても武士階級であつた。それ丈頑冥不靈で新政に不平を唱へ、反感を抱き、舊藩の復活を望み新政府の顚覆を希つたものも、殆ど此階級に止めを刺したといつてよい。それ丈又彼等は新政府に取つてはさながら一大敵國の觀を呈しつゝあつた。

さり乍ら中央といはず、地方といはず、當年政爭の中心人物として盛んに活躍を續けつゝあつたものも彼等であれば、教育の主腦も亦彼等であつた。商業すら其規模の大なるものは多くは純商人よりも寧ろ武士の前身から歸商したところの彼等に依つて計畫もされ達成もされた。これ武士の傳統的氣質や其修養が此大變革に善處すべき素質として惠まれ、從つて其適材をも生むに至つたものである。當時からして庶民の參政は望ましい事に思はれて居ないではなかつたが、彼等にそれらの素養の缺けて居る間はこれらを公平に考へても其實行は頗る困難であつた。明治の初年に於て諸藩の貢士や官選の議員を以て公議輿論を代表させることゝしたのは餘儀ない次第があつたらう。

其中に庶民參政の機會は下層の行政區畫たる區に依つて與へられた租税の賦課其他彼等の生活上に利害を及ぼすべき諸問題について忌憚なき討議を命ぜられた彼等は「感涙を拂ひ」乍ら決議事項の答申に及んだものである。彼等の參政に對する訓練は遂に府縣から一國の議會に臨むに堪へさせられた。此くの如きは獨り參政問題ばかりではな移して以てすべての場合に適用すべきである。

新政に依つて最も利益を受けたものは庶民であつた。彼等は藩政時代に於ける御用金、年貢、物成等のあらゆる苛征誅求から免れて、田畑の所有權は確保され、平民の無意義な名稱を冠せられて居つても明治の初年に於ける士族の刑法の差別的規定が撤廢された後には法の前に平等となり、教育は機會均等を得、兵役も全國皆兵の前に平等無差別となり了つた。多年下層民として虐げられつゝあつた彼等は義理とし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て新政に謳歌し悦服せざるを得なかつたのである

而かも各其分に安んずべく運命附けられた彼等は、これ丈明瞭な事實をも充分に自覺する迄には可なり多くの時間を要した。彼等の中でも商人は其職業關係から、比較的時勢の推移に順應するの好適な地位に置かれたが、農民は聊かこれに反して居た。彼等は教育の普及の爲めに小學校の開校に要する經費の寄附を求められても、農家に學問は不要であるといつてこれを拒み、（熊谷縣の場合）又學問といへば、大學論語の如きものを讀むことゝのみ心得、斯る學問は子弟を生意氣になし、農業の妨となりて生活の困難を來たすといつてこれに反對し、（愛媛縣の場合）縱し出金を承諾するにしても、子弟の入學を強ひられぬことを交換條件の如くに歎願した。彼等の一揆を起した場合は先づ小學校と、府縣官の旨を承けて彼等に諒解を求めるに力めた區戸長の邸宅とは必ず襲撃を受けて燒拂はれたものである。（鳥取縣北條縣等の場合）

それが一朝理解されて來ると、彼區會に於ける忌憚なき討議に感涙を拂つた如く、彼等は啻に快く賦課に應じぬばかりでなく、器物食物の類迄提供して學校の設備の不完全や教員の月給の菲薄を補ふに努め十歳前後の少年を競ふて入學させた。（飾磨縣の場合）甚だしきに至つては、各區間に校舍の競爭を生じ、甲區に宏壯な建物が出來ると、乙區も我れ劣らじと金員を寄附する爲め、長野縣の如きは寄附總額金二十一萬圓許、生徒の數約二萬三十四人に達した。（明治七年）

徴兵の如きも初めは血税の文字の誤解抔から一揆暴動を起すに至れる程であるが、試みに當時最もこれに反對した農民の主張を擧げると先づ斯うであつた。

百姓共膏を取られ、血を取られ候抔騷ぎ立つ所以のものは、當時何事によらず税金相掛り、是則ち上より民の膏血を御取り被成候道理なり、且つ又百姓にては中々軍さ抔の出來るものは之れなく百姓は百姓の業ありて、第一、米を作り、銘々御年貢相納め、格別天朝の御厄介に相成り候ものに之れなく、夫れら軍さに御差出相成り候儀、何分御趣意不相分、夫れよりも當時舊藩々の士族非役にて、家祿を頂戴相成居、殊に從來武藝は手馴れの事にて、其爲の士族に候得ば、是より御募り相成り候儀當然なり、且つ百姓は十七八歳より農業相働き、一家活計を立て候肝要の時にて、夫れを御取り上げ相成り候ては甚だ難澁、罪人とても伏罪の上に之れなくては御處刑に不相成、百姓とても承服致さざるものを強て兵隊に御取立相成り候ときは、則ち御無理と申すものなり、其御無理なるときは、百姓にても一揆を起すより外之れなし、

彼等は其子弟の軍隊に召集されるを處刑と同一視して忌避せんとしたものである。而かもこれが「村中頑固にして少し事の譯るようなものの反對理由であつたといふから呆れざるを得まい。（愛媛縣の場合）

併しこれとて所謂御趣意が判つて見れば、諒解が早い。彼等は最初生別の積で泣き分れをして子弟を營所に送つたもの丶、營所の生活は服裝といひ食料といひ、父の膝下に於ける困窮の生活とは雲泥の差であるとの子弟の報知を得てからは却て有頂天になつて、此意外の喜悅を隣保に分つた爲め、壯丁は競うて入營を望むに至つたのである。これ彼等が新政に依つて根本的に救はれた上に、士族の如く舊制度に對

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

する妄執がなかつた爲めに外ならぬ。地劵の調査に依つて地租の減額が確實となつた場合に於ても、彼等は中心善政を謳歌して、最早如何に士族が煽動を試みても些の動搖は受けまいといはれた。秋田の如きは士族は固陋であるから、先づ平民を開明に導いて然る後士族に及ぼすの方針を執つた程である。筑前では農商の富豪が自宅に私塾を設けて教師に士族を雇ひ細民の教育を委ねた。(明治五年)そこにも明治新政府の社會政策成功の曙光が明らかに看取されやう

明治政府の社會改革は多年虐げられつゝあつた穢多、非人の稱號を廢して平民籍に編入したことに依つて(明治四年)其最頂點に達した。併し又政府の學校設置と共に、娼婦、飯盛、藝妓の廢止を斷行せんとした事も、それが或意味に於て、奴隷の解放である丈に其重要性を認めざるを得ない。熊谷縣の如きは縣下の宿驛に飯盛賣女の解放を行つた後は唯藝妓酌人のみ一定の税を課して許可したが、獨り本庄驛丈は其地に學校を設立する爲めに、飯盛は勿論、藝妓酌人等に至る迄一切これを禁止した。其後學校は熊谷に移されたから、藝妓酌人の復活を宿中より歎願して見たけれども、縣官は其不良の商業であるが爲めに一旦廢絶した上は再興聽屆け難いと說諭した。廢娼の實行困難なる事は縣官に於てもこれを知つて居ないではたかつたから、管內三箇所に限つて設置を許すの議があつたけれども、斯くては其三箇所以外の宿驛が寂寥に屬して多少の苦情もあらうかと沙汰止みになつたとの事である。(明治七年)彼秘魯國の商船が淸國民の奴隸を載せて橫濱に寄港したのを抑留して國際問題となつたのは明治五年の事であつた。縱し此廢娼は地方官の方針に依つて不徹底に終つたとはいへ、教育と關聯して深甚の考慮が拂はれ、一部の實施を見たことは此時代の社會政策を回顧する上に於て閑却することは出來まい。

歳晩歳始句錄

小澤碧童

行年やうすきゆかりの墓參り

行年や讀みさしの書の二三册

炭斗や障子のうちの夕日影

母病氣平癒の願ほどきに帝釋天に詣づ予同行

柴又や草餠靑き年の暮

御諒闇につき年禮も差控えて

元日や日南になでる犬の頸

昨年霜月上旬より移り住みて

元旦や古池のある古庵

老來獨酌の興趣を覺えて

德利に酒のねばりや多籠

雨垂れの音や夜に入る寒の入り

こは山妻の趣向にして桃色の紙を用ゆ

星形に障子の穴を塞ぎけり

六日歸路所見

夜の店に一と盤臺の薺かな

「昭和二年二月三日下谷上根岸能古舍に於て」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

軍縮提議の經濟的解釋と日本の立場

高橋龜吉

一

米國大統領クーリッヂは二月十日、日英佛伊の四ヶ國に覺書を發して、「巡洋艦、驅逐艦、潜水艦を含む」所謂補助艦軍備縮少協定會議を提唱した。云ふまでもなく、この軍縮會議は、一九二一年に於けるワシントン會議、即ち第一次軍縮會議の延長である。顧るに、第一次軍縮會議は、「主力艦及航空母艦の噸數に制限を設け、その他の艦船の大きさ、及び備砲の最大砲口徑に一定の制限を付す」ることに成功したるも、所謂補助艦そのものゝ建造を制限せんとする企圖は、佛伊兩國の頑强なる反對のために不調に終つたものである。然るに、いま、クーリッヂ大統領が、再びこの補助艦制限問題を提唱するに至つた表面上の理由は、要するにこうである。即ち、ワシントン條約の結果、主力艦及び航空母艦の競爭は制限せられたが、しかし、その競爭の精神は、該條約に漏れた補助艦に於て、再び表現し來るに違ひない。現に日本や英國には既にその海軍擴張計畫が立てられ、米國も亦、斯様な計畫が他國にあると云ふ理由で、海軍擴張を力說する輿論が現はれてゐる。「この輿論の底には新たな建艦競爭の誘因を包藏してゐる。余は(クーリッヂ)各國政府及び人民が、建艦競爭を避けて、徹底的海軍制限を達成することに同感なることを信ずるが故に、更に海軍制限を實行することの可能性を確かめんため、主要海軍國に對し、討議の機會を招來せんために、本問題に關する會商をするべく速に開始せんことを提議する」と云ふのであ。

これにつき、クリーッヂ大統領のこの提唱の動機について、對內國の政治的理由の含まれてゐることを海外電報は傳へてゐる。更に又この軍縮提唱が、來るべきジュネーブ軍縮會議を利用した點、即ちこの軍縮協定を來るべきジュネーヴの軍縮會議に於て協議せんとした點につ、き軍縮提案者としての會議の技術的タクチックが云爲せられてゐる。しかし乍ら、斯様なことは要するに枝葉の問題であつて、問題の根幹は、米國が何故に、かくも軍縮問題に熱中するかである。就中、私のこゝに問題としたい點は、その「經濟的」理由についてゞある。

二

クーリッヂ大統領の致書は云ふ「世界の平和を維持せんことを目的

とする凡ゆる政策を支持することは、米國政府の根本的政策として、つとに確立されたところである。米國政府及人民は、軍備競爭は國際的猜疑と不和とを醸す最も危險なもので、結局戰爭を誘致するものであると信ずる。この事實を認識し、出來得るだけこの危險を除かんため」軍縮を提議する。と、

　この限り、クーリッヂの云ふ所は間違つてはゐない。彼及び米國人民は確かに戰爭を避けようとしてゐる。しかし乍ら、然らば何故に米國は——而して斯樣な軍縮提議に最も賛成である英國は、——戰爭を避けようとしてゐるのか。彼等は「人類の平和」を望むが故に、「世界各國間の平和を維持」せんとするのだ!! と心から果して答へ得るや、と云ふに、それは斷じてさうでない。

　一體、戰爭が起ると云ふには、古來、それ／＼の理由があつたのであるが、今日に於て——即ち世界の資本主義が所謂帝國主義時代になつた時に於て——强國間に戰爭の起る危險があると云ふ經濟的理由は要するに、資源及販路の獨占に對する爭奪からである。そも／＼、世界に未だ强國の獨占にならない領土が尙ほ存在した時代に於ては、斯樣な資源及び販路の爭奪と云ふことは、主として、斯樣な未開國の侵略と云ふことに由つて行はれた。從つて、斯樣な時代に於ては、强國間の戰爭と云ふ危險な割合に少く、たま／＼植民地征服の競爭で「危險」が醸されても、容易に妥協がついたものであつた。例へば、「勢力範圍」を協定して、それ／＼の繩張りを分割するとか、獨逸が膠洲灣を奪取せば、露國は旅順口、英國は威海衛をとるか、乃至は日本が英國に南支及び揚子江流域の特殊權を認める代りに、英國が日本に南滿朝鮮の特殊權を認めるとか、と云つたやり方がその著例である。

　しかし乍ら、世界の未開地が一巡、何れかの强國に侵略され盡すと共に、こゝに、從來の如き領土の擴張は出來なくなり、その後に於ける領土の擴張は、已に何れかの强國に屬してゐる「領土」を再爭奪する外に、行く途は無くなつて來る。この時代が來ると、新たなる資源及び販路の獲得と云ふことは、必然に、强國間の戰爭と云ふことを意味するに至るのである。蓋し、今日の資本主義制度に於ては、斯樣な資源と販路とを內國以外に於て新に得る外に、その國資本主義の繁榮を續けることは出來ない仕組みであるが、その新資源、その新販路を得る途は、領土狹く植民地少き國に於ては、已に何れかの國に屬する資源と販路とを武力に訴へて再奪還する外に策はない事情に在る何となれば、今日は昔と異つて、何れの領土も、その國又はその本國の利益のために政治的に「獨占」せられてゐるのであつて、自由競爭の下に世界に解放せられてはゐないからである。

　この間に於て、大領土と大植民地を已に有する國に於ては、その大領土と大植民地とを自國乃至本國のために「獨占」し以て、他國の資本主義の競爭を遮斷するだけで、自國資本家に大なる利益を約束し得る。加ふるに、尙ほ開發の餘地も十分にあると云ふ事情に在る。勢ひこれ立の大領土、大植民地を有する國に於ては、さう無理をして、新に領土を擴げる必要がないわけである。否々、反對に、これ等の大領土、大植民地を有する國に於ては、寧ろ、他の領土に惠まれざる强國が、死もの狂ひに、已得の領土の再奪還戰を戰ひ來たる脅威の方が遙かに大である。こゝに於て、大領土、大植民地を有する國に於ては、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新に領土を擴張すると云ふことを全然封ぜられても、現狀を維持することさへ出來れば、その方が遙かに利益だと云ふ結論を生むに至るのである。從つて又、彼等は極力、斯樣な領土の再爭奪戰を防止することに熱中する。かつては、軍國主義の典型であり、侵略國家の謳歌者であつた英國や米國が、こゝに一轉して、軍國主義の反對者となり、侵略の呪咀者となり、世界各國間の「平和の神」となるに至つた手品の種はこれである。

三

クーリッヂの云ふ「世界平和の維持」と云ふのは右の如き意味の平和である。米國や英國の云ふ「戰爭阻止」と云ふのは右の如き意味の戰爭阻止である。從つて、彼等は、「結局戰爭を誘發」する危險あるものとして、獨り、軍備の競爭、就中「建艦競爭」のみを强調する。しかし乍ら、「結局戰爭を誘發」する最大危險物は、軍備そのものではなくて、實は領土（資源及販路の獨占を含意した）の不均衡極る「獨占」にある。例へば最近國際聯盟が調査した所に由ると、北ア北アメリカ洲は世界人口の僅か六%六を占めるに過ぎないが、その原料及食料の產出は世界の二八%七を占めてをり、濠洲は同じく人口の零%五に對し原料及食料は一%六を占めてゐる。之に反し亞細亞洲は世界人口の五三%三を占めながら、その食料及原料產出高は世界の二一%九を占めるに過ぎない。しかも北アメリカ洲及濠洲は亞細亞人の入國を拒否してゐるのである。更にまた、いま重なる國の人口と領土とを見るに別表の如く、英帝國や、米合衆帝國の領土は、日本の十六倍乃至五十倍を擁し、しかもその人口密度は、一平方哩につき日本が三百九人半の過多を有するに對し英米は僅に三十人內外に過ぎない。日本や伊太利や其他が、人口の過剩と資源の缺乏と販路の狹小に困つてゐる時、彼等は、斯樣な贅澤な領土を獨占して、奢侈な生活に陶醉してゐるのである。宛かも國內に於て貧富の差が甚しく、少數大資本家の驕奢な生活のために、民衆の生活が著しく壓迫せられる時には、反資本家的戰鬪が戰はれる如く、斯の如き國際的領土と人口、乃至は人口と資源との不均衡極る獨占は又、戰爭を釀さゞるを得ないのである。

世界主要諸國領土及人口表

	本國			帝國總計		
	面積	人口	一方哩當人口密度	面積	人口	一方哩當人口密度
	方哩	千人	人	方哩	千人	人
日本帝國	一四八、七五六	五八、四八一	三九二、〇四	二六〇、七三八	八〇、七〇四	三〇九・五
英帝國	九五、〇四一	四四、一四七	四六四、〇三	一三、四〇六、一〇三	四四一、五九五	三〇・九
米合衆帝國	……	……	……	三、七四二、五八三	一二八、六四九	三一・七
露帝國	……	……	……	八、二七三、一三〇	一三三、四四二	一六・一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佛帝國	二二、六九九	三九、四〇三	一八四、四	五、八一七、七九七	九九、九二五	一六・八
支那帝國	一、一三二、四二〇	三七五、〇〇〇	二四四、七	四、二七七、一七〇	四〇〇、八〇〇	九三・七
和蘭	一三、二〇五	七、〇八七	五六三 三	九六一、五六九	五七、〇〇一	五九・三
伊太利	一一七、九八二	三八、八三六	三二九、一	七〇八、八四七	四〇、八八九	五七・七

(備考) 米國ワールド新聞社發行の一九二五年度アルマナクに主として由る

云ふ迄もなく、斯くの如き不均衡極る世界領土の分割は、人類に平和」を齎らす筈はない。なる程、英米の如き大帝國主義國に於ては「人類は平和」を鼓腹し得るかも知れないが、日本、伊太利、支那其他の小國乃至被壓迫國に於ては、人類の多くは犬にも劣つた生活に苦闘しつゝあつて、そこの何處に「平和」の咲き出ずる沃土があらうぞ。米國及英國の如き大帝國主義國の云ふ「世界平和」と云ふのは、斯の如き各國國內の暗黑面はこれをその國々の中に押し隱して、國際間に丈け「平和」を維持しやうと云ふのである。之れ、宛かも國內に於て勞働階級や小作人階級の生活苦が如何に甚しいかと云ふことは、これをそのまゝに放つて置いて、否、これは依然「政治的力」を以て不人情に壓迫しておきながら、獨り、勞働者對資本家の間、乃至は小作人對地主の間にのみ、「人情的平和」を主張し、ソレコソ「誠心誠意」その「平和の維持」のために努力する、ソコラ邊りの「紳士的」大資本家と全く同じ「平和」の愛好者である。

米國と英國(今度のクーリッヂの軍縮提唱に於ても英國と豫め打合せ濟みのことだとの新聞電報である)とが、軍縮に熱心なる所以は、以上に由つて、大體に誰にも看取出來るであらう、而して、宛かも脛に傷を持つ泥棒が、神經過敏に、常にビク〳〵する如く、彼等がその膨大な、人口稀薄な、資源に豐富な領土の獨占を續けやうとすればするだけ、彼等には他の領土狹小な强國の侵略が、常に惡夢の如くつきまとふのである。

四

斯様に、クーリッヂの軍縮提案は、第一次のそれと共に、「人類の平和」を愛好する所から生れたのでは全然ない。從つて又、人類の平和の名に就て、斯様な提案をシャー〳〵となした彼れ、及び彼の國民の僞善をこの際ヒキむいでやるがよい。

しかし乍ら、その故に然らば、日本は此際軍縮そのものに反對すべきであるかと云ふに、決してさうではない。一體、今日の世の中に於て、今日の日本の實力を以て、英米佛の如きと競爭して、領土の擴張」を企圖することが全然間違つてゐる。このことは、對支廿一ケ條强要の破綻シベリヤ出征の大失敗等に由つて、已に試驗濟みのことである。蓋し、日本の如きは後進國乃至貧弱國が、斯様な企圖の下に死力を盡すことは、宛かも、今日の勞働者が三井や三菱の如くならんと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して、彼れと必死に競爭するの愚爭に等しく、到底、成功の見込はないからである。尤も斯様な希望が勞働者にも現に出現せられた時代もあつた。がそれは資本主義の初期の動搖時代のことであつた。資本主義の發達し固定した時代のことではない。それと同じく、日本の如きも、英米と同じく水準線に立つて「領土擴張」を競爭し得る希望を持つた時代もあつたが、それは帝國主義初期の動搖時代のことであつた、今日の如く、帝國主義が固定し守勢時代に轉じた時のことではない。

そも〱、強者が一度びその地位を固定した時に於て、その強者の壓制に苦しむ勇者が、その壓制を倒す方法は、由來、唯だ一つしか成功したものはないその方法とは即ち。強者と同じ道德水準に於て「支配」の爭奪をすることではなくて、強者の道德水準とは異る、新たな被壓制者の道德水準に立ち、「解放」を鬪ひとることである。例へば、今日、勞働者がその壓迫の生活から脫し得る唯一の方法は、資本家にまで自らを持ち上げると云ふ戰ひを戰ひとるところではなくて、(今日の固定した世の中に於ては斯様な希望は最早實現の見込は全くないこと已述の如し)勞働者そのものを、勞働者のまゝで解放することである。今日の勞働運動は現にそれである。それと同じく、今日、日本の如きが英米其他の帝國主義國の壓制と獨占とを、克服し得る唯一の方法は日本自らを英米の如き帝國主義國にまで持ち上げる戰ひに由つてゞはなく(即ち英米とその領土擴張戰を戰ふことに由つてではなく)支那や印度やその他の被壓迫國の味方となり、それと共同戰線に立つて、植民地その他一切の世界領土の解放を要求することである。なる程、この「解放」を要求するためには。日本は朝鮮、臺灣、滿洲等の「獨占」を放棄せねばならないが、しかし、これ等「猫額大」の土地の解放に由つて、今日、日本に閉されてゐる、アメリカ洲、濠洲、南洋、印度、アフリカ洲等を解放し得るならば、如何なる領土擴張論者と雖之に反對する者は無いであらう。之を個一の「空想」と云ふ勿れ。現に、支那、トルコ、エジプト等は已に自ら解放しつゝあり、その曉には印度其の他にもこの波は及ばざるを得ないのである。尠くとも、英米と「戰爭」して支那や南洋やに新領土を擴張せんとする我が軍國主義者よりも、遙かに、この「解放」運動の方が、日本自身の「解放」を約束する可能性が多いわけだ。

果して然らば、領土の新擴張の武器としての今日の軍備に對しては、日本は極力その世界的縮少に努力すべきであり進んではその撤廢にまで之を進展せしむべきであつて、毫も之に反對すべきでない。而して、その軍縮の比率問題の如きは、之を最大限に讓歩しても、尙ほ、この軍縮を實現せしむべきである。さり乍ら、その軍縮主張の意味は、英米の如く、最少限度の軍備を以て、彼等の優越せる「現狀を維持」せんがためではなくて、實にこの「現狀」を、根本的に覆して世界の全領土を世界の全人類のために解放せしめんがためである。されば、英米の軍縮は彼れ一流の僞善者「世界平和」のためであるが併し乍ら、われ〱日本の此際主張すべき軍縮乃至軍備撤廢は、世界に於ける強者の支配と獨占(その武器は即ち軍備である)とを打破して、「人類の平和」を世界各國に確立せんがためであつて、そのためには、「反帝國主義戰爭」も之を餘儀なしとし、その反帝國主義戰の慘禍を出來るだけ除去する一方法として軍縮を叫ぶのである。日本今日の經濟的行詰を轉換し得る國際的手段は、いま、右の如き方法以外にないのである。しかも、この方法は、世界人類の平和を確保する唯一の方法である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

眼整形科 斜視科 東京驛前
トラホーム 檢視力科 丸ビル四階

丸ビル眼科

醫學博士 内田孝藏

電話牛込六二六〇番

診療九時より五時迄日曜及祭日午前中
「眼整形の規定書は御申込み次第進呈」

虎の門 佐多病院

東京芝區明舟町一九 電青六九五二

脳脊髓神經科

診察毎日午前 入院隨時

醫學博士 佐多芳久

淋疾 梅毒 尿科

醫學博士 佐藤恒祐

佐藤診療所

入院應需

東京市神田區錦町一の十 小川町下車(明治書院裏)

電話神田二六九一番

血壓亢進症 心腎臟病
糖尿病 X光線科

倉上内科醫院

醫學博士 倉上由一

東京赤坂區青山北町四の六六
電話青山二二七六番

診察自前八時至后一時

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

改造社出版圖書目錄

（1）經濟及社會

著（譯）者名	書名	內容一斑	版數	型頁數	定價送料
法學博士 穗積重遠著	離婚制度の研究	○離緣狀と緣切寺○緣切寺滿德寺○クリスト敎の婚姻非解消主義○イギリス其他各國の離婚制度の研究	1刷	菊上 九四〇頁	一〇・〇〇円 內・三六
法學博士 河田嗣郎著	家族制度と婦人問題	（一）家族制度論○家族制度の性質と機能○外五項（二）婦人問題○女子勞働問題等を檢討す	7版	四六上 三二三	二・〇〇 ・二〇
京大教授 宮本英雄著	婚姻の基調	婚姻法の將來○夫婦間の貞操○寡婦の再婚○離婚防止○婚姻媒酌○家族制度と婚姻等結婚に關する研究	5版	四六上 二〇八	一・五〇 ・一八
法學博士 福田德三著	社會政策と階級鬪爭	（一）社會政策序論○「社會」の發見○外三項（二）階級鬪爭と其當事者等其他の深刻なる研究	30版	四六上 三七四	三・〇〇 ・二四
法學博士 福田德三著	社會運動と勞銀制度	（一）社會運動の理論的根據（二）勞働爭議の意義及種類（三）勞銀制度を博士一流に檢討す	15版	四六上 四三〇	二・五〇 ・二〇
法學博士 福田德三著	ボルシェヴヰズム研究	○マルキシズムとしてのボルシェヴヰズム○レニン國家論○ボルシェヴヰズム○「資本主義への降伏」等	10版	四六上 五九四	二・九〇 ・二二
慶大教授 小泉信三著	改訂 價値論と社會主義	○緒論○ロオドベルトス研究〔マルクス研究〕拾錄（三章）○追補河上博士との論戰記錄	8版	菊上 四三三	三・二〇 ・二八
商大教授 孫田秀春著	勞働法總論	○勞働法の基本觀念、研究方法の變遷、理想○勞働法の法源○勞働法の效力等勞働法概論	5版	菊上 三四〇	二・六〇 ・二六
ジノヴィエフ原著 富士辰馬譯	勞働政黨と勞働組合	○組合運動の原則的諸問題○ロシヤに於ける組合運動○勞働組合世界的名文獻の翻譯	4版	四六並 一六四	・九〇 ・一四
ニコライ・レーニン原著 茂森唯士譯	レーニニズム	○ロシヤ革命の國際的意義○ボリシエヰキーの成功の一根本條件○ボリシエギーズム發達の諸期等	4版	四六並 三二四	一・二〇 ・一六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

著者	書名	内容	版	判型・頁	定價・送料
帝大助教 平野義太郎著	法律における階級鬪爭	○法律に於ける階級鬪爭○階級鬪爭とローマ法○資本主義的法律組織の下に於ける階級鬪爭○外四章	9版	菊上 三四二	二・五〇 ・二六
法學博士 河田嗣郎著	農政四十三講	○農村問題解決の鍵論○小作爭議と農村破壞○外四十一項、農村問題を知らんとする人の必讀の書	5版	四六上 三九八	二・五〇 ・二三
法學博士 堀江歸一著	改訂増補 國際經濟と國民經濟	○世界平和と國民經濟並に國際經濟○世界經濟上より見たるゼノア會議○對外債務廢棄問題○外七項	9版	菊上 三三二	二・五〇 ・二六
法學博士 堀江歸一著	續國際經濟と國民經濟	○經濟組織の改造と政治の革新○政治的議會より經濟的議會へ○產業資金の供給○外九項	5版	四六上 三九四	二・五〇 ・二三
農學博士 小野武夫著	農村研究講話	○緒言○基礎的研究の必要及び其綱領○農村問題とは何ぞや○村落の研究○農家經濟の研究等	5版	四六上 三二八	一・五〇 ・一八
マーシャル著 京大教授 大塚金之助譯	經濟學原理 (分册三) 需要・供給・價値の一般關係	現代の經濟學書中、此書程、學としての生命と光の鮮かなるものはない。本篇は主として生產を解く。	新刊	菊上 四九八	三・五〇 ・二六
マーシャル著 商大教授 大塚金之助譯	經濟學原理 (分册四) 國民所得の分配	譯者は、晩年のマーシャルに親炙したる人、原理に流れつゝある血を共鳴移植したる名譯。	新刊	菊上 三四〇	三・七〇 ・二八
經濟學博士 本庄榮治郎著	近世農村問題史論	經濟史の權威たる著者が近世日本に於ける農村問題を史的に考察したる日本農政史の一方面である。	6版	四六上 三六〇	二・三〇 ・二三
京大講師 山口正太郎著	中世寺院法と經濟思想	○序論○利子禁止思想の歷史○中世寺院法と猶太人○中世寺院法と商業○中世寺院法と組合及び會社等	4版	四六上 三三五	一・五〇 ・一八
ブハリン原著 富士辰馬 廣田千元譯	唯物史觀	勞農露國第一の理論家たる著者が現代思潮の指導原理たる唯物史觀を平易に徹底的に譯述せるもの	最新	四六上 六三〇	三・五〇 ・二八
ロマン・ローラン著 大淨章譯	先立ちて來る者	深遠たる思想と熱意ある筆致を以て世界の思想界に牢乎たる位置を占むるローランの「先驅者」の譯。	1刷	四六並 二九六	一・五〇 ・一六

(2) 政治及法律

著者	書名	内容	版	判型・頁	定價・送料
法學博士 末弘嚴太郎著	農村法律問題	○序章○部落有財產と農村生活○永小作の法律關係○小作問題と小作法○小作爭議と小作調停法	22版	四六上 四二八	二・五〇 ・二三
法學博士 末弘嚴太郎著	法窓閑話	○法窓閑話○裁判賠償の根本原理○軍法會議廢止論○小作人と土地所有權○法律小話(十二話)○外二篇	20版	四六上 四二三	二・五〇 ・二三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

經濟學博士 本庄榮治郎著	日本社會史	○日本社會史の觀念○氏族制度の社會○部縣制度の社會○莊園制度の社會○分權的封建制度の社會等	25版	菊上 三九六	二・五〇 ・二四
法學博士 河田嗣郎著	農村問題と對策	○農村問題と對策○農業改造方策○都會と田舍との分裂○農民土地愛着心冷却の傾向等外數項の熱論	17版	四六上 三四四	二・〇〇 ・二〇
法學博士 末弘嚴太郎著	農村法律問題	○序言○部落有財產と農村生活○永小作の法律關係○小作問題と小作法○小作爭議と小作調停法	28版	四六上 四一八	二・五〇 ・二〇
法學博士 末弘嚴太郎著	噓の効用	○噓の效用○改造問題と明治時代の省察○役人の頭○小智惑に捉はれた現代の法律學○其他八項	42版	四六上 四四四	二・六〇 ・二〇
法學博士 末弘嚴太郎著	法窓閑話	新法學の權威が新しき國民はいかに法律を心得ねばならぬかを說いた法治國民への國民讀本	24版	四六上 四二三	二・五〇 ・二〇
佛國藏相カイヨー著 龜井貫一郎譯	民衆の苦悶	○大戰の問題○世界的破綻○歐洲再生の力○佛國、一般財政經濟の混亂○佛國賠償問題と戰爭債務等	4版	四六並 三四〇	一・三〇 ・一六
森戸辰男著	青年學徒に訴ふ	近時澎湃たる社會科學問題に關し政府者に對し巨砲を放つ。學生諸君は本問題の內容發展を本書で知れ	18版	四六並 八〇	・三〇 ・一二
ウンターマン著 森喜一譯	哲學思想の史的考察	○著者はマルクス派學徒で古代より近代に至る哲學思想の史的考察と共に進化學說の變遷を語るもの	3版	菊上 三三三	二・〇〇 ・二二
ヨゼフ・ディツゲン原著 山川均譯	無產階級の哲學	現代のブルジョア哲學に對し無產哲學の新提唱新時代學徒の必讀すべき文獻	5版	四六上 三六八	二・五〇 ・二二
賀川豐彥著	生存競爭の哲學	生存競爭の原理を闡明し生存互助の哲理を說き生命力と愛の力が生存競爭を超越するを進化論的に證す	12版	四六上 三五〇	二・〇〇 ・二二
文學博士 高田保馬著	階級及第三史觀	(一)階級篇○階級の本質○マルクス的階級概念外一篇(二)第三史觀篇○經濟史觀より第三史觀まで等	5版	菊上 三八四	二・八〇 ・二四
森戸辰男著	思想と鬪爭	○震災と主義者と反動勢力○國粹主義者と政治的殺人○大杉榮君の追憶○外四項	6版	四六上 三六六	二・〇〇 ・二〇
細井和喜藏著	女工哀史	我國の工場及女工生活を知る世界的勞働記錄十五ケ年の氏の血と肉とから成る本書を國民は一讀せよ	24版	四六並 四六八	二・〇〇 ・二〇
トロツキイ著 茂森唯士譯	文學と革命	○非十月革命文學○革命の文學的同伴者○アレクサンドル・ブロック○未來派○時の形○外四項	4版	四六上 三六六	二・〇〇 ・二〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

竹の歌

若山牧水

植ゑて今年三年となりぬわが竹は痩せ痩せて立つ家のうしろに

さき伐りて植ゑたる竹の直き幹つや銷びはてゝ立ちならびたる

北向のわが窓さきにならびたちそよぐともせずこの痩竹は

幹痩せて枝葉ともしきわが竹の孟宗に百舌鳥がよく來てとまる

伸びたちて幹なほやかに枝葉深くこもらひ茂る竹をわが愛づ

日照れば濃き影落し雨降れば濡れて枝垂るゝ竹をわが愛づ

往還

前田夕暮

日あたりのよき村なれば家毎に馬は飼ひたり白梅の花

馬に乗りて往還行けば朝川の流は疾く且つ光りたり

我が乗れる馬のからだの匂ひさへ親しとおもふ春さりにけり

往還にさし出でてゐる雜木の梢しなやかに頭をうつも

村道に蕗の薹を貰ふ

藁紙に包みてくれし蕗の薹の花莖ながくほほけてあはれ

芽ばり太き楊手折ればいたいたし折るるひびきの手にこたへたり

ざぶりざぶり水かぶりゐる朝川のこの馬芹は搖れてゐるなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

南支を動かすボローヂンの怪腕

古莊國雄

◇世界注視の怪人物

『美人局』を電話交換局と書いたのは數年前の警視廳巡査採用試驗の名答案であつた。昭和元年正月、某新聞社の入社試驗問題の一つに『ボローヂン』といふのが見えた。それを中世紀の人名にしたり、南歐の地名にしたり、いろ〳〵の奇答に思はず痛快を叫ばしむるものがあつた。中に最も傑出した答へは『ボローヂン』を『一種の强壯劑』とし、トッカピン類似の賣藥名として了つたものである。受驗者は何れも今春都下の各官私立大學を卒業すべき青年であつたが、かうした青年の間にさへ、ボローヂンの名はすこぶる耳新しいものであつた。

ボローヂンばかりではない。支那に對する日本人の知識は恐ろしく淺海である。日本人の支那研究は餘りに概念的である。その日暮し主義である。何か際立つた異變があれば、急に眼を見張る。しかし、颱風一過すればケロリとして更に意に介せぬといふ風である。そこへ行けば歐米人の支那研究、支那觀は透徹してゐる。デーリーメールや、ニユーヨーク・タイムスなどいふ大新聞から、地方の小新聞、小雜誌の類に至るまで絶えず支那問題を取扱つてゐる。支那の政治問題のみならず支那人の思想、生活の內面的考究に不斷の努力を續けてゐる。日本人の及びもつかぬやうな支那の社會を撮つた珍寫眞が、ロンドン邊りの寫眞畫報を飾つてゐる。南支の風雲穩かならぬこの頃ではあらゆる外國の新聞雜誌の焦點は一齊に支那に向けられてゐる。日本の新聞も最近ではさすがに支那當面の問題で賑つてゐる。ボローヂンの名もしばしば現はれるやうになつた。『藥の名』などと濟してゐれば大變な事になる。廣東革命政府の最高顧問として南方支那の運命を握るボローヂンは確かに注目すべき人物である。張作霖よりも、吳佩孚よりも、—顧維鈞よりも蔣介石よりも、現代支那において最も注意を拂はねばならぬものは露人ミカエル・マルコウイチ・ボローヂンである。しかも彼の最も苦心し、最も全力を擧げたのは、世界注視の的となつてゐる華やかな現在にあらずして、かくなるべき道程に廣東革命軍を育てあげた過去三年間である。急がず、休まず、廣東の一隅にあつて支那民衆を指導した準備時代である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◇孫逸仙とボロージン

ボロージンの來歴を記す時、第一に想起されるのは支那革命の始祖孫逸仙である。千九百二十三年即ち民國十四年の頃は、國民黨の財政は極端に苦しかつた。福州を根城とする陳烱明との絶えざる勢力爭ひで軍事費は無限にかさんだ。遂には勞農ロシアと連絡してゐる廣東の共産黨と合併していはゆる共産國民黨を組織するといふ結果になつた。斯る窮状にある時、孫逸仙の命を受けてモスクワに使ひしたのが、一介の青年蔣介石であつた。勞農政府と廣東の意志は完全に疎通した。そしてロシアからは巨額の運動資金と武器彈藥等が送られた。その上に勞農政府代表としてボロージン氏が南支に派遣される事となつた。

ボロージンと孫逸仙の初の會見は上海で行はれた、若き支那の巨人孫逸仙と、ロシア革命の戰士ボロージンの會見は、極めて秘やかに行はれたが、それは眞に支那の運命にも關係する重大な事實であつた。ボロージンは孫逸仙の偉大な人格に感激した。孫逸仙はボロージンの卓越した識見に敬服した。そして兩者の胸は支那の將來を想見して火の如く燃えたのである。

孫逸仙は後年、死に直面して次のやうに言つた。

『民衆よ。ボロージンの言葉を予の言葉と思へ。予のなき後にもボロージンある事を忘るるな』

これほどまでに孫逸仙の信任を受けたボロージンは初めから國賓として遇され、廣東の埠頭にそびえ立つ亞洲飯店（エシア・ホテル）に事務所を設け、廣東政府の最高顧問となつたのである。「ボロージンの獻策によつて先づ廣東附近の黄埔に黄埔軍官學校が出來た。現在の中央軍事政治學校である。そして支那各地に生徒を募集し、試驗の結果五百餘名に入學を許可した。民國十四年の四月、蔣介石がロシヤから歸つてその校長となつた。ガロン將軍以下二十餘名の露國將校も到着した。入學者には速成的に軍事教育と一般政治知識とを教へ、三ケ月を一學期として、二學期をもつて卒業さした。現在までの卒業生は約五千名、中には三百餘名の朝鮮人も交つてゐる。陳烱明軍との數回の戰ひにも、最近の長江進出に際しても廣東革命軍の中堅となつて活躍したのはすべてこの學校の卒業生である。彼等はボロージンを通じて孫逸仙の遺志を受け繼いでゐる。何者にも屈服せぬといふ熾烈な革命思想が彼等の間に漲つてゐる。

廣東政府の基礎は次第に定まり、今、世界注目の的となつてゐるボロージンの得意や思ふべしである。彼は廣東政府の最高幹部とともに最近武昌から漢口に入り、支那の歴史あつて以來の民衆的歡迎を受けたのであつた。

怪奇な人物

ボロージンは共産主義者である。ボルセヴイストである。無神論者である。そしてソヴエト哲學とソヴエト宣傳の使徒である。彼は支那語を少しも知らぬ。露語か或は巧妙な英語で用を辨じてゐる。大衆の前に快辯を揮ふ時はいつも通譯付である。それにも拘らず、いかなる外國人も彼の如く支那人の胸奥にまで深く食ひ込んでゐる者はゐな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い。在支の歐米人は彼を『獨裁執政官』と言つてゐる。そして彼の眞の目的は支那人をして英、米を極端に嫌惡せしめるにあると見てゐる。一方廣東側からは、廣東政府の今日ある所以は全く彼の盡力に依るものと信ぜられ、限りなき信頼と尊敬を拂はれてゐる。彼が初めて世界の活舞臺に踏み出したのは千九百十九年（大正八年）スペインの共產黨事件にモスクワ政府の宣傳部員として派遣せられた時である。翌年は更にメキシコに渡り、米國にまでその怪腕を延ばさんとしたが官憲の壓迫に會ひ、危く捕縛されんとした。そして英國に逃れ、グラスゴーに潛入したが、發見せられて六ヶ月の禁錮に處せられた。服役後、英國から退去を命ぜられ、ロシヤに送還された。かうした苦難を嘗めたボローヂンは廣東政府の顧問となるに及んでその經綸を縱橫に揮ふやうになつたのである。但し、廣東以外からは前記の如く非常に怨まれてゐる。諸外國人は彼をさまざまに非難してゐる。痛烈な皮肉を彼に浴せる。諷刺畫の題材にする。惡魔のやうに忌み嫌ふ。しかしながら、彼に直面し、しんみりと彼の思想や、抱負に觸れたものは今のところ皆無だと言つてもいい。彼は實に人を嫌ふ。支那人及びロシア人以外の人を嫌ふ。特に新聞、雜誌の記者に會見するのを避けてゐる。誤解や、誤報を懸念するからだ。

その記者嫌ひな彼に首尾よく面會して、彼の面目を描き、彼の言はんとする處を詳細に聽き取つた敏腕な記者がゐる。それはアメリカのジョン・マコツク・ルーク氏である。氏は神秘的の人物ボロージンに初めて直面した記者である。以下に氏の會見記を紹介する。

彼の居室

廣東に着く前に私はボローヂンの人嫌ひな事をよく知つてゐた。殊にジャーナリストを忌避する事も聞いてゐた。しかし私は幸に國民黨員にして基督教青年會幹事である某氏と連絡を取る事が出來た。そして或朝人力車に乘つてボローヂンの事務所を訪れたのである。彼は極めて多忙であつた。しかしその日は珍らしく餘裕があつたものか、私との會見を承諾してくれたのである。車夫は廣東の大通りを疾驅した。間もなく粗末な、黃色を呈した建物の前に梶棒を下した。

薄汚ない灰色の服を着て小銃を持つた二名の番兵がしげしげと私の持參した紹介狀を調べた。番兵に護送されて私はいくつかの廣い、ガラ空きの部屋を通り拔けた。二階にはまたやゝ小綺麗なカーキ服を着けた番兵がゐた。そして私を特別の應接間に案內した。部屋の一方には雄々しい孫逸仙の肖像畫が飾られてゐた。反對の壁にはレニンの油繪が掛つてゐた。その他には何等の裝飾らしいものも無かつた。

向ふの部屋のドアが勢よく開かれた。そして底力のあるロシヤ語が聞えた。間もなく私はカントンの『獨裁執政官』と固い固い握手を交したのであつた。巨大な、無愛想な、中年の男、黑みを帶びた髮が額のあたりから無造作に撫で上げられてゐる――これが怪人物ボローヂンの姿であつた。黑い、鋭い眼、粗雜な頬ひげの持主であつたしかし彼の握手には眞心が籠つてゐた。その日は大變に暑かつた。廣東は亞熱帶であるから暑い事は充分に承知してゐたが、それにしてもその日の暑熱は餘りに猛烈であつた。ボローヂンは薄い白服を着けて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐた。革命式に咽喉のあたりをボタンで止めてゐた。これは孫逸仙が支那に用ひた服の様式をそのまゝに受繼いだものである。そして支那の學生の間にもこのスタイルが大流行の形になつてゐる。孫逸仙の感化は實に偉大なものであり、あらゆる方面に力強い影響を及ぼしてゐる。

部屋は居心地の好い構造であつた。デスクの上に孫逸仙の像が置かれ、その下には孫逸仙の最後の目的なるものが、筆太に記されてゐた。

ボローヂンは巧みな英語を用ふる。低いアクセントの英語であるが驚くべきほどの流暢さである。彼は長い間の廣東生活において、一言の支那語も使はない。廣東政府の主なる支那人達は何れも語學の素養が充分である、だからボローヂンとの間には英語で充分に用が足りるのである。

約一時間に亘つて彼は、熱心に國民黨の過去及び現在、未來について語つた。ロシアにおける共産黨のやうに、自由主義の政治團體が巧みに動かす可からざる廣東政府を建設した事を順序よく說いて呉れた。そして、廣東政府は飽くまで民衆を背景とし、民衆の力によつて益々勢力を延ばさねばならぬといふ意味を熱心に物語つた。彼の所說の中には哀れなる支那の勞働者や農夫の現狀などもあつた。そして彼等は無法な傭主や、不都合な軍閥に對抗する爲に、どうしても固く團結せねばならぬと言つた。若き廣東國民黨政府の內狀を語り、それには何よりも公正な態度と、不斷の努力が必要であると說いた。彼はまた革命軍に就いて語つた。それは支那統一の唯一の機關であり、その第一着手として先づ廣東から揚子江沿岸にまで進出するといふのが彼の抱負であつた。革命軍は從來の支那に在つた如何なる軍閥とも本質的に異つてゐる。革命軍は軍事教育を施され、同時に革命思想に燃えてゐる。軍隊といふものは元來非民衆的のものであるが、廣東の革命軍は民衆そのものに基礎を置いてゐる。黃埔の軍官學校に教育された士官達は、兵卒を指揮しながらたえず革命的思想の普及に努める。かくの如くにして廣東軍の進出は、直ちに支那の社會を改造し、遂に支那全土を廣東政府の手によつて統一し得るものとボローヂンは信じてゐる。

中世紀の支那

私はボローヂンに向つて日英米等の諸國は支那に對してどんな態度をとつてゐるか、及び支那當面の重要問題は如何なるものであるか、を問ひかけた。彼は極めて落付いた態度で次のやうに答へた。

「現在の支那は未だ中世紀の道程を辿つてゐる。だから支那の政治家も、實業家も、軍人も恐ろしく我利的である。そして彼等は鬪爭に外國の援助を受け、民衆の血を絞つてゐる。英國、米國及び日本は何れも大なる利害關係を支那に持つてゐる。だからこれ等の諸國は支那の革命を何よりも恐れてゐるのだ。諸國は支那の現狀維持の爲に陰に陽に策略を廻らす。しかし諸國のかうした策動は支那內部を根本的に改めんとしてゐる進歩的な青年達から非常な反感を受けてゐる。」

私は更に問ひかけた。

「では、支那人が排外熱を高める爲に貴下は全身的の努力を挑つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐるのか」

「いやそうでもない。支那人といふものはか他から教へ込まないでも良く敵と味方とを識別してゐる。今から一年前に、英國人が廣東の外人居留地沙面附近で、支那の示威行列者百五十餘名を殺傷した事があつた。しかし、當時にあつても私は支那人を煽動する事は必要を感じなかつた。私はむしろ血氣にはやる彼等を抑止したのである。そして萬一英國との戰爭でも引起してはならぬと身を以て彼等の暴擧を鎭めたのである」

ボロージンの言葉どほり、私も廣東の一有力者から右の話を聞かされてゐた。それは千九百二十五年の六月の事件である。虐殺に對する復讐の念から忽ち國民大會が開かれ、山のやうな群衆は支那人一流の悲憤慷慨をした。そして次々に立つた辯士達は口々に外國租界を破壞し憎むべき英國人を皆殺しにせよと叫んだ。この騷ぎを聞いてボロージンは急いで國民大會の會場に馳けつけた。熱狂した民衆の中にあつてボロージンは唯一人の冷靜な頭の持主であつた。彼は極力民衆をなだめた。そして、今、過激な行動に出れば香港にある英國艦隊は直ちに珠江を遡り、廣東を擊破するであらうと警告した。更に、効果的の報復手段としてストライキと英貨のボイコットを指示した。ボロージンの命ずるままに廣東人は冷靜な態度に返り、香港に向つて根強い排英運動を初め、さすがの英國官憲も遂に兜を脫ぐといふ成功を收めたのであつた。彼は決して、民衆を煽動し、支那の不利益を招くやうな愚擧をとらない。如何なる場合にも冷靜である。そして合理的な對策を練る。沙面事件のみならず、彼のこうした手段が常に異常な好結果を收めるので、民衆の信望は益々高まるばかりであつた。

◇ロシアと列國の差

私は更に質問を發した。

『ロシアの支那に對する態度けどんなものか。如何なる點で他の諸國と異つてゐるか。ロシアが廣東で歡迎されるのは何故であるか』

『私は率直に答へやう』

と言つてボロージンは悠然と顏を上げ、シガーに火をつけた。

『ロシアが支那において現在の地位をかち得たのは、ロシアは心から支那及び支那人の幸福に心を用ひてゐるといふ事が立證された爲である。我々は先づ、支那において列國の爲し得なかつた二つの事を仕遂げてゐる。第一に我々は條約上の特殊權利を棄てた。これは我々の誠實を表示したものである。

第二に我々は社會上、政治上、及び經濟上の改革の方策を教へた。これによつて支那人は我々の援助の偉力を悟つたのである。列國は徒らに舊き條約を守つてゐる。しかも支那人を幸福にすべき何等の方策をも與へぬではないか。かくの如き英米日の諸國に支那が好感を抱く道理はない。』

『然らばロシアは、支那に示した絶大な好意によつて、支那から何等かの報酬を受くる積りであるか』

『我等の報酬は將來にある。そして我々は充分それを期待してゐる。私々は支那の友人に向つて常に率直に告げてゐる。

一支那は今後、いくつかの階梯を經なければならぬ。一つの階梯

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は行政上に公正な態度を持し、且つ實力のある地方政府を建設する事である。一つは勞働運動の勢力を増す事である。一つは不平等條約の廢棄である。最後に完全な支那全土の統一である。我々はこの終局の目的に向つて諸君とともに全力を盡さねばならぬ。しかして支那が、いよ／＼近代國家としての形體を備へた時、諸君がロシアこそまことに他の先進國に、、、、經濟制度と政治組織とを創案し、同じ道を辿るべく親切に支那を導いたといふ事を悟つて呉れたらいいのである」將來における支那人のかゝる自覺が、即ち我々の支那に期待する何よりの報酬である。」

『しかしそれは、ロシアの我利的考へではないか。支那に對してロシア通りの行動をとらせるのは餘りに勝手な遣口ではあるまいか」

『いや、支那人に對しては他國が強制的にかくせよと命令し得るものではない。支那が現在辿りつつある道程はどうしても支那自身の必要に迫られてかくなつたのである。彼等が好まざるに我々が無理に彼等の行く可き道を指示したものならば、我々は甘んじて自我的なりといふ批難を受けるであらう。しかし支那の事情は決してそんなものではない。支那人は誰に教はらずとも當然行くべき處に行くべきものである。我々は單に、彼等の進路に對して實際的の實行法を傳授してゐるに過ぎない。我々の援助は非常に効果あるものではあるが、結局第二義的のものに過ぎない」

『各國はロシアの支那に對する行動を共産主義のプロパガンダと目してゐる。これに對する貴下の所見は如何？』

『それならばお伺ひする」

とボロージンは急に立ち上つて、兩手を後に廻し、しきりに身體を搖動かした。

『先づ英米の基督教の支那における傳道振りを見るがいい。それは即ちプロパガンダではないか。諸君は世界において最上のものと信じたならば、直ちにそれを支那に對して宣傳するであらう。そして支那人がそれを受入れるやうにあらゆる努力を惜まないであらう。手短かに言へば、プロパガンダである。最上と信ずる事柄のプロパガンダ——」

と言つてボロージンは私の顔を熟視した。そして更に續ける。

『そして私は世界において、、、、、、確信してゐるものがある。支那人が擧つてそれを受入れる時は、支那は世界に、、、、、、を招き得ると私は信じてゐる。故に私はその主義の宣傳の爲に私の生涯を捧げ度いと思つてゐる。現にそれを實行してゐるのだ」

『しかし、貴下は支那においてまだ共産主義を實現さしてゐないではないか」

『勿論その通りである。支那の事情はロシアのそれとは非常に相違がある。支那人はまだ共産主義の準備もしてゐない。支那の內情を洞察すればまだまだ共産主義の實行に不適當であるといふ事がよく解る。だから私は支那人に向つていつも明らさまに言つてゐる。今支那において共産主義を實行するといふ事は、スープを吸はぬ前に食後の菓子や果物を喰べるやうなものであると。支那においては共産主義をかれこれと論議する事さへ早過ぎるものと私は思つてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那は必然的な道程を踏んで近代的の國家となるであらう。支那が完全にその形體を備へた時、經濟的に、社會的に、政治的に、自由な、力強い行動を取る事が出來るであらう。そして、その時にこそ支那は、支那自ら、共産主義を歡迎すべきか、或は共産主義を忌避すべきかの判斷を下し得るであらう。』

『貴下は歐米の資本主義が將來支那の産業を盛んならしめる事と信じてゐるか』

『その事は固く信じてゐる。確かにそんな時代が來るものと思つてその時における對策を考究中である。』

『支那においても階級闘爭が起るものであらうか』

『資本主義が支那全土に蔓延するに連れて、いはゆる階級闘爭は支那においても避け難きものであらう。』

ボローヂンとの會見はこんな具合で終つた。數時間に亘る會見によつて、私は彼が如何に熱烈に支那の改造に心掛けてゐるかといふ事が明瞭になつた。同時に支那人が彼に心服する所以も了解された。彼はまことに現代の偉大人物である。

◇彼の偉大さ

ボローヂンに會見した翌日、私は廣東政府の有力な椅子を占めてゐる支那の一青年と會つた。そして、ボローヂンは如何にして現在のやうな重要な役目を勤むるやうになつたかを質問して見た。彼は先づ孫逸仙が死の間際に『ボローヂンの言葉は余の言葉と思へ』と遺言した事を述べそれが支那人の心に深い感銘を與へてゐると說いた。そして民衆はボローヂンの姿を見る時、ボローヂンの言葉を聽く時、革命の父祖孫逸仙を現世に呼び返したやうな氣持になつてゐると答へ、更に次のやうに附言した。

「ボローヂンはロシア人であります。そして勞農ロシアは新しい外交をもつて支那に臨んだのです。試みに香港に行つて御覽なさい。英國の汽船に乘込むには必ず、その汽船附屬のランチによらねばなりません。支那の民船（サムパン）は一齊手助けをしてゐませんそれは支那が、英國の船や貨物に向つてボイコットを宣言してゐるからです。支那は横暴な英國を極端に嫌つてゐます。しかしロシアとの關係はこれと全く異つてゐます、あの沙面事件のやうな慘狀や大砲や、不平等條約の代りに、ロシアは先づ支那と平等條約を結びました。それから、親切な、友誼的な助言を與へて呉れます。列國はロシアの支那に與へる助言に反對してゐるかも知れませせん。いや非常にそれを嫌つてゐるかも知れません。

しかし、對等の心を以て、膝つき合はして支那に臨んだロシアに對つて、支那も心から親愛の情を示さずにはゐられません。支那はロシアの好意を快く受け入れました。ロシアが我々に送つた外交官ボローヂン氏は全く從來の型を破つて、支那の心そのものに融け込んで呉れたのです。ボローヂン氏は今や、どうしても支那にとつて必要缺く可らざる人物となつたのです。

しかし、ボローヂン氏がかゝる信望をかち得た第一の原因は決して孫逸仙の推奬した言葉ではありません。勞農ロシアの外交政策によるものでもありません。何よりも先づボローヂン氏自身の偉大さで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あります。卓越した識見、手腕であります。

ボローヂン氏は既に三ケ年の間、馴れぬ暑熱と闘ひ、ほとんど休息を知らぬやうにして働いてゐます。ボローヂン氏は我々の仕事をボローヂン氏自身の仕事として骨身を惜まず努力してゐます。しかも氏は滅多に表面に現はれません。差出がましい行動をとりません。政府幹部の會合に出席しても、常に沈默を守つてゐます。そして誰かゞ氏の意見を求むるまでは容易に口を開きません。寡言な氏の口から漏れる忠言は常に聞く者の胸底に言ひ知れぬ感銘を與へます。

三年の間に、我々はボローヂン氏が友人として尊敬すべき人物であるといふ事を知り、同時に、あらゆる重大事に臨んでも、氏の助力を得、決して杞惧する必要はないといふ事を悟りました。

初め氏が廣東に赴任した時は、勞農政府から氏の給料を拂つてゐましたが、現在では廣東政府が支拂つてゐます。氏はどうしても廣東政府に必要な人物となつたのです』

米國記者のボローヂン會見記はこれをもつて終つてゐる。特に最後の支那有力者の談なるものが注目に價するものである。ボローヂンは眞に支那人の心に喰ひ込んでゐる。若き支那の信望を一身に集めてゐる。そして、近き將來に實現すべき光明の日を見つめ、倦まず、怠らず苦心してゐる。

◇長江へ、長江へ

廣東から長江へ、これは長い間廣東人の理想であつた。同時にボローヂンの希望であつた。奇將蔣介石の率ゆる革命軍は破竹の勢をもつて長沙より、武昌、漢口、九江を陷れ、今や得意の絶頂にある。そして廣東政府の進出とともにボローヂンも漢口に乗り出してゐる。最近における漢口英租界奪取事件となり、英、米、日はもとより、全世界の視聴は一に廣東政府の現在及び將來にそゝがれる事となつた。三年の日月は苦心經營のボローヂンにとつてさまで短いものではなかつたが、現在における大なる成果は或は彼自身も意外に感じてゐるかも知れない。

昨年十二月、武昌に開かれた國民黨省市黨部中央部執行監察委員聯席會議において彼は『各帝國主義者の中國に對する態度と政策及び中國の當に採るべき對策に就て』と題して次の如き指導的、議論的の演說を試みてゐる。

『……數ケ月來、中國革命勢力の迅速なる發展を遂ぐるや、帝國主義者殊に英國主義者は驚異措く所を知らず、中國に對する態度全く變化するに至つた。而も彼等は今日直ちに中國の要求を聽くかといふに、決してさうではない、殊に注意すべきは英日兩帝國主義者の態度である。彼等は厚顔にも一面國民政府に向つて好意厚情を賣るに努めてゐるけれども、同時に暗々裡種々なる手段方策を廻らして中國目前の比較的力量ある奉天系軍閥を幇助し、革命軍及び革命民衆を敵としつゝあるのである。かくの如きは帝國主義者と殘餘軍閥との最後的妄動で、わが蘇我の革命行程にも親しく實驗せる所である。中國革命勢力として一たびは到底避くるを得ざる道程である。張作霖何ものぞといへば日本帝國主義の所産なりと答ふる外はな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い。しかしながら日本は過去數年間、中國民衆の聯合戰線に投降してゐる。小島帝國の活くる道は大陸との經濟交通にある事を思へば我が革命民衆は今後瞬時の油斷なく狡獪なる小島帝國主義者の態度に注意警戒しなければならない。吾等の聯合戰線は、英、日、佛、米あらゆる帝國主義者に對するものであるが、しかしその目標は總理（孫文）の達眼によりて指示されたる如く、一つの英帝國主義を倒せば足る。他は風を臨んで投降し來るべきが故に。かくして吾等の着目すべきは英、日兩國の中國に對する經濟的地位である。吾等はさきに英、日の野心の結合たる同盟關係打破に美事な成功を收めた。思ふに彼等の經濟的地位は競爭關係に在るのであるから、英國の我に對する好意表現と、日本の英勢力打破方針とに對しては、巧妙なる運用によつて之を操縦するの用意が必要である。即ち、英、日、に限らず佛、米その他と雖も同様である。吾等は彼等個々の利害に順應して巧みに對外策略を用ひなければならぬ。かくしてあらゆる不平等條約は撤銷せられ、軍閥援助の小策は絶滅せられるであらう。希くば農工商學、打つて一團となり、帝國主義者及び殘餘軍閥と最後の決戰を爲すべく、共同戰線を進めよ。若しそれ革命遂行の個々の時務に就いては余の祖國に經驗せるところ必ずや中國革命民衆を啓導するものがあるであらう」

國民革命軍の内部には國民黨系と共産黨系の抗爭軋轢が古くから起り現在では共産黨系勢力が國民黨系を壓してゐる形である。或はまた蔣介石等の軍人派と、陳友仁等の文人側との間にも避く可らざる溝が出來初めたやうである。英國を手古ずらせ、日本を無意識のうちに引摺つて、天馬の空を行くが如き現在の廣東政府には恐るべき內患が横つてゐる。主義主張を異にする兩派の爭ひは勞農ロシアにおいても起り特にレニンの死後にはその疾患が甚だしくなつた。支那の現狀から見れば、今は對外的に一齊に結束すべき有利な情勢に臨んでゐる。だから廣東政府の仕事が比較的安易に行はれてゐるのである。隱れたる獻策に特異の才能を持ち、經濟的手腕に驚くべき策を施する彼によつて幸に順調に進んでゐる。しかし前述の如く、廣東政府の內患は既に萠し、しかもそれは相當根強いものである。ボロージンが最終の目的たる支那全土の統一には未だ未だ相當の年月を費さねばなるまい。第一期、第二期の戰線には彼が自負するやうに美事の成功を收め得たが彼の事業は今後にある。數多い難關が彼の前途に群がつてゐる。彼がいかなる方法をもつてこの難關を切り開くか、支那民衆を如何なる方向に導くか、これは最も注目しなければならない問題である。

（編輯者曰く、ボローデンは今や東洋における最强者の如く恐られている。國民政府を研究するものは何人も彼の研究を必要とし、ロシアの蒙古進出、支那進出を論ずるものは先づ第一に彼を對象として居る。彼はスターリンが命ぜし以上の使命を支那に果しつつある。否、彼はスターリン以上の人物であるとさえ稱せられておる。此篇聊か舊聞に近いものだが我國人に一日も早く此人の研究を示唆するために茲に掲載した）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の同志社在學時代

安部磯雄

明治拾二年九月私が京都の同志社に入學するやうになつたのは全く偶然のことであつて、今から考へても不思議でたまらない。明治の改革のため僅かばかりの公債證書をもらつたゞけで士族の特權を取上げられた私の父は勤勞によりて辛くも家族の生活を維持する外はなかつた。私には一人の兄と二人の姉と二人の妹があつた。これだけの家族を養ふことは容易でなかつたから、私を京都に遊學せしむる程の餘裕が私の父になかつたことは言ふまでもない。まして同志社が基督教主義の學校であることを知つて居たならば私の遊學は全然問題にならなかつたことゝ思ふ。

私は慶應元年二月四日福岡市の西公園から程遠からぬ新大工町といふ貧弱な所で生れた。最初は附近の當仁小學に學び後に師範學校附屬小學に轉じた。卒業後は漢學を獨修して居たが、明治十二年三月頃から福岡市を去ること六里許りである加布里村の大西二策先生の漢學塾で學ぶことになつた。私の兄も此塾に厄介になつて居たが、結婚のため歸宅することになつたから、兄が用ひた机も蒲團も私が其まゝ引繼ぐことになつた。

私の漢學塾生活は僅に三ヶ月しか續かなかつた。一日父は手紙を以て至急歸宅するやうにと私に命じた。若しや家族に病人があるのではあるまいか。或は私に何等かの職業を擇ばしむるのではあるまいか。若しかすると兼て話しのあつた養子の相談が纏まつたのかも知れぬといふやうな臆測が六里の途を徒歩して歸宅する私の心に次から次へと走馬燈のやうに繰り返された。

私の長姉の夫は暫らく京都の同志社に遊學して居たが、夏季休暇のため六月下旬に歸鄕した。彼は私が小學時代に於ける學績などもよく承知し、溫習なども助けて與れたことがあるから、私の父に私の遊學を勸告したらしい。學費の如きも一部は彼が補助するといふのであるから、私の父は快よくこれに賛成した。義兄は同志社がどんな學校であるかといふことは一言も私共に告げなかつた。兎に角英語を充分に學んで居なくては今後何事にも立身出世は六ケ敷いといふことで私の父を說服した。

義兄は海軍々人を志望して居たのであるから、私にもそれを目標にして進むやうにと奬勵して與れた。父は自ら武士としてあらゆる武藝を修めた位であるから、これに對して異存のあらう筈がない。私も勿論海軍といふことに賛成であつたが、其よりも一層嬉しかつたのは友

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

人の誰よりも眞先に遊學するといふことであつた。其當時汽船も汽車も私共に取りて珍らしきものであつた。博多灣には時々汽船が來たけれども、汽車は東京橫濱間と京都神戸間にあるのみだ。誰よりも先に其汽車に乘ることが出來ると考へた時私は一種の誇りを感ぜざるを得なかつた。

明治十二年八月三十日私は義兄と共に博多から汽船に乘りて大阪に行き、其處から汽車で京都に行つた。當時の同志社は實に微々たるもので、木造の建物は僅に三棟に過ぎなかつた。二階は全部學生の部屋で、下階は講堂、圖書室、教室、事務室として用ひられた。よくは記憶しないが、生徒數は百人未滿ではなかつたかと思ふ。

義兄と義兄の友人は同志社で勉學すると同時に個人教授をも受けて居たのであるから、便宜上學校の附近に下宿することにした。それがため私も最初の一年間は眞の同志社生活たるものに觸れる機會がなかつた。

初代の同志社は政府當局者から可なり面倒なる壓迫を受けたようである。同志社構内には前記の如く三棟の建物があつたが、其外に道路を隔てゝ向側に一棟の古き日本家屋があつた。私が初めて英語の教授を受けたのは其處である。京都府は學校内に於てバイブルの教授を嚴禁したのであるから、學校當局者は構外に一家屋を求め、其處でバイブルの講義を爲すことにした。

私は此特別なる日本家屋で市原盛宏先生(後の朝鮮銀行總裁)から第一リーダーを教授された。其外にデヴイス先生が私共のためにウエブスターのスペリング、ブックを擔任された。デヴイス先生は米國の南北戰爭に士官として働いた人で、如何にも軍人らしい性質が其擧動に現はれて居た。

今日の同志社は文部省の教育系統の中に包含されて居るから、其教授法にこれといふ程の特色はないが、明治十二三年頃の同志社には今から考へても實に羨ましく思はれるものがあつた。授業時間は每週平均十五時間で、土曜と日曜が休日であつたから、每日の授業は僅に三時間であつた。現在の中學は每週十二三課目を教ゆるのであるが、同志社は每週三課目以上を教へなかつた。故に學生は每日與へられた課程を自修し、每日教場に於て試驗を受けるといふ仕組であつた。

英語を英語として修めたのは單に最初の一年間であつて、第二年級からは地理でも數學でも全部英語の教科書を用ひたのである。私共が二年生の時地理を擔任したのはゴルドン先生であつて、教場内では一切英語を用ひて問答するのであつた。啻に外國教師のみでなく、日本教師も英語を以て教授することを原則とした。私共が四年生及び五年生であつた時、下村孝太郎先生は物理學を森田久萬人先生は心理學を英語で講義した。私共が又英語で質問したことは改めて言ふまでもない。

斯くの如く英語といふ立場からのみ見れば、同志社は全く米國大學の出店といふ觀があつた。漢學は三年生以上の學生に限りこれを課するといふのであるから、全く外國に於けるラテン語やギリシヤ語のような取扱ひを受けて居た。概して言へば漢學に對する學生の態度は極めて冷淡であつて、殊に漢學の試驗といふことになると殆んど出席者がない。漢學先生はこれではならんと往々二階の學生室まで呼び出し

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に出かけることがあつた。學生達はそれ來たといふので逸早く押入に逃げ込むのであつた。

英語萬能主義の同志社に一の不可解なることがある。それは同志社の創立から明治廿二三年頃迄の卒業生が揃ひも揃ふて奇妙な英語の發音をするといふことである。第一期の卒業生である熊本バンドの人々が直接米人ゼーンス氏から英語を學んで居るに拘はらず、何れも怪しげな發音をやつたものだ。これが遺傳して遂に同志社英語とも稱すべき變態的のものを生ずるに至つた。

宣教師の目的は基督教の宣傳であつて、英語の教授ではない。明治十二三年頃の同志社には二三人も米國教師が居たにも拘はらず、私共は一度でもアクセントや發音の誤りを正されたことがない。然し其後語學專門のケデー先生が來てから同志社の英語は全く其面目を一新した。然しケデー先生以前の卒業生は今日でも尚大膽に同志社英語を使用して居るようだ。

明治十三年三月下旬私の養兄と其友人は將來の方針を定めるため一先づ歸鄉することに決した。私は單に第二學期を終了したのみで、六月下旬に第三學期を終らなければ暑中休暇とはならない。今養兄等が歸國することになれば私だけが取殘されることになる。交通の不自由なる當時に於て遠く京都に遊學して居るのは恰も私共が今日米國か歐羅巴に居るようなもので、一日も鄉里のことを忘れる譯には行かなかつた。

義兄は思ひやりが良かつた。歸鄉中義兄の友人に就て英語を學び、九月上京して試驗を受けさへすれば第三學期を休んでも何等損する所はないといふのが彼の意見であつた。私は飛び立つ思ひで歸鄉の準備に取りかゝつた。七ヶ月の同志社生活は果して何物を私に與へたのであるか。私は全然宗教的精神に接觸する機會を得て居ない。唯得たものは英語の知識であつて、これは七ヶ月の收獲としては比較的大なるものであつた。

明治十三年九月四日私は小學校の同級生であつた不破彥麿と同行して博多を出發し、同六日同志社に歸着した。不破は此時初めて同志社に入學したのであるが、卒業しない前に東京に行き後帝國大學に入りて勉強した。卒業後は農商務省に入り、今一人の小學同級生である山座圓次郎は外務省に入り、二人は常に雁行して官吏生活を送つて居たのであるが、不破は歐羅巴漫遊中病に罹り遂に山座との競爭に敗れることになつた。山座が外交官として名を成したに反し、不破は佐賀縣知事から下關市長の職に徙り間もなく死亡したのである。私は今でも二友のことを追想して哀惜の情に堪へない。

私はいよ／＼眞の同志社生活に入つた。未濟試驗も無事に終り、一年以來の同級生及び新に二年級に編入された同級生と毎日教場に於て、寄宿舍に於て、或は運動場に於て共同生活をなすことは非常に愉快であつた。三ヶ月間の漢學塾生活と七ヶ月の下宿生活に比すれば私は全く別天地に在るが如き感を懷かざるを得なかつた。

明治十二三年頃と現在とに於ける貨幣價値を比較すれば其間に大なる相違のあることは言ふまでもない。同志社の學費は一學期二圓五十錢、一ヶ月平均八十三錢、食費は約二圓五十錢であつたから、私は父からの送金拾圓を二ヶ月分の生活費として使用した。卒業の時私が計

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

算した所に據れば毎夏歸郷の旅費をも加へて五年間に於ける私の學費は合計三百五拾圓に過ぎなかつた。

寄宿舍は全く自治制で治められたのであるが、寮長は最初は學校から任命したやうに記憶して居る。部屋換は毎學期に行はれるのであるが、普通六疊には二人、八疊には三人同居するのであるから、其當時の學生は家庭的であり交際的であるのみならず、あらゆる點に於て道德的であつたやうに思ふ。

私共の生活は實に規律的であつた。朝は起鐘と共に必ず五時半（冬季でも）に起き、六時に朝飯、正午に晝飯、午後六時に晩飯、十時には必ず消燈しなければならなかつた。寮長は規則違反者に警戒を與へることになつて居たけれども、學生は何れも自治の精神に富んで居たから殆んど其必要がなかつた。時々消燈後に押入の中に豆ランプを點じて勉強した者もあつたと聞いたけれども、これは極めて稀な例外であつたと信ずる。學生は殆んど全部熱心に勉強し、且つ自修時間が充分であつたから、特に規則違反をする必要はなかつたと思はれる。

食費が少ないのだから食物の粗末なることに對して不平を鳴らす譯には行かないけれども、食慾の旺盛なる青年に對しては三度の食事が餘りに貧弱であるやうに思はれた。米國敎師か或は新島先生かの發意で、一週一度は飯の代りにモシユと稱する麥粉製のもの、若くは豌豆の摩り潰したやうなものを食べさせられた。私には何の不平もなかつたけれども、中にはブツ／＼言ふ學生もあつた。其時代の人々は今日佐伯博士の言ふ營養價値などには全く無頓着であつたから、これに對して不平のあつたのも無理はない。

同志社は學生に絶對の禁酒禁煙を要求した。寄席や芝居に行くことも禁ぜられて居た。私共時代の學生はよく此規則を遵守して居たが、食慾の滿足に對しては何等の制限がなかつた。蕎麥や牡丹餅を喰ひに行くことは可なり廣く行はれて居たやうであるが、多少小遣に餘裕のある學生は時々牛肉店にも通ふやうである。殊に試驗前には牛肉を喰ふて英氣を養はねばならぬといふやうな宣傳をやる學生もあつた。

私共には今日の如き運動競技といふものがなかつた。さらばと言うて柔道や劍道の如き日本古來の武藝をやるのも何だか時代錯誤のやうに思はれた。それで私共は同志社特有の運動法を案出した。即ち散歩と遠足である。毎日午飯と晩飯の後には幾組となく學生はそれ／＼散歩に出かける。これは同志社が散歩をなすに最も適當なる位地に置かれて居るからであつた。

同志社の門を出れば數歩にして御所を圍んで居る庭苑内に入ることが出來る。掃除の行屆いた道路に沿ふて御所を一周すれば、これだけでも二三十分の散歩となる。更に仙洞御所まで廻れば四五十分を要する。友人と談笑しつゝ此庭苑内を散歩した時の愉快は今憶ひ出してもなつかしい。

今少し遠方まで出かけようと思ふものには下加茂や上加茂がある。單に加茂川堤を逍遙するだけでも私共には實に愉快なる散歩であつた。今や此等の聖地も自働車の砂煙に汚されて居るかも知れないが、私共のためには此上もない良き逍遙路であつた。

毎週土曜と日曜とは私共の休日であつた。自動車王フオードが勞働者に毎週二日の休日を與へたといふので世界の工業家を驚かしたので

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あるが、同志社は殆んど五十年前にこれを實行して其有利なることを證明した。土曜は主として體育のため、日曜は專ら宗教々育のために學課を休むといふのであるから、土曜日には殆んど全部の學生が草鞋を履き辨當を攜帶して遠足に出かけた。氣候の寒い時分には何れも赤毛布を背負ひ或は頭に被つて歩いたものだ。

行く先きは何處、或者は嵐山、或者は鞍馬、或者は比叡山、或者は愛宕山、或者は大文字山、凡そ京都位遠足地に富んで居る所はあるまい。宇治、石山は勿論、私は近江の三上山にさへ登つたことがある。殊に冬休とか春休になれば私共の遠足範圍が擴大される。四日間を費して笠置から月ヶ瀨、月ヶ瀨から奈良に遠足したのも其一例である。

私は野球庭球といふが如きスポートに興味を有して居るけれども、自らこれを行ふことの出來ぬ今日に於て、散歩を唯一の運動法として居ることは全く同志社時代の賜であると言はなければならぬ。私の散歩は健康を維持するための手段ではなくて、散歩其れ自體を享樂するために實行して居るのである。

散歩及び遠足は殆んど唯一の運動法であつたと言ふても差支ないが、時には他の運動が行はれたこともあつた。私が二年生であつた頃には球擲げといふ遊戲がかなり學生の興味を惹いたように記憶して居る。球は綿を糸で締めて造つたのであるから少しも危險が伴はない。三十人位づゝ東西に分れ、各五六個の球を持ちながら七八間の距離を相對し、審判者の命令と共に双方から投球するのである。球に打たれた者は鉢卷を取去りて自ら戰死者たることを表明するのであるが、自ら球を拾ふてこれを味方の戰士に渡すことが出來る。斯くて早く戰死した方が負けとなるのである。

私が三年生になつた頃には雨天體操場が出來たので、ラーネッド先生が私共の爲に體操の音頭を取つて與れた。其頃から鐵道の道具が備へ付けられたけれども、餘り振はなかつたようである。

遠行も同志社初代の運動法であつて、これには新島先生も度々參加された。然し私の在學時代に於て最も廣く行はれたのは散歩と遠足であつた。五日間は全部の學生が熱心に勉強し、土曜日は一齊に學課を休みて遠足するといふ習慣は今から考へても全く理想的であつたと言へる。私共は五年間の學生時代に勉學の方法と保健の手段とを會得することが出來たのである。

一言にしていへば同志社生活は規律的生活であつた。然し其れは他から強へられたのではなく、學生が自發的に築き上げたものであつた。

私が寄宿舍に入りて何時頃から基督教の研究に興味を感じ初めたかは明白なる記憶がない。然し私の簡單なる日誌に明治十三年十月九日京都の寺町でバイブルを買ふたといふことがあるのを見れば、九月六日に入舍してから間もなく基督教を研究する氣になつたらしい。これは當時の同志社生活を考へれば決して不思議のことではなかつた。每朝學生は七時半に禮拜堂に集まり、教師は交る／＼司會者となつて簡單なる宗教的儀式を行ひ、其後廿分間位宗教道德に關する講話をなすのであつた。學生は其有益なる講話に引き着けられて何等の強制なしに出席することを樂しみにしたものだ。私は今でも新島先生が其當時

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

話されたことの一部を記憶して居る。これが私を基督教に接近せしめた一の動機であつたことは言ふまでもない。

徳富蘆花の小説『黒の目と茶色の目』には可なり同志社學生々活の暗黒面が畫いてあるけれども、明治十二年から十七年頃にかけての學生々活は實に純眞其ものであつたやうに思ふ。勿論私が迂濶で裏面の消息に通じて居なかつたゝめであるかも知れぬ。少くとも私の級には何れも立派な人物が揃ふて居たのであるから、平常の談話でも學問か宗教のことのみで、下らないことを語るのは大なる恥辱であると考へて居た。學生全體の氣風がこれであつたから、私は基督教の感化力といふことに考へ及ばざるを得なかつた。これが基督信者となつた第二の理由である。

第三の理由は言ふまでもなく新島先生の人格に觸れたことである。先生は立派なる容貌と體格を持つて居られた。眼光炯々人を射るといふやうな威厳があつたが、然も其眼元と口元には慈愛の微笑が溢れて居た。同志社には時々文部大臣や其他の高官が訪問し、學生に對して講話をなすことがあつたが、これを紹介する先生の方が其態度に於ても容貌に於ても遙に堂々たる所があつたので、學生はこれを一の誇りとして居た。

先生は人手の足らぬ時に自ら親しく教鞭を取られた。私共も一時は先生から萬國史の教授を受けたこともある。先生は又時々食堂に來て學生と食事を共にされたこともある。私共の食物が餘りに貧弱であると思はれたためか、學生全體に牛肉や鹿肉の振舞をされたことも度々であつた。明治十三年十二月私が瘍を病んで二週間も病床に在つた時先生は屢私の室を訪問され、或時は見舞品として蜜柑を贈つて下さつた。

先生は徹底的にデモクラテイツクであつた。如何なる人を呼ぶにも何々さんと言ふのであつて、「さん」と君との使ひ分けをするやうなことはなかつた。車夫を呼ぶにも車屋さんであつた。これと同時に高位高官の人々に對しても過分な敬意を表しなかつた。明治十七年先生が再び歐米漫遊に出かけられた時羅馬から學校に宛てた手紙の中に次のやうな一節があつたことを記憶して居る。『當地に來た序に羅馬法王にも面會したいと思ふたけれども、何人も法王の前では跪かねばならぬといふことだから私は思ひ止まつた。なぜならば私は何人の前でも膝を屈することを好まないからである』。これは實によく先生の氣質を表はして居る。

こんな事情が私をして漸次基督教に接近せしめた。然し私を決定的に基督信者たらしめたのは明治十三年の十二月であつた。前に述べたやうに私は其時瘍に惱んで二週間も病牀に休んだ。丁度冬季休業前の試驗を控へて居るので無理にも勉強して見たけれども、錐で刺すやうな痛みを感じ、多少發熱もしたので病院に行き手術を受けた。醫師から瘍といふ宣告を受けた時私は何とも言へぬ恐怖を感じた。私は幼時から瘍は不治の病であることを聞かされて居たからである。其より三四日間といふものは殆んど生きた心地はしなかつた。遠く郷里を離れて遊學して居る十六歳の私は再び父母兄弟の顔を見る機會があるだらうかといふやうなことまで考へ出した。人生がこんな短いものでは本當につまらない。若し基督教で說くやうに來世があるといふことが眞

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

實であるならば、どんなに此場合の慰藉であるかも知れない。若し幸にして此病氣が癒へるならば、私は今少しく眞劍に基督教を研究して見よう。私は斯の如くして死地に一條の活路を見出した。手術後の經過は案外に宜く私は直に熱心なる基督教の研究者となつた。洗禮を受けて一人前の信徒となるには充分なる修養がなくてはならなかつた。洗禮を受けるには信仰上の試驗を受けなければならぬ。而して試驗を行ふ者は上級生にして既に教會員となつて居る者であつた。朝夕共同生活をやつて居る人々に試驗されるのであるから、洗禮志願者は平素の行狀に於ても立派なるものでなくてはならぬ。然らざれば試驗する者の中に必ず反對意見が生ずるからである。私が自重して洗禮の志願をしなかつたのもこれがためであつた。

心では明治十四年の初頃から一人前の信徒であるような積りで居たが、私が遂に新島先生から洗禮を受けたのは明治十五年の二月五日であつた。其時私と共に洗禮を受けたものが他に八名あつたが、其内には私の同級生である岸本能武太及び新原俊秀の二人もあつた。其當時の學生中には基督教宣傳のため生涯を捧げんと決心した者が少なくなかつたのであるから、私も何時の間にかそうした希望を抱くようになつた。

同志社の特色の一は演説練習の流行であつた。學校も演説を一課目として取扱ふて居た位であるから、學生も種々なる團體を作つて熱心に演説の練習をしたものである。同志社はこれまで文章の雄としては德富兄弟を出して居るに過ぎないけれども、雄辯家の中には同志社出身者が可なり多いように思はれる。斯の如く同志社が此方面に特色を有つて居たのには、其處に特種の便宜があつたことを考へなければならぬ。それは演説の練習が校内に限られないで、京阪神の基督教會が其門戸を青年辯士のために開いて與れたことであつた。其當時の基督教と言へば關西地方に於ては同志社が中心であつたから、どんな青年でも基督教を説明することが出來れば各教會はこれを歡迎するのであつた。

私は明治十五年二月に洗禮を受けて同年五月からは毎日曜日京都市松原通りの講義所で基督教の説教を初めたが、これは同志社を卒業するまで繼續した。又夏季休暇のため郷里福岡に歸つた時も毎日曜日教會のために説教或は演説を試みた。當時私は僅かに十八歳の若年であつたけれども、何等の報酬をも受けずして熱心に盡力した。初めて小劇場で演説したのは明治十七年二月であつて、同四月には神戸市に於て楠公前の大黑座で數名の先輩と共に演説した。これが比較的大きな舞臺に立つた最初の經驗であつた。

佛教の中心地である京都に基督教の本營たる同志社が設立されたのであるから、佛耶の間に多少の衝突が起ることは何人にも想像された。然し實際にはこれといふべき程のことはなかつた。私の在學中只一度だけ言論戰が行はれた。明治十四年五月中旬基督教側は四條の大劇場で晝夜二回に亘る大演説會を開いた。午後は一時から五時まで、夜は七時から十二時まで、辯士の數は合計十九名であつたから名實共に眞の大演説會であつた。其演題や辯士が當時のことを語るに適切な資料であるから、これを左に掲げることにする。

晝之部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奏樂

開會の趣旨　宮川經輝
神の性質　金森通倫
靈魂之說　不破唯次郎
眞理之勢力　デニング
基督之傳　浮田和民

奏樂

見へざる神を見るの法　山崎爲德
基督教の結果　上原方立
萬國基督教の現況　ラーネッド
聖書の說　山田良齋

奏樂

世界を救はんものは基督教なるか　新島襄
阿彌陀如來の說　ゴルドン
基督教と學術の關係　宇野作彌

夜の部

奏樂

基督教之證據　森田久萬人
耶蘇の說　本間重慶
十字架之勢力　上代知新

奏樂

眞正の自由　宮川經輝
信仰　村上俊吉

愛神愛隣の說　伊勢時雄
天啓の要用なること及び其適宜なる證據　デニング
因果應報　杉浦義一

此大々的演說會は少からぬ刺戟を佛教徒に與へたらしい。更に六月十一日には大阪に於ても同樣の大演說が開かれたのであるから、六月十四日には佛教側に於ても京都新京極金蓮寺に大演說會を開いて基督教の攻擊を試みた。其辯士と演題を掲げるのも一興であらう。

外教論　高木喜一郎
困つた世界　竹下康之
外教妄信者の迷夢を覺す　桐原捨三
文明諸國又國教の有るあり　高島小金治
人を以て結合すべき論　波多野承五郎

基督教側も宜しくこれに應酬すべしといふ意氣込みで同月十八日矢繼早に東山雙林寺に演說會を開き「交詢社員の演說を駁す」といふ振れ出しで次の辯士が雄辯を振ふた。

基督教と學術の關係　森田久萬人
國教論　杉浦義一
耶蘇教三大派論　山崎爲德
耶蘇教國の道德　宮川經輝
基督教と邦國の關係　市原盛宏

此時分から彌次が行はれだした。私共も交詢社員の演說會を聽きに行つて、ノーノーとかヒヤーヒヤーとか叫んで妨害を試みたものだ。

それで同志社側主催の演說會には澤山な佛教側の聽衆が復仇的に彌次る

彌次を飛ばしたり、床を足踏して妨害をなした。遂に寺の椽側は聽衆の足踏に堪へずして墜落し、大混亂を惹起すに至つた。彌次は議會の特産物ではなくて、既に明治十四年頃に行はれて居た。然しさすがに宗教家の對抗であつたゞけに毆り合ひはやらなかつた。

今から顧みれば其當時に於ける私の宗教心は極めて原始的なものであつた。私の性質を自分で判斷して見ると私は何としても感情的ではない。勿論何事でも理窟一偏で行く程理智的でもないが、決して情熱的ではないのである。基督教を信ずるやうになつたのも主として其道德的方面に引着けられたのであつて、深遠なる信仰の境地に進入したのではなかつた。歐米の如き文明も畢竟するに基督教が其根底をなして居るのだと敎へられ、自分にも左樣に思はれるのであつたから、殆んど無批判で基督教を丸呑したのであつた。

基督教の教理には常識で承認することの出來ぬ多くのものがあつた。聖書無謬說、基督神子說、聖靈存在說、奇蹟實在說の如きは何人にも疑問を起さしむる所の教理である。然し私は基督信者にならなければ立派なる人格の修養が出來ず、上記の教理を承認しなければ信者となることが出來ぬと考へたから、此等の不純分子をも無理やりに信仰することゝなつた。

容易に承認することの出來ぬ思想を無理に頭腦に詰め込むのだから其苦勞は一通りでなかつた。私共は決して自分の心を欺くことが出來ないのだから、如何にしても此等の教理を承認するだけの理由を見出さなければならぬ。其當時圖書室に設へてあつた書籍の中には『基督教證據論』とか『基督教辯證論』とかいふやうなものが可なり多かつた。私共の先輩や教師は私共のために此等の書物を講讀して呉れたのであるが、私共はこれによりて多少自分の心を安んずるだけの理窟を見出すことが出來た。

言ふまでもなく同志社の目的は基督教の宣傳にあつたので、決して宗教の自由研究ではなかつた。故に基督教に反對するやうな學者の說は全く異端として排斥された。ヴォルテヤー。トマス、ペイン。ルナン。スペンサーなどの書物を讀む者があれば、忽ち危險人物として注視されるのであつた。

當時の基督教が如何に保守的であり排他的であつたかは以上述べた所によりても推測することが出來ると思ふ。然し此等の不純分子の中にも基督教の眞精神は燦として輝いて居た。私は自ら消化し得ないやうな多くの教理を丸呑したと同時に營養分の豐富なる教訓をも攝取することが出來た。私が人類愛といふ思想に燃ゆるやうになつたのは全く基督教の賜である。

同志社は有名なる相國寺といふ寺院と境を接して居る。相國寺の境内は可なり廣いのであるから、其處も亦私共の散步場となつて居た。境内には蓮池があり、小さき松林があつた。朝飯後獨りで散步して居る私は度々巡禮が松林の中で休んで居るのを見た。或時の如きは三人の親子が飢に迫つて横臥して居るのを見たこともあつた。時には彼等の憐なる物語に耳を傾けることもあつた。

其頃加茂川に沿ふた道路の修築が行はれた。今日のやうに砂利を敷く代りに割石が用いられた。割石とは大きな石を方一寸位に割つたのであつて、これには多くの勞働者が雇はれて居た。但し辨當を持參せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬ者は嚴はぬといふ規則であつたから、中には辨當箱だけを持參した赤貧者もあつたといふことだ。貧乏は現代の特産物ではない。既に四十六七年前に於ても私は深刻なる貧乏の事實を見せつけられた。

私は宗教的修養に重きを置いたけれども、同時に貧乏といふ事實に對して無頓着なることは出來なかつた。靈魂の救濟といふことは第一義であるかも知れぬけれども、物質的救濟といふことも決して輕んずべきものとでないといふことが強く私の心に響いて來た。其當時には今日の所謂社會事業といふものは殆んだ全く存在して居なかつたと言ふても宜い。社會問題とか社會主義とかいふ語も其當時には使用されて居なかつた。

私は貧乏救濟といふことを考へたけれども、どんな方法によりてこれを實行するかといふことに就ては何等の成案もなかつた。唯監獄改良に一生を捧げたジョン、ハワードや奴隷解放のために獻身的活動をなしたウイルバーフオースの如く自分も人道主義のために一生を送りたいといふ希望はあつても、さて具體的方針といふことになると、結局基督教の宣傳といふより外取るべき途はなかつた。

然し私共がラーネッド先生から經濟學の講義を聽くようになつて、私は暗夜に一點の光明を認めるような氣持になつた。勿論十八九歳の青年であつた私に今日の所謂資本主義經濟制度といふが如きことが了解される筈はない。然し或點までは貧乏救濟即ち人類の物質的救濟は經濟學の研究に頼らねばならぬといふことを考へたらしい。兎に角私はそんな理由で經濟學に強い興味を感ずるようになつた。

同志社の卒業式には他に見られぬような特色があつた。それは卒業生が全部演説をしたり論文を讀むことであつた。私の日記から卒業式のプログラムを左に引用して見よう。

卒業式順序　明治十七年六月二十六日

唱歌

祈禱

基督教と一己人の進歩(邦語演説)　松尾熊夫

謝知己(邦語文章)　新原俊秀

泰西之學(英語演説)　重見周吉

人間終極之目的(邦語演説)　村井知至

社會と一己人の關係(英語文章)　瀧能武太

處世之見(邦語文章)　堀正義

文學世界(英語演説)　三輪禮太郎

我何を爲すべき乎(邦語演説)　山岡邦三郎

スペンサー倫理學批評(英語文章)　三好文太

宗教と經濟(邦語演説)　竹内磯椎

右十人の内改姓したものが三人ある。松尾は南、瀧は岸本、竹内は安部となつた。歌人であつた三輪と英語の巧みな三好は遠の昔に故人となつた。

私が片手に宗教を握り片手に經濟を持つて世に立たんと決心したのは卒業前からのことであつた。此二つの思想が後年私をして社會問題に興味を有せしめ、遂に社會主義者とならしめたのは言ふまでもない。

私の卒業する三ヶ月前に同志社には信仰復興運動が起つた。リバイバルといふことは歐米諸國にも時々起る現象であるか、私は親しく同

志社にこれを見たので今も尚ほ忘るることが出來ない。私の記錄に據れば此運動が起つたのは明治十七年三月十六日であつて、月末には第二學期の試驗が行はれるといふ大切な場合であつた。此運動が上級生から起らずして、二年級の少年によりて口火を切られたといふことが人々を驚かした點であつた。

二年生の内に三四名の熱心なる信徒があつて、彼等は一室に集合して或は祈り、或は信仰を語つて居たのであるが、何時とはなしに一種のインスピレーションを感じた。恰も磁石に附着した鐵片が忽ち磁石の性質を帶びるが如く、此等の少年に接して信仰を聽く者は忽ち天來の靈感に打たれるので、滿校の學生は殆んど全部其感化を受けることになつた。

此運動は間もなく學校外にも波及した。京都の教會は言ふまでもなく、大阪神戸の諸教會も少年の信仰談によりて非常なる感動を受けた。多數の信徒はこれこそ基督教が天來の宗教たることを證明するものだとさへ考へた。此勢ひで進めば日本全體を基督教化することは決して困難でないとさへ公言する人があつた。

滿校の學生は恰も醉へるが如く宗教的歡喜に充たされた。寄るとさわると信仰の話ばかりで、誰も落着いて勉强する氣にはなれなかつた。

此熱烈なる宗教運動の中に在つて私はどうした譯か他の學生のように宗教的歡喜に醉ふことが出來なかつた。私は決して此運動を冷眼視したのではない。寧ろ自分も涙を流して祈つたり、歡喜に充ちて躍りたい位に思つたけれども、それが私には出來なかつた。なぜ自分にはあんな靈感がないのだらう。それは自分の信仰心が足らないためではなからうか。或は自分には何かの罪障があつて、神の恩惠を受ける資格がないためではあるまいかなど考へて少からず悲觀したものだ。

或夜のこと私は既に寢床に就いて安眠して居た。十二時頃であつたと記憶するが、けたゝましく二階に驅け上り、いきなり私の室の障子をあけて私の床の側に坐したものがあつた。これは私の同級生の一人で、私の質問を遮り先づ祈禱を始めた。私は其終るのを待つて何故此處に來たのであるかを質問すると、彼は兎に角禮拜堂に來て呉れと言ふので、私は彼の言ふまゝに同行した。夜は既に十二時を過ぎて居る。三月の下旬ではあるが何となく肌寒い氣がした。

禮拜堂の戸を開けて内に入つた私は全く失神する程に驚いた。先輩の一人は連日連夜の宗教運動に疲勞した結果、精神に異狀を呈するようになつた。彼は禮拜堂の演壇の上に立つて自ら基督であるかの如き振舞をして居るのであつた。聖書に據れば此世の終りに基督は人類の善惡を判別し、各人に對して賞罰を明にするといふことがある。私共の先輩は恰も基督の如く一々同窓生を呼び出し、篤信の者は演壇の上に引き上げ、否らざる者は演壇下に留らしむるのであつた。

これだけでは如何にも滑稽に思ふ人があるかも知れぬが、深夜に此の如き場面を見せつけられた私は寧ろ神秘的な感に打たれざるを得なかつた。幸にして先輩の興奮は一時的であつたから、數日間の休養で常態に復したけれども、更に私共の同級生から本當の犧牲者を出すに至つたのは返す／＼も遺憾であつた。

私共の同級生に木村經夫といふ學生があつた。彼は同級中の年長者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であつて、私共の多數は二十歳前後の若年であつたに反し、彼は其當時既に二十五六歳以上ではなかつたかと思ふ。彼は熱心なる信徒であつて、卒業後は直に宗敎宣傳者たることを任じて居る位であるから、此時の信仰復興運動には常に先頭に立つて居た。彼の白熱的なる信仰と同輩の狂熱とは遂に彼をして心のバランスを失はしむるに至つた。

新島先生は木村を靜養せしむるために二階の一室を提供されたのであるから、同級の村井と私は木村と共に先生の住宅に移り看護の任に當つた。精神錯亂後の木村は飽くまでも宗敎的であつて、宗敎以外には殆んど何事をも語らなかつた。彼は度々自分が大說敎家であることを誇るのであつたが、時には自分が基督の弟子パウロであつたり、甚しきは自ら基督を以て任ずるようなこともあつた。彼は常に強度の近眼鏡を用いて居たが、これは大說敎家たるに大なる障害であることを感じて居たらしい。

或朝二階の廊下に出で彼ば目鏡を取り除けながら東山の方を眺めて驚きの聲を發した。『實に不思議だ。目鏡がなくとも東山がよく見へる。これは神樣が私を大說敎家になさる思召と考へられる』。それから彼は下を向ひて地に唾を吐きながら、『此唾はやがて雀になるぞ』と言ふた。彼は其時基督になり濟して居たのである。

木村は約十日間位新島先生の宅で厄介になつて居たが、急に回復の見込がないので遂に京都の精神病院に入院することになつた。私は一二度病院に彼を訪問したけれども、彼には最早舊友の記憶はなかつたらしい。斯くして信仰復興運動の犧牲者は數月の後遂に永遠の眠りに就いた。

絕頂に達した同志社の宗敎熱は當然宣傳熱にまで進まさるを得なかつた。此靈火を日本全國に燃へ上がらしむるは此時であるといふのが學生の考ふる所であつた。第二學期の試驗は棄放して滿校の學生は日本全國に宣傳運動を開始すべしと說く者もあつたけれども、新島先生は諄々として其不可なる所以を說き、僅に三人の代表者をして關西の各敎會を巡回せしむることになり、其他の學生は冷靜に試驗の準備に取りかゝることになつた。

信仰復興運動に口火をつけた二年級の主動者は同志社卒業後に於て殆んど全部其信仰を放棄したようである。其他上級にして其運動に熱狂した者の中にも今日信徒たることを止めた者が少なくない。リバイバルは花火の如く一時燦然として人目を惹くけれども、畢竟するに瞬間的運動である。私は其當時自ら熱狂的になり得ないことを悲觀したけれども、後に至りてこれを顧みれば、私は寧ろ自らが冷靜であつたことを喜ばざるを得なかつた。

然し私は信仰復興運動により得る所が少なくなかつた。私には狂熱的の信仰なかつたけれども、宗敎によりて人格の修養が最も有効に行はれ得るとい確信を得た。明治十七年六月同志社を卒業し、七月及び八月は例年の如く鄕里に歸ることを止めて、基督敎宣傳のため丹波に赴くことに決心した。

私は卒業前後から自分の行くべき途は宗敎か敎育かの外にないことを考へて居た。然し何れにしても今少しく修養する必要があるので、私は九月から同志社の神學科を修むることにした。同級生の重見と三好は渡米したけれども、其他の者は多く神學科に殘ることゝなつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

神學の研究は全く私共を失望せしめた。學科も面白くなかつたが、殊に不滿足を感じたのは教師であつた。私共はこんな修學のために三年を費すことは勿體ないと考へたから、同級生の決議を以て神學科の修業を二年に短縮せんことを當局者に談判した。當時新島先生は洋行の不在中で市原盛宏先生が校長代理であつた。私共の要求は受けられなかつたので私共は更に教師の更迭を要求したけれども、これも全然拒絶されてしまつた。同級生の不平は其極に達し、全級擧つて退校すべしといふ意見もあつたが、學校を騷がせるのは面白くないといふことで同盟退校だけは思ひ止まつた。

然し村井知至と私は退校することに決した。明治十七年十月二十六日私共は懷かしき同志社を去ることになつた。恰も此日卒業間際まで同級生であつた小野英次郎は郷里柳川から京都に來た。小野は渡米の準備が出來て遠からぬ中に出發することになり、村井も渡米準備のため郷里松山に歸るといふので、三人は正午頃の汽車で京都を出發した。洋行の望みを抱いて居る二人は神戸に行き、まだ前途の目的に迷ふて居る私は獨りで淋しく大阪に下車し、博多行の汽船の出帆を待つのであつた。

病床懷郷賦

古泉千樫

まぐさ刈る長狹細野の草山のほさのかげにて木苺食うべし

ひんがしの長狹細野の傳右衛門の古き厩に牛も馬もなし

わが齡十五にならばよき馬を家に飼はむといひにし父はも

蜜柑畑の雜草がなかにこんにやくいも莖ほそほそと立てるさびしさ

牛馬居らぬ大き厩の片すみに豚の子ひとつ飼ひにけるかも

藁しぶに深くもぐれり豚の子の一匹にしてさびしかるらし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治前半の論壇

三宅雪嶺

明治維新の新政府は天下の公論といふに重きを置いた。幕末一般の趨勢からであるが、特に必要を感じたのは、新政府の基礎が定まらず、諸藩で疑ひを抱いてゐる時、皇室を戴き、天下と共に、天下の爲に計るを標榜するに若くはないといふにある。内部に種々の事情があり、薩長聯合して權力を握るをば、土州でその裏を描き、列藩會議で事を決しようとし、尙薩長聯合しつゝ、長州が薩州の比較的兵力大なるを忌み、別に之を制するの方法を考へた。長の木戸孝允が建議し、土州の福岡孝悌、越前の由利公正が草案を作り、協議の末、五誓文となつて公布され、第一に、廣く會議を興し萬機公論に決すべしとあり。之が後に絶えず問題となり、憲法發布、議會開設とまで發展するに至つた。初めの程、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、外間より議論を以て迫られ、進むべきに進まずに居れなかつた。

然し、何にしても、政府が率先して言論を獎勵し、公論と言ひ、公議といひ、輿論といふ語を用ひ、之を普及した。初め實に議會を設けるの意があり、唯幾らか着手して早くも困難を感じ、有耶無耶になつたのであつて、當初の意氣は頗る壯で、論客養成に從事した。明治二年三月十二日、東京城に待詔局を置き、有志のもの草莽卑賤に至るまで建言せしめ、尙集議規則を刊行し、中に

一、集議院中別ニ一局ヲ設ケ、天下ノ進言獻策有用ノ材ヲ總ヘ寄宿セシメ、其德行才能ヲ考試スヘキコト。

但右一局ハ集議院寄宿所ト名ツク、寄宿スル者集議院寄宿生ト唱フ。

とあり、官費で論客を養成せうとし、いろ〳〵の人物を寄宿せしめる中、雲井龍雄の如きも居る。然し、龍雄が集議院の壁に「天門之窄於甕、不容射鉤一管仲」云々と題して飛び出したのは、その困つた程でなく、甚だ窮屈であつたことを示す。三年五月二十八日集議院が閉院され、七月二十七日薩藩の横山正太郎（森有禮の兄）が同院の建白書を懷にして、自殺したのが世間の評判になり、政治批評の種になつた。

政府で言論を獎勵しても、之れを發表する機關が備はらず、議論と言へば、建議か、書面か、面談かの外ない。大體上に新政府の組織者は論客であり、人一倍の論客もあつて、幕府の弊害を攻撃し、根本的改革を決行するの必要を說き來つたが、その議論は廣く世に知られる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に至らない。當時として立派な意見があり、名論卓説と稱するに足るも、或る一部にしか知れず、一般世間と沒交渉に過ぎた。西郷隆盛は武力一方のやうで、意見に富むこと、幾多自筆の書類で知る事が出來る。大久保利通は更に意見多く、木戸に至つて意見湧くが如きものがある。實行に奔走するものでもさうであり、有力者に意見を供給する連中は、内外に處する政策の頗る審らかなのがあるけれど、要するに一部分にしか知れず、廣く知らすべきものでないとし、廣く知らすことが出來もしなかつた。長州は宣傳の効を知り、木戸が新聞を利用したにしても、その新聞はわづかしか擴まらない。意見書を寫して人に送るか、有志者が借りて寫すか、孰れかであつて、一般世間が與り得る處でない。國家問題がないのでなく、注意すべき意見がないのでなく、或る一部分の仕事に止まり、最大多數はどこに何があるかを知らない。知る者は知り、知らぬものが遙かに多いのを如何ともする事が出來ない。新政府が成立しても、世間が騒がしく、落ちついて人の議論を聽いたり批判したりして居れない所もある。

然し、政府が東京に移り、諸藩が之れに從はずに居れず、立身出世を心掛ける者は先づ東京へ出かけてからといふことになり、我もくと馳せ集まらうとする。地方から出た青年は、漢學者、または洋學者の塾に入り、漢學の方が餘程多く、安井息軒、芳野金陵等が盛んで、中にも田口文藏の塾は倶樂部の形を呈し、薩州人が出入し、その中から例の横山が出た。横山が時事を論じて自殺したと言ふので、噂とりどく、若い者が東京へ出てあぶないとの説もあり、薩藩では留學生を郷里に歸さうとした。漢學塾及び洋學塾は、青年論客の集合所であつて、先輩に見習ひもし、遊廓へ通ひ、天下の事を論ずるを得意とし、醉臥美人膝、醒握天下權と歌つた。豪傑氣取りで、學問は名ばかり、大言壯語して日を送るのが多い。政府で言論を奬勵したにせよ、よい意見もあり、惡い意見もあり、一々詮議してをれず、廢藩置縣を實行し、政府の基礎が固まりかけた頃、餘計な議論に耳を假しても何の利益ないとて、言論奬勵の方針を變じ、國家熱を冷却するに努め、明治五年八月二日學問奬勵の布告し、「士人以上の稀に學ぶ者も動もすれば國家の爲にすと唱へ、身を立てるの基たるを知らず」といひ、「從來沿習の弊、學問は士人以上の事とし、國家の爲にすと唱ふるを以て學費及び其衣食の用に至る迄多く官に依賴し、之を給するに非ざれば學はざる事と思ひ、一生を自棄するもの少からず、是皆惑へるの甚だしきものなり」といひ、前と反對になつた。

政府部内に時々大議論があり、運命に關するやうなのがあつても、世間へ公にしない限り、別段問題にならず、人々が或る筋から洩れ聽いて噂し合ふのみで、政治の事は政府に限られて居る。世間の重大問題となつたのは、六年五月七日、大藏大輔、井上馨、大藏省三等出仕澁澤榮一が、建議書を日新眞事誌に發表したのに始まる。その頃、東京を始め各地に新聞が出來ても、要路者の意見を發表する程のものなく、英人ブラックが經營した日新眞事誌が、割合に體裁が整ひ、そこへ大藏當局者が意見を發表し、剩へ日本の財政が持ち切れず、それで辭職するといふのであつて、世間で驚かずに居れぬ。新聞の販路が甚だ狹くても、前に例のない事であり、議論の重要なる題目となつた。當時の大藏省は、後の内務農商務遞信等を兼ね、最も力あるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、急に問題を起し來り、容易ならぬ次第となり、大藏卿大久保は未だ海外より歸らず、そこで、參議大隈重信が、大藏省事務總裁となり、十八日に建議書を却下し、六月九日、歲入出見込會計表を公布し、日本の財政は決して行詰らず、僅に餘りがあると發表し、世間の疑ひを解くことにした。これは、大隈の手腕の鮮かに顯はれた所であつて、さすがの井上をして手持無沙汰ならしめた。議論すれば、大いに議論すべき處であり、井上澁澤が當つてをるか、大隈が當つてをるか、歲入が足らぬといふのと、歲入が餘るといふのと、計算の仕樣次第にせよ、餘りの相違であつて、それで、始めに驚いた割に早く鎭まつたのは、思想が簡單で、特に會計を輕んじたのに因る。會計の事は會計方に任せば宜いとし、問題に比して議論が沸騰せず、豫算編成の起源となつたのを何寄りの事として置く。同月二十四日、集議院を廢し、事務を左院に倂したのは、如何に世評を嫌つたかを語る。

同年七月、木戸が歐米より歸り、當路者へ意見書を贈つたのは、有數の論文たるを失はない。憲法の語を使用しなくて、憲法を意味して居る。隨分人が寫したけれど、文勢直言せず、迂餘曲折したがため、眞意を知らず、單に憂國の情に溢れるとした。一世の議論となつたのは、同年十月の征韓論であり、何にしても廟堂に大變動が起り、問題が解しやすいので、中央地方を問はず、盛んに議論し合つた。辭職した舊參議五人の內、西鄕を除き、副島、後藤、板垣、江藤の四人が、由利、岡本、小室、古澤と共に、七年一月民選議院設立建白を左院に呈し、十八日新眞事誌に登載したので、更に議論が喧しくなつた。征韓といひ、民選議院設立といひ、一般に解し易く、民間の政治熱が頓に昂まつた。刺客が岩倉右大臣を襲はず、江藤が佐賀で亂を起さなんだならば、問題が一層火の手を熾にしたらうが、議論よりも暴力となつたので、政府に口實を與へ、民間でも戒めるに傾き、議論の勢を削ぐ形になつた。前には有力者が自ら意見を草し、人に草せしめても、當人の持論として知られたが、民選議院設立に至り、起草者自身が現はれ始めた。古澤滋が英國から歸り、議院の必要を感じ、前參議に說き立てたのであつて、前參議は擔ぎ上げられた所がある。實は小室信夫の力が多からうが、古澤が立論の衝に當つた。前參議は意見がないではなく、民選議院を必要としても、議論らしく議論するには、政治の本場で知識を得たものに任す方がよい。副島が潤飾しても、古澤が執筆したのが明かになつた。前に田邊福地等が參議の建白を草しても、それは世間に知られて居らぬ。

古澤が議論する程ならば、他にも負けてをらぬのがいくらでもあり、そこで、反對論贊成論が並び出でた。宮內省四等出仕加藤弘之は、副島、後藤、板垣三氏に書を贈つて、民選議院設立の尙早きを論じ、古澤が三氏に代つて之れを反駁し、大井憲太郞は馬城台二郞の名に於て、別に之れを反駁し、加藤は馬城に答辯し、馬城は更に反駁した。森有禮や、西周や、民選議院の可否を言はず、建白書の意義の誤れるを駁し、津田眞道や、西村茂樹や、民選議院に贊成し、福地源一郞は猶尾道人の名に於て加藤に應援した。有名無名の論客が一時に起つて議論を鬪はした。

かくて議論が沸騰し、世間を刺戟し、新聞雜誌の發行を促し、中に語氣の過激なのがあり、八年六月二十八日、政府に於て新聞紙條例と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

共に、讒謗律を制定し、禁獄又は罰金の刑に處せられる者が續出し、成島柳北、末廣重恭、藤田茂吉、小松原英太郎、杉田定一、關新吾、塚原靖等は、前後して禁獄された。雜誌は洋紙が多く用ひられず、唐紙で日本綴ぢにしたものが行はれ、最も猛烈なのは、評論新聞、草莽雜誌、湖海新報であつて、殆んど毎號編輯人が罰せられ、豫め入獄編輯人を定めて置く位であつて、それでも尚制する事が出來ず、遂に九年七月五日、發行禁止又は停止の布告を出し、十日に彼の三雜誌の發行を禁止し、次いで他に及んだ。草莽雜誌は禁止されて莽草雜誌と改題し、やはり罰せられた。大抵壓制政府顛覆すべしとか、自由は血を以て購ふべしとかいふ調子で鋒先を向け、力を以て勝つか敗れるかの態度を示す。

當時、政府の鎭臺兵は相應に整つても、薩州の西郷を特別とし、長州の前原以下、地方に多少の兵力を備へてをるのがあり、場合によつて開戰し兼ねまじき勢ひに見える。政府でも氣が氣でなく、何とかして鎭壓しようとし、先づ反間を以て前原に亂を起させ、兵力を以て之れを鎭壓し、徐ろに薩摩に備へた。薩摩では、恐るべき兵力を備へても邊僻の地で一般の形勢に通ぜず。全國に不平の氣分が滿ちてゐるを察し、一度び起てば政府を倒すに難くないと信じた。然し民間知識の程度は、いつとなしに高まり、維新當初の如く簡單でない。民選議院の可否でも相應に知識を練つて居る。薩摩では、維新と大差なく心得、西郷の盛望を以て起ちさへすれば、事が無造作に成りさうに思ふけれど、世間は政治の實質に就いて考へて居り、徒らに兵力を以て爭ふのに與しない。政府は兵力があり、金力があり加ふるに先手を打つた爲めもあるが、鹿兒島勢も九州の半分に限られ、その外に出でない。元老院幹事陸奧宗光が土佐と共に應じやうとしたけれど、不成功に終つた。世間で自由主義を提げて政府に反抗するのは、大抵漢學塾から出で、洋學を修めても漢學流を交へ、君側の奸を除くといふを痛快とし、或は刑に觸れて自ら偉いとする方であつて、所謂慷慨悲歌の志士の名殘であつたが、さしもの西郷が兵力に倒れたといふので、兵力に訴へる氣分が著しく減じ、同時に智見を磨き、是非曲直を以て爭ふに傾いた。

西南戰役以前は、言論の裏に兵力を意味し、まかり間違へば三尺の秋水を振るはうとしたが、その以後は、政黨を組織し、言論を以て政府と爭はうとする事になつた。政府では、夙に言論を重んじ、議會を設けるの意であつたが、實際問題となつてその困難を知り、反抗者を鎭壓するに忙がしく、當初のことを忘れるやうになり、五誓文の第一に、廣く會議を興し萬機公論に決すべしとあつたとて、特殊の事情でさう發表したのみで、何時までも之れに拘泥するは迂濶も甚だしいと冷笑して憚らない。早く幾年を期して議會を開設すべき旨を豫告したならば、多少紛擾を和げ得たらうに、西南戰役に勝つた勢ひに乘じ、之れを敢てしなかつたので、國會開設願望の運動が起り、日一日と盛んになるを禦ぐことが出來ない。論客はもはや徒らに悲憤慷慨するのと違ひ、內外の狀勢を說き、頗る審らかなのがある。前から慶應義塾出身者が加はつたにせよ、孰れかといへば半可通で飛び出したので、精しく議論するに堪へず、壓制政府顛覆すべしと云ふ位の所で、憲法を如何にすべきやといふに至り、はたと當惑するを免れない。戰役後

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

には、相當に知識を蓄へ、列國を引用し、憲法を論ずるのがある。

明治十一年五月まで、政府は大久保が事實的首相の格で統一し、その下に大隈及び伊藤が智慧嚢となつて控へたが、その横死した後、二人兩立し難く、權力爭ひを生じた。大隈は肥前出身で、參議の筆頭にをり、他に屈するを欲せず、薩長出身者は之れを好まず、除外して相談する事が多い。大隈は前に伊藤井上と謀り、國會開設に取掛る筈であつたが、薩長聯合に對して我慢が出來ず、早く國會を開いて局面を展開しようとした。時に偶薩の黑田清隆から開拓使官有物拂下の議が出で、巨額の金を投じたものを廉價で一味の人達に拂下げるといふので、議論が沸騰し當時の論客總掛になり、御用の看板を掲げた福地までが攻撃演説を敢てし、最も上出來と言はれた。輿論が政府に反對と見える傍ら、大隈は明治十六年に國會を開設すべき意見書を乙夜の覽に供した。當時大隈は天皇に扈從して東北地方を巡り、その間に謀る處あつたが薩長側では、大隈に關する密告に接し、大いに憤りながら、密かに準備して待ち、御還幸の日、御前會議で大隈を詰問し、大隈も辯解したものゝ、遂に辭表を捧呈し、大隈關係と認められた官吏は一同に辭職した。伊藤は國會開設に意あつても、大隈の出し抜けの處置に快よからず、之れに反對し、同時に國會開設の準備に着手する事にし、詔勅を以て二十三年に開設する事になつた。若し更に早く、開設の豫約をしたならば、大隈の位置も違つたらうが、何等かの變動を經ねば、豫約するさへむづかしかつたと見ねばならぬ。愈十年後に國會開設といふので、開設願望の運動は開設準備の運動に變じた。開拓使事件と關聯して國會開設の議の起つたのは、征韓論と關聯して民選議院設立建白の出たのに似てをり、政治上に一段の變革を遂げた。大隈の考へでは、藩閥政府に對抗して政黨を組織すれば、藩閥に飽き足らぬものが翕然として集まらうとした。開拓使官有物拂下に反對する勢ひは、まことに素晴しいもので、廟堂で大隈一人がこれに反對したといふので、殆んど崇拜物となりかけた。それまでは、大隈は大藏卿で會計ばかりしてをると思はれたのに、こゝで一躍政治家として現はれ出で大隈と共にするものは何處までも斯くて勢ひづけようとした。人心は藩閥に飽き、さりとて自由黨の亂暴なのにも與せず、進歩と秩序とを旨とする新政黨が旗上げすれば天下を制するに足るとした。さう思はれるだけ、薩長側にて對抗策を講じ、何んでも大隈の勢力を削がうとし、到らぬ所がない。政府部内で、大隈一派を排除し、愈薩長聯合を固くし、別に自由黨をして大隈に反抗せしめるに努めた。爲めに、大隈一派が新政黨改進黨を造つた時、政府と自由黨とに板挾みにされ、豫期した程に發展せず、大に景氣づく筈で都合に景氣づかなかつた。

板垣が自由黨を以て大隈の改進黨と共にせば、薩長の根柢を危くし得たらうに、板垣は大隈と離れ、自由黨は改進黨を攻撃するに力を盡くした。政府では兩黨相爭ふのを喜び、愈爭はしめつゝ、自ら政黨を組織しようと企て初め大がかりに造らうとして相談が纏まらず、福地、丸山、水野、三人の名で帝政黨を興した。やがて首領を戴き大政黨にしようと云ふのであつて、捗々しく進行せず山田顯義が乘出さうとして沙汰止みになつた。然し政府でも、愈國會開設と決定した以上、それ相應に準備せねばならず、出來るならば帝政黨の力を强くし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たい。前から要路者が各々勢力扶植に努め、大隈は慶應義塾出身者とか、新聞記者とかを採用し薩長側でもそれ〴〵拔擢する風があり、奏任御用掛といふものが多くなつた。政府に反對する者で、御用掛として懐柔され、御用掛となつて服從したのが幾らもある。口が利く、筆が利く、議論が利くといふやうな者は、官に買はれる。大隈側では、矢野、藤田、犬養、尾崎等、慶應義塾出身を働かすの外、小野梓の計らひで東京大學の學生に手を入れ、山田喜之助、岡山兼吉、砂川雄俊、高田早苗、天野爲之、山田一郎等を引入れた。政府で之れを聞き、容易ならぬ事とし、文部少輔九鬼隆一が三崎龜之助をして在學中の同志者を集めしめた。帝政黨では福地が東京日日新聞社長、丸山が明治日報社長、水野が東洋新報社長、各々大學生若干名を編輯所に入れ、學生が學業の餘暇に執筆した。學生が執筆し、それで間に合つたのは、學問上の素養を必要とする事になつたのに因る。福地は口も八丁、手も八丁、文章も縱橫自在であつて、込み入つた議論することが出來ず、大學生に執筆させて、いくらか訂した。丸山は國漢文の心得あれど、新しい論說を綴るわけにゆかず、水野に至つて全く不文で、人任せにせずに居れぬ。さういふ事で大學生が重寶がられた。

所で一世の問題となつたのは、憲法制定に關して主權論が起つたのにある。改進黨は英國流に論じ、範圍の明白を缺き、自由黨は主權在民とし、之れに對し帝政黨は主權在君とした。それといふのは大學法學生渡邊安積が日々新聞で論文に次ぐに論文を以てし、自說を主張し、反對說を攻擊し、縱橫に切つて廻つた。毎日新聞の肥塚龍が何程か應戰したのみで、それも窮して居り、總じて反對黨の新聞が受太刀になり、餘儀なく顧みて他を言ひ、世間から見た處では、渡邊のために悉く論破されて了つた。帝政黨は三人政黨といひ、甚だ振はず、不評判千萬なれど、渡邊が日日新聞の論壇に立つたところは如何にも景氣が好く、實に一時を賑はした。渡邊の論法が鋭いといふよりも、新聞社にこの類の知識に富んだものが居らず、特に參考書がなかつた。大學もその頃、圖書室が貧弱でも、比較的參考書多く、それを並べ立てれば、他に於て何とも反駁のしやうがなく、そこで渡邊の獨壇となつた。大隈側では大學生を引入れたけれど、學校創立に働かせ、多く黨に關係せしめず、關係せしめやうとしたのがあるも、沼間守一が、これを拒んだ。拒まれたのは早稻田學園の爲に有利であつて、政黨の爲めに急に見るべき事がなくなつた。渡邊は山口縣人で、政府擁護となるは自然ながら、眞に信じた處もあり、特殊の才能を備へ、一人材たるを失はない。後に官につき、肺病で歿した。日々新聞には前から關直彦が居り、後に穗積八束等が加はつたけれど、渡邊が前後に群を拔いた。

政府では大隈を當面の敵とし、如何なる手段を以ても倒すべきを思ひ、その財源を斷つに着手した。大隈は三菱會社と結托してをると、いふので、新たに共同運輸會社を設け、三菱の力を削がうとし、自由黨の或る部分をして三菱攻擊に力を注がしめた。民選議院設立建白の小室古澤も關係し、古澤の自由新聞は、連日岩崎を攻擊し、海坊主と呼んで罵つた。星、大井、植木、内藤等、自由黨の要部が、數回久松座及び新富座で大演說會を開き、改進黨と三菱とを糾彈し、勢ひ頗る盛んであつた。若し運輸會社の經營が今少しく宜しきを得たならば、三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

菱に打撃を與へ得たらうが、何分にもお役所仕事で、岩崎の敵でなく、次第に行詰り、自由黨で三菱に近いのがあり、却て合併で岩崎に多大の利益を得せしめた。自由黨の猪突は敵本主義であつたとも言はれ、十萬圓醵金を決議し、次いで解黨したが、改進黨も黨勢を維持するに困難を感じ、大隈河野等の首腦は黨員名簿の不用を名として除名を求めた。政黨といふ政黨は立場に窮し、解黨若しくは解黨同然になつた。憲法及び議會の性質が知れず、政黨で運動に惑つたのも無理がない。それだけ政府の舊同僚は一時喧嘩別れしたもの丶、日を經て双方より歩み寄り、相共に憲政の準備に取掛らうとする所がある。

政府では明治十八年の暮、官制大改革を行ひ、伊藤を首相にし、議會開設までに萬般の準備を整へやうとし、各大臣分擔し、條約改正、法典編纂、自治制度など、夫れ〲鋭意着手し、中にも條約改正の爲めとて、鹿鳴館で頻に舞踏を催し、假裝舞踏をも催し、漸く世間の不滿を買ふに至つた。政黨は金に乏しく、福島事件とか加波山事件とか、武器を以てするは、より有利なる武器を以て鎭壓され、他に目立つて反對らしい運動なく、政府部内で氣が弛み、内部から不平を訴へるのがあり、農相谷干城が洋行より歸つて上書し、次で辭職し、板垣、勝、ボアソナード等よりも上書し、その上書文を秘密出版にしたのが行はれ、世間が何となく騷がしい。その愈々騷がしくなつた時、後藤象二郎が大芝居を打たうとして居る。政府で豫め之れを探知し、保安條例を作り、星、林、中島、島本、尾崎、片岡、中江等五百幾十人を帝都三里以外に放逐した。クーデターで、武力を以て反對論客を一掃したことになる。

然し二十一年伊藤首相が辭職し、黒田内閣が成立し、大隈が外相として最も巾が利くやうになつた。後藤は兼ねて大隈と共にする事になつてをり、大隈が獨り入閣したので、それならばと一大運動を起した。後藤は借金で評判ながら、高輪に堂々と大邸宅を構へ、何處を借金の風が吹くかといふ調子で、そこへ客を招けば、大抵その雄風に感心する。愈大同團結を唱へ、危急存亡を叫び、到る處で熱狂をもつて迎へられたが、隨行員が前以て演説材料を用意して置けば、天晴立派な名演説となり、怱卒の際で用意出來ねば、出放題の限りを言ひ、仕末にをへぬ。それでも態度といひ、辯舌といひ、優に地方の有志家を煙に捲くに足る。機關雜誌「政論」といふを毎週發行し、猛烈に政府を攻撃し、その爲めに關係者大石正巳等一同に獄に入れられたことがある。後藤の參謀役は大石、井上角五郎、犬養毅、菅了法等であつて、長老格に大井卓等が居り、勢力爭ひで暗鬪もあつた。各地方を巡遊する時、舊自由黨員が擧つて集まるのであつて、後藤は死を決して運動するといひ、さうらしく見え、割引しても尙幾らか奮鬪すると思はれて、遽かに遞信大臣となつた。

後藤は既に入閣し、人を踏臺にするも甚だしいと言はれたが、大隈外相の條約改正案が端なく物議を釀し、閣内で後藤が反對を唱へ出した。前に井上外相の條約改正案が失敗し、大隈が井上と方法を異にし、殆んど出來上らうとしたのは、成功と稱し得られる半面、功を急ぎ過ぎて、條文にも、手續きにも、缺陷がある。伊藤井上等は、默つて居る事が出來ず、その旨を受け、又は受けずに、正面から反對するものあり、改進黨は一齊に大隈を擁護し、大同團結關係者は之れに攻

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

撃し、新聞に、演説に議論が盛んになり、壯士運動も盛んになつた。谷島尾等は日本新聞に據り、急先鋒として進む。壯士が爆彈を大隈に投じたのは、大隈の爲めに不利か有利か、見様によるとし、結末をつけた。當時眞面目に議論したのが相應にあり、立派な論戰とし得るも、裏面に面白からぬ事がいろ／＼ある。前にも裏面に何らかの事があり、大きな論戰になれば兎角不純分子を免れない。眞面目な議論と不眞面目な議論と隣り合せになる。

政黨または準政黨を率ゐる大隈及び後藤が共に朝に立ちつゝ、相爭ひ、薩長をして位置を維持するを得せしめたが、後藤は徒らに大隈と爭ひ、薩長に利益を與ふべきを知らぬのでなく、自ら力を得るの機會を覗つたのであり山縣内閣に陰忍し、松方内閣に陰忍し、選擧干渉で愈議論が沸騰した時、河野をして後藤を首相とするやうに奏上せしめた。主上は伊藤に相談せよと仰せられ、何んとも埒が明かず、遂に伊藤内閣が成立し、後藤が又しても計畫齟齬した。世間で大論戰が興る時、政府の中軸なる薩長は、反對黨をして互に相爭はしめる事になつてをり、反對黨は之れを知りつゝ、避ける事が出來なかつた。不思議な事には、前に政府を攻撃した者が政府に降つた例がある。壓制政府顚覆すべしと論じて二年も入獄したものが、山縣の股肱となり、民選議院設立建白の起草者が、熱烈なる非自由論者になり、帝政黨に加はつた大學生から、非藩閥者が出たりした。

論戰は一頃新聞雜誌に於てし、憲政準備の議論が一段落を告げる頃、「國民之友」や、「日本人」や、新局面で議論し始めたが、それはそれとし、一時の景氣をつけるは演説に越した事なく、刊行物以外、次第に演説が必要となつた。演説は早く慶應義塾で試みたりしたが、官立大學の前身なる開成學校でも、學生が演説し、時として教授が加はつた。大學で講義室を造り、そこで名士を招いて講演させ、福澤、加藤、西村、神田等諸氏が講演した。教授戸山正一が加藤の民選議院尚論に對して、設立すべきを論じた事もある。然し演説で看板を賣つたのは、大學豫備門教員江木高遠であつて、講談師松林伯圓は「演説では江木先生、講談ではこの伯圓」と云ふを常とした。議論として味に言ふべきことなけれど、演説といへば先づ江木といふ有樣であつて元老院權大書記官となり、公使館一等書記官となり、米國に赴任して間もなくピストルで自殺した。江木の後を受けて、豫備門の教員となり。元老院に入つたのは現に金子子爵となつて居り、江木はその先進者で、少くともその位置に至るべきであつた。然し問題の起る毎に、相應の雄辯家があり、大同團結の際、條約改正案贊否の分れる際、美事な雄辯家が出た。然し後に誰が之を知るか。論壇は一時賑かで、すぐ消えるのがあり、特に注意を惹かず、後に長續きするのがあり、漸々になる。雷は人を驚かしながら、電量では電信の線に及ばない。電線は音もなく光もなく、それで電量がある。論壇の消長もこの邊に察する處なくてはならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本映畫界の現狀

近藤經一

最初におことはりしておくことは、此の一篇は、日本映畫界の現狀に就て、いや、もつと本當を云へば「映畫」とか「映畫界」とかいふものに就て、殆んど何にも御存じない方々を目標として書くものだといふことである。だから、本篇は多少でも、「映畫界」といふやうなものを御存じの方には全く讀む必要も、興味もないであらう。けれども、私が此處に敢て、この一篇を書かせてもらう所以のものは、本誌の讀者の九分九厘までは、恐らく私の謂ふ「映畫界」に就ては何等の知識もお持ち合せにはなるまいと思ふからである。そして、さういふ方々、即ち今日、日本の映畫界の狀勢などに就ては、全く關心を持たれない様な方々――特に本誌を讀まれるやうな人の中での――に、それを知つて戴くことが、日本の映畫界の改善、發達の上に最も必要な一事であることを、私は信ずるからであります。

×

さて前置きはそれだけにして本題に入ります。

映畫の事業には、本來、當然區分さるべき三つの仕事があります。それは映畫の「製作」と「配給」と「興行」とであります。製作と興行とは説明するまでもないでせう、たゞ配給といふのは一寸説明しておかないと分りにくいと思ひます。これは撮影所で作つた映畫を常設館で興行する方々の興行者なり、又もつと大きく云へば或る國々なり、地方々々なりに就ての、その映畫の興行權を、その映畫のプリント（これは普通寫眞で云へば、紙にやきつけたもので、幾本でも出來る、即ち諸氏が常設館の映寫室などで見られるもの）とともに賣るといふやうな、さういふフイルム仲介の仕事を指していふもので、もし映畫といふものを一つの事業として見る場合には、その事業中の中樞を爲すもので、アメリカのフイルムが、今日の隆盛をもたらしたのも、歐洲大戰の影響、アメリカ映畫のもつ世界的普遍性といふやうなものも、勿論その原因の一部ではありませうが、又、彼等アメリカ人映畫業者の作つた、此の映畫配給組織なり、機關なりが、それこそ全く他の如何なる國の業者達も企て及ぼぬ程完全なアメリカ式ビジネスライクなものであつたといふことが、その最も重大な原因の一つであつたと云つてもいゝ位なのであります。（その彼等の採つてゐる配給組織に就ても、こゝに一言したいのでありますが、それは當面の問題外になりますから、他日にゆづることにしませう。）

さて、そこで、この映畫の「製作」と「配給」と「興行」とは、今

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も申したやうに、仕事としても元來區分さるべき三つの異つたものであると同時に、それは事業としても各々獨立した三つのものでなければならない筈のもので、このことは、映畫事業發達に必要な、幼稚園的、第一步的條件なのであつて、私などが口のすつぱくなる程說へてきたことなのでありますが、嘆かはしい哉、現在の日本の映畫界に於ては、此の幼稚園的、第一步的條件すらも實現されてはゐないのであります。

即ち、現在、日本に於ては、此の獨立すべき三つの事業が、日活なり、松竹なり、帝キネなり、東亞なりといふ一つの會社――一つの經濟組織の下に混然とりまかなはれてゐるので、此のことの弊害は、こゝに說明するまではないと思ひますが、念の爲め一言すれば、かゝる狀態に於ては、勢ひ、日活は自分の所の撮影所で作つた映畫は、どんなにつまらないものでも、下らないものでも自分の配給機關を通じて、自分の直接、間接に興行してゐる館で興行しなければならなくなる――さうしないで、下らない寫眞だ、つまらない寫眞だと云つて、それを使はないでゐれば、同一經濟組織下の悲しさ、直ぐ自分の所へもひゞいて來るのだから――松竹は松竹で同じこと、帝キネや、東亞も同じことだ、だから撮影所の方から云へば、「どうせどんな寫眞を作つたつて使つてくれるんだ。」と同時に、「別に好い寫眞を作つたつてそれだけ自分の方が目に見えてよくなるといふ譯もないのだ」といふやうな氣持に、なる氣ではなくとも何時の間にかなる。此處に現在の日本の映畫が、進步發達しない最大の原因があるのであります。

と云つて、私は日活なり、松竹なりに、三つの會社に分れてしまへなどゝいふのではない。要はたゞ經濟の問題だ。同じ日活なり、松竹の中でいゝ、製作即ち撮影所と、配給即ち營業部と、興行即ち興行部（現在はそんなものはないが）とが經濟的に獨立しさえすればいゝのだ。そして同じ日活の撮影所で作つたものでも、それが價格に引き合はない映畫と思へば日活の營業部では配給を引き受けない、同じ營業部で配給してよこしたものでも、興行部で困ると思へば館に出さない。……といふやうになればいゝのだ、そして、もう一步進めば（これは殆んど空想に近いかも知れないが）松竹の撮影所で作つたものでも、それに對する評價が、松竹の營業部より日活の營業部の方がよければ、日活の方にやるといふやうにでもなれば、こゝに始めて日本映畫の本當に眞劍な進步、發達を見得るだらう。ともかく自分自身の利害に直接影響して來るといふ組織が大切なのだ。その組織から生れる競走。その競走から生れる努力が大切なのだ。これのない限り日本の映畫に限らず、此の世の中のこと、何だつて本當の進步はしないと私は思つてゐる。

所で、最近我々が日本の映畫界に對して一片の希望をかけ得られるやうになつたことには、實に長い間頑迷固陋であつた日本の映畫當業者が、稍此の間の消息に目覺めかけたといふことによつてである。

例へば、松竹キネマ會社が阪東妻三郎主演（現在日本一の人氣を有する映畫俳優）の映畫を一尺幾何といふ値段で買ひとつてゐるが如き、又近くは、これこそ成功すれば日本に於ける製作、配給の分立を示す好例となるべきものであるが、大日本ユニバーサル會社と、同じく阪東妻三郎の主宰する撮影所との間に取り交された契約の如き、これであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、又日本に於ける映畫當業者中此の方面に關しての先覺者にして現在京都を本據を有し、獨力よく日活、松竹、帝キネ、東亞に對抗して一會社の勢力を有する牧野莊造氏（舊稱「省三」）の如きは自分の事業組織の中で、製作と配給との配濟的獨立を試みやうとしつゝあるし、又、かういふことにかけては何時でも大事をとつて、一番後からでなければ動き出さない日活會社の幹部連の中にさへ、時々は、さういふ經濟的に獨立した作品を作らうではないかといふやうな意見が鬪はされるやうになつて來たといふ樣な有樣だからである。

然し、此の喜ぶべき傾向が、今後どんな風に進展するか、或ひは挫折するか、それは時を待つて見なければ分らない。だから、此の方面に就ての私の報告はこれだけにしておいて、次には、現在、かゝる狀態の下にある日本の映畫界の實際的狀況をお知らせすることにしやう。

×

さて、現在、日本に、前にのべた三つの仕事を兼ねた私の云ふ綜合映畫會社として確固たる存在を有するものは五つある。日本活動寫眞株式會社、松竹キネマ株式會社、帝國キネマ株式會社、東亞キネマ株式會社の四株式會社及び牧野莊造氏個人の經營にかゝるマキノプロダクシヨンの五即ちこれである。

此の五者中、日活と松竹とが、あらゆる點で他の三者と段違ひの實力を有して兩大關の位地を占むるとともに、日本映畫界の代表的地位を占むるものであることは云ふまでもないと思ふ。

東京丸の內に本社を有する日活は、六百萬圓の資本を擁し、東京向島

と京都大將軍（今回新たに京都市外太秦に新撮影所を作りつゝあるから、それが完成の上はそこに移るか）とに撮影所を持ち、向島では震災後製作はしないが、京都の撮影所はその內容の充實したことでは恐らく日本一と云ふべく、僅々二千坪內外の敷地しかない、その撮影所に五百に餘る從業員を置き、月々十萬圓以上の經費をかけて新、舊各々四五本づゝの映畫を作り、その新、舊、兩派映畫ともが、よく今日の日本映畫の最高標準を示しつゝある。と同時に古き歷史と堅實なる營業方針とは、日本全國千餘の映畫常設館中の四百餘りをその勢力範圍に有し、他會社の企及し得がたい程の潛勢力と、實力とを持つてゐる。

松竹キネマは同じく東京に本社を有し、六百七拾萬圓の資本を擁して（創立當時はもつと少なかつたが）日活に後るゝこと八年、大正九年に設立された會社であるが、新進の氣鋭く、一時は日活を壓して、その東京市外蒲田に設けたる撮影所の作品は、日本映畫界の人氣を獨占するかの觀があつたが、震災の爲め蒲田撮影所を閉じて、一時京都下加茂の撮影所（現在では例の「狂つた一頁」で有名な衣笠一派の映畫製作に貸與してゐる）に本據を移した頃より、どういふ譯か作品、人氣とも衰へ、また昔日の觀がない。

これには種々の理由もあらうが、一番大きな理由は、震災後、日活の撮影所は奮勵一番、その舊來の惡弊を打破して、各方面の新人、新知識をその撮影所の中に取り入れ、今日も猶續々として取り入れつゝあるに反し、松竹の方では、いつとはなしに出來上つたスターシステムから來る主腦俳優過尊の惡習から新人、新知識の輸入が出來ないといふ所にありはしないかと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然し、何と云つても、この松竹の蒲田撮影所は、その規模、設備に於ては、今日の所、斷然日本一であるのだし、最近ではスターシステムの悪影響を痛感して、斷然新しい方針の下に、所内を改革するといふ話だから、その今後の活躍や期して待つべきものがあるだらう。常設館は日活の四百に對して三百を有するにすぎない。けれども、その有する館の質から云つたら、少くとも、その平均點から云つたら松竹は日活に優るとも劣る所はないであらう。從つて營業成績も悪い筈がない。然し、今日同じく五十圓拂込みの株が日活のは五十二三圓してゐるのに對し、松竹のそれは三十七八圓といふ所にあるといふことは、さういふ方面に於ける兩者の位地を最も雄辯に語る所のものであらう。

此の兩者の次に位するのは帝キネであらう。五百萬圓の資本を有し、大阪に於て可なり古くから存續する會社であつて、大阪と奈良との間にある小阪に撮影所を有つてゐる。が、その製作品は常に俗受けも俗受け第二、三流以下の愚劣な觀衆を相手にしたものばかりだ。從つて その有する二百有餘の常設館も二流、三流のものばかりだ。然し、大阪の商賣人達のやることだから、金の方には拔目はない、なか〳〵い、もうかつてゐるといふ話だ。然し、こんな會社の存在は、我々とは何等の關係もないことだと思ふ。

次に東亜キネマであるが、これは八千代生命保險株式會社が、一寸したことからづる〳〵と引き込まれて——と敢ていふ——二百萬圓ばかりの金を投げ出して作られた非常に新しい會社(震災後に出來た)であつて、一時牧野省三氏のプロダクションを買收した當時は一寸勢よかつたものだが、後牧野氏に逃げ出されると、殘つたのはヅブの素人ばかりで、これが上手い方に、上手く眺めばよかつたのだが、そこは生馬の眼を拔く以上の映畫界だ、すつかり、いろ〳〵な人の喰物にされてしまつて、今日では、殆んどたゞ存在してゐるに過ぎないといふ同情すべき狀態にある。が、ともかく未だ百五十位の關係常設館を有つて、やつて行つてゐる所は、流石に保險業でたゝきこんだ當事者のねばり強い腕のある爲めだらう。それにしても東亜としては、少くともその撮影所に、信用すべき映畫界の玄人を(此の玄人と意味は必ずしも映畫界に長く居た人の意味ならず)入れることが急務であらう。そして月に一本づゝでも、いゝ映畫を作るやうになれば、又自ら新しい道は開かれるであらう。私は、帝キネと違つて、ともかくも何等かいゝことをしやうといふ意志を持つてゐることの感ぜられる東亜には一片の關心を有するものだ。そして、その成功を祈るものだ。

帝キネは無視するとして、かゝる、今日の狀態に於て、我々が此東亜よりも注目しなければならないのは、殘る一つのマキノプロダクションと、次に別個に述べんとする阪妻、立花、ユニバーサル聯合映畫だ。

マキノプロダクションは牧野氏の個人經營になるものであるが、京都市外に撮影所を有し、月々十本の映畫を製作し、二百有餘の關係館をもつて、よく三百萬圓の株式會社たるの實力を有するといふ。然し、私が特に此のマキノプロダクションに注目する所以のものは、先にも云つた通り、氏の理想が映畫の製作と配給との獨立にあり、又現に氏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

がその方面に向つて努力、實行せんとしつゝあることの故にである。私は、こゝに改めてその方面に於ての氏の奮鬪を望んでおく。

次に阪妻立花ユニバーサル聯合映畫といふのは、先に一寸述べた日本一の人氣俳優阪東妻三郎と、同プロダクションの經營者たる立花良介氏とが、長年日本で米國ユニバーサル會社の製作映畫の配給をして來て、相當の地盤をもつてゐるユニバーサル日本支社と契約して、前二者の連名の下に作られた映畫を、後者が一尺いくらで買ひ受け、これを配給するといふ、日本で最初の製作配給分立組織を形成したものであつて、その成否の結果や、正に刮目して見るべきもので、もし、此の業にして成功せんか、それは日本映畫界に可なり重大な一變動を與へるべきものであらうと私は思つてゐる。

此の他に、ともかく一定の撮影所を有して何々プロダクションと稱するもの東京に高松（市外アヅマ村）松燕（市外高田馬場）の二（他に建設中のもの一二あれどそは略す）名古屋サクラ映畫研究所あり、又これは同所の主宰者中川氏の蒲田入社後どうなつたか、よく分らないが、ともかく良奈に中川撮影所なるものがあつたことは確實である。

此の外、一定の撮影所は有せざるも、プロダクション、或ひはその他の名稱の下に不定期に映畫を製作するものに至つては、直木三十五氏の奮鬪する聯合映畫藝術家協會（これは實際上はマキノキネマの分身ともいふべく、從つて他の群小プロダクションとは大いに趣きを異にす）を始めとして、その數、十指を屈するに足る。

なほ此の他に、普通、教育映畫製作者といつて、興行用でない、映畫を作つたり、實寫映畫を作つたりすることを仕事とするものに大日本帝國の文部省普通學務課あり、又長年文部省の一手御用達をして巨利を博し、今日ではその方の總元締めの如き觀ある東京シネマ商會といふやうなもの以下、その數これは十指を五度屈するに足る程もあるであらうが、そこで作る所謂「教育映畫」といふものの何と下らなものであるかといふことは、諸君、一度文部省推薦映畫なるものを御覽になれば分ると思ひます。

然し、考えてみると、この方面の仕事なども映畫の仕事としては可なり大事なものの一つなのだから、笑ひごとならず考えてみて、どうにかする必要があると思ふ。何しろ文部省と東京シネマとに任せておいたのではどうにもならない。

次に外國の會社で日本に支社をもつて、その本社の製作にかゝる映畫を輸入配給してゐる會社はユナイテッド、アーチスツ。パラマウント。ファースト、ナショナル。ユニバーサル。フォックスの五社ですべてアメリカの會社であるが。此の他に同じくアメリカのメトロ、ゴールダウヰンだとかワーナーだとかいふ一流會社の映畫は勿論、その他二流三流の會社のもの、それからフランス、ドイツ、イタリー等の目星き映畫などは恐らく總てと云つてもいゝ程内外人によつて經營されてゐる大小のフイルム輸入配給業社によつて輸入、配給されてゐる。その數十に餘るが、中でも中央映畫社、ヤマニ洋行等は最も大きな仕事をしてゐる。

なほ、こゝに一寸附け加へておきたいことは、以上述べた所のものは、高下の差こそあれ、ともかく映畫業としての表通りを歩いて居る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ものであるが、この裏通りを歩いてゐるもののカスを食つて生きてゐる裏通りの、所謂活動屋なるものが無限と云つてもいゝ位、數多く存在することで、これなどは一寸や、そつと映畫界に首を突つ込んだ位では分らぬ、實に異樣なる存在物なのであるが、こんなものに就ては、これ以上こゝに述べる必要はあるまい。

さて終りに述ぶべき最も重要なる一事はこれらの映畫を一般公衆に見せる常設館であるが、その數は全國で約一千といふのが公平な見方であらう（先に日活四百、松竹三百云々と述べた合計數が千以上になるのは、あそこにも云つた樣に、それは日活なり、松竹なりの映畫を上映するといふ意味であるから、中には兩方のを使ふものもあるから來る數の重複である）この千の館で一日平均一館二百人の人が映畫を見るとしても、日本中では一日二十萬、一月六百萬、一年には七千二百萬の人が映畫を見ることになる。その外學校や、食堂などで見る人の數を合せたら、恐らく一億を超すこと少くはあるまい。

此の日本の映畫事業に投ぜられつゝある總資本金は五 六千萬圓と算せられる。そして、此の業によつて衣食するもの少くとも五萬を下らない。日本の映畫業も大きくなつて來たものである。

然し、今後十年の間に、此の日本映畫界の現狀は、あらゆる意味に於て約五倍の膨脹をきたすであらうといふことを、これは此の稿としては餘計なことではあるが、一言こゝに書き加へて、私は筆を擱くことにしやう。

（昭和二年二月一日）

竹の皮

室生犀星

（秋近）竹の幹秋ちかき日ぞ辷りけり

（しぐれ）竹むらやゝにしぐるゝ軒びさし

（朝寒）朝さむや幹をはなるゝ竹の皮

（笹鳴）日もうすれ閉まる家ぞ笹子啼く

（霜）栗うめて灰かぐはしや夜半の霜

（山茶花）山茶花や日のとゞきゆく軒の霜

（雛）あはゆきとなるひいなの夕ぐもり

（春さむ）春さむや葱の芽黄なる籠の中

（うららか（舊作））うららかな砂中のぼうふ掘りにけり

（初日）寒竹の芽の向き初日さしにけり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



クリスチャンジエネラルの日記

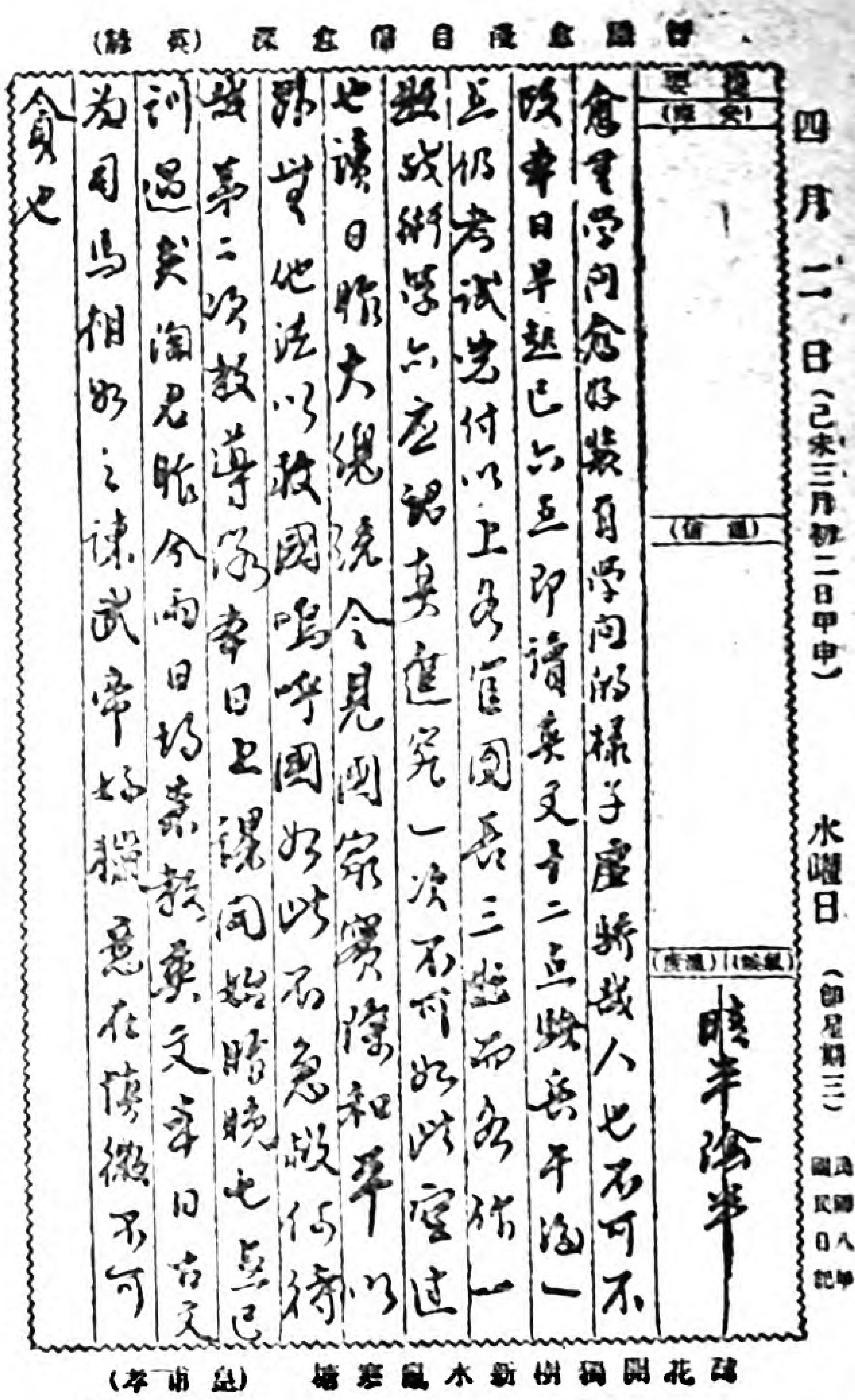
頃者ゆくりなくもクリスチャン將軍馮玉祥氏が民國七八年頃旅團長として湖南常德に駐劄中ものせられた日記を見る。當時馮玉祥氏は第三師團長吳佩孚氏部下の一旅團長にして熱心なる基督敎信者たる外著名なるものなかりしが、爾來僅かに數星霜。九年混成第十一旅團長十年第十一師團長十一年奉直戰後河南督軍に任ぜられ十二年吳佩孚氏に敬遠せられて陸軍檢閲使として北京に移り十三年秋奉直戰中北京にクーデタアを行ひて吳佩孚氏を失脚せしめてより國民第一、二、三軍の盟主として一躍北方の覇者となり段執政を傀儡として自らは西方邊防督辦に任し北京の政權を左右さるに至れり。然れども僅かに一年にして吳張の提携、安奉兩派の密計は退きて北京の恐惶時代を惹起し國民軍の衰運前に兆せり。機を見るに敏なる馮氏は表面國民軍統帥の責任を張之江氏に讓り自らは遁れて蘇俄に遊べり十五年春夏の候國民軍奉直聯軍と直隸の野に戰ひ遂に南口の一戰に敗れてより逐次京綏沿線より退き今や甘肅陝西に其全力を集結して徐ろに中原の變況を窺ひつゝあり此間馮氏も俄遊より歸來して五原、蘭州に在りしが最近傳聞する所に依れば平涼に出で新たに軍容を整えて其前鋒は已に河南に迫り潼關を越えて陝州に吳佩孚軍と對峙すと云ふ今後向ふ處果して豫か晉か果た察綏か。

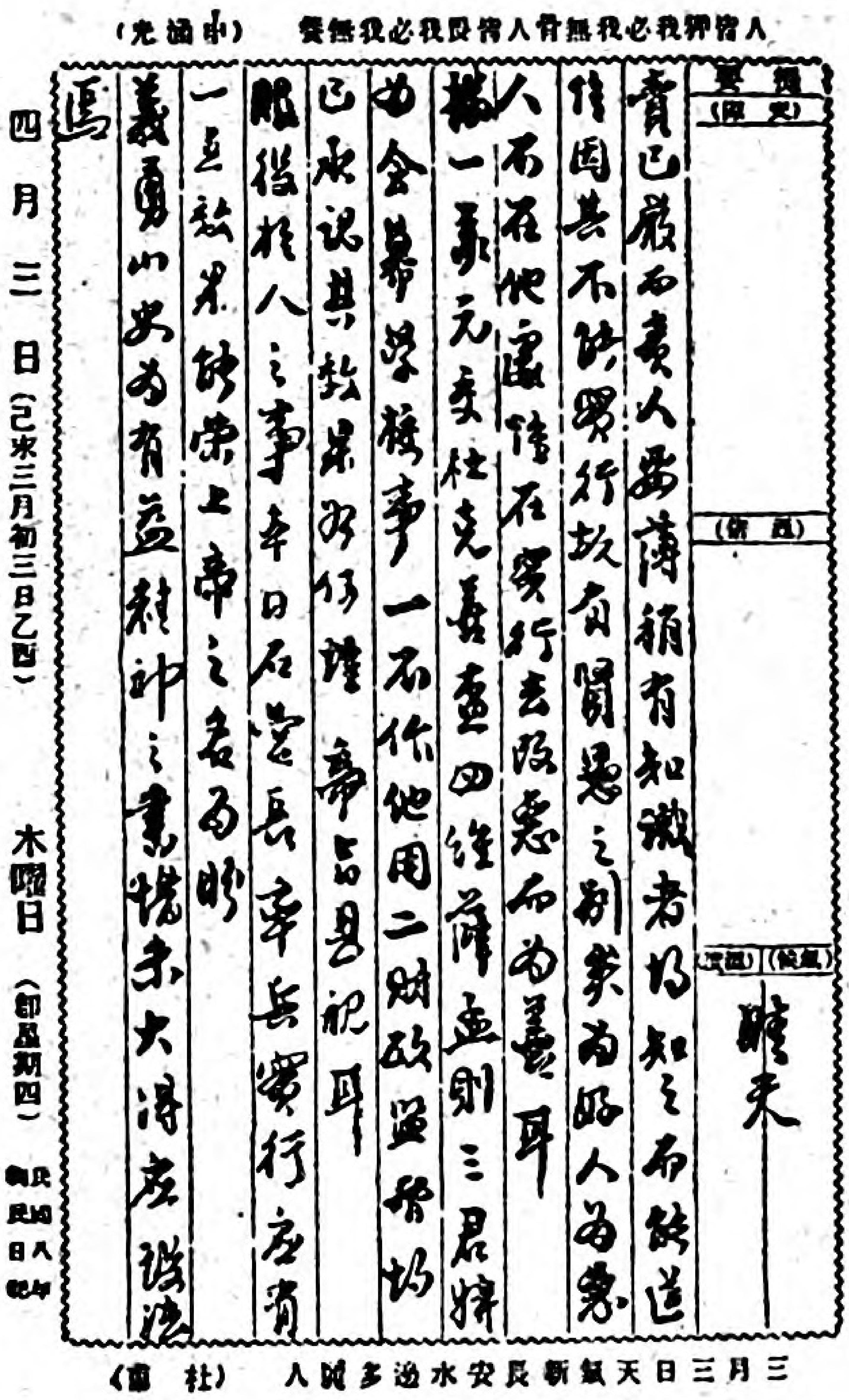
而して戰に於て北京南口に敗れたる國民軍が今に至るも猶ほ該地方の人民に其軍律の佳良なりし點に於て推賞せられあるを見るに必ずしも奉天軍士卒の暴戾なるが故のみに非ずして基督將軍部下敎化の效果預つて力あるを思はしむ。敗れたりと雖も今猶比較的良素質を有する七萬の貔貅を擁し旺盛なる精神と强健なる體格の持主たる馮玉祥將軍過去の失敗と蘇遊の經驗に鑑み君が屢々此日記に記されたる如く今も尚ほ自省と改進とに努力し愼重なる準備を以て今後を劃策せられなば其發展は刮目して見るべきものあるを期待せらるべし余は將軍の友人として切に將軍に勸むるものは

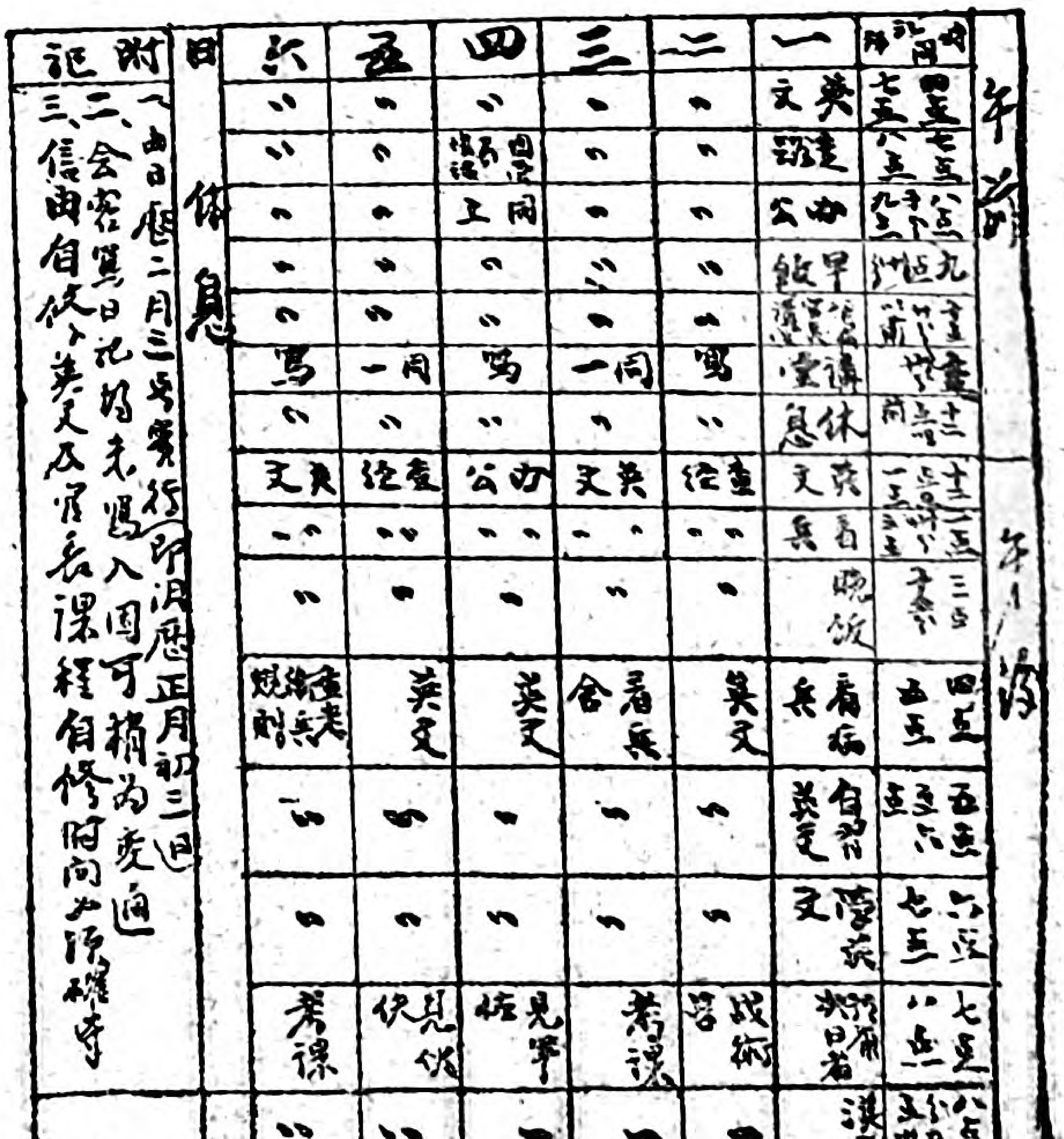
度量を寬大にして包容力を增進し虛僞を去りて誠意を以て人事を處せられんこと是也

茲に馮氏の舊日記の拔粹を披露する所以のものは近き將來に必ず再

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN







馮玉祥氏の日記の一節とその日課時間表

び爲すあるの馮玉祥氏の人格が從來屢々誤り傳えらるる事の多きに依り其未知數時代の氏の日記は赤裸の心事を語ることに於て氏の人格の半面を觀察するの資料となすに足るを以てなり（筆者）昭和二、二、四

時　民國八年（大正八年）

所　湖南省常德府

職　北洋陸軍第三師第六旅長

一月一日　水曜日　天氣晴

予、茲に又一歲を長ず馬齡徒らに增すを悲むは士のとらざる所、大に奮勵努力すべきなり

新年の希望左の如し

一、本年は何事をなすにも必ず豫定表を作り務めて之れを實行すべき事

二、人を遇するに恕を以てせば其福無量なる事

三、公款（官金）は出來得る限り節約して毫も濫費せざる事

四、新禱を實行して勉めて改惡すべき事（記者曰く改惡は我が改善の意ならん）

五、舊部下たる老人等には時々撫䘏を加ふべき事

六、恆心と常性を修養して時々怠らざる事

七、談話及執務共に餘地を留むる事に注意する事

一月五日　日曜日　天氣晴

此日朝四時起床。聖主爾の仇を愛するの聖意に基き早朝英文自修時張英謙、孫良臣兩人を招き傍らに座をしめて之れに教訓を與ふ其悔悟すると否とは之れを問はざる所にして唯だ上帝其愚鈍を憐れみ之れを感動せしむるを得ば誠に其父母の爲めに榮とする所、切にただ是れを祈るのみ。英文讀法畢りし頃秦先生來られ道を講ぜらる講題「維新」食後入浴す。虞勃、子良等各班每に常德に來る。王逵遣舟に乘りて漢口に赴き表に示すが如き二千圓ほどの工業材料を購買す此事たるや當旅團工業の一好消息たるなり。十二時ハンケチ科の試驗を行ふ陳同傑成績可なり此子頗る志氣あり後來を囑望するに足る。午後七時第二聯隊第三大隊の將校下士卒全部に訓話をなす

要旨　凡そ事をなすに當りては專心にして自暴自棄なるべからず自ら好んで進んで之れを爲すを可とする也

午後九時廿分瑞伯及參謀等と教育改良事項を詳論す。予自ら想ふに予は起居不規則にして禮節を實行せざること是れ自己の極大の弊なるを本日予自ら頗る知得する所ありたり、唯だ未だ人に對して眞の愛なきを憾みとするのみ

交際　張郎村より書信あり且筆墨を送り來る馮蓬の父恭仁辭行銀二十元を贈る

注意　公事積壓するもの甚だ多く速かに是れを整理せざる可からず

一月六日　月曜日　天晴暖

早朝四時起床。英文を讀む稍自得する所あり。此日晴天甚だ暖かなり。午前七時大練兵場に赴き練兵を考察し且つ第三聯隊第三大隊の大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隊教練を規定す趙座珍大隊長頗る謹直にして士卒も又精神あり唯だ其給養舊兵と相等しからざるを以て殊に心安からざるを覺えたり。歸來第一聯隊第二大隊と工兵との各箇教練及び步法を見る工兵は第二大隊に比し稍成績見る可きものあり。休息後將校體操團の體操を見る。第一聯隊第二大隊の張楚玉の上官に對する態度嚴格なる愛すべし予頗る之れを囑望す必ずや國家の重任を負ふに足るべし。午後六時英文を學ぶ午後七時二十分本旅團將校學術科教育進行表を議定す鹿麟劉陳劉門均しく列席す八時半漢文則方孝儒之論をなす誠に深慮なるを感ず。人道天道の別あり良醫の子は多く疾に死し良巫の子は多く鬼魔に死すは天なり人の能く謀るところに非ざるのみ。

自省　人を容るるの點に毫も進步なし且つ精と細とに就ては均しく佳ならず應さに更らに之れを勉むるを要す

交際　蔡子陶來談

通信　發電辰州に送る

一月七日　火曜日

午前六時起床頭身共に寒氣を覺ゆ即ち浴場に至りて入浴す。馬軍醫の散藥を服し稍發汗を見る。疾を冒して第二聯隊第三大隊及拳術隊の不動姿勢及駈步を見る且各個教練の要旨を規定す。偶々一度愼まざれば忽ちにして頭痛發熱の症を致す凡そ事は忽略に壞るゝものなり誠なる哉是言。

一月十日　金曜日

連日以來身體爽快ならざるに依り本日午前十一時居を城壁上に移す康南海先生（有爲）南北兩方面に與ふるの勸告文を見る中に國外の注意を重視し兄弟升斗を爭ふべからず汝人を恕さざれば上帝も亦必ず汝を恕されざるべしの句あり頗る感動を受く。張維金大隊長事を執る細密ならず之れを教訓す。馬軍醫治療法頗る佳良なるも奈何せん寒氣を感ずること猶甚だし故に馬軍醫に來りて看護せられんことを依頼す師嵐峰兄の母常年祝ひあり北京に打電して禮物を送らしむ玆に蔭橋君に一度常德に來訪せらるべきを打電す

一月十一日　土曜日

連日身體冷熱を覺ゆるにより鑑三兄來りて城上に同居せらる。惟鑑三兄は甚だ自己を誇張するを好むの風あり予も又此癖あるを覺る。君子は自ら責むるを貴び朋友は互に善を勸むるを貴しとなす彼我共に虛榮驕氣を漫にして罪を上帝に得べからず。勤勉は立身の本たり予近日疾に依り數日事を作さず無爲條然として老ゆるのみ老大を徒らに悲しむも後日を奈何せん予夫れ自ら勉めざるべけん哉

一月二十日　月曜日　陰天寒夜稍雪

午前四時起床英文を讀む午前八時四十分執務時に先だち曾語（曾國藩の語）を讀む亡國敗家喪身皆忌の字より來る注意せざるべからず自ら記して戒しめとなす。第三聯隊第一大隊の不動姿勢を見る騎兵稍佳良走も亦看るべきものあり午後六時陶念剣先生來りて英文を教ふ八時三十分古文研究題（子產論尹何爲邑）

近日予の短處

甲　猶未だ驕と傲とを改めざること

乙　前面のポッケット大に過ぐること

丙　多きを貪り好んで專らならざること

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

丁　讀書の工夫拙きこと
戊　揚を好むこと甚しきこと
須らく之れを改むべし々々

一月二十七日　月曜日

五時起床入浴後英文を讀む。八時二十分執務。此日蔭橋出發す。十二時薛先生來りて聖經を講ず靈を以て信道の基となす公と和睦とを以て主となす私すべきにあらざる也午後一時第三聯隊第三大隊及砲兵第三中隊の各個敎練及砲操法を觀る砲兵士卒の問答頗る明瞭なり。四時半裕牧師來り談話す一米人其なるもの頗る放蕩にして嘗て周旋屋に依賴し一青年女士を獵す其來るを見れば我子なりき後此人大に悔悟し懺悔錄を著せりと云ふ。午後八時三十分古文研究蘇東坡の刑賞忠厚論を講ず。中に賞疑ひあれば即ちこれを與へ罰疑ひあれば即ち之れを去る罪の疑はしきものは輕きに從つて處斷し功の疑はしきものは重きに依つて與ふの語あり誠に忠厚世道となすべき也。饒鳳藻昨日來る之れに委するに秘書の事を以てす。之れ二十八日の事也二十七日終日困倦して八時半已に休息し未だ日記を書かざりし故今日之れを後方に補記す。

二月二日　日曜日

午前四時起床入浴英文を讀む。拳銃中隊午前七時驅步を演習す。李光蒂の子供性を棍責（棍棒にて撻つ）す。八時十分第一班執務時曾文公（曾國藩）の誠を以て人を待つの義を講ず。歸來書を溫讀して以て講堂に上るに備ふ。之れを要するに一日中豫定表を按じて十分滿足に之れを實行し得る時は申分なきなり。惟だ演習を見に至りし時第三聯隊第一大隊の將校下士の兵卒に對し又看護長の醫兵に對して均しく手を以て之れを毆打せるは頗る否らざるを覺ゆ宜しく急速に改良すべき事也人を愛する者は人も亦恆に之れを愛する也。豈之れを忘るべけんや午後七時半五大隊長等と一長沙に於ける新聞記事二惡兒の私事三破靴下の修繕等を談ず皆淫を懲戒するの意なり。予自身も亦當さに眞誠を以て之れを勉むべき也

二月十三日　木曜日

午前七時起床執務後楠植根中將來り會食す。包夏二君出發す。予本日天氣大晴なるゆえ拳銃各中隊と共に練兵場に至り其操法を比試す並に炸彈發火の演習を行はしむ。意はざりき炸彈の破片一新兵の鼻邊に當り之れを負傷せしむ。展開法は各隊均しく不熟なり須らく之れを力行せしむべき也

眞正の德行なければ何んぞ能く世界に立つを得んや予や德日に滯きを覺ゆ怕るべし〳〵

予肉體の爲めに主となるを欲するか、はた又肉體の奴となるを欲するや要は自己の決心に存するのみ。今日より以後當さに之を斷たんのみ

二月十四日　金曜日

午前七時起床。執務後新派劇國の米を觀る。空中樓閣たるを保し難きと雖も然も漢民の動作を保つ所頗る美妙なり。十二時薛孟則先生來り聖經を講ず。何事を論ぜず帝光。帝德（天帝）を達するを以て要諦となす。中國の敎訓を見るに我自身を以て天と爲すものあり此事に對しては一般無智無識の人民と雖も亦當さに責罰せらるべきもの也。ウイ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ルソン對獨宣戰の宣言中上帝我を祐くるの語あり予近日罪深くして名を好み利を好むで天帝を愛せず自ら顧みて誠に憐むべきを覺ゆ。博愛と希望と均しく甚だ纖弱なり。唯だ上帝の我を怒り我を罰し並に我を恕して我をして汝の良好なる愛子たらしめ以て帝恩を辱むるの義を免かれしめられんことを切に禱り求むるのみ

二月十九日　水曜日　雨

午前六時卅分起床。執務前新編の銃槍術を見る、後執務に到る。歸來昨日招待する處の朱梅奐の三客均しく到る即先づ體操を觀せしめ後集工場に到る。

於是予は自ら其弱點を記載せざるを得ざる也

一、最近十日間肉體の怠惰なる實に此三ヶ月間未だ有らざる所なり宜しく速かに改むるに非ざれば其危險誠に計られざるものあるべし

一、義を見るも思を遷し終に成す所なき也

一、恒心なく恒力なく且つ天堂に上ることを講ぜず斯くの如くんば善人と雖も何事をも成し能はざるべし

一、眞力を用ひ心を革むるに非ざれば學を好む能はず上帝の愛力を表明すること能はざるべし須らく速かに反省すべき也

吾も亦即刻決心す今後を觀るべし

二月二十三日　日曜日

午前五時起床英文を見る。七時卅分鮑君來り日曜講話をなし彼得大帝金を有せず銀を有せず只道理を有するのみの故事を聽く。十二時下南門に至り新吉安號に座乘して德山に至り辨當を喫す劉葛二君同行す江水空氣農人一として佳ならざるなし並に途に美浮沛行(スタンダアドオイルコンパニー)の新築せる吸油石階を見其莊大なるに嘆息す

二月二十四日　月曜日　晴天

讀書せざれば理を明らかにする能はず予勉强上虛僞多く眞用有恒を要す。下を待つ宜しく寛にして厚かるべし予之れを勉めよや

本日英文を讀むの工夫甚だ佳良なり蓋し昨日曜日船上に在つて熟讀せるが故なり。夜陶君來る

此日一日中三回將校を引見す。即ち午前七時軍人讀本班午後一時八百字課班午後四時には英文班のもの是れ也皆均しく柏樹園中に於て寫眞を撮影す

程希賢午前演習時譴責を蒙むること三度に及ぶ。蓋し之れを愛すること深きに依り之れを責むることも亦切なるなり

利を見て義を忘るる事予實に之れ有るなり予實に之れあるなり嗚呼

二月二十五日　火曜日

誠なる哉善なる哉極勞の中には無量の樂趣を含み忍耐中には無限の成功有るを勉めざる可からず百廿分の力を用ひざる可からざる也

早朝六時半より大練兵場に於て閱兵す十一時半に至る演習時間極めて多大なりしも將卒能く其苦に耐ゆるを知れり並に各兵に就き其好む所の學課を訊問す。二張の過失を面摘す。午後七時陶君來りて英文を教ふ。

二月二十七日　木曜日　雨甚大

上帝に懇求す願はくば我れを指示し我れを警醒し我をして我力を用ひしめ善き事をなし善き話を說き善き心を存し能く人を恕させ給え。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

アーメン。謝花祥其頸に一掌を責めらる（懲擲せらるの意）陶君來り英文を讀む。本日午後曾耿君田張の代表と共に來りしも未だ面會せず夜古文を講ず饒君王彥章の豹は死して皮を留む。李芾の全家守死せる事及耘州參謀尹穀沈勇にして自殺せることを講ず忠勇節烈誠に欽佩す可きなり。北京より學生一年の成績表を送附し來る之れを閱するに甚だ慰むべきものあり。

三月一日　土曜日　夜雨日晴

早起即ち英文を讀む執務後即ち點呼を施行す。而して名簿上誤つて工兵を脫漏す誠に可笑至極なり。砲兵隊の人員身長長短甚だ不揃ひなり別に法を設けて之れが研究を必要とす。劉北潘來る Breakfast を共にす我れに贈るに印形及び用器を以てす門參謀も亦熊掌（珍貴なる食品）を贈り來る如斯き贈りものをなすの習慣は惡弊を生じ心自ら貪り不足を思ふに至るの恐れあり。陶君來り英文を教ふ古文則ち張飛の事跡を講ず誠に義勇の表率とすべき也

貪心不足と錢を愛し物を愛するは共に命を隕し名を喪ふの禍根をなす而して其微を愼むに非ざれば即ち不知不覺の間已に變じて守財好財の罪人となるもの也猛省せざる可からず哉

三月二日　日曜日

此の日雨甚だ大なり日曜日なる故王澤巨先生琳州より來りて聖書の講義をなす。國家の富强は道德に在るなり然して一國の道德は國人各自の道德に基因す人身の血球は活命の基礎なり故に必ず個々の血球良善にして始めて能く强健なるを得るもの也立國も亦當に斯の如く各箇人の道德を重んずると否とは國運の消長に重大なる關係を有するものなり獨逸の教育は强權を以て公理となす。而して其結果は今日の如きなり矣

三月五日　水曜日　午前雨午後晴

忽にして進み忽にして退き忽にして勤め忽にして怠る如斯ならんには將來何事か成し得ん。若し眞に奮勉し眞に力を用ひ偏に光陰を惜むに非ざれば何の學か能く成し得ん何の事か能く成し能ふべきか如斯きは天下碌々無非不勉の人のみ夫れ自ら省ざるべからず讀書英文執務等皆能く進むも唯だ早起に懶きのみ萬事皆壞るるは懶に在る也

王祐來り謁して事を求め書信を求む。李鷹亭歸來す。午後英文學及古文を見る

三月六日　水曜日

積財十萬一藝の身につくに如かずと善哉言や本旅團の下士卒をして必ず手工を會得せしむるの趣旨は實に此意に他ならざるなり

甚だ懶し應に改むべきなり樓上に在りて讀書す。頗るよく記憶す胡經武來り談話甚だ久し。陶君午後來る英文を讀む。

各大隊の中隊長各中隊の軍曹を引率して午後四時集合。不動の姿勢及び改正步法を檢閱す。

古文の研究に到らず。鹿之江人民の物品を强買せるの故を以て譴責せられ且つ之れを免職す。

三月十一日　火曜日

吾意に順ふて言ふ者は小人なり。急ぎ之れを遠ざくべきなり凡そ上官たるもの須らく此義を明白にせざれば小人の爲めに利用せらるゝに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

至る注意せざる可からず。

此日十二時薛牧師聖書を講ず。

國家を救ひ人心を救ふの目的を以て財を投じて會幕學校（宗教學校）設置の事を決定す。陶君來り學文を學ぶ午後七時戰術奇襲の事を講ず

諸葛孔明派兵の例を引用す

李綱鼎新料購買の事につき口角泡を飛ばす

三月十二日　水曜日

君子重からざれば即ち威あらず。予嘗て此病を犯す應さに勉めて之れを改むべき也。

闌江子良晁鄉十一時出發す。十二時模範中隊の體操を見る孫作賓手を傷めて出場せず。

午後一時大隊長及大隊附の試驗を行ふ各聯隊長皆之れに臨場せず。

陶君來り英文を學ぶ。

古文研究（安祿山寨配の事）而して顏氏兄弟當山平原に死所を得たりと云ふべし。

宗教心に對して頗る感ずる所あり殊に中國の家庭に於て其然るを覺ゆ。如何々々國の亡びさることを希望するや切なり。

三月十三日　木曜日

能制己の三字を能く實行し得ば成らざるの學なし、予自ら己れを制し能はざるを覺ゆ曰く肉體の怠惰也曰食慾の勝れる也曰言語の檢なき也曰豫備力なき也此の如くにして何ぞよく事を成し能はんや。能制己

能制己

胡經武來り陝省の事を談ず予答ふるに張敬輿可なるべきを以てす。

劉換新病痾稍く輕く予之れを慰む。將校下士卒の能く獨立し得るもの及搖動に同をなし得るものを撰拔す。陶君來り英文を教ふ。勉強會は薛先生講話す。

三月十五日　土曜日　晴天微風

吾軟弱にして自ら教育し能はざる處甚だ多く早朝英文を讀み後模範中隊の體操を觀る。此日教導隊の課程を檢閱し後一同と撮影す。午後城外に遠乘するに付き陶君を招かざりしが杜牧師來りしに依り外乘を中止す。古文は講堂に於て行ふ。

茶山花の花の紅ひなる誠に愛すべきものあり。然れども上帝の人に對する更らに之れに比して大なるものある也乾劉兩副官と朝食を共にす晩食ぼ劉副官のみ。

三月十六日　日曜日

努力々々努力は須らく人に對して和平ならざるべからず糸毫も深く人を責むるべからず然れども未だ之れを完成し得ず應さに改正すべき事也

此日早朝秦君來られ日曜日の禮拜をなす並に德山に赴き教導隊の野外演習卒業試驗を見る。船に乘りて歸來せるに已に五時なり。桃源駐屯の大隊附及聯隊附將校來る予之れに十分精神の實在に注意すべき事を講話す。

桃花は美觀なりと雖も久しきに耐ふる能はず松柏は花なきも頗る能く久しきに耐ふ故に價値あり事は常に外表に在らざる也

下士は軍隊中の骨格をなすもの應さに十分に注意すべきなり

本日更らに豫定表を新定す先づ試みに一週間之れを用ふべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、午前四時起床
二、四時卅分以前晨勉文一段を書す
三、四時卅分より七時卅分に至る間閉門英文を讀む（三時間）
四、九時卅分より十時卅分に至る執務
五、自十一時至零卅分　面會時間
六、自一時至二時　靜座休息
七、自二時十分至三時　英文温習
八、自五時至六時　練兵視察
九、自六時至七時　英文
十、自七時半至八時十五分　古文
十一、九時卅分　消燈

本表はもと永久の規定にあらず先づ一週間之れを試行して其結果如何を見んとす

三月十七日　月曜日　天氣晴

自ら自己を教訓し自ら自己を管理し自ら默々として自己を考察し力を用ひて過ちを改め力を用ひて維れ新たにするは實に立身の要訣也本日午前四時起床表を按じて之れを實行するに頗る日新の意あり唯求むる所は上帝我れを棄てず我れをして日々能く此の如く進行せしめられんことを。陶君來りて英文を教ふ。古文題は越の諸稽郢使を呉に求むなり幣重く言甘きは誠に奸謀に屬す呉の愚弄を受くる皆驕使の故のみ。聯隊附及大隊附將校來る告ぐるに無形教育は眞教育をなすものなり注意を要することを以てす。

吾の過は自ら欺くに在り是れを以て君子は其獨りを愼む也

三月十八日　火曜日

愧哉々々予應さに法を設けて以て自らを補ふを求めざるべからず。十八日演習及教導隊卒業式なりし爲め甚だしく遂に日記を記載するの餘力なかりき　愧哉々々予應さに之れを改むべし々々以上は十九日補記する所なり之れを特記す。

三月二十四日　月曜日

昨夜腹痛甚だし。依て瀉痢鹽二匙を服用す今曉二時下痢す故に身體極めて疲勞す。一日未だ書見せず。執務後更に疲勞を覺ゆ。適々宋良仲の書翰に接す文中議和恐らくは決裂を免かれざるべしの語あり之れを見て心中甚だ國家の前途を憂慮し其危險の極大なるを思ひて俳徊四顧なす所を知らざるものあり。

予生れて已に半生而して求學の事堅絶の志なし。故に忽然として字を書し忽然として書を讀み忽ちにして英文を學ぶ簡斷時に學を捨つ。終に一も成す所なく之れを如何んせんや

本日斷然一大決心をなす。折あれば米國に留學して英文英語を學ばんと

三月二十五日　火曜日　天雨

本日英文の試驗をなし且つ軍用地圖に關する會議を行ひしため講話する所甚だ多く身體極めて疲倦し未だ日記を記すに及ばず。家兄好んで鴉片を吸用す誠に大不幸事となす唯望む上帝大慈悲を發して彼れを感動せしめられんことを若し幸にして戒煙するを得ば或は其餘生を永からしむるを得べき哉

玉僕山常に其大隊附諸官と戰守の事を論究す惜むらくは今に至るも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人材に乏しく之れを重んぜざるを。

陶君昨日より來らず今猶ほ病中なるべし

三月二十六日　水曜日　雨

本日倦くして且つ怠氣あり恰かも心中魔あるが如く堪え難きなり。予深く知る。人は自ら改造するに非ざれば事を成す能はざるを。然れども事多くは倉皇に起りて根本の計畫なきもの十中の九なり又事前之れを豫定すること難きを常とす天帝特に我れに此職を給せらる。若し自ら勉めて此無恒の弱心を改正するに非らざれば自己にそむき且つ上帝の恩惠に對し罪を得るものと云ふべき也

高橋君（日本語教師）來りて日文の試驗を行ふ。其書する處の漢字を見るに字形頗る美事にして予頗る赧顏を覺えたり

四月二日　水曜日　晴半陰半

愈々く學問なき人は特に學問ある如く裝ふを好むものなり誠に人は虛驕なるもの也改めざる可からず。本日六時起床即ち英文を讀む十二時閱兵午後一時大隊附以上各官の試驗を行ふ聯隊長には三題を與へて其一を作らしむ。戰術學も應さに一度之れを試驗して追究するの必要を感ず。昨日發表せられたる大總統令を讀む。國家は實に和平以外他に救國の方法なきなり嗚呼國已に此の如く急救せずして何をか待たんや。第二次教導隊教育本日より開始す依て昨夜實行し得ると否とに在るのみ。

一萬圓を出して之れを杜京善、查四維、薛孟則三君に交附す特に開幕學校の費用に供する爲めなり一、他事に使用せざること二、財政を監督すること均しく已に之れを承認せらる只其効果如何に至つては惟だ上帝の意志之れを覗らるるのみ

人に服役する事に就き本日石大隊長其部下兵卒を率ひて之れを實行す若し一點の効果あらんには能く上帝の名を榮とするに足らん切に已に之れに訓示をなす。陶君昨今兩日均しく來りて英文を教ふ本日古文は司馬相如の武帝好獵を諫むるの章とす意は微を愼み貪るべからざるに在る也

四月三日　木曜日　晴天

己を責むるは嚴にして人を責むるは薄きを要す稍智識あるものは皆之れを知つて而して能く之れを云ふも惟だ實行し得ると否とに依つて賢愚の別を生ずるのみ好人となり惡人となるは他なしたゞ惡を改めて善と爲すことを。之れあらんことを禱る

義勇小史は精神上有益なる書籍なり惜むらくは未だ多數を入手し得ざるを應さに法を設けて之れを求むべし

四月四日　金曜日　天晴

肉體の軟弱　1. 能く之れを說くも行ふこと能はざるもの　2. 長久なると能はざること　3. 好んで他人の不可なることを挑發すること　4. 好んで他人の惡事を語ること、5. 甚しきに至つては第一回の事もなさざる事　6. 新を喜び舊を厭ふこと　7. 一定の志向なく頭痛めば頭を治す足痛めば足を治すること　8. 眞に事前の根本計畫なきこと　是等なり

本日處置の事件

一、將校大會　鹿蘇京演說

一、祈禱大會　李鼎臣來る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、蘇芳亭牧師來る
一、陶君馬を借りて德山に赴きしに依り來りて英文を敎えず
一、石友三二回歸街

四月十日　木曜日

連日來家內に老少皆疾病に罹れるを以て心中頗る煩悶を感ず之れが爲め促與方法數條を規定す。夜病院に至りて家內を見舞ふ
頭腦の遲慢は發ふるに足らざるも只發ふる所のものは忍耐せざるに在るのみ。陳玉鑾等出發す

四月十三日　日曜日　雨

淵に臨んで魚を羨むものは寧ろ退きて網を結ぶに若かず夫れ體操を學ぶも能く之れを籌畫せる後身體强健なるもの自ら身を下して之れを實地に試むるにあらざれば其効果を見ざるなり學を求むるも亦然り何法たるを論ぜず實力を以て多讀するに非ざれば不可也
今朝は薛君聖書を講じ夜七時には薛君又之れを講ず
午前九時廿分伯潘弟大隊長張王兩小隊長を同伴して乘船德山に至り躰當を喫す繩引の技は誠に體力を練るに効あるを知る進德移芸兩校の學生數名讃美歌を合唱するを聽く精神は進德校勝れるを覺ゆ。船頭双眼殆んど失明して僅かに左目三分を殘すのみ。然も彼れ沿岸經過する處を詳述す。予は確信す。中國の危機は萬分之時に在るを歸途杜君に逢ひ同伴し歸り其醫院に至り後兵營に歸還す

四月十五日　火曜日

人智識なければ百事皆壞る然るに智識ありて而も惡事をなすもの又尠からざるは何んぞや蓋し肉體を重んじ良心と靈魂とを看却するに依る也予も亦此病ある也
此日起床甚だ晚し之れ肉體の過失也
女子習藝所と宣道會女學校に至る

四月十六日　水曜日　晴

肉體卽萬惡の泉源をなす肉體を打倒するに非ざれば事の成すべきなし予毎に自ら肉體に打勝ち能はざるに想到して嗟嘆流涕せざることなき也望む所のものは知ること貴きにあらずして改むることを貴きとなし皆すること貴きに非ずして行ふこと貴きなり
今日も亦起床甚だ遲れたるは肉體の誤りのみ。嗚呼卑しき肉體よ萬惡の肉體よ。本日大隊附以上將官を試驗す。英文は未だ學ばず。古文は辯姦論を講ず。夜陶江軍費を持參し來り並に總統の賜書を持參す。
此日砲兵各營の兵を見る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



農村沒落雜記

河西太一郎

底無しの泥沼に足を踏み入れたる者の運命、それにも等しい運命が今日我が農村の舊要素を訪れてゐる。彼等は踠いてゐる。が踠けば踠く程彼等は深みへ落ちて行く。やがて來るものは無限の絶望！ そして最後に來るものは沒落！ これが彼等の運命である。我々はその諸相を今日到る處の農村に於て見聞する。それは滑稽にも亦悲慘を極めたものであるが、いづれもマザ〳〵と時代相を反映してゐる點に於て汲めども盡きぬ興趣をその中に包藏してゐる。

がそれを語る前に、今日の現象の意味を理解するに必要なる限りに於て、少しく過去を顧みることは無駄ではあるまい。

「農民が土地を所有してゐる所では到る處生活の安寧と確實と獨立とがあり、それが彼等の幸福と道德とを同時に確保してゐる。農民はその子供と共にその僅かな相續地の上で凡ゆる勞働を營み、目上の何人かに小作料を支拂ふこともなければ、又目下の何人かに賃銀を支拂ふこともなく、自家の必要に應じて自家の生産を整え、自作の穀物を食し、自家釀造の酒を飮み、自ら作つた麻布と自ら仕上げた綿毛とを身に纒ひ、而して市場價格には殆んど全く煩はされることはない、蓋し彼には物を賣る必要もなければ、又物を買ふ必要も殆んど無いからである。行く先々のことを心配するどころではなく、將來は彼の期待の中に美裝を凝らして待つてゐる、と云ふのは、彼は暇さへあれば將來の爲めに、即ち兒孫の爲めに計るのであるが、そのための勞働は、自然の豐かなる力によつて百倍の結果を將來に齎らすからである。彼の小所有地は彼にとつては眞に貯蓄銀行である。彼はその所有地が彼に齎らす幸福を泌々感ずる。」これはスイスの保守的な經濟學者シスモンディによつて、その著『經濟學研究』（一八三七年）の中に、描かれたる所謂自由農民の姿である。勿論其表現には幾分の誇張はあるであらうし、又かやうな幸福な農民生活の狀態は勿論當時は既に一般的には存在してゐたのではなく、彼の觀察は主としてスイス及び北イタリーの諸地方に限られてゐたのであるが、しかし我々はこれを通して自給自足時代の農民生活の狀態を略々想像することが出來る。當時の農民生活はそれこそ文字通りに大地に立脚して居つた。彼等の生活の基調は安全と獨立そのものであつた。彼等にとつて最も恐るべき災禍と云へば凶年と軍勢の侵入の外にはなかつた。而も不作の場合にも通例彼等は生活を維持するだけの貯藏を平素から心懸けて居つたし、又軍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勢の侵入と雖も彼等の生活の根基たる耕地や森林を奪ひ去ることは出來なかつたからして、必要なる勞働力の存在する限り、やがて元の生活を回復することが出來た。即ち之等の恐るべき打撃と雖も單に一時的の不安を意味するに止まり、生活の源泉を絶たれることはなかつたのである。

もとより私は此の素朴にも幸福なる農民の生活をシスモンディと共に「理想」とするものではない。けれども將來到達すべき農民の理想的なる生活樣式に關して思索を廻らす時私は玆に貴重なる暗示が潜んでゐることを思はざるを得ないのである。がそれは暫らく措き、試みに此當時の農民の狀態——その一部分は十九世紀の前半まで存續して居つた——と、今日起りつゝある農村の諸現象とを比較して見るならば、その餘りに大なる變移の相に何人も驚異の眼をみはらざるを得ないであらう。

此の驚くべき變移を齎らしたる原因は何であらうか。その第一は農民の自給工業の崩壞である。シスモンディの描いたやうな自由農民の幸福と獨立がその自給自足の生活によつて始めて得られたものなることは云ふ迄もない。然るに商工業の勃興、商品生産の發達は次第に農民の自給工業を驅逐して行つた爲めに、農民はその必要品の多くを購入しなければならぬことになつた。而してそのために必要なるは云ふ迄もなく貨幣である。かくて農民は貨幣なしにはその農耕を繼續することも出來なければ、又從つてその生活を生きることも出來ないこととなつたのである。

それと同時に農民に對する支配階級の搾取は此時代より漸く苛酷となつて行つた。蓋し、商品生産以前に於ける支配階級の搾取は、その必要とするものを直接に實物の形で取り立てるにあつたから、必要以上に物質を取り立てゝも結局持て餘す位がオチで大した意義がないためにその搾取には自らなる限度があつたに反し、一度び貨幣時代に入るや、支配階級の慾望の擴大と黄金の萬能力とが相俟つて、搾取は多々益々辨ずることとなり、所謂苛斂誅求が文字通り出現するに至つたのである。而して農民がその最大の犧牲者となつたことは云ふ迄もない。

かくて農民の貨幣需要は刻々に增大して行つた。ところで農民が貨幣を手に入れ得る唯一の道はその農產物を商品として市場に賣るより外にないことは云ふ迄もない（尚賣るべき農產物を有しない無產農民はその勞働力を賣るより外に金を手に入れる方法を持たないが、かやうな農業無產者の話はこゝでは暫らく觸れないで置く）。かくして農民は今や市場の景況如何によつて左右されるやうになるが、こいつは稀に見る曲者であつて、まるで見當がつかないのである。實際農民に取つては市場の景況と云ふものは天候の具合より以上に變動常なく、從つて豫想のつき難いものである。まだしも天候の惡戯に對しては排水や灌漑の設備によつて或程度迄これに對抗することも出來るが、慘憺たる農作物の下落に對しては彼には施すべき術もないのである。

農民がこれが爲めに如何に飜弄されてゐるか枚擧に暇ない程であるが、その一例としてつい近年東京近郊にあつた次のやうな實話を私は思ひ出す。數年來三寸人參が都人士の嗜好に適し、需要が盛んになつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た爲めその栽培が非常に有利だと聞き込んだ農民は我勝ちにと他を棄てゝこれに掛つた。或村では一升普通五、六圓のが卄四、五圓にも暴騰してゐる種子をしこたま買ひ込んでその耕地全部を之れに當て以て大儲けの夢を見て居つた者すらあつたのである。ところがどうだらう收穫を終つて市場に持ち出す頃にはもと一貫目一圓もしたのが、たつた四錢にしかならないではないか。價格四錢と云ふのは實は四錢でも買手がないと云ふことなのであつた。かくして半歳に亘る農民の夢と勞苦はあはれ水泡と歸した。後に殘つたものは身に餘る借金と様々の哀話の外になかつたことを讀者は想像に苦しまぬであらう。

そは兎に角、かやうにして貨幣が農民の經濟に於ても次第に重要性を占むるに至ると共に農民の思想裡に未曾有の混亂が渦巻き始めたのである。平和と安定とは昔の夢と消え、あはたゞしき市場景氣の變動に一喜一憂する近代人となり、後ればせながらに彼も亦黄金崇拜の民とならざるを得ざるに至つたのである。

ところが元來農業と云ふ業務は大地を相手とする鈍調なものであつて、その業務の性質それ自身が既に營利經濟たるに適せざる上に、これを本業とする農民の性格、教養も亦一般に生馬の眼を拔く機敏と猾才とを要する金儲けに不適當なるはもとよりそのところである。而も金儲けはしたいし、又しなければならぬ！ 此ヂレンマの前に立つて農民は如何に煩悶したことか。

此のヂレンマの前に立たせられて煩悶したる結果農民の多くは消極的に萎縮した。唯一部の者だけが積極的に進出した蟷螂の斧を振つた。而も共に共に沒落の道を辿りつゝあるの結果に至つては即ち一である。私の玆に說かんとするのは即ちこの消極、積極の兩途による農民沒落の姿に外ならぬ。

營利經濟の壓迫に處する消極的對應策として一般の農民に採用せられてゐるところは、一言にして之れを蓋へば、出來るだけその生活を切りつめることに外ならぬ。即ち出來るだけ多く勞働し、出來るだけ少なく消費すること之れである。これは少しく農村の實狀に通ずる者には全く說明を要しない程明瞭なことであるが、實際農民は孜々として勤勉そのものの如くに働く、殆んど盲目的に牛馬の如くに働く、そして收穫したるものの中上等なもの、少しでも高價なものは決して自ら消費することをしない。少しでも賣れるものは賣り、殘り滓だけを自ら消費するのである。米を賣つて麥を食ふやうな習慣は次第に減少しつゝあるけれども、例へば蜜柑等の如きは苟くも賣れる限りのものは賣り盡し、自家で消費するのは買手のないやうな粗惡品か然ずんば腐敗品の類に限られてゐる。年百年中粒々辛苦して作り上げた品物も、その生産者自身は唯その美事なる外形を見ることにのみ滿足して、直ちに之れを商人の手に委ねなければならぬ。そして自らは遂にあたらその美味に舌皷を打つ機會を有たないのである。何と云ふ不合理であらう。而もかく迄生活を切り詰めてもともすれば借金の増えることをどうすることも出來ないのである。都會に生活する多くの文化人共は農民が四十、五十にして早く既に老衰し、何となく元氣がなく、ひからびてゐるのを見て些に不思議がるのである。あのやうな空氣のいゝ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

暢氣なところに居つてどうしてあゝなるものだらうと。しかしひどく粗食して而も無暗に働らき詰める農民にして若しあゝあらなければそれこそ不思議でなければなるまい。

此の言を誇張に過ぎる、と考へる讀者があるかも知れぬ。その人々の爲めに私はこゝに序に官廳で作成した統計をお目にかける勞を採つてもいゝ。

農商務省が大正十年三月一日より同十一年二月末日に至る一ヶ年間に於ける代表的農村の代表的農家百戶について行つた經濟調査の結果を見ると、農民一人當りの生活費は實に次の如くである。

農家種類	一ヶ年一人當り生計費	一ヶ月一人當り生計費
自作（卅二戶平均）	一五六、八三五円	一三、〇六九円
自作兼小作（卅三戶平均）	一五六、五九五	一三、〇四九
小作（卅五戶平均）	一〇八、三四四	九、〇二八
平均（百戶平均）	一四〇、五〇七	一一、七〇八

都會にありては十圓の金は一夕の觀劇にふつ飛んでしまふであらう。それ許りの金を以て多くの農民、而も働き詰めの農民が一ヶ月の命を生きてゐるのである。（因に此の十圓前後の生計費の中には勿論農民の消費する自家生産品も時價に換算せられて含まれてゐるのである）。而もそれだけ切り詰めれはそれで兎に角生活の安定は得てゐるのかと云ふに仲々そうではないのである。

同調査中收支を決算して剩餘あるもの、不足するものの割合を見るに次の如くである。

農家種類	剩餘戶數	不足戶數	不足戶數の割合％
自作（卅二戶）	二一	一一	三四・三
自作兼小作（卅三戶）	二一	一二	三六・六
小作（卅五戶）	二一	一四	四〇・〇
計（百戶）	六三	三七	三七・〇

即ち私が玆に主として念頭に入れてゐる自作農についてもその三割四分は年々缺損を生じてゐるのである。況んや小作農の如きに至つてはその割合四割に及ぶのであるから、農村疲弊の事實は寧ろ驚歎に値するものがあると云はなければなるまい。

然らばかやうな缺損は一體何によつて之れを補塡することが出來るか。農民はその土地を抵當に入れて借金をするより外に方法がないではないか。けれども一旦抵當負債に陷つた農民の運命は概ね悲慘である。蓋し、それより脫却することは農民經濟にとつては木によつて魚を求むるの類にも等しい難事であるからである。かくて絕望的借金の落ち着く先はその所有地を取り上げらるゝ外にはない。かくして昔は不作も飢饉も彼の生活の本據を覆すことが出來なかつたのに、今は貨幣經濟の壓迫が、徐々にしかしながら確實に、苦もなく土地を彼の手から剝奪して之れを金融資本の餌食たらしめ、彼をば無産者の列に突き落すのである。

かやうにして農民の消極的對應策も尙その頹勢を支ふるに足らずとせば、一か八か消極的に營利經濟の中樞に乘り出し、一攫千金を得んとする不心得者？を彼等の間から生ずるに至つたのは決して偶然では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ない。傳統的な保守的な農民も知らず識らずの間に營利主義の洗禮を受け、投機的精神に蝕まるゝに至つたのである。而してそれにからまる喜劇、悲劇、悲話、哀話その數を知らぬ中に、私は農民沒落史の一資料として、茲にその一二を思ひ出して見やう。

Aは村でも指折りの健實な自作農であつた。父祖傳來の四町歩に餘る田畑山林を、めつたに他人を雇はず、殆んど自家勞働だけでセッセと之れを盛り立てゝ來た。その上彼は鄙には稀なる思慮周密、遠謀熟慮の士であつた爲めに名望自ら集まり、推されて村會議員となり、村長にもなつた。が健實そのものゝ如き彼は村長となつて後も、微塵程も從來の生活方法を變えず、暇さへあれば田畑の手入れにせつせと働き續けたのであつた。その爲め毎年幾らかづつは資産を增加し、生活は安定し、一村の尊敬と感服を買つた譯であつた。が此の鐵の如き堅造も時代思潮の奔流には抗すべくもなかつた。……大正七、八年の好況に投じて投機思想が一世を風靡した頃、その頃からして歳既に五十の坂を越した彼の言動が目立つて變つて來た。百姓はつまらないと口癖のやうに云ふやうになつた。田畑へももと程熱心には出掛けなくなつた。その中に自轉車の稽古を始めて村人を本當に驚かした。やがてその自轉車は彼を乘せて五里の田舍道を停車場へと急ぐやうになつた。……彼は大都會の投機街に現はれるに至つたのである。

その後のいきさつは簡單である。讀者もよもや此の田舍者の老爺が而も俄か作りで、一躍投機の神の寵兒になり得るものとは考へぬであらう。果してそうであつた、がそれにしてもそれは餘りにも悲慘なる最後であつた。

小きざみにやつた始め數回はそれでもうまく當つたそうである。それによつて無邪氣にも忽ち有頂天にされた彼は一攫萬金易々たるのみと思ひ込んで萬に近い大金――彼の全財産に近い――を一擧に賭けたのである。――そこへガランと暴落が來たのだからたまらない。彼は忽ち急轉直下一擧に奈落のドン底へと突きのめされたのである。喪心したやうになつた彼はそれでも汽車に乘つて田舍の停車場まではついたけれども、その先最早自轉車を操縱するだけの力はなくなつてゐた。五里の道を人力車にゆられてやつと自宅に歸り着いた時に、彼は半死の病人に等しかつた。

彼のフラ／＼病はいつ迄も癒らなかつた。けれどもいつ迄も寢てゐる譯にゆかなくなつた彼は二三ヶ月後には人目を避けて僅かに殘つた畑へ鍬をかついで出掛けるやうになつた。彼は妙に人おぢするやうになつてゐた。親切な村人も餘りの變りやうに慰める術も知らなかつた。彼の姿はだん／＼淋しくなつて行つた。

それから暫らくの後、今は既に人手に渡つた彼の山林の中に縊死してゐた彼の姿を村人は發見したのである。

これに類した話は尙他にも多くあるであらう。がこれなどは要するに個人的の事例である。よつて更に進んで、御丁寧にも團體的に營利精神の犧牲となつた農民の事例を私は今一つ述べて見度い。

頃は同じく歐洲戰後の好景氣の絕頂の頃である。田舍に散在する紡績會社、織物會社などがとてもボロい儲けをしてゐると云ふ噂が農民

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の耳に異常な刺戟を與えた。一つ工場を設けて仕事を始めさへすればそれこそ濡手に粟で、寢ながらにして財産が出來ると云ふやうなうまい話が行き交ふ農民の間で熱心に話されるやうになつた。遂にB村では村の重立つた連中――此村には地主らしい地主はなかつた、殆んど大部分は自作農であつた――二十何人かが寄り集まつて相談した結果、多くの者はその所有田畑を抵當に入れて出資し、各々天晴れ重役、株主となり、こゝに一織物株式會社を創立することとなつたのである。人々はこれを村工場と呼んだ。それによつてもわかるやうに、若しこの會社にして失敗すれば一村の全滅を意味する程に重大な結果となることが明かであつたのであるが、營利主義に憑かれ、騎虎の勢一徹の彼等にはそんなことは夢にも考へ及ばなかつたのである。

元來百姓のやることは一般に鈍調である。これは大地を相手とし、農業を本業とする者にあつては寧ろ當然で、又、少くとも從來に於ては、それで大して差支はなかつたのである。がB村の先生達はわけてもその自作農特有の鈍調さを、わけても敏活を要する營利事業に應用したのだから振つてゐる。先づ村工場の思ひ付きが既に好景氣の傾きかけた頃であつた！工場が出來上つた頃にはソロ〳〵既に不景氣風が吹き始めてゐた！それで事業を開始して何の儲けがあらう。やり始めた最初から損になつたのは是非もない。やればやる程損が重む一方である。俄か仕込みの重役や株主は青くなつた。が今にいゝ値が出るだらう、とそれのみ賴みにして事業を續けたけれどもいつまで經つてもいゝ芽は出なかつた。結局損業一年にして會社は沒落せざるを得ざるに立ち到つた。がそれは啻の沒落では濟まされなかつた。會社の缺損の補塡の爲めに各株主は更にその所有株數に應じて各少なからざる金額を苦面しなければならなかつたのである。泣面に蜂とは正しくこのことである。

彼等が惡夢より醒めた時は既に遲かつた。彼等が何れも滿身瘡痍、自己を見出して呆然自失する外なかつたことは更めて云ふ迄もあるまい。村は火の消えたやうになつた。或る者は住み慣れた故鄉を逃亡した。後に殘つた者は力なく再び鋤鍬を採つた。彼等の伴侶は恐らく「絕望」の外になかつたであらう…

以上私は積極、消極の兩方面よりする農村會社沒落の姿を幾分雜記して來た。がこれは斷るまでもなく、全體としての農村そのもの沒落を意味するものでないことは勿論である。一方にかくの如き沒落的傾向ある以上、今の農村にも之れに對立するアンチテーゼとしての新興的傾向を象徵する諸現象が起りつゝあるに相違ない。

試みに今その卑近なものから拾ひ上げて見ると、農業組織を出來得る限り營利經濟に適應せしめんとする努力の如きその一である。此努力は、從來の行詰れる穀作專門の農業が漸次、蔬菜、果樹の栽培、牧畜、養魚等の多方面に分化、發展しつゝある事實に之れを窺ふことが出來る。

次に營利經濟組織に對抗せんとする努力の現はれとしての協同組合運動はその二である。現時の農民が市場經濟の爲めに飜弄されてゐることは前にも述べたところであるが、これによつて農民はドヂを踏む場合も多い代り又うまく行く場合もあり得る譯である。而もうまく行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた場合にでも結局は中間商人の爲めに甘い汁を吸はれて了ふのが一般の現狀である。世俗に所謂「賣り升、買ひ升」である。即ち賣るものは安く買はれ、買ふものは高く賣りつけられるのである。此の中間商人の搾取に對抗せんが爲めの協同組合運動が勃興しつゝあることは決して偶然ではない。而も此の協同組合運動が更に進んで協同耕作、協同經營の方面にも發展せんとする萌芽を示しつゝあることは看逃し難き事實である。

　が、前にも一寸觸れたるが如く、農業はその經營の性質上市場適應性に乏しく且つ資本の回轉が緩慢であるが爲めに遂に營利事業たるの適格を有しないのである。從つて營利主義の支配下にあつて農業の徹底的振興を望むは畢竟痴人の夢に等しい。農業の樂土は必要主義の彼岸に招來されるであらう。今日搾取階級の對抗運動として發展しつゝある小作人階級の運動は此の理想の實現に寄與する歷史的必然の運動として至高の意義を賦與せられてゐる。

　以上にその輪廓を略述したる農村新生現象は夫々その意義、限界を異にしてゐる。彼等は一體夫々何れに辿り行かんとしつゝあるであらうか。「農村沒落雜記」を了したる余の筆は進んで更に、それに續まる「農村新生雜記」に移るべきであるが、それは更に他日を期することにしやう。

初富士

高濱虚子

初富士や草庵を出て十歩なる
初富士や常の如くに汽車に在り
初富士や双親草の庵に在り
枯蔓の峰の松より下りけり
藪の池寒鯉つりの早あらず
山寺の鐘殷々と村の火事
道端に高き多木のあるところ
大空に延び傾ける多木かな
水鳥の濠の千代田のお城かな
句に瘦せて佇む人や浮寢鳥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



女樂士

長田幹彦

德枝が斷髮にならうと思ひ立つたのは、もう三月も前からのことであつた。今日はやらう、明日はやらうと思つてゐるうちに、だんだん日が經つてしまつた。それも彼女が自分の髮に對して愛惜の念をもつてゐるからではなかつた。彼女も此頃は、館の方が手不足で、朝の十一時から、晩閉場るまで、ずうツとつかまつてゐるので、自分の時間と云つては殆んどないのであつた。それに例の朝寢なので、實際はお風呂へいく暇もなかつた。その爲めに彼女は、自分では思ひながらも斷髮を決行する機會がなかつた。

六人ゐる親しい朋輩の中で、もう三人は斷髮になつてゐた。樂士の中にも、それから女案内人の中にも、思ひ切りよく斷つたのがゐた。その連中の云ふところを聞くと、誰しも皆斷髮を讚美した。第一モダーン型で、見た眼の感じがいゝ。それからしげしげ髮を洗ふ必要がないのと、髮飾りや、髮結ひなんぞで苦勞をしなくても濟むし、何よりも經濟で、氣持ちがよくつて、そりやとてもいゝといふのであつた。つまり男櫛が一枚と、手鋏が一丁と、それに燒鏝がひとつあればもう他には何んにも要らないのであるから、極めて簡單で、手數がかゝらなかつた。

德枝は夜寢ると、いつも斷髮になつたあとの自分の姿形を空想してみた。あんたは頭が丸いからきつと斷髮になつたらよく似合ふと皆も云つて呉れた。少し長めに耳の下あたりから切つて、ウエーブをかけて、あの好きな濃いグリーンの洋裝をやつたら、さぞ綺麗にコケットにみえるだらう。まるでパレキイのやうだらう。さう思ふと、彼女はきつと明日は時間をみて、理髮師のところへ行かうと、さう思ひ思ひ、うとうとゝ深い眠りに落ちてしまふのであつた。

そのうちに二人の男から貰ひためた金で、どうやら洋服の方が先へ出來てしまつた。服地は館へよくやつて來る肴町の子供服屋から割安なものを買つて貰つたし、仕立は階下の菓子屋の姉で、裁縫學院へ通つてゐるのが縫つて呉れたので、彼女としてはひどく氣に入つた形のが出來上つた。下着や、シユミーズなぞは絹レースのやつが欲しかつたが、金の都合でそこまでは手が伸びなかつた。靴も今穿いてゐるのが何うやら間に合ふので、それでしばらく我慢をすることにした。

さて身裝へが出來てみると、德枝は一日も早く髮の處分にかゝり度かつた。何んだか自分でもうづうづするやうな氣がした。そのうちに、丁度折好く、映寫ものゝ都合で、晝間は和樂の方の連中が受持つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことになつたので、實は昨日から、午後の間三時間ほど樂が出來るやうになつた。德枝はすつかり嬉しくなつて、今日は館から一度家へ歸つて來ると、すぐさま、始終襟脚なぞを剃つて貰ふ近邊の理髪屋へ出懸けていつた。

理髪屋はまるで空いてゐた。明るい日のあたる窓のところへ主人から下剃りまで集まつて、額に將棊をさしてゐた。主人の白い被衣には鹿格子の棧が縞のやうにうつッて、冬の蠅が二疋ほど頭のうへで舞つてゐた。

德枝が入つていくと、主人はふと顏をあげて、心易だてに、

「おや、被來い。今日は休みかね。」と、福島訛のある調子でいふ。

德枝は唇を歪めてにいッと齒を出して笑ひながら、

「あら、休みぢやないわ。一寸暇が出來たから來たのよ。」と、云つて、妙にせかせかしながら、「あの、直ぐにやつて貰へて。」と、いふ。

主人はもつてゐた長煙管を卓のうへゝ置いて、

「お急ぎなら、すぐにやつて上げよう。さあ、此方へおかけなさい。あんた、顏剃りだね。」と、もう前懸をはたきながらいふ。

德枝は大きな鏡の前の廻轉椅子へ、どかりと不器用に腰を下ろしながら、ひどく得意さうに、

「ねえ、あんた。今日は私、顏剃りぢやないわよ。私ね、今日は思ひ切つて、斷髪にして貰はふと思つてね。それで來たの。此間、館の林さんがやつて貰つたでせう。あれ馬鹿に格好がよかつたから、どうか私のもあれと同じやうにやつて呉れない。」

主人はにやりとして、無遠慮に、

「はゝゝゝ。あんたもやるのかね。此頃ぢや猫もしやくしも、流行もんだかんなあ。あんたなんざ、こんないゝ毛をもつてんのに、親あ泣くぜ。」

「いゝわよ。親なんざないんだから。」と、不貞腐れに云つて德枝は鏡に映る自分の顏ばかりみてゐた。

主人は自分では進まないらしく、

「ほんとに惜いもんだよ。後で後悔しますぜ。」なぞと云ひながら、綺麗に結ひ上げてあるみすゞ卷を、とみ、かうみしてゐたが、やがて片はづその髪から一つひとつ解いて、湯を含ませたタオルをもつて來て、それで上から濕しながらそろそろ仕事にかゝつた

主人はいろんな無駄口をきゝながら目の細い櫛で、小口から頭髪をそろへては、チヨキリチヨキリ截つていつた。鋏の音がすぐ耳の近くで、冷たくチヤリチヤリと鳴つた。その度に、德枝は頭が輕くなつていくやうで、何とはなしに快い心持ちであつた。長い間、いろんな髷に結つたりして、毎朝必ず手に觸れてゐた頭髪が、およそ三分の二ほども無雜作にきりとられていくのをみても、彼女はさう大して惜しというふやうな氣もしなかつた。惜しいと感じられても、すぐに何か自分で勝手な云ひ譯をくッつけてさうした感じを紛らかしてしまふのであつた。唯あの長い髪の毛を主人はどう處分するだらう。まさかバリカンで刈つた毛と一緒に、床のうへゝは投り出すまいと、そんなことに可笑しな好奇心を覺えてゐた。

主人は耳のまはりだけ刈つてしまふと、櫛と一緒に持ち添へてゐた長い黑髪を一束にして德枝の眼の前へ突き出しながら、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「あんた、どうですい。からなつてみると惜しいやうな氣がしやしねえかね。だがもう何んてつても、追附かねえかんね。」と、云つて、うすく笑ひながらその髪毛を鏡の前の棚へ置く。

德枝は平氣な顏で、

「あら、私、ちつとも惜しかないわ。でもさうやつてみると、隨分長いのねえ。かもじ屋へでも賣つてやるといゝわ。」

「はゝゝゝ。笑談でせう。こんなものを何んでかもじ屋が引取るもんかね。一貫目四十錢で、このまゝ梳毛屋へ下がるのさ。呆氣のねえもんさねえ。」と、云つて、彼は廻轉椅子ごと少し斜にふりながら、「さあ、今度は後だ。この盆の窪んとこは何うしようねえ。バリカンでやつとくか。それとも剃刀を使はふかね。」

「さうねえ。林さんのは何うして。あの人の通りにして下さいな。」

「林さんのは剃刀であたつたよ。そいぢやあんたのもさうしませう。だが、あたつたら、どうしたつて月に三度は來て呉れなくちやいけないねえ。こゝが伸びると、穢むさくつて、まるで河童小僧が化けたやうになるかんなあ。後からみて、全く色氣がなくなるんでねえ。」と、主人は笑ひもしずにいふ。

德枝は何んだか、首筋が急に寒くなつて來たやうな氣持ちがした。頭が擽つたいやうな、浮いてゐるやうな、實に變梃な感じであつた。頭を一寸動かしても、毛の捌きが可笑しいほど輕くて、斷り揃へた毛先が肌へ觸るのが氣味が惡かつた。

彼女の椅子の廻りには、いつの間にか下剃達が集つて來て、いろんな馬鹿口をきいては冷評すのであつた。

德枝は理髪屋からその足で湯屋へ廻つて、もう日が落ちかゝる頃に、慌てゝ家へ歸つて來た。階下の內儀さんはすつかり顏違ひがした德枝をみると、呆れたやうに眼を丸くして、店の薄闇から、

「あら、まあ、到頭あんた切つちまつたのねえ。今時の人はほんとに思ひ切りが早いのねえ。」と、笑へもしないやうに云ふ。

德枝は可笑しさうに笑つて、

「でもいゝでせう。ねえ、小母さん。そりやさつぱりしていゝわ。こんなだつたら何故早く私、きらなかつたかと思つてねえ。」と、いつて、綺麗に鏝をあてた頭を得意げに振つてみせる。

內儀さんは無理に微笑んでみせるばかりであつた。

德枝はそれから自分の借りてゐる二階の六疊へ上つて、大急ぎで化粧をはじめた。どうもいつもより白粉を濃くしないと似合はないやうな氣がするし、それに黛も太めに引かないと顏の折合ひがつかないやうなので、德枝は電燈をつけて頻りに鼻を叩いたり、頰を撫で廻したりしてゐた。

そのうちに館へ出る時間が漸次迫つて來るので、彼女はやつと諦めをつけて、今度は洋服に着換へ出した。下に着るものは未だ揃つてゐないので、有合はせで間に合はせて、どうやらからうやら仕立て下ろしの洋服を着たが、どうやつても都腰巻がスカートからはみ出る。德枝は焦れて、安全ピンでやつと揚げをあげ、見た眼の體裁だけは繕ふことが出來た。

すつかり支度が出來上ると、彼女はもう一度鏡臺の前へいつて、自

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分の姿をみた。何んとも云へない滿足で、彼女の胸は一杯になつてきた。彼女はやがて、ヴァイオリンを入れたケースを小脇にかゝへて、そのまゝ家を出た。

往來へ出てみると、もう軒並の店屋には軒燈が明るくともつてゐる。西の方の空には夕映が消えかゝつて、電信柱だけが黑々と空高く突つ立つてゐる。寒い風がぼうッと砂塵をあげながら吹きつけて來たが、德枝はさう寒いとも思はなかつた。いつもと違つて、何かなしに身輕で、步調もはきはきしてゐた。いくらとつとゝ步いても、擦摺きが自由で、今迄の自分とはまるで別人になつたやうに思はれた。擦れ違つていく人達にぢろりぢろりと見られるのまでが、彼女には此のうへもなく嬉しいのであつた。

德枝は賑かな大通へ出ると、步道の眞中をこれみよがしに步きながら、今夜は誰に逢つてやらうかとそればかり考へてゐた。[illegible]町の時計屋の店員である深井が今では一番眼星い相手であつたが、今夜は何故か深井には逢ひ度くなかつた。それよりも慶應の大學部にゐる波多野、それはまだ若い學生で、マンドリンに凝つてゐる青年であつた。德枝はいつも深井とは築芳樓といふ支那料理屋で逢ふことになつてゐるので、今夜はいつそあの波多野に呼び出しをかけてやらうと思つた。波多野なら前から斷髮にしろとあんなに云つてゐたのであるから、逢つてもきつと逢ひ榮えがするに相違ない。さう思ひつくと、德枝は急に胸がどきどきして、矢も楯も耐らなくなつてきた。

德枝は館から電話をかけると又事務員が煩いので、いつもよく行く洋菓子屋へ寄つた。そして申譯にボンボンを少しばかり買つて、電話をかりた。波多野は親戚に當る醫者の家に厄介になつてゐるので、電話へ出ることはあまり好まなかつたが、その晩は何うしたのか女の聲でかけたのに、直ぐに出て來た。

德枝は浮々した聲で、

「あら、あんた、波多野さん。私分つて。よく今頃家にゐたわねえ。」

と、笑ひながらいふ。

と、波多野はいつになくおほつぴらな調子で、

「やあ、分つたよ。今日はね、家のものが皆で葉山へいつたんだよ。伯母が工合ひが惡いんでね。それで僕、留守番を仰つかつてるんだよ。」

「まあ、そいでなのね。いつも今頃お家にゐるあんたぢやないのに、珍らしいわねえ。今夜どう。出て來られない。」

「さあ、もう直誰か歸つて來るだらうとは思ふんだが、……それよりも君は何うしたんだい。今日は彼方はサボか。」

「いゝえ。どう致しまして。これから行つて、「天國と地獄」だけ彈きや、もう體があくのよ。だからあんた、後生だから出て來てよ。私、是非あんたに見せ度いものがあるんだもの。」

波多野は笑つて、

「はゝゝゝ。又その手で釣り出さうといふんだらう。もうその手には乘らないよ。」

「あら、隨分ねえ。私、そんなこと噓よ。今夜こそほんとに見て頂くものがあるんだつてばさ。」

「はゝゝ。有難う。又いづれそのうちにね。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「あら、憎らしい。私、急いでるんだから、そんなに焦らさないでよ。ほんとに厭だわ。」
「いや、焦らす譯ぢやないが、併し今夜は失禮させて貰はふ。それとも此方の條件を聞いて吳れりや、何んとかしないもんでもないがね。」
「あれだ。厭な人ねえ。條件て何よう。」
「條件ていふのはね、今夜君泊るかつていふのさ。」
「あら、あんた、電話口でそんなことを云つてゐるの。お宅の方が聞いてやしなくつて。」
「いや、大丈夫。こゝのまはりにや誰もゐないから、何を云つたつて平氣なんだ。ほんとに君、さうしろよ。さうすりや君の云ふやうに僕出ていくがなあ。」
「そりやあんた。あんたが出て來て下さりさへすりや、私、何うでもするわ。兎に角、出て被來いよ。もう館へ來て吳れなくつてもいゝから、いつものとこで待つてゝね。よくつて。いゝわねえ。」
「はゝゝゝ。一人で極めてるねえ。一體今夜は何時にカブるんだい。」
「さあ、カブるのは十時半頃だけど、私は休憩から先は何んにも用がないんだから、さうねえ、九時一寸過ぎには體があくわ。さうしたら、すぐにいつもの、彼處ね。彼處へいくから、あんた、待つてゝ。二階でなくつちやあいやよ。きつと來るわね。よくつて。」
波多野は愚圖々々云ひながらも、到頭出懸けて來ることになつて電話を切つてしまつた。德枝はよつぽど斷髮にしたことを匂はせようかと思つたが、併し逢ふまで樂しみにして置く方が面白いと思つて、何んにも云はなかつた。波多野があツと云つて驚く樣が、彼女には又ひとつの樂しみなのであつた。氣の好い、飄輕な靑年なので、今夜はまたきつと腹を抱へるやうなことがあるだらうと思つて、德枝はまだ逢はない先から、ひどく氣が浮はついてくるのであつた。
德枝が勤めてゐる館は、そこからもう一つ四辻を越えると、だらだら坂の中途のところにあつた。つひ去年までは松竹の專屬の館であつたが、町の金貸しの一人が金主になつたので、今では獨立經營になつて、客足も相當によかつた。最近表の模樣がへをしたり、特等の坐席へ手入れをしたりしたので、先とは見違へる程綺麗にもなつたし、一體に他の館に較べて手當なぞも幾らかよかつた。德枝はもう松竹專屬の時代から、そこのオーケストラ、ボックスで、ヴァイオリンを彈いてゐるのであつた。
館では丁度明日が映畫のかはり目なので、その晚は外からみても客足が薄いのが分つた。今は劍俠ものが一本と、正喜劇が一本、それに「西部の狼」がかゝつてゐて、「西部の狼」では相當に客を呼んだのであつた。併しこゝいらではいくら滿員をとつても、とても封切ものをかけるだけの資力はないので、一週間とはもたなかつた。
館の前のスチールのところには、明るい電燈が寂しく輝いてゐた。いつもは三人でも四人でも往來の人がその前へ立つて、馬鹿な顏をして客寄せの寫眞をみてゐるのに、今夜はがらんとして人影さへなかつた。四日ばかり前に降つた雪が泥まみれになつて殘つてゐる側では、小供達が凍りついた路面でスケートの眞似をしながらぎやあぎやあ騷いでゐた。一軒置いて先の魚屋からは腥い魚の匂ひが薄寒く漂つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

來て、角に屋臺を下ろしてゐるお好み燒のまわりにも女の子が二三人、ぬき袖をしながら立つてゐた。

德枝は一寸下足の方を覗いてから、すぐ手前の廂間になつてゐる露路へ入つて行つた。時間が遲れたらうと思つて內々心配しながらやつて來たのに、ステージではまだ劍俠ものゝ殘りをまはしてゐるとみえて、三味線や笛の音がもの悲しく聞えてゐる。それはヨタものゝ長唄をやつてゐるのであつた。「鶴龜」のやうでもあり、「石橋」のやうでもあるといふ程度の代ものであつた。

德枝はまあよかつたと思つて、眞暗な露路の突當りにある辯士や、樂士の入り口からこつそり入つていつた。樂士部屋へ入るのには厭でも辯士部屋をぬけていかなければならないので、下駄箱の傍の扉をあけると、中はもうもうとした煙草の烟で、その中に主任の畑靜波や、その次席の金波や、夢郎なぞが、一人の老人を相手に、何やら吞氣な笑談口をきいてゐた。その老人は例の金主の金貸で、毎晩かうやつてその日の上りをとりに來るのであつた。

眞先に聲をかけたのは出口に近いところに腰をかけた金波であつた。彼は色の眞蒼な、口の恐ろしく臭い男で、もう梅毒で聲がつぶれかゝつてゐるのを、始終濕布で押へて、變ないきみ聲をだしてはやつとお茶を濁してゐるのであつた。その癖、一番口は減らなかつた。

彼は大きな口を開けて、

「よう。これは驚いたね。誰れかと思つたら何あんだ、德ちやんか。はゝゝゝゝゝ。いよう。すつかりモダンガールだねえ。一體何うしたつて云ふんだね。」と、いつて、身を顫く。

靜波も煙草の烟が眼にしみるのを押へながら、

「はゝゝゝ。これは驚いたな。笑談ぢやありませんぜ。よくも化けたねえ。はゝゝゝゝ。」と、片眼でぢろぢろ見上げ、見下ろしながら、呆れてゐる。

德枝は臆面もなく前へしやしやり出て、カンカン炭火の熾つた大火鉢へ手をかざしながら、

「それでもよく似合ふでせう。畑さん、又もう一度惚れ直さない。はゝゝゝゝ。」と、蓮葉に云ふ。

靜波は手帛で涙を拭いて、

「いや、有難う。もう澤山だよ。德ちやんにや私も恐れをなしてるからね。はゝゝゝ。いや、それにしても、いさゝか度膽をぬかれたねえ。先刻歸る時にや何んでもなかつたが、いくら化けるにしても、ちつと早間すぎるなあ。」

「あれからあんた、大急ぎで床屋へ行つて、お風呂へ入つて來たのよ。まあ、そんなにじろじろみてばかしゐないで、讃めて頂戴よう。いゝでせう。よく似合ふでせう。ねえ。木村さん。」と、今度は金貸の親爺の方へ向き直る。

木村も笑つて、

「いや、よう似合ふとも。何うみたつて異人だよ。日本人ばなれがしてらあ。はゝゝゝ。」

德枝はぴしりとその肩を打つて、睨むやうな格好をしながら、

「あらッ厭だ。木村さんも口が惡いのねえ。どうせあんたのやうなお爺さんにやこの趣味は分らないわよ。お金ばかし抱へてないで、偶

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にや銀座へでも出なけりや、あんた時勢に遲れちまふわよ。ほゝゝゝゝ。」
　木村も德枝の頭ばかりみながら、
「私やもうこの年だから、それでなくたつてどうせ時勢にや合はねえやね。どうだい、まあ、このお河童さんの不恰好なこと。まるで田舍芝居の山神だね。こんなんをみても今の若えものは、色氣が出るのかねえ。」
　金波はそれを横合から受けて、
「そりやあんた。今はこれが流行だから、きつとこれでなけりや納まらないつてのがゐるんですよ。第一昔の髮と違つて、便利がいゝですからなあ。いくら何處で浮氣をしようが、鬢のほつれつてな粹なことはないしさ。おほつぴらで發展が出來まさあね。」
「ふむ、成る程ね。今時の女あ、そこまで考へてやがるんだね。呆れ返つたもんだ。成る程、かうして置きや、枕の〃もねえと來てやがらあ。、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。俺も年の割にや惡食の方でね。ぜひそのお河童さんに食ひついてみてえんだがなあ。はゝゝゝゝゝゝ。」と、德枝の腰を突く。
　德枝は兩手を火鉢のうへで溫めながら、平氣な顏で、
「、、、、、、、、、、、、。その代り、文句を云はずに、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、」
「こんな年老りでも承知かっ」
「私、年老りは大嫌、、、、、、、、、、、、、、、、、、、人助けだと思つて、、、、、、、。ほゝゝゝゝゝ。でもあんた、あんたから、、、も取つたら、晩にきつと化けて出るわねえ。あとの祟がこわいから、私願ひ下げにするわ。」
　木村も笑つて、
「人を馬鹿にしてやがらあ。笑談ぢやねえ。いくら俺が吝坊だつて、、、ぱかしの金で化けて出るけえ。口の減らねえ女だなあ。このきで洒蛙〳〵してられちや、全く此方がおびえるね。おい、靜波さん、受附代つて吳んな。とても俺ぢや太刀打ちや出來ねえ。はゝゝゝ。」
　靜波は又煙脂のつまつた長煙管をぐつぐつやりながら、
「はゝゝ。さすがの木村さんも、德ちやんにや尻尾を卷きましたね。だが木村さん、この子は口の割に場數を踏んぢやゐないんですよ。これで不意打ちを食はせると、まだ顏に紅葉を散らしますからねえ。ちよいとしほらしい處もあるんですよ。」
「どうだか。今の女あ、昔の女のやうに意氣張りづくがねえから、とても當てにゃならねえさ。話が手ッ取り早過ぎるからなあ。全く恐れ入つたよ。、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、。、、、、、、、平氣なんだからなあ。」
　德枝は、足で拍子を踏みながら、口をすぼめて口笛を吹いてゐたが、又口を出して、
「、、、、、、、、。そんなことを考へてゐたら、私達のやうなものは、、が出來やしないわ。、、をたべなくて、何うして生きていけて。たつた月に二十四圓や二十五圓の日當を貰つてさ、それで生きて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いけつてのは、無理すぎるんだもの。ねえ、木村さん。ほんとに笑談ぢやなく、來月つからもう五圓だけ増してよ。私、全くやりきれないんだもの。」

木村はその顏をみて、きよとりとしながら、

「おい、德ちやん。呆れたもんだね。このどさくさ紛れに、身上まで居据るなちつと惡どいぜ。お前は辛い、辛いつて口癖のやうに云つてるが、その洋服は何うしたんでえ。まさか、洋服屋の店先からカツ拂つて來た譯でもあるめえ。だから俺あ女は厭だといふんだ。」

「この洋服だつて、やつぱし、、、こしらへたんだわ。下着だつて、靴だつてみんなさうよ。私、正直に白状しちまふから、木村さんちつと同情してよ。今時、一日八十錢ぢや、とても食べちやいけないわ。ねえ、靜波さん。さうぢやなくつて。」

靜波は笑つて、

「いや、どうもなかなか勇敢にやるねえ。資本家對勞働者の問題になつて來ると、金波の持場だよ。私や情緒もの丶方で買つてるんだからねえ。はゝゝゝゝゝ。まあいゝぢやないか。君なんざ、女だけに、ゝ方で月賦がきくんだもの。我々と來た日にや、そこへいくと、實に憐れなもんさ。これで家へ歸りや、妻や子が餓ゑに泣いてゐるんだからねえ。實に浮世は味きないものさ。は、、、、。」

「ほ、、、。餓ゑに泣くはいゝわねえ。ヴアイオリンのソロでつけるとこだわね。」と云つて、德枝はそこへ蹲んでしまつたが、木村は話が面白くなくなつて來たので、いつの間にか椅子から立上りながら、

「それはさうと、もうそろそろ「熱血の發士」は上る時分だらう。今日は又馬鹿に廻はし方が甘いんだねえ。昨夜で一百しか入つてねえんで、技師の奴さ氣をぬいてやがるな。仕様のねえ奴等だ。」と、口小言のやうに云ふ。

金波も舞臺の方を覗いてみながら、

「さうですねえ。今夜は一寸十五分ほどのびてますねえ。何あに、これでも眞打で疊み込みますよ。」と、云つたが、そこへ俄に幕の切れたベルの音が聞えて來た。

德枝はそれを聞くと、又起ち上つて、

「さあ、今度は私達の番よ。ボツクスはとても斷らないわねえ。今夜のやうに冷えると、手がかぢかんで、指が云ふことを聞かなくなつちまふんだもの。」と、いひ、いひ、彼女はヴアイオリンのケースを抱へて、眞暗な拔穴からもうすぐにボツクスの方へ下りていつてしまふ。

觀客席の方をみるとその晩は上が三四十に、下が四五十しか來てゐなかつた。いつになく空氣ががらんと澄んでゐて、空咳の聲ばかりが天井へぴんぴん響いてゐる。中賣りの聲も妙に寂しかつた。

德枝はそこでも樂士達に眼を瞬らせた。ボツクスの隔壁には小供、學生達が七八人ぶら下つてゐるので、皆はあんまり惡どい冷評し方はしなかつたが、指揮者である渡邊は、棒を構へながら、小聲で、

「德ちやん。よう、よう。」なぞと云つて、片眼をつぶつてみせたりした。

德枝は「天國と地獄」を彈いてゐる間も、波多野のことばかり考へてゐた。それも戀しいの何んのといふ感情ではなくて、折角今夜初めてこんな變つた姿をみせるのだから、何んとかして幾何にし度いとい

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ふやうな氣持ちになつてゐた。まだ洋服についたもので、幾らも買ひ度いものがあるので、せめて十圓でも波多野が持つて來て呉れたらと、そればかり考へてゐた。德枝の財布には、その日理髮屋と風呂とボンボンで九十五錢とられたので、あと十二錢しか殘つてゐないのであつた。

ヴアイオリンが一寸休む間へ來ると、德枝のすぐ後にゐる、やつぱり女樂士の一人である八重子は弓の把手で輕く彼女の背中をついて、

「德枝さん。あんたもとうとうやつたわねえ。どう、頭の工合は？」

と、いふ。八重子も旣に斷髮にしてゐるひとりなのであつた。

德枝は後は向かずに、

「とてもいゝ工合よ。さつぱりして。」と、小聲で呟いて、「私、こんなことなら、あんたと一緒の時にやりやよかつたわ。」と、いふ。

八重子は後から寄りかゝるやうにして、

「でもあんたのは ウエーブが大變によくいつてるわねえ。何處でやつたの。」

「私、私はね、三松軒よ。つい先刻錢をかけて貰つたばかしだもの。明日までは大丈夫もつわね。」

「耳のうへのとこが特別うまくいつてるわねえ。三松軒は割りに上手だわねえ。私も今度は彼處へいつてみよう。」

「え、行つて御覽なさいよ。あすこは六十錢よ。でも私、似合つて。何んだか洋服としつくり合はないやうな氣がするんだけど。」

「そんなことないわ。とてもシヤンにみえるわよ。まるで德枝さんぢやないやうな氣がするわ。歸りに何か奢つてよ。」と、云つて、ぺろりと紅い舌を出す。

德枝にはそれがみえないので、弓を置いて右の手でそつと頭髮を撫でながら、

「私、それつ位な讚方ぢや、奢らないわよ。もつともつと讚めてよ。パンキイのやうぢやない。」

「さう、パンキイよりももつといゝわ。ほら、見て御覽なさいよ。あの特等の右から二番目の紳士が、先刻からあんたの方ばかしみてるわ。あの人、髭がないと一寸してゐるわねえ。きつとあんたのその恰好が氣に入つたんだわ。早く電波を投げつけておやんなさいよ。きつと手答へがあるわ。」

德枝もさつきからそれに氣がついてゐたので、もう云はれない先から、幾度も此方からもそつちへ向つて何喰はぬ顏で秋波を送つてゐたのであつた。さう云はれた拍子に、彼女は思はずにいッと愛嬌のある笑顏になつて、もう一度無意識に紳士の方を見上げた。

若い脊廣の紳士は手帛を出して、態とらしく口を拭いた。

八重子はクスリと笑ひ出して、

「ほら 覿面ね。だけど德枝さん。あんた、斷髮になつたら、これから今迄のやうに不精をしちや駄目よ。始終面倒臭くつても床屋へいて、この後の盆の窪のところをあたつて置かなけりや可けないわ。さうしないと、あの人に、、、、、、、、、、、、、、、、、、るんで嫌はれるわよ。」

德枝は後から不意に盆の窪のところを冷たい指先で觸られたので、ぞツとして肩を縮めた。その時コンダクタアの渡邊が此方をみて、口を尖らかしたので、德枝は慌てゝヴアイオリンを顋へもつていつて、弓を取り上げた。そして一テンポ遲れて、次の樂章へ入つていつた。

（昭和二年二月作）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人雜誌は何處へ行く

婦人雜誌を燒いて仕舞へ

野口米次郎

私は時々考へる、若し今日清少納言が生きてゐたならば彼女は婦人雜誌を見て何といふであらうか、彼女も『　　』か『　　』か『　『かの悲慘な餌食となつて枕草子を執筆するであらうか……若し彼女がそれ等の婦人雜誌の寄稿家であつたならば、彼女は婦人雜誌を『最も心持悪しきもの』として鎗玉にあげる勇氣があるであらうか。彼女が今日生きてゐたならば或は白蓮女史や石原夫人のやうに自叙傳を書き、『宮に始めて參りたる頃物の恥しき事數しらず涙も落ちぬべければ夜々參りて三尺の御几帳の後に候ふに』など宮中生活を物語つたかも知れない。若し彼女が函谷關の物語で「夜をこめて鳥の空音ははかるとも世に逢阪の關は許さじ」と詠じ或は干定國の故事で大進生昌を飜弄する物語を書いたならば、如何に婦人雜誌の編輯者はこれぞ好個の讀物なりと叫んで喜んだであらう更に若し彼女が齊信や則光との情事を語つたならば、雜誌社では勿論全頁大の廣告を惜まないであらう。そして清少納言の寫眞は大きくその廣告文中に掲載されることはいふまでもない。

然し清少納言はいい時代に生きた。如何に彼女の文學的精進が叡靡でも、若し彼女が今日生きてゐたならば、俗悪劣等な編輯者の魔手は彼女の孤城を攻め亡ぼさなければ止まぬであらう。彼女は善良な時代に生きた……そして後世に枕草子一卷を與へた。私は今日の婦人雜誌のセンセーショナルな編輯振りを否定し又罵倒するものであるが、正直な所、罪はその編輯者にないであらう。彼等は私にいふに相違ない、『私共が資本家の奴隷である限りはどうともすることが出來ない。彼等は命令者である、そして私共は服從者であらねばならぬ。資本家の目的は何か……澤山雜誌を賣つて利益を得んとするにある。彼等は口に婦人文化の向上を飾る、婦人生活の完全な發達を主張する、然しそれも彼等の利益が破壊されない範圍であらねばならぬ。彼等とても一個善良な市民であるに相違ないが、如何せん彼等は所謂商賣人である、故に彼等の目的は金錢にある。然し誰にも彼等の目的を否定する權利がない。前にいつた如く私共は彼等の使用人である、私共は彼等の命令に從ふの外他に道がない。私共と雖も彼等が文化普及を賣物にして私利を謀る點を批判するに決して人後に落ちるものでない。』

近頃婦人雜誌界の現象で婦人倶樂部の『高爵な愛人』位不愉快な感を與へたものはない。私はもとより作品其物をいふのでない、出版者がこの一作品を媒唱にして大廣告をし一般的低級な興味を唆つた商賣方法をいふのである……その不愉快さといつたら到底言葉で語ることが出來ない。この雜誌に關係してゐる人が私を訪問して、『かかる廣告をした結果婦人倶樂部は倍も賣高を増した』と得意氣に語

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた。私はこの男を見詰めて『はあさうかね』と氣のない返答をした。私は考へる……筆者松岡讓氏は價値ある文學者の一人であると私の信ずる所の人であることはいふまでもないが、氏はかかる方法で世間に紹介せられるといふことを前以て知つて居つたであらうか又松岡氏夫人は自分の肖像がだらしなく廣告用に使はれることを喜んで居られるであらうか。小說家松岡氏は純然たる文藝品としてこの作を執筆されたに相違ない。然るに婦人倶樂部の方では氏にいふやうに見える。『あなたの作品が藝術品であつても無くてもそんなことはどうでもよい。私共の興味はあなたの取扱つた戀愛談にある、いな女主人公の夏目氏令孃にある。あなたにお氣の毒だが、この小說を私共は松岡讓先生の小說では面白くない……「文豪の娘の結婚に關する事實小說」といふ筋一つに價値がある。本來ならば寫眞を出すにしても、あなたの肖像を出さねばならないかも知れないがそれでは私共の方に都合が惡い、どうか夏目令孃の寫眞を自由に使はして貰ひたい。私共にあなたの小說を藝術品として批判する力はないが、あなたの作に新聞の三面記事的興味が多分にある……私共はそれを利用したい。』假令婦人倶樂部の編輯者がかういふ言葉を吐かないにしても、吐いたと同樣の手段を實際に取つたとしたならば、これ位松岡氏に對する侮辱はない、事實世界いづこを尋ねてもこの位大きな文學者に對する侮辱はあるまい。

私は決して單に婦人倶樂部に向つてのみ酷なるものでない。すべての婦人雜誌は三面記事的興味を中心として編輯されてゐる……この編輯態度位婦人の文化發達を阻害するものはない。如何となれば彼等の雜誌は、茶の間の雜談以上でない食後の漫談閑話以上でない山の神の井戶端會議以上でない。もとより婦人雜誌にも議論もある評論もあるが、それも三面記事的興味を離れての獨立的議論でない評論でない。毎月の婦人雜誌どれを見ても、そこに美容秘法の講釋がある、嫁入り前に知らねばならぬ心得が出てゐる。私は何もかういふものを掲載して惡いといふ倫理學者でない然し世界の一等國の婦人雜誌で、かういふ脂粉文字が出てゐるのを見たことがない。私は日本の婦人雜誌だけに一等國の雜誌であれと強ゐるものでないが、興味本位の婦人雜誌は百害あつて一利のない點を指摘したい。婦人雜誌のみに對してではないが、日本の雜誌編輯者は雜誌と新聞との區別を了解して居らないやうに思はれる。新聞に一日の生命があるとすると雜誌には一個月の生命が無ければならない。見渡した所すべての日本の婦人雜誌は新聞の三面記事を追つてゐる……年の若い尼さんが髮をのばして男と墮落したと新聞に出る、女詩人が亭主を捨て社會主義者と共同生活を營むと新聞に出る、女郎が逃げ出して救助を女小說家に乞つたと新聞に出る、婦人雜誌はそれを眞似て翌月の雜誌にそれを取扱ふ。かうなつては婦人雜誌の婦人向上發達も聞いてあきれざるを得ない。實際今日の婦人雜誌の價値は毎晩のラヂオ以上のものでない。

私はしばしば婦人雜誌の編輯者と語つて私の云ひたいことは彼に語つた。私はかう彼にいつたことがある、『いつぞや死んだ伊太利生のゲュセは現存する凡ての劇場を燒いて始て舞臺藝術が始まるといつてゐる。この言葉は日本の劇場藝術に當篏められる。又婦人雜誌にも當篏められる。實に今日のすべての婦人雜誌はない方がいい。其等のものが皆な洗れて仕舞つた時始めて眞實の婦人雜誌が生れると云へる。(私は本月號の某婦人雜誌をいぢくり乍ら)この雜誌でも今月の出版になつてゐるが、これを一年前のものとしても乃至は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五箇月後のものとしても差支へないであらう婦人雜誌の中味に變化は無用だ進歩は無用だすべての編輯者は前の雜誌をひつくり返して筆者の名前と表題を一寸變化させて、年々歳々定まつた通りの編輯振りを追つてゐるに過ぎない。事實婦人雜誌社では立派な編輯者よりは立派な廣告書きが入用だ。」

然らばどうして理想的婦人雜誌を作ることが出來るか。私はすべて今日の婦人雜誌を燒いて仕舞つてからの相談にしたいといふのが私の主張であるが、止むを得ざれば婦人雜誌の出版者が互に廣告を協定して、全然中味の文章で競爭するやうにすることも意味が有らうと思ふ……すると人は私にいふ、『そんな協定が出來る位なら今日もつと立派な婦人雜誌の一つや二つは有る筈だ。』

婦人雜誌は何處へ行く

小牧近江

これだけは確かである。一般に婦人雜誌は廉價である。それには非常な努力を拂つてゐる。が、それだからといつて、一二の經營者の豪語するやうに、今日の婦人雜誌は日常生活に缺くべからざるものだとか、良婦の必讀すべきものだとかいふ獨斷には輕信することの出來ない幾多の理由が存在する。

斯界の最高權威として、その人格自他ともに許されてゐる

とはつきりしておかう――がかつて佐藤春夫氏との間に何か稿料のことで應酬があつたその文章のなかに、『今日の婦人雜誌は日常生活に缺くべからざるもので、その量からいつてもそこへらの片々たる同人雜誌などと較べものにならない。嘘だと思つたら、『主婦の友』なりなんなりを手にして見なさるがいい』と、いふ意味の科白があつたんで、いささかむかついたのがこつちだ。

片々たる同人雜誌のなかには常に迫害と困窮と闘つて今日をなしつつあるものもある。そして、それら同人雜誌と婦人雜誌のいづれが必讀の價値あるか否かは必ずしも片々が問題でない筈である。

とにかく、僕は仰せに從つて、婦人雜誌のどれもこれもを手にして見たのだ。ところがそのなかに、『姦通をしたが』姦通罪を構成せずに濟まされる懇切ていねいを極めた相談雜誌があつた。、、!

勿驚それでたつた五十錢。

これこそ日常生活に缺くべからざる良婦必讀の書、價はたつた五十錢、『姦通をしたが』も知られる。『嘘だと思つたら手にして見なさい。』

誌名は　　　、、、、、、、、、、、、、、、嘘なら』　　　　りの『新潮』に發表されてゐる筈である。

ここで、僕は考へた。何故『改造』の『犧牲』は禁止にならねばならぬか？『告白』は創作でない、從つて、無檢閲ですむといふのか？

×××個人に對し何ら私怨のあらう筈はないところの僕は事を好んで『　　　』、、あたる必要を認めない。が、僕は聞いてゐる。

『　　』他社の企て及ばないかくまでの名篇揃なのは偏にこれ、、さん初め信ずるところの、、、の德望の餘光だ。』と、そんな風に僕は聞いた、かどつかの廣告で讀んだやうな氣がする。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、かうした德望の雜誌までその數多い有益な記事のなかに盛澤山のその上殊さらにあした『告白』物を挿入しなければ男子の讀者を失ふのであらうか？　といふことを思へば、告白もの乃至は相談ものの批判の批判こそ婦人雜誌の將來の發展過程に何等かの意義を與へさうな氣がされるのだ。

今日の婦人雜誌の中には厭味たつぷりな長篇があるからといつて男子の見さげるやうなそれ程かく低級なものでない。下劣な挑發的記事さへ拔けば、子供のことや、季節病のことや、ことに原稿稼きであるわれわれ蟄居生活者に取つて一日の樂みである食物のことなど實際に有益なことが多い。但し、味噌と鹽と貯金とで親子五人の生活費百圓などの家計案奬勵費など見るだけで、早く死んだ方がいいやうに思へてならない。あれだけはさう何度も繰返させられると五十錢で一家全體がゆううつになる。それよりはもつと焦さない御飯の炊き方とか、甘美しい味噌汁のつくり方など毎朝の肝心なことを敎へてもらひたい。何故なら、この頃の男子は臺所にかけて、女子以上である。ことに女學生あがりの奧さん達と來ては折詰料理しか知らない！　男らしくもない話だが、臺所のついでにいつておく第一時間的にいつても何からいつても萬事に日本婦人の非科學的能率におどろく。臺所改善記事とともにかうしたことも今少しく研究してもらひたい。

元來、婦人雜誌の今日のやうな發展を見たのは、『長篇』のお蔭によることも多いだらうが、他の男子の理論の雜誌とちがつて、實際上役に立つことの記事が多いからだ。即ち實用的な普遍性をもつてゐるからにあると思ふこゝがおひおひ婦人雜誌が週刊にまで進み、男子にも多くの讀者をもつだらうところだ。ことに、年寄のゐない、そして子供のある家庭の父親において。

經營と讀者心理を知らないで、いふのも冒險だが、今後の婦人雜誌は一面ますます專門化するに餘儀なくされるだらう。今でも『婦人公論』の社會批判的であり、『女性』の藝術趣味的であるといふ風に流行及社交本位の雜誌も出て來るだらう。が、これらはむしろ高級な部類に屬するもので、一般を掴まへる點からいつて生命のあるものはまだまだ『主婦の友』とか、『婦女界』とか『婦人世界』とかいふ實用雜誌の向上でないだらうか。その他『婦人の友』、『淑女畫報』といふ極めて穩着派もあるが、前者に比してこれら遙に實踐的でない。一層中產階級向きに進展するだらう。

さて、今後の新らしい婦人雜誌の使命は？

使命といふ點から僕は二つのことを考へる。

その一は性敎育といふことである。舊習にとらはれない性道德の確立である。性問題はとかく挑發的に書かれすぎた。この點『婦人世界』など大に力をそそいでゐるらしいが、あれでも廣告などの點で充分不純らしく取られ勝ちだ。

『まあ厭らしい！』

性問題をさうした觀念から先づ第一にぶつこはしたいものだ。その意味で、かつて小酒井博士が『婦人公論』に於てなしたあの講座が忌違に觸れたなど當局の眞意がわからない。職業婦人社の『婦人運動』など率先してもつとこの點に力を入れてもらひたいものである婦人解放の點からいつても性敎育は或は政治運動以上な問題だと思ふからだ。

次ぎに、消費組合運動の啓蒙及び指導である。日本のやうに物資にも食糧にもしかして生活難にもすべてに行詰つた國は國民經濟からいつて何よりもこの點に力をいたすべきである。そして、消費組合運動は家庭から起つて初めて效果がある。さしあたり婦人雜誌の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

代理部などをもう少し活用させたら固定讀者中心の一大全國的消費組合網の出來ないものでもあるまい。社會的意義からそれを實行するの勇者なきか。

最後に、時々今回のやうに「改造」社あたりが婦人雜誌の總評乃至合評をやつてもらひたいもの也。婦人雜誌は一面あまりに無視されてゐる。さうして經營者のいへないことをどしどし讀者にも訴へることが、雜誌社のむしろ欣ぶところではあるまいか。

序に、當局に一言したいのだが。日本では思想雜誌や文藝雜誌さへ檢閲してゐればそれでいいんですか?

婦人雜誌など大人の讀物だからまだいいとして、この頃の少女雜誌の甘つたるさ、あれやどうです。世のお父さま並にお母さま達、娘さんたちの雜誌をご覧なさいましたか?赤面したいやうな文章の連續です。あなた達がお若かつた時、あんな言葉はいはなかつた筈です。いへなかつた筈です。

それから幼年雜誌はといふと、洋服でない子供がまづない。日米戰爭がもう始まつてゐます。だから、お上の御許可もなく日本帝國に『キング』が生れたり、『プリンス』が生れたりするんです。默ていふ、內務省のお役人さん、思想雜誌や文藝雜誌さへ禁止してゐれや、それでいいんですか?

雜誌記者達の自覺と協力を望む

秋田雨雀

日本の婦人雜誌には困つたものだ。「兒童雜誌」と「婦人雜誌」の問題は可なりな重大問題で、もつと早くから教育家や思想家達によつて叫ばれなければならない筈だと思ふのに、却つて教育家や思想家達は平氣でそれに寄稿してゐるのを見ると、その人達はそれ等のものを是認し奬勵してゐるものと見て差支ないと思ふ。兒童雜誌のことはこゝでは言はないとして、今日日本の婦人雜誌のことを少し考へて見やう、同人雜誌の一二種のもの、思想運動の機關雜誌を除いた十幾種ほどの婦人雜誌はたゞ一二を除いては極端な營業本位の娯樂雜誌といつていゝ。十幾種ほどの婦人雜誌の中で、現在では、出版者の意思の多少ながら働いてゐるものはキリスト教風の指導方針を示してゐると思はれる「婦人の友」一つといつていゝ、三四年前までは「婦人公論」は藝術的自由主義を標榜してゐたやうに私には思はれたが、近來は全くそれさへ捨てゝ、如何にして他の營業雜誌の後を追はんかと苦心してゐるやうに感ぜられる。婦人世界、婦女界、主婦の友、婦人倶樂部はいふまでもなく純營業的婦人雜誌ともいふべきもので、もしこれ等の雜誌に意思があるとすれば、それは如何にして多く賣らうかといふことであらう。多く賣らんがためには、雜誌は何んなことでもするのである。明かに代作だといはれてゐる作家の原稿でも多額の金で買ひ入れなければならない。前月の初旬に翌月の雜誌を店頭に飾らなければならない。くだらない女の顔を表紙に麗々しく刷らなければならない。廣告だか記事だか判らないやうな原稿を澤山作らなければならない。三面記事を擴大したやうなストライキングな出來事を挾まなければならない。一般の婦人には何等關係のない貴族や富豪の娘達の結婚の寫眞を出さなければならない。これが今日の婦人雜雜の内容をなしてゐるのである。

島崎藤村氏がフランスから歸つた時、日本から送られる子供雜誌や婦人雜誌は一寸机の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

上に載せて置けなかつたといふ意味のことをいつてゐられたのを私は記憶してゐる。外國の婦人雜誌や娛樂雜誌も隨分くだらないものだとは思ふが、日本の婦人雜誌はアメリカの婦人娛樂雜誌の最も惡い點だけを模倣したやうな觀がある。この傾向は大震災後一層極端になつて來たやうに思はれるのは一般の反動傾向に影響されたものとも見ることが出來るであらう。然し一般の反動傾向はやゝ正調に歸してゐるのに兒童雜誌や婦人雜誌は益々この傾向を押し進めて行つてゐる。兒童雜誌の軍國主義的傾向なぞは却つて大戰前は屢論議されたに拘らず今日では全く問題にされてゐない。婦人雜誌の營業主義的な自由競爭は資本主義的社會に於いてさへ最も醜い現象とされてゐるに拘らず、これに對する何等の對策も講ぜられてゐない。婦人雜誌の大部分を見てゐると、へたなデパートメントストーアを聯想させられるところに、今日の婦人雜誌の社會的存在理由があるらしく思はれる。

　思想的な方面は別として、婦人雜誌の存在の最も目障りなことは何といつても期日前發賣の惡弊である。これは一般雜誌に就いてもいはれることであるが、何とかして發賣期日を一定してもらひたいものだ、少くとも廿五日過ぎにするとか合議的に決定してもらひたい。或は演劇の上演時間の制限をしたやうに法令によつて一定させるのも一の方法であらう。私達の知つてる範圍でも各雜誌社には可なり有力な記者がゐる筈だ、然しその人達の意思は今日少しも現はれてゐない、これはその人達の社會的自覺と勇氣の缺乏から來てゐると私には思はれる。將來の婦人雜誌は記者達の自覺と協力によつて左右されることが多いであらう。（二、九）

婦人雜誌管見

平林初之輔

婦人雜誌が、商品として日本ほど素晴らしい成功をおさめてゐる國は外國には少ないやうに私は思ひます。それには色々理由があらうけれども、その第一は、日本の特殊の家族制度のためであらうと思はれます。日本では主婦のつとめといふ專門的な家庭內の仕事が非常にはつきりしてゐて、その分量が甚だ多い。したがつて、婦人雜誌の讀物の第一位を占めてゐるのは、育兒、病氣に關する心得、料理、裁縫、編物、生花等のやうな手藝、禮儀作法といつた種類の記事であります。以上のやうな事柄は、日本のやうな家族制度の國では、悉く主婦が一通り心得てゐる必要のあるものであります。

　次に、同じく日本の特殊の家族制度と結びついて、舅、姑、其の他の家族と新しく結婚した夫婦とか同じ家屋の下に生活しなければならぬ必要上、又、日本では婦人の地位が著しく先進諸國に比して低い關係上、樣々な悲劇が到るところに見出されます。そこで凡ての主婦及び主婦たらんとする人々は、暗い、悲劇的な境遇に多かれ少かれさらされてゐないものはないので、さういふことを描いた讀物は彼女たちの共鳴を呼び易い。これが、婦人雜誌に各種の告白物が歡迎されてゐる所であらうと思はれます。

　第三に、今日の日本の婦人の知識の程度は何といつても男子のそれよりは非常に低い。從つて彼女たちは一般的な書物に親しむひまも力もない。日本の女で、雜誌以外の書物を讀んでゐる人は極く稀であるといつてもよい位です。茲に、婦人雜誌といふ獨得な讀物の必要が生じて來る根據を求めることもできませう以上のやうな理由が、今日二三の婦人雜誌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をして雜誌界の覇王たらしめてゐるのであると私は思ひます。

ですから、今日多くの發行部數を有してゐる婦人雜誌を見ると、今日の婦人の要求するものが、實に隅から隅まで配列してあるのに私は感心します。商業上の見地だけからいへば、今日のところでは、到底、主婦の友や婦女界以上の婦人雜誌をつくることは不可能だらうと思はれます。勿論それ等と同じものを安くつくつてダンピングによつて競爭することはできませうけれど、それ以外に、實質のかはつたもので、あれ以上の成功を收めることはむづかしからうと思はれます。

少し毛色のかはつた婦人雜誌では、「女性」「婦人公論」の二つが今日ありますが、「女性」は、漸次婦人雜誌としての特色を保存することができないで、名前は女性でも實質は一種の文學雜誌にかはつてゐますし、「婦人公論」は、婦人雜誌としての特色を維持してゆくためには、漸次、普通の婦人雜誌と妥協して、それと同じやうな讀物を採擇してゆく必要に迫られてゐるにやう思れはます。

このことは、婦人雜誌が、經濟的に成功をおさめるためには、主婦の友型でゆくより外に道のないことを示してゐます。婦人がもつと高級な讀物や、一般的な智識を欲するならば、特にそれを婦人雜誌の形で與へる必要はありません。さういふ要求に答へるためには一般の雜誌や書物で澤山です。「女性」の現狀がこのことを示してゐます。「婦人公論」の最近の傾向がこのことを語つてゐます。

若い婦人の中には、「女性」や「婦人公論」などにも不滿足を感じてゐる人々が少くはないでせう。併し、かやうな女性の數は、より高級な婦人雜誌を商業的に成立せしめる理由としては甚だ薄弱です。何故かといふと之等の人々は、その要求を滿すべき手段を必ずしも婦人雜誌に求めなくともよいからです。假に、思想問題、文學藝術、政治經濟、科學哲學等の方面のより高度の知識を要求するならば、それ等の知識は別箇の婦人雜誌に要求するよりももつと手つ取り早く得られる方法があるのですから。そして、要するに程度の高い婦人といふのは、婦人としての問題ばかりでなく一般の社會人としての教養をより多分にもつてゐる人といふことに外ならんのですから、これらの婦人に對して、婦人雜誌は何等なすべき手段をもたぬでありませう。

そこで私は、婦人雜誌は、あまり高級な程度のものでは發展する餘地もなく、且つさうした雜誌の存在は必要でもないと思ふのであります。たゞ、今日の婦人の現實の狀態にのみ媚びないで、これをより高い地位にひきあげるための記事を少しづゝ點綴してゆく位がせい／＼であります。

たゞ一つ、恐らく婦人雜誌の今後示すであらう傾向は、以上のやうな意味で程度が高まることではなくて、内容が分化してゆくだらうといふことです。即ち、娯樂的な記事は、すつかりその方の專門の雜誌が分擔し、家事流行、手藝衞生等の實質的な讀物が主として婦人雜誌の「正道」をふんで殘つてゆくだらうと思ひます。特に「流行」といふ點をねらうのが商賣的には一番かしこいでありませう。西洋諸國の婦人雜誌の今日辿つてゐる段階はこの邊であるやうに思はれます。日本の婦人雜誌はこの分化前の狀態にあるのです。これから新に婦人雜誌を經營しようといふ人は、この邊をねらふべきであつて、よく人の口にする「高級は婦人雜誌」などは、全く不用であると私は思ひます。それは「高級な男子の雜誌」と同じ程無意味な言葉であります。但し婦人の常識の限界が廣まつてゆくにつれて、讀物の範圍を多少ひろげてゆくことは必要でありませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



エッフェル塔の結婚者

(假面舞踊劇の臺本)

ジャン・コクトオ作
岩田豊雄譯

人物(登場順)

PHONO 1
〃 2
駝鳥
狩獵家
エッフェル塔支配人
寫眞屋
花嫁
花婿
姑
舅
將軍
第一の雌蝶(結婚式侍女)
第二の雌蝶(同)
第一の雄蝶(結婚式侍童)
第二の雄蝶(同)
自轉車乘りの女
少年
トルウ・ギイルの海水浴女
獅子
蒐集家
畫商
第一の電報
第二の電報
第三の電報
第四の電報
第五の電報

音樂の訓序

一 序曲 ジオルジ・オウリック作
二 結婚式行進曲(登場)ダリウス・ミラウ作
三 將軍の演説 フランシス・プラン作
四 トルウ・ギイルの海水浴女 フランシス・プラン作
五 殺戮(走法) ダリウス・ミラウ作

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

六　電報のワルス　ゼルメエン・タイユフエル作
七　葬列行進曲　アルチユウル・オネゲル作
八　ガドリイル　ゼルメエン・タイユフエル作
九　結婚式行進曲（退場）　ダリウス・ミラウ作

装飾

エッフエル塔の第一階。
正面に巴里の鳥瞰。
右手第二プランに等身大の寫眞器。
暗函は樂屋へ至る廊下となる。
寫眞器の前部が開き人物の出入に任す。
第一プランの舞臺兩端に半ば額縁にかくれ、二人の役者各々發聲機に扮し、函は體を包みラッパは彼等の口に通ず。それらの發聲機が各役の臺詞を述べ脚本を說明する。
彼等はすてきな大聲で速く喋りシラブルを適確に發音する。
舞臺は描寫を追驅けどん〳〵演伎する。

1及び2は二基の發聲機(phono)の番號。

1　諸君ハえつふえる塔ノ第一階ぶらつとほーむニイルノダ。

2　おや！　駝鳥ダ。舞臺ヲ横切ル。退場スル。今度ハ狩獵家。彼ハ駝鳥ヲサガシテイル。頭ヲアゲル。何カ見テイル。鐵砲ヲ肩ニツケル。發砲。

1　大變。電報ダ。
（大きな電報の青紙が日覆から落ちて來る。）

2　爆音ガえつふえる塔ノ支配人ノ目ヲ醒マシタ。彼が出テクル。

1　おおお、モシ旦那、貴方ハ狩獵ヲヤルツモリナンデスカ？

2　僕ハ駝鳥ヲ追驅ケテ來タンダ。彼奴ガえつふえる塔ノ鐵骨ニ引掛ツタト思ツタカラネ。

1　ソシテ貴方ハ私ノ電報ヲ殺シチマツタ。

2　僕ハソノ積リジヤナカツタ
〔君のエッフエル塔はウエファースの蒸ひ燒型さ。おれはあの駝鳥を何處までも追驅けてやるから。〕

1　對話ノ終リ。

2　今度ハえつふえる塔ノ寫眞屋ダ。彼ハ喋ベル。何ト云ツテルネ？

1　貴方ハモシヤ駝鳥ガ一疋步ヒテタノ御見カケニナリハイタシマセンデセウネ？

2　見タトモ！　見タトモ！　僕ハソレヲ探シテルノダ。

1　私ノ寫眞機ガ狂ツチマツタト思ツテ下サイ。普段私ハ「動ひちやいけません、なかゝら鳥が飛出しますよ」ト云フノデス。ソレハ小チヤナ鳥ノコトナンデスガネ。今朝私が一人ノ御婦人ニ「小鳥が飛出しますよ」トヤツタラ駝鳥が出チマツタンデスヨ。ダカラ私ハ其奴ヲ探シテマタ器械ノ中ヘ入レチマワナクチヤ。

2　紳士淑女諸君。舞臺ハ緊張シマス。何トナレバえつふえる塔支配人ハ突然彼ノ許ニ宛テラレタ電報ヲ受ケマシタ。

1　彼ハソレヲ開封スル。

2　「エッフエルトウシハイニンヨ、ケツコンシキノヒルメシノセ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

キヲトレ」

1 併シ此電報ハ死ンデイル。

2 死ンダレバコソ皆ガ理解スルノダ。

1 早ク！ 早ク！ スグてえぶるノ支度ヲスルノダ。君ニ（註、狩獵家に對してなり）罰金ハ勘辨シテアゲル。ソノ代リえつふえる塔かふえノぼういニナリ給へ。寫眞屋サン、君ノ場所へ！

2 彼等ハ卓布ヲカケマス。

1 結婚式行進曲

2 行列。

（結婚式行進曲。犬芝居の犬のやうに一對宛登場してくる結婚式の人々を、二個のホノが紹介する。）

1 花嫁ハ小羊ノヤウニ優シイ。

2 舅ハくれじゆすノ如ク金持ダ。

1 花婿ハ心臓ノ如ク美シイ。

2 姑ハ模擬貨幣ヲ偲バセル。

1 將軍ハ雌鷺鳥ノヤウニ間抜ケダ。

2 御覧ヨ。先生雌牛ノ御乘馬みらべるニ乘ツテルツモリダゼ。

1 雄蝶等（結婚式侍童）ハ土耳古人ノ如ク強イ。

2 雌蝶等（結婚式侍女）ハ薔薇ノヤウニ新鮮ダ。

えつふえる塔支配人ハえつふえる塔ノ光榮ヲ感謝シタ。彼ハ人々ニ巴里ノ鳥瞰圖ヲ見セテイル。

2 私は眩暈ヒガスル。

（支配人と狩獵家は皿がその上に置ひてある長いテーブルを運んでくる。卓布は床まで達してる。）

1 將軍ガ叫ブ。御席へ、御席へ！

ソシテ結婚式ノ人々ガてえぶるへ就ク。

2 てえぶるノ一側ハ見物ニ見エルヤウニナツテイマス。

1 將軍ガ立上ル。

2 將軍ノ演説。

（將軍の演説は管絃樂で。彼は身振りするのみ。）

1 一同感激シマシタ。

2 演説ノ後デ將軍ハ彼ガ亞弗利加デ一杯喰ツタ蜃氣樓ノ現象ニ就テ物語リマス。

1 我輩ハおうまある公ト一所ニばいヲ喰ツタコトガアツタ。ソノばいハ蜂ガ一パイタカツテイタンダ。我々ハソレヲ追拂ホウトシタガ駄目ダツタ。ツマリソレハ虎ダツタンダ。

2 何デスツテ？

1 虎ダ。彼奴等ハ數哩先キヲ徘徊シテタノダガネ。蜃氣樓ハばいノスグ上ノ方へ出テイタノデ我々ハ蜂カト思ツタノダ。

2 將軍が今年七十四だト思フモノガアルカネ。

1 ダガコノ半ずぼんノ自轉車乘リノ別嬪サンハ？

（女自轉車乘リ登場。彼女自轉車から下りる。）

2 （自轉車乘りの聲で）

皆サマ御免アソバセ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

1 奥サン何御用デイラッシャイマス？

2 しやつうヘマイリマスニハコレデヨロシウゴザイマセウカ。

1 ハイ、奥サマ。電車路ニ沿ツテオイデナサイマシ。

2 女自轉車乘リニ返事ヲスルノハ將軍ナンデスヨ。將軍ハ蜃氣樓トシテ彼女ヲ認識シタンデスカラネ。

(女自轉車乘リ乘車退場)

1 紳士淑女諸君。我々ハ恰モ茲ニ蜃氣樓ノ證據ヲ見マシタ。ソレハえつふえる塔ニモ屢々現レマス

アノ女自轉車乘リハ現實ニ於テしやつうノ街道ヲ走ツテイルノデス。

2 コノ教訓的ナ道草ノ後デ寫眞屋ガ罷リイデル。何ト云ツテルネ？

1 手前ハえつふえる塔ノ寫眞屋デゴザイマス。皆サマノ御寫眞ヲトリマセウ。

1及び2 ヨシ！ ヨシ！ ヨシ！ ヨシ！

1 御整列願ヒマス。

(結婚式の人々テーブルの後方に並列する。)

2 皆サンハ駝鳥ノ狩獵家ヤえつふえる塔支配人ハ如何シタンダト御思ヒデセウ。狩獵家ハ各階ニ亘ツテ駝鳥ヲ探シ、支配人ハ狩獵家ヲ追驅ケ傍ラえつふえる塔ヲ支配シテマス。曠職ノ譏リハアリマセン。えつふえる塔ハのうとる・だむトオナジク、一ツノ世界デアリマス。ソレハせーぬ河ノ左岸ニアルのうとる・だむデス。

1 ソレハ巴里ノ女王ダ。

2 ソレハ巴里ノ女王デアッタ。シカシ今ハ電話交換手ダ。

1 實ニ生キネバナラヌ。

2 動イチヤイケマセン。笑ツテ下サイ。此處ヲヨク視テ。鳥が飛出シマスヨ。

(トルウヰイルの海水浴女が飛出す。彼女は海水着一枚で球網を持ち、その中には心臓が入つて居り、腰に魚籃を吊るす。着色照明。結婚式の人々空へ手をあげる。)

1 おお！ 何テ綺麗ナ繪葉書ダ！

(海水浴女のダンス)

2 寫眞屋ハ愉快ドコロジャナイ。今朝カラコレデ二度彼ノ寫眞機ハ彼ヲ天繰返シタ。」彼ハ海水浴女ヲ器械ノ中ヘ入レ戻サウト試ミル。

1 マヅマヅ海水浴女ハ器械ノ中ヘ這入ツタ。寫眞屋ハ暗函ヲ海水浴小屋ダト彼女ニ思ハセタノデアル。

(ダンス終る。寫眞屋はタオル地浴衣を彼女の肩へ投げてやる。彼女は見物にお辭儀と投キッスをして寫眞機の中へ歸る)

1及び2 ぶらぼを！ ぶらぼを！ モオ一度！ モオ一度！ モオー一度！

1 モシ俺ノ狂ツタ寫眞機ガコンナ藝當ヲシテクレルト前カラ知ツテタラ、俺ハ見世物ヲコシラヘタノニナア。あああ！ ホントニアノ「小鳥が出ます」トイフ呪ハレタ言葉ヲ云フ度ニ、俺ハ慄ヘチマウ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゼ。誰モ何ガ飛出スカ知ッテル奴ハナイ！ ソレラノ神秘ハ俺ニヤ分ラナイモンナンダカラ、一ツ興行師ノヤウナ顔ヲシテヤロウカナ。

（彼はお辭儀する）

1 及び2　ぶらぼを！ ぶらぼを！ ぶらぼを！

2　看客諸君。

皆サマヲ滿足サセタイ私ノ强大ナル欲望ニモ拘ラズ、時間ノ制限ハ「とるうびる海水浴女」ノ第二回演出ヲ妨ゲマス。

1 及び2　ヤレ！ ヤレ！ ヤレ！

1　寫眞屋ハパッヲ合セルタメト、成功ヲ得ンガタメニ噓ヲツキマス。

彼ハ時計ヲ見ル。

モウ二時ダ！ アノ駝鳥奴マダ歸ッテコナイ。

2　結婚式ノ人々ハ再ビ繪ノ型ニナル。

奥サン、アナタノ左足ヲ將軍ノ拍車ノ上ヘ乘セテ下サイ。旦那、花嫁ノ紗衣ヲ貴方ノ髭ヘ引掛ケテ下サイ。結構。モウ動イチヤイケマセン。一。二、三。的ヲ良ク觀テ。鳥が飛出シマスヨ。

（彼は握ゴムを壓す。巨きな少年が飛出す。彼は頭上に綠色の紙の王冠を頂く。手に優等賞の本と籠を持つ。）

1　今日ハ、オ母サン。

2　今日ハ、オ父サン。

1　ソラ又々寫眞ノ危險ノ一ツ。

2　コノ少年ハ結婚式ノ人々ノ肖像ダ。

1　マア云フコトヲ聽キ給ヘ。

2　ソレハ彼ノ母親ノ肖像ダ。

1　ソレハ彼ノ父親ノ肖像ダ。

2　ソレハ彼ノ祖母ノ肖像ダ。

1　ソレハ彼ノ祖父ノ肖像ダ。

2　彼ノ口ハ我々ニ似テル。

1　彼ハ我々ノ眼ヲ持ッテル。

2　我ガ親愛ナル父君母君、コノ良キ日ニ於テ、私ノ愛ト尊敬ノ全テノ希ヒヲ受ケ賜ヘ。

1　同ジ挨拶ヲ別ニモ云ヘルネ。

2　尊敬ト愛ノ私ノ全テノ希ヒヲ受ケ賜ヘ。

1　彼ハモット短カイ挨拶ヲ覺ヘタラ良カッタノニナ。

2　尊敬ト愛トノ私ノ全テノ希ヒヲ受ケ賜ヘ。

1　彼ハ士官ニナルダロウ。

2　建築家ダ。

1　拳鬪家。

2　詩人。

1　佛蘭西大統領。

2　勇マシイ坊チヤン。

1　彼ハ籠ノ中デ何ヲ索ガシテルノダ？

2　毬。

1　毬ヲ如何シヤウト云フノダネ？ 何カ悪イ事ヲ企ンデキルヨウダ。

2　彼ハ結婚式ノ人ヲ殺戮スルノダ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

1 彼等ハ諸君果ガ欲シクテ彼等ヲ殺戮スルノダ。

(少年は結婚式の人々を攻撃する。(毬をぶつける)人々は叫び聲を揚げて混亂。)

2 助ケテ！

1 彼奴ヲ育テルノニ我々ハドレダケ骨折ッタカ知レナイノニ。

2 我々ノ全テヲ犠牲ニシタノニ。

1 哀レナ者ヨ！ 私ハ彼ノ父ダ。

2 オ待チヨ！ 考ヘ直シテオクレ。

1 オ前ヘ、オ祖父サンオ祖母サンヲ可哀相ト思ハナイノ？

2 汝ハコノ腕章ニ尊敬ヲ持タヌカ＊ (將軍)

1 ドン！ ドン！ ドン！

2 私ハオ前ヲ勘辯シテ上ゲルヨ。

1 呪ハレテアレ。

2 毬が一ツモ無クナッタ。

1 結婚式の人々ハ殺戮サレタ。

2 寫眞屋ハ少年ノ後ヲ追驅ケル。彼ハ鞭デ少年ヲ脅カス。ソシテ函ノ中へ跪レト命令スル。

1 少年ハ立去ル。彼ハ吠ヘル。地團太ヲ踏ム。彼ハ「彼ノ生活ニ生キタイ」ノダ。

2 私ハ私ノ生活ニ生キタイ！ 私ハ私ノ生活ニ生キタイ！

1 ダガ又他ニ騒動が持上ッタ？

2 えつふゑる塔支配人ダ。何ト云ッテル？

1 少々ゴ靜肅ニ。電報デスカラ怖ガルコトハアリマセン。

2 父サン！ 父サン！ 電報。

1 大キナ電報ガアリマス。

2 結婚式ノ人ハ立上ル。

1 人々ハ

2 開ク

1 飛ブノヲ

2 一疋ノ

1 蠅ノ。

2 えつふゑる塔支配人ハ少年ニ向ッテ自分ガ生キタ電報ヲ呼寄セルタメニ死ンダ新聞ヲえつふゑる塔ノ中心へ引鈎ケテオイタコトヲ示シマス。

1 ツカマヘタ。

2 ツカマッタ電報が舞臺へ落チテ喧嘩スル。結婚式ノ人ハソレヲ追驅ケ飛ビカヽル。

1及び2 そらそら、私ハ一人摑マヘタゾ。私モ。助ケテクレ！ 私ヲ！ 彼女ハ私ヲ噛ミツク！ シッカリ摑マヘロ！ シッカリ摑マ

2 電報等ハ靜カニナル。彼女等ハ一列ニ並ブ。中デ一番美人ガ前へ進ンデ、擧手敬禮ヲスル。

(寄席の狂言廻しの聲で)

1 シカシ貴方ガタハ一體誰方？

2 妾ハ無線電信デゴザイマス。姉妹ノ鷗ノ鳥ノヤウニ、妾ハ紐育

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

カラ參リマシタ。

1 （寄席の狂言廻しの聲で）紐育！ 戀ト逆光線ノ都會。

2 音樂始メ！

（電報等のダンス）

（電報等の退場）

1 婿ドノ、御禮ヲ云ヒ給へ。えつふえる塔ヘ來ヤウト思ヒツイタノハ誰ダツケネ！ 革命祭ニ結婚式ヲ擧ゲヤウト考ヘツイタノハ誰ダツケネ？

2 少年ガ地團太ヲ踏ム。

1 オ父サン！ オ父サン！

2 彼ハ何ヲ云ツテル？

1 僕ハ將軍ト一緒ニ寫眞ガトリタイ。

2 私ノ將軍ヨ、私共ノ小サナじゆすたんノ御願ヒヲ聞ヒテ下サイマセウネ。

1 ヨロシイ。

可哀サウナ寫眞屋サン。

滿腔ノ悲シミヲ以テ彼ハ乾板ヲ入レル。

2 少年ハ將軍ノさあべるノ上ニ跨ツテ、將軍がじゆうるえるぬノ本ヲ讀聞カセテルノニ聞入ツテル風ヲスル。

2 動イチヤイケマセン。ヨロシイ。鳥ガ飛出シマスヨ。

（獅子が飛出す）

1 神ヨ！ 獅子ダ。

寫眞屋ハ器械ノウシロニ隱レル。結婚式ノ人ハ皆えつふえる塔ノ鐵骨ニ攀上ル。獅子ハ將軍ヲ狙ツテル。何故ナラ彼ダケハ動キモシナイ。ソシテ彼ハ語ル。何ヲ云ツテルカ？

2 怖ガツテハイケン。えつふえる塔ニ獅子ガイルワケハナイ。即チコレハ蜃氣樓ヂヤ、單純ナ蜃氣樓ヂヤ、蜃氣樓トハ砂漠ノツク噓ノヤウナモノヂヤ。しやつうヘ行ク道中ニ女自轉車乘ガ居タヤウニ、コノ獅子モ亞弗利加ニ居ルノヂヤ。コノ獅子ガワシヲ觀ル、ワシモ彼ヲ觀ル、シカシ我々相互ノ關係ハ反映ニ過ギヌノヂヤ。

1 人々ノ疑惑ヲ一掃スベク、將軍ハ獅子ニ近寄ル。獅子ハ咆哮ヲ發ス。

2 將軍ガ逃出スト獅子ハ追驅ケル。

將軍ハてえぶるノ下ニ隱レルト獅子モ彼ノアトニ見エナクナル。

1 一分後、ソレハ一世紀ノヤウニ思ハレタガ、獅子ハ卓布ノ下カラ出テ來タ。

2 桑原！ 桑原！ あアあああ！

1 彼奴口ニ何ヲ啣ヘテイルノダイ？

2 拍車ノ付イタ長靴一個。

1 將軍ヲ喰ベタ後デ獅子ハ寫眞機ノ中ヘ歸リマス

（喪の悲哀）

2 ああああ……あああア……

1 可哀サウナ將軍。

2 彼ハ實ニ快活ニ實ニ若々シイ性格ダツタ。コンナ死ヲ面白ガル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

コトヲ、彼ハモウ出來ナイノダ。本來ナラ彼ハ眞先キニ笑ヒダシテイルノニ。

1　將軍ノ葬儀。

（葬儀の行列）

2　男ハ御墓ニ向ツテ何カ云ツテル

1　サラバヨ、サラバ、舊ルキ友ヨ。

卿ハ軍職ニ就ヒテヨリ常ニ卿ガ位階ニ卓越セル智謀ヲ示サレキ。卿ノ最後ハ卿ノ職務ニ相應シキモノナリ。

我々ハ卿ガ猛獸ニ對シテ勇敢ニ、危險ニ對シテ冷淡、夫ヲ理解セントモセズ、理解セシ後モ唯一回ノ遁走ヨリ爲サヾリシヲ知ル。

最後ニ今一度、サラバヨ――否寧ロ再會ヲ期セン。何トナレバ卿ノ如キ性格ハ地上ニ人類有ル限リ永劫繰返サルベケレバ。

2　三時ダ！　駝鳥ハマダ歸ツテコナイ。

1　先生歩ヒテ歸ツテクル積リナンダロウ。

2　馬鹿ダネ。駝鳥ノ羽根グラヒ壞レ易イモノハナイノニ。

1　東西！

2　四班舞踏曲「えつふえる塔ノ結婚者」

演奏、佛蘭西共和國近衞兵

指揮ぱれす氏。

1　及び2　ぷらぼう！　ぷらぼう！

共和國近衞兵萬歳！

（カドリール）

（カドリールの終り）

2　ぷッ！　何テだんすダ。

1　御腕ヲ拜借。

2　寫眞屋サン。

三鞭酒ヲ一杯、御辭退ハイケマセンヨ

1　コレハ飛ンダ御親切デ、痛ミ入リマス。

2　騷グ時ニヤウント騷グサ。

時ニ私ノ子供ハ何ヲ云ツテルノダイ？

1　えつふえる塔ニ喰ベサシテヤルンだカラ麵麭ヲ買ツテオクレヨ。

2　ソレハ下デ賣ツテルンダ。降リテ行クノハ嫌ダヨ。

2　えつふえる塔ニ喰ベサシテヤルンダ。

時間以外ニ食物ハヤラナイノダ。

ダカラ鐵格子デ塔ガ圍ツテアルノダ。

1　えつふえる塔ニ喰ベサセルンダ。

2　イケナイツタラ、イケナイ。

1　結婚式ノ人ハ叫ビ聲ヲアゲル。何トナレバ駝鳥ガ現レタ。彼女ハえれべえたあノ中ニ隱レテイタノダ。彼女ハ他ノ潜伏處ヲ探シテイル。狩獵家ガ傍ヘユク。寫眞屋ハ機械ノ中ヘ入レチマイタイダロウ。

2　寫眞屋ハ駝鳥ト云フモノハ、頭ヲ隱シテヤレバ、人ニ見エナクナルト云フコトヲ思ヒ出シタ。

1　彼ハ自分ノ帽子ヲ彼女ノ頭ニカブセル。ソレハ時機ヲ得テイタ。

（駝鳥が散歩す。帽子頭にあれは人には見へぬこゝろ。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

2 狩獵家　貴方ハ駝鳥ヲ見カケマセンカネ。
1 及び2　否。我々ハ一向見カケマセンナ。
2　ソレハ奇妙。私ハ確カニ彼女が、ぷらつと・ほーむへ飛出シタト思フノダガ。
1　コトニヨルト貴方ハ波濤ヲ駝鳥ダト思ツタノデハアリセンカ？
2　否。海ハ凪デス。
トニカク寫眞機ノウシロニ隱レテ待伏セスルトシマセウ。
1　サウ云ツタト思ツタラスグ行ツタ。
2　寫眞屋ハ、忍ビ足デ駝鳥ニ近寄ル。彼ハ何ト云ツテル？
1　駝鳥ノ奥サン。
一刻モ猶豫ハ相成リマセン。御面衣ガアレバ彼奴ニ知レハ致シマスマイ。御忙ギアソバセ。辻馬車が待ツテ居リマス。
2　彼ハ寫眞機ノ蓋ヲ開ケル。駝鳥ハ隱サレル。
1　神ヨ、モウ安心ダ！
2　寫眞屋ノ幸福ヲ想像シテヤツテ下サイ。彼ハ喜悦ノ叫ビヲ發シテ居マス。
1　結婚式ノ人ハ彼ニ訊ネマス。
2　紳士淑女諸君。
マヅマヅ私モ安心シテ皆樣御寫眞ヲ撮ルコトが出來サウデス。私ノ器械ハ狂ツテイマシタガ、モウ調子が直リマシタ。オ動キニナツテハイケマセン。
1　併シ寫眞屋ノ邪魔ヲシニ來タ二人ノ人物ハ何ダイ？
2　ご覽。
人々ハ凝固マツタ。
結婚式ノ人ハ不動。
貴方ハサウ思ハナイカネ彼等ハ一寸……
1　一寸御菓子ミタイニ。
2　一寸花束ミタイニ。
1　一寸じよこんだミタイニ。
2　一寸傑作ミタイニ。
1　畫商ト近代的蒐集家ガ結婚式ノ人ノ前へ立止ル。畫商ハ何ヲ云ツテル？
2　手前ガえつふえる塔へ御案内申上ゲマシタノハ、誰方ヨリモ先キニ貴方樣へ、コノ獨創的ナ繪畫、「結婚式」ヲ御覽ニ入レタイタメデ。
2　蒐集家ハ答ヘテ曰ク
確カニ獨創的ダ。眼ヲツブツテイテモ。
1　ヘヘ？良ウゴザンセウ？原始的ナモンデゲス。
2　誰ノ作ダイ？
2　何デス？誰ノ？
コレハ貴方、神ノ最新作ノ一ツデゴザイマス。
2　落款ハアルカネ？
1　神ハ落款ヲシマセン
ヨク畫ヒテアル！何ト云フゴテ塗リ！御覽下サイ、コノ樣式コノ高貴、コノ生ノ歡喜！
人ハ葬式ダト云フカモシレナイ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

2 私ハ結婚式ダト思フガネ。—

1 御見損ヒデスナ。

コレハ結婚式以上ノモノデス。

コレハ結婚式ノ全テデス。

コレハ結婚式ノ全テ以上ノモノデス。—

コレハ大伽藍デス。

2 君ハ幾何ナラ賣ルネ？

1 コレハ非賣品デ——但シ貴方トるうぶる美術館ハ例外。

ヨゴザンス。サア元價デ貴方ニ差上ゲマセウ。

2 畫商ハ大キナ廣告札ヲ示ス。

（廣告札の數字は一〇〇〇〇〇〇法）

1 蒐集家ハ口說キ落サレルカネ？

彼ハ何ト云ッテル？

2 僕ハ結婚式ヲ買ホウ。

（畫商は廣告札を裏返へす。「賣約濟」と大文字で書いてある。彼はそれを結婚式の人に對して置く。）

畫商ハ寫眞屋ノ所へ出掛ケル。

2 廣告札ト一緒ニ、コノ結婚式ノ寫眞ヲ撮ッテクレ給へ。亜米利加ノ雜誌ニ掲載サセルツモリダカラ。

1、畫商ト蒐集家ハえつふえる塔ヲ立去ル。

2 寫眞屋ハ撮影ノ準備ヲスルト、ああら不思議、器械ガ口ヲ利キダシタ。

1 何ト云ッテル？

寫眞機 私ハ……私ハ……

2 御話シヨ、私ノ美シイ鴿ノ鳥。

寫眞機 私ハ將軍ヲ引渡シタイ。

2 將軍ハ自ラ引渡ス（註、軍隊降服の洒落なり）ノヲヨク御存知ダ。

1 將軍現ル。

眞蒼ホナ顏ヲシテイル。

長靴ヲ一本ダケ履ヒテル。

畢竟、彼ハ遠方カラ到着シタノダ。彼ハ沈默ヲ守ルベキ一個ノ使命ヲ果シテ歸ッテ來タノダト語ル。

結婚式ノ人ハ一向動ジナイ。

將軍ハ首ヲ垂レぶらあと・ほるむヲ横切リ人々ノ中ニ加ハッテ神妙ナ樣子ヲスル。

コハ寔ニ傑作蒐集家ニトッテ驚異ノ好題目。

傑作ハ限リナク、思ヒガケヌ細部ノ發見ヲ與フ。

1 寫眞屋ハ後退スル。彼ハ結婚式ノ人ノ形ガ面白クナイ。

實ニ若シモ人々ガ將軍ノ活キテ歸ッタコトヲ誹ルナラバ、將軍モ亦彼ガ買約ニ洩レタコト彼等ニ怒ッテヨイ筈デアル。

2 寫眞屋ハ人情ヲ解ス。

1 彼ハ喋ベル。何ト云ッテル？

2 さあ皆サン。

私ハ五マデ數ヲトリマスゼ。

的ヲ御覽ナサイ。鳥ガ飛出シマスヨ。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

1 女婿メ！
2 寫眞機ハ旨クユク。
1 平和ハ確保サレタ。
1、一！
（花嫁花婿は列を離れ舞臺を横切り寫眞機の中へ消へる）
二！
（舅姑の同じ仕草）
三！
（第一雌蝶雄蝶の同じ仕草）
四！
（第二雌蝶雄蝶の同じ仕草）
五！
（首を垂れた將軍少年に手を曳かれて同じ仕草）
えつふえる塔支配人登場。
1 彼ハめがほんヲ口ヘアテル。
閉場！　閉場！
1 彼ハ退場スル。
2 狩獵家登場。
彼ハ急イデイル。
寫眞機ヘ驅ケテユク。
寫眞屋ハ何ト云ツテル？
1 何處へ行クノデス？
2 僕ハ終列車ヘ乘リタイノダ。
1 モウ汽車ハアリマセンヨ。
2 冗談ヂヤナイ。
鐵道會社支配人ニ談判シテヤロウ。
1 ソリヤ私ノセイジヤゴザンセン。
さあ、貴方ノ列車が今出マスゼ。
（寫眞機が汽車のやうな音をたてゝ左へ動き出す。隙間から結婚式の人々がハンケチを振つてるのと、下から、歩ひてる彼等の脚とが見へる。）　――幕

註解

*くれじゆす（CRESUS）昔時小亞細亞の富有の王の名。
*おうまる公（DUC D'AUMALE）ルイ・フイリツプの四子、アルゼリアに戰功ありし將軍。
*とるう・ゔいる(TROUVILLE)大磯の如き佛蘭西の海水浴場。
*じゆすたん(JUS IN)少年の名。
*じゆうる・えるぬ(JULES VERENE)月世界旅行の作者。
*じよをこんだ(JOCONDE)モナ・リザ

「エツフル塔の結婚者」解說

露西亞舞踊に對抗して、瑞典舞踊が起つた。一九二〇年のことである。前者が十分に藝能を賣込んだ後から、後者が揭ぐべき新しい旗幟は、極めて高く、且鮮やかな色調たらざるを得ない。卽ち彼等が自國の貧しい鄕土性を捨てゝ、巴里の新興藝術と誼を結んだ所以である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そして創立の翌年、「エッフエル塔の結婚者」が巴里のシャンゼリゼエ座で發表された。作者に佛蘭西第一の新人ジャン・コクトウを捉へ、作曲家にジョルジユ・オウリツク等の新進、舞臺装置家にジャン・ユウゴオの異才を招ひたのである。爾來七年間、毎年巴里で新作品を披露し、その數二十個に近いのであるが、「エッフエル塔の結婚者」を凌駕する傑作は竟に現れないのである。瑞典舞踊と云へば、直ちに「エッフエル塔の結婚者」を想起すると云つて、決して過言でないのである。

この作品は様式としてまづ人を驚かせた。舞踊と云へば雪白の羅裳と律動的な運動を、聯想するが、この作品には從來 BALLETS と呼ばれたものゝ要素は何物もないのである。さうかと云つてドラマでは勿論ない。パントミイムと呼ぶには、二臺の擴聲機（フォノ）が絶へず饒舌する（前舞臺の兩端に朝顔形のラッパのついた函がある。その中に人間が這入つてゐて、作者及び登場人物に代つて台詞を述べるので、その台詞の全部が文學としての「エッフエル塔の結婚者」なのである）。作者ジャン・コクトオはこの作品を單にスペクタクルと呼んでゐるが、さうでも云ふより外はないのである。

其他、動作及び扮装に與へた極端な装飾化が世人の驚異となつた。すべてが完全に非人間化され、嘗てない新しい舞臺美を示した。或者は普通の三四倍大の假面を被り、其他の者も到底人間の顔であり得ない程度に限取り（マキエ）され、瞬目（またゝき）を禁じられた。その舞臺面は近世の佛蘭西の舞臺美術史に最も喧傳されてゐる。

文學としての「エッフエル塔の結婚者」が、戰後の佛蘭西文壇にユニイクな地位を占めてることは、既に岸田國士氏の「我等の劇場」の中で紹介された筈である。現代の佛蘭西文壇は常に新しいスティルの探索に努めてゐるが、この作品以後未だこの作品ほどに新しくあり得たものはない。「エッフエル塔の結婚者」のなかには、單に文學に限らず、佛蘭西の一般新興藝術の感情がなみなみと溢れてゐる。

作者ジャン・コクトオは、何よりもまづ詩人として知られてゐる。恐らく現代の佛蘭西詩人中最も聲望のある人だらう。しかし彼は「エッフエル塔の結婚者」を書いてる如く、決して單に詩のみを書く詩人ではない。一般藝術の批評及び純粋な藝術上の感想を發表して論壇を賑はしてゐる。その上繪畫をも能くする。彼の畫集「デッサン」が三年前出版された。この多藝家は、さらに舞臺の上にも立つのである。譯者は彼の指揮と出演に係る「ロメオとジユリエット」を見物したが、第一にその舞臺度胸と役者的練達に一驚を喫した。

フレッシユ・マン――この英語ぐらい彼に適當な言葉はない。既に定評ある作者に拘らず、彼は常に昨日文壇へ出た如く若々しい。その風貌亦無髭白皙、若冠の少年に近く、且日本人に酷似せるは一奇である。

翻譯に當つて文章に片假名を用ひたのは、原作の非描寫非情趣的な表現、及び擴聲機が齎らす機械的な發聲に近からしむべく、譯者の採れる窮策に過ぎない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Cette nuit il a plu du vin
Je le sais Il n'y a pas moyen
d'empêcher les roses de parler

Cette nuit dans mon lit je vois
que ma main trace une ombre sur le mur
La Lune s'est levée

Je suis venu du bout du monde
pour savoir ce qui se cache de rose
au fond des pivoines blanches de
Hasédéra

J'ai bâti ce temple pour écouter une
goutte d'eau.

Aucun nombre mais une odeur indivisible

Bruit de l'eau sur de l'eau
ombre d'une feuille sur une autre
feuille —

La pluie peu à peu devient de la neige
la boue peu à peu devient de l'or

P. Claudel

Tokyō le 9 février 1927

昨夜雨降りぬ　人こそ云はね　牡丹花の色
に語るをいかにせん

今宵床上にあつて　手　壁面にものの影を
ゑがく　月出でぬ

はるばると　わが地の涯より來りしは　長
谷寺の白牡丹　そのうち　一點淡紅のい
ろを見んがため

一滴の水を聽かんとして　われ　この堂宇
を營みぬ（大和長谷寺に遊びて）

數にあらず　ただ在るは分ちえぬ香りのみ

水の上に水のひびき　葉のうへにさらに葉
のかげ

雨　や・やく雪となり　泥やうやく金とな

ポオル・クロオデル

東京一九二七年二月九日



和解

フランシス・カルコ作
山内義雄譯

墓場でのフイリップさんは、自分の家内を葬つたボーダンさんより以上に涙をながしてゐたのだつた。皆は吃驚した。皆はこの同じやうに喪服をつけた二人の男をながめやつた。そして皆の同情はむしろフイリップさんの方に傾いてゐたのだつた。

だがいよいよ牧師さんが棺のうへに一すくひの土を投げかけるやいなや、大柄なフイリップさんはもうすつかり取りみだしてしまつてゐた。彼は葬られた女の名を呼ぶのだつた。彼はその女に向つて無理のかぎりを並べ立てるのだつた。そしてあまりにもその狂態がはげしかつたので、平素如何にも控へ目勝ちなボーダンさんさへ急に思ひ出したやうに

「ベルトや！　ああ、ベルトや」と叫び立てたのだつた。「ベルト……
……」

だがそれきり何の言葉もつづいて出て來なかつたので、ボーダンさんはフイリップさんを腕のなかに抱きしめて、そして靜かに自分の胸のうへに押しあてたのだつた。

北風の吹く、凍てつくやうな、どんよりとした日であつた。歩いてゆく足の下には、さもその下にがらんどうの穴倉か、あるひは不思議な廻廊でも埋まつてゐるかとでもいつたやうに、地面がひびいて聞えるのだつた。

出口のところでフイリップさんは會葬の人達に一々握手をした。ボーダンさんはそのするままにまかせて置いた。そして暫くすると彼は疲れきつた、茫やりした樣子でもつて、フイリップさんの方へ靜かに歩み寄つて行つた。二人とも非常に苦しんでゐた。いままで嘗てこれほどまでに二人が結びついてゐるやうに感じられたことは無いのだつた。こんなにまで二人して同じ一人の女を愛してゐたことはないのだつた。

「ベルトは他に類のない良い女房だつた。」と夫が云つた。

「ベルトさんは他に類のない素直な戀人だつた」とも一人の男が思つた。そして彼は敢然としてその胸の苦しみを堪えやうとつとめたのだつた。

だが暫くすると、フイリップはもう何うにもたまらなくなつて、妻を失くした夫の方に身を寄せかけた。

「リユドヴイツク、僕は君を欺してしまつたんだ」と彼は苦しさうに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つぶやいた「だが僕は、僕の二人の兄弟の生命にかけて誓つて云ふが、僕は君にたいしてついぞ悪い氣持や輕蔑なんかを感じたことはなかつたんだ。僕には何だかベルトさんが、君の妹、君の可愛い、大きな妹さんのやうに思はれたんだ……」

「僕の可愛いい、大きな妹？」

「さうなんだよ、リユドヴイツク」

そして彼は言葉をつゞけて云つた。

「分つてくれるだらう？　僕は君より、もつともつと苦しい思ひをしてゐるんだよ。」

「ありがたう、フイリツプ！……ありがたう！……ありがたう！……」と夫はしやくりあげた。

二人は町を行つたり來たりした。ときどきこちらの歩道からあちらの歩道へと移つて見たりした。そして時々立留つては、こつちを見てゐる往來の人達などには頓著なしに、二人して抱きあつて接吻した。目的なしの二人の散歩は數かずのブールヴアールからコンコルドの廣場まで二人を歩かせて行つた。呆然として二人は一寸のあひだオベリスクを眺めて立つた。ボーダンさんは足を曳きずつてゐた……やがて二人は道を取つてかへして、とあるその邊の珈琲店に身をかくした。

店のなかに入るといふと、突然、けふ一日二人を引きまはしてゐた熱風が忽ち解まつてしまつた。株屋連は取引の話に夢中になつてゐた。常連は骨牌をやつてゐるし、けばけばしい服装をした女連は自分達のうへに人達の注意を惹きつけないでは措かなかつた。絶間なしに歩きまはる足音が室一杯になつてゐた。パイプの煙、卷煙草の煙は輪を描きながら天井に上つて行つた。煙はそこで厚い霧をつくつて、それがまた濁つた縞になつて燈火のうへにと下りて來るのだつた。

二人の友達は何だか氣まづい思ひがして來るのを感じた。二人の頭のなかには、しづかに、そして動かしがたく、いまの二人のお互の立場についての新らしい考へ方が大きくなつて行つた。そして二人はそれに氣がついて驚いたのだつた……。いま二人を離ればなれにさせてゐる疑ひの氣持、それに二人は何うして氣がついたのだつたらう。

先づ一番に口をきつたのはボーダンさんだつた。

「フイリツプ君」彼は相手の方を見ないでかう云つた「君は眞直な心をもつてゐる。だが君は僕に打明け話をしてくれなかつた方がよかつたと思ふ。何も僕の方から問ひかけたりしたわけではないんだし。」

「だつて、一體さうしないでゐられると思ふのか。」フイリツプは激しい感情に驅られるままにかう叫んだ。

「ゐられると思ふ……」ほとんど低い聲でボーダンさんが答へた「彼女は僕に何にも云つたりなんぞしやしなかつた……」

かう云つて彼は口をつぐんだ。あらゆる記憶が悲しさでもつて彼を壓倒してしまつたのだつた。

さつき飲んだ一杯の酒は更に彼の思ひ出を深めさせた。彼は體をひね曲げたまま、兩手でしつかりテーブルにつかまりながら椅子に腰かけてゐた。苦しみのなかにあつて、如何にも哀れ氣な、如何にもみぢめな、そして如何にも拙い顔をしてゐる彼を見ると、可笑しいといふ氣持にもなれなかつた。彼は小さな兩方の眼をつぶつてゐた。口

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をいくらかすぼめてゐた。そしてまるで壁のやうに眞白な顔色をしてゐるのだつた……。一方フイリップさんはといふと、默つて彼をながめてゐた。

　何うした太つ腹の氣持がフイリップさんの胸のうちに湧き起つたのだらう。その顔のうへには、心のなかの氣持といつたやうなものがすつかりあらはれてゐるのだつた。

「ボーダン君」彼は思ひつめて云つた。相手は顔をそむけた。

「ボーダン君、僕は君に一寸云ひたいことがあるんだ。僕は君に…………」

　彼は自分の云はうとしてゐることをはつきり云ひあらはしたいと思つた。彼は口をつぐんだ。それから、さも大きな惱みを打棄るとでもいふかのやうに、ただこれだけの言葉を云つたのだつた。

「ボーダン君、僕は見下げはてた奴なんだ……ほんとに見下げはてた奴なんだ。僕は君に嘘をついた……。奥さんと僕とのあひだには何にも……僕は誓つて云ふ……何にも無かつたんだ……何にも……」

　ボーダンさんは厚意のこもつた悲痛な微笑を浮べた。彼は立上つて勘定をすました。そして一旦外面へ出るといふと、彼はそのまま打倒れてでもしまひかねないやうな樣子で、その友達の腕をしつかり自分に抱きしめたのだつた。

「フイリップ君、元々どほりに仲よくしやうぢやないか。ねえ、僕は君のことを恨んでなんぞ居やしないんだ、フイリップ君。」

　フイリップさんはといふと、これには何の返事もしないで、ただ心持ち首をうなだれて、ボーダンさんの傍を歩いて行つてゐるのだつた。

開墾餘錄

吉植庄亮

開墾機を收めてひさしあら土の凍りしままに暮るるこのごろ

僕らは氷を嚙みてはたらけりただましろなる朝霜の光

土の中にわが掘り出せる寒蛙生きてゐる眼に物は見ぬらし

凍り土一重の下はものの芽の寒崩えすでにきざしたるらし

大寒の夕は冴えて鍬く土の日光のなかにはや凍るなり

微恙籠居

母上の相手をしつつ呑むお茶のひさしかりしかなこのお茶の味

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



潤一郎。人及び藝術

佐藤春夫

潤一郎を論ずるのに僕より適切な人がないといふのでその役目を仰せ付かつた。うつかり自分もその積りで引受けて見たがいざやつて見やうといふことになると、適任どころか甚だ不適任——といふよりも適任の度を餘りに超え過ぎてゐることを發見した。自分のことを自分で論ずるのが適任ではないと云ふやうな意味で僕は潤一郎論の不適任者なのだ。全く僕と彼とは私生活に於いて餘り密接過ぎて切つても切れぬ間柄になつてゐるし、藝術上から云つても、何にか藝術的血族關係者とでも云へさうな程だから、とても小むづかしい評論などの形式は取れない。それより寧ろ氣輕に彼を話題に一夕の漫談を試みた方がらくだしそれが結局、潤一郎論にはならぬまでも潤一郎論の材料位にはなるだらうから、組立てるのは諸君の方で一つ御隨意に願ふことにしやう。僕はいつもこの通りらくで効果の上る方法を得だと思つて、その法則に從ふ。小說を書く時だつても同じことだ。ところで、早速潤一郎論の一節を見つけたが潤一郎のやり方はさうではない。彼はいつも正面から堂々と本格的に打つて出る。——さういふことは何れ追々と說明するが。

潤一郎の文壇的出現から歳月はもう十五年位經つてゐるだらう。僕は彼の處女作時代からの愛讀者である。いや、その作品だけに就いて言へば處女作時代の方がもつと愛讀者であつた。「麒麟」や「刺靑」「少年」などの諸作が如何に華々しく文壇に迎へられたかは今更說くまでもないが、歡呼の聲を揚げてそれを迎へた者の一人に二十歲ばかり靑年の僕も加はつてゐた。寧ろ多少の嫉視と反感とをさへ感ずる程當時の彼の作品は今日から言へばさう飛び離れて風變りのもんではないかも知れぬが、所謂自然主義の作家が文學といふものの見本を示したその見本帳に較べると、全く彼のは思ひもつかぬ產物であつた尤も潤一郎以前に既に永井荷風が居てその抒情的美を專にしてゐたが、荷風のその作風が潤一郎の一つの手本になつたこと、と云つて惡ければ一つの刺戟になつたことは確實である。いつか潤一郎が僕に語

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた話の中にも彼が作品の二三を發表して少數の人々から喜ばれ意氣甚だ旺んであつた折から、パンの會の席上で荷風を見かけ、醉拂つてゐた潤一郎は荷風をつかまへて「自分の作品が分るものは貴方ばかりだ」と云ふやうなくだを卷いて、後からそれを思ひ出すと甚だ赤面するので、その爲めについ平素尊敬する荷風の門をたゝくのも氣後れがして了つたのだといふやうなことを云つてゐた。潤一郎のこの告白に聞くまでもなく彼の作品は荷風を聯想させるものであつた。さうして事實、上田敏や荷風などに依つて世の中に持ち出された。隈取りをとつたやうなはつきりとした線の太い文章は、その原色的色彩と共に人の目につき易いものであつたからまたゝく中に世に行はれたのは尤もなことである。當時、世間では潤一郎と長田幹彦とを並び稱したものであるが、さうして幹彦にも纖細な濃やかな趣は確にあつたが、僕は潤一郎贔屓であつた。その時僕は幹彦のことをどこか職人風だと云つて、惡口を言つたものだ。自分のことを言へば僕はその頃三田の學生で、そこの最も生意氣な不都合な奴で當時を回想してはいつも赤面するが、人の惡口ばかり言つて暮してゐたものだ。潤一郎は今もいふ通り贔屓であつたが惡口を言はずにゐられない僕は矢張り、好漢惜むらくは思想を持たぬと言いふやうな放言をしてゐた。然し、内心自分が物を書けば此の男には分るだらうといふ氣持がしてゐた。若し自分がパンの會へ出席してゐればきつと何んにも書いてゐないくせに、恰も荷風に於ける潤一郎の如きくだを潤一郎に卷いたかも知れない。

當時の潤一郎の諸作――つまり彼の初期の作品は然し思想の有無など論ずべきものではなかつた。寧ろ一篇の詩の如きもので、詩人の書いた散文と云ふ氣持がする。瑰麗で放膽で、美を殊に肉體的の美を高潮した點に生々とした感情乃至官能が、どちらかといふと少し硬度のある文章の中に脈動してゐた。「麒麟」や「刺青」の如きがそれである。「信西」や「少年」などといふ作品は前に擧げた者に較べると同じく裝飾的な中にもぐつと寫實的なもの、實相的なものが加はつてゐる。「象」といふ戲曲は輕妙な會話に依つて江戸時代とその祭の空氣とを甚だ鮮かに描き出してゐたのを忘れない。彼の當時の作品として失敗したものは「飈風」と「羹」とであらうかと思ふ。「羹」は必ずしも失敗ではなかつたかも知れぬがともかく中絶して了つた。新聞に依る發表形式が彼には便利でなかつたのかも知れぬ。さうして是等二つの作品の失敗は當時の潤一郎が熱情ある裝飾圖案家であつて寫實家ではなかつたことに原因してゐる。然し潤一郎は彼の藝術を大きくする爲めには寫實家の要素が必要であることを自覺したに相違なかつた。さうしてそれ等の失敗した諸作はやがて彼がその後の活動に入る爲めには有意義な失敗であつた。よき試作であつた。潤一郎は然し獨特の寫實的な筆意を必ずしも持たなかつたのでないのは無論である。この事を證明するものはThe Affair of the Two Watchesである。これは大學生時代の彼の日常生活を殆ど如實に描いたらしいスケッチであつて評傳家の目には貴重な材料である。當時彼はこの作品を頭文字だけの匿名で發表した。それはおかしいやうな悲しいやうな變な神經衰弱的文學の珍しい產物である。華ではないから餘り人の目にはつかぬかも知れぬが初期の作品の中でも輕んずることの出來ないものゝ一つである。そこへ行くと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「秘密」など云ふ作品はすつきりとは出來てゐるが、甚だつまらない。オスカー・ワイルドの作に似て及ばざること遠いものである。

オースカー・ワイルドと云へば當時大流行でもあつたし、潤一郎も愛讀したことは世間で知つてゐる通りである。その外に當時の彼はアナトール・フランスなども多少は見たらうかと思へる。

今、新潮社版の谷崎潤一郎集の年譜を擴げて見ると僕が今話したところまでが潤一郎の明治末の四年間の仕事で、それ迄の彼は主にコントを書きそれで成功してゐたのだが年譜を見ると彼の仕事はそれから少しづゝ大仕掛になつてゐる。「惡魔」が僕の今言はんとするところのものだ。この作で彼は今までに比べると甚だしい進歩を、飛躍を示してゐた。それには筋に於いてもまたその筆致に於いても甚だ寫實的な(バルザックを寫實的といふ意味で)ものが加はつて來てゐた。昨日までの小話的作風から數歩を進めて、此の作品は新刊廣告流に言ふと巨匠の面影を持つてゐるものである。此の作とほゞ同じ時期に出來た戯曲「戀を知る頃」はどちらかと云ふと以前の作品と系統を同じくするものであつたが、その出來榮えに於いては年期を經ただけにもう一層完成されてゆとりが出來て僕の見るところでは彼の戯曲中でも甚だ傑出したものゝ一つだと思ふ。この作もさうであるが潤一郎には少年を主人公或は主要な人物にしてゐる作品が少くとも四五篇はあるだらうがそれ〴〵に相當よく書かれてゐると思ふ。夢と現實との面白い境目にゐる少年は潤一郎に取つて生彩ある詩材に違ひない。

その次に現はれた「お艶殺し」「お才と巳之介」の如きは彼の構想と意圖とは充分に汲み取れるけれども、要するに遂に高級な講談乃至人情噺の趣味をそれ以上には藝術化することは出來なかつたと云へるだらう。その二三年前から彼は酒色に耽つて少々藝術を粗かにしたらしい。さうして面倒な書物などを見る氣が無くなつて講談本などを見て遊んでゐたらしいことが、前述の「惡魔」の中か何かにあつたが、他の作品にもよくあるやうにそれ等のことも潤一郎の自傳的事實かも知れぬ。ともかくも彼の描いたそれ等の惡人も毒婦も甚だ大ざつぱなもので操り人形としても餘り上出來とは云へないだらう。殊に「お才と巳之介」の如きは若しあの話の中に巳之介の妹お露と云ふ娘が假りに無かつたとしたら、またあつたにしても若しあれだけに書かれなかつたとしたら、高級も何も無い全く平凡な講談に過ぎぬだらう。さう云へば「戀を知る頃」の妖婦だつて何の深味も無いけれどもそれでも草双紙的な浮世繪的なあだつぽさがあるではないか。それに殺されるあの少年が命を持つて書かれてゐるのだ。江戸時代的妖婦ものは「刺青」に始まつて「戀を知る頃」で完成された。それ以外の江戸時代妖婦を僕は潤一郎の爲めに捨てゝ了ひたい。このことは然し潤一郎自身充分氣が付いてゐると見えてその後の作品にはその種類のものは一つも無い。それとも潤一郎の實生活的興味の中に江戸時代の妖婦たるモデルが遠ざかつたのかも知れぬ――潤一郎から聞いたところをこゝで内證で打ち明けるとどうも彼の身邊に彼に對してさう云ふ暗示を與へる一女性がゐたらしいのだ。毒婦ものと云へば「恐怖時代」といふ戯曲がある。これも矢張りこの前後の作品らしいが、僕は讀んでゐない。「お艶殺し」などで失望した僕は當時讀み澁らしてそれから別に理由もなく見ないで了つてゐるが、作者の話では これは、大蘇芳年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の錦繪から感興を得たものだと聞いてゐる。芳年と云へば潤一郎は當時此血腥い狂畫人に興味と同情とを持つて、その評傳を書いて見たいと思つた程であつたが果さないで了つたさうである。

やはりこの頃の作品で「春の海邊」といふ戲曲がある。僕はこの作をも彼の戲曲中の佳作に數へる。この戲曲のことを言へば潤一郎は、この戲曲以前にやはりこの作と、取材に共通した所のある中篇小說を一篇ものしてゐるのだけれども彼はそれを恥づべき作品であるとして著作集から除き去つてある。

これは「惡魔」と一緒に論ずべきを忘れてゐたがやはりこの頃の作に「饒太郎」といふ中篇がある。力作であつて堂々たる風格を持つてゐる。彼の代表作の一つとして逸し難いものだのに彼の諸種の選集に餘り見かけないのはどういふ理由であるか、今迄氣が付かなかつたが今度彼に逢つたなら尋ねて見たいと思ふ。「饒太郎」はその結末が少しあはたゞしいだけで充分成功した魅力のある作であつたやうに覺えてゐる。この外の作にも相當な作品でありながら結末に近づく程だらしのない惜しむべき作品、例へば戲曲「十五夜物語」「無明と愛染」の如きが彼の仕事の中に幾つか交つてゐるが、それは遲筆な彼が雜誌の編輯締切日に追つ駈けられるといふ外的故障にも可なり煩はされてゐるには違ひないが、もつと外にも重大な內的理由があるやうに思ふ。このことは後に言はう。

ともあれ小品的小話的作風から一歩を進めた彼はその次には構想の上に多大な興味と苦心とを感じたものらしくこれは成功した諸作に於いてはもとよりだが、敗作「お才と巳之介」の如きに於いてさへ充分に看取することが出來る。さうして彼はその方面の才能に甚だ惠まれた作者であること、或は甚だしく興味を感ずる作者であることは後になる程顯著になつて來た。この作者が最近になつて「自分は日常生活風の作品には興味を持たぬ。噓を書いたやうな作品が好きだ、讀むにも書くにも」と言ふ風な反時代的陳述をしたのは自然であり面白い現象である。私は彼が今更さういふのを驚かぬばかりか、寧ろ今迄はさうではなかつたのかと反問したい位思つてゐる。彼の說の當否ではない。彼の性情の自然に就いてである。

こゝで僕は彼の作品がどういふ譯であれ程旺んな勢ひで世に迎へられたかをも一度詳しくはつきりと言つて見たい。

凡そ明治四十年前後の我が國の文壇程平坦で無味淡白に近い世界を文學の上で喜んだ時代は珍しいとであらうと思ふ。平凡でありふれたことでなければ文學となり得る生活ではないかのやうに言ひふらされてゐた。さうして一切の夢幻と主觀とを、またその手法では一切の誇張と力說とを一も二もなく否定したのがその當時の文壇であつた。「無技巧の技巧」といふ流行語もあつた。もとよりそれには相當な理由も使命もあつたのではあるが、この空氣は狹い文藝乃至一般藝術に取つてはまさしく甚だ暴虐な一種の藝術的恐怖時代であつたかの觀がある。

僕はこゝで僕の持つてゐる文學論を一應披瀝するのがほんとうであるらしいが、それは簡單に述べると人々の心に輕く這入つて誤解されさうな處があるし、また充分に理解して貰ふ爲めには餘りに時間を取

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ツ〳〵——り過ぎるからこれは別の機會を得て聽いて貰ふとして、僕の信ずる所によれば文學の中から夢幻と主觀とを奪ふことは鳥から兩方の翼を奪ふことであり、表現の中から力説と誇張とを除き去ることは鳥をして歌ふことを禁じたやうなものであつて、即ちこの警喩を進めて行くと明治四十年代の吾々の文學は凡ての飛禽啼鳥を皆鷄にして了はなければ置かないやうなものであつた。つまり私の云ふのは當時の文學は文學の中から最文學的なものを抜き取つて了つてゐたと言ひたいのである。この呪はれた地面を匍ふだけの鳥に啼聲を與へたものが永井荷風の出現であるとしたらば、縛められてゐた双つの翼をこの匍ふ鳥に與へたものは實に我が潤一郎であつた。彼は當時の文學社會が唾棄して了つたその凡てのものを拾ひ上げた。即ち無限的空想或は空想的構想と主觀的情熱と色彩的誇張とそれに描寫的力説等を以て彼の文學の旗印にした。しかも彼がその旗印を進めてゆくところは自然主義の文學者が恐る〳〵開拓した所の性的官能の世界であつた。人々はそこに飛翔する鳥を見、然もそれが極樂鳥のやうに華美なのに眼が眩んだ。人々はこの無意識の中に豫想してゐた——といふのは彼等がそれとは氣付かずに渇望してゐた文學本來の姿を見て、それを文學的の廣い見地からすれば一種退化してゐた所の自然主義的作品と對照することに依つて一層驚嘆を深くし、知らずに求めてゐた所のものがその慾望を覺醒されると全く同時に當の慾望を滿足させるそのものまで直に與へられた喜びの爲めに、彼に對する感謝と稱讃とは二倍になつた。人々は天才といふ勳章を感謝の印に彼に與へたのである。潤一郎の非常な人氣の依つて來たる所は潤一郎の意圖がその通り適確に民衆、殊に當時の一般的文壇に不滿を抱いてゐた若い時代を捉へ、彼等の當時の文壇に對する雄辯な不滿の訴の有効な證據物件として潤一郎の作品は甚だ貴重なものであつた。實際彼の出現以前にも雜誌「スバル」の同人や同じ人達を中心にしてそれに美術家の一團をも加へたパンの會の同人の如きは潤一郎程思ひ切つたまた鮮かな方法ではなかつたけれども、潤一郎以前に平板な自然主義文學に對する反抗の氣勢を早くから揚げてゐたのであつた。潤一郎は先づ時の利を得てゐたと言はなければならぬ。時代が人を作るのでもなく人が時代を作るのでもなく、その間の關係は正に鐘と撞木の間が鳴つたのである。

そこで僕自身はといふともとより未熟な一文學少年乍ら潤一郎のやつた仕事を見て半ば驚異し半ば疑つた。私の目には彼は半身が天才で半身が山師であるやうに見えた。それといふのも彼が餘りに巧く世に迎へられるのを見たからであらう。さうして餘りにケバ〳〵しい、爲めに外側に對してのみギラ〳〵と反射してその割合に眞底からその光が發してゐるかどうかを疑はせるやうな潤一郎の作品を一種山師的なものに見ることは必ずしも一儕輩の嫉視ばかりでは無いかも知れぬ。僕は批評家として今も言はなければならないが潤一郎の中には、敢てその人の中にと言はず、その藝術の中には一種のシヤラタニズムがある。然もそれが可なり本質的なものでその爲めに彼の藝術をへんに歪な美しいものにする場合もあるし、また甚だ空疎なものにして了ふ惧れもある。さうしてそのシヤラタニズムは人にあつては僞惡家になつてゐる。彼のやうな誠實な人間が何を好んでそのやうな假面を被るものだか恐らくそれは彼が餘りに誠實な人であり同時に風變りな好

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

色漢であるだけの理由にしか過ぎぬかも知れぬ。チエホフは面白いことを言つてゐる。「藝術家の僞惡家振るのは政治家や宗教家が僞善家振るのと同じ現象であつて、獅子であると自ら彼が云ふ所のその本體は猫である」と先づさういふことをチエホフが言ふのである。潤一郎は甚だ江戸ッ子らしからぬ油つ濃い一面を持つてゐる。さうしてそれは彼の近代性であり藝術家としての强みではあるが然し彼も亦江戸ッ子であつて吾々田舍者のやうな根强さと野暮とを持ち合してゐない。そのさつぱりとした人物の中に一寸ばかり油氣がありその圓滿な中に一寸ばかり一癖があるのを、彼の中の圓滿家とさつぱり屋とが甚だ苦に病むの餘り、然も根が正直だからそれを隱してゐる譯には行かず思ひ切つて惡人がるのであるかも知れぬ。ともあれいゝ性質を持つてゐ乍ら好んで僞惡家振らなければならんとはことその事だけがやつぱり少しばかり變質者であるかも知れない。そして大抵の文學者はさう云へばその程度での變質者ではあるらしい。さうして文學といふ仕事はその人格なり性格なりの不調和を、或人はそれを調和させるが爲めに或人はそれを倍加させるが爲めに、兎も角も自らの不調和を自覺した所にばかり有り得るやうな氣がする……。

彼の「ドリアン・グレーの畫像」とも云ふべき「饒太郎」以後、ワイルドの愛讀者であつたと云はれてゐた潤一郎は更にエドガアー・エ・ポーを愛好し始めたといふ噂を聞いた。その頃の作「異端者の悲しみ」は然しポーやワイルドの作風とは關係の無いもので寧ろ素直な自叙傳的傾向の普通の小說である。前に述べた The Affair of the two Watches. と同じ時代の彼の身邊の事實をもつと正面から書いた中篇で、作品に於いて事實をそのまゝに書くことの極く稀な彼としては珍らしく事實に近い作品であるらしい。自叙傳的作品と云へば矢張りこの頃書かれた「鬼の面」「神童」などもさうであるかも知れぬが、さうして世間では可なり事實に近いことのやうに噂をしてゐたものであるが、ほんたうは虛實相半ば以上に虛構の多いものであるらしい。嘗つて潤一郎は自ら「自分は眞ともに素直に自叙傳的作品を書いたことはなく、書かうとも思はぬ。それを好まぬ」と、語つたことがあつた。さうしてその後の作品にも、常に虛構の下から事實が多少とも覗き出してゐるけれども——問はず語りには彼の傳記を傳へてはゐるけれども、事實に近い作品はなるほど殆ど無いやうである。せいぐ〜二三篇位のスケッチ以外にはこれを見出し難い。さういふ彼にとつて「異端者の悲しみ」は全く珍しい例外らしい。この中篇は今日ではどうかは知らぬけれどもそれを書いて後稍々長い後にも作者自身愛惜してゐた作である。志賀直哉氏の「和解」が名作の評判高かつた頃、潤一郎は或日彼が時折りするところの眞面目なひた向きな表情をし乍ら、「異端者の悲しみ」が「和解」に劣るかどうかを僕に尋ねたことがあつた。その時にも答へたが僕は「異端者の悲しみ」をそれ程に高價には買へない。當時の潤一郎としてはケレンの少い惡い作では無論ないけれども、彼としてはせいぐ〜佳作の中以下のものではないかと思ふ、近頃讀み返して見ないから分らないが。たゞ彼があの作品を自ら愛惜する所以は作そのものよりも作中に書かれてゐるその當時の生活そのものゝ思ひ出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が深いのであらう。

僞惡者潤一郎は自から異端者と名乘つてゐるが、その作にもその人の中にも一向異端者の面影は乏しいので寧ろこの中篇には骨肉に對して懐いてゐる彼の暖かい深い情愛の方が說かれずして現れてゐるかの趣がある。少年期から青年期に移る一時代は大抵の人間にとつて止むを得ぬ不德な時代である。澤山の大人としての要求を持ちしかもその要求を自ら充す爲めには全くの無力者が彼である。さうして凡ての人々が得て陷入るところの心情的憂鬱のエゴイズムと外面的不拘束の消極的破綻とを、正直者なる潤一郎は餘りに自責するの結果、さうしてこれをもつと深く突つ込んで考へ込むことを逃避してせつかちに朦朧としかも彼自から是認出來ないことの自暴自棄から、思ひ切つて自分に異端者と云ふ鬼の面をおつ被せて了つたのではないだらうか。

たゞ一篇の「異端者の悲しみ」だけではなく、彼の所謂惡魔主義的哲學なるものもまた、實に、前述のやうな心情的の弱さ、觀察的の不徹底それに彼の一か八かのロマンテシズムとが加つて、彼は自分が普通の人間であると感じたゞけで濟むことを、さうしてさういふ一面が所謂人間性の一つであるその一角を彼は餘りに注視するの結果、それを彼自身にだけ特有な不德のやうに感じて了つたのではないだらうか。それ以前に彼の心の中にある神と魔とが激しく相角し相搏つたのではなくして彼は餘りに大ざつぱに手輕に「どうせ俺は惡人だよ」と、甚だあつさりと甲を拔ぎその序でにそこに居坐つたかの如く僕には思はれる。若しさうだとするならば彼が自分の極く一人前の缺點を獨特の重大な不德と誤認する程の善人であることと、もう一つには彼が思想的には甚だねばり氣のない、野暮を嫌ふ江戸ッ子肌の性格であることゝを證明するだけのものではないだらうか。若しまたさうでないといふならば彼程の人物が自分の中の惡魔を異端者を痛感すると同時にどうして惡魔と異端者との殆ど唯一の神性ともいふべき骨に喰ひ入るやうな孤獨を痛感しないのであらうか。それが異端者だから惡魔だからだと言つて了ふとすればその考へ方は、考へ方よりもその心臟は餘りに力の弱いものである。人々が普通自分の惡を自覺する時に感ずる所のものは懺悔の生活である。惡を自覺し同時に懺悔の作用を始めない所のものは實際惡魔だけであつて然しその惡魔には個有な最も深い憂鬱感と孤獨とを懺悔の代りとして與へらる可き筈である。

僕は潤一郎を單に僞惡家と呼びその惡魔主義をほんの彼が思想上の裝飾的要素位にしか受け取らないのは、私生活に於ける彼の寧ろ德望者に近いやうな生活態度と、また彼の藝術そのものゝ中の惡魔的要素なるものが餘りに空疎なのを痛感するが爲めである。つまり僕はどうしても彼の人柄と作品とをさういふ風にしか受け取れないといふ事實を本にして僕の考へを進めてゐるのかも知れぬ。何にせよ、その他の點に於いて潤一郎はまがひものでないにせよ、彼の惡魔主義なるものはたゞ一つの面白いシヤラタニズムだと僕は思つてゐる。

僕は假りに潤一郎を緻密な思索家また內面的な懷疑家として論じよう。それを證すべき作品は一體何であらうか。一向に思ひ當らぬではないか。心理的に深入りをした作品、或ひはさういふ部分を持つた作品には何があるだらうか。僅に「春の海邊」やその前後の二三の作品に少しばかりその匂ひを感じ得るだけのもので外にはどうも思ひ當ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぬのである。さうしてそれ等の諸作は何れも初期の作品に屬してゐる。それは青年といふものは凡て內面的心理的解剖を自分自身に對してなし續けてゐるものなのだから、彼の青年期に僅に二三の作品の中にその片影が見られるからと云つてこれを彼の特色とすることは出來ないのみか、後年になる程その匂ひが薄れて了つて「愛すればこそ」の如き心理的解剖に依つてのみ成立すべき題目を、最も不適當にも戯曲の形式に盛る所に彼の特色或ひは缺陷が發見出來る。

一體彼の文體は、さすがに文體を愛する作家だけに樣々の試みはしてゐるけれども、その最も自然な美觀を發揮した時は、線の太い糞度胸のいゝ絢爛なものである。一たい、成功してゐる時に人々はその獨特のものを發揮するが失敗してゐる時にも成功した時に劣らず彼の個性を遺憾なく發揮するものである。だから潤一郎の最も自然な身についた文體を知らうと思へば、人の惡い話であるが「お才と巳之介」の結末や「十五夜物語」の結末を各〻五六頁も覗いて見るがいゝ。前者の場合はもと〳〵線が太くてもいゝ文體で初つてゐるが、後者の場合の如き月光のやうな青白いわなゝくばかりに神經的文體でなければならないものが、さうして作者自らそのことを用心して書き續けてゐるものが一旦ハメを外すと最も重要な神經質を要するクライマックスに於いて彼はついたしなみを忘れて野性に還り鰤式網のやうな大雜把な筆致で事も無げに片付けて了つて、あたら名作を臺無しにして了つた。彼は取り急いだからと云つても決して晦澁や錯然の弊に陷入る恐れは無い代りに恐ろしい程あらつぽく大股に遣付けて了ふ。文體はやがて內容だといふがこの線の太い文體の把持者が內面的の心理解剖の好事家でないのは甚だ尤なことである。全く僕は潤一郎が他の作者が言ふことを憚るやうな心理をずばりと摘發するのは見たことがあるがそれ以外に錯雜した心理的妙趣を描き或は說くのを見たことはない。例へば戯曲「お國と五平」の如きであるがその中には鮮かに摘發された心理はある。然もそれは心理といふには餘りに鮮かであつて、その爲めに寧ろそれは構想の一部分になり、また內容的には一般の心理的といふよりも寧ろ統一された良心的の告白を見るかの如き觀がある。さうして心理的妙趣といふものは寧ろ解決されない心の働きの面白味なのである。心理描寫の少い所の作者はやがて懷疑的でなく內面的でなく自分自身に躓きこだはる習慣の少い人であるだらう。

心理的妙趣といふものは要するに深淵の表の漣漪なのである。潤一郎の線の太い作品にはそれが見られぬ代りには、例へば岸を打つ波浪のやうな浪漫的な大がゝりな構想はどの作品にでも見ることが出來る。如何に駄作と稱すべきものゝ中にも圖太い構想を潛めないものは一つもない。問題はたゞその構想が何處までオルガニックに表現されたかにある。兎も角も彼の凡ての作品には、さう云つて惡いならば力作と看做すべき凡ての作品には悉く鬼工がある。さうして彼程力作を書くことを喜ぶ作家は現代でも珍しいのだが、彼がその力作を思ひ立つにはきつと彼自身その構想の妙に自ら先づ興を催すに相違ない。それ等の實例については改めて述べる。

外面的の面白さ、絕妙の鬼巧はともかくも彼の見逃すことの出來ない特色である。さうして僕は考へるのだが彼の惡魔主義もまた要するに彼の思想的構想であり、鬼巧の一つであり、大して內面的な何物で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もなく假面であり、思想上のポーズではあつても、理知の大地に根ざしてゐる思想そのものではないのではなからうか。

僕が潤一郎と相知つたのは大正六年の初夏であつた。その後約五年間の製作についてはいやその後の殆ど凡ての製作についてはその作の動機やら或ひは製作の有樣やらを親しく目のあたりに見たし或ひは見たが如く想像することもなし得る。僕が潤一郎論をする爲めに適任の度を超えてゐると思ふのは實にその爲めである。

こゝで僕は少しばかり自分のことを話すゆとりを諸君に求めたい。極く簡單にいふが僕は潤一郎あつたが爲めに危く涸渴しかゝつてゐた文學的才能をやつと少しばかり蘇生させ彼の培養に依つてともかくも文學的生涯を始めることが出來たのである。潤一郎がなかつたならば僕の藝術的生涯はなかつたらうと僕は屢ゝ感に打たれる。同時に潤一郎は彼自身何といふかは知れないけれども僕と日夕往來することに依つて彼の文學的境涯を急速に回轉させ得たのではないかと考へないでもない。嘗つて潤一郎は僕のことを記した一文の中に僕に依つて啓發されたところが尠くないといふ意味を述べてゐた。僕は潤一郎が僕のよき友であつたことを感謝してゐると共に潤一郎にとつて僕が惡友ではなかつたことを信じてゐる。僕と彼との交友は僕の饒舌な藝術談に依つて始つた。それが幸ひにも彼の耳に面白く響いたのである。數年前から彼の作品を愛好し彼に依つて甚だ教へられると同時に彼が題目とするその同じ題目について何にも書かぬ代りには考へることだけは休み得なかつた僕の考察が潤一郎にとつて面白かつたのは當然過ぎることである。當時潤一郎は文學的には全く一人の交友をも持つてゐなかつた。驕慢な彼は儕輩の中に身を伍することを喜ばなかつたのだ。然も聰明で熱心な彼は無名の一青年の文學論を傾聽するだけの雅懷を持つてゐたのである。僕は彼に對して師事し少くとも兄事する氣持ちを心の底に藏し乍ら生れつき傲慢でまた年來の不遇がひねくれさせた僕は潤一郎に對しても自分の尊敬の氣持ちを先づ傳へることを、何んとなし快しと思はなかつた。僕が潤一郎に主として述べたところのものは彼の藝術に對する僕の不滿の方面であつた。然も潤一郎は好んで之に耳を傾け或る場合には喜んで僕の非難を認めることさへした。さうして僕がなした所の非難に依つて彼は僕が彼の理解者であることを認め得てくれるらしかつた。

當時潤一郎はその年の正月號に「人魚の嘆き」「魔術師」の二作を發表してゐた。さうして前者に對して彼は少からぬ自信を懷いてゐた。「人魚の嘆き」は然しその妙構と美辭とにも拘はらず僕を驚嘆せしめるものではなかつた。まだしも「魔術師」の方がよかつた。これはその以前に書いた「病褥の幻想」と共に彼がその以前から愛讀し出したといふポーの影響を示してゐるものであつた。人魚の嘆きの方は同じやうな空想的な作品ではあつたがポーよりはワイルドに近かつた。然し潤一郎は瑰麗の能辯を振つてゐるにも拘はらず誠に人魚を目の當りに見てゐなかつた。目の當りにその形を幻出し得てそれを寫し出したのではなく彼の人魚はつまり生きては居なかつたのだ。第一、その作では人魚が大きな甕の中に二人の男達に依つてやつと運ばれる程大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きなものであると斷られてゐるに拘はらず、僕の目には、それがほんとうの人間程の大きさの人魚とは思ひ浮び得られなかつた。寧ろ小さな人魚のやうな氣がして仕方がなかつた。それはワイルドのお伽噺の中に書かれた小さな人魚の方が私にけ鮮かに印象されてゐたからであるらしい。さうしてあの人魚が船の中から月夜の海の中に己れの故郷を慕うて身を投ずるあたりは最も必要であるべき縹渺たる神韻が甚だ乏しい憾みがあつたのである。

一體彼の凡ての作品の中には色彩の鮮明はあつても縹渺の神韻は實に乏しいのである。また妖艶な姿はあつてもその芳芬の馥郁は乏しいのである。また鬼巧の絶妙はあつても奕々の神采は之に伴はないのである。このことは彼と泉鏡花とを對比する時に一層明白になる。然し潤一郎のこの缺點は彼の作品をへんに人間的な近代的な何物かにしてゐる。一脈の俗氣が彼にあつては不思議な面白い伴奏をなしてゐる――一種ジヤズの雜音のやうな効果を以つて……

これ等の點までは當時言ふことは出來なかつたけれども、もつと大體論として潤一郎がワイルドを捨てゝポーを熟讀するのも無論惡くはないけれどもさういふ藝術上の奇道を辿るよりも寧ろバルザツク的の世界をこそ翹望すべきである。さうしてそれは「惡魔」の作者である潤一郎にはこれを望めるやうな氣がする――「人魚の嘆き」位のものでいゝならば僕にだつても書けるのだが……僕は明かにさう云つた。その時の有様を今思ひ出すことも出來るが潤一郎はちよつと僕の生意氣な言葉にはひるむ面持を見せ乍ら「君に書けるかどうかはともかくもとして……」と不滿さうに然し僕に向つてバルザツクと云ふ作家の作風を尋ねるのであつた。告白するが僕は今でもさうだけれども當時バルザツクの短篇をほんの二つ三つ讀み、それから長篇の話を先輩から聽かされた位のものであつたから、さう堂々たるバルザツク論があらう筈もなく正直に事實を告げて、唯僕の直觀からしてこの作者はきつと潤一郎を激ますに違ひないと位より云ふことは出來なかつた。然も潤一郎は僕のそのあやふやな言葉を耳に止めたのは彼が自作「惡魔」について自信を持つてゐて、それに對する僕の評價が適切であつたのを感じたからであらう。事實僕は潤一郎が「惡魔」以後「惡魔」の如き作風のものがなくさうして好奇的にポーのやうな作家に沒頭することを惜まざるを得なかつた。さうしてポーの如きは寧ろその無類な作者が肉體と靈魂とを消磨し盡してたま〳〵やつとかち得たものであつてその作風は學んで得る所がないと思つてゐたのである

潤一郎が古本屋からプロフエツサー、センツベリー監輯の英譯バルザツク全集を搜し出して讀み耽り驚嘆し始めたのはそれから一年位經つてからの後であつたか知ら。ともかく間もないことであつた。僕彼が後輩の一言をさへ重んずる態度とその熱心な努力とに私かに敬意を支拂はずには居られなかつた。僕は彼の如く孜々として努力する作家を吾々の身邊では餘り知らない。この點彼に比敵する人は僕の知る限りでは芥川龍之介か。それとも他の諸家も斯くの如きであるのを交友の狹い僕は氣が付かずにゐるのかも知らぬ。

僕がこの「近代佛蘭西文學の並木を仔細に覗いて見るとどの國もきつとバルザツクの目が光り出してゐる」と云はれてゐる巨人を潤一郎に推薦したことは慥に彼の眼界を廣くする爲めには有効ではあつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然し人の素質はさう急に變化する筈もないものだ。潤一郎はその後「鮫人」「嘆きの門」等に依つてバルザツク風の巨大な作風を企てたけれども、それ等の長篇は不幸にもその堂々たる一斷片を殘しただけで大成するには至らなかつた。有ゆる美醜善惡を敲つけた此の大地をそつくりそのまゝ藝術の天の方へ抱き上げるアトラスのやうなバルザツクで潤一郎がなかつたと云つても、彼の自尊心をさう大して傷付けもしまい。何にしても潤一郎が女の肉體を描き出す時程の熱情ある生彩を人間生活の百般に現出することの出來ないのは是非もないことである。然し潤一郎の野心とスケールとは年と共に成育した。「金と銀」「呪はれた戯曲」「神と人との間」等の諸作を見て、潤一郎に好意ある人ならばきつと僕のこの說に同意するに違ひない。

潤一郎が構想的名手であることは既に述べた。全く彼の作品の筋書だけを作つてその構想だけを見る時にはそれは古往今來の傑作の筋書の中に混ぜ込んで了つてもさしたる遜色を感じないかも知れぬ。然も出來上つたものを見ると必ずしもさうはゆかないのは、彼はそれ等の筋を充すだけの何ものかを缺除してゐるのである。いやさういふよりも反對に、それ等の筋が深い心情の象徴的外貌として現れる代りに、先づ外形的興味の方が一層多く彼の嗜好に適して、その趣向に彼は醉ふのではないだらうか。もとよりこれは一種の力說的言ひ方であつて、內容の象徴的外貌でない筋などといふものは有る筈はないのだが、たゞそれの關係を見て潤一郎の場合中味よりも外側の方が勝ち過ぎてゐる――もつと端的に言ふとその大がゝりな筋の割合に內容が空疎ではないかを僕は恐れるのである。

僕は潤一郎の諸作を見てそれが力作であればある程失敗をしてゐるのを不思議に思ふ。さうしてその失敗の跡をつぶさに究めて見ると更に不思議なことには、それが悉く作の中心點であるべき所で甚だしく力のないものになつて了つてゐるのを發見するのである。例へば「金と銀」に於いて、所謂銀である藝術家が金である藝術家を殺す動機に於いては吾々はそれがさうしなければゐられなかつたであらうことをやつと想像し得る程度にしかそれは描かれてゐない。また金である藝術家が銀に依つて殺されそこねてから白痴のやうになつて然し彼の心には依然として永遠の美が生きて動いてゐることを作者が說いてゐるあたり、宛も作者はそれに就いて骨惜みをしたが如く見える程である。吾々の眼に見える所のこの世界のものは單に眞實の世界の影にしか過ぎぬと云ふプラトン流の思想を潤一郎が抱懷してゐることは、また近作「青塚氏の話」に依つても窺ふことが出來るのである。それには己が最愛の妻をモデルにして最も巧妙な生人形を作られた一人の男が、他の男の最も熾烈な情慾に依つて間然する所なく作り出されたその生人形を見て以來、眞實が己の妻を寧ろその人形の影にしか過ぎぬと痛感しその苦しみと悲しみに依つて死を決するのであるが、潤一郎がこの作に於いて女性の肉體描寫では寧ろ小うるさい程精微に描き出してゐるにも拘はらず、一人の男がその死を決するに至る動機たるそれ程重大な哲學と苦悶とについては彼は僅に五六十字の文字を十行ばかり費したに過ぎない。あまりにあつけない話ではな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いか。

彼の惡魔主義が一種の裝飾的思想に過ぎぬやうな氣のする僕には彼のプラトン的信念も亦同じやうに少々手輕過ぎるやうな氣がする。思想として彼の作品を見る場合それは單なる常識ではないけれども、マリオネットの世界に於ける童話的思想にしか僕には感ぜられない。小品的作者である場合これは決して苦にすべきではなかつたが、大きな骨組を支へるものとしては彼の思想は甚だしく力の弱いものに僕には感ぜられる。それが單に思想ばかりではなく作中人物の心理の中に穿入する場合に於いても僕はこれを感ずるのである。彼の描く善人も惡人も妖婦も貞女も悉く類型からたゞ一歩だけしか進めることの出來ないのはこれが爲めではあるまいか。また彼が「鮫人」「嘆きの門」等の大作を稿半ばにも充たずして擲つて了ふのは彼が自覺するとしないとに拘はらずこの困難の爲めに脅かされる結果ではないであらうか。疑ふらくは、聰明な潤一郎はこの點を自ら氣付いてゐて「呪はれたる戯曲」の如きその至難な部分だけを戯曲的効果で描かうとするのではないだらうか。また潤一郎は小說よりも戯曲の方が書き易いといふことを常に言つてゐたが、注意すべきことには戯曲は小說よりも心理的解剖或は描寫の簡單に濟む所の樣式である。

潤一郎が「十五夜物語」の如き作品をまたその他の多くの力作を失敗してゐる理由として遲筆な彼が雜誌編輯締切日の爲めにせき立てられるからではなからうかとも考へて見たけれども、この同情ある見方は彼の眞相を傳へ得ないやうだ。何故かとならば彼のやうに藝術に忠實でまた編輯者などを叱とも思はぬ好漢が、若し單にさういふ外面的理由からであるならば彼は恐らく悠然として事件の或ひは心理のクライマックスたる作の中心點を心ゆくまで書き續けるであらう。常に事件の後半以下に現れるのが原則である一篇の中心點が、遲筆な彼が書き疲れた後になつてやつとその困難な所に出逢ふといふ點をも汲まなければならぬけれど、然し僕はもう一編考へ直すのだ。誠に天分ある作者は困難に立ち向ふ時、その難しさを自覺すると同時に更に一層の力を倍加して、寧ろこの困難を自ら享樂し乍ら着々と解決して行くのが分相應の仕事をしてゐる時の藝術家の姿である。藝術的活動なるものは本來そのやうな性質をそれ自身で持つてゐる活動なのである。さればこそ凡ての傑作はそれが完結して了つた後も所謂綿々たる餘韻を以つてゐるのである。即ち餘韻とは困難に應じて更に湧き出す所の感興、紛糾に應じて更に澄み渡る透徹、それ等の有り餘つた力の無形なる現れに外ならぬのである。かう考へて來ると潤一郎はいつも力に餘つた力作を試みてゐるのではなかつたか――或は彼の構想力が彼の他の能力よりも一層嶄然と秀でてゐたと云つてもいゝかも知れない。尤も後のやうに言ひ換れば彼は素晴しい長所を持つた凡庸の作家といふことになり、前のやうに言へば氣の毒な然し乍ら偉大なる作家といふことになる。僕は言ひ直さずに彼を不具な大作家と考へて置き度い。

こゝで僕は潤一郎の構想力そのものについて一應考へて見ると、それは殆ど悉く對立應照から成立つてゐるのを發見する。「麒麟」の昔から「お才と巳之介」「法成寺物語」「金と銀」「鮫人」「AとBの話」「愛すればこそ」「神と人との間」「無明と愛染」から數へて來ると題からして既に對立的な句法を選んでゐるのが眼に立つ。思想家としてま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た心理的解剖家として單純な彼が應照と對立との上に著想を見出すのは甚だ面白い自然な現象である。然も彼の選ぶ對立は櫻柳の如く黑白の如く甚だ單純でその上にくつきりとしてゐる。凡ての藝術に於いて對立と應照とは甚だ屢〻行はれる組立てであつて、好んで之を擇ぶのは獨り潤一郎だけではないのに潤一郎の場合それ程強く目立つのは、彼のそれが餘りにくつきりと鮮明であるが爲めではなからうか。さうしてそれを少しでも緩和させるやうな中庸的の色調或ひは色彩が甚だ稀である。またその點に彼の特色がある。線の太い文章を以つて彼が單純な對照を然も千變萬化して曲折させる時、そこに自ら甚だグロテスクな趣きを示す。彼の構想は波がしらの下から富士山をのぞかせた北齋のそれと相通ずるところがある。この彼の構想上のリヅムを最も典型的に現したものは「愛すればこそ」である。それは成功した作品ではなかつたけれども（拙著「退屈讀本」秋風一夕話の中潤一郎に關する項目參照）彼の構想を見る點に於いては無視出來ない。彼が僕の「田園の憂欝」の筋を聞いてその構想の良きことを稱し「僕にはそのやうな筋は立たぬ」と云つたのはもとより彼が不遇な一作家を勇氣付ける爲めの言葉ではあつたらうが、あのやうな單純な同じやうな色調の積み重ねに依つて出來てゐる作品は彼には見掛けないのである――ほんのスケッチのやうなものは兎も角も、單に內容的にではなく潤一郎はまたその成功した童話劇「鶯姫」の如きは平安朝と現代とをくつきりと對立させてその華かな舞臺を一層鮮に廻轉させてゐる。

線の太い外面的な構想家である潤一郎はその性質に於てビクトル・ユーゴーに似てゐるやうな氣がする。尤もかう云ふ言ひ方は彼から賛成されないかも知れない。彼もまた自己に似た藝術家を好まず却つて自己に似ない作家を愛する人かも知れぬ。彼は彼自身の作品を模倣したやうに書かれた作品で氣に入つたものを發見することは出來ないと言つたこともある。單に己の同時代の採るにも足らぬエピゴーネンに就いてさう云つたばかりではなく、彼以前に彼と甚だしく類似した世界を藝術の國に於いて作り出したテオフイル・ゴーテイエエの作品をさへ彼は價値なきものゝやうに言ふ。然しゴーテイエエはその藝術に於いてまたその常住の世界に於いて誰が見たつて甚だしく潤一郎と相似通ふた作家ではないか。ポーよりもワイルドよりもゴーテイエエに彼は一番よく似てゐるではないか。また彼はボードレールを愛好したことがあるが、僕は彼の中からその風變りな好色以外には殆どボードレールと共通なものを發見し得ない。然もゴーテイエエは人も知る如くボードレールの無二の友であつたのである。さういへばゴーテイエエとボードレール、ボードレールと潤一郎、彼等の間には陰陽相牽く所の相性ともいふべき關係の何事かゞあるかも知れぬ。無論藝術家としては潤一郎等が陽性なのである。ゲミユートの深さに乏しい潤一郎はポーには餘り似るべくもない。ポーの場合にはその肉體的苦痛までがゲミユート化されてゐるのである。（因みに彼がゴオチエエの筆になつたもので只一つ面白いものは、そのボードレール全集に題した長序文だけだといふ。「金と銀」のなかの白痴になつた藝術家の頭のなかの世界は失語症に陷つてから後のボードレエルをゴオチエエの筆によつて知つた事に暗示されてゐると彼は僕に語つた。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

豐富な構想力を有しその能力の活動を喜ぶ彼は、たゞそこに構想があるの爲めを以つてゾラの平板をさへ認めてゐた。先日彼に會つて藝術を談じた時には彼はスタンダールを推稱して措かなかつた。この時の話は彼自身「饒舌錄」に書きかけてゐるやうだから諸君も何れ彼から直接に聽けるであらう。だから僕はこゝには傳へないけれども、異常な構想が後から後からと積み重つて然も大事件がビクともしない作者の冷たい筆力に依つてぐん／＼と片付けられて行くといふのだから、成程これは潤一郎好みに相違ないのだ。「饒舌錄」といへば先日芥川龍之介が珍らしく來訪して四方山の話の間に「饒舌錄」が話題になつた。龍之介は日常生活的の作品に興味を覺えない潤一郎とは全く反對の小說論を聞かせたものである。各人各說人各ゝ自分を語るのである。僕は源氏物語と枕の草紙との優劣を論じて潤一郎が「源氏」を龍之介が「枕」を推すのを聽いたことがあるが、彼等の小說論の相違も、彼等の凡ての體質や氣質に外ならないのである。潤一郎のスタンダール研究はきつと面白い結果を彼に及ぼすだらうと僕は思つてゐる。同じく先日の潤一郎との文藝談に潤一郎はポール・ハイゼやアンリー・ド・レニエエ、シユニツレル、及びアルチバーセフ等の名を揭げこれ等諸家の作品が彼に面白かつたことをも聞いたがなるほどそれ等の諸家各ゝ皆潤一郎と何物かの共通を思はせるではないか。また潤一郎は鏡花をさうして紅葉山人を愛好する。紅葉に對しては我々が思ひも及ばないほどの敬慕を持つてゐるらしい。交る友に依つてその人を知るが如く愛好する作家に依つて彼がどの系統の作家であるかゞ自ら明瞭になる。然もスタンダールとハイゼ、レニエエ、シユニツレル等の一群とは一見甚だ掛け離れてゐるやうな氣がする。さうして私はその何人についてもとより充分知らないことを恥かしく思ふが、それにしてもどう考へてもこの二組が共通でないと考へることの方がほんとうであると信ずる。して見ると潤一郎の中に二つのものがあつてそれが各々異つたものを受け入れるのであるらしい。

果然、潤一郎の中には彼自身は充分氣付いてゐて世間の人々が一向氣付かない所の別の一面がありそれが案外にも潤一郎の本質に近いものであるやうに僕は思ふのである。その特色とは何にか。都雅だと云つたならば人々は思ひがけないのに驚くかも知れぬ。

潤一郎はグロテスクな近代的鬼趣の美を見せびらかす癖に、都雅な一面はつゝまやかに之を見せるばかりである。いや／＼都雅そのものが本質的に控へ目な餘りに俗衆の目に入らぬものだといふ方がほんとうらしい。例へば之は少ゝ華か過ぎるがそれにしても「鶯姬」の如きもその一例である。「二人の稚兒」の如き好個の例である。また「痴人の愛」の發端の如き上々の例である。その他仔細に見たならばそれ／＼の作品に於いて部分々々に多少の例を發見するに違ひない。

僕はもう一つ世人を驚かさなければならぬ。それは潤一郎の作品の中に甚だ豐かなる人情のあることである。「異端者の悲しみ」「母を戀ふる記」「或る少年の怯れ」の如きまた必ずしもそれが題目になつてゐないまでも部分的に澤山の人情味を示してゐるのである。然し趣味として都會人であり個性としていさゝかつむじ曲りな彼はこの人情をその儘で發露させることを甚だ好まないかの傾きがあるが爲めにこの面白味は物の影になつて彼はれて了つてゐる。人情味といふのは世智

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を帶びたつまり常識的な抒情の畫である。潤一郎が自分の作品の中ではそれを示すことが少かつたけれども、彼が愛好する人々はみなこの人情美と都雅とを持つてゐるではないか。――それは外國の作家にあつては萎びた菫の匂ひのやうな少しばかり頽廢的なもので、我が國の作家の場合にはそれは淡い友染の模樣のやうである。さうだ。彼の都雅は優美ではあるが必ずしも高尙ではない。高尙と云ふやうな大宮人の雅びではなく寧ろ市井の洗練された好趣味である。この好趣味がしかし、彼をして印象派以後の洋畫の趣致を悉く拒否させた。さうして彼のグロテスク彼の近代性は今ではエドアード・マネの藝術のやうに古典的近代である。潤一郎がその世界に於ては甚だ接近してゐながら、フランク・ウェデキンドでないのは、その理由の一つが彼のこの好趣味、野性の滅却にある。

潤一郎の人を見る時、僕は彼がポーやボードレールやスタンダールやアルチバーセフを好むといふことを聞くよりもハイゼやレニエエやシュニツレルや紅葉山人を彼が愛すると聞くことの方が甚だ自然なやうな氣がする。彼の異樣な物に對する好みは彼の若さから來てゐたかも知れない。衒氣であるかも知れない。さうしてシャラタニズムであるかも知れない。それとも彼自ら好んで描く所の性慾的な何物かの變形であるかも知れぬ。

こゝで吾々はこの問題の多い異常なる一作家の就中最も異常な一面に於いて考へて見なければならぬ。彼が好んで描く所のフェチシズムやサソフイズムについての考察である。これはもとより如何に友人の間と雖も窺ひ知ることの出來ない一面で、また餘りに立ち入つて穿鑿すべきではない私的生活ではあるけれども、彼の作品のやうにそれがその全集の大部分を占めてゐる如き場合には、これをその著作の上から考へ知ることは必ずしも不可能ではなくまた人に對する敬意を失ふものでもないであらう。僕は彼の作品 The Affair of the two Watches が彼を知るが爲めには重要な作品だと言つたけれどもこの稍諧謔的な小品には彼の父なる人と彼の母なる人が多少鳥羽繪化せられ乍らもその面影を傳へてゐる。それに依ると彼の父はこの上なき好市民であつて彼の母は傳法肌な江戸辯を使ふ婦人である。彼の母は家付の娘で彼の最も律義な父は養子だと云ふことである。彼の母は富有な一商家に生れて若い頃には錦繪にまで描かれた美人であり、また奴僕に侍かれて育つた彼女は一切の家庭的勞働を甚だ不得手として好まなかつた。さうして父の失敗の爲めに家庭が衰へてからは彼の小心な父は己の非才の爲めに家付きの娘なる己の妻やまた子供達にまでも酷く氣を兼ねてゐたらしい。潤一郎は長男でありきつと母の愛護が深かつたからであらう。彼は父に對してよりも母に對する愛慕の情を機會ある每にその作品に於いて示してゐる。「母を戀ふる記」の如くこれを主題としたものもある。このやうな潤一郎が後年一種特別な、男子に向つて却つて高壓的な態度の女性を愛するに到つたかの如きは、明かに母に對する性的錯綜、エディポス的思慕の延長であると精神分析學者達は云ふかも知れない。彼の男子を屈服するが如き女性に對する愛好が先づそのやうな狀態で初まり、それが既に述べた彼の惡魔趣味と結

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

びつき、又その官能化が、彼の作中に屢現はれる如き女性を彼の世界に生み、それが實際生活的にも、創作生活的にも彼を牽きつけるものと考へるのは、餘りこぢつけ過ぎるだらうか？

兎もあれそんな風變りな女性が彼の作中に初期に於ては江戸前の形で中期以後には異國情緒的な形で現はれて來る事は諸君の餘りに明かに知るところである。殆んど二十年に亙るとする彼の創作生活に於て、纔に五篇かそこらの枯淡な東洋的小品「秋風」「二月堂の夕」等及び二三篇のメルヘン的小品を除いては、彼の作品の殆んど全部が一樣にこの反久遠女性的の匂を帶びてゐるのは、亦一奇である。彼はそのやうな女性を取り入れずしてはどんな構想をも考へ得ないかの如くにさへ見える。然し僕の好みから云へば、そのやうな彼の作品は、その色彩が濃厚であればあるほど、實は少々辟易するのである。それも「刺靑」や或は「人面疽」等の如く、抽象的に、又別の何物かの中に包みこまれてしまつた場合の如きは兎も角もとして、それが寫實的で緻密であればあるほど、僕には彼が餘りに物ずきに淫しすぎてゐるとしか思へない。多分僕が同好の士でないがためであらう。だが僕の好惡は別として、潤一郎がたとへば「靑塚氏の話」などに於て女性の肉體描寫に振ふ筆の精細丹念は驚嘆してもいゝ。

この種の女性を描いた作品では、やはり近作「痴人の愛」などが傑出してゐるのであらうか？ 然し僕の言ふのは肉體描寫あるがために傑出してゐるのではなく、もつと他の理由でこの作を佳作だと云ふのである。あの女主人公の肉體は、僕に云はせるとあれでも未だ書き過ぎてゐる。もつと節約することが出來はしないか。あの作品が多少冗漫に陷るのは、その部分ではないかと思ふ。又その主人公なる若い男がどういふ自己批判や生活反省を持つてゐるかなどにも、少しも觸れてゐないのを不滿に思ふ讀者もあり得ると思ふが、それにしても「痴人の愛」を僕は佳作だと云ふ。逆說的なことを云ふと思ふかも知れないが、あの作品はてんで初めから女主人公や主人公の內面に深入りしようとしなかつたところに、却て成功した理由がある――消極的な成功かも知れぬが。もし生ぢつか彼等の內面生活などに深入りしたならば、潤一郎は却て變なものにしてしまつたかも知れない。潤一郎は自らそれを知り、その主人公を單純な若い會社員の如き階級に擇んだ。そのために「痴人の愛」は初めから、もう心理小說である必要はなくなり、その代り一つの風俗小說となつてゐる。そうして其處にこの作の面白味が別に生じたわけである。簡素でこだはりのない筆致で然し例の都雅な趣をさへ持つてこの、若し心理小說としたならば必ずや小うるさい、そうして汚らしくならざるを得ないところのこの題目は、その方面では極あつさりと片づけられ、然し大正末期の眼あたらしい一種の男女及びその男女關係が一卷の風俗畫として精密に出來上つた。時代の相違こそあれ、これは紅葉の「多情多恨」などと見かけに於ては甚だ相對蹠し乍ら、作者の態度は實は大へん相似てゐる。その對蹠は單に明治二十年と大正十五年とである。紅葉山人を敬慕する潤一郎は、自らそれを認めるかどうかは知らぬが、結局彼も亦、紅葉山脈に屬するもので、その山脈としてこれを見れば正しく仰ぐべき一高峯である。僕は潤一郎がこの後、圓熟すると共にあくどいロマンテイツクな構想をぬきにして「痴人の愛」のやうなさまぐ＼な風俗畫を、こと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もなげに成功するのではないかと思つてゐる。既に述べたやうにもともとあまり思想的でなく、又心理解剖家でなく、一體が外面的な人である彼には、文明批評とか個性的心理とかまで掘り下げたものを要求するよりも、その點では唯單に世相とか人情とか云ふ位の程度に止めておいて、寧ろ面白い構圖を持つた新時代の風俗畫を氣樂に書いてもらつたならば、案外樂しめる作品を見ることが出來るだらうと信ずる。シユニツレルやポール・ハイゼやレニエの如きもつまりは國柄の變つたところの紅葉山脈ではないだらうか。

それにしてはアルチバセフや、スタンダアルを愛讀する彼の一面はどうなるだらうか。常に easy-going といふ言葉を使つて、それを好しとしない力作好みの彼は、單なる風俗小說だけでは氣に入らずに、何れは何とか一工夫ある世界を開拓するに相違ない。彼の勤勉と努力と、持つて生れた藝術に對する熱心とのために、僕はこの期待を安心して持つてもいゝやうに思ふ。至囑。未來をトすることは批評家の仕事ではない。豫言者でない僕はたゞ彼の將來を祝福して置き度い。

それ故、未來の彼について言葉を費す代りに、もう一度彼の過去の仕事を顧みると、その中で僕が見て成功してゐると思ふ作品には、少年少女を主題にしたものが多く——といふよりも潤一郎が少年少女を描きさへすれば、それが力作であると否とに拘らず、きつと成功してゐるとさへ思はれるばかりである。譬へば「少年」「戀を知る頃」「小さな王國」「鶯姫」「或る少年の怯れ」「母を戀ふる記」「白狐の湯」それに「痴人の愛」の發端など。これは僕自身を語るにしか過ぎないものであらうか。それとも作家潤一郎を知るために何かの鍵とならぬであらうか。

何かと盡さない所が多い。「本牧夜話」「赤い屋根」等の未だ一讀しない作もあるが、匆忙の際だからこれで止める。敢て潤一郎を論ずるとは言はない。ただ彼に關する漫談である。思ひかへして見ると、讚辭を呈すること少く、不滿ばかり數へ立てゝゐたやうだが、心ある讀者は多分その蔭に匿されてゐる僕の潤一郎に對する友愛を見拔くだらう。僕は堂々たる大家に對する敬意を以て、何の拘る心持をも必要とせず、忌憚なく言つた。信ずべくは、濶達な潤一郎は、年と共に加はるところの温かい表情を以て、きつとこの他山の石を微笑するだらう。

(終)

佐藤春夫著(改造社發行)

蝗の大旅行　定價三圓五十錢　送料二十二錢

ピネチヲ　定價一圓八十錢　送料十八錢

窓展く　定價二圓　送料二十錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

饒舌錄（感想）

谷崎潤一郎

○

前號の續きを書くのであるが、その前にちよつと橫道へ外れて、二月號の新潮合評會に出てゐる私の批評のことに就き一言したい。と云ふのは、近頃の私の傾向として小說はなるべく細工の入り組んだもの、神巧鬼工を弄したものでなければ面白くないと、前號で私が書いたのに對し、ちやうどそれと反對のことを芥川君が云つてゐるので、それに興味を感じたからである。芥川君の說に依ると、私は何か奇拔な筋と云ふことに囚はれ過ぎる、變てこなもの、奇想天外的なもの、大向うをアッと云はせるやうなものばかりを書きたがる。それがよくない。小說はさう云ふものではない。筋の面白さに藝術的價値はない。と、大體そんな趣旨かと思ふ。しかし私は不幸にして意見を異にするものである。筋の面白さは、云ひ換へれば物の組み立て方、構造の面白さ、建築的の美しさである。此れに藝術的價値がないとは云へない。（材料と組み立てとはまた自ら別問題だが、）勿論こればかりが唯一の價値ではないけれども、凡そ文學に於て構造的美觀を最も多量に持ち得るものは小說であると私は信じる。筋の面白さを除外するのは、小說と云ふ形式が持つ特權を捨ててしまふのである。さうして日本の小說に最も缺けてゐるところは、此の構成する力、いろいろ入り組んだ話の筋を幾何學的に組み立てる才能、に在ると思ふ。だから此の問題を特に此處に持ち出したのだが、一體日本人は文學に限らず、何事に就ても、此の方面の能力が乏しいのではなからうか。そんな能力は無くつても差支ない、東洋には東洋流の文學がある、と云つてしまへばそれまでだが、それなら小說と云ふ形式を擇ぶのはをかしい。それに同じ東洋でも、支那人は日本人に比べて案外構成の力があると思ふ（少くとも文學に於ては。）これは支那の小說や物語類を讀んでみれば誰でも左樣に感ずるであらう。日本にも昔から筋の面白い小說がないことはないが、少し長いものや變つたものは大概支那の を模倣した

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もので、而も本家のに較べると土臺がアヤフヤで、歪んだり曲つたりしてゐる。

私自身の作品に就ては、自分も日本人の一人である以上大きなことは云へないけれども、ただしかしながら此の方面に多大な興味は感じてゐるし、それを少しも邪道であるとは思つてゐない。尤も芥川君の「筋の面白さ」を攻擊する中には、組み立ての方面よりも或ひは寧ろ材料にあるのかも知れない。私が變な材料を擇びすぎる、「や、此れは奇拔な種を見付けた」と、さう思ふと、もうそれだけで作者自身が醉はされてしまふ。さうして徒らに荒唐奇怪な物語を作つて、獨りで嬉しがつてゐる。と云ふにあるらしい。けれども芥川君自身の場合はいざ知らず、私は昔から單なる思ひつきで創作したことはないつもりである。下らないものや、まづいものや、通俗的なものや、隨分お恥かしい出來榮えのものがあるけれども、たとへば今度の「クリップン事件」のやうなものでも、その構想は自分の内から湧き出したもので、借り物や一時の思ひつきではない。それがさう讀んで貰へないのは自分の至らぬせゐであるが、以上のことは私は自信を以て云へる。前號で趣味だの癖だのと云ふ文字を使つたのは、座談的に輕く云つたからであるが。私が變なものや有邪氣なものが好きなのは、實はもう少し深いところから來てゐるつもりだ。芥川君は私よりも自分自身を鞭うつやうな氣持ちで云つたのだらうだから、それなら私の關する限りでないけれども、私まで鞭うたれるのは願ひ下げにする。

作者が自分の作物の「筋の面白さ」に惑はされるとは、それに
される、醉つたやうになる、と云ふことだらうが、それなら寧ろさうであつた方がいいと思ふ。此れは各作者の體質にもよるから、一概には云へないけれども、私自身はいつでもさうだ。私はどんなつまらないものを書くときでも、多少醉つたやうにならなければ書けない。話の筋を組み立てるとは、數學的に計算をする意味ではない。矢張りそれだけの構想が内から燃え上つて來るべきだと思ふ。此の事に就ては偉い作曲家の例が引かれて、昔から云ひ古されてはゐるが。

それから「俗人にも分る筋の面白さ」と云ふ言葉もあるが、小說は多數の讀者を相手とする以上、それで一向差支ない。藝術的價値さへ變らなければ、俗人に分らないものよりは分るものの方がいい。妥協的氣分で云ふのでない限り、通俗を輕蔑するなと云ふ久米君の說（文藝春秋二月號）に私は贊成だ。

贊成ついでに、合評會で宇野君が「九月一日前後のこと」をつまらないと云つてゐるのは、作者自身も同感である。正に「あれは小說ではない」のだ。「から云ふものを見ると、此の人の文章は古くて實に常套的だ」と云はれても、一言もない。自分が惡いと思つたものをケナされるのは、いいと思つたものを褒められるのと同様に愉快だ。あんなものを面白がられては却て氣持ちが惡い。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前に云つたやうな意味で、私は「大菩薩峠」の如き筋で讀る小說の出ることを大變にいいことだと思つてゐる。低級な講談の蒸し返しを講談よりも尚下等にして、「大衆文藝」などと看板だけ塗り變へたのは感心出來ないが、眞の大衆文藝は結構である。沙翁でもゲーテでもトルストイでも、飛び抜けて偉大なもので大衆文藝ならざるはない。ただ「大菩薩峠」程度の創意と品格とはあつて欲しい。私があの中で一番好きなのは龍之介の殺人劍を表面へ現はさずに、雰圍氣を以て出してゐるところ、たとへば甲府の辻斬のくだりで、霧の深い夜に米友が出會ふ場面、鳰尻峠の三人の武士との立ち廻りで、その立ち廻りを描かずに峠の茶屋へ逃げ込んだ人々の恐怖を描き、佛頂寺彌助と重傷を負はされた侍との會話を敘し、蹌々踉々と草原をひとりさまよふ龍之介の風貌を述べてゐるあたり、その前であつたか後であつたか、宇津木兵馬が狼に喰ひ殺された賊の屍骸に刄物の痕を認めるところ、から云ふところは所謂「大衆文藝」だつたら、きつと表面へ出さずには措かない場面だが、それを悉く裏へ廻して、却つて凄味を添へてゐる手際は隅に置けない。それから白骨溫泉へ移つて、龍之介の眼病が癒ゆるが如く癒えざるが如く、じめじめとした、濕氣た冷たさが骨身に沁みる。これに配するに無邪氣で若いお雪ちやんを以てしてゐるのは常套手段であるけれども、コントラストとして或る程度まで成功してゐる。龍之介が獨り山道を歩きながら、路端に湧き出る淸水で眼を拭ふ一節、あすこは壓卷であると思つた。私も讀んでゐて眼に淸水の沁み込むのを覺えた。龍之介の人を殺すのが、果して龍之介が殺すのかどうかだんだん分らなくなつて、わざと曖昧にぼかされて行つて、最後に何とか云ふ淫亂な後家と番頭とが拷問の死に方をするのもいい。かうなつて來ると、一と入前の方の筆致の粗いのが惜まれてならない。濱姫の帶のくだりや古市のくだりなど、もう一遍書き直して讀ませて貰ひたいくらゐに思ふ。

○

「大菩薩峠」は次第に氣分小說になつて來たので、筋が冗漫になり、組み立ての緊密さが缺けてゐるのは是非もないが、組み立てと云ふ點で近頃私が驚いたのは、スタンダールの "The Charterhouse of Parma" である。この小說は英譯で五百ページからある。日本語にしたら千ページにもなる長篇で、ワーテルローの戰爭から伊太利の公國を舞臺にしたものだが、話の筋は複雜纏綿、波瀾重疊を極めてゐ[illegible]寸毫も長いと云ふ氣を起させない。寧ろ短か過ぎる感があるほど壓縮されてゐる。書き出しからワーテルローの戰場までが幾らか無味乾燥な嫌ひはあるが、しかし元來スタンダールと云ふ人はわざと乾燥な要約的な書き方をする人で、それが此の小說では、だんだん讀んで行くうちに却つて緊張味を帶び、異常な成功を收めてゐる。若し此の內容を、くだくだしい會話を入れたり、叙景をしたりして、新聞小說的に書いたら恐らく「大菩薩峠」くらゐの長さにすることは何でもなから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う。つまりこれほどの長さのものを五百ページにきつちり詰めて、殆んど一ページ一ページに百ページもの內容を充實させてあるのである。だから寸分の隙もなく無駄もない。葛藤に富んだ大事件の肉を削り、膏を漉し、血を絞り取つてしまつて、ただその骨格だけを殘した、やうな感じである。而もその中に出て來る王侯宰相才子佳人の性格は皆悉く驚嘆すべき鮮明さを以て浮き上つて居るのだから偉い。主人公のファブリチオは云ふ迄もないが、宰相のモスカ伯爵、此れが實によく描けてゐる。假りにも一小國の宰相を捉へて、その幅のある大きな性格、機略、聰明、熱情、嫉妬、戀愛等の複雜なる種々相を書き分けることは大變な仕事だ。然るにそれが實に簡結に、所に依つては十行二十行の描寫でさつさつと片附けられて行く。筋も隨分有り得べからざるやうな偶然事が、層々疊々と積み重なり、クライマックスの上にもクライマックスが盛り上つて行くのだが、かう云ふ場合、餘計な色彩や形容があると何だか嘘らしく思へるのに、骨組みだけで記錄して行くから、却つて現實味を覺える。小說の技巧上、嘘のことをほんたうらしく書くのには、——或ひはほんたうのことをほんたうらしく書くのにも、——出來るだけ簡淨な、枯淡な筆を用ひるに限る。此れはスタンダールから得る痛切な教訓だ。

スタンダールには此の外に"The Albess of Castro" "The Cenci"など云ふ、矢張り異常な出來事を扱つた短篇があつて、「カストロの尼僧」の最後の場面、「ウゴオネは行つた、さうして急いで戻つて來た、彼はエレナの死んでゐるのを發見した、匕首が彼女の心臟にあつた。」と、僅か一行半を以て結んであるところなど、支那の古典、例へば史記の文章を讀むやうな感じがある。ツェンチの一族の物語は、恰も豫審調書のやうな記述法を以てして、人物光景の躍動してゐること唯だ精妙と云ふの外はない。これほどの作家のものが、「赤と黑」と「戀愛論」を除いて、外に一向日本へ紹介されてゐないのは不思議なことだ。矢張りかう云ふ筋の面白いものは小說の邪道だと思はれてゐるせゐであらうか。彼の作品を讀んだあとで直ぐにキングスレーの「ハイペシア」を讀みかけたが、とても下らなく、無駄があつてふわふわしてゐて讀む氣になれない。スタンダールに比べると、メリメなども大分光彩を失ふであらう。これを日本に求めれば、內容こそ大に異るが、幸田露伴氏の「運命」や「幽情記」や「骨董」などの作品は、さすがに遜色がないやうに思ふ。

○

辻潤君が「或る青年の告白」を譯してゐるだけで、ヂョーヂ・ムーアも一向日本で評判されないやうである。ああ云ふ綴り種は一種の永井荷風（少し違ふが）のやうなもので、時勢に係はりがないからであらうか。尤もヂョーヂ・ムーアの特色は半分以上あの名文章の味ひにあるから、辻君の譯はどうだか知れないが、日本語に直したら案外詰まらなくなるかも知れない。

ムーアのものでは何と云つても自傳的作品が一番いい。「或る青年の告白」と"Memoirs of My Dead Life"——私は殊に後者が好きで、或る年の夏箱根の湖畔であれを讀んだ時は、恍惚として寢食を忘れた。「或る青年の告白」も冬の寒い晩に火が消えてしまつて顫へながら、夜を徹して讀んだ。それがもう三十六七の時だつたけれども、嘗て二十四五の新思潮時代に和辻哲郎、木村莊太、後藤末雄、大貫晶川等と文學藝術を談じ合つた頃のやうな興奮を覺えた。前者は老後の回想であつて、情調に於ては西洋の「雨瀟瀟」とも云ふべきもの。冒頭の倫敦の春の敍景"Lovers of Orelay"のくだりの戀の睦言、老年の下宿住まひのわびしい生活、人生の辛酸苦樂具に備はつて萬感交〻胸に迫るの思ひがする。それから私は馬鹿にムーアが好きになつて、自敍傳でない小說、"A Mummer's Wife"や"Esther Waters"を讀んで見たが、バルザックを崇拜する人に似合はず、此れはひどく地味な寫實物で、何だか德田秋聲氏に似てゐるやうな所があつて、とんと勝手が違つてしまつた。あの詩人風な人にこんな方面もあるのかと思つて、甚だ意外な感じがした。が、最近に至つて出版された二つの歷史小說は、筋は簡單で、結構配置の上に面白味はないけれども、自敍傳と同じく詩趣橫溢した敍情的氣分で、「エロイーズとアベラール」の如き二册で五百何十ページもあるものを、飽かせずに引き擦つて行く。二人が中世紀の巴里の都はリユウ・デ・シヤントルからオルレアンへ駈け落ちをする所など、一讀三嘆、まるで淨瑠璃の道行きを聽くやうである。それに會話をいちいち行を改めず、クオテーションマークもつけずに地の文と續けて書いてあり、"He said"とか"She said"とかの斷りもなしに、二人の言葉が一つのセンテンスの中に織り込まれてゐるところなどもあつて、一種の新體を開いてゐるのが、支那や日本の物語の書きざまに似てゐる。「ユリックとソラバ」の方は餘りに一本筋に過ぎ、且私には馴染のない愛蘭土の昔がたりなので少少退屈するが、文體は前者と同じで、部分部分には矢張り美しい。かう云ふ風に、筋で持つて行かずに氣分や情調で持つて行く歷史物も亦捨て難い。その代り此れで長篇を書くのは隨分むづかしからう。義太夫や平家琵琶を十段も聽かせるのと同じ手際がいる。

ムーアは既に六十幾つか七十以上か、よくは知らないが、餘程の歲に違ひなからう。あゝ云ふ肌合の人が、あの歲になつて尙あれだけの勞作をする元氣があるのは、矢張り西洋人の體質である。

（つゞく）



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

院長　醫學博士　瀨川昌世
副院長　醫學士　豐田作太郎
副院長　千葉醫學士　大濱喜作

瀨川小兒病院

X光線科特設

「隔離室完備」

東京神田駿河臺お茶の水

電話神田㉕四四一番
四四二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

泌尿科 淋病 梅毒

診察 午前九時より 午后八時まで

醫學博士 白井珍三郎

東京日本橋本石町十軒店
本石町電停前村田眼鏡舗横
電話大手八一一番

神經衰弱
腦神經
精神病

青山腦病院

東京市青山南町五(市電明治神宮前) 電話青山六五二番
府下松澤村松原(玉川電車下高井戸行山下降車)電話四谷七四〇六番

ドクトル 齋藤紀一
醫學博士 齋藤茂吉
醫學士 青木義作
千葉醫學士 齋藤平義智
千葉醫學士 齋藤爲助

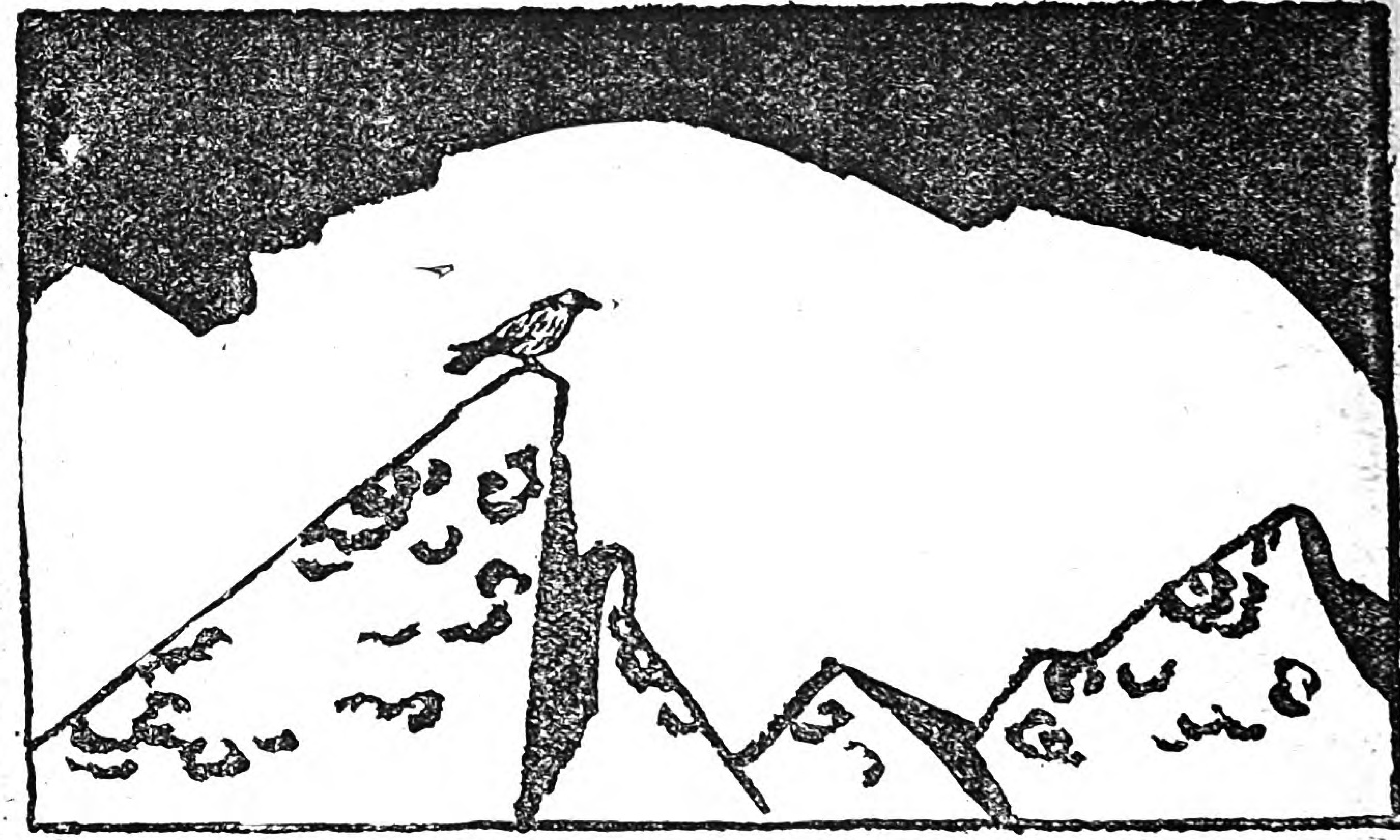
內科 產科 婦人科
耳鼻咽喉科 外科

東京小石川區大塚仲町(交叉點際)
電話小石川五一五番五一六番三七六三番

小石川病院

院長 醫學士 橋本節齋
副院長 醫學博士 高田蒔
產婦人科主任 醫學博士 山崎清

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



河童

どうか Kappa と發音して下さい。

芥川龍之介

序

これは或精神病院の患者、——第二十三號が誰にでもしやべる話である。彼はもう三十を越してゐるであらう。が、一見した所は如何にも若々しい狂人である。彼の半生の經驗は、——いや、そんなことはどうでも善い。彼は唯ぢつと兩膝をかかへ、時々窓の外へ目をやりながら、（鐵格子をはめた窓の外には枯れ葉さへ見えない樫の木が一本、雪曇りの空に枝を張つてゐた。）院長のS博士や僕を相手に長々とこの話をしやべりつづけた。尤も身ぶりはしなかつた訣ではない。彼はたとへば「驚いた」と言ふ時には急に顏をのけ反らせたりした。……

僕はかう云ふ彼の話を可なり正確に寫したつもりである。若し又誰か僕の筆記に飽き足りない人があるとすれば、東京市外××村のS精神病院を尋ねて見るが善い。年よりも若い第二十三號はまづ丁寧に頭を下げ、蒲團のない椅子を指さすであらう。それから憂鬱な微笑を浮かべ、靜かにこの話を繰り返すであらう。最後に、——僕はこの話を終つた時の彼の顏色を覺えてゐる。彼は最後に身を起すが早いか、忽ち拳骨をふりまはし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ながら、誰にでもかう怒鳴りつけるであらう。——「出て行け！　この悪黨めが！　貴樣も莫迦な、嫉妬深い、猥褻な、圖々しい、うぬ惚れきつた、殘酷な、蟲の善い動物なんだらう。出て行け！　この悪黨めが！」

一

三年前の夏のことです。僕は人並みにリユツク・サツクを背負ひ、あの上高地の溫泉宿から穗高山へ登らうとしました。穗高山へ登るのには御承知の通り梓川を遡る外はありません。僕は前に穗高山は勿論、槍ヶ岳にも登つてゐましたから、朝霧の下りた梓川の谷を案內者もつれずに登つて行きました。朝霧下りた梓川の谷を——しかしその霧はいつまでたつても晴れる景色は見えません。のみならず反つて深くなるのです。僕は一時間ばかり步いた後、一度は上高地の溫泉宿へ引き返すことにしようかと思ひました。けれども上高地へ引き返すにしても、兎に角霧の晴れるのを待つた上にしなければなりません。と云つて霧は一刻毎にずんずん深くなるばかりなのです。「ええ、一そ登つてしまへ。」——僕はかう考へましたから、梓川の谷を離れないやうに熊笹の中を分けて行きました。

しかし僕の目を遮るものはやはり深い霧ばかりです。尤も時々霧の中から太い毛生欅や樅の枝が靑あをと葉を垂らしたのも見えなかつた訣ではありません。それから又放牧の馬や牛も突然僕の前へ顏を出しました。けれどもそれ等は見えたと思ふと、忽ち又濛々とした霧の中に隱れてしまふのです。そのうちに足もくたびれて來れば、腹もだんだん減りはじめる、——おまけに霧に濡れ透つた登山服や毛布なども並み大抵の重さではありません。僕はとうとう我を折りましたから、岩にせかれてゐる水の音を便りに梓川の谷へ下りることにしました。

僕は水ぎはの岩に腰かけ、とりあへず食事にとりかかりました。コオンド・ビイフの罐を切つたり、枯れ枝を集めて火をつけたり、——そんなことをしてゐるうちに彼是十分はたつたでせう。その間にどこまでも意地の悪い霧はいつかほのぼのと晴れかかりました。僕はパンを嚙じりながら、ちよつと腕時計を覗いて見ました。時刻はもう一時二十分過ぎです。が、それよりも驚いたのは何か氣味の悪い顏が一つ、圓い腕時計の硝子の上へちらりと影を落したことです。僕は驚いてふり返りました。すると、——僕が河童と云ふものを見たのは實にこの時が始めてだつたのです。僕の後ろにある岩の上には畫にある通りの河童が一匹、片手は白樺の幹を抱へ、片手は目の上にかざしたなり、珍らしさうに僕を見おろしてゐました。

僕は呆つ氣にとられたまま、暫くは身動きもしずにゐました。河童もやはり驚いたと見え、目の上の手さへ動かしません。そのうちに僕は飛び立つが早いか、岩の上の河童へ躍りかかりました。同時に又河童も逃げ出しました。いや、恐らくは逃げ出したのでせう。實はひらりと身を反したと思ふと、忽ちどこかへ消えてしまつたのです。僕は愈驚きながら、熊笹の中を見まはしました。すると河童は逃げ腰を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

したなり、二三メエトル隔つた向うに僕を振り返つて見てゐるのです。それは不思議でも何でもありません。しかし僕に意外だつたのは河童の體の色のことです。岩の上に僕を見てゐた河童は一面に灰色を帶びてゐました。けれども今は體中すつかり緑いろに變つてゐるのです。僕は「畜生！」とおほ聲を擧げ、もう一度河童へ飛びかかりました。河童が逃げ出したのは勿論です。それから僕は三十分ばかり、熊笹を突きぬけ、岩を飛び越え、遮二無二河童を追ひつづけました。

河童も亦足の早いことは決して猿などに劣りません。僕は夢中になつて追ひかける間に何度もその姿を見失はうとしました。のみならず足を辷らして轉がつたことも度たびです。が、大きい橡の木が一本、太ぶとと枝を張つた下へ來ると、幸ひにも放牧の牛が一匹、河童の往く先へ立ち塞がりました。しかもそれは角の太い、目を血走らせた牡牛なのです。河童はこの牡牛を見ると、何か悲鳴を擧げながら、一きは高い熊笹の中へもんどりを打つやうに飛び込みました。僕は、――僕も「しめた」と思ひましたから、いきなりそのあとへ追ひすがりました。するとそこには僕の知らない穴でもあいてゐたのでせう。僕は滑かな河童の背中にやつと指先がさはつたと思ふと、忽ち深い闇の中へまつ逆さまに轉げ落ちました。が、我々人間の心はかう云ふ危機一髪の際にも途方もないことを考へるものです。僕は「あつ」と思ふ拍子にあの上高地の温泉宿の側に「河童橋」と云ふ橋があるのを思ひ出した。それから、――それから先のことは覺えてゐません。僕は唯目の前に稻妻に似たものを感じたぎり、いつの間にか正氣を失つてゐました。

二

そのうちにやつと氣がついて見ると、僕は仰向けに倒れたまま、大勢の河童にとり圍まれてゐました。のみならず太い嘴の上に鼻眼鏡をかけた河童が一匹、僕の側へ跪きながら、僕の胸へ聽診器を當ててゐました。その河童は僕が目をあいたのを見ると、僕に「静かに」と云ふ手眞似をし、それから誰か後ろにゐる河童へ Quax quax と聲をかけました。するとどこからか河童が二匹、擔架を持つて歩いて來ました。僕はこの擔架にのせられたまま、大勢の河童の群がつた中を靜かに何町か進んで行きました。僕の兩側に並んでゐる町は少しも銀座通りと違ひありません。やはり毛生欅の並み木のかげにいろいろの店が日除けを並べ、その又並み木に挾まれた道を自動車が何臺も走つてゐるのです。

やがて僕を載せた擔架は細い横町を曲つたと思ふと、或家の中へ舁ぎこまれました。それは後に知つた所によれば、あの鼻眼鏡をかけた河童の家、――チャックと云ふ醫者の家だつたのです。チャックは僕を小綺麗なベッドの上へ寢かせました。それから何か透明な水藥を一杯飮ませました。僕はベッドの上に横たはつたなり、チャックのするままになつてゐました。實際又僕の體は碌に身動きも出來ないほど、節々が痛んでゐたのですから。

チャックは一日に二三度は必ず僕を診察に來ました。又三日に一度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

位は僕の最初に見かけた河童、――バッグと云ふ漁師も尋ねて來ました。河童は我々人間が河童のことを知つてゐるよりも遙かに人間のことを知つてゐます。それは我々人間が河童を捕獲することよりもずつと河童が人間を捕獲することが多い爲でせう。捕獲と云ふのは當らないまでも、我々人間は僕の前にも度々河童の國へ來てゐるのです。のみならず一生河童の國に住んでゐたものも多かつたのです。なぜと言つて御覽なさい。僕等は唯河童ではない、人間であると云ふ特權の爲に働かずに食つてゐられるのです。現にバッグの話によれば、或若い道路工夫などはやはり偶然この國へ來た後、雌の河童を妻に娶り、死ぬまで住んでゐたと云ふことです。尤もその又雌の河童はこの國第一の美人だつた上、夫の道路工夫を誤魔化すのにも妙を極めてゐたと云ふことです。

僕は一週間ばかりたつた後、この國の法律の定める所により、「特別保護住民」としてチャックの隣に住むことになりました。僕の家は小さい割に如何にも瀟洒と出來上つてゐました。勿論この國の文明は我々人間の國の文明――少くとも日本の文明などと餘り大差はありません。往來に面した客間の隅には小さいピアノが一臺あり、それから又壁には額緣へ入れたエッティングなども懸つてゐました。唯肝腎の家をはじめ、テエブルや椅子の寸法も河童の身長に合はせてありますから、子供の部屋に入れられたやうにそれだけは不便に思ひました。

僕はいつも日暮れがたになると、この部屋にチャックやバッグを迎へ、河童の言葉を習ひました。いや、彼等ばかりではありません。特別保護住民だつた僕に誰も皆好奇心を持つてゐましたから、毎日血壓を調べて貰ひに、わざわざチャックを呼び寄せるゲエルと云ふ硝子會社の社長などもやはりこの部屋へ顏を出したものです。しかし最初の半月ほどの間に一番僕と親しくしたのはやはりあのバッグと云ふ漁夫だつたのです。

或生暖かい日の暮です。僕はこの部屋のテエブルを中に漁夫のバッグと向ひ合つてゐました。するとバッグはどう思つたか、急に默つてしまつた上、大きい目を一層大きくしてぢつと僕を見つめました。僕は勿論妙に思ひましたから、「Quax, Bag, quo quel quan?」と言ひました。これは日本語に翻譯すれば、「おい、バッグ、どうしたんだ」と云ふことです。が、バッグは返事をしません。のみならずいきなり立ち上ると、べろりと舌を出したなり、丁度蛙の刎ねるやうに飛びかかる氣色さへ示しました。僕は愈無氣味になり、そつと椅子から立ち上ると、一足飛びに戸口へ飛び出さうとしました。丁度そこへ顏を出したのは幸ひにも醫者のチャックです

「こら、バッグ、何をしてゐるのだ？」

チャックは鼻目金をかけたまま、かう云ふバッグを睨みつけました。するとバッグは恐れ入つたと見え、何度も頭へ手をやりながら、かう言つてチャックにあやまるのです。

「どうもまことに相すみません。實はこの旦那の氣味惡がるのが面白

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かつたものですから、つい調子に乘つて悪戯をしたのです。どうか旦那も堪忍して下さい。」

三

僕はこの先を話す前にちよつと河童と云ふものを說明して置かなければなりません。河童は未だに實在するかどうかも疑問になつてゐる動物です。が、それは僕自身が彼等の間に住んでゐた以上、少しも疑ふ餘地はない筈です。では又どう云ふ動物かと云へば、頭に短い毛のあるのは勿論、手足に水搔きのついてゐることも「水虎考略」などに出てゐるのと著しい違ひはありません。身長もざつと一メエトルを越えるか越えぬ位でせう。體重は醫者のチヤックによれば、二十ポンドから三十ポンドまで、——稀には五十何ポンド位の大河童もゐると言つてゐました。それから頭のまん中には楕圓形の皿があり、その又皿は年齡により、だんだん固さを加へるやうです。現に年をとつたバッグの皿は若いチヤックの皿などとは全然手ざはりも違ふのです。しかし一番不思議なのは河童の皮膚の色のことでせう。河童は我々人間のやうに一定の皮膚の色を持つてゐません。何でもその周圍の色と同じ色に變つてしまふ、——たとへば草の中にゐる時には草のやうに綠色に變り、岩の上にゐる時には岩のやうに灰色に變るのです。これは勿論河童に限らず、カメレオンにもあることです。或は河童は皮膚組織の上に何かカメレオンに近い所を持つてゐるのかも知れません。僕はこの事實を發見した時、西國の河童は綠色であり、東北の河童は赤いと云ふ民俗學上の記錄を思ひ出しました。のみならずバッグを追ひかける時、突然どこへ行つたのか、見えなくなつたことを思ひ出しました。しかも河童は皮膚の下に餘程厚い脂肪を持つてゐると見え、この地下の國の溫度は比較的低いのにも關らず、（平均華氏五十度前後です。）着物と云ふものを知らずにゐるのです。勿論どの河童も目金をかけたり、卷煙草の箱を携へたり、金入れを持つたりはしてゐるでせう。しかし河童はカンガルウのやうに腹に袋を持つてゐますから、それ等のものをしまふ時にも格別不便はしないのです。唯僕に可笑しかつたのは腰のまはりさへ蔽はないことです。僕は或時この習慣をなぜかとバッグに尋ねて見ました。するとバッグはのけぞつたまま、いつまでもげらげら笑つてゐました。おまけに「わたしはお前さんの隱してゐるのが可笑しい」と返事をしました。

四

僕はだんだん河童の使ふ日常の言葉を覺えて來ました。從つて河童の風俗や習慣ものみこめるやうになつて來ました。その中でも一番不思議だつたのは河童は我々人間の眞面目に思ふことを可笑しがる、同時に我々人間の可笑しがることを眞面目に思ふ——かう云ふとんちんかんな習慣です。たとへば我々人間は正義とか人道とか云ふことを眞面目に思ふ、しかし河童はそんなことを聞くと、腹をかかへて笑ひ出すのです。つまり彼等の滑稽と云ふ觀念は我々の滑稽と云ふ觀念と全然標準を異にしてゐるのでせう。僕は或時醫者のチヤックと産兒制限

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の話をしてゐました。するとチャックは大口をあいて、鼻眼鏡の落ちるほど笑ひ出しました。僕は勿論腹が立ちましたから、何が可笑しいかと詰問しました。何でもチャックの返答は大體かうだつたやうに覺えてゐます。尤も多少細かい所は間違つてゐるかも知れません。何しろまだその頃は僕も河童の使ふ言葉をすつかり理解してゐなかつたのですから。

「しかし兩親の都合ばかり考へてゐるのは可笑しいですからね。どうも餘り手前勝手ですからね。」

その代りに我々人間から見れば、實際又河童のお產位、可笑しいものはありません。現に僕は暫くたつてから、バッグの細君のお產をする所をバッグの小屋へ見物に行きました。河童もお產をする時には我々人間と同じことです。やはり醫者や產婆などの助けを借りてお產をするのです。けれどもお產をするとなると、父親は電話でもかけるやうに母親の…………をつけ、「お前はこの世界へ生れて來るかどうか、よく考へた上で返事をしろ。」と大きな聲で尋ねるのです。バッグもやはり膝をつきながら、何度も繰り返してから言ひました。それからテエブルの上にあつた消毒用の水藥で嗽ひをしました。すると細君の腹の中の子は多少氣兼でもしてゐると見え、かう小聲に返事をしました。

「僕は生れたくはありません。第一僕のお父さんの遺傳は精神病だけでも大へんです。その上僕は河童的存在を惡いと信じてゐますから。」

バッグはこの返事を聞いた時、てれたやうに頭を掻いてゐました。が、そこにゐ合せた產婆は忽ち細君の……へ太い硝子の管を突きこみ、何か液體を注射しました。すると細君はほつとしたやうに太い息を洩らしました。同時に又今まで大きかつた腹は水素瓦斯を拔いた風船のやうにへたへたと縮んでしまひました。

かう云ふ返事をする位ですから、河童の子供は生れるが早いか、勿論歩いたりしやべつたりするのです。何でもチャックの話では出產後二十六日目に神の有無に就いて講演をした子供もあつたとか云ふことです。尤もその子供は二月目には死んでしまつたと云ふことですが。

お產の話をした次手ですから、僕がこの國へ來た三月目に偶然或街の角で見かけた、大きいポスタアの話をしませう。その大きいポスタアの下には喇叭を吹いてゐる河童だの劍を持つてゐる河童だのが十二三匹描いてありました。それから又上には河童の使ふ、丁度時計のゼンマイに似た螺旋文字が一面に並べてありました。この螺旋文字を飜譯すると、大體かう云ふ意味になるのです。これも或は細かい所は間違つてゐるかも知れません。が、兎に角僕としては僕と一しよに歩いてゐた、ラップと云ふ河童の學生が大聲に讀み上げてくれる言葉を一一ノオトにとつて置いたのです。

遺傳的義勇隊を募る!!!
健全なる男女の河童よ!!!

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

惡遺傳を撲滅する爲に
不健全なる男女の河童と結婚せよ!!!

僕は勿論その時にもそんなことの行はれないことをラップに話して聞かせました。するとラップばかりではない、ボスタアの近所にゐた河童は悉くげらげら笑ひ出しました。

「行はれない？　だつてあなたの話ではあなたがたもやはり我々のやうに行つてゐると思ひますがね。あなたは令息が女中に惚れたり、令孃が運轉手に惚れたりするのは何の爲だと思つてゐるのです？　あれは皆無意識的に惡遺傳を撲滅してゐるのですよ。第一この間あなたの話したあなたがた人間の義勇隊よりも、――一本の鐵道を奪ふ爲に互に殺し合ふ義勇隊ですね、――ああ云ふ義勇隊に比べれば、ずつと僕たちの義勇隊は高尚ではないかと思ひますがね。」

ラップは眞面目にかう言ひながら、しかも太い腹だけは可笑しさうに絶えず浪立たせてゐました。が、僕は笑ふどころか、慌てて或河童を掴まへようとしました。それは僕の油斷を見すまし、その河童が僕の萬年筆を盜んだことに氣がついたからです。しかし皮膚の滑かな河童は容易に我々には掴まりません。その河童もぬらりと辷り抜けるが早いか一散に逃げ出してしまひました。丁度蚊のやうに痩せた體を倒れるかと思ふ位のめらせながら。

五

僕はこのラップと云ふ河童にバッグにも劣らぬ世話になりました。が、その中でも忘れられないのはトックと云ふ河童に紹介されたことです。トックは河童仲間の詩人です。詩人が髪を長くしてゐることは我々人間と變りません。僕は時々トックの家へ退屈凌ぎに遊びに行きました。トックはいつも狹い部屋に高山植物の鉢植ゑを並べ、詩を書いたり煙草をのんだり、如何にも氣樂さうに暮らしてゐました。その又部屋の隅には雌の河童が一匹、（トックは自由戀愛家ですから、細君と云ふものは持たないのです。）編み物か何かしてゐました。トックは僕の顔を見ると、いつも微笑してから言ふのです。（尤も河童の微笑するのは餘り好いものではありません。少くとも僕は最初のうちは寧ろ無氣味に感じたものです。）

「やあ、よく來たね。まあ、その椅子にかけ給へ。」

トックはよく河童の生活だの河童の藝術だのの話をしました。トックの信ずる所によれば、當り前の河童の生活位、莫迦げてゐるものはありません。親子夫婦兄弟などと云ふのは悉く互に苦しめ合ふことを唯一の樂しみにして暮らしてゐるのです。殊に家族制度と云ふものは莫迦げてゐる以上にも莫迦げてゐるのです。トックは或時窓の外を指さし、「見給へ。あの莫迦げさ加減を！」と吐き出すやうに言ひました。窓の外の往來にはまだ年の若い河童が一匹、兩親らしい河童を始め、七八匹の雌雄の河童を頸のまはりへぶら下げながら、息も絶え絶えに歩いてゐました。しかし僕は年の若い河童の犧牲的精神に感心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しましたから、反つてその健氣さを褒め立てました。

「ふん、君はこの國でも市民になる資格を持つてゐる。……時に君は社會主義者かね？」

僕は勿論 qua（これは河童の使ふ言葉では「然り」と云ふ意味を現すのです。）と答へました。

「では百人の凡人の爲に甘んじて一人の天才を犧牲にすることも顧みない筈だ。」

「では君は何主義者だ？　誰かトック君の信條は無政府主義だと言つてゐたが、……」

「僕か？　僕は超人（直譯すれば超河童です。）だ。」

トックは昂然と言ひ放ちました。かう云ふトックは藝術の上にも獨特な考へを持つてゐます。トックの信ずる所によれば、藝術は何ものの支配をも受けない、藝術の爲の藝術である、從つて藝術家たるものは何よりも先に善惡を絕した超人でなければならぬと云ふのです。尤もこれは必しもトック一匹の意見ではありません。トックの仲間の詩人たちは大抵同意見を持つてゐるやうです。現に僕はトックと一しよに度たび超人倶樂部へ遊びに行きました。超人倶樂部に集まつて來るのは詩人、小說家、戲曲家、批評家、畫家、音樂家、彫刻家、藝術上の素人等です。しかしいづれも超人です。彼等は電燈の明るいサロンにいつも快活に話し合つてゐました。のみならず時には得々と彼等の超人ぶりを示し合つてゐました。たとへば或彫刻家などは大きい鬼羊齒の鉢植ゑの間に年の若い河童をつかまへながら、頻に……を弄んでゐました。又或雌の小說家などはテエブルの上に立ち上つたなり、アブサントを六十本飲んで見せました。尤もこれは六十本目にテエブルの下へ轉げ落ちるが早いか、忽ち往生してしまひましたが。

僕は或月の好い晩、詩人のトックと肘を組んだまま、超人倶樂部から歸つて來ました。トックはいつになく沈みこんで一ことも口を利かずにゐました。そのうちに僕等は火かげのさした、小さい窓の前を通りかかりました。その又窓の向うには夫婦らしい雌雄の河童が二匹、三匹の子供の河童と一しよに晩餐のテエブルに向つてゐるのです。するとトックはため息をしながら、突然かう僕に話しかけました。

「僕は超人的戀愛家だと思つてゐるがね、ああ云ふ家庭の容子を見ると、やはり羨しさを感じるんだよ。」

「しかしそれはどう考へても、矛盾してゐるとは思はないかね？」

けれどもトックは月明りの下にぢつと腕を組んだまま、あの小さい窓の向うを、――平和な五匹の河童たちの晩餐のテエブルを見守つてゐました。それから暫くしてから答へました。

「あすこにある玉子燒は何と言つても、戀愛などよりも衞生的だからね。」

六

實際又河童の戀愛は我々人間の戀愛とは餘程趣を異にしてゐます。雌の河童はこれぞと云ふ雄の河童を見つけるが早いか、雄の河童

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を捉へるのに如何なる手段も顧みません、一番正直な雌の河童は遮二無二雄の河童を追ひかけるのです。現に僕は氣違ひのやうに雄の河童を追ひかけてゐる雌の河童を見かけました。いや、それぱかりではありません。若い雌の河童は勿論、その河童の兩親や兄弟まで一しよになつて追ひかけるのです。雄の河童こそ見じめです。何しろさんざん逃げまはつた揚句、運好くつかまらずにすんだとしても、二三箇月は床についてしまふのですから。僕は或時僕の家にトックの詩集を讀んでゐました。するとそこへ駈けこんで來たのはあのラップと云ふ學生です。ラップは僕の家へ轉げこむと、床の上へ倒れたなり、息も切れ切れにかう言ふのです。

「大變だ！　とうとう僕は抱きつかれてしまつた！」

僕は咄嗟に詩集を投げ出し、戸口の錠をおろしてしまひました。しかし鍵穴から覗いて見ると、硫黄の粉末を顔に塗つた、背の低い雌の河童が一匹、まだ戸口にうろついてゐるのです。ラップはその日から何週間か僕の床の上に寢てゐました。のみならずいつかラップの嘴はすつかり腐つて落ちてしまひました。

尤も又時には雌の河童を一生懸命に追ひかける雄の河童もないではありません。しかしそれもほんたうの所は追ひかけずにはゐられないやうに雌の河童が仕向けるのです。僕はやはり氣違ひのやうに雌の河童を追ひかけてゐる雄の河童も見かけました。雌の河童は逃げて行くうちにも、時々わざと立ち止まつて見たり、四つん這ひになつたりして見せるのです。おまけに丁度好い時分になると、さもがつかりしたやうに樂々とつかませてしまふのです。僕の見かけた雄の河童は雌の河童を抱いたなり、暫くそこに轉がつてゐました。が、やつと起き上つたのを見ると、失望と云ふか、後悔と云ふか、兎に角何とも形容出來ない、氣の毒な顔をしてゐました。しかしそれはまだ好いのです。これも僕の見かけた中に小さい雄の河童が一匹、雌の河童を追ひかけてゐました。雌の河童は例の通り、誘惑的遁走をしてゐるのです。するとそこへ向うの街から大きい雄の河童が一匹、鼻息を鳴らせて歩いて來ました。雌の河童は何かの拍子にふとこの雄の河童を見ると「大變です！　助けて下さい！　あの河童はわたしを殺さうとするのです！」と金切り聲を出して叫びました。勿論大きい雄の河童は忽ち小さい河童をつかまへ、往來のまん中へねぢ伏せました。小さい河童は水掻きのある手に二三度空を摑んだなり、とうとう死んでしまひました。けれどももうその時には雌の河童はにやにやしながら、大きい河童の頸つ玉へしつかりしがみついてしまつてゐたのです。

僕の知つてゐた雄の河童は誰も皆言ひ合はせたやうに雌の河童に追ひかけられました。勿論妻子を持つてゐるバッグでもやはり追ひかけられたのです。のみならず二三度はつかまつたのです。唯マッグと云ふ哲學者だけは（これはあのトックと云ふ詩人の隣にゐる河童です。）一度もつかまつたことはありません。これは一つにはマッグ位、醜い河童も少ない爲でせう。しかし又一つにはマッグだけは餘り往來へ顔

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を出さずに家にばかりゐる爲です。僕はこのマッグの家へも時々話しに出かけました。マッグはいつも薄暗い部屋に七色の色硝子のランタンをともし、脚の高い机に向ひながら、厚い本ばかり讀んでゐるのです。僕は或時かう云ふマッグと河童の戀愛を論じ合ひました。

「なぜ政府は雌の河童が雄の河童を追ひかけるのをもつと嚴重に取り締らないのです？」

「それは一つには官吏の中に雌の河童の少ない爲ですよ。雌の河童は雄の河童よりも一層嫉妬心は強いものですからね、雌の河童の官吏さへ殖ゑれば、きつと今よりも雄の河童は追ひかけられずに暮せるでせう。しかしその効力も知れたものですね。なぜと言つて御覽なさい。官吏同志でも雌の河童は雄の河童を追ひかけますからね。」

「ぢやあなたのやうに暮してゐるのは一番幸福な訣ですね。」

するとマッグは椅子を離れ、僕の兩手を握つたまま、ため息と一しよにかう言ひました。

「あなたは我々河童ではありませんから、おわかりにならないのも尤もです。しかしわたしもどうかすると、あの恐ろしい雌の河童に追ひかけられたい氣も起るのですよ。」

七

僕は又詩人のトックと度たび音樂會へも出かけました。が、未だに忘れられないのは三度目に聽きに行つた音樂會のことです。尤も會場の容子などは餘り日本と變つてゐません。やはりだんだんせり上つた席に雌雄の河童が三四百匹、いづれもプログラムを手にしながら、一心に耳を澄ませてゐるのです。僕はこの三度目の音樂會の時にはトックやトックの雌の河童の外にも哲學者のマッグと一しよになり、一番前の席に坐つてゐました。するとセロの獨奏が終つた後、妙に目の細い河童が一匹、無造作に譜本を抱へたまま、壇の上へ上つて來ました。この河童はプログラムの教へる通り、名高いクラバックと云ふ作曲家です。プログラムの教へる通り、——いや、プログラムを見るまでもありません。クラバックはトックが屬してゐる超人倶樂部の會員ですから、僕も亦顏だけは知つてゐるのです。

「Lied——Craback」（この國のプログラムも大抵は獨逸語を並べてゐました。）

クラバックは盛んな拍手の中にちよつと我々へ一禮した後、靜にピアノの前へ歩み寄りました。それからやはり無造作に自作のリイドを彈きはじめました。クラバックはトックの言葉によれば、この國の生んだ音樂家中、前後に比類のない天才ださうです。僕はクラバックの音樂は勿論、その又餘技の抒情詩にも興味を持つてゐましたから、大きい弓なりのピアノの音に熱心に耳を傾けてゐました。トックやマッグも恍惚としてゐたことは或は僕よりも勝つてゐたでせう。が、あの美しい（少くとも河童たちの話によれば）雌の河童だけはしつかりプログラムを握つたなり、時々さも苛立たしさうに長い舌をべろべろ出してゐました。これはマッグの話によれば、何でも彼是十年前にクラ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

パックを掴まへそこなつたものですから、未だにこの音樂家を目の敵にしてゐるのだとか云ふことです。

　クラバックは全身に情熱をこめ、戰ふやうにピアノを彈きつゞけました。すると突然會場の中に神鳴りのやうに響渡つたのは「演奏禁止」と云ふ聲です。僕はこの聲にびつくりし、思はず後をふり返りました。聲の主は紛れもない、一番後の席にゐる身の丈拔群の巡査です、巡査は僕がふり向いた時、悠然と腰をおろしたまま、もう一度前よりもおほ聲に「演奏禁止」と怒鳴りました。それから、——

　それから先は大混亂です。「警官横暴！」「クラバック、彈け！　彈け！」「莫迦！」「畜生！」「ひつこめ！」「負けるな！」——かう云ふ聲の湧き上つた中に椅子は倒れる、プログラムは飛ぶ、おまけに誰か投げるのか、サイダアの空罎や石ころや噛ぢりかけの胡瓜さへ降つて來るのです。僕は呆つ氣にとられましたから、トックにその理由を尋ねようとしました。が、トックも興奮したと見え、椅子の上に突つ立ちながら、「クラバック、彈け！　彈け！」と喚きつゞけてゐます。のみならずトックの雌の河童もいつの間に敵意を忘れたのか、「警官横暴」と叫んでゐることは少しもトックに變りません。僕はやむを得ずマッグに向かひ、「どうしたのです？」と尋ねて見ました。

「これですか？　これはこの國ではよくあることですよ。元來畫だの文藝だのは……」

　マッグは何か飛んで來る度にちよつと頸を縮めながら、不相變靜に說明しました。

「元來畫だの文藝だのは誰の目にも何を表はしてゐるかは兎に角ちやんとわかる筈ですから、この國では決して發賣禁止や展覽禁止は行はれません。その代りにあるのが演奏禁止です。何しろ音樂と云ふものだけはどんなに風俗を壞亂する曲でも、耳のない河童にはわかりませんからね。」

「しかしあの巡査は耳があるのですか？」

「さあ、それは疑問ですね。多分今の旋律を聞いてゐるうちに細君と一しよに寢てゐる時の心臟の鼓動でも思ひ出したのでせう。」

　かう云ふ間にも大騷ぎは愈盛んになるばかりです。クラバックはピアノに向つたまま、傲然と我々をふり返つてゐました。が、いくら傲然としてゐても、いろいろのものの飛んで來るのはよけない訣に行きません。從つてつまり二三秒置きに折角の態度も變つた訣です。しかし兎に角大體としては大音樂家の威嚴を保ちながら、細い目を凄まじく赫やかせてゐました。僕は——僕も勿論危險を避ける爲にトックを小楯にとつてゐたものです。が、やはり好奇心に驅られ、熱心にマッグと話しつゞけました。

「そんな檢閲は亂暴ぢやありませんか？」

「何、どの國の檢閲よりも却つて進步してゐる位ですよ。たとへば××を御覽なさい。現につひ一月ばかり前にも、……」

　丁度かう言ひかけた途端です。マッグは生憎腦天に空罎が落ちたも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のですから、Quack（これは唯の間投詞です）と一聲叫んだぎり、とうとう氣を失つてしまひました。

八

僕は硝子會社の社長のゲエルに不思議にも好意を持つてゐました。ゲエルは資本家中の資本家です。恐らくはこの國の河童の中でも、ゲエルほど大きい腹をした河童は一匹もゐなかつたのに違ひありません。しかし茘枝に似た細君や胡瓜に似た子供を左右にしながら、安樂椅子に坐つてゐる所は殆ど幸福そのものです。僕は時々裁判官のペップや醫者のチャックにつれられてゲエル家の晩餐へ出かけました。又ゲエルの紹介狀を持つてゲエルやゲエルの友人たちが多少の關係を持つてゐるいろいろの工場も見て歩きました。そのいろいろの工場の中でも殊に僕に面白かつたのは書籍製造會社の工場です。僕は年の若い河童の技師とこの工場の中へはいり、水力電氣を動力にした、大きい機械を眺めた時、今更のやうに河童の國の機械工業の進歩に驚嘆しました。何でもそこでは一年間に七百萬部の本を製造するさうです。が、僕を驚かしたのは本の部數ではありません。それだけの本を製造するのに少しも手數のかからないことです。何しろこの國では本を造るのに唯機械の漏斗形の口へ紙とインクと灰色をした粉末とを入れるだけなのですから。それ等の原料は機械の中へはいると、殆ど五分とたたないうちに菊版、四六版、菊半裁版などの無數の本になつて出て來るのです。僕は瀑のやうに流れ落ちるいろいろの本を眺めながら、反り身になつた河童の技師にその灰色の粉末は何と云ふものかと尋ねて見ました。すると技師は黒光りに光つた機械の前に佇んだまま、つまらなさうにかう返事をしました。

「これですか？　これは驢馬の腦髓ですよ。ええ、一度乾燥させてから、ざつと粉末にしただけのものです。時價は一噸二三錢ですがね。」

勿論かう云ふ工業上の奇蹟は書籍製造會社にばかり起つてゐる訣ではありません。繪畫製造會社にも、音樂製造會社にも、同じやうに起つてゐるのです。實際又ゲエルの話によれば、この國では平均一箇月に七八百種の機械が新案され、何でもずんずん人手を待たずに大量生産が行はれるさうです。從つて又職工の解雇されるのも四五萬匹を下らないさうです。その癖まだこの國では毎朝新聞を讀んでゐても、一度も罷業と云ふ字に出會ひません。僕はこれを妙に思ひましたから、或時又ペップやチャックとゲエル家の晩餐に招かれた機會にこのことをなぜかと尋ねて見ました。

「それはみんな食つてしまふのですよ。」

食後の葉卷を啣へたゲエルは如何にも無造作にかう言ひました。しかし「食つてしまふ」と云ふのは何のことだかわかりません。すると鼻眼金をかけたチャックは僕の不審を察したと見え、横あひから説明を加へてくれました。

「その職工をみんな殺してしまつて、肉を食料に使ふのです。ここにある新聞を御覽なさい。今月は丁度六萬四千七百六十九匹の職工が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

解雇されましたから、それだけ肉の價段も下った訳ですよ。」
「職工は默って殺されるのですか？」
「それは騷いでも仕かたはありません。職工屠殺法があるのですから。」
これは山桃の鉢植ゑを後に苦い顔をしてゐたペップの言葉です。僕は勿論不快を感じました。しかし主人公のゲエルは勿論、ペップやチャックもそんなことは當然と思ってゐるらしいのです。現にチャックは笑ひながら、嘲るやうに僕に話しかけました。
「つまり餓死したり自殺したりする手數を國家的に省略してやるのですね。ちよつと有毒瓦斯を嗅がせるだけですから、大した苦痛はありませんよ。」
「けれどもその肉を食ふと云ふのは、……」
「常談を言ってはいけません。あのマッグに聞かせたら、さぞ大笑ひに笑ふでせう。あなたの國でも第四階級の娘たちは賣笑婦になってゐるではありませんか？　職工の肉を食ふことなどに憤慨したりするのは感傷主義ですよ。」
かう云ふ問答を聞いてゐたゲエルは手近いテエブルの上にあったサンド・ウイッチの皿を勸めながら、恬然と僕にかう言ひました。
「どうです？　一つとりませんか？　これも職工の肉ですがね。」
僕は勿論辟易しました。いや、そればかりではありません。ペップやチャックの笑ひ聲を後にゲエル家の客間を飛び出しました。それは丁度家々の空に星明りも見えない荒れ模樣の夜です。僕はその闇の中を僕の住居へ歸りながら、のべつ幕なしに嘔吐を吐きました。夜目にも白じらと流れる嘔吐を。

九

しかし硝子會社の社長のゲエルは人懷こい河童だったのに違ひません。僕は度たびゲエルと一しよにゲエルの屬してゐる倶樂部へ行き、愉快に一晩を暮らしました。それは一つにはその倶樂部はトックの屬してゐる超人倶樂部よりも遙かに居心の善かった爲です。のみならず又ゲエルの話は哲學者のマッグの話のやうに深みを持ってゐなかったにせよ、僕には全然新らしい世界を、――廣い世界を覗かせました。ゲエルは、いつも純金の匙に珈琲の茶碗をかきまはしながら、快活にいろいろの話をしたものです。
何でも或霧の深い晩、僕は冬薔薇を盛った花瓶を中にゲエルの話を聞いてゐました。それは確か部屋全體は勿論、椅子やテエブルも白い上に細い金の緣をとったセセッション風の部屋だったやうに覺えてゐます。ゲエルはふだんよりも得意さうに顔中に微笑を漲らせたまま、丁度その頃天下を取ってゐた Quorax 黨内閣のことなどを話しました。クオラックスと云ふ言葉は唯意味のない間投詞ですから、「おや」とでも譯す外はありません。が、兎に角何よりも先に「河童全體の利益」と云ふことを標榜してゐた政黨だったのです。
「クオラックス黨を支配してゐるものは名高い政治家のロッペです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『正直は最良の外交である』とはビスマルクの言つた言葉でせう。しかしロッペは正直を内治の上にも及ぼしてゐるのです。……」

「けれどもロッペの演説は……」

「まあ、わたしの言ふことをお聞きなさい。あの演説は勿論悉く譃です。が、譃と云ふことは誰でも知つてゐますから、畢竟正直と變らないでせう。それと一概に譃と云ふのはあなたがただけの偏見ですよ。我々河童はあなたがたのやうに、……しかしそれはどうでもよろしい。わたしの話したいのはロッペのことです。ロッペはクオラックス黨を支配してゐる、その又ロッペを支配してゐるものはPou-Fou新聞の（この『プウ・フウ』と云ふ言葉もやはり意味のない間投詞です。若し強いて譯すれば、『ああ』とでも云ふ外はありません。）社長のクイクイです。が、クイクイも彼自身の主人と云ふ譯には行きせません。クイクイを支配してゐるものはあなたの前にゐるゲエルです。」

「けれども――これは失禮かも知れませんけれども、プウ・フウ新聞は勞働者の味かたをする新聞でせう。その社長のクイクイもあなたの支配を受けてゐると云ふのは、……」

「プウ・フウ新聞の記者たちは勿論勞働者の味かたです。しかし記者たちを支配するものはクイクイの外はありますまい。しかもクイクイはこのゲエルの後援を受けずにはゐられないのです。」

ゲエルは不相變微笑しながら、純金の匙をおもちやにしてゐます。僕はかう云ふゲエルを見ると、ゲエル自身を憎むよりも、プウフウ新聞の記者たちに同情の起るのを感じました。するとゲエルは僕の無言に忽ちこの同情を感じたと見え、大きい腹を膨ませてから言ふのです。

「何、プウフウ新聞の記者たちも全部勞働者の味かたではありませんよ。少くとも我々河童と云ふものは誰の味かたをするよりも先に我々自身の味かたをしますからね。……しかし更に厄介なことにはこのゲエル自身さへやはり他人の支配を受けてゐるのです。あなたはそれを誰だと思ひますか？ それはわたしの妻ですよ。美しいゲエル夫人ですよ。」

ゲエルはおほ聲に笑ひました。

「それは寧ろ仕合せでせう。」

「兎に角わたしは滿足してゐます。しかしこれもあなたの前だけに、――河童でないあなたの前だけに手放しで吹聽出來るのです。」

「するとつまりクオラックス内閣はゲエル夫人が支配してゐるのですね。」

「さあ、さうも言はれますかね。……しかし七年前の戰爭などは確かに或雌の河童の爲に始まつたものに違ひありません。」

「戰爭？ この國にも戰爭はあつたのですか？」

「ありましたとも。將來もいつあるかわかりません。何しろ隣國のある限りは、……」

僕は實際この時始めて河童の國も國家的に孤立してゐないことを知

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りました。ゲエルの説明する所によれば、河童はいつも獺を假設敵にしてゐると云ふことです。しかも獺は河童に負けない軍備を具へてゐると云ふことです。僕はこの獺を相手に河童の戰爭した話に少からず興味を感じました。（何しろ河童の强敵に獺のゐるなどと云ふことは「水虎考略」の著者は勿論、「山島民譚志」の著者柳田國男さんさへ知らずにゐたらしい新事實ですから。）

「あの戰爭の起る前には勿論兩國とも油斷せずにぢつと相手を窺つてゐました。と云ふのはどちらも同じやうに相手を恐怖してゐたからです。そこへこの國にゐた獺が一匹、或河童の夫婦を訪問しました。その又雌の河童と云ふのは亭主を殺すつもりでゐたのです。何しろ亭主は道樂者でしたからね。おまけに生命保險のついてゐたことも多少の誘惑になつたかも知れません。」

「あなたはその夫婦を御存じですか？」

「ええ、――いや、雄の河童だけは知つてゐます。わたしの妻などはこの河童を惡人のやうに言つてゐますがね。しかしわたしに言はせれば、惡人よりも寧ろ雌の河童に搦まることを恐れてゐる被害妄想の多い狂人です。……そこでその雌の河童は亭主のココアの茶碗の中へ靑化加里を入れて置いたのです。それを又どう間違へたか、客の獺に飲ませてしまつたのです。獺は勿論死んでしまひました。それから……」

「それから戰爭になつたのですか？」

「ええ、生憎その獺は勲章を持つてゐたものですからね。」

「戰爭はどちらの勝になつたのですか？」

「勿論この國の勝になつたのです。三十六萬九千五百匹の河童たちはその爲に健氣にも戰死しました。しかし敵國に比べれば、その位の損害は何ともありません。この國にある毛皮と云ふ毛皮は大抵獺の毛皮です。わたしもあの戰爭の時には硝子を製造する外にも石炭殼を戰地へ送りました。」

「石炭殼を何にするのですか？」

「勿論食糧にするのです。我々は河童は腹さへ減れば、何でも食ふのにきまつてゐますからね。」

「それは――どうか怒らずに下さい。それは戰地にゐる河童たちには……我々の國では醜聞ですがね。」

「この國でも醜聞には違ひありません。しかしわたし自身から言つてゐれば、誰も醜聞にはしないものです。哲學者のマッグも言つてゐるでせう。『汝の惡は汝自ら言へ。惡はおのづから消滅すべし。』……しかもわたしは利益の外にも愛國心に燃え立つてゐたのですからね。」

丁度そこへはひつて來たのはこの倶樂部の給仕です。給仕はゲエルにお時宜をした後、朗讀でもするやうにから言ひました。

「お宅のお隣に火事がございます。」

「火――火事！」

ゲエルは驚いて立ち上りました。僕も立ち上つたのは勿論です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、給仕は落ち着き拂つて次の言葉をつけ加へました。

「しかしもう消し止めました。」

ゲエルは給仕を見送りながら、泣き笑ひに近い表情をしました。僕はかう云ふ顔を見ると、いつかこの硝子會社の社長を憎んでゐたことに氣づきました。が、ゲエルはもう今では大資本家でも何でもない唯の河童になつて立つてゐるのです。僕は花瓶の中の冬薔薇の花を抜き、ゲエルの手へ渡しました。

「しかし火事は消えたと云つても、奥さんはさぞお驚きでせう。さあ、これを持つてお歸りなさい。」

「難有う。」

ゲエルは僕の手を握りました。それから急ににやりと笑ひ、小聲にかう僕に話しかけました。

「隣はわたしの家作ですからね。火災保険の金だけはとれるのですよ。」

僕はこの時のゲエルの微笑を――輕蔑することも出來なければ、憎惡することも出來ないゲエルの微笑を未だにありありと覺えてゐます。

十

「どうしたね？　けふは又妙にふさいでゐるぢやないか？」

その火事のあつた翌日です。僕は巻煙草を啣へながら、僕の客間の椅子に腰をおろした學生のラップにかう言ひました。實際又ラップは右の脚の上へ左の脚をのせたまま、腐つた嘴も見えないほど、ぼんやり床の上ばかり見てゐたのです。

「ラップ君、どうしたねと言へば。」

「いや、何、つまらないことなのですよ。――」

ラップはやつと頭を擧げ、悲しい鼻聲を出しました。

「僕はけふ窓の外を見ながら、『おや蟲取り菫が咲いた』と何氣なしに呟いたのです。すると僕の妹は急に顔色を變へたと思ふと、『どうせわたしは蟲取り菫よ』と當り散らすぢやありませんか？　おまけに又僕のおふくろも大の妹贔屓ですから、やはり僕に食つてかかるのです。」

「蟲取り菫が咲いたと云ふことはどうして妹さんには不快なのだね？」

「さあ、多分雄の河童を摑まへると云ふ意味にでもとつたのでせう。そこへおふくろと仲惡い叔母も喧嘩の仲間入りをしたのですから、愈大騒動になつてしまひました。しかも年中醉つ拂つてゐるおやぢはこの喧嘩を聞きつけると、誰彼の差別なしに毆り出したのです。それだけでも始末のつかない所へ僕の弟はその間におふくろの財布を盗むが早いか、キネマか何かを見に行つてしまひました。僕は……ほんたうに僕はもう、……」

ラップは兩手に顔を埋め、何も言はずに泣いてしまひました。僕の同情したのは勿論です。同時に又家族制度に對する詩人のトックの輕

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

褒を思ひ出したのも勿論です。僕はラップの肩を叩き、一生懸命に慰めました。

「そんなことはどこでもあり勝ちだよ。まあ勇気を出し給へ。」

「しかし……しかし嘴でも腐つてゐなければ、……」

「それはあきらめる外はないさ。さあ、トック君の家へでも行かう。」

「トックさんは僕を軽蔑してゐます。僕はトックさんのやうに大胆に家族を捨てることが出来ませんから。」

「ぢやクラバック君の家へ行かう。」

僕はあの音楽会以来、クラバックにも友だちになつてゐましたから、兎に角この大音楽家の家へラップをつれ出すことにしました。クラバックはトックに比べれば、遥かに贅沢に暮らしてゐます。と云ふのは資本家のゲエルのやうに暮らしてゐると云ふ意味ではありません。唯いろいろの骨董を、——タナグラの人形やペルシアの陶器を部屋一ぱいに並べた中にトルコ風の長椅子を据ゑ、クラバック自身の肖像画の下にいつも子供たちと遊んでゐるのです。が、けふはどうしたのか両腕を胸へ組んだまま、苦い顔をして坐つてゐました。のみならずその又足もとには紙屑が一面に散らばつてゐました。ラップも詩人トックと一しよに度たびクラバックには会つてゐる筈です。しかしこの容子に恐れたと見え、けふは丁寧にお時宜をしたなり、黙つて部屋の隅に腰をおろしました。

「どうしたね？　クラバック君。」

僕は殆ど挨拶の代りにかう大音楽家へ問かけました。

「どうするものか？　批評家の阿呆め！　僕の抒情詩はトックの抒情詩と比べものにならないと言やがるんだ。」

「しかし君は音楽家だし、……」

「それだけならば我慢も出来る。僕はロックに比べれば、音楽家の名に価しないと言やがるぢやないか？」

ロックと云ふのはクラバックと度たび比べられる音楽家です。が、生憎超人倶楽部の会員になつてゐない関係上、僕は一度も話したことはありません。尤も嘴の反り上つた、一癖あるらしい顔だけは度たび写真でも見かけてゐました。

「ロックも天才には違ひない。しかしロックの音楽は君の音楽に溢れてゐる近代的情熱を持つてゐない。」

「君はほんたうにさう思ふか？」

「さう思ふとも。」

するとクラバックは立ち上るが早いか、タナグラの人形をひつ摑み、いきなり床の上に叩きつけました。ラップは余程驚いたと見え、何か声を挙げて逃げようとしました。が、クラバックはラップや僕にはちよつと「驚くな」と云ふ手真似をした上、今度は冷やかにかう言ふのです。

「それは君も亦俗人のやうに耳を持つてゐないからだ。僕はロック

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を恐れてゐる。……」

「君が？　謙遜家を氣どるのはやめ給へ。」

「誰が謙遜家を氣どるものか？　第一君たちに氣どつて見せる位ならば、批評家たちの前に氣どつて見せてゐる。僕は――クラバツクは天才だ。その點ではロツクを恐れてゐない。」

「では何を恐れてゐるのだ？」

「何か正體の知れないものを、――言はばロツクを支配してゐる星を。」

「どうも僕には腑に落ちないがね。」

「ではかう言へばわかるだらう。ロツクは僕の影響を受けない。が、僕はいつの間にかロツクの影響を受けてしまふのだ。」

「それは君の感受性の……。」

「まあ、聞き給へ。感受性などの問題ではない。ロツクはいつも安んじてあいつだけに出來る仕事をしてゐる。しかし僕は苛ら苛らするのだ。それはロツクの目から見れば、或は一歩の差かも知れない。けれども僕には十哩も違ふのだ。」

「しかし先生の英雄曲は……」

　クラバツクは細い目を一層細め、忌々しさうにラツプを睨みつけました。

「默り給へ。君などに何がわかる？　僕はロツクを知つてゐるのだ。ロツクに平身低頭する犬どもよりもロツクを知つてゐるのだ。」

「まあ少し靜かにし給へ。」

「若し靜かにしてゐられるならば、……僕はいつもかう思つてゐる。――僕等の知らない何ものかは僕を、――クラバツクを嘲る爲にロツクを僕の前に立たせたのだ。哲學者のマツグはかう云ふことを何も彼も承知してゐる。いつもあの色硝子のランタアンの下に古ぼけた本ばかり讀んでゐる癖に。」

「どうして？」

「この近頃マツグの書いた『阿呆の言葉』と云ふ本を見給へ。――」

　クラバツクは僕に一册の本を渡す――と云ふよりも投げつけました。それから又腕を組んだまま、突けんどんにかう言ひ放ちました

「ちやけふは失敬しよう」

　僕は悄氣返つたラツプと一しよにもう一度往來へ出ることにしました。人通りの多い往來は不相變毛生欅の並み木のかげにいろいろの店を並べてゐます。僕等は何と云ふこともなしに默つて歩いて行きました。するとそこへ通りかかつたのは髮の長い詩人のトツクです。トツクは僕等の顔を見ると、腹の袋から手巾を出し、何度も額を拭ひました。

「やあ、暫らく會はなかつたね。僕はけふは久しぶりにクラバツクを尋ねようと思ふのだが、……」

　僕はこの藝術家たちを喧嘩させては惡いと思ひ、クラバツクの如何にも不機嫌だつたことを婉曲にトツクに話しました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「さうか。ぢややめにしよう。何しろクラバックは神經衰弱だからね。……僕もこの二三週間は眠られないのに弱つてゐるのだ。」

「どうだね、僕等と一しよに散歩をしては？」

「いや、けふはやめにしよう。おや！」

トックはかう叫ぶが早いか、しつかり僕の腕を摑みました。しかもいつか體中に冷や汗を流してゐるのです。

「どうしたのだ？」

「どうしたのです？」

「何あの自動車の窓の中から綠いろの猿が一匹首を出したやうに見えたのだよ。」

僕は多少心配になり、兎に角あの醫者のチャックに診察して貰ふやうに勸めました。しかしトックは何と言つても、承知する氣色さへ見せません。のみならず何か疑はしさうに僕等の顏を見比べながら、こんなことさへ言ひ出すのです。

「僕は決して無政府主義者ではないよ。それだけはきつと忘れずにゐてくれ給へ。——ではさやうなら。チャックなどは眞平御免だ。」

僕等はぼんやり佇んだまま、トックの後ろ姿を見送つてゐました。僕等は——いや、「僕等」ではありません。學生のラップはいつの間にか往來のまん中に脚をひろげ、しつきりない自動車や人通りを股目金に覗いてゐるのです。僕はこの河童も發狂したかと思ひ、驚いてラップを引き起しました。

「常談ぢやない。何をしてゐる？」

しかしラップは目をこすりながら、意外にも落ち着いて返事をしました。

「いえ、餘り憂鬱ですから、逆まに世の中を眺めて見たのです。けれどもやはり同じことですね。」

十一

これは哲學者のマッグの書いた「阿呆の言葉」の中の何章かです。

——

阿呆はいつも彼以外のものを阿呆であると信じてゐる。

×

我々の自然を愛するのは自然は我々を憎んだり嫉妬したりしない爲もないことはない

×

最も賢い生活は一時代の習慣を輕蔑しながら、しかもその又習慣を少しも破らないやうに暮らすことである。

×

我々の最も誇りたいものは我々の持つてゐないものだけである。

×

何びとも偶像を破壞することに異存を持つてゐるものはない。同時に又何びとも偶像になることに異存を持つてゐるものはない。しかし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

偶像の臺座の上に安んじて坐つてゐられるものは最も神々に惠まれたもの、——阿呆か、惡人か、英雄かである。（クラバツクはこの章の上へ爪の痕をつけてゐました。）

×

我々の生活に必要な思想は三千年前に盡きたかも知れない。我々は唯古い薪に新らしい炎を加へるだけであらう。

×

我々の特色は我々自身の意識を超越するのを常としてゐる。

×

幸福は苦痛を伴ひ、平和は倦怠を伴ふとすれば、——？

×

自己を辯護することは他人を辯護することよりも困難である。疑ふものは辯護士を見よ。

×

矜誇、愛慾、疑惑——あらゆる罪は三千年來、この三者から發してゐる。同時に又恐らくはあらゆる德も。

×

物質的欲望を減ずることは必しも平和を齎さない。我々は平和を得る爲には精神的欲望も減じなければならぬ。（クラバツクはこの章の上にも爪の痕を殘してゐました。）

×

我々は人間よりも不幸である。人間は河童ほど進化してゐない。（僕はこの章を讀んだ時思はず笑つてしまひました。）

×

成すことは成し得ることであり、成し得ることは成すことである。畢竟我々の生活はかう云ふ循環論法を脫することは出來ない。——即ち不合理に終始してゐる。

×

ボオドレエルは白痴になつた後、彼の人生觀をたつた一語に、——女陰の一語に表白した。しかし彼自身を語るものは必しもかう言つたことではない。寧ろ彼の天才に、——彼の生活を維持するに足る詩的天才に信賴した爲に胃袋の一語を忘れたことである。（この章にもやはりクラバツクの爪の痕は殘つてゐました。）

×

若し理性に終始するとすれば、我々は當然我々自身の存在を否定しなければならぬ。理性を神にしたヴオルテエルの幸福に一生を了つたのは即ち人間の河童よりも進化してゐないことを示すものである。

十二

或割り合に寒い午後です。僕は「阿呆の言葉」も讀み飽きましたから、哲學者のマツグを尋ねに出かけました。すると或寂しい町の角に蚊のやうに瘦せた河童が一匹、ぼんやり壁によりかかつてゐました。しかもそれは紛れもない、いつか僕の萬年筆を盜んで行つた河童なの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

です。僕はしめたと思ひましたから、丁度そこへ通りかかつた、逞しい巡査を呼びとめました。

「ちよつとあの河童を取り調べて下さい。あの河童は丁度一月ばかり前にわたしの萬年筆を盗んだのですから。」

巡査は右手の棒をあげ、（この國の巡査は劍の代りに水松の棒を持つてゐるのです。）「おい、君」とその河童へ聲をかけました。僕は或はその河童は逃げ出しはしないかと思つてゐました。が、存外落ち着き拂つて巡査の前へ歩み寄りました。のみならず腕を組んだまま、如何にも傲然と僕の顔や巡査の顔をじろじろ見てゐるのです。しかし巡査は怒りもせず、腹の袋から手帳を出して早速訊問にとりかかりました。

「お前の名は？」

「グルック？」

「職業は？」

「つひ二三日前までは郵便配達夫をしてゐました。」

「よろしい。そこでこの人の申し立てによれば、君はこの人の萬年筆を盗んで行つたと云ふことだがね。」

「ええ、一月ばかり前に盗みました。」

「何の爲に？」

「子供の玩具にしようと思つたのです。」

「その子供は？」

巡査は始めて相手の河童へ鋭い目を注ぎました。

「一週間前に死んでしまひました。」

「死亡證明書を持つてゐるかね？」

瘦せた河童は腹の袋から一枚の紙をとり出しました。巡査はその紙へ目を通すと、急ににやにや笑ひながら、相手の肩を叩きました。

「よろしい。どうも御苦勞だつたね。」

僕は呆氣にとられたまま、巡査の顔を眺めてゐました。しかもそのうちに瘦せた河童は何かぶつぶつ呟きながら、僕等を後ろにして行つてしまふのです。僕はやつと氣をとり直し、かう巡査に尋ねて見ました。

「どうしてあの河童を掴まへないのです？」

「あの河童は無罪ですよ。」

「しかし僕の萬年筆を盗んだのは……」

「子供の玩具にする爲だつたのでせう。けれどもその子供は死んでゐるのです。若し何か御不審だつたら、刑法千二百八十五條をお調べなさい。」

巡査はかう言ひすてたなり、さつさとどこかへ行つてしまひました。僕は仕かたがありませんから、「刑法千二百八十五條」を口の中に繰り返し、マッグの家へ急いで行きました。哲學者のマッグは客好きです。現にけふも薄暗い部屋には裁判官のペップや醫者のチャックや硝子會社の社長のゲエルなどが集り、七色の色硝子のランタアンの下

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に煙草の煙を立ち昇らせてゐました。そこに裁判官のペップが來てゐたのは何よりも僕には好都合です。僕は椅子にかけるが早いか、刑法第千二百八十五條を檢べる代りに早速ペップへ問ひかけました。

「ペップ君、甚だ失禮ですが、この國では罪人を罰しないのですか？」

ペップは金口の煙草の煙をまづ悠々と吹き上げてから、如何にもつまらなさうに返事をしました。

「罰しますとも。死刑さへ行はれる位ですからね。」

「しかし僕は一月ばかり前に、……」

僕は委細を話した後、例の刑法千二百八十五條のことを尋ねて見ました。

「ふむ、それはかう云ふのです。——『如何なる犯罪を行ひたりと雖も、該犯罪を行はしめたる事情の消失したる後は該犯罪者を處罰することを得ず』つまりあなたの場合で言へば、その河童は嘗ては親だつたのですが、今はもう親ではありませんから、犯罪も自然と消滅するのです。」

「それはどうも不合理ですね。」

「常談を言つてはいけません。親だつた河童も親である河童も同一に見るのこそ不合理です。さうさう、日本の法律では同一に見ることになつてゐるのですね。それはどうも我々には滑稽です。ふふふふふふふふふふ。」

ペップは卷煙草を拋り出しながら、氣のない薄笑ひを洩らしてゐました。そこへ口を出したのは法律には緣の遠いチャックです。チャックはちよつと鼻眼金を直し、かう僕に質問しました。

「日本にも死刑はありますか？」

「ありますとも。日本では絞罪です。」

僕は冷然と構へこんだペップに多少反感を感じてゐましたから、この機會に皮肉を浴せてやりました。

「この國の死刑は日本よりも文明的に出來てゐるでせうね？」

「それは勿論文明的です。」

ペップはやはり落ち着いてゐました。

「この國では絞罪などは用ひません。稀には電氣を用ひることもあります。しかし大抵は電氣も用ひません。唯その犯罪の名を言つて聞かせるだけです。」

「それだけで河童は死ぬのですか？」

「死にますとも。我々河童の神經作用はあなたがたのよりも微妙ですからね。」

「それは死刑ばかりではありません。殺人にもその手を使ふのがあります——」

社長のゲエルは色硝子の光に顏中紫に染りながら、人懷つこい笑顏をして見せました。

「わたしはこの間も或社會主義者に『貴樣は盜人だ』と言はれた爲

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも神經痲痺を起しかかつたものです。」

「それは案外多いやうですね。わたしの知つてゐた或辯護士などはやはりその爲に死んでしまつたのですからね。」

僕はから口を入れた河童、――哲學者のマッグをふりかへりました。マッグはやはりいつものやうに皮肉な微笑を浮かべたまま、誰の顏も見ずにしやべつてゐるのです。

「その河童は誰かに蛙だと言はれ、――勿論あなたも御承知でせう、この國で蛙だと言はれるのは人非人と云ふ意味になること位は。――己は蛙かな？　蛙ではないかな？　と毎日考へてゐるうちにとうとう死んでしまつたものです。」

「それはつまり自殺ですね。」

「尤もその河童を蛙だと言つたやつは殺すつもりで言つたのですがね。あなたがたの目から見れば、やはりそれも自殺と云ふ……」

丁度マッグがかう云つた時です。突然その部屋の壁の向うに、――確かに詩人のトックの家に鋭いピストルの音が一發、空氣を反ね返へすやうに響き渡りました。

十三

僕等はトックの家へ驅けつけました。トックは右の手にピストルを握り、頭の皿から血を出したまま、高山植物の鉢植ゑの中に仰向けになつて倒れてゐました。その又側には雌の河童が一匹、トックの胸に顏を埋め、大聲を擧げて泣いてゐました。僕は雌の河童を抱き起しながら、（一體僕はぬらぬらする河童の皮膚に手を觸れることを餘り好んではゐないのですが。）「どうしたのです？」と尋ねました。

「どうしたのだか、わかりません。唯何か書いてゐたと思ふと、いきなりピストルで頭を打つたのです。ああ、わたしはどうしませう？　qur-r-r-r-r, qur-r-r-r-r」（これは河童の泣き聲です。）

「何しろトック君は我儘だつたからね。」

硝子會社の社長のゲエルは悲しさうに頭を振りながら、裁判官のペップにかう言ひました。しかしペップは何も言はずに金口の卷煙草に火をつけてゐました。すると今まで跪いて、トックの創口などを調べてゐたチャックは如何にも醫者らしい態度をしたまま、僕等五人に宣言しました。（實は一人と四匹とです。）

「もう駄目です。トック君は元來胃病でしたから、それだけでも憂鬱になり易かつたのです。」

「何か書いてゐたと云ふことですが。」

哲學者のマッグは辯解するやうにかう獨り語を洩らしながら、机の上の紙をとり上げました。僕等は皆頸をのばし、（尤も僕だけは例外です。）幅の廣いマッグの肩越しに一枚の紙を覗きこみました。

「いざ、立ちて行かん。娑婆界を隔つる谷へ。
岩むらはこごしく、やま水は清く、
藥草の花はにほへる谷へ。」

マッグは僕等をふり返りながら、微苦笑と一しよにかう言ひまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。

「これはゲエテの『ミニヨンの歌』の剽竊ですよ。するとトツク君の自殺したのは詩人としても疲れてゐたのですね。」

そこへ偶然自動車を乘りつけたのはあの音樂家のクラバツクです。クラバツクはかう云ふ光景を見ると、暫く戸口に佇んでゐました。が、僕等の前へ歩み寄ると、怒鳴りつけるやうにマツグに話しかけました。

「それはトツクの遺言狀ですか？」

「いや、最後に書いてゐた詩です。」

「詩？」

やはり少しも騷がないマツグは髮を逆立てたクラバツクにトツクの詩稿を渡しました。クラバツクはあたりには目もやらずに熱心にその詩稿を讀み出しました。しかもマツグの言葉には殆ど返事さへしないのです。

「あなたはトツク君の死をどう思ひますか？」

「いざ、立ちて、……僕も亦いつ死ぬかわかりません。……娑婆界を隔つる谷へ。……」

「しかしあなたはトツク君とはやはり親友の一人だつたのでせう？」

「親友？　トツクはいつも孤獨だつたのです。……娑婆界を隔つる谷へ、……唯トツクは不幸にも、……岩むらはこごしく……」

「不幸にも？」

「やま水は清く、……あなたがたは幸福です。……岩むらはこごしく。……」

僕は未だに泣き聲を絕たない雌の河童に同情しましたから、そつと肩を抱へるやうにし、部屋の隅の長椅子へつれて行きました。そこには二歲か三歲かの河童が一匹、何も知らずに笑つてゐるのです。僕は雌の河童の代りに子供の河童をあやしてやりました。するといつか僕目にも涙のたまるのを感じました。僕が河童の國に住んでゐるうちに涙と云ふものをこぼしたのは前にも後にもこの時だけです。

「しかしかう云ふ我儘な河童と一しよになつた家族は氣の毒ですね。」

「何しろあとのことも考へないのですから。」

裁判官のペツプは相不變、新しい卷煙草に火をつけながら、資本家のゲエルに返事をしてゐました。すると僕等を驚かせたのは音樂家のクラバツクのおほ聲です。クラバツクは詩稿を握つたまま、誰にともなしに呼びかけました。

「しめた！　すばらしい葬送曲が出來るぞ。」

クラバツクは細い目を赫やかせたまま、ちよつとマツグの手を握ると、いきなり戸口へ飛んで行きました。勿論もうこの時には隣近所の河童が大勢、トツクの家の戸口に集まり、珍らしさうに家の中を覗いてゐるのです。しかしクラバツクはこの河童たちを遮二無二左右へ押しのけるが早いか、ひらりと自動車へ飛び乘りました。同時に又自動

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

車は警笛を立てて忽ちどこかへ行つてしまひました。

「こら、こら、さう覗いてはいかん。」

裁判官のペップは巡査の代りに大勢の河童を押し出した後、トックの家の戸をしめてしまひました。部屋の中はそのせゐか急にひつそりなつたものです。僕等はかう云ふ靜かさの中に——高山植物の花の香に交つたトックの血の匂の中に後始末のことなどを相談しました。しかしあの哲學者のマッグだけはトックの死骸を眺めたまま、ぼんやり何か考へてゐます。僕はマッグの肩を叩き、「何を考へてゐるのです？」と尋ねました。

「河童の生活と云ふものをね」

「河童の生活がどうなるのです？」

「我々河童は何と云つても、河童の生活を完うする爲には、……」

マッグは多少羞しさうにかう小聲でつけ加へました。

「兎に角我々河童以外の何ものかの力を信ずることですね。」

十四

僕に宗教と云ふものを思ひ出させたのはかう云ふマッグの言葉です。僕は勿論物質主義者ですから、眞面目に宗教を考へたことは一度もなかつたのに違ひありません。が、この時はトックの死に或感動を受けてゐた爲に一體河童の宗教は何であるかと考へ出したのです。僕は早速學生のラップにこの問題を尋ねて見ました。

「それは基督教、佛教、モハメット教、拜火教なども行はれてゐます。まづ一番勢力のあるものは何と言つても近代教でせう。生活教とも言ひますがね。」（「生活教」と云ふ譯語は當つてゐないかも知れません。この原語は Quemoocha です。cha は英吉利語の ism と云ふ意味に當るでせう。quemoo の原形 quemal の譯は單に「生きる」と云ふよりも「飯を食つたり、酒を飲んだり、……を行つたり」する意味です。）

「ぢやこの國にも教會だの寺院だのはある訣なのだね？」

「常談を言つてはいけません。近代教の大寺院などはこの國第一の大建築ですよ。どうです、ちよつと見物に行つては？」

或生温い曇天の午後、ラップは得々と僕と一しよにこの大寺院へ出かけました。成程それはニコライ堂の十倍もある大建築です。のみならずあらゆる建築樣式を一つに組み上げた大建築です。僕はこの大寺院の前に立ち、高い塔や圓屋根を眺めた時、何か無氣味にさへ感じました。實際それ等は天に向つて伸びた無數の觸手のやうに見えたのです。僕等は玄關の前に佇んだまま、（その又玄關に比べて見ても、どの位僕等は小さかつたのでせう！）暫らくこの建築よりも寧ろ途方もない怪物に近い稀代の大寺院を見上げてゐました。

大寺院の内部も亦廣大です。そのコリント風の圓柱の立つた中には參詣人が何人も歩いてゐました。しかしそれ等は僕等のやうに非常に小さく見えたものです。そのうちに僕等は腰の曲つた一匹の河童に出合ひました。するとラップはこの河童にちよつと頭を下げた上、丁寧

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にから話しかけました。

「長老、御達者なのは何よりもです。」

相手の河童もお時宜をした後、やはり丁寧に返事をしました。

「これはラップさんですか？　あなたも不相變、——（と言ひかけながら、ちよつと言葉をつがなかつたのはラップの嘴の腐つてゐるのにやつと氣がついた爲だつたでせう。）——ああ、兎に角御丈夫らしいやうですね。が、けふはどうして又……」

「けふはこの方のお伴をして來たのです。この方は多分御承知の通り、——」

それからラップは滔々と僕のことを話しました。どうも又それはこの大寺院へラップが滅多に來ないことの辯解にもなつてゐたらしいのです。

「就いてはどうかこの方の御案内を願ひたいと思ふのですが。」

長老は大樣に微笑しながら、まづ僕に挨拶をし、靜かに正面の祭壇を指さしました。

「御案内と申しても、何も御役に立つことは出來ません。我々信徒の禮拜するのは正面の祭壇にある『生命の樹』です。『生命の樹』には御覽の通り、金と綠との果がなつてゐます。あの金の果を『善の果』と云ひ、あの綠の果を『惡の果』と云ひます。……」

僕はかう云ふ説明のうちにもう退屈を感じ出しました。それは折角の長老の言葉も古い比喩のやうに聞えたからです。僕は勿論熱心に聞いてゐる容子を裝つてゐました。が、時々は大寺院の内部へそつと目をやるのを忘れずにゐました。

コリント風の柱、ゴシク風の穹窿、アラビアじみた市松模樣の床、セツシヨン紛ひの祈禱机、——かう云ふものの作つてゐる調和は妙に野蠻な美を具へてゐました。しかし僕の目を惹いたのは何よりも兩側の龕の中にある大理石の半身像です。僕は何かそれ等の像を見知つてゐるやうに思ひました。それも亦不思議ではありません。あの腰の曲つた河童は「生命の樹」の説明を了ると、今度は僕やラップと一しよに右側の龕の前へ歩み寄り、その龕の中の半身像にかう云ふ説明を加へ出しました。

「これは我々の聖徒の一人、——あらゆるものに反逆した聖徒ストリントベリイです。この聖徒はさんざん苦しんだ揚句、スウエデンボルグの哲學の爲に救はれたやうに言はれてゐます。が、實は救はれなかつたのです。この聖徒は唯我々のやうに生活教を信じてゐました。——と云ふよりも信じる外はなかつたのでせう。この聖徒の我々に殘した『傳説』と云ふ本を讀んで御覽なさい。この聖徒も自殺未遂者だつたことは聖徒自身告白してゐます。」

僕はちよつと憂鬱になり、次の龕へ目をやりました。次の龕にある半身像は口髭の太い獨逸人です。

「これはツアラトストラの詩人ニイチエです。その聖徒は聖徒自身の造つた超人に救ひを求めました。が、やはり救はれずに氣違ひにな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つてしまつたのです。若し氣違ひにならなかつたとすれば、或は聖徒の數へはひることも出來なかつたかも知れません。……」

長老はちよつと默つた後、第三の龕の前へ案内しました。

「三番目にあるのはトルストイです。この聖徒は誰よりも苦行をしました。それは元來貴族だつた爲に好奇心の多い公衆に苦しみを見せることを嫌つたからです。この聖徒は事實上信ぜられない基督を信じようと努力しました。いや、信じてゐるやうにさへ公言したこともあつたのです。しかしとうとう晩年には悲壯な譃つきだつたことに堪へられないやうになりました。この聖徒も時々書齋の梁に恐怖を感じたのは有名です。けれども聖徒の數にはひつてゐる位ですから、勿論自殺したのではありません。」

第四の龕の中の半身像は我々日本人の一人です。僕はこの日本人の顏を見た時、さすがに懷しさを感じました。

「これは國木田獨歩です。轢死する人足の心もちをはつきり知つてゐた詩人です。しかしそれ以上の說明はあなたには不必要に違ひありません。では五番目の龕の中を御覽下さい。――」

「これはワグネルではありませんか？」

「さうです。國王の友だちだつた革命家です。聖徒ワグネルは晩年には食前の祈禱さへしてゐました。しかし勿論基督教よりも生活教の信徒の一人だつたのです。ワグネルの殘した手紙によれば、娑婆苦は何度この聖徒を死の前に驅りやつたかわかりません。」

僕等はもうその時には第六の龕の前に立つてゐました。

「これは聖徒ストリンベリイの友だちです。子供の大勢ある細君の代りに十三四のタイテイの女を娶つた商賣人上りの佛蘭西の畫家です。この聖徒は太い血管の中に水夫の血を流してゐました。が、脣を御覽なさい。砒素か何かの痕が殘つてゐます。第七の龕の中にあるのは……もうあなたはお疲れでせう。ではどうかこちらへお出で下さい。」

僕は實際疲れてゐましたから、ラップと一しよに長老に從ひ、香の匂のする廊下傳ひに或部屋へはひりました。その又小さい部屋の隅には黑いヴェヌスの像の下に山葡萄が一ふさ獻じてあるのです。僕は何の裝飾もない僧房を想像してゐただけにちよつと意外に感じました。すると長老は僕の容子にかう云ふ氣もちを感じたと見え、僕等に椅子を薦める前に半ば氣の毒さうに說明しました。

「どうか我々の宗教の生活教であることを忘れずに下さい。我々の神、――『生命の樹』の敎へは『旺盛に生きよ』と云ふのですから。……ラップさん、あなたはこのかたに我々の聖書を御覽に入れましたか？」

「いえ、……實はわたし自身も殆ど讀んだことはないのです。」

ラップは頭の皿を掻きながら、正直にかう返事をしました。が、長老は不相變靜かに微笑して話しつづけました。

「それではおわかりなりますまい。我々の神は一日のうちにこの世界を造りました。（『生命の樹』は樹と云ふものの、成し能はないことはないのです。）のみならず雌の河童を造りました。すると雌の河童は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

退屈の餘り、雌の河童を求めました。我々の神はこの歎きを憐み、雌の河童の腦髓を取り、雌の河童を造りました。我々の神はこの二匹の河童に食へよ、……せよ、旺盛に生きよ』と云ふ祝福を與へました。……」

僕は長老の言葉のうちに詩人のトックを思ひ出しました。詩人のトックは不幸にも僕のやうに無神論者です。僕は河童ではありませんから、生活教を知らなかつたのも無理はありません。けれども河童の國に生まれたトックは勿論「生命の樹」を知つてゐた筈です。僕はこの教へに從はなかつたトックの最後を憐みましたから、長老の言葉を遮るやうにトックのことを話し出しました。

「ああ、あの氣の毒な詩人ですね。」

長老は僕の話を聞き、深い息を洩らしました。

「我々の運命を定めるものは信仰と境遇と偶然とだけです。（尤もあなたがたはその外に遺傳をお數へなさるでせう。）トックさんは不幸にも信仰をお持ちにならなかつたのです。」

「トックはあなたを羨んでゐたでせう。いや、僕も羨んでゐます。ラップ君などは年も若いし、……」

「僕も嘴さへちやんとしてゐれば或は樂天的だつたかも知れません。」

長老は僕等にかう言はれると、もう一度深い息を洩らしました。しかもその目は涙ぐんだまま、ぢつと黑いヴェヌスを見つめてゐるのです。

「わたしも實は、――これはわたしの秘密ですから、どうか誰にも仰有らずに下さい。――わたしも實は我々の神を信ずる訣に行かないのです。しかしいつかわたしの祈禱は、――」

丁度長老のかう言つた時です。突然部屋の戸があいたと思ふと、大きい雌の河童が一匹、いきなり長老へ飛びかかりました。僕等がこの雌の河童を抱きとめようとしたのは勿論です。が、雌の河童は咄嗟の間に床の上へ長老を投げ倒しました。

「この爺め！　けふも又わたしの財布から一杯やる金を盜んで行つたな！」

十分ばかりたつた後、僕等は實際逃げ出さないばかりに長老夫婦をあとに殘し、大寺院の玄關を下りて行きました。

「あれではあの長老も『生命の樹』を信じない筈ですね。」

暫く默つて歩いた後、ラップは僕にかう言ひました。が、僕は返事をするよりも思はず大寺院を振り返りました。大寺院はどんより曇つた空にやはり高い塔や圓屋根を無數の觸手のやうに伸ばしてゐます。何か沙漠の空に見える蜃氣樓の無氣味さを漂はせたまま。……

十五

それから彼是一週間の後、僕はふと醫者のチャックに珍らしい話を聞きました。と云ふのはあのトックの家に幽靈の出ると云ふ話なのです。その頃にはもう雌の河童はどこか外へ行つてしまひ、僕等の友だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ちの詩人の家も寫眞師のステユデイオに變つてゐました。何でもチヤツクの話によれば、このステユデイオでは寫眞をとると、トツクの姿もいつの間にか必ず朦朧と客の後ろに映つてゐるとか云ふことです。尤もチヤツクは物質主義者ですから、死後の生命などを信じてゐません。現にその話をした時にも惡意のある微笑を浮べながら、「やはり靈魂と云ふものも物質的存在と見えますね」などと註釋めいたことをつけ加へてゐました。僕も幽靈を信じないことはチヤツクと餘り變りません。けれども詩人のトツクには親しみを感じてゐましたから、早速本屋の店へ駈けつけ、トツクの幽靈に關する記事やトツクの幽靈の寫眞の出てゐる新聞や雜誌を買つて來ました。成程それ等の寫眞を見ると、どこかトツクらしい河童が一匹、老若男女の河童の後にぼんやりと姿を現してゐました。しかし僕を驚かせたのはトツクの幽靈の寫眞よりもトツクの幽靈に關する記事、――殊にトツクの幽靈に關する心靈學協會の報告です。僕は可也逐語的にその報告を譯して置きましたから、下に大略を揭げることにしませう。但し括孤の中にあるのは僕自身の加へた註釋なのです。――

詩人トツク君の幽靈に關する報告。（心靈學協會雜誌第八千二百七十四號所載）

わが心靈學協會は先般自殺したる詩人トツク君の舊居にして現在は××寫眞師のステユデイオなる□□街第二百五十一號に臨時調査會を開催せり。列席せる會員は下の如し。（氏名を略す。）

我等十七名の會員は心靈協會々長ペツク氏と共に九月十七日午前十時三十分、我等の最も信頼するメデイアム、ホツプ夫人を同伴し、該ステユデイオの一室に參集せり。ホツプ夫人は該ステユデイオに入るや、既に心靈的空氣を感じ、全身に痙攣を催しつつ、嘔吐すること數回に及べり。夫人の語る所によれば、こは詩人トツク君の强烈なる煙草を愛したる結果、その心靈的空氣も亦ニコテインを含有する爲なりと云ふ。

我等會員はホツプ夫人と共に圓卓を繞りて默坐したり。夫人は三分二十五秒の後、極めて急劇なる夢遊狀態に陷り、且詩人トツク君の心靈の憑依する所となれり。我等會員は年齡順に從ひ、夫人に憑依せるトツク君の心靈と左の如き問答を開始したり。

問　君は何故に幽靈に出づるか？

答　死後の名聲を知らんが爲なり。

問　君――或は心靈諸君は死後も尙名聲を欲するや？

答　少くとも予は欲せざる能はず。然れども予の邂逅したる日本の一詩人の如きは死後の名聲を輕蔑し居たり。

問　君はその詩人の姓名を知れりや？

答　予は不幸にも忘れたり。唯彼の好んで作れる十七字詩の一章を記憶するのみ。

問　その詩は如何？

答　「古池や蛙飛びこむ水の音」。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

問　君はその詩を佳作なりと做すや？
答　予は必しも惡作なりと做さず。唯「蛙」を「河童」とせん乎、更に光彩陸離たるべし。
問　然らばその理由は如何？
答　我等河童は如何なる藝術にも河童を求むること痛切なればなり。

會長ペック氏はこの時に當り、我等十七名の會員にこは心靈學協會の臨時調査會にして合評會にあらざるを注意したり。

問　心靈諸君の生活は如何？
答　諸君の生活と異ること無し。
問　然らば君は君自身の自殺せしを後悔するや？
答　必しも後悔せず。予は心靈的生活に倦まば、更にピストルを取りて自活すべし。
問　自活するは容易なりや否や？

トック君の心靈はこの問に答ふるに更に問を以てしたり。こはトック君を知れるものには頗る自然なる應酬なるべし。

答　自殺するは容易なりや否や？
問　諸君の生命は永遠なりや？
答　我等の生命に關しては諸說紛々として信ずべからず。幸ひに我等の間にも基督教、佛教、モハメット教拜火教等の諸宗あることを忘るる勿れ。
問　君自身の信ずる所は？
答　予は常に懷疑主義者なり。
問　然れども君は少くとも心靈の存在を疑はざるべし？
答　諸君の如く確信する能はず。
問　君の交友の多少は如何？
答　予の交友は古今東西に亙り、三百人を下らざるべし。その著名なるものを擧ぐれば、クライスト、マイレンデル、ワイニンゲル、……
問　君の交友は自殺者のみなりや？
答　必しも然りとせず。自殺を辯護せるモンテエニュの如きは予が畏友の一人なり。唯予は自殺せざりし厭世主義者、——ショオペンハウエルの輩とは交際せず。
問　ショオペンハウエルは健在なりや？
答　彼は目下心靈的厭世主義を樹立し、自活する可否を論じつつあり。然れどもコレラも黴菌病なりしを知り、頗る安堵せるものの如し。

我等會員は相次いでナポレオン、孔子、ドストエフスキイ、ダアウイン、クレオパトラ、釋迦、デモステネス、ダンテ、千の利休等の心靈の消息を質問したり。然れどもトック君は不幸にも詳細に答ふることを做さず、反つてトック君自身に關する種々のゴシップを質問したり。

問　予の死後の名聲は如何？
答　或批評家は「群小詩人の一人」と言へり。
問　彼は予が詩集を贈らざりしに怨恨を含める一人なるべし。予の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

全集は出版せられしや？

答　君の全集は出版せられたれども、賣行甚だ振はざるが如し。

問　予の全集は三百年の後、——即ち著作權の失はれたる後、萬人の購ふ所となるべし。予の同棲せる女友だちは如何？

答　彼女は書肆ラック君の夫人となれり。

問　彼女は未だ不幸にもラックの義眼なるを知らざるなるべし。予が子は如何？

答　國立孤兒院にありと聞けり。

トック君は暫く沈默せる後、新たに質問を開始したり。

問　予が家は如何？

答　某寫眞師のステュディオとなれり。

問　予の机は如何になれるか？

答　如何なれるかを知るものなし。

問　予は予の机の抽斗に予の祕藏せる一束の手紙を——然れどもこは幸ひにも多忙なる諸君の關する所にあらず。今やわが心靈界は徐に薄暮に沈まんとす。予は諸君と訣別すべし。さらば。諸君。さらば。わが善良なる諸君」

ホップ夫人は最後の言葉と共に再び急劇に覺醒したり。我等十七名の會員はこの問答の眞なりしことを上天の神に誓つて保證せんとす。（尚又我等の信頼するホップ夫人に對する報酬は嘗て夫人が女優たりし時の日當に從ひて支辨したり。）

十六

僕はかう云ふ記事を讀んだ後、だんだんこの國にゐることも憂鬱になつて來ましたから、どうか我々人間の國へ歸ることにしたいと思ひました。しかしいくら探して歩いても、僕の落ちた穴は見つかりません。そのうちにあのバッグと云ふ漁夫の河童の話には、何でもこの國の街はづれに或年をとつた河童が一匹、本を讀んだり、笛を吹いたり靜かに暮らしてゐると云ふことです。僕はこの河童に尋ねて見れば、或はこの國を逃げ出す途もわかりはしないかと思ひましたから、早速街はづれへ出かけて行きました。しかしそこへ行つて見ると、如何にも小さい家の中に年をとつた河童どころか、頭の皿も固まらない、やつと十二三の河童が一匹、悠々と笛を吹いてゐました。僕は勿論間違つた家へはひつたではないかと思ひました。が、念の爲に名をきいて見ると、やはりバッグの教へてくれた年よりの河童に違ひないのです。

「しかしあなたは子供のやうですが……」

「お前さんはまだ知らないのかい？　わたしはどう云ふ運命か、母親の腹を出た時には白髮頭をしてゐたのだよ。それからだんだん年が若くなり、今ではこんな子供になつたのだよ。けれども年を勘定すれば生まれる前を六十としても、彼是百十五六にはなるかも知れない。」

僕は部屋の中を見まはしました。そこには僕の氣のせゐか、質素な椅子やテエブルの間に何か清らかな幸福が漂つてゐるやうに見えるの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

です。

「あなたはどうもほかの河童よりも仕合せに暮らしてゐるやうですね？」

「さあ、それはさうかも知れない。わたしは若い時は年よりだつたし、年をとつた時は若いものになつてゐる。從つて年よりのやうに慾にも渇かず、若いもののやうに色にも溺れない。兎に角わたしの生涯はたとひ仕合せではないにもしろ、安らかだつたのには違ひあるまい。」

「成程それでは安らかでせう。」

「いや、まだそれだけでは安らかにはならない。わたしは體も丈夫だつたし、一生食ふに困らぬ位の財産を持つてゐたのだよ。しかし一番仕合せだつたのはやはり生まれて來た時に年よりだつたことだと思つてゐる。」

僕は暫くこの河童と自殺したトックの話だの毎日醫者に見て貰つてゐるゲエルの話だのをしてゐました。が、なぜか年をとつた河童は餘り僕の話などに興味のないやうな顔をしてゐました。

「ではあなたはほかの河童のやうに格別生きてゐることに執着を持つてはゐないのですね？」

年をとつた河童は僕の顔を見ながら、靜かにかう返事をしました。

「わたしもほかの河童のやうにこの國へ生まれて來るかどうか、一應父親に尋ねられてから母親の胎内を離れたのだよ。」

「しかし僕はふとした拍子に、この國へ轉げ落ちてしまつたのです。どうか僕にこの國から出て行かれる路を教へて下さい。」

「出て行かれる路は一つしかない。」

「と云ふのは？」

「それはお前さんのここへ來た路だ。」

僕はこの答を聞いた時になぜか身の毛がよだちました。

「その路が生憎見つからないのです。」

年をとつた河童は水々しい目にぢつと僕の顔を見つめました。それからやつと體を起し、部屋の隅へ歩み寄ると、天井からそこに下つてゐた一本の綱を引きました。すると今まで氣のつかなかつた天窓が一つ開きました。その又圓い天窓の外には松や檜が枝を張つた向うに大空が青あをと晴れ渡つてゐます。いや、大きい鏃に似た槍ケ岳の峯も聳えてゐます。僕は飛行機を見た子供のやうに實際飛び上つて喜びました。

「さあ、あすこから出て行くが好い。」

年をとつた河童はかう言ひながら、さつきの綱を指さしました。今まで僕の綱と思つてゐたのは實は綱梯子に出來てゐたのです。

「ではあすこから出さして貰ひます。」

「唯わたしは前以て言ふがね。出て行つて後悔しないやうに。」

「大丈夫です。僕は後悔などはしません。」

僕はかう返事をするが早いか、もう綱梯子を攀ぢ登つてゐました。年をとつた河童の頭の皿を遙か下に眺めながら。

十七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

僕は河童の國から歸つて來た後、暫くは我々人間の皮膚の匂に閉口しました。我々人間に比べれば、河童は實に清潔なものです。のみならず我々人間の頭は河童ばかり見てゐた僕には如何にも氣味の惡いものに見えました。これは或はあなたにはおわかりにならないかも知れません。しかし目や口は兎も角も、この鼻と云ふものは妙に恐しい氣を起させるものです。僕は勿論出來るだけ、誰にも會はない算段をしました。が、我々人間にもいつか次第に慣れ出したと見え、半年ばかりたつうちにどこへでも出るやうになりました。唯それでも困つたことは何か話をしてゐるうちにうつかり河童の國の言葉を口に出してしまふことです

「君はあしたは家にゐるかね？」

「Qua」

「何だつて？」

「いや、ゐると云ふことだよ。」

大體から云ふ調子だつたものです。

しかし河童の國から歸つて來た後、丁度一年ばかりたつた時、僕は或事業の失敗した爲に……

（S博士は彼がかう言つた時、「その話はおよしなさい」と注意をした。何でも博士の話によれば、彼はこの話をする度に看護人の手にも了へない位、亂暴になるとか云ふことである。）

ではその話はやめませう。しかし或事業の失敗した爲に僕は又河童の國へ歸りたいと思ひ出しました。さうです。「行きたい」のではありません。「歸りたい」と思ひ出したのです。河童の國は當時の僕には故鄕のやうに感ぜられましたから

僕はそつと家を脫け出し、中央線の汽車へ乘らうとしました。そこを生憎巡査につかまり、とうとう病院へ入れられたのです。僕はこの病院へはひつた當座も河童の國のことを想ひつづけました。醫者のチヤックはどうしてゐるでせう？ 哲學者のマッグも不相變七色の色硝子のランタアンの下に何か考へてゐるかも知れません。殊に僕の親友だつた、嘴の腐つた學生のラップは、——或けふのやうに曇つた午後です。こんな追憶に耽つてゐた僕は思はず聲を擧げようとしました。それはいつの間にはひつて來たか、バッグと云ふ漁師の河童が一匹、僕の前に佇みながら、何度も頭を下げてゐたからです。僕は心をとり直した後、——泣いたか笑つたかも覺えてゐません。が、兎に角久しぶりに河童の國の言葉を使ふことに感動してゐたことは確かです。

「おい、バッグ、どうして來た？」

「へい、お見舞ひに上つたのです。何でも御病氣だとか云ふことですから。」

「どうしてそんなことを知つてゐる？」

「ラデイオのニウスで知つたのです。」

バッグは得意さうに笑つてゐるのです。

「それにしてもよく來られたね？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「何、造作はありません。東京の川や堀割りは河童には往來も同樣ですから。」

僕は河童も蛙のやうに水陸兩棲の動物だつたことに今更のやうに氣がつきました。

「しかしこの邊には川はないがね。」

「いえ、こちらへ上つたのは水道の鐵管を拔けて來たのです。それからちよつと消火栓をあけて……」

「消火栓をあけて？」

「檀那はお忘れなすつたのですか？　河童にも機械屋のゐると云ふことを。」

それから僕は二三日毎にいろいろの河童の訪問を受けました。僕の病はS博士によれば早發性痴呆症と云ふことです。しかしあの醫者のチヤツクは（これは甚だあなたにも失禮に當るのに違ひありません。）僕は早發性痴呆症患者ではない、早發性痴呆症患者はS博士を始め、あなたがた自身だと言つてゐました。醫者のチヤツクも來る位ですから、學生のラツプや哲學者のマツグの見舞ひに來たことは勿論です。が、あの漁師のマツグの外に晝間は誰も尋ねて來ません。殊に二三匹一しよに來るのは夜、――それも月のある夜です。僕はゆうべも月明りの中に硝子會社の社長のゲエルや哲學者のマツグと話をしました。のみならず音樂家のクラバツクにもヴアイオリンを一曲彈いて貰ひました。そら、向うの机の上に黑百合の花束がのつてゐるでせう？　あれもゆうべクラバツクが土産に持つて來てくれたものです。……

（僕は後を振り返つて見た。が、勿論机の上には花束も何ものつてゐなかつた。）

それからこの本も哲學者のマツグがわざわざ持つて來てくれたものです。ちよつと最初の詩を讀んで御覽なさい。いや、あなたは河童の國の言葉を御存知になる筈はありません。では代りに讀んで見ませう。これは近頃出版になつたトツクの全集の一冊です。――

（彼は古い電話帳をひろげ、かう云ふ詩をおほ聲に讀みはじめた。）

　椰子の花や竹の中に
　佛陀はとうに眠つてゐる。

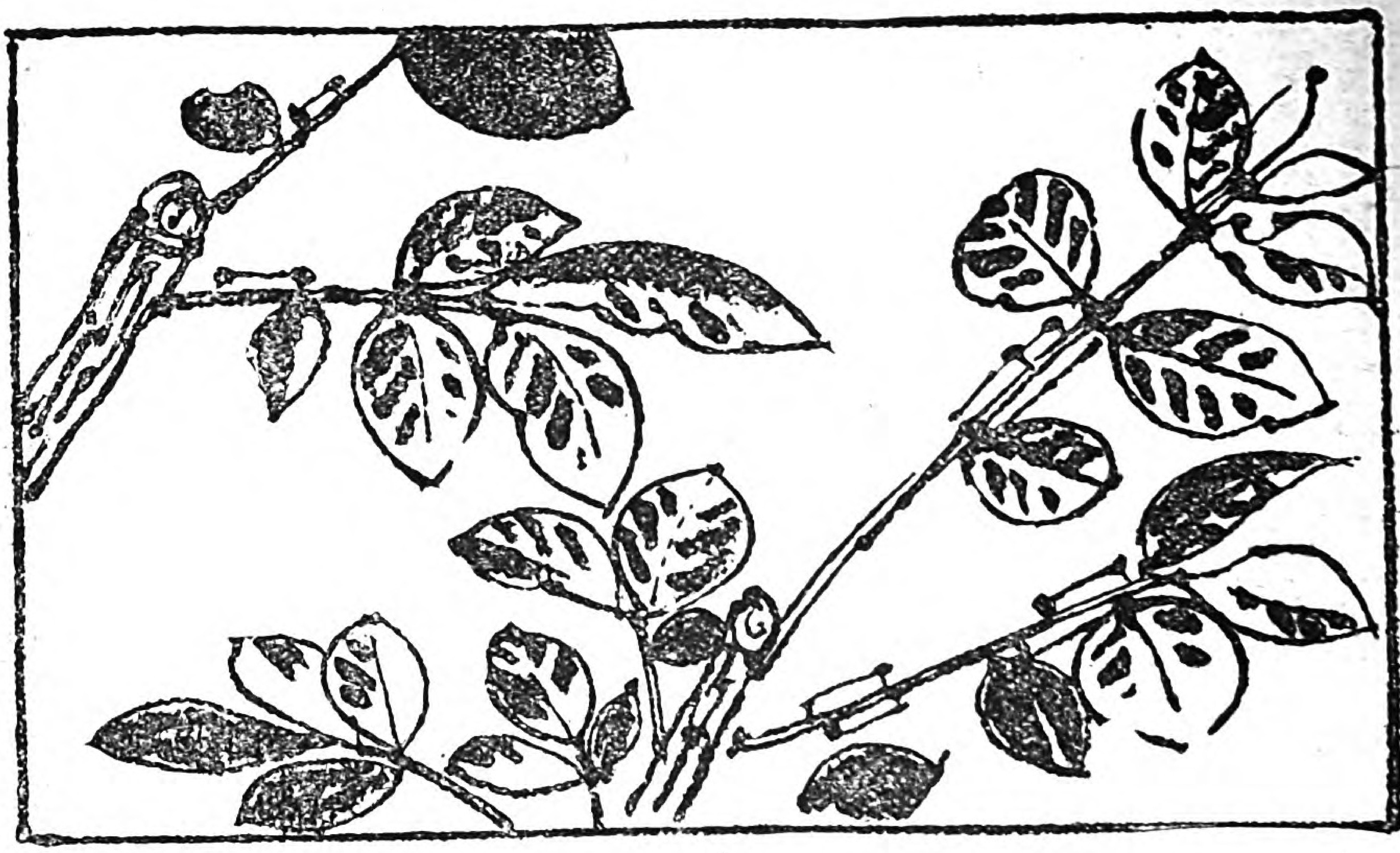
　路ばたに枯れた無花果と一しよに
　基督ももう死んだらしい。

　しかし我々は休まなければならぬ
　たとひ芝居の背景の前にも。

（その又背景の裏を見れば、繼ぎはぎだらけのカンヴアスばかりだ？）

けれども僕はこの詩人のやうに厭世的ではありません。河童たちの時々來てくれる限りは、――ああ、このことは忘れてゐました。あなたは僕の友だちだつた裁判官のペツプを覺えてゐるでせう。あの河童は職を失つた後、ほんたうに發狂してしまひました。何でも今は河童の國の精神病院にゐると云ふことです。僕はS博士さへ承知してくれれば、見舞ひに行つてやりたいのですがね……（昭和二・二・十一）

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



白木蓮の咲く頃

徳田秋聲

五

融が二階へ上つて行くと、澤夫人は少し膝を崩して、疊に片手を突いて、K―氏とK―氏の作品の話でもしてゐたらしかつたが、洋裝をしてゐるせいか、どこか無邪氣で若く見えた。今日訪問を受けた時から、融は何だか何時もとはまるで違つた安易な輕い氣分の彼女に、また新らしい印象を受けたのであつた。映寫機の前に立たうと云ふ希望をもつやうになつた動機について彼女の語るところを聞いても、事情がそんなに切迫してゐるとは何うしても思へないほど、融に現實感が起らなかつたのも、一つは來ることに運命や氣分があわたゞしく變つてゐるからでもあつたが、一つは又た淡色の服裝をした彼女の姿が、夢のやうに淡々しい感じを與へたからであつた。

映畫女優になりたい希望は、その前に來たときにも夫人の口から洩れたが、それも本當に生活上の必要に迫られてゐるからだとは、融には何うしても思へなかつた。思ひきり派手な服裝をしてゐたのと、容貌が美しいのとで、さうした暗い影が、ふうわりした彼女の氣分のどこにも見出せないのであつた。破産に伴ふ刑事問題を中心にして、餘所目にはあれほど幸福さうに見えた澤氏夫妻の運命に、遽かに破滅の大浪が押寄せて來

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、一つ間違へば良人を監獄に送らなければならないやうな激變について、夫人は其の度ごとに融のところへ來て訴へるのであつたが、そこまで來るまでの因緣や、事件の內容については、順序正しい說明をしたことがないので、それも彼女の作品である「水は流るゝ」に現はれてゐるやうな熱情的な藝術憧憬から、何かなし家庭を離れて藝術に走りたい彼女の欲求から來てゐるものとしか思へなかつた。二度目に上京したときも今度いよ〳〵東京へ出張所を出すことになつたので、田端に一軒家を借りたといふので、最初はそれが刑事上の問題を避けると同時に、ちよつと土地にも落着きかねるやうな事情のために、妻子をつれて東京へ遁げて來たのだといふやうな事實の眞相には、餘り觸れなかつた。二度逢ひ三度逢つてゐるうちに、今や破滅の大海嘯に漂はされて、恐らく二度と浮揚ることもできないらしい澤氏の現狀が、融にも少しづゝ知れて來たのであつたが、それも眞實とは思はれないほど、夫人の話は現實味に乏しいものであつた。づつと後になつてこの澤氏夫人の結婚生活の破滅の素因が、輿入れ當時から既に其の根を張つてゐたことが、融にも解つたのであつたが、その頃の夫人の話だけでは、明瞭した概念さへ掴むことができないほど、夫人の口によつて扮飾されてゐた。融とは遠い部屋の隅の方に、きちんと坐つて、貴重な時間を、そんな煩さい濕つぽい話で、少しでも邪魔しては惡いといつたやうに、目に溜まつた涙が、ほろ〳〵膝へこぼれるやうになつても、彼女の訴へは何時も事件の核心には觸れなかつた。「人を救つたり、青年達を集めたりすることが、兎角好きだものですから」とか、「二度逢ふと誰にでも好かれる質だものですから、つひ信用されすぎた結果、融通の利くのに任せて、遣り過ぎたんでございますね」とか、夫人は「水は流るゝ」に書かれたやうに、一つは藝術的憧憬のためとは言へ、一つは良人の危い經濟的生活に不安を感ずるの餘り、度も三度も實家へ遁げて歸つたほど、幻滅を感じてゐた澤氏ではあつたけれど、人に話す場合には、いつもさう言つて美しい側面からのみ良人を見ようとしてゐた。正當な批判は勿論彼女にもあつたけれど一度でも愛し合つたものゝ批瑕を指摘することは自分自身の矜を傷けるより外何の效果もないことを能く知つてゐた。女らしい虛榮が、破滅の運命を繕る場合に、いつも眞相に彼女特有の美しいベールを被せてゐた。

そこへもつて來て、融は現實の世界には思ひのほか迂濶であつた。彼女特有の美しい幻想的雰圍氣を透して、彼女の生活の實相を知るには、彼は又た餘りに世間染みなすぎるのであつた。藝術家としては兎に角、實世間的には、彼は全く無條件に美しいものゝ前に魅惑されがちであつたと同時に、本當にお暮しの惡い苦勞知らずであつた。

「ほう、ぢや藝術をやらうといふ貴女にも持つてこいぢやないですか。」

東京に住むことになつたと聞いたときも、彼はさう言つて彼女のために悅んだ。映寫機の前に立ちたい希望を聞かされたときですら、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

融はちよつと「困つたなア」とは思つたけれど、そこに彼女の思ひつきの上すべりな藝術的憧憬の影が差してゐることも、感じないではゐられなかつたほど、それが實生活の必要に迫られてゐるものとは思へなかつた。

「さうね、映畫は私は藝術とは思つてゐないし、貴女がスクリーンの上に出現すれば、人氣は出るだらうと思ふけれど、女優生活といふものが、貴女が考へてゐるやうなものぢやないでせうからね。」

融はその時はさう言つたけれど、「水は流るゝ」が書肆に滞つたまゝで、容易に出版の運びに至らないうちに、夫人の運命がかた落ちに落ちてしまつてから、小說なぞで世の中へ出るのが間だるつこくも思はれたので、いつそスクリーンかステーヂかに直面した方が、彼女の熱情的な慾求のはけ口をつけるのに手取早くて、利き目があるかに考へられたところで、

「何うです、いつそ活動女優にでもなつたら」と、時々唆かしの口吻をさへ洩らしたのであつた。

夫人は文壇の老大家としての融の言ふこととなると、何かなし權威があるやうに感じた。そして其の事を良人の澤氏に謀つて見た。すると、ちやうど其の頃、或る有名な××撮影所のスタアとして人氣の高かつた映畫女優が、一躍年俸一萬五千圓か七千圓かの高い報酬で、所屬の撮影所から、他の會社へ鞍替したことが、世間の評判になつて、新聞の社會面を賑はしてゐたが、破滅に瀕した財政を救ふのに、手段を擇ぶに餘裕のなかつた澤氏は、その記事を見て遽かに心が動いた、どの道普通の家庭婦人として納まることのできない、藝術かぶれのした彼女なので、いつそ映畫女優にでもして、彼女の憧がれを充たすと同時に、財政救濟の方法を講ずるのも惡くはないと考へた。

「かうなると映畫女優も惡くはないね。Ｔ——さんがさう言つてくれるなら、一つ思ひきつて遣つてみたら何うかね。お前ならきつと成功すると思ふ。」

澤氏は勸めた。

「貴方が許してくれるなら遣りますさ。」夫人は答へた。

良人の動機に不純なものゝあるのが厭だつたし、卒となるとちよつと氣おくれもして、兎角暗黑面の多いらしい其の社會へ一と思ひに飛び込む氣にもなれないのであつたが、しかし其でもつて悉皆行詰つた良人を救ふことができればと云ふ果敢ない口實に、夫人特有の甘やかしい感傷癖も手傳つて、つい其の氣になつてしまつたのであつた。

融はしかし其等の内面の事情や動機について、詳しく知らなかつた。そして本當に内部から押出すやうな力で、映畫女優が止むに止まれない慾求から擇ばれたものか何うかを疑つて見ようともしなかつた。

「先生、私やつぱり映畫女優にならうと思ひますわ。澤が許してくれましたの」夫人はさう言つて、さうでもしなければ、親子が此の先き迚も食べても行かれない事情を話したが、融はやつぱり信じられなかつた。彼は夫人の現狀や運命について、さう深く考へようとはしなか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた。田舍では相當物のある舊家にもつてゐる夫人が、それ程行詰つてゐようとは思へなかつた。罷りまちがへば救ひの手が母や兄から來ることとばかり思つてゐた。

兎に角蒲田の撮影所へ行つて見ることになつた。そして三人はそろつてK―氏の二階をおりた。そこへ婦人文藝雜誌のF―氏が、K―氏を訪問して來て、K―氏と原稿の用件を話しながら一緒に通りへ出た。K―氏は赤門で乘りつけの自動車を傭つた。

融は若い流行作家のK―氏や記者と一緒になつたところで、やつと夫人の色彩をぼかすことが出來たやうに感じて、氣が落着いた。

六

今までも融は何かにつけて倚りかゝつて來る――それは決してづうづうしいとか、甘へかゝつて來るとかいふ性質のものではなくて、貞淑な澤氏夫人としての品位や、文藝憧憬者としての先輩に對する尊敬や遠慮の念を忘れたものではなくて、いつも勸められた敷物も當てずに、入口の襖のところにぴつたり喰着いて坐つて、話したいことも十分の一くらゐしか話さないやうな愼ましやかな態度の夫人ではあつたけれど、今迄の生活が生活であつたのと、美貌の持主であつたのとで、何彼につけて夫人の指導役を勤めるのに重苦しい感じを持たせられた。自分の手一つでは此の人を世間へ出すのが困難だと思はれた。總てが消極的で、社會的にも文壇的にも雰圍氣の稀薄な自分が背負つてゐたのでは、夫人を正當に世のなかへ押出すのに不利益だと云ふ自卑もあつた。

「K―君かI―君かへ一度紹介しませう。あの人達の方が、遙かに文壇的に花やかな空氣をもつてゐますから。僕ではどうも顏が狹いので。」融は屢々それを口にしたが、矢張りその機會がなかつた。

今はちやうど其の機會であつた。撮影所に限らず、文壇或ひは文壇以外の色々な社交的な舞臺に、先づ夫人のやうな美しい人を引張出して、その存在だけでも知らしてくれるのに、流行作家のK―氏などが、最も適役だといふことを、融は疾くに心着いてゐた。

夫人もその日K―氏のところへ連れて行かれることを心から悅んだ。しかし又融から突放されてしまうことも不安であつた。

自動車のなかでは、是ぞと云ふ話もなかつた。融と夫人はクションに並んで、補助椅子を取つたK―氏とF―氏と向ひ合つて坐つてゐたが、或る婦人雜誌に頼まれて、S―氏(流行作家)が、戀愛事件で世間的にも有名であるA―氏のことを書くはづだが、S―氏の報酬の申出額か、未曾有に高いので、雜誌の方で少し躊躇氣味だといふことが話された。

融は夫人を餘り安つぽく取扱つてもらひたくないと思つたので、紹介の仕方にもいくらか其の氣持を仄めかしておいたのであつたが、世間馴れのしてゐるK―氏の態度は、一應は明るくて愉快ないつもの氣分と少しも渝らなかつた。彼は最近文字どほりに人形のやうな美しい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

舞臺を賣つて、色彩のなかつたその生涯が、遙かに戀愛場面の小舞臺を見るやうに情緒づけられてゐた。F—氏が東京驛でおりてから、電車で蒲田まで行つた三人は、やがて町を通つて、撮影所へと通ふ裏道を歩いて行つた。バンドのついた輕快な新調の背廣を着たK—氏が、道の右側を先きへ行くと、融はその後からK—氏と夫人との連絡の絶えないやうにと、妙な心遣ひから、左側へ寄つて道傍を拾つて歩いた。纖細な洋服姿の夫人は、始終仄かな思ひに沈んだやうで、それかと言つて、決して憂鬱とか、硬くなつたとか云ふ方ではなかつたが、來るには來たものゝ、どこか氣が進まないやうな風で、少し離れて續いた。

後で夫人が告白したことだか、彼女は二三日前書生を一人つれて、此處のプロダクションを訪問したのであつた。融に相談するのも極りがわるかつたし、表立つて他の人に紹介してもらふのも恥かしかつたので、そつと獨りで行つて見たひであつたが、受けつけられなかつた。夫人はプロダクションの內部を見ることも出來ないので、悄々其處から引返して來た。

ところで今その門衛のところまで來ると、そこでもK—氏の顏の通りの好いことが、如何に彼が文壇の人氣ものであるかを、夫人に知らしめるに十分であつた。係りの人達は、彼の顏を見るとK—先生のお出とばかり、尊敬と親愛の目を以て見迎へた。

「入らつしやいまし。」

「今日は……。」

「先生今日はお珍らしいですな。偶にはどうか入らして下さいよ。

K—氏は何とか厭味のないお愛相を言ひながら、にこやかな顏をしてプロダクションの方へと通つたが、その邊にゐる人達は彼の姿を見ると、皆んな夫々慇懃にお辭儀をした。融はそこで撮影監督のI—氏に紹介された。滅多にそんなところへ姿を現はしたことのない融の訪問も、それ相當に好奇心をもたれた。

セットではちやうど撮影が初まつてゐるらしかつたが、それを横に見て、I—監督の案內で事務所へ入つて行つた。そして狹い應接室で融はKY—所長に紹介されたが、同時に夫人も紹介された。夫人はもう映寫機の前へでも立たせられたやうに、壁際にあるクションにたをやかな體を投げるやうにして、羞かしげに小さくなつてゐた。張りのある目ときりりとした口をした美しい容貌と氣品の持主であるKY—所長は、物馴れた調子で好意をもつて希望を受容れた。

「澤辯護士の夫人ですが、澤氏が今度破産をされたについて、夫人が働かなければならないことになつたんです。小說も書けるんで、長篇ものが一つ其のうち出版されることになる筈ですけれど、それはそれとして、映畫の方を一つやつて見たいといふので……。」

「大變結構です。是非何らか一つ……。」所長はお愛相好く受けた。

聞いてみること、こゝではプロダクションへ出る前に、映畫女優としての教育を一と通り受けなければならなかつた。期間は六ヶ月で、月謝も思ひの外高かつた。勿論其等はプロダクションへ殺到する女優

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

志願者を堰き止めるための一つの無形の防禦線で、澤氏夫人などには、必ずしも成規どほりの順序を踏せる必要はないらしい口吻であつたが、しかも全然映畫の豫備智識をもたない素人から、一足飛びにセットへ出ることは無論不可能であつた。

「先生はキネマは餘り御覽にならないやうですが、好いものが出來たら、ちと見ていたゞきたいですね」

「僕は映畫は藝術とは思へないんで、偶には見ますけれど……。」

「お嫌ひですか。」

「さうでもないんだがね。」

そこで有名な男優のM―氏や、女優のS―孃などが、次ぎの室から現はれて、融に紹介された。そして暫らく話してから、教室へ案内された。I―監督が一々附き添ふて説明をしてくれた。後で知つたことだが、彼はその頃民衆のあひだに最も人氣のあつたストトン節の映畫化に成功した、賣出しのシナリオライターであつた。

談笑のうちに夫人がプロダクションへ入ることが、何時の間にかづん／＼決まつてしまつた。夫人はたゞ話の決まるのを默つて聞いてゐたがさうなると自分の意志でない運命に、づる／＼引摺りこまれでもするやうな不安も感じた。しかもそれは普通の講習生としてゞはなしに、破格な研究生として、事によると直ぐにも映寫機の前へ立たせさうな口吻であつた。ちやうど然う言つた淑かな奥さんやお孃さん型の女優に事缺いてゐたところなので、營業の上から言つても、夫人のやうな素性と容貌との持主で、しかも藝術に對する理解や熱意をもつた人が飛びこんで來たことは、扱ひ方次第仕立方次第で、撮影所に取つても、事によると意外な掘り出しものになるかも知れないのであつたが、好意は矢張り好意であつた。

そこへ係りの人が、願書の書式や入社の手續きのやうなものをもつて來た。

「御面倒でも一つ御父兄ともうお一人、方かに保證していたゞいて。さうでないと、御本人の御希望でも、後で面倒が起りますので……。」

「成程ね。面倒ですね。」融はさう言つて夫人を顧みた。

「大丈夫ですけれど……」夫人は答へた。

「保證人の方をお二人お願ひする規則ですが、先生になつて頂けるでせうか。」

「僕が一切引受けませう。」

「さうですか、先生になつていたゞくなら、そんな物は入らない。」所長は係員に言つた。

それから愈よスクリーンの前に立つときの、藝名といふやうなものも問題になつた。

「まあ成るべく通りの好い、華やかなのが好いですな。」所長は言ふのであつた。

「先生方がついていらつしやるんだから、何んな好い名前でもつけられませう。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そこでK—氏が一つ二つ小說家が思ひつきさうな名を笑談につけてみたりして、始終はづまないやうな顏をしてゐる澤夫人を中心に、室内は陽氣にはしやいだ。

事務所を出ると、三人は撮影所へ案内された。セツトの中で、ちようど「黃金地獄」が撮影されてゐるところで、白く塗つた二三の俳優が監督の指圖に依つて、夫々の位置につくと、合圖の聲がかけられて、レンズが向けられた。强烈な灼熱的な電氣の光りを受けて、口を歪めたり目を瞠つたりしてゐる俳優の白い顏が、石膏像のやうに無氣味に見えた。異つた位置と動作が、續いて幾度となく撮影された。融は他の人々に交つて、少し離れたところで見てゐたが、始終彼の蔭から離れないやうにしてゐる夫人をふと振り返ると、彼女は眞劍に緊張した顏に、やゝ失望の色を浮べてどこか逡巡いだやうに後へ身をひいてゐた。

「目が堪らないでせうね。」融は監督I—氏に呟いた。

「え、大抵病氣に罹つてしまひます。しかし或期間目を休めれば、又快くなります。」

そこを出ると、K—氏と一緒に融はレンズに一枚入れられたが、續いて又他の技師によつて、夫人をも入れて一枚撮られた。

撮影所を出たのは、もう日の暮れ方であつた。I—監督も連れ立つて歸つた。途中K—氏は舞臺の人としてもスクリーンの人としても有名な、俳優の池內を訪問することになつた。

「先生家に居るか知ら。」

「多分ゐるでせう。」

池內氏は震災後蒲田の些かな家へ引移つてゐるのであつた。

途中近道をするために、原つぱを通つたとき、K—氏はふと夫人を振り返つて呟いた。

「N—子……の御代役といつた形だな。」

その頃……になられたN—子姫の、白い洋服と廣い鍔の御帽子に、どこか嬝々しい夫人が似てゐるのであつた。

七

その晚K—氏と一緒に、俳優の池內氏に逢つたのは、日が暮れて大分たつてからであつた。

K—氏は脚本賣り込みの件について、池內氏に逢ふ必要があつたが、池內氏なら夫人のことを頼むにも都合が好いと思つた。彼は活動撮影所でも、最高の權威であつた。

池內氏はちやうど不在であつた。そして多分齒醫者だらうと云ふお愛相のいゝ細君の言葉だつたので、門のなかで待つてゐた融と夫人と監督は、やがてK—氏の出て來るのを待つて、灯影の明るい方へ出て行つた。

齒醫者の家にゐなかつた池內氏を、多分そこだらうといふ想像で訪ねて行つた玉突場でも發見することができなくて、更に第二の玉突

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

場へ探しに行つた頃には、融も夫人も大分馴れてゐた。融は絶えず自分の蔭にばかり倚りかゝつて、撮影所で寫眞を取るときも、彼女とK—氏とを主役に、自分は脇役の位置に就きたかつたのであつたが、夫人はやつぱり彼の脇に寄りそふやうにして、レンズの前に立つた。融はこの夫人を、あのプロダクションの混濁した空氣のなかへ送ることに、淡い嫉妬に似た不安を感しないではゐられなかつたやうに、K—氏は勿論今日初めて會つたI—監督にすら、倚り添つて行くやうな態度を夫人に示されるのも不快であつたが、しかし又彼の自卑的な感情と、老作家としての心からの好意は、夫人を悉皆K—氏の手に引渡してしまふことに、寧ろ安易を感じた。

玉突場では、融は暫らく池内氏の鮮かな手並に見惚れてゐた。淡紅色をした四つの玉が、隅の方に寄り集つたまゝ、確實な手練と、敏かい觸覺をもつたキユーによつて、絲を引いてゐるやうに自由自在に操られた。K—氏と折々話を交へながら、玉に熱中してゐる此の俳優の素朴な態度は、舞臺に於けると同じに、玉臺にもぴつたりと著いてゐた。するうち玉が著れた。

四人はぞろ〳〵と玉突場を出て、池内氏の案内で、或るカフエに落著いて、そこで紅茶を飲みながら用談に入つたが、澤夫人が彼に紹介されて、談がをり〳〵彼女の撮影所入りのことにも觸れて行つた。

「何んにも解らないんですから、一つ面倒を見ていたゞきたいと思つて」融は娘でも預けるやうに頼んだ。

「私にもわかりませんが、多少經驗もありますし、映畫界の内部もよく見てゐますから、知つてゐるだけのことはお話しませう。」

「何うぞ。」澤夫人も信用がおけさうに縋つた。

池内氏とK—氏のあひだに、K—氏の脚本上演のことが話された。池内氏はK—氏の要領のいゝ説明を聞いて、直ぐに作柄が何んなものであるかを呑込んだらしかつた。K—氏は最近公園で、池内氏を主腦にした一座の公衆劇上演用として、相當受けるものだらうと云ふ意味で話しこんでゐた。

「兎に角一つ拜見さして頂きませう。」

「掲載の雜誌を送りませう。多分あつた筈だ。」

そこを出てから、薄暗い町をぶら〳〵歩いてゐるうちに、無數のイルミネーションを綴つたプロダクションの建物が、ふと目の前に浮揚つたりした。

「まだ遣つてゐるんですか。」融はI—監督に聞いた。

「えゝ、遲くまで遣つてゐますよ。」

「役者も大變ですな。」

澤夫人が池内氏から、途々話を聞いてゐた。それが並んで歩いてゐる融の耳にも入つた。

「お入りになつてお驚きになるかも知れませんよ。何しろ藝術なんかてんで頭腦にない人間の寄り合ひですから。好い女優がないですから、貴女なぞお入りになれば歡迎はしませうが、藝術的に餘り大きな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

期待をもつておいにでなるてえと、幻滅をお感じにならないとも限りませんよ。」池内氏は半分融の耳へ入れるやうに話した。

「芝居とちがつて、活動はぐつと深く突込んで行くところがありませんから、仕事は樂です。しかし其れだけに藝術的慾求を充たすといふやうな譯に行かないから、腰をすえて眞劍に勉強しようと云ふのには、何處か物足りない、自然好い加減のところで止まつてしまふ。」彼は夫人の柄を見て、いくらか否定的な口吻をも洩した。その態度は融にも同感であつた。

彼の話によると、プロダクシヨンの空氣其物が、また甚く濁つたものであつた。そこでは少數の例外を除くほか、女優の貞操とか品性とかいふものは全く無視されてゐた。

「一度宅へ入らして御覽なさい。よくお話しますから。その上で是非といふことでしたら、撮影所の方も私が口を利きませう。」

「それが好いな。」

「どうぞ。」

「お宅はどちらですか。」

「田端でございますけれど、通ふことになれば、近くへ移つて來てもようございますの。」夫人は答へた。

池内氏に別れて、四人は停車場へ着いたが、K―氏は鶴見の方に用事があるので、融はI―氏と夫人と三人だけで電車に乘つた。I―氏は逎りに映畫界に對する希望やシナリオライタアとしての抱負などを話したが、夫人も時々田舍や東京で最近見た映畫について、幻想的な感想を述べたりした。

融は萬世で電車をおりた。そして三人を近くの鳥屋へ誘つた。

「腹がすいたな。何か食べて行きませう。」

そして夫人を振向いて訊いて見た。

「鳥は嫌ひですか。」

「結構ですわ。」夫人は嬉しさうに答へた。

その鳥屋は融の作家的生涯に取つて、多少の思出があつたが、夫人を案内するには餘り極りの好い家ではなかつた。融は分疏しながら入つて行つた。

鳥屋では夫人はサイダを飲んだ。融とI―氏は早速飯を食つた。夫人を側において、酒を飲むことを好まなかつた。夫人は融たちのために飯のお給仕をした。その度に融は「恐縮です」と言つて氣兼がつた。

歸途融は込合ふなかを吊革にぶら下つてゐる夫人とI―氏に別れを告げて電車を降りた。

住みなれた暗い小路を通つて家へ歸ると、茶の間に皆んながゐた。

「あの北海道の人愈よ映畫女優になりたいと言ふので、K―さんに浦田のプロダクシヨンへ案内してもらつたのさ。」

「あの人キネマ女優になるんですか。」大きい子供が驚いたやうに言つた。

「さうさ。先づ研究生としてだが、可いぢやないか。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「さあ。あの人スクリーンに何うかな。」

八

しかし夫人は撮影所へは入らずにしまつた。

融は何うかと案じながらも、一と肩おりたやうに感じてゐた。あの美しい夫人が望みどほり、何か藝術的な映畫の主人役とまでは行かずとも中心人物の一人となつて、スクリーンの上に現はれる場合を、彼は興味や好奇心のかはりに、哀情と危惧の念なしに考へることは出來なかつた。事によるとあの幽婉な容貌や藝術的熱情だけでも、會社の寶りものとして人氣が出るかも知れなかつたが、善良な家庭に生ひ立つた彼女が、藝術といへば藝術かも知れないが、あのやうな毒々しい扮裝をして、平氣で映寫機の前に立つて、不愉快な表情や動作に馴らされて行くのは、何といつても痛ましいことであつた。

すると一週間ほどしてから、夫人が訪ねて來た。相變らず模樣の派手なものを着てゐたが、最初來たときから思ふと、どこかしつとりと來ないところがあつた。融は夫人がしばらく來ない間に、K—氏にも時々逢つてゐることだらうし、池內氏をも訪問して、毎日會社へ通ふのに忙しいことかとも想像してゐたが、事實は大分想像と違つてゐた。

相かはらず彼女は隅の方にもぢ／＼してゐた。

「先日はお忙しいのに、色々御心配かけまして……。」

「あれから何うしました。」

夫人はまじ／＼見詰める癖の融の目を避けるやうにしてゐた。

「先生やK—先生に、わざ／＼行つていたゞいたりして、御迷惑かで濟みませんですけれど、あすこへ行くのは止めました」

「さう。何うして。」

「あの日撮影所へ入つた瞬間、何だか私の心持と大變違つた世界へ來てしまつたといふ氣がしましたの。でもこれから先きの生活を考へまして行くことに決めてしまつたんですけれど……。」

「ぢや、あれ限りですか。」

「いゝえ、少し通つて見ましたの。H—さんの講義なんかも聞いたんですけれど、女優たちの生活を見たり何かして、悉皆幻滅を感じたものですから。それに今のところ、月謝なんても續きさうもございませんものね。」夫人は直ぐ目を潤ませた。

「K—君には逢はないんですか。」

「え、ちつとも。池內さんのお宅へは二三度伺ひました。撮影所へもつれて行つていたゞきました。先生方と一緒のときもさうでしたけれど、一座の主腦となると、あんなにも幅の利くものでせうかね。私がついて行つたので皆な喫驚してゐましたわ。」

「池內は何う言つてゐました。」

「あの方大變親切にして下さいましたの。よくせきの事があるなら鬼に角、貴女なぞの來るところぢやないと仰つて下さいましたわ。內部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へ入つてみると、女優なんてずゐぶん惨めなものなんですのね。小さい鏡臺の前にすわつて、お化粧してゐるところを見て、私すつかり悲しくなつてしまひましたわ。」

融はさうかなと思つたが、夫人の物の感じ方が、それほど鋭敏だとは思はなかつた。

「それに何だか彼だと言つて、いくらか女優らしい體面を保つて行かうとするには矢張りお小遣も入りますのね。一年間くらゐは實家へ言つてやれば、出してくれない事もないでせうけれど、澤さんの今度の事件では、實家でもずゐぶん迷惑してゐますから、一切手を引いてしまひさうなんですものね。」

融は今まで度々破産問題について聞かされたけれど、斷片的でもあつたし、その時その時で話の模樣も變るので、單に漠とした概念を與へられたに過ぎなかつた。たとひ十萬圓の負債を澤が背負つてゐるにしても、刑事上の問題で苦しみ悶えてゐるにしても、東京の世帶なぞも夫人の實家から金が出てゐるらしい話も聞いてゐるので、澤は兎に角、夫人がその日の生活に困つてゐるものとは信じられなかつた。此の頃は目に立つて姿が崩れはしたけれど、夫人は相變らず錦紗や御召の派手作りであつた。

「私はまたK―君とも度々逢つて、うまく行つてるものとばかり思つてゐたんですが……。」

融の意味は、强ち映畫に限つたことではなかつた。文壇若しくはそれに適つた藝術界の空氣に觸れて、その仲間に入るには、何と言つてもK―氏などに接近してゐた方が有利だと思つた。物質の點でも、融自身が心配するよりも、若い人氣ものゝK―氏などの方が、寧ろが暖かで、何うせ浪費も多いのであつた。

「いゝえ。K―先生といへば、何だか畫家のやうな氣分の方だと思ひましたわ。」夫人は晴れやかな顏をして、作品の噂などした。

「本を出すについても、若い連中の力を假りた方が好いんですからね。」

「え、ちよつとお禮狀は出しておきましたけれど……。會社では直きにスクリーンの前へ立たしてくれさうなんですけれど、それも、女優としての存在も認められないやうな、何うせ好い加減のものなんでせうから。田舍の町の場末なんかで、方々持ちまはつた古いフヰルムがかゝるんですの。名前なんか書いたビラが風にひらひらして、隨分寂しい感じがしますのね。私あれを思出したら悲しくなりましたわ。私の名前なんても、郷里の町の曝しものになるだらうと思ふと、すつかり厭になつてしまひました。」

「さうね。それぢや止した方がいゝでせう。」

「劇の方でしたら、直接公衆の前に立つて、好かれ惡かれ自己といふものを生かして行くことが出來ますけれど、それには私は臺詞が駄目なんですものね。

「そんなに耳觸りでもないやうだけれど……。」融はあの邊の同じ土地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の産れの人を、外にも知つてゐたが、それに比べると夫人の訛りなどは氣になるほどのものとは思へなかつた。

夫人はその日は比較的自由に話した方であつたが、それでも二時間とは落着いてゐなかつた。何か新らしい要求があるやうにも思はれたが、矢張打ち繼けることが出來なかつた。出版のことにもちよつと觸れたが、

「さあね、あれも心配してゐるんですけれど……」と融に暗い顏をされると、それ以上言へなくなつてしまふと云ふ風であつた。



早春

与謝野晶子

わが見れば二月は病めり冬をまた信じ能はず春に至らず

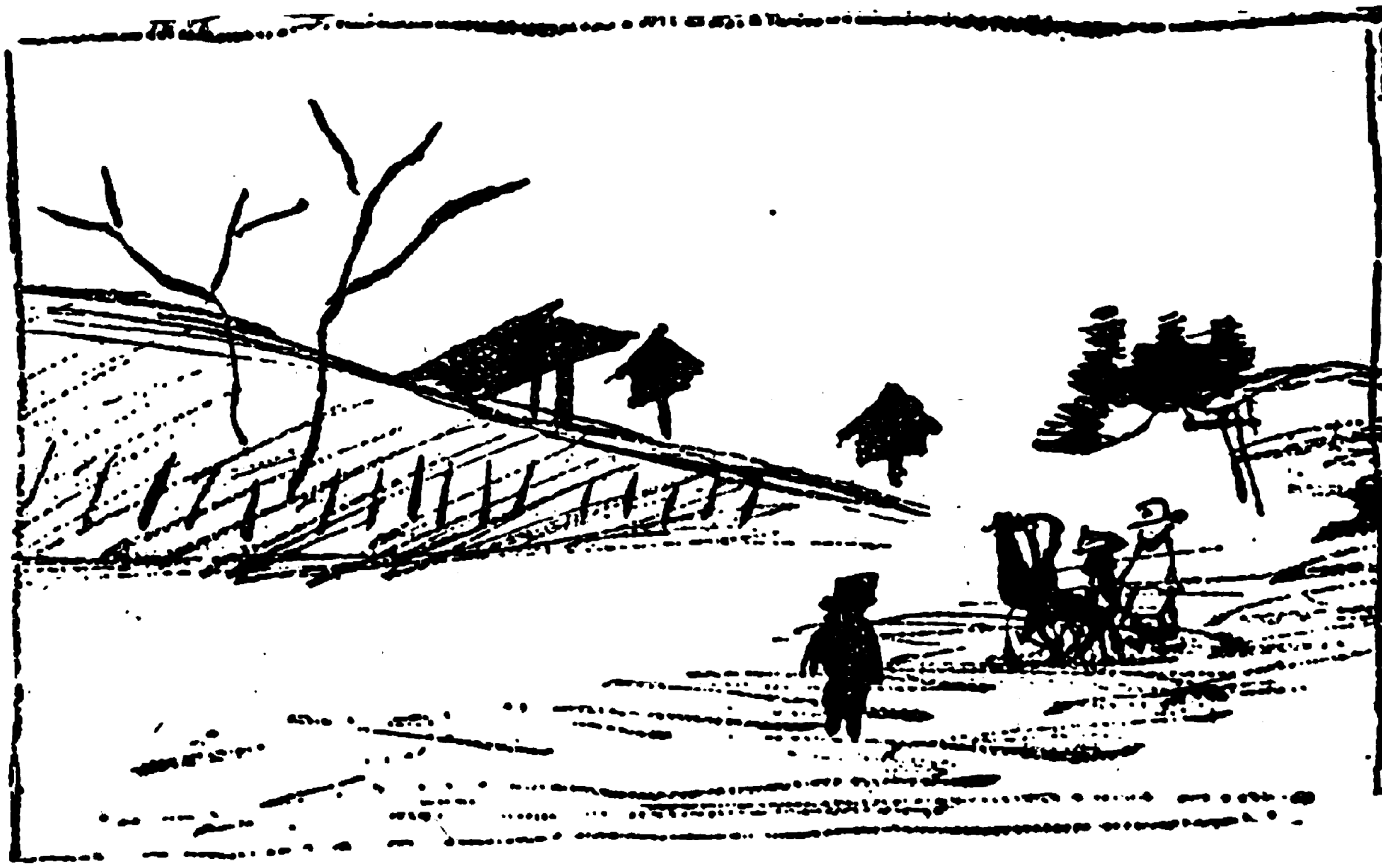
雪解沁む土の匂ひと枯草の燻ゆる二月の悩ましきかな

二月疾く瓦の色の小鳥來て木づたひ歩りく忍術の如

二月よしなべて重げに曇りたる日の夕暮を少し風吹く

東京の雪無き二月あぢきなし物思はずとわが云ふに似て

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



紙幣束

山田清三郎

この物語は、手工業時代から金融資本主義時代へかけての、一つの挿話である。

作爺さんには、馘首になつた理由が、何といつても、腑に落ちなかつた。

六十年もの長い間、彼は、怒りらしい怒りといふものを感じたことはなかつた。今度のそれが始めてゞあるだけに、その打撃も全身的のものであつた。

鋳物工の猪之吉や、ボール盤の源助爺さんや、同じ鍛冶場の金ちやんや、その他の連中が「お拂箱」になつたところで、彼にいはせると、まだしも「あきらめ」のつくことだつた。彼等はみんな「鍛冶丑」の「杉本」が、會社になつてから雇はれて來たところの「通り一ぺん」の職工に他ならないからだつた。

會社になつてから雇はれて來た「通り一ぺん」の職工達が、會社の仕事がなくなつて「お拂箱」になることは、それはどうも「仕様のない」ことであつた。

會社にならない前から、先代の「鍛冶丑」の頃から、五十年もの長い間、一つところの「飯」を食ひ續けて來た作爺さんには、彼がそうした「通り一ぺん」の職工達と共に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一束ねにされて「お拂箱」になる道理が、そんな「ベラ棒」な道理がこの世の中にあらうとは考へられなかつたのだ。

昨夜もまた、夜つぴて眠られなかつたのだ。

夜廻りの拍子木の音も、鷄の聲も、牛乳車のわだちの響も、何も彼も耳に入らないほどであつた。

作爺さんが、一睡も出來ないといふやうなことは、滅多になかつたたゞ思ひ出されるのは、彼が二十三か四の頃、郷里の水車小屋の川へ落ちこんでかけがへのないたつた一人の「おふくろ」が、突然變死を遂げた時のことであつた。

その頃丁度、證文を取交した十年の「年期」が、もう僅かで明けようとしてゐたので、彼はその日の來るのを、「指折り數へて」どんなに待ち焦れてゐたかわからなかつた。

「年期が明けたら郷里へ歸つて、自分で鍛冶屋を始めるんだ。そして……」

彼は、何よりたつた一人の「おふくろ」を安心させてやりたかつた。

「おふくろ」をホカ／＼する炬燵に抱かせて置いて、自分は職場で「トッテンカン」「トッテンカン」と槌を振ることの樂しさを、彼はどんなにか、その赤銅色の胸の底に、優しく描いてゐたかわからなかつた。

その「おふくろ」が死んだのだつた。

「御主人大事に勤めておくれ。お前の年期の明けるまで、わしはどんなことをしても、きつと生き延びて待つてゐるから……」

丑吉親方の前で、涙を浮べ乍ら、三度も四度もさういつてきかせたその「おふくろ」が急に亡くなつてしまつたのだつた

彼は、突然世の中から、光といふ光の一切を奪はれてしまつたやうな氣がした。

村外れの共同墓地の、枯薄のほとりへ、「提灯」一つ「花一本の」淋しい葬をやつとすまして、親方の家へ歸つて來てからでも、一ケ月ほどの間といふものは、まるで、唐瓜のやうにポカンとしてゐた。

「死んでしまつたものは、今さら仕樣がねえぢやないか。一風呂浴びて、夜角力へでも氣晴らしに行つて來るがいゝ」

あと片付けの箒をつかんだまゝ、田圃の涯に暮れ沈んで行く空などを眺めてゐると、もう手酌でチビ／＼やり出した丑吉親方は、ツルッルと光つた頭を撫で乍ら、かういつて彼を慰めたものだつた。

それを耳にすると、彼は、一も二もなく參つてしまつた。

そして、始めてつれて來られた時、親方の前で、繰り返し／＼いて聞かされた、「御主人大事に……」の死んだ「おふくろ」の言葉が、いつも耳新らしく、彼の素朴な頭に蘇つて來るのであつた。……

それから、四十年といふ月日が過ぎ去つてしまつたのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すつかり朝になつたと見えて、天井の電燈はいつの間にか消えてしまつてゐた。

氣忙しい長屋の井戸のポンプの音も、鳴りをひそめた。

いつもなら「作爺さん！」と斜向ひの政吉が、響きのいい江戸辯で、朗々と聲をかける頃であつた。

若い旋盤工の政吉は、爺さんに對して、ひどくわだかまりがなくて親切だつた。作爺さんは時々彼を、自分の血を分けた「倅」としてその老ひたる頭の中に描いて見ることがあつた。

「何といふ頼もしい若者だらう。あれがわしの息子だつたら……」

曾て自分の境遇に、不平や不滿といふものを抱いたことのない作爺さんも、どうかすると、かうして自分の孤獨を悲しむことがないでもなかつた。

その政吉も、作爺さんが馘首されてからといふものは、急に人間が變つたように、「お早う。」「お休み」の挨拶の聲も、何となくそッ氣なくなつてゐるのだ。

「政吉はもう出かけたのにちがいない。それにしても、世間の奴といふものは……」

作爺さんは、踏みつけられたゴム人形のように、身體中がムヅ〱鳴つて仕方がなかつた。

工場へ吹ッ飛んで行つて、誰が何といはうが、頑張つて仕事をやりたい氣持で一ぱいだつた。

鍛冶場には、作爺さんが出て行かなければ、誰も火を入れるものゝなかつた「鍛冶丑」時代からの彼と同じほどにも年老いた鞴が、彼の出動を、首を長くして待ち侘びてゐる「筈」であつた。

道具庫には、いつ彼の掌のどこにたこが出來て、いつ彼の掌のどこが火傷に泣いたかといふことを、一つ殘らず見て知つてゐるところの彼の「相棒」の鎚が、彼の職場へ呼び出しに來るのを、これまた待ち焦れてゐる「筈」であつた。

併し、作爺さんは、今はそれ等の物言はぬ無二の友達と、又と再び顔を合はすことの出來ない、老いぼれた「馘首職工」なのだ。

長家から十丁とは隔つてはゐない工場の、耳慣れた始業汽笛が、いつものように、元氣よく朝空に響き渡つた。

耳を傾けるまでもなく、ベルトの唸りや、ボイラーの音や、ハンマーの響きが、まるで自身工場の中にゐるかのように、アリ〱と眼の中に描かれるのであつた。

「畜生——」

作爺さんは、自分でも飛び上るほどの聲を出した。

「ど、どうしてくれる！」

彼は、膝の下の、アンペラのようなボロ布團の中から、薄汚い風呂敷に丹念に包んだ、一くゝりの紙幣束を取出すと、そのまゝそれをひッ掴んで表へ飛び出さうとした。が、その一歩手前で、急にこはれた操り人形のように、ガクリと首を垂れてしまつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「二枚足りない……叩きつけるには二枚足りない……」

彼は、「柄にもなく」自棄を起したことが悔ひられた。

取り返しのつかない「大失策」をやらかしてしまつたことが、この上もなく腹立たしかつた。

あの晩には、しかし滅多矢鱈に酒でも呷らなければ、それこそ「やり切れる」ものではなかつた。

それに、生れて始めて「莫大もない」大金を手にした故も手傳つてはゐた。

「チエッ！年甲斐もなく何てえこつた！」

作爺さんは、座敷の眞中に、ペタ〳〵と腰を砕くと、まるで腕白盛りの子供のように、ガムシヤラにベソをかいた。

世界大戰がもたらした、我國工業界未曾有の好景氣のために、短時日の間に、ゆくりなくも事業の一大膨脹を來した杉本鐵工所は、他のあらゆる小企業工業が殆んどさうであつたように、一度び媾和條約が成立して、反動不況の大波が、雪崩のような勢で、全日本の上を襲ひかゝつて來ると、まるで、日蔭に肥つた雪達磨を、眞夏の天日にでも曝したように一堪りもなく參つてしまはざるを得なかつた。

擴張に次ぐに擴張を以てした全工場の、その隅々にまでも漲り渡つてゐた、まるで戰場のような活氣も、きのふはシカル盤が二臺分……けふは旋盤がまた三臺分……といつた具合に、急にベルトの廻轉を減ずることに依つて、日毎に、歯の脱落するような空虚と寂寥を加へて行かなければならなかつた。

幾ら狩り集めても、足りるといふことを知らないほどであつた人員も、今では一日も、一刻も早く思ひ切つた大鉈を揮はなければならない運命に驅り立てられてゐた。

「愈々危いといふことぢやないか」

「何でも、M製鐵所に併呑されてしまふといふような噂もあるが……」

まだ誰れ一人として、どこの勞働組合にも入つてゐるものゝない心もとない職工達は、寄ると障ると、手持無沙汰の額をあつめて、厭はし氣に囁き合つた。

かくて、工場を蔽ふ不安の影は、日一日とその深刻さを加へて行つた。

作爺さんも、落ち着いてはゐられなかつた。

勤めに出るにも、張合がなかつた。

道具の手入れをするにも、力が入らなかつた。

彼はこれまで、餘りにも、順風に帆を孕んだようなことばかりを見せつけられて來たのであつた。

全く、彼の知る限りでは、「鍛冶丑」時代からこの「杉本」が、假にも悪く躓いたようなことはなかつたのだ。

十五歳の春、死んだ「おふくろ」に手をひかれて、始めて「年期奉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

公」に住み込んだ時には、この「杉本」は、「鍛冶丑」といつて、まだ肥桶車の、ガタコトと行列する街道筋の、主として駄馬の蹄鐵を打つてゐたところの、ホンの小ぽけな宿場鍛冶とでもいふべきものに過ぎなかつた。

「頑固丑」と仇名された、名人氣質の先代の丑吉親方が、いゝ、やつとこの持ち様一つから「手をとつて」敎へてくれたものであつた。

「年期」が明ける頃には、三四人からの中年者を雇ひ入れて、荷車の車輪や、心棒や、ちよつとした鐵材などをも打ちこなすようになつてゐた。

たつた一人の、かけがへのない「おふくろ」に死なれてしまつて、自分で獨立して鍛冶屋を開業することを、すつかりあきらめてしまつた時分からの、「鍛冶丑」――「杉本」の「繁昌」は、作爺さんにいはすと、それは實際「豪氣」そのものであつた。

そこには、まさしく我國に於ける「手工業時代」から、「工業資本主義時代」さらに「金融資本主義時代」へかけての、あはたゞしい發展の宛らの縮圖が展開されてゐたのだ。

「日淸戰爭」の頃には、今まで二丁しか轉がつてゐなかつた鎚が、急に六七丁職場の壁にずらりと勢揃ひをするようになつた。

丑吉親方は、仕事着を脱いで、「聰」で職人達を指揮するようになつてゐた。

「日露戰爭」の頃には、それまでの單なる「鍛冶屋」が、電機工場の機械の部分品の下請負などもするやうになつて、稍、「鐵工所」の名の近いものに「出世」をした。

小馬力ながらも電動機を据えつけて、新に買入れた簡單なボール盤や、バイトなどゝいつた「ハイカラ」がつた機械や道具が、急に巾を利かし始めた。

今まで職場のあつた、街道に面した部分は、改築と共に事務所となり、その裏の方に、新に二棟の工場が新築された。

事務所の入口の扉には、今までの「鍛冶丑」といふ商號の代りに、「杉本」の二字が摺り硝子で記された。

二三年前に工業學校を出た一人息子の太一が、役場の書記上りの年とつた事務員と共に、小さい金庫を背にして帳簿をいぢくつてゐた。

丑吉親方が、「佛」のような「往生」をとげたのもその頃のことであつた。

それから十年後の「世界大戰」の頃になると、今まで まだ個人經營であつたものが、資本金十萬圓の株式會社に發展した。

急設電話が、二個も同時に布設せられた。

事務所は二階建の、それは「素敵」な洋館に變つた。表には「株式會社杉本鐵工所」と刻んだ「金看板」が掲げられた。

維新前まで「庄屋」だつたといふ土地の地主から買ひうけて、隣接の地所に増設した、赤煉瓦の第三工場には、一々その名を覺えるだけでも「容易」でなかつた、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いろんな「舶來」の機械が、廻轉し始めた。

「親方」の「主人」が「社長さん」になつた。封建的な「職人」が近代的な「職工」といふ名に變つた。

「おらは「職工」ぢやない、「職人」だ。何といつても「職人」だ。」

作爺さんが頑張つて、人々の笑ひ話になつたのもこの時であつた。

さうした「鍛冶丑」――「杉本」の發展と共に、まだ親しみの淺い「東京」になつたばかりの、「江戸」に程遠からぬ街道の、單なる一村落が「杉本」の「繁昌」と同じ速度と比例を以て、いつの間にか、東京郊外の小工場地帶に發展したことはいふまでもなかつた。

作爺さんは、それ等の一切の「事實」を見て知つてゐた。知らないのは、肝心のその「事實」の底を貫くところの、「必然」であり「本質」であつた。

だから作爺さんにとつては、「杉本」はあくまで、永久に隆々と「繁昌」して行くべきものであり、假にも事業が「乾上る」ような、そんな「馬鹿」なことはあり得ないことであつた。

彼にいはすと、それは先代の丑吉親方が、「途方もない」「神信心」者であつた「お蔭」に他ならなかつた。「杉本」には、成田のお不動様がいつも護つてゐるからだつた。

その「杉本」が、今日の仕末なのだ。

その「杉本」が、事實「乾上」らうとしつゝあるのだ。

「わからない……俺には、會社になつてからのことはとんとわからない？」

作爺さんは、神棚の前で、まるで大學教授でもあるかのように、腕を組んで考へ込むことがあつた。

會議室の中には、强力の電燈の光が、滿月のように滿ち溢れてゐた。たゞならぬ空氣は、窓外の樹木までをも緊張せしめてゐるかに見えた。

緊急幹部會議が開かれてゐたのだ。

作爺さんは、泥棒猫のように、コッソリと棕梠の樹蔭に身をひそめた。

會議の模樣が、心配でならなかつたのだ。

彼にとつては、およそ「杉本」のことは、彼自身のことであつた。「杉本」の一喜一憂は、彼の一喜一憂に他ならなかつた。

先代の「鍛冶丑」の時代から、「杉本」の「飯」を食つてゐるものが他にあるだらうか。

息子の太一社長さんを除けば、技師長だつて、工場長だつて、課長だつて、幾ら金緣の眼鏡を光らかしたり、立派な髭を生やらかしたりしてゐたつて、「杉本」にとつては、まだ十年とは勤めてゐない、ホヤ〳〵の「新米」ばかりではないか。

作爺さんは、彼も「幹部會議」の、末席に加へられないことが、少

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

からず不服であつた。

「毛唐」のいふような、むづかしい言葉や、込み入つた計算のことなどは解らない……いつどんな道具を何丁増やして、工場を幾坪建て増したといふことや、いつ誰が雇はれて、その人間がいつ幾日休んだといふこと位は「生字引」のように頭の中に叩き込んでゐるつもりだつた。

「俺がこんなに心配してゐるのに」

その「生字引」をかういふ時に珍重してくれない理由が、彼には解らなかつた。

カーテンを深く垂れた窓といふ窓は、ピッタリと固く閉ざされてゐた。

時々頭の頂邊で、コツ〳〵靴をたゝく音が響くだけで、しはぶきの聲一つ洩れては來なかつた。

隨分長い間、息を殺してしやがんでゐたと思ふ頃に、夜警の拍子木の音が、工場の塀の方に當つて聞えた。

突然、どや〳〵と人々の立上る氣配がした。

作爺さんは、見付けられてはならないと思つて、鼬のように逃げ出した。

「どうも、よくない會議にちがいねえ」

と、小首を傾げながら。

それ自身では、どうにも存續の道を發見することの不可能だつた株式會社杉本鐵工所は、債權、債務の一切を擧げて、その「親會社」に當るところの、M製鐵株式會社に、愈々併呑せられることになつた。

そして、思ひ切つた事業の縮少と、それに伴ふ人員の整理が、舊い司法權のような、冷徹峻嚴さを以て斷行せられることになつた。

まだ「江戸」に近い街道筋の、小ぽけな宿場鍛冶屋に過ぎなかつた「鍛冶丑」の時代から、「年期」を入れて、五十年もの長い間、一つ事に牛のように默々と働き續けて來て、そのお蔭で新しい技術の何一つも持ち合してゐないところの「老ひぼれた」一鍛冶工の作爺さんが人員整理の眞先に數へられるところの「老朽陶汰」の槍玉から、到底まぬかれることの出來ないのはいふまでもなかつた。

馘首の日、作爺さんは、それでも流石に最後に呼び出された。

社長室の正面には、大きな卓子を前にして、社長の杉本太一が、蒼ざめた顔をして回轉椅子に倚りかゝつてゐた。

營業課長、技師長、工場長等が、その兩脇に、裁判官のように控へてゐた。

作爺さんは、何か惡事でも働いて引立てられたような氣持であつた。

「そんな馬鹿なことはない……そんな馬鹿なことがあつて堪るものか！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分では、飽くまで頭を横に振つてゐた。

「他のものとちがふ、他のものとわけがちがふ。丑吉親方の時分から勤めてゐる俺が……」

彼は、太一社長の子供時代のことを、ボンヤリと思ひ出してゐた。首筋に、飴ちよこをベタ〳〵にくつつけられたことがあつた。紙鳶の糸を切つたといつて、畑の中で頭をポカ〳〵とやられたことがあつた。

お馬になつて、糞をひつかけられたこともあつた。

「俺が「お拂箱」になる？そんな理屈があるものか！」

ふと氣がつくと、まるで「お役人」のような顔をした、いかめしい社長の姿が、そこにあつた。

「作爺さん！」

聞き慣れた言葉であつたが、けふのそれは、鐵板のような響がした。

「この會社も今日の仕末で……お前には隨分長い間働いて貰つたが……」

作爺さんには、その後の社長の言葉は聞えなかつた。聞えないような氣がしたのだ。

萎びた老眼から火花が散つた。

世の中が突然、奈落の底に墜落したような氣がした。

彼だけには「特別」に「深甚な考慮」を拂つたといつて差出されたところの、一くゝりの紙幣束を社長の面前に叩きつけると、作爺さんは、モルモットのように哀訴し、虎のように吠え立てた。

「俺ら「杉本」の人間だ、丑吉親方の死水までとつた俺らだ。誰が何といつたつて出て、行くものか！」

だが作爺さんは、柔道何段かの工場長に胸倉をとらへられて、臺所からまぎれ込んだ野良犬でゞもあるかのように外へおッぽり出されてしまつた。

資本家には「人情」は禁物であつた。

人員整理、老朽淘汰には「除外例」はなかつた。

會社は、作爺さんから、もう搾り取るべき何ものをも餘してはゐなかつたのだ。

作爺さんは、流石に「杉本」のことは、そろ〳〵あきらめかけてゐた。あきらめざるを、得ないことでもそれはあつた。

その老いたる神經を、朝ごとに鋭く突き刺した、耳慣れた工場の汽笛の音も、今では、街を賣り歩く豆腐屋の笛の音と、たいした相違はなかつた。

百軒長屋の斜向ひの、あのやさしかつた若い旋盤工の政吉が、顔をそむけて通つても、その方が結局かかはりがなく、氣樂なことに思はれて來た。

人情を踏みにぢつた鬼のような社長に對する、蛇のような怨恨の情

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も、紙を剝ぐように薄らいで行つた。

その代りに今度は、彼の全精神を、鋭く支配し始めたものがあつた。壁飾を削るように、いつの間にか減つて行くところの「五百圓」の紙幣束がそれだ。

「何故俺は嬶をもたなかつたのだらう」

馘首された當座は、どうかするとその孤獨について考へて見ることがないでもなかつた。

日露戰爭の頃のことだ。初めてその村に建つた「杉本」の近くの「布袋湯」の娘に、顔を赤らめたことがあつた。

その娘は、間もなく、三日に一度位の割で村へ廻つて來る、眉筋の通つた若い「東京」の魚屋と、タンポヽのように、どつかへ吹ッ飛んで行つてしまつた。

たつた一人の「おふくろ」が世を立つてからといふものは、自分で獨立して鍛冶屋を始めることをすつかりあきらめてしまつた作藏には「嬶」を貰つて「嬶」や「餓鬼」を養ふだけの、勇氣も自信もないのだつた。

で、彼はそれッ切りで、女のことは、ぷッつり忘れてしまつたといつてもいゝ位だつた。

「せめて、あの政吉位の倅があつたら‥‥」

ひとりぼつちの冷たい布團の中で、ふとそんなことを空想することがあつた。

が、六十幾歳になつた、老いぼれた馘首職工の作藏さんには、今さらそんなことを考へたつて、それはどうなるものでもなかつた。

それよりも、當面の彼にとつて、何より一番大事なことは、働かしかない餘生を、今後どうして生きて行くかといふことであつた。

海老腰さげて、今さら他へ行つて働く氣にもなれなかつた。

屈強の若者さへ、升で量るほどあり餘つてゐるといふ矢先だつた。

作藏さんが、そのへシ曲つた腰に、幾ら鞭をあてがつて働かうとしたところが、引取つてくれるようなところは、あるわけのものではなかつた。

ひとりぼつちの作藏さんは、勢ひ、アンペラのようなボロ布團の中に忍ばせてあるところの、一くゝりの紙幣束に、その餘生の一切を托さなければならなかつたのだ。

五十年もの長い間、たゞひたすらに「御主人大事」にと働き通して來た、代償に、やつと握らされたところの「五百圓」だつた。

その紙幣束が、一枚一枚、歯が脱けるようになくなつて行くのだ。

「作藏さんゐるかい」

眼鏡越しに内部を覗き乍ら、答へもないのに、我家のように無遠慮に入つて來たのは、百軒長屋の差配の樺山老人だつた。

彼はこの頃、かうして、三日にあげずやつて來るのだ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以前にはそんなことは滅多になかつた。

作爺さんが「莫大もない」金を貰つて「杉本」を罷めたといふことを知つてからは、獨り呑み込みの親切氣から、何か年寄りでも出來る商賣を始めるようにと、勸めに來るのだつた。

樺山老人は、この小工場地帶の發展の基礎をなしたところの「杉本」の「子飼」であり、この町の「生字引」であり、ここの長屋の「ぬし」でもあり、そしてこれまで、一度だつて家賃を滯らしたことのない作爺さんを、めづらしく實直なものとして、信用することが深かつた。

作爺さんも、家賃でも屆けに行かうものなら「九星」「干支」の吉凶などを占つたりして、まるで、高島易斷所の門前でゞもあるかのようにいろんな小むづかしいことをよく知つてゐる樺山老人を、尊敬もしまた賴もしいものにも思つてゐたのだつた。

だが、紙幣束を抱いてからの作爺さんは、差配の訪ねて來るのを喜ばなかつた。喜ばないのみではなかつた。いつの間にか、胡散臭さうな眼で、ヂロ／＼と對手の顏色を窺ふようにさへなつてゐたのであつた。

「どうだ、決心はついたかな。今朝もうちの婆あと話をしたんぢやがな煙草屋だとか、荒物屋だとかいふのより、却つて甘酒屋だとか、ゆであづき屋なんかの方がよからうとな」

作爺さんは、布き放しの布團の上に、啞のように坐つたきりで、眉一つ動かなかつた。

膝の下の布團の中には、例の紙幣束が、藏ひ込んであるのはいふまでもなかつた。

「何うしたんだ。氣分でも惡いのかい」

作爺さんは、口を利くのも怖ろしかつた。

彼は、今まで、共同井戸のポンプの修繕か何かの時以外には、滅多に顏を見せたことのない差配が、この頃になつて繁々足を運んで來るのは、てッきり何か「曰く」があるにちがひないと、そう思ひ込むようになつてゐたのだ。

「大事の大事のこの紙幣束を、他人に手をつけられて堪るものか！」

作爺さんの額には、脂汗がにぢんでゐた。

「馬鹿に顏色が惡いぢやないか。藥でも買つて來てやらうか」

「何に、たゞちよつと頭が痛むだけで……」

「この頃お前は餘程どうかしてゐる。氣をつけなけりやいかんぜ」

樺山老人は、小首をひねり乍ら不機嫌に出て行つた。

作爺さんは、まるで、瘋狂院から脫け出して來たようであつた。人間が、すつかり變つてしまつたのだ。

以前のように、實直な人の好さや、生一本の朴訥さなどは、どこを探しても見當らなかつた。

眼は落ち窪み、頰は削りとつたようにこけてしまつて、平和だつた童顏の持主が、餌に飢えた梟のような、恐ろしい容貌に變つてしまつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝から晩まで、眼ばかりパチ〳〵光らし乍ら、貝殼のように、布團の上にへばりついてゐた。

布團の中には、例の紙幣束があつた。

便所へ行く時にも、彼は、その紙幣束を、胴卷の中へ固く藏ひ込んで、肌身を離さなかつた。

銀行や、郵便局へ預けることなど、以ての外の「危い」ことに思はれた。

夜など、鼠がガタリと音をさしても、飛び上つた。

遠くで犬が吠えても、顏色を變へて身構へをした。

人の足音にも氣を配つた。

隣りの話聲にも、神經を尖らかした。

絶えず紙幣束をつけねらつてゐるものが、そこいら中にうよ〳〵してゐるような氣がした。

眼の先に、匕首が光つた。

黑い覆面の姿がチラついた。

幻影は幻影を生んだ。脅迫觀念は、日每に鋭く彼の全神經を苛むのであつた。

作爺さんは、今は完全に、命がけの紙幣束の番人であつた。

紙幣束は作爺さんの、全生活を支配してゐた。

作爺さんは、一くゝりの紙幣束の哀れな番人として、その老い先の短い命を、刻々に縮めてゐるのであつた。

風が强い晩であつた。

凍りつくほど寒かつた

火でも失したら、それこそどれだけ燃え擴がるかも知れないと思はれた。

雨戸がガタビシと鳴つた

どこかでブリキの看板が吹ッ飛ぶような音がした。

作爺さんは、いつものように眼ばかり光らし乍ら、アンペラ布團の上に、まるで狐狸か何かのように、首筋をひつこめ乍らへばりついてゐた。

夜每の不眠が重なつて、强迫觀念は極度に昂まつてゐた。

神經といふ神經は、針の尖のようにピク〳〵と怯えてゐた。

風の音は益々募つた。

ひとりぼつちの哀れた紙幣束の番人の作爺さんは、膝の下に布いてゐるだけでは、心もとなかつた。

吹きまくる風の音に紛れて、今夜こそは、誰れかゞ忍んで來さうに思へてならなかつた。

差配の横山老人が、ここ五六日、顏を見せないことも大きな氣がゝりの一つであつた。

夕方突然飛び込んで來た、鳥打帽を眼深に被つた、四十前後の一癖

あり氣なゆで出しうどん屋の眼光や顔付が、もの凄い形相の大寫しと、なつて、頭一ぱいに擴がつたりした。

「畜生！この大金を、ムザ〳〵他にとられて堪るものか？」

そこで、瘋狂院から脱け出して來たような作爺さんは、アンペラ布團の中から、その紙幣束の風呂敷包を取出すと、胴巻の中に藏ひ込んで、その上を、醤油で煮つめたような褌で、二重にも三重にも捲き足した。

だが、それでもまだ心が安まらなかつた。

どこか節穴からでも、それをちやんと、誰か〻凄い眼をして見屆けてゐるような氣がして仕方がなかつた。

小便に立つのも、怖ろしかつた。

一あほり激しいあほりを喰ふごとに、表通りの窓硝子が何かで破壞されて、地に裂け碎ける音がした。

萎え切つた作爺さんは、頭からアンペラ布團をすつぽり被ると、蜘蛛の巣のかゝつたほやけた電燈の下に、まるで芋蟲のようにビク〳〵震えてゐた。

夜の更けるに從つて、風は益々猛烈に吹きまくつた。

その翌日から、作爺さんの家の雨戸は開かなかつた。

それから三日目のことだつた。作爺さんが、梁にぶら下がつて縊死をとげてゐたといふ噂が、長屋中は勿論、その工場地帶の一廓を騷がした。

檢死の役人が來て調べたところに依ると、死人の兩手が、膠着したようになつてしつかとかい抱いてゐた胴巻の中から、奇怪な一個の風呂敷包が出て來た。

遺言狀でもあるのでいないかと解いて見ると、手の切れさうな一くゝりの紙幣束が出て來た。

それには耳を揃へた十圓紙幣が、數へて四十三枚あつた。

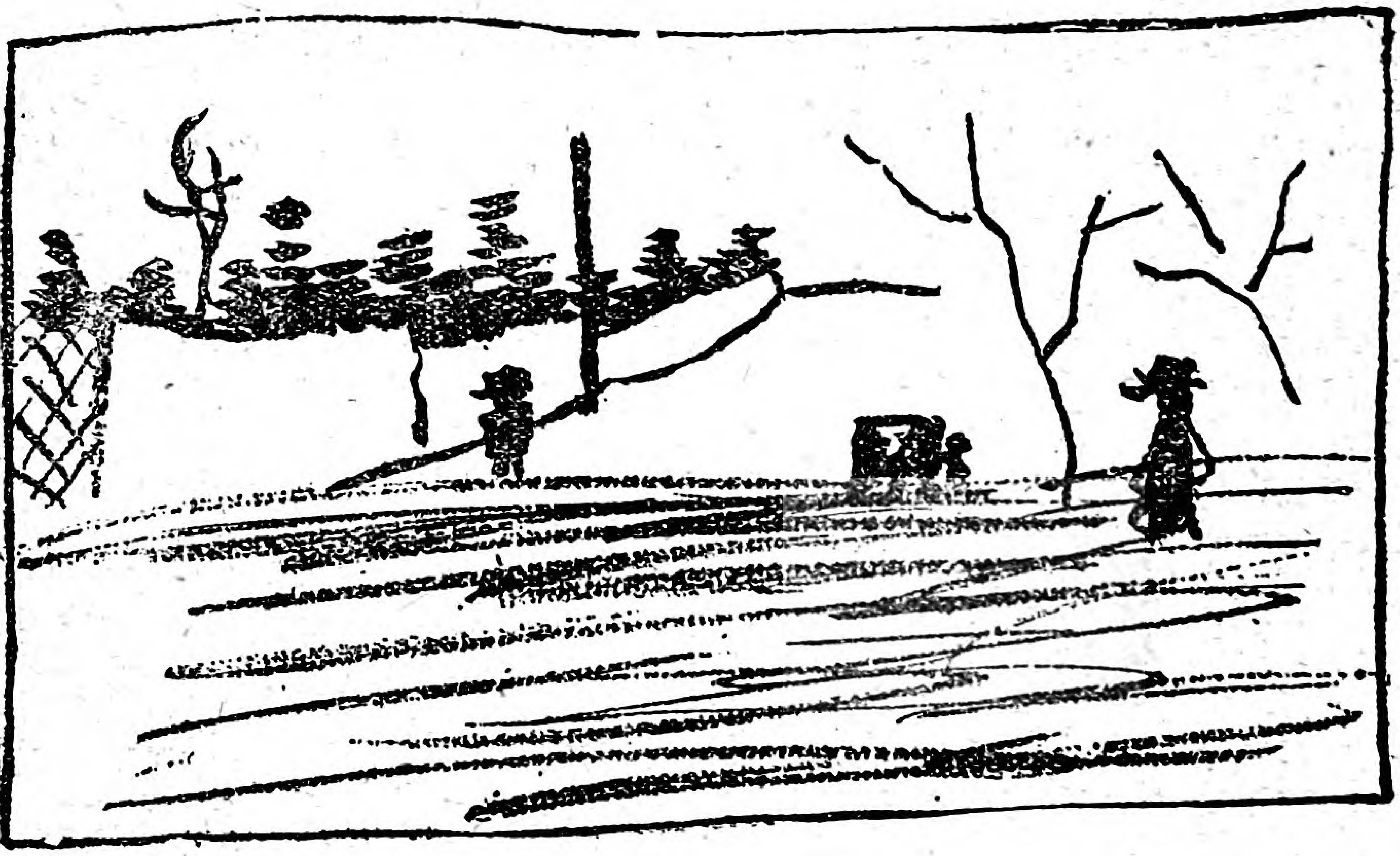
晴れた日がよく續いた。

東京北郊の工場地帶の、まるで浚渫船の作業にかきみだされた濁江のように、どす黑く曇つてゐた空も、凪ぎ靜まつた海のように、高々と青かつた

その工場地帶に、春の野の筆子のように、すく〳〵と生ひ繁つてゐる大小無數の煙突は、まるで、山麓の共同墓地の墓碑のように、累々と息をひそめて立つてゐた。

たゞさうした中にあつて、我が財閥の巨頭の一つである××家の直接經營に移つた杉本鐵工所の、その「ベラ棒に圖太い」三本の煙突からは、前にも増した太つぽい煙が、むく〳〵と大空を睥睨する凱旋將軍のように、昂然として立ちのぼつてゐた。（一九二七、二、四、作）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



暗夜行路

志賀直哉

七

謙作は一條通を東へ急足に歩いてゐた。南風は生暖かく、肌はじめ〳〵し、頭は重かつた。天候の故もあり、勿論寢不足故もあつたが、その割りには氣分が冴え、氣持は惡くなかつた。つまり彼はしんで亢奮して居た。只、落ちついて物が考へられなかつた。斷片的に色々な事が恰もそれが廻轉してゐるもの〻やうにチラ〳〵と繰返へし彼の頭にひらめくばかりだつた。

「直子を憎まうとは思はない。自分は許す事が美德だと思つて許したのではない。直子が憎めないから許したのだ。又、その事に拘泥する結果が二重の不幸を生む事を知つてゐるからだ」前夜直子に云つた事を彼は頭に繰返へしてゐた。

「許す事はい〻。實際それより仕方がない。…………然し結局馬鹿を見たのは自分だけだ」こんな事も考へた。

下の森から京電に乘る習慣で、その方へ行つたが、丁度北野天神の緣日で、その邊は大變な人出だつた。彼は武德殿の裏から終點の方へ行つた。然しそこも大變な人で、飴賣り、風船賣り、玩具屋、アイスクリーム屋などで馬場の方まで賑はつてゐた。覗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

絡繰が幾つか鳥居の前の廣場に竝んでゐた。「八百屋お七」が「金色夜叉」や「不如歸」に更つてゐるだけで、人物の眼ばりをした緞帳くさい顔や泥繪具の毒々しい色彩まで昔と少しも變はらなかつた。

彼は千本通から市電に乘るつもりで上七軒へ入つて行つた。

「つまり、此記憶が何事もなかつたやうに二人の間で消えて行けば申分ない。――自分だけが忘れられず、直子が忘れて了つて、――忘れて了つたやうな顔をして、――ゐられたら――それでも自分は平氣で居られるかしら？」今はそれでもいゝやうに思へたが、實際自信は持てなかつた。お互に忘れたやうな顔をしながら、憶ひ出してゐる場合を想像すると怖しい氣もした。

「自分は又放蕩を始めはしないだらうか」彼は兩側の掛行燈の家々を見ながら、不圖、こんな事も想つた。

彼は今日の自分が變に上づつてゐるやうに思へて仕方なかつた。末松に今日は何事も話すまい。若しきりだして了つたら、恐らく下らぬ事まで饒舌るに違ひない。

「さうだ、末松へやる土産物を忘れて來た」彼は帽子を脫ぎ、額の汗を拭つた。

千本の終點からは樂に乘れた。(その頃其所が終點だつた)戶外も夕方のやうに灰色をしてゐたが、電車の中は一層薄暗らく、その上、蒸々して、長くゐると、嘔氣でも催しさうに思はれた。

實際暫くすると、彼は濕氣と人いきれから堪えられなくなつた。そして烏丸の御所の角まで來ると、急いで電車を飛降り、其所の帳場から人力に乘換えた。

岡崎の下宿では玄關に立つと、偶然二階から馳け降りて來た末松と向かひ合つた。

「やあ。――上らないか」

「直ぐ出よう」

「兎に角、上らないか。見せたい物がある」

「そいつは此次にしよう」謙作は今日一寸でも水谷とは顔を合はしたくなかつた。

末松は不思議さうな顔をした。「……ぢやあ、着物を更へる間、待つてくれないか」

「動物園の前で待つてゐる。――人を連れて來ちやあ困るよ」

末松は解つて急に笑ひ出した。「相憎、今、居ないよ。然し直ぐ行く」

謙作はその路次を出た。道の正面に近かく見える東山は暗く霞み、その上を薄墨色の雲が騷がしく飛んでゐた。變に張りのない陰氣臭い日だつた。

公園の運動場で自轉車競爭の練習をしてゐる若者があつた。赤色のシヤツ、猿股の姿で、自轉車の上に四ッ這ひになり、頭を米搗機械のやうに動かしながら走つてゐた。向ひ風では、上體を全體右に左に搖り動かし、如何にも苦しさうだが、再び追ひ風に來ると、急に樂にな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り、早くなるのが、見て、一寸面白かつた。謙作は往來端に立ち、少時それを眺めてゐた。

間もなく末松が來て、二人は歩きながら話した。朝鮮行きの話から、

「昨晩、水谷に停車場を誘はれたけど、どうせ直ぐ家へ歸るんだらうと思つたからやめた」

「その方が結構だ。此頃、あいつの顔を見ると變に不愉快になつて……」

「薄つぺらだが、あれで人はいゝ奴だよ」

「いゝとは云へない。あんな奴に拘泥るのは馬鹿々々しいとは思ふが少しも拘泥らずに對等につきあつてゐる奴も……」

「俺だつて對等にはつき合つちやあ居ないよ」末松は笑つた。

「まあ、それはどうでもいゝが、これから彼奴と一緒になる事はお斷りだ。さう云つといて與れないか」

末松は一寸眼を光らした。「どうしたんだ。えらく嫌つちまつたもんだな。さう露骨にも云へまいが、なるべく君の所へは行かさないやうにしよう。前から嫌ひは分つてゐたが」

謙作はいゝ加減にしないと、同じ調子で、自分は何を云ひだすか知れないと云ふ不安を感じた。

「それはさうと、一寸見て貰らへばよかつたな。なんでも藤原時代の盛花をする器だといふんだが、二三日前松原のきたない道具屋で見つけた。その內持つて行くから見て與れないか」

「俺にも分らないよ、そんなもの」

大津からの電車に乘る事にし、廣道の停留場で、其所のベンチに二人は腰を下ろした。

「下らない奴を遠ざけるのは差支えないが、時任のやうに無闇と拘泥して憎むのはよくないよ」

「實際さうだ。それはよく分つてゐるんだが、遠ざける過程としても自然憎む形になるんだ。惡い癖だと自分でも思つてゐる。何でも最初から好惡の感情で來るから困るんだ。好惡が直樣此方では善惡の判斷になる。それが事實大概當るのだ」

「それは當つたやうに思ふんだらう」

「大概當る。人間に對してさうだし、何か一つの事柄に對してもさうだ。何かしら不快の感情が最初に來ると、大概その事にはさういふものが含まれてゐるんだ」謙作は昨夜水谷が停車場へ來てゐた事、それが不愉快で、知らず〱糸を手繰つて行つた自身の妙な神經を想つた。

「さういふ事もあるだらう。然しそれを濫信してゐられるのは傍の者には愉快でないな。何んとなく脅かされる。——少なくともそれだけに手頼るのはいかんよ」

「勿論、それだけには手頼らないが……」

「氣分の上では全く暴君だ。第一非常にイゴイステイツクだ。——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

冷めたい打算がないからいゝやうなものゝ、傍の者は矢つ張り迷惑するぜ」

「…………」

「君自身がさうだと云ふより、君の內にさう云ふ暴君が同居してゐる感じだな。だから、一番の被害者は君自身と云へるかも知れない」

「誰れにだつてさう云ふものはある。僕と限つた事はないよ」

然し、謙作は自身の過去が常に何かとの爭鬪であつた事を考へ、それが結局外界のものとの爭鬪ではなく、自身の內にあるさういふものとの爭鬪であつた事を想はないではゐられなかつた。

「つまり人より著しいんだ」と末松が云つた。

謙作はこれまで、暴君的な自分のさういふ氣分によく引き廻はされたが、それを敵とは考へない方だつた。然し過去の數々の事を考へると、多くが結局一人角力になる所を想ふと、つまりは自分の內にあるさういふものを對手に戰つて來たと考へないわけには行かなくなつた。直子の事も解決は總て自分に任かせてくれ。お前は退いてゐてくれ、今後顏出しするのは邪魔になる。――自分が直ぐこれを云つたのは知らず／＼解決を矢張り自身の內だけに求めてゐた事に初めて氣がついた。實際變な事だと思つた。――「自身の內に住むものとの爭鬪で生涯を終る。それ位なら生れて來ない方がましだつた」

そんな意味を云ふと、末松は「然しそれでいゝのぢやないかな。それを續けて、結局憂なしといふ境涯まで漕ぎつけさへすれば」と云つた。

大津からの電車は中々來なかつた。

謙作はぼんやり前の東山を見上げてゐたが、不圖煙の樣な黑いものが風に逆らひ雲の中に動いてゐるのに氣がついた。そして彼は瞬間恐怖に近い氣持に捕へられた。風で爆音が聽こえなかつた爲めと、こんな日に如何にも想ひがけなかつた爲めと、その姿が雲で影のやうに見えてゐた爲めとで彼の頭にはそれが直ぐ飛行機として來なかつたのだ。機體は將軍塚の上あたりを辛うじて越すと、其儘、段々下がつて行き、仕舞ひには智恩院の屋根とすれ／＼にその彼方へ姿を隱して了つた。

「屹度落ちたぜ、圓山へ落ちた。行つて見ようか」

陸軍最初の東京大阪間飛行で、二人共新聞では知つてゐたが、今日は眞逆來まいと思つてゐた。それが來たのだ。

二人はそのまゝ粟田口の方へ急ぎ足に歩いて行つた。（つゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



父のおもはく

佐佐木茂索

一

—普請中だつた。新しい木の香が雨のなかに籠つてゐた。雨が降つてゐるのに普請を急いでゐるのが何か不思議だつた。

「若旦那、若旦那。—」

誰かが呼んでゐるようだつたが、急ぐので、厠へ廊下を渡ると、ここにも大工の手がはいつてゐて、朝顔が庭のまんなかへ持ち出してあつた。縁側から朝顔まで七尺くらゐは離れてゐるだらう、だとすると小便が屆かんなと、不本意だつたが、止めることにした。その代り痰を吐いてやらうと、懸命に痰を吐かうとしたが、どうしても痰が咽にひつかかつて吐けない、それでも無理に吐かうと—半ば面當てのつもりで力んだが、重くて苦しくなるばかりで、どうにも咽が動かなくなつた。朝顔の傍に、髪の毛の縮れた娘が立つてゐて、咽の苦悶をにやにや笑つてゐた。—何時の間にかこんなところへ來てゐるのだなと思ふと、一層、

「なにを。」と力んでみたが、そのうち咽から痰の代りに血が鮮かな色を見せてぼたぼたと出て來た。—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

目が覺めて、麟は愕いて咽に手を持つていつたが、咽には血どころか唹も何も溜つてはゐなかつた。裏庭の泉水に引いてある筧が、さはやかな音を立ててゐた。櫺子には晴れ續きの日が暖かく當つてゐた。

朝の食卓で、麟は兄に云つた。

「夢にも匂ひや色彩はありますね。」

だが兄は夢を見ないかも知れないと麟が思つたほど、夢の匂ひにも色彩にも興味がないやうだつた。「う。」とか「む。」とか、曖昧な返事をしたきりで味噌汁を啜つてゐた。その代り嫂が、無造作に、

「そら夢にかて、匂ひぐらゐ嗅ぎますやろ。御馳走食べるばかりになつた夢かて見ますもん。」

さう答へたが、暫くして云ひ直した。

「――さうどすな、さう云はれてみると、夢の御馳走には匂ひがなかつたやうにもおすし、――はてな、ちよつと考へてみたろ。」

嫂がわざと頸を傾けた時には、麟はもう夢を拂ひ落して了つた。髮の毛の縮れた娘を如實に想ひ出したことは此上もなく不快だつた。

食後、兄の跡から二階へ上ると、兄は、

「冷えるな。」と云つた。

「山の中ですね。」

麟は答へながら窓の外を見た。硝子越しに裏山が迫つてゐた。小さな五輪の石塔が、齒朶か何かの横に据えてあつた。

「今晩歸るね？」

「歸るつもりです。」

「話は、まあ昨日云つたやうなもんだ。お前の云ふことも分つてゐる。だが、――だから、もう少し考へたらいいだらう。」

考へるところもないと麟は思つたが、これ以上兄に云ふ事もないと默つてゐた。

「お祖父さんも、」――兄は父のことをお祖父さんと呼んだ。「お祖父さんも事惡かれと運んでゐるんぢやないからな。お祖父さんだけぢやない、誰しも皆、結局はお前よかれと思つてのことだからな。」

「それや、そんなことは決して思ひ違ひなんかしてゐません。皆の云ふことは十分よく分つてゐるのです。唯、何故不賛成なのだか――明瞭に不賛成な理由を擧げないのだから、不服なんです。しまひにお祖父さんは、――」麟も兄に慣つた。「お祖父さんは、兄さんとこへ行つてみろと云ふだけです。だから來てみたけど、僕には分りません。兄さんには分つてゐますか。お祖父さんは何のつもりで兄さんとこへ僕を寄越したのです？ 分りませんか？」

兄は仕方なしといふ風にうなづいた。

「僕には來ても來なくても同じだつた。だから考へようもない譯です。」

「それぢやいかんよ。考へんと損だよ。」

「何故です、何故損です？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

兄の云つてゐることは昨日から矛盾そのもの——何處かをぐるぐる廻つてゐるのだつた。麟は何處まで押しても押し切れないと諦める外なかつた。

「分らんければ仕方がない。分る時が來れば分る。——分つてゐても云へんこともある、訊けんこともある。俺はお前にも分つてゐると信じてゐる。だけど分らんと云はれてみればどうしようもない。——まあよく考へておき、急ぐが、急がんでもいい事でもある。考へ直して損は立つまい。」

麟は不滿のままに歸るより方法はなかつた。何の爲に京都の山の中まで來たか——自分が戯けに見えて來た。

「分るまでゐろとお祖父さんは云つたが、分りさうもないから、歸ります。——だが、も一度だけ訊きたいが、兄さんはお祖父さんの云つてる事に本當に贊成してゐるのですか。」

兄は苦澁の表情で暫くは何とも答へなかつた。

麟は夜行で歸るばかりだつた。

二

麟の歸京後當分、父は何とも表だつては云はなかつた。ひとり母が氣を揉んでゐた。

「早う返事せんと、——」

「何を返事するのです？お父さんにですか？」

「先方へな、——」

「先方へ？それは僕は知りません。お父さんが返事したらいいのでせう。」

麟は強い顔をした。それだけで、母はもううろうろしてゐた。

「わたしは、何うでもいいけど。」

「それぢや、これでいいぢやありませんか。」

「そらそれでいい。ただ早うせんと、——どつちにせよ早うせんと、——決りつけんとな、いろいろ心配やで、——。」

「きまりは、ついてゐますよ。僕のすることに心配はせんと云つてたぢやありませんか。」

母はうなづいた。

「心配はせん。——そら、誰が貰ふのでもないからな、氣に入らんものを貰つても仕樣がない。跡でごたくさは叶はんからな。——大體お父さんが一刻やから、無理ばつかり云ふて。——」

母は麟の氣を害ねまいとする一心だつた。しまひには父への不平ばかり述べた。

或日、父と麟とは議論の果の鋭い目で向き合つてゐた。

「ほんとにお前は阿呆ぢや。偉さうな事を云ひよつて。——これだけ云つて聞かして分らんなら、どうとも勝手にせ。跡でどうにもならんようになつても俺は知らんからな。二進も三進も行かんようになつても——。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「お世話になるとは誰も云つてゐません。何うにもならんようには斷じてなりません。必ず何うにかしかしますよ。そんな、始めからそんなつもりで結婚するなんて、對手が例へ何であつても僕は厭です。」

　かうなると、縮れた髮の毛の娘が寧ろ氣の毒だつた。こんな問答が蔭で繰り返されてゐるとはちつとも知らずに——鱗は縮れた髮の毛の寫眞を、それは母も幾度目かに眺めながら、

「さう云へば變な顏やな。」と呟いたのを想ひ出した。

「厭なら厭でええわ。つべこべ云ふな。お前みたいなやつ、何うなと勝手にせ。何處の馬の骨なと勝手に貰へ。貰へ、貰へ。乞食の子でも何でも貰へ。さうぢや乞食の子がよかろ、乞食の子貰へ。乞食の子、あはは。」

　父はやけに嘲つた。

「貰ひますとも。勝手に。——」

　鱗は傲然と構えてゐた。——

　むかし、叔父は、——今は鱗が其家から逃げて歸つてゐる養家へ鱗を世話するとき、

「これからは何と云つても金だ、分つてゐるな。いくら一本立ちと云つても、さうは空拳をいかんとも仕樣がない世の中だ。伸びんとする者は先づ屈すだ。分つてゐるな。」

　さう露骨に、まだ幼かつた鱗に說き立てた。今度の父は、それほど露骨ではなかつた。鱗も前の時よりは成長してゐた。——が父の思はくは、結局叔父が露骨に云つたものと同じものだつた。兄が失敗しても、尙安穩で居られるのは嫂の里があるからだ、父の言葉にはそんな意味も——父が鱗を兄の家に遊びにやつたのは、そんな意味を、感じさせる爲らしかつた。

「——家も建てて吳れると云ふのやし、ええにはええ話しやけどな」

　或時、母は心殘りらしくそんなことも云つてゐた。家を建ててくれて、生活をちやんとさせて吳れるといふこと、これが父には鱗をどうあつても承知させねばおかない根據をなすもののようであつた。

三

　ある夕方、鱗は妻にする——しようと思つてゐる女と別れて、別れたところから遠くない料理屋に上つた。始め、鱗は彼女も誘つてみたが應じなかつた。

「そんなところへ行くの、厭だわ。」

「なぜ？」

「なぜつて、——厭だわ、おかしいんですもの。」

　蹤いて來ようとしなかつた。

「ぢや——。」

「え、さうなら。——これだけ散步したし、早く歸らないと。——」

「それぢや、——左樣なら。」

　鱗はとつとと離れて料理屋へひとり上つてしまつた。そして其處で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

妓を呼んで――表に臨んだ二階だつたから時折り出窓に腰をかけてまばらな人通りを見下してゐた。ゆつくり食事を濟ませて、しばらくしてから出た。

さつき別れたところまで來ると、妻になる女が未だ立つてゐた。二時間近くは經つてゐるに違ひなかつた。麟は嬉んで、驚いてしまつた。かぶさるやうに近寄りながら訊いた。

「何うして、――何うして此處にゐるの？」

「屹度ここへ歸つてゐらつしやると思つて、待つてゐたのよ、――巡査に問はれたわ。」

麟は、丸で母のやうだと思つた。自分の母に似た女だと思つた。こんなに自分を嬉ばせて呉れて、何ごともなかつたやうな顔をしてゐる――。

或神社の境内の入口で、中は公園のやうになつてゐた。そこで別れて彼女は其邊を二時間近くもうろうろしてゐたのだ。近くの交番から若い巡査が出て來て、「何をしてゐるのです。」と訊いたのも無理のない話だつた。

「しまひに、くたびれたから、そこのベンチに腰かけてゐたんでせう、石だからお尻が冷えちやつて――。」

女は無邪氣に微笑した。麟も頰笑んだ。

「莫迦だな。」

「だつて――。」

「それつくらゐなら一緒に來ればいいのに。おなかが空つたらう？」

「そんなでもないの。――それよか、何してるんですつて訊かれた時、ちよつと怖かつたわ。もう歸らうかと思つちやつた。でも、もう少しの我慢だからと待つてゐたの。待つてゐてよかつたわ。ぢき歸つてゐらつしたのですもの。」

「巡査に何て返事したの。」

「頭痛がするから散歩してゐるのです、さう云つておいたの。だつて外にいい返事が見つからなかつたのですもの。變な顔して、それでも、もう何も訊かずに行つてしまつたわ。」

麟は彼女の冷たくなつた手をとつた。

「さ。歸らう。」

肩を擦るやうに並んで歩きながら、麟は誰が何と云つたつて、此女と結婚すると思つた。家が建つたつて藏が建つたつて、誰が髮の毛の縮れた女なんか、振り向いても見るものかと思つた。

「さつき云つたことしか、もう云ふこともないけど、家の奴が、何處をどう廻して何を云つてくるかも知れないけどね、一切耳を傾けちや駄目だよ。いいかね。僕が直接云ふことの外、誰の云ふことも信用しちやいけないよ。分つてゐるね。」

「わかつてゐるわ。」

少し行くと麟は訊いた。

「料理屋の前、通つてみた？」

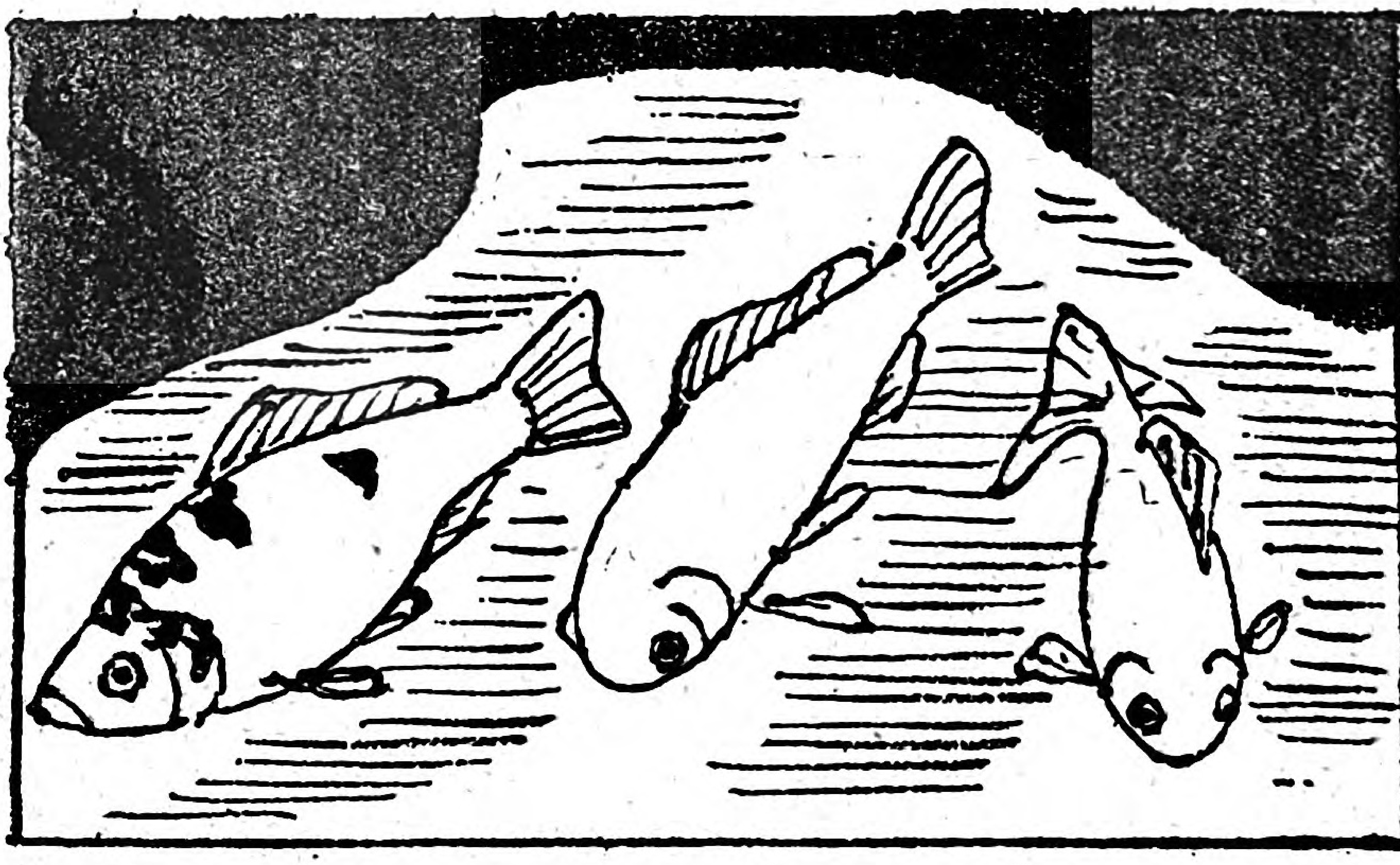
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「通つて、みた。一度行つて、その歸りと、――すこし厭だつたけれど。」
「二階にゐたの見えた?」
「見えなかつたわ。」
「さう? 窓に腰かけてゐたりしたのだけどな。」
「いいえ、分らなかつたわ。」
麟は、ちよつと躊躇したが云つた。
「藝者を呼んだのだよ。」
「まあ、藝者なんか呼んだの。」
「うん、少し寂しかつたから。」
「あたしだつて寂しかつたけど――。いいわ、そんなこと。」
彼等の並んだ肩は、ゆつくり歩いていつた。

四

途で牛に出會つた。すると、麟は忽ち母を思ひ浮べた。牛は、默つて荷車を輓いてゐた。重さうな荷だつた。牛はゆつくり、滿足さうな顏で歩いてゐた。一體、牛に何の樂みがあるのか、麟には分らなかつた。牛は何の娯樂も持つてゐないだらう、母も何にも娯樂は持つてゐないのだ、よく似てゐる、そして、どつちも不服でないらしい、默つて人の云ふことを聽いてゐる、――麟は牛を見ると母を想はずにはゐられなかつた。どうかすると、彼は牛に出會つて母を想ひ出すと、牛の頭を見ながら涙ぐむのだつた。
「たまに何處かへ、芝居でも見物に行つてはどうです。」
母に勸めても、母は麟に不同意の頭を振るのだつた。
「目が惡いし、役者の顏がぼうと見えるだけやで詰らん。おつと家にゐるのがええ。」
さういふ母、その母に、今袂を別つて來た彼女は似てゐる、――牛に似てゐるとは思はなかつたが、母には似てゐると麟は思つた。巡査に訊問されるまで石のベンチで待つてゐるところなど、母に――或は牛に似てゐるのかも知れなかつた。麟は可憐な牛の道連れになるのをもう一刻も早く急ぎたかつた。
――だが母も、時どき愚に返つて、縮れた髮の毛の娘を口にした。
「ええ話は、ええ話なのやがな。――」
「まだですか。」
麟が語氣を少し鋭くすると、母は默つてしまつた。そして暫くすると、晴れやかな顏になつて、
「その別の娘さんな、よさゝうやないか。氣立てのええのが何よりやで――」
そんな、麟の顏色を見るやうなことを云ふのだつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



戯曲

初夏の夜の惱み(一幕)

近松秋江

人

長尾文三 (四十三四歳)
河瀬きち (三十歳くらゐ)
錦織八重 (三十五六歳)
車夫
若い男 粂どん

時

初夏の夜九時頃

場處

一

東京の郊外、柏木の新開地。遠景に目白臺の丘陵が見え、高いところに在る白堊づくりの人家の灯などが微に瞬いてゐる。舞臺は、近い頃まで畑や田であつた跡へ、瞬く間に出來た安普請の貸家建ての家があり、そこらにまだ棟を上げたばかりの工事中の家もある。又、その間の處々に蓬々と草の生えた空地があつた。まだ田のまゝの水溜り

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

があつたりする心持ち。

中央に、二軒建ち棟割長屋であるが、いづれも三室ばかりある、かなり棟の高い、瓦屋根の一軒の家の入口を、正面から斜に見て、その前に粗雑な門が立つてゐる。その門はもう一つ奥の長屋の、同じやうに入口を並べた家と共同に使用してゐる。

門の横の方に半紙一枚に、移轉の口上を書いて貼つてある。

夜は暗いがところ〲に電燈が點つてゐて、懐しいやうな、物凄いやうな蛙の聲が聞えてゐる。

花道から幌をかけた人力車が出て來て、悪道路に難澁したといふ態にて、車夫は挽きながら、

車夫　とても非道い道だ。（ひとり語のやうにいふ。）

八重　（幌の中から）お氣の毒ですねえ。

車夫　つい此の二月時分から家が建ちかけたと思つてゐたら、もう、こんなに出來てしまつた。

八重　さうですか。隨分早いんですねえ。

（道路が悪いので、俥は驅けることもならぬので、そんな會話を、乘客と挽く者との間に交換しながら行く。彼等は、半里以上優にある、新宿から此處までやつて來たのである。）

車夫　無暗に家が立つもんですからな。一と口に柏木といつても、番地が一寸も續いてゐないんで何が何だか分りやしない……一寸お待ちになつてください。どこかそこらで又訊いて來ませう。

（車夫はさういつて、梶棒を地上に下ろして、おいて下手の方に入つていつた。蛙の鳴く聲が又降るやうに聞えてくる。省線電車が近い處を駛つてゐると思はれて、その轟響が聞えて來る。車夫はすぐ引返して來た）

車夫　分りました。すぐそこを横丁に曲つたあたりらしうございます。丁度いゝ鹽梅に荒物屋で長尾さんといふ家を知つてゐました。

八重　（幌の内から。）さうですか。……ほんとにいろ〲骨を折らしましたわ。

車夫　どうしまして。

（さういひながら、車夫は又梶棒を上げて挽いていつた。そして、下手に入つて、暫くすると、今度は上手から出て來て、移轉の貼紙をした門の前に來て俥を停め提燈を持ち上げて、門札のところを見る。）

車夫　おや、こゝのやうですが、もう長尾さんといふお方此處にはゐらつしやいませんやうですなあ。とにかく一寸お降りになつてご覧なすつて……

（車夫は初めから、車上の客に對して鄭重な言葉づかひをする。さういひながら、腰に纏ふた膝掛を取ると、幌の内から八重、水色勝つた長襦袢の裾の絡む白い脛を露しながら車から降りる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衣裳　八重三十五六年配相當の丸髷姿。錦紗絽縮緬黑無地染拔紋付羽織。白と黑との棒縞縮緬のお召の單衣。中肉中背。京阪地方によく見るタイプの艶めいたる物腰とりなし。

輓棒を跨いで門の方に近寄りつゝ）

八重　おや、貼紙がしてありますねえ。

（突然したやうな失望の色を浮べて。）……やつと此處まで探ね當てゝ來たと思つたら。もう、こゝにも居ない。（彼女は終の方を獨語のやうにいふ。）

車夫は氣の毒さうに、そして自分も新宿から分りにくい夜道をこゝまで挽いて來た効もないといふやうに、同じく失望の色を見せて、もう一度提燈を持ち上げて門の柱を見ながら、

車夫　番地の札だけは剝がずに殘してありますから、たしかに此處にちがひございませんがなあ。

八重　ですけど貼紙には長尾と書いてありませんわねえ。河瀨と書いてある。（彼女は不審げに小頸を傾けて一寸考へながら、やがて何か心に思當るやうに、うち肯く。）

車夫　さうですねえ。河瀨さんといふのは、奧さんご存じの方なんですか。

（八重はそれには返答しようとせず、）

八重　長尾とは書いてありませんが、この文字の書き方で分つてゐますから、やつぱり私の探ねる人にちがひありませんわ。

車夫　あゝさうですか。そんならまあようございますけれど。……それで移轉先は中野町字中野千四十九番地と書いてありすえ。

八重　それはどつちの方でせうねえ。（彼女は少しく泣き出しさうな上擦つた、おろ〳〵聲でいつた。）

車夫　（これもよく分りかねたやうに）さうですねえ。中野といふと、これでなか〳〵遠うございますから。

八重　（いよ〳〵失望の表情を浮べて、途法に暮れた態。）さうでせう……それにもう十時を過ぎてゐませう。……ようございますよ。分らなけりや今日に限らない。もうこれだけ分つてゐれば又明日にでも來て見ますから。（彼女は、車夫を氣の毒がるやうに、口にはさういつてゐるがとても今夜此のまゝでは諦めて引返へされないといふやうな思ひ詰めた、焦燥の氣込み。）

車夫　でも、一寸お待ちなすつて。奧の家で訊いてみますから。（車夫門を入つて。もう一軒奧の家の入口の方にゆき、戶口の外から聲をかける。）あの、一寸お伺ひしますが……（それを二三度繰り返へすと、入口の横の欞子格子のところで、家の內から返事をしてゐる樣子。）中野町字中野といひますと、どの邊になりませうか。……はあ〳〵。

お隣の河瀨さんでお引つ越しになつた處です。……はあ〳〵左樣ですか。どうも有難うございました。

（車夫は何度も頭を下げてゐる。八重も門を入つて、徐かにそち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らに歩いて行く。

車夫はやがて最後の禮をいつて、威勢よく此方に引返へす。)

八重　分りまして？

車夫　そんな遠くぢやないさうです。今日お引つ越しになつたんださうです。

八重　さうですか。

車夫　お隣家でも、引越した先は知らないんださうですけれど、何でも話の樣子では、彼處に見えてゐる高臺の向うあたりらしいんです。あの邊に阪道があつて、それを越して行くと直ぐださうです。荷物は今日晩までかゝつて、そこへ持ち運んでおいでになつたといつてゐました。

(車夫はさういつて、下手の向うの方に見えてゐる樹木のこんもりした高臺の方を指した)

どうぞお乘んなすつて下さい。いつて見ませう。

八重　さうですか。お氣の毒ですねえ。……道は分りますか。

車夫　えゝ、今入つて來た通りをずつと行くと、東中野のステーションに出るさうですから、俥ぢや、そつちを廻つて行つた方がいゝだらうと、隣家の方が言つてゐました。

なに、もう譯はありません。

(八重車に乘つて、下手に入る。)

舞臺廻る。

二

前の場と同じ新開地の表通り。拔けのこつた老人の齒のやうに、ところ〲蕎麥屋だの湯屋だの、荒物屋だの、駄菓子や燒煎餅と一緒に煙草を鬻いでゐる小店、干鱈や飛びの魚のやうな賣れ殘りのものを少許り流し臺の上に載せてゐる汚い魚屋などの店が、生腥い初夏の夜を、まだ寢もやらずに起きてゐる。

それ等の店屋の微かな灯影の照さぬ處は眞暗で、二三日前まで降りつゞいてゐた梅雨の後の泥濘道が、まるで、以前の泥田のまゝである。そのうへに、建築工事に使ふ石ころや煉瓦のやうなものが、道といふは名ばかりの往來の其處等中に堆積してゐて、步きにくいこと夥しい。

舞臺の背景、すぐ向うに高い省線電車の土手が一直線に見えて上手の方に東中野のステーションのシグナルの火などが瞬いてゐる。

先刻の幌車下手から出てくる。でこぼこ道の爲に車がひどく左右に傾く。

車夫は汗だくになつて、大きな石が泥濘の中から突出てゐる處を通らうとして、何度も足場を踏みためしたから、車を挽かうとするが、車は容易に動かない。どうかすると、車が危く轉覆しさうになる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

車夫　（うんと一つ力を入れながら、）これは非道い道だ。（といつて、ためらつてゐる。）

八重　（幌の中から）わたし降りて歩きますわ。

車夫　だつて奥さん、歩けやしません。

八重　そんなに道が濘つてゐるんですか。

車夫　まるで泥海です。そして暗うございますから。（車夫、行く手を透かして見るやうにしながらいふ。）

八重　（幌の中から焦れつたさうに、）こんな處によくも住んでゐたものですねえ……車夫さん、とにかく降ろしてみてくださいな。

車夫　さうですか。

そこに轅棒を下ろして、幌の前掛けをはづして膝掛けを取る。

八重、車から下りて、足許を透かし見て、泥濘の中の、あんまり非道くなさゝうな處を選つて、暗には殊に眼に立つ眞白い足袋の足を踏む。

八重　まあ、ほんとうに。（溜息を吐くやうにいふ。）

車夫　一寸お待ちになつて。この提燈の火で。

（と、提燈をはづして、八重の足許の方を照らす。）……泥の中へ足を踏込むといけません。

八重　車より却つて歩けないこともなさゝうですわ。歩いてみませう。

（どうかゝうか乾いた處や石の上を傳ひながら進んで行く。

車夫、車を置いたまゝ、八重の足許を照しながら蹤いてゆく。暫く行つたところで、八重たうとう石の上から片足踏み滑らして、ぴちやんと泥水の中へ突つ込む。白足袋が半分ばかり無惨に汚れる。單衣の裾にも泥が少し跳ね上る。

八重　あらッ！

車夫　あッ、危うございます。

八重　ほんとうに、こんな思ひをして。（と、つぶやくやうに、獨語をいふ。）

そのうち、實際では、ものゝ十分間ばかりもかゝつて、やつとのことで、眞暗な泥濘道を通り越す。郊外の停車場らしい電燈の光が近くに見えて來た。

車夫　もう大丈夫のやうですねえ。そこがすぐステーションですから。

八重　やつと來ましたわ。

車夫　どうぞ一寸こゝでお待ちになつてゐて下さい。すぐ車を持つて來ますから。（車夫膝掛を抱へたまゝ後に引返へす。八重、その間に、そこらの電燈の火光で、懐中から鼻紙をとり出して、白足袋の泥を拭きとつたり、單衣の裾をふく。車夫、車を挽いて來る。）どうもお待ちどうさま。さあお乘んなすつて下さい。

八重　本當にいやな道ですねえ。（さういひながら又車に上る。）

車夫　郊外は、これだから可けません。（手早く膝掛けを卷き附けながらいふ。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八重　わたしなんか、こんな處に住む氣はしませんわ。

車夫　全くです。奥さんは、失禮ですが、どちらでございますか。

八重　日本橋です。

車夫　（笑ひながら）日本橋に住んでおいでの方ぢや、お分りにならないのは、當り前です。

（それから又車を挽いて行く。）（幕。）

三

一の場から遠見に見えてゐた高臺の向う側。同じく郊外の住宅地。舞臺の中央に長尾文三の住家。左右檜葉垣に取圍まれたる三室ばかりの新築の貸宅。上手八疊の座敷。そこら中まだ十分落着きなく書棚だの行李などが隅の方に片寄せてある。次の間四疊半。中央の飾臺に洋食の皿など食べる物が載せてある。隅の方に火鉢など置いてあり、他の一隅には鏡臺も置いてある。四疊半の前は三疊の玄關の室。狹い土間からすぐ入口の格子戸。

十一時半頃。入口の外は、わづかに四五尺の空地を隔てゝ直ぐ生垣を仕切つた門のところになつてゐるが、別に門といふほどの構へもなく、片方は建仁寺垣を鍵の手に結ひ、それから四尺計りを腰高の四つ目垣を取り付けてある。軒下の戸袋の前に寒竹を二三本植ゑてある。庭にもところ〲植木がある心持。

若い男兼吉二十四五の正直さうな、田舍者。飾臺に凭つて飯を食ひをはつたところ。

河瀬きち、そこらに、ざらにある普通の顔。これも田舍出らしい質樸な容姿。在來りの、舊式の年増の結ふ束髪。飾臺の向うからこちらを向いて坐つてゐる。

上手から兼吉と向き合つてゐるのが長尾文三。これも無雜作に寢卷の浴衣を着てゐるが、お吉や兼吉と異り、どこか都雅た風采の男。）

きち　（兼吉に向つて、）もういゝんですか。もつと上つたらいゝでせう。えらい少いんですねえ。

兼吉　もう澤山です。

文三　どうしたんだ、あんまり早いぢやないか。

きち　その洋食を食べて下さい。冷めてまづくなつたでせうけれど。

兼吉　いゝえ、もう結構です。

文三　午飯をやつたツきり、あれからずつとやらないんだから、さぞお腹が減りさうなものだがなあ。どうしたんだ。

兼吉　えゝ、何だか欲しくないんです。

文三　そいつあ可けない。晝間隨分暑いところを何度もあつちこつち働いてもらつたからな。

きち　きつと疲れたんでせう。いくら元氣ざかりでも。……兼どん、今晩もう遲いから泊つておいでなさいな。もう一と晩くらゐ泊つていつたつて、何にもいはないでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文三　構はないさ。泊つていつたらいゝだらう。

兼吉　えゝ、ですけど、今晩は歸りませう。昨夜は、主人に事情を話して引越しの手傳ひに行くから、夜のうちに行つて泊つて、今日は早く歸るからといつて、暇をもらつて來たのですから。

きち　さう………、それぢやあんまり無理に泊つておいでなさいといふのも可くない。……でもまだ電車はあります。……どうです、それを食つて下さいな。

兼吉　えゝ………、もうお暇しませう。……いろ〳〵御馳走さまでした。

きち　さうですか。どうもお急がしいところを有難うございました。そんなら、早く歸つてよく休んで下さいまし。

兼吉　（文三の方に向いて）先生、どうも御馳走になりました。

文三　（少し眠さうにしてゐたのが聲をかけられて、はつとして、）さう、歸るですか。いや、大變に有難うございました。又遊びに來て下さい。

（兼吉は立つて、次の三疊に置いてゐた麥藁帽子を手にとつて玄關の土間に下りる。

きち立つて送つて出る。文三も立つて三疊まで出る。

きちと兼吉とは又重ねて別れの辭を交換して、兼吉戸外に出る。

きちも出ていつて、四つ目垣の釘をさしながら、）

きち　でも、夜は好い鹽梅ですねえ。

兼吉　えゝ、これから電車に乘つて歸ると丁度いゝです。おや、左樣なら。

きち　左樣なら。

きち戸内に入り、雨戸と格子戸を締め座敷に戻る。

きち　もう隨分遲い。

文三　うゝ、ひどく遲くなつた。さあ寢よう。

きち　えゝ。……こんな物は明日のことだ。

ひとり語のやうにいひながら、飾臺の上の物などを、臺所の板の間の方に持ち運んで、そこ〳〵に形づける。

文三はその間に、八疊に來て、隅のところに置いてある、涼しい染模樣の麻の夏蒲團だの、蚊帳などを、引つくり返して見てゐる。

そこへ、きちが入つて來る。

文三　便利なもんさねえ、金さへあれば、すぐその晩から間に合ふ。

きち　三越ですか、西川ですか。

文三　だから、西川さ。こんな物は西川の方がよさゝうだ。

そんなことをいひながら、二人して蒲團を敷き、蚊帳を吊る。裾の方目の覺めるやうな淺黄染め、縫ひ目なしの眞白い蚊帳が、八疊一ぱいにつるされる。

文三　さあ寢よう〳〵。

といひながら、上手廻り緣を廻つて、突當りの便所に行つて來てそのまゝ、向う側から裾をはねて、蚊帳の中に入る。白地の浴衣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を着てゐるのが蚊帳ごしに、まるで深い水の中に居る如く見えてゐる。

つゞいて、きちも蚊帳の隅で向うをむいて寢卷の浴衣に着更へ、便所に行き、戻つて來て靜かに蚊帳の中に入る。

きち　（蚊帳の中に坐つて方々見廻はしながら、）へえ、……新しい物は何でも氣持ちの好いものですねえ、

文三　（横はりながら、）蒲團も蚊帳も新調で、まるで新婚のやうだが、お前のお古なのが、一つ不足だ。

きち　お氣の毒ですねえ。……（といつたが、そんなことには、あんまり氣を留めず、蚊帳に觸つて見ながら、）これ、本麻ですか、……さうぢやないでせう。

文三　（もう薄眠くつて、とろ〱した調子で）本麻ぢやない。でも新しいのは氣持ちがいゝ、……おい、さあ、もう寢よう。

きち　えゝ、（といつて、横はる。）

（この間七八分ほど靜か。）

その時上手奥の生垣つゞきの横丁から、庭の前の小路を通る心持ちにて、先刻の幌車がやつて來て、四つ目垣の前に停る。

車夫　一軒新しい家があるといふんですから、きつとこゝでせう。

八重　（幌の内から）見附かりましたか。

車夫　この家が新しいやうですが、名札も番地も出てゐません。

八重　（同じく幌の内より）ぢや、それに違ひありませんわ。下りて見ませう。

八重車から下りる。

車夫　（四つ目垣の外から、）今晩は〱。（と四五度聲を掛ける。）

きち　（蚊帳の中にて、はッと聞き耳を立てる。）

車夫　今晩は〱。（四つ目垣の掛け金をはづして、内に入り雨戸をとん〱叩く。）

文三　（やつと氣がつきたる態にて）自家を起してゐるのぢやないか。（と、頭を擡げて、じつと耳を澄ます。）

きち　そらッお八重さんが來た。（戯談のやうにいふ。）

文三　そんなことはない。誰だらう、今時分。……それに今日越して來て、誰も此處を知つてゐる者はない筈だ。門札もまだ出してないし。

（戸外では、暫く間を置いて又、今晩は〱と雨戸を叩く。）

きち　（氣にかゝる表情にて床の上に半身起き上り）お八重さんですよ。

文三　そんな馬鹿なことがあるものか。……お八重ぢやないが、誰だらう？……とにかく……（いそいで床から起き上り、蚊帳の裾をはねて外に出てゆきながら、）えゝ、只今。……どなたです？

きち　開けないで、よく訊いてみるといゝです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文三　さうだとも。……誰です。どなたです。……（低聲でつぶやくやうに、）今時分……

八重　（車夫に代つて雨戸の傍に寄つて來て、）神戸の長尾です。

文三　（いきなりそれを眞個と思ひ込み、胸を轟かす態にて）神戸の長尾……私の家からだ。はて今時分、何事が出來たんだらう？……しかし私の家の者が、まさか今日引越して來た先を知つてゐる筈もないな。（と、やゝ訝る面持ちにて、そんなことをいひながらも、急いで土間に下り立ち、格子戸を明け、次に雨戸の猿をはづしてゐる）

きち　（寢床の上で、半ば落着かなさゝうに、）神戸から、今時分まさかお出でになる筈ないでせう。

文三　それもさうだがね。（と、いひつゝ用心しながら、雨戸を一尺ばかり、そうッと開ける。その途端、

八重　ほう先生！（と、八重、溜息と一緒に轉がるやうに閾際に歩み寄つて、懐かしいとも、嬉しいとも、恨みがあるともいひやうのない、堪らない聲を出す。）……あゝ逢へて嬉しい……車夫さん此處でしたわ。（彼女は息も切れ〴〵の切なさうな語音。）

車夫　（二間ばかり後に退いて生垣の傍に立つてゐたが）さうでしたか、それはようございました。（彼も心から、共々に遠路と悪路とを苦心して探ねて來た効ひがあつたのを喜ぶやうにいふ。）

文三　（全く意表に出た當惑の態。それを強ゐて、平氣を裝ふやうに輕い笑顔を浮べながら、）あゝ、お八重さんか。誰かと思つた。こんなに遲く、よく來られたですねえ。（口に親しみを持たせながら、蚊帳の中のおきちの手前大分空々しくいふ。）

八重　（胸一杯に怨みが溜つてゐるらしく）よく來られたですねえなんて、そんな口がどうして利けるんでせう。新宿から此處まで探して來るのに三時間も四時間もかゝつたぢやありませんか。……門札を故意と出さないで、意地の悪いことをして……

文三　（いよ〳〵當惑の樣子であるが、わざとから〳〵と高笑ひ、）はゝゝゝ、門札を出さないのは、決してそんな譯ぢやないんです。今日越して來たばかりなんだもの。まだ家の中だつて、ちつとも形付かないくらゐです。

文三は十二時過ぎの眞夜中、入口の戸外で、女の甲高い聲で端ない怨み言や口説をいはれるのが、堪らなく車夫や近處の外聞が悪いばかりではない、奥の蚊帳の中で、今まで同衾してゐたおきちには、八重といふ他の女が有ることは、おくびにも出してゐなかつた。尤も、お八重といふ女と文三とが相識であることだけは、お吉も知つてゐたが、それは同郷の者同志のよしみで、單に相識であるに過ぎないと、文三はお吉に向つて堅く言つてゐた。けれどもお吉は半信半疑であつた。それゆゑ、どうかすると、彼女は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分と文三との仲の幸福を意識する折々に、お八重の亡靈に脅かされることがあつた。直覺的に、お八重が、自分と文三との間に入つて障屛になつてゐるやうな氣がするのであつた。
それで文三は今、お八重が出し拔けに闖入して來て、情事的關係のある男女の間柄でなければ口にする筈のない馴々しい言葉で話し掛けるのが、筒ぬけにお吉の耳に入るのが何より苦痛なのであつた。今夜に限つて文三は、自分の方からは、不斷、お八重との對話に用ゐてゐる言葉を俄に他人行儀に改めた。

八重　そんならそれで、今までに、こちらの方に越して來たことくらゐ知らして下すつたつていゝぢやありませんか。もう、大森の方にお出でにならなくなつてからだつて一と月から上になるんでせう。

文三　いや、そんなことはないです。今だつて私は大森に居るんです。……此處は私の家ぢやないんですもの。

八重　（踏み込まうとした足を、その一言で一寸躊躇ひ加減にして、）だつて、大森の萬福へ此の間電話を掛けたら、女中が、へえ、あなたはまだ御存じないんですか・長尾先生はもう一と月も前からこちらにはゐらつしやらないんですといつてゐましたわよ。

文三　（硬ばる顏を、無理に笑はうとしながら）それは女中が、あんたを戯弄つてゐるんですよ。……まあ、併しこゝで立ちながら話も出來ないからお入んなさいよ。

八重　えゝ入りますとも。（突慳貪にいつて、それから、あまり取詰めて、すつかり忘れてゐたことを、やつと思ひ出したやうに、後を振顧つて、）あゝ車夫さん、どうもいろ／＼御苦勞でございました。骨を折らして濟みません。幾ら上げたらいゝですか。

車夫　いえ、へゝゝゝ。それでも分つてようございました。……ぢや、お氣の毒ですが、壹圓貳拾錢ほどいたゞきませうか。

八重　それだけでいゝんですか。……ぢや、これを。（五拾錢銀貨を三つ與へる。）

車夫　さうですか。どうも有難うございました。（と、鄭寧に頭を下げる。）

文三　さあ、早くお入んなさい。……こんなに遲く探ねて來なくつても（終ひの方をお八重にのみ聞えるやうにいふ。）

八重　（相變らず半分狂亂の調子で）入つてもようございますか。お差支へありませんか。（半分は皮肉。半分は、文三と河瀨きみとの秘密をまんまと衝き留めた勝利の氣持ちから、さすがに二人に對して笑止であるといふ善意の心弱さで。）

文三　えゝ、一向差支ありませんとも。

（八重、片足泥に汚れた新しい疊附の駒下駄を脫いで座敷に通る。）

文三　さあ、こちらにおいでなさい。（といひつゝ、急いで先きに立つて、八疊との境の襖を閉めて、四疊半の茶の室に八重を誘ひ、自分はやゝ遠く離れて、四邊に氣を配りながら坐る。）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

（八重、そこに入つて來て、一隅に置いてある鏡臺などを、じろ〳〵見ながら坐るや否や、）

八重　隨分非道いぢやありませんか。

（聲は怨みに滿ち、涙に濕りながらも、強い劍幕でいふ。）

文三　はゝゝゝ。何が非道いんです。

八重　此處は先生一人ぢやないんでせう。（彼女は嫉妬に堪えかね、常に襖の彼方が氣になるといふ態にて、分つてゐるにもかゝはらず、わざとさういふ。）

文三　一人ぢやないですとも。……此處は今もいつたとほり、私の家ぢやないんですもの。

八重　お吉つあんでせう（と、やゝおとなしくいふ。）

文三　…………え、さうです。………

八重　（輕くうなづきつゝひとり語のやうに、）やつぱり萬福の女中のいつたとほりにちがひない。

文三　それで、用事は一體何です。こんな夜更に遠いところを……

（傷むやうにいふ。）

八重　わたしお吉つあんに先生を戻してもらはうと思つて……（と、いひさして、その後は恨みと嫉妬と涙とに聲が咽喉で詰まる。）

文三　はゝゝゝゝ（と、又高く笑ひながら）戻して貰ふつて、何も私はお吉つあんの物ぢやないんだもの。私は私で、相變らずの氣樂な獨り者さ。

八重　それぢや何でこんな處に來て泊つてゐるんです。

文三　はゝゝゝ泊つてゐるつて。……そんなことは私の勝手ぢやありませんか。今までだつて大森の萬福へ隨分長い間泊つてゐたぢやないか、かれ是れ二年も。

八重　それとこれとは違ひます。

文三　なに、格別違ひやしません。……こゝはお吉つあんが、今度自分で持つた家なんです。

八重　そこへ、貴下がどうして來て泊つてゐるんです。……お吉つあんお一人きりなんでせう。

文三　うゝん……さう、今のところ、まあ一人のやうだな。今日もつい先刻まで手傳ひの若い男が來てゐて、少し前に歸つたばかりです。……あんな商賣の人ですから、いづれその內弟子くらゐ置くでせう。どうせあの人一人きりぢや家を空けて出るわけにもいかない。

八重　そりや口ほど調法なものはありませんから、何とでもいへるでせう。わたしが四月の末から、この四五十日ほどの間どんな思ひをして貴下の居る處を探してゐたかお分りにならないでせう……（おろ〳〵聲で急き込みながらいつて、長襦袢の袖でそつと眼を拭く。）

（八重の血相があんまり凄く青白いので、この深夜に短氣の女氣からどんな思ひ詰めたことを仕出來されるか知れないので、文三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は始終油斷なく氣を配りながらもつとめて、對手の激昂した感情を鎮めるやうな冷靜な語調で、)

文三　私の居處なんかを、そんなにして探してくれる必要はないぢやないか。はゝゝゝ、どうせ、あんたもご承知のとほりの昔からの風來坊だもの。はゝゝゝ。

八重　萬福にお出でになる時分には、毎日のやうに電話を掛けて下すつたぢやありませんか。店の服部さんも此の間、錦織さん近頃はちつとも長尾さんから手紙が來ませんねえと不思議さうにいつてゐました。……お吉つあんと一緒になるなら、なつていゝから、なぜ、そのことをわたしに打明けていつて下さらないのです。

文三　近頃電話も掛けない、手紙も上げないいつて、……それはこの春になつて、もう三月時分から、山下さんの店には博覽會見物などで始終入り代り立ち代り、本店からお客があつて、あなたも大變に急がしさうにいつてゐたから、わざと、私の方で遠慮してゐたんです。それを何もかも惡く取られては困る。

八重　えゝ、それは、あの時分には急がしいことはいそがしかつた。わたしも、あなたのことが氣にかゝつてゐたのです。たゞそればかりぢやありません。どうも三月時分から、變だ變だと思つてゐたら、やつぱりそのとほりであつた。……達者でゐたら、もう二つになる子供があるぢやありませんか。(さういつて、又襦袢の袖で涙を拭ふてゐる。)

文三　(當惑した顏で)はゝゝゝ、そんなことが何が何だか分るもんですか。……あんた近頃身體を少しどうかしてゐるですねえ、夜々日本橋三界からこんな田舍にやつて來て。そんなに出歩いてゐたら、山本さんの店に對して可くないぢやないですか。

八重　山本の內なんか、どうなつたつて、もう構はないんです。

文三　そんな馬鹿なことをいつては、いけない。山本さんのやうな好い家は滅多にありやしない。大事にしないといけないです。

八重　(そんなことは一向耳に入らぬらしく)あなたそれでずつと此處にゐるんでせう。

文三　だから、先刻からいつてゐるぢやないか。こゝは私の家ぢやないんだもの。……私も、あんたに時々話したやうに、お吉つあんの介抱で身體が良くなつたんで、今でもやつぱり絶えず療治をしてもらはないと、どうも身體がよくないものだから、かうして時々來てゐるんだ。

八重　(隙かさず)それ、御覽なさい。やつぱり身體が良くならないぢやありませんか。

文三　それでも以前とはずつと違ふさ。あんた好くいつてゐたぢやないか。病氣が甚いひどいいつて、どんな甚いやうか、一度私の病氣の介抱をしてみたいつて、いつてゐたぢやないか。もう、あの時分のやうなことはない。みんなお吉つあんのお蔭だ。

(文三は、後で、お吉が、八重のことで、甘々と嘘を吐かれてゐた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことを、どんな劍幕で憤るであらうと考へると、その方にも上手をいつて置かなければならなかつた。

奥の蚊帳の中では、先刻から、まるで身體中を耳のやうにして、隣室の二人の會話を一ト口も聞き洩すまいと、時々火のやうな熱い太息を吐きながら、横になつてみたり、又起き直つてみたり、堪えられない焦燥を凝つと抑制してゐたお吉。たうとう默つてゐられなくなつて、襖ごしに、語氣荒く、

お吉　わたしのことをいふのは止して下さい。その話にわたしは少しも關係はないんですから…………

文三　(はつとして)え〻、あんたのことはもう言はない。

八重　あれ、お吉つあんですか。

文三　さうです。

八重　わたし一寸お吉つあんにお目にか〻りたい。

文三　いや、それは可けないでせう。

お吉　……何もお眼にか〻る必要ないんです。……(語聲強くいふ。)

八重　さうでせうか……(ひるんだ調子でおとなしくいふ。)

お吉　その話は、どんなお話かよく知りませんが、こちらで聞いてゐますところでは、何にもわたしに關係はないことのやうです。たゞ、あなた方お二人のことのやうですから、どうぞもう、わたしの事だけは引合に出さないやうにして話をして下さいまし。

八重　一寸、ちよつとお眼にか〻りたい。(といつて、起ち上りさうにする。)

文三　(しきりに頭を振つて、)會はない方がい〻です。

八重　さうでせうか。(と、又尻込む)

お吉　お目にか〻る必要はないんですから。わたしは唯この家にかうしてゐるだけなんですもの。長尾先生とはわたし何の關係もないんです。……わたしも何時まで此處にゐるか分らないんです。

八重　(文三の方を一寸見て、)でも此處はお吉さんのお家なんでせう。

文三　さうさ

お吉　(又聲高く、)わたしだつて、これから先き、いつまで居るか分らないんです。(吐き出すやうにいふ)

八重　(文三の方を又見て、低聲に、)お吉さんといふ方、恐い人ですねえ。

文三　(それには答へようとせず、たゞ肯く風をして、それからお吉に向つていふやうに、)まあ、そんな話は今どうでもい〻ぢやないですか。

お吉　どうでもよくないんです。わたしも、もう此處には長く居ないんです。

文三　あ〻さうですか。それなら、それでよろしい。…………(今度はお八重の方に向つて、)あんた今晩此處に何時まで居たつて、私の方では一向差支へないやうなもの〻、あんまり遲くなると、山本さんの家に對して好くないでせう。……もう電車も無いだら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うし。(長座にあぐねた態でいふ。)

八重　もう山本には、わたし居ないんです。

文三　居ないんですつて？

八重　えゝ、もう此の間暇をとつたんです。

文三　それは、いけないなあ。それでは、今山本にはゐないのですか……噓だらう。

八重　近いうちにお暇をいたゞくつもりです。

文三　そんなことをしては可けない。……尤もあんたのことだから、何處にゐたつてやつては行けるだらうけれど。

八重は、落着いてゐて、容易に歸りさうにしない。
文三はます〱當惑顔の態。暫時双方無言。

文三　(稍々あつて、)山本といふ家はいゝ家ぢやないですか。そんな暇なんか取らないで、もつと辛抱してゐたら好いぢやないですか向うでもあんたを調法に思つて大事にしてゐるんだから。

八重　えゝ、それは大事にはしてくれます。

(八重、初の脱兎の氣勢だん〱殺げて、處女のごとく濕つて打ち沈んでゐる。)

文三　そんな大事にしてくれるところを、おろそかにしては可けないですよ。……あんた今まではつきりした譯もないのに外泊したことなどないでせう。

八重　えゝ、そんなことは一度もありません。

文三　それご覽なさい。……といつて、もう電車もなくなつたし。

八重　わたし先生の處に置いてもらひたいんです。

文三　…………………そんなことをいつたつて困るよ。こゝは私の家ぢやないんだもの。

八重　でもお吉さんと何でもないんなら、わたしを此處に置いてくれたつて構はないでせう。

文三　あの人のことは別のことだ。今夜出し抜けに來て、そんなことを急にいひ出したつて、それは困りますよ。

八重　だつて、それは先からの約束ぢやありませんか。

文三は、お吉に聞かれて、實に困ることをいふといふやうな顔をして、そして又空とぼけた顔をして、

文三　先からの約束つて、どんな約束？

八重　御自分でよく御承知でせう。

文三　どうも、どんな約束か私は覺えがないなあ。

お吉　(襖ごしに)どんなお話か私は知りませんが、今晩はもう隨分遲いんですから、そのお話は又明日になつて、なすつたら、いゝでせう。そして、歸るたつて電車はないし、どうすることも出來ない。もうお寢みになつたら可いでせう。

文三　さうだ。それがいゝ。(文三は、お吉からそれをいひ出すまで自分からはお八重に泊つてゆけとはいへなかつたので、それでやつと救はれた思ひがした。)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

八重　それを機會に又、襖の彼方のお吉に向つて一と口何か挨拶のやうなことをいひかけたが、心弱くも口の中で消してしまふ。それとゝもに、急に、

八重　あツ痛いいたい〳〵と、いつて、持病の癪を起して、帯の上の水落ちの邊を手で抑へる。

文三　どうしたんです？（と、當惑した顔をする。）

八重　あツ、つゝゝう。あ、痛い〳〵〳〵。（身體をひねり、頭を胸に押付けて苦む。）

文三　（手持ち不沙汰の態にて）ひどく痛むですか。

八重　（顔を顰めて、）これが、……わたしの……持病なのです。……あツつゝゝゝあなた濟みませんが、一寸手を貸して、……あツ痛い〳〵〳〵こゝの胸のところを抑へて下さい。

文三　（いよ〳〵當惑しながら）抑へてくれたつて、私には、そんなことは經驗がないから……うまく出來ないだらう。

八重　あツ痛い〳〵……そんなら、どうぞ水を一と口。

文三　可し、水。

（彼は、いきなり起ち上つて臺所にいつて茶碗に水を汲んで持つて來て、八重の口元にあてがつてやつた。八重それを、文三の手のまゝ一と口呑む）

八重　おゝ痛かつた。（と、一つ深い息をする。）

文三　いくらか好いですか。

八重　えゝ、いくらか輕くなりました。……もう此の間中から、わたし身體の調子が大分違つてゐるんです。

文三　だから、こんな夜更なんかに、知らない田舎道を歩いたりしない方がいゝんだ。

八重　わたしもう死んでもいゝです。

（八重蒼白な顔をして、淚脆い調子でいふ。）

文三　そんな馬鹿なことをいつては可けない。

（どこか隣家の時計が二時を打つ音が聞える。）

お吉　もう好い加減にしてお寢みなすつたらいゝでせう。……でも、あんまりお痛みになるやうでしたら、直るか直らないか知れませんが、わたし一寸揉んで差上げてみませうか。（といつて、起き出て來さうな氣配でいふ。）

文三　あゝ、それがいゝ。一寸揉んでもらつたらいゝでせう。

八重　（遠慮して、）いえ、そんなにして戴かなくつてもいゝんですの。もう癒りましたから。

文三　まだなか〳〵癒らないだらう。遠慮せずに一寸揉んでおもらひなさいな。

お吉　上手ぢやありませんが、胃痙でしたら、わたしこれまで何度も痛みを抑へて差上げた經驗がありますから、お厭でなかつたら、譯ないことですから、一寸擦つて上げませう。

八重　いいえ、もう。そんなにしていたゞかなくつても、もう癒りまし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たから。

お吉　ぢや、もうほんとうにお寢みになつたらいゝでせう。蚊帳が一つしかないんで、窮屈ですけれど、こゝで三人寢られないことはないでせう。（相變らず襖の向ふでいふ。）

文三　蚊帳が一つしかないんでねえ。三人結構寢られるさ。さあ、お入んなさい。（と起ち上る。）

八重　えゝ、（と、いつまでも沈んでゐる。）

（文三、それとなく油斷せぬ樣にお八重の樣子に氣を配りながら）

文三　胃が痛むんだから、早く蚊帳に入つて横になつたらいゝでせう

八重　えゝ、それでは今晩泊めて戴きます。

（と、沈み切つた調子で、すうつと起つて、鏡臺の前にいつて、懷から櫛を取り出して、ちよつと鬢のあたりを撫で、それから八疊の閾際のところで、博多と繻子との腹合せ帶を解いて、そこに片寄せてゐる。）

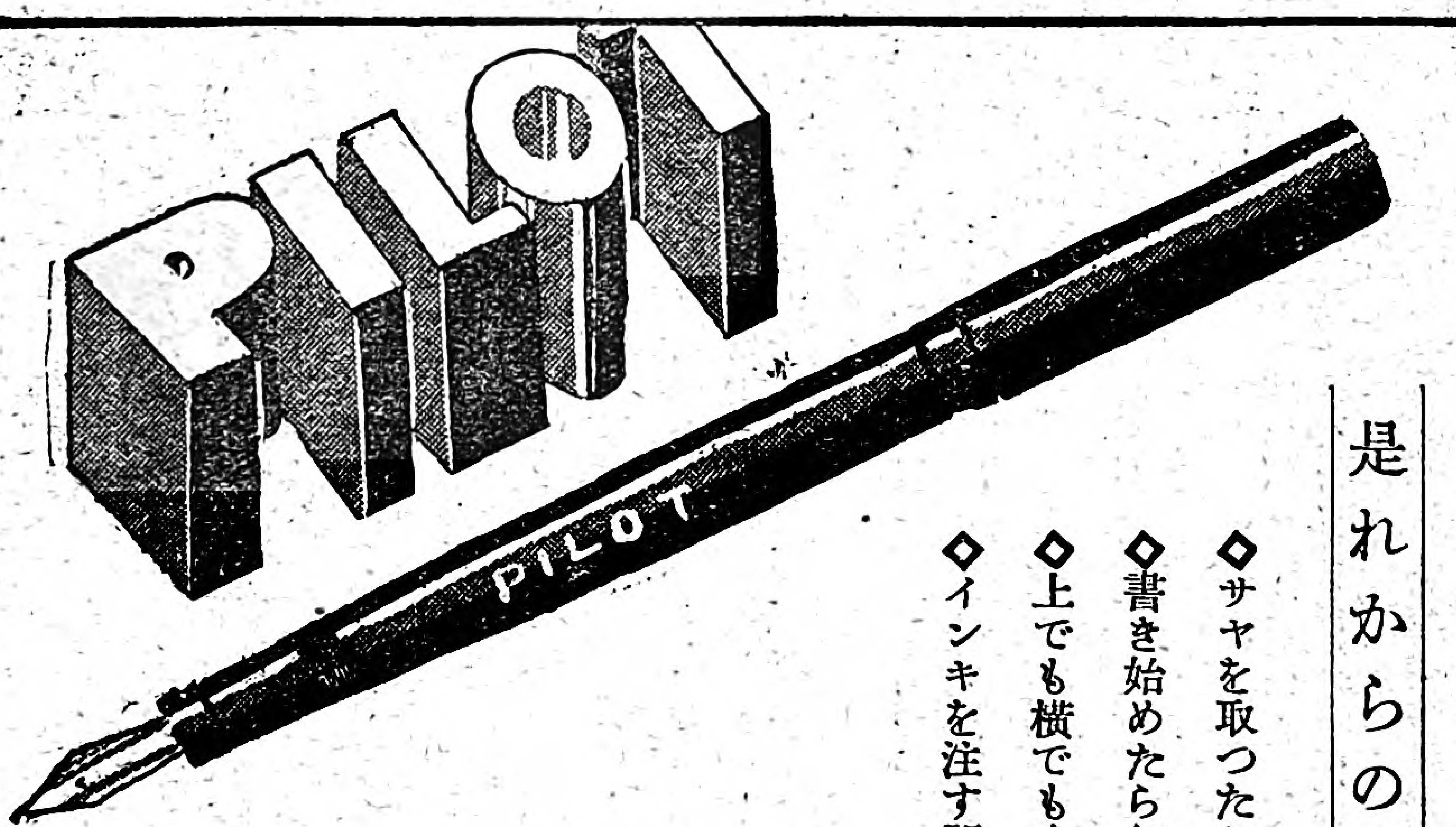
文三　あゝ、隨分遲くなつた。

（といつて、蚊帳の中に入つて、　の中央に横つた。）

八重　ごめん下さい。（打ち沈んでいひながら、一番端のところに靜かに横はつた。）

（お吉、文三が寢床に横になると同時に、くるりと、背を向けて向うをむく。）

何處かで家鷄が夜鳴きをしてゐる。（幕）



是れからの萬年筆

◇サヤを取つたら直ぐ書ける
◇書き始めたら何時までも
◇上でも横でも自由自在に
◇インキを注す間も二三秒

株式會社
並木製作所



善魔

長篇「安城寺家の兄弟」の一部

里見弴

一〇二

通しもので、取敢ず酒といふことになつたが、杯を唇へ持つて行くまでに、匂ひだけで、すぐもう胸がむかついた。藥と思つて、無理に一口銜む、その苦さといつたらなかつた。所詮これでは、夕方歐川が來るまでがもちきれない、さう思つて昌造は助舟に、誰か遠慮の要らない遊び好きの人を、あれこれと心のうちに物色しながら、餉臺の前にゴロリとひつくり返つてゐた。

三平も、所在なげに新聞を擴げ、頰杖かなんかで、ぼんやり眺めてゐたが、

「有繫にちつとまゐつてますね？」

と、笑ひかけて、「小なみちやんたちにでも來て貰ひますかね？　それとももう暫くさうして御靜養なすつてた方がようがすか」

「御靜養もいゝが、誰か來て、日の暮れるまで俺の代りを勤めてくれないかな。何しろ、これぢアとてもつきあひきれない」

「何もさう勤氣なんぞ出さないたつて、さうしていらつしやりたければ、いつま

でゝもさうしていらつしやいましなね」

「贅澤いふやうだが、誰か來て、そばで賑かに騷いでゝくれゝば、一番助かるんだ。これぢア氣が滅入るばかりだよ」

「あたしほどの幇間をそばに置いといてからに、そんな云草つてえがあるもんぢアない。贅澤だ、生意氣だ！」

「健ちやんゐるかな」

（作者註。――健吉は、昌造のすぐの兄で、當時新橋近くのビルデングに、ブローカーの店をもつてゐる。無論前の部分に出て來る人物。）

「さア。電話をかけてみませうか。いらつしやるかどうか、……いつ行つてみても、めつたに店にいらつしつたためしがないんですがね、どうも、あれも、不思議なお店だよ」

「兎も角、電話かけてみろよ。ゐたら、すぐ遊びに來ませんかつて。……健ちやんさへ來てくれりや、女の五人や十人、一手に引うけてくれるからな」

「それアもう……」

「それからね、電話の序に、松川家の女將さんも呼ばないか。せんにはよく歌公だつて行つたんだし、久振りで逢はせたら喜ぶだらう。……番號はと……高橋榮藏で引いてみてくれ。誰か青山六丁目だつた」

「へーえ、さうですか、いつの間にか旦那ンとこに一緒になつてるんですか。それアちつとも知らかつた」

「まアあの二人に來てゐて貰ヤア、俺アもうゐてもゐなくてもいゝやうなもんだ」

「序に女の連中も云つときますか」

「あゝ」

と、氣のない聲で、「何分とも宜しくやつてくれ。あゝあ、いやだく」

「それから、なんか召上りものをさう云ひませうか」

「とてもく！……でも、お前、朝飯前なんだらう？構はないから先に食べよ」

「然し、貴方も無理ンでもなんかちつとお腹に入れとかないと毒ですぜ」

「入れるどころか、樂に出せるもんなら、腸まで、一遍そつくり吐き出したいくらゐだ。まア、遠慮なく先にやつてくれよ」

三平が出て行つたあと、昌造は、肘枕の鼻に近く漂つて來る疊の匂、――藺の香りなどはほんの微で、噎つぽいやうな埃の匂を、その不潔さのゆえに、却つて懷しく、心を暢してゐた。

「あゝあ、いやだく」

何がよくつて、こんなことに、大事な精力や時や金を空費してゐるのか、――我身ながら、馬鹿らしさの方途が知れなかつた。

「癖だ。たゞ癖だけのことで、こんな辛い思ひをしてまで、無理に遊

んでゐるんだ。よさう〳〵！　もうほんとによさう！」

暢びだらけた心にも、たゞ體の辛さから、弱々しい、そんな後悔が起つて來る・・・・

ほどなく三平が、お民と二人で、何か笑ひながら歸つて來た。

「珍しいことがあるもんで、健ちやん、ゐましたよ。すぐゐらつしやいますつて。それから、澤田さん（松川家の女將の姓）は、ちつとおそくなるかも知れませんけれど、伺ふことは必ず伺ひますから、どうぞ宜しくつてお言傳でした。」

「へーえ、いやにみんな都合がいゝんだな」

お民も笑つて、

「またどうかした拍子で、あつちもこつちも、お斷りばかりつて時もあるもんですがね」

「さうですよ。きつと日がいゝんでせう」

「ぢア、友引かな？」

「もとの松川家さんの女將さんがいらつしやるんですつて？」

「あゝ。・・・・知つてる？」

「えゝ、それア知つてますわ。粋な、いゝ女將さんでしたわね」

「うん。なか〳〵よかつた」

「この頃は、主に龜の井さんにいらつしやるんですつて？」

「誰？　あたし？　いゝえ、どこイも行きやアしないよ。あすこも久保君に誘はれて、こないだうち二三度つゞけて行つたくらゐのこつて・・・・」

「一體、この頃、生意氣にも河岸を變へてからに・・・・」

「あゝ、さう〳〵日本橋なんですつてね」

「なアに、あすこだつて、東京驛には近いし、出端がいゝから、こつちに來てゐる間の、ほんの宿屋代りにしてゐるといふだけのこつて・・・・。それにアもつて來いの、至つて暢氣な、氣の置けないうちでね、嘘だと思ふなら來て見ればわかるが、いつだつて、薄暗い六疊の部屋に、たつた一人でつくねんとしてゐるんですよ。・・・・ねえ、平さん」

「なんだか知らないが、あたしアあすこのうちのお種さんつて女中さんが可怕くつて仕樣がない。何しろ、あたしが行きさへすれア、また引つ張り出しに來たな、てえやうな顔をして睨みつけるんですからね。おつかない人ですね」

「またそれに違ひないぢアないか。平公、一體お前さん、この頃いやに商賣熱心になつたよ。ちよいとどつかに飯を食ひに出るたつて、必ずこつち方面へ引つ張つて來るぜ」

「それアまたそれがあたり前ですわ。ねえ、三平さん」

「どういたしまして。何も別にそれほどまでにして引つ張つて來たいほどの客でもないんですがね、そこがそれ。人間だれしも自惚となんとかのない者はないつてやつで・・・・」

「まア、あんなこと・・・・」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

疾くからの關係を知らないお民が、はたから取りなしてくれるまでもなく、そのくらゐはしよつちうのことで、昌造も、平氣の平佐だつた。

「なアに、下手な商賣氣なんぞ出しやアがつて、忽ちそれを見透かされたもんだから、口惜がつてあんなこと云つてやアがるんだよ」

「あツはゝゝは」

お民は、特徴のある、ほがらかな高笑ひをしてから、「それで、藝者衆は、矢つ張り昨夜來てゐたやうな連中でよござんせうかしら。誰かもつとほかにお好みが御座いましたら……」

「あゝ」

と、まるで溜息のやうに威勢のない返事で、「どんな人が來てゐたのか、よくも憶えてないけれど、つまり歌川がしよつちうよんでる人に來て貰はふぢアないか」

「しよつちうツたつて、ゴロさん、ついこの間ごろから、二三度續けて見えたきりで、……ねえ、さうでせう？」

「えゝ、いつかどつかのお歸りだつて、おそくなつてから、大勢さんで……」

「えゝ、あれは……」

「あん時ツからですよ。あれまでだつて、それア時たまいらしつて頂いたことはありますけれど、ほんの半年に一遍かそこらで……」

「さうでせう？」

と、三平はひとり嚥込顏に、「あれはね、春日で、お化會の下相談があつて、その崩れだつたんですから、……さうです、つい先月か、先々月の末、なんでもそんな時分のこつてすよ。ですから、まだいくらも……。ねえ、さうでしたねえ？」

「えゝ、さう。でもね、見えれば、大抵云ふ人はきまつてますけど……」

「お富ちやん、鈴香さん、小なみちやん、鶴代さん……、大抵そのへんのとこでせう？」

「それぢア、若手の綺麗どこを網羅してるわけぢアないか。……實にどうも、呆れ果たるやつだなア」

「それアどうして、有繋に、違ひますよ」

「何が、どう、有繋に違ふんだよ」

「それアね……」

「得だなア、役者は！ 今から商賣變をしたんぢアおそいかな？」

「どういたしまして！ 貴方がたはまた別でさアね。どこイいらしつたつて、必ずもう間違ひなく……」

「鼻つまみか？」

三平は、反くり返つて笑ふと、

「まア〳〵、君、さう君、さうどうも僻んぢア困るよ。何も僕は、君等文士諸君をぢやね、敢てそのセンベツしちよるわけではないんぢやから。……まア、仕方がない、これを君にあげちまはふ！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、小皿に盛つたくさやの干物を、わざ〳〵昌造の鼻の先へもつて來て、「これでも食べて、ひとつこゝんところは、機嫌をなほしてくれ給へ。ねえ、君！」

蕊ではやゝてれ加減の、そのわる巫山戯を、昌造は、ニヤ〳〵しながら眺めてゐたが、わけもなく可笑しがつて、くツくといつて苦しがつてゐるお民の方へ、

「これがね、この男の、とつときの藝なんだからいやンなつちやうぢアないか」

「なんだ…とつときだ？　生意氣ぬかすな？　そんなことといふと活惚を踊るぞ！」

―なアるほど、さうして片ツぱしから數えあげてつてみると、これで矢つ張り、三つや四つあるんだね。これア、うつかりして、惡かつた！　あやまるよ！　とんでもないことを云つちやつて、すまなかつたよ！…お民さん、まだあのほかに、活惚も踊れるさうですから、どうぞまア、せい〳〵贔屓にしてやつてください」

お民は、ゆかたの袖口で、可笑涙を拭きながら、

「はい〳〵、承知いたしました。ぢア、今夜は、是非ひとつその活惚を見せて頂くことにして、藝者衆は、そのへんのとこで…？」

「えゝ、お任せしますから…」

「構アこたアねえから、赤坂ぢうの藝者へ總あげにしちまへ！　くそ面白くもねえ、ひとのことを活惚だなんて云やアがつて、憶えてろ！」

きりがないので、そこらで腰を擡げやうとしてゐたお民に、昌造が、いつにない早口で、

「あゝ、それからね、もし來られたら、ちよつとでもいゝんだから、なんに來て貰つてくれないか、…あの、それ…」

「誰でせう？」

「あれさ、…わか子」

「なんてね、云ひ淀むなんざア、それでもまだ、いくらかしほらしいところがあるよ」

「うるせえ、默つてろい！」

赤くなるまいとする意識だけで、見るまに眞赤になつて行く顏を、無理にお民の方へ振り向けて、「兎に角ちよつとでも迴つて、昨夜の醜態をあやまつとかなきアね。なんとも、どうも、あはす顏はないんだけれど…」

「はい、承知いたしました」

「どうだらう、來るかしら」

「さうですねえ…」

「矢つ張り、怠てるんだつて？」

「えゝ、相變らずの氣儘勤めで…。でも、大抵來てくださるでせうよ。兎も角、お名前を云つて通しときますわ」

云ひながら、銚子に手をかけてみて、「あら、ちつとも召上らないんですね？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「もうちつと待つてみてください。今ンところ、慾にも得にもはいらないよ」

綺麗な歯並を見せて、にツと笑ひながら、

「ぢア、お雑炊でもして參りませうか」

「いやもう、とても……」

「生のお豆腐を、そのまんまなんにもつけずにあがるといゝつて……」

「それアいゝ」

と、暫く鎭まつてゐた三平が、すぐまたしやく〳〵り出て「第一、待合の食ひものとして、これより安いのを見つけやうたつて、それアあなた無理だよ。どうです、そこらで手を打つことになすつちア」

「生豆腐か」

白く冷い肌ざはりは、ちよつとわるくなかつたけれど、それが、舌の上で、フニヤリとつぶれる感じが、忽ち胸をむかつかせた。「うーんどうもまだなんにもはいりさうもないなア」

「いつそ、アイスクリームみたいなものはどうなんです？」

「うるさいよ！下戸の知つたこつちアない。默つて引つ込んでろ！」

「へえ。……ぢア、すみませんが、お民さん、あたしに一つ御馳走してくださいましな」

「なに？アイスクリーム？」

「なんですか、今朝から喉ばかり渇いて……。なんのかんの、昨夜はあれで、あたしも大ぶ飲まされてますぜ」

「それより、貴方は、ちよつと階下へ行つて、お茶漬をあがつたらどう？」

「あゝ、さうしませうか」

「なんか食べたいものがあるんならさう云ひますけれど、あたしたちのお總菜でよかつたら……」

「えゝえ、結構ですとも！」

「客に生豆腐を食はせといて、そつちがアイスクリームだなんて、一體ものがあべこべだ。飯を食はすなら、土用越しの澤庵かなんかで澤山ですよ」

「うるさい！客の分際として、餘計なことを申すな！」

「ぢア、ちよつと仕度をして來ますから待つてゝね？」

「何、もう、別にお仕度なんて……」

「まア、待つてらつしやいよ」

お民は、機嫌よく、ひとりで「へゝゝへ」と笑ひながら出て行つた。

喋りくたびれた二人は、暫くぽかァんとして、煙草を吃してゐた。

「然し、暑いと云つても、もう樂ですね」

「あたり前さ。四五日すれア、すぐもう袷ぢアないか」

「あ、さうか・」

「なアんて、鷹揚な顔をしてみせたつて、その實、内心、今度の入費について、いろ〳〵あんもんしてやがるくせに」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「へゝへ」
と、やゝ職業的な笑ひ聲をたてゝ、「生意氣に、知つてますね、入墨なんてことを」
「あゝ、今その入墨で思ひ出したんだけれど、いつだつたか、君に、羽織の裏を見せられたことがあつたつけね」
「羽織の裏？」
「ほら！ 役者やなんかの寄書がしてあつてさ、その眞中のとこに、元祿美人だつたかの繪が描いたつたらう？」
「えゝ〳〵」
「あれ描いた人、なんてつたけね」
「あゝ、瑛龍さん……」
「さう〳〵、え、りう。……なんだか、むづかしいえいの字だつたね？」
「何、英國の英の字に、王篇をつけただけのこつてすよ」
「へーえ」
と、臺の上に、指の先で書いてみながら、
「なんのこつたい、一讀、瑛たア」
「なんですかねえ。……昨夜、貴方、來てましたぜ」
「うん、來てた」
「前にも、逢つたことありましたね？ 一時、北先生がなか〳〵御執心で……」
「うん。よく先生から噂は聞いたが、然し、逢つたことはないと思ふな。――ないよ、緣にないよ」
「さうでしたかね」
それから、ニヤリとして、急に前こゞみになり、聲も落して、「ゴロさん、どうもあれぢアないかと思ふんですがね……」
「何が」
「いゝえ、この頃ちよく〳〵現はれる、つまりそのお目當がですね」
「そんなこたアあるまい。先刻いつてたやうな、もつと若い連中だらう。もうその年齢だもの」
「いや、どうも、あたしの睨んでるところぢア……」
「そいつがね、今までにだつて、あんまりさう鮮かに、ピタリといつたためしがないんだから……」
「ところが、さうでないよ。どうもね、先達から、ぢッとかう樣子を見てるのに……」
「へーえ、生意氣に、お前が、ぢッと客の樣子なんぞ見てることがあるかね」
「それアもう……」
「さうかい。ぢア、俺もこれからちつと氣をつけやうよ」
そこへ、お民がはいつて來て、三平に、飯の仕度の出來たことを告げた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一の三

　階下の、落緣に深い土庇を還らした十二疊の間に席を移すと、ほどなく兄の健吉が顏を見せた。二十歳前の生意氣盛りに、それ〴〵才智も働き、相應不良性ももつてゐて、粹向よりは、どつちかといへばハイカラ好みの、新進氣銳といつた感じの妓たちも、ぽつり〳〵はいつて來た。昌造は、まだ元氣も出なかつたし、久保たちのつきあひで、やつとこの頃ちよく〳〵逢ふやうになつたやうなものゝ、一體が、さうピタリと合ひさうな反ではなかつた。

「シイさん、どうなすつたの？」

「あたしたちにばかり飮ませといて、一體、づるいわ」

「さア、あがれよ！　ねえ！」

　そんな風に云はれるのが、あつちこちからもて囃されるといふ感じではなくて、遲鈍を、因循を、蔑むささを、批難攻擊されてゐるやうで、たゞ彼方の調子に乘つてさへ行けばいゝことが、却つて、一層氣を重く、間拔じみた返事ばかりを返すやうなことになつて了つた。

「うーん？　とても駄目だ。匂を嗅いだばかりで……」

　さう云つて胃のあたりをさすつてみせるのでは、景氣よく燃えあがりたがつてゐる火にとつてさへ水だつた。それでも、十年一日の如く遊びつゞけて來た健吉や、三平といふやうな乾きつたものがあつてそばから火を呼んでくれたから、いつの間にか昌造は、騷ぎの圈外にほつたらかされ、誰もさう氣にしなくなつた。

　そこに、ほんの普段着のやうな裝で、わか子がぶらりとはいつて來た。昌造は、掘拔井戸の、斷へず噴きこぼれてゐる水音に近く、柱に背を凭せ、落緣から片足ぶらん〳〵させてゐたが、ふり仰いで、

「いらつしやい」

「昨晩は」

　ちよつと片手の指先を疊に、健吉や若い連中の方へも笑顏を向けて、

「晝間ッから、大へんな景氣ね」

「お先イ」

「いらつしやい」

　三平が、飮めもしないのに、もういくらか醉つた身振りで、「どうぞ、ずッとどうぞあちらへ……。あちらがね、例の性分でね、なんですかひどく昨夜のことを氣にしておいでゝすから……」

「あら」

　ゆつたりとした、それで情のあるもの云ひで「どうして？」

「先刻ッから、あたしを捉えて、おわかちやんになんか云やアしなかたかつて、何遍も何遍も執く訊いてなさいましたからね……」

「なんにも云やアしないわ」

　近すぎるほどそばへよつて、横に並ぶやうに坐ると、「でも、大へんな虎だつたわね」

「いや、ほんとうになんにも云はなかつたのなら、もうそれでいゝん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だ。それ以上お浚は御免だ」
「太田さんたちのお座敷へはいつて來て、あたしを見ると、反つた！
つて……」
その身振りをしてみせて、「憶えてる？」
「實にどうも、言語同斷、沙汰の限りですよ。あやまる、あやまる」
聲はたてずに、たゞ穩かに笑つて、
「どうなすつて、ずゐぶん暫くだつたわね」
「この頃は逗子でね、しよつちう釣ばかりしてる」
「さう？　いゝわね、田舍は暢氣で。……あれ、讀んだわよ、『雜草』？」
「さう」
春江と別れてから、昌造は、その人や、妹のわか子をもモデルに二つ三つ小説を書いてゐたが、今、だしぬけにその一つを話題にされると、わけもなくたゞ顔を赤くした。「困るなア。讀んで貰はない方がいゝ」
「それから、あれはなんてましたつけ。さう、あの、箱根かどつかの宿屋で……。あれも讀んだわ。いやアね、あたしのことを……」
「御免。御免！」
と、思はず膝に手をかけてゆすぶりながら、「よさう、さういふ話は一切よさうよ」
もう一度わか子は、顔だけで笑つてみせた。宿酔の夕方、——竹皮のやうに蒼白く感じ易くなつてゐた昌造は、その笑顔に、ありつたけの意味を背負ひ込ませて、ひとり胸板を突ッ張らせて了つた。
「吉井さん(他家を繼いでゐる延吉の姓。)にも、ずゐぶんお久振りよ」
「さう？」
「ちつともお變んなさらないわね」
「うん。でも、こゝがね」
と、自分の、兩鬢から大ぶん奥へぬけあがつた額を撫でゝみせた。
「親譲りで、うちの兄弟は、一人殘らずこれなんだ」
「さうね。でも、男の方は、額の廣い方がいゝわ」
「額ならいゝだらうけれど、こゝらはもう立派に頭の領分ですからね」
「なんだ、なんだ？」
健吉が、遠くから伸びあがつて、「なんか云つてやアがるな」
三平がすかさず、
「御自分のより貴方の方が、一寸二分五厘がた餘計禿げあがつてるなんて、きはどいとこで差別を食はせてますぜ」
「兎に角、頭の話はよさうぜ」
「さうだ／＼！　頭の話はよして、禿の話をしよう、——なほ悪いてね」
昌造は、反跳のない笑ひ聲で應へるばかりで、いつになく、そんな冗口にも乘つて行けなかつた。
「わか子姐さん、召上りませんか？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「えゝ、有難う」

吐月峯の蓋をとつてみて、いつぱい詰つてゐるのに、「あら、大へん」と呟き、火入れの灰に差すと、わか子は、健吉のそばへ、――卓袱臺の前に行つて坐つた。

そこにお民が運んで來てくれた冷紅茶を、今朝からまだ生水よりほかなんにもはいつてゐない胃の腑へ、可怕々々流し込みながら、昌造は、ぼかんとして、褐色の池水を見詰めてゐた。

「まだいけませんか」

お民は、いつの間にかきちんとした裝に變つて、昌造の前に肥つた膝を折つた。

「うん。もうそろ〳〵よささうだ」

「一人ツぽつち離れてないで、貴方もあつちへいらつしやいませんか」

「うん。……一體どういふんだい、こゝの水は。まるで番茶でも煮出したやうな色をしてゐるぢアないか」

「えゝ」

と、笑つて、「へんですわね、こんなところに鑛泉が湧くんですつて」

「へーえ、鑛泉がね。なんかに利くのかしら」

「さア、どうでせうかね。でも、ラヂウムとかも少しははいつてゐるんですつて――」

「ぢア大したもんだ。待合なんぞよして……」

「五反田のなんとか閣つてやうなものでも始めませうかね」

「鯉かなんかゐるの？」

「えゝ。でも、お池の水としちやア、汚らしくつて可厭ですわねえ。まるでお魚だつて見えやアしないし……」

「レイさん」

そこにわか子が戻つて來て、「あたし、すみませんけど……」

「あゝ、どうぞ〳〵」

「まアもうちつとお待ちなさいましよ。もうぢき歌川さんもいらつしやるんですから」

「さうですつてね。……でも、ちよつと、今日は……」

「とてもむづかしからうつて云つてたんだけれど……」

「あら、さう仰有られると歸れなくなつちまふわ」

「そんなことないよ」

と、くそ眞面目に、「どうぞ、ほんとに、遠慮なく歸つてください」

「えゝ、ぢアまたね」

「えゝ」

「ゴロさんが見えたら、どうぞよろしく……」

「えゝ」

「よろしくだけぢアつまんないけど、貴方からも云つときませうか」

もうその時には、立つて歩きかけてゐた。昌造は、ぐッとつまつて困つたやうな笑ひ顏をしただけだつた。「どうぞ」と、輕くは出なかつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た。

「ぢア、さよなら。……お先に」

と、わか子は、お民に送られて歸つて行つた。

一の四

「あら、そんなのつてないわ!」

「ずるいわ!」

「ずるい? ずるいつたつて君……」

「いゝえ、駄目々々! あたしたちがみんな綺麗にあけてるのに……」

「男のくせにそんなのつてないわ!」

「卑怯よ! 卑怯よ!」

「まア、ちよつと、……然し、君……」

云つてゐる隙に、手早く、飲みさしのリキユール・グラスに注ぎ足さうとした鈴香の手頸を抑えて、歌川は、錆聲で大きく笑ひだした。「そんな、君、置注なんて法はないよ」「第一、揃つて乾杯つて約束のお杯を、半分で置くつて法があつて? ……小なみちやん! 見てないで加勢してよ!」

「駄目よ! 手をお放しなさいつたら!」

「放すけどさ、……ぢア、飲むから……。さう君、あとから〳〵注がれちア……」

なんだか大層もめてますね?」

ヒヨコ〳〵と三平がやつて來て、「どうしたんです、一體」

「お師匠さん!」

と、鈴香は、とろりとした目つきで見返つたが、急にへら〳〵笑ひだすと、「駄目だア、お酒の飲めない人なんぞ、あつち行つてらつしやい!」

「ほれ、見なさい、叱られた」

また執拗く注がうとしてるキング・オブ・キングスの瓶の下から、歌川は、左で、敏捷くグラスを把りあげると、「いゝかい、飲むから見てたまいよ、いゝね」

「いや! そんな半分ぽつち!」

「あれ〳〵? どうも、これアちよつとの間に、大へんな景色になつちやつてるんですね、驚いたなア」

「そんなに驚かなくつたつていゝわよ! お師匠さんなんかあつちイいつてらつしやい!」

「へえ!」

頭のてつぺんから聲をたてゝ飛びあがると、クルリと廻つて、今度は昌造たちのそばへ來た。そこでは、もとの松川家の女將を中心に思ひ出話がはずんでゐたが、こつちはこつちで日本酒で、昌造は、そろ〳〵もう据りかけて來た目を向けると、

「どうだい、鈴公の景氣と來たら……」

「驚きましたね。先刻、紅葉館に行くんだつて一ぺん歸つたでせう?」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あの歸りに、貴方、このつい裏の半月つてうちにひッかゝつて……」

「聞いた、聞いた。梯子段からおッこツたんだつて？」

「大へんですよ。向脛、脚絆でもはいたやうに。繃帶だらけ……。半月の女將さんに證明して貰つて、やつとのことで紅葉館の方は斷つたんださうですがね、さうしたらまたこつちへ舞ひ戻つて來ちやつて……」

「先刻、あんたがちよつとゐなかつた間が大へん……」

と、松川家の女將の澤田は、やゝ興ざめ顏に、「いやだつて云ふのにあんたが無理に飲ませるから、こんな怪我をしちまつたんだつて、歌川さんの前に、何度も何度も足を出して見せるかと思ふと、今度は、痛くつてたまらないから癒してくれつて、胸倉をとつて搖ぶるもんだから、簀戸がはづれて、もうちつとのことで、二人とも一緒に、庭へ轉げ落るところだつたのよ。どうも實に……」

「へーえ、そんな騷動があつたんですか」

「綺麗な若い人たちが……」

云ひかけてふと思ひつくと、昌造の方へ、「昔なら、姫御前のあられもないつていふところでせうね」

「そ、そ……」

顏ぢう皺だらけにして、苦しさうに溜飲を吐くと、「そ、そんな、婉曲な、而も辛辣なことといふから、兎角昔ものは嫌はれるんだよ」

「さうね、ほんとにさうですね」

案外にも、澤田は眞面目にうけて、「あたしも、先刻ッから、つく〴〵さう思つてたんですのよ、――かういふ舊弊なところにも、たうとうハイカラ風がはいつて來たんだなア、と思つて……」

「ハイカラ風か。それを、『新時代の空氣』とかなんとか云つてくれると、もつと素敵なんだけれど、然し、さういふ微妙な感じをもつだけでも大したもんだよ。流石は女將さんだよ」

「あゝ、さう！『新時代の空氣』ね。一つ利口になりましたわ。……ですからさ、貴方、それにつけても、北先生とか、歌川さんとか、あたしがお伺ひしても構はないやうな方たちと御一緒の時には、これからも時たま引ッ張り出してくださいましね。さうでもして頂かないと、もと〳〵遲れてる人間が、いよ〳〵もつて世間から遠退いちまつて……」

「ところが、いま貴方が云つた二人、それに俺なんぞぢア、あんまり新時代ッぷりがよかアないね」

三平が躊躇はず、

「舊時代ッぷりの方ならね、またこれで、お三人ともなか〳〵……」

はゞかりへでも立つたのかと思つてゐた健吉が、貸浴衣を洋服にき換へて、そこにふらッとはいつて來た。

「なんだい、歸るのかい？」

にや〳〵しながらそばへ來て、洋袴の皺を氣にするやうに、長い脛を投げ出すと、

「俺、もう歸つてもいゝだらう？」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

健吉の氣のよさは、現在の弟に對してすら、さういふ口の利き方をさせた。

「どうして。まだいゝぢアないか」

「まア、御緩りなさいましなね」

三平も口を添えて、「何もさう貴方、いつまでも新婚からなくつたつて……」

「ところが、さうでないんだよ……」

「ようさん、こゝにおかけなさいましたら？」

女將が引きよせてくれた脇息に、手つきでちよつと會釋を返し、ゆる〳〵身を起して腰かけながら、

「……ところがね、こつちはその氣でも、彼方がそれぢア承知しないやね」

「はじまつた！」

三平は呆れ顔に、「これが、御自分の奥さんの話をしてゐるんだから不思議なもんだよ。傍て聞く人ぢア、とてもさうは思はない」

小走りに來て、トンと膝を突いた小なみが、

「すみません」

「歸るの？」

「女將さん、御緩り。みんな醉ツぱらつちまつてすみません」

「いやですよ。それどころか、久振りで綺麗な人たちを見せて頂いて……」

「あら、女將さん！」

「おうちの姐さんは？」

「えゝ、有難う、相變らず……」

「どうぞ、よろしくね」

「えゝ、申し傳へます。でも……」

と、横から昌造の顏を覗き込むやうにして、「もうぢき見えるんでせう？」

「おい！　小なみちやん！」

いきなり健吉が口を挿んで、「歸るンなら、一緒に自動車に乘つけてつてやらう。これから、どこに行くんだい」

「いゝとこ！」

「なに、こんちきしよう……」

立ちかゝる間に、ひらりとぬけて、

「さよなら、……失禮」

「何が失禮……」

思はず澤田は、苦笑ひで呟いた。

「よく飲むね、驚いた！」

健吉は、もう一度脇息の上に腰を落ちつけると、「あれだけ飲んで、いざ歸るとなると、ケロリとしたもんだからな」

「あんまりケロリでもないけど」

「まづ、トロリくらゐでせうかな？」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「誰だい、一體……」

昌造は、飲めない濁酒ばかりのはたにはお構ひなしに、手酌で注いだ杯を唇へもつて行きながら、「小なみンとこの姐さんてのは」

「あらいやだ。瑛龍さんぢやアありませんか」

「あゝ、さうかい！　小なみちやん、あの人のうちの人かい」

「さうよ、貴方……」

「あの人はね．せんよく、北先生の座敷で君ンちに來てエたやうだけれど、どういふもんか、一遍も逢つたことがないね」

「あら、そんなことないでせう？」

「いゝえ、昨夜肇て逢つたんだがね．慥に見憶えのない顔だつたよ。でも、不思議なもんで、北先生に聞いてた話やなんかで、すぐ、あゝこの人だな、つて感じは來たね。さうしたら、矢つ張りさうだつたんだけれど」

お民が來て、健吉に、何か折詰のやうなものを渡しながら、

「どうもお待遠樣でした。お自動車も來て居りますんですよ」

「よウさん、およしなさいよ、もうちつと緩りしていらつしやいなね」

「いやだよ！　何しろ、おい！　これを見てくれ！」

一旦小脇に挿んだ紙包を、三平の鼻の先に突きつけて、「かういふものをぶらさげて歸らうといふ人なんだから……」

「なんです、それア」

手を出して觸らうとすると、ヒョイと引いて、うしろに控へたお民を振り向き、

「ねえ、素敵なもんだねえ」

「えゝ」

ニヤ／＼してゐる顔から讀み取らうとするやうに、三平も、そつちを見詰めてゐたが、

「あゝ、解つた！　お鮨だ！」

「馬鹿！　鮨くらゐどこイだつてあらアね」

「あたしには解つてる」

と、澤田が、年齢に不似合なほど色氣のある身のこなしで、「先刻、御飯の時に、貴方がうまがつて食べていらしつたもんでせう？」

「ふゝゝゝふん」

ホームス・パンの運動着の胸衣嚢から、氣どつた手つきで、手巾を抜くと、出もしない洟をかんで、「どうだい！」

「いゝわねえ、まつたく」

「なんだらう、先刻あがつたもん……。あゝ、さうか！　栗だ！　三河屋のふくませだ！」

「さア行かう」

健吉は急に立ちあがると、「どうも御馳走樣。勝手にお土産まで貰つて行くよ」

「さう、歸る？……然し、世の中、變つたもんだねえ」

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「だから、貴方は正直だよ。どういたしまして？　この栗なるものがどこの誰の口にはいることか！　ふくませられつ、ふくませつ、つね……」

それには構はず、遠くから歌川の方へ小腰をかゞめてみせて、

「ぢアお先に失禮します」

「お歸りですか」

「ちよつと急ぎますから。いづれまたそのうち……」

「さうですか。それアどうも失禮……」

と、立ちかゝるのを、

「もうどうぞそのまゝ」

「いゝよ〳〵、君、坐つてたまいよ」

と、昌造も手つきで抑えて、「ぢア、俺もこゝで失敬するよ」

「よウさん、さよなら！　立ちませんよ！」

若手の連中が、振り向いて、口々にそんないけぞんざいな挨拶を投げた。

「あたしが皆さんの御名代に……」

と、澤田が立ち、三平やお民もついて、どや〳〵と出て行つた。

「しイさん！　こつちイいらつしやいなね！」

「駄目ぢアないの、お客様をほつたらかしといて！」

「お酒なんぞよしなさいよ！」

ウヰスキイと來るとね……」

仕方なく昌造も、銚子と杯を兩手にもち、座布團を足で蹴寄せながら、そつちの仲間にはいりに行つた。「何しろ、生で、たて續けに献杯々々ぢやア荒事すぎるよ」

「そんなもの、そつちイ置いていらつしやいつてば！」

「はツはゝゝゝは」

細い目もとに、可愛らしい笑靨をよせて、有髪の歌川も、他愛のない笑ひ聲をたて始めてゐた。

約束のあく時間が來たとみえて、そのうち、ぽつ〳〵年齢のいつた連中もはいつて來た。松川家はその人たちに任せて置いて、いつの間にかまた昌造は、ウヰスキー仲間に引きづり込まれて了つた。昨夜懲りて、一生懸命控えるつもりではゐたが、鈴香を始めとして、富子、鶴代などの豪傑にあつては、ひとつだつてこつちの云分は通らなかつた。駄目よ！　卑怯よ！　で、しつきりなしにがぶ飲みを強いられてゐるうちに、またしても、だん〳〵わけがわからなくなつて行つた……」

晝間からの引き續きで、けれども有繫に女連もまゐつた。つぶれるものはつぶれ、生醉のは、先達を失つた上に、煙つたい姐さん株の顔がちらほらしだしたのに辟易して、一人へり二人へり、いつとはなしに影をひそめて行つたから、昌造の醉も、今夜は金盥を被るまでには至らなさうだつた。

……ふと氣がつくと、何か大きな聲で唄を唄つてゐた。先刻まで、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

書院崩しの出窓の柱に背を凭せて、それが癖の、片胡座の足頸を捉えては、腿のつけ根へ引きあげ引きあげしてゐた歌川が、今度は座敷の眞中に、小靜といふ、土地での清元やさんと膝をつき合せて、眞面目に何か教はつてゐた。さう云へば、次の芝居に、三味線を彈き、唄を唄ふ役をふられてゐるので、誰かに教はりたい、などゝ話してゐた歌川の樣子も思ひ出された。その稽古に、昌造も一緒になつて聲を合せてゐるのらしかつた。

……互に凭りかゝり合ふほどに、ピタリと背なかを合せて、うしろに坐つてゐるものがあつた。首を振向けると、束髮の、大きくふくれ出した髱と、白い頰がほんの僅か見えるばかりで、默つてそれと向ひ合せに、何か話し込んでゐたらしい澤田の顏が、昌造に向つて笑ひかけた。

「どうも、實に結構ですよ」

「何が」

「いゝえ、保名がさ」

「ヤスナ?」

「大抵の盃ぢアもちませんね。西の內かなんか、よつぽど丈夫な紙ででも目貼をしとかない限り……」

背なかでさう云ふ聲の主を、

「誰だい?」

と、今度は、體ごと振向き、橫から窺き込んだ。「ふーん、なんだ、君かア」

「瑛龍姐さん!」

そのとき、なみ〳〵と注いだリキユール・グラスを持つた手が、橫合からついと伸びて來て、「なんでもかんでも、これを是非綺麗にあけてくださいましつて」

見ると、ウヰスキー連の殘黨に、二三人新手が加はつて、そこに陣どつてゐた。

「誰が?」

聲と共に、薄い着物を透して、微な聲帶の震動が、昌造の背筋へ傳はつて來た。

「こゝにゐるあたしたちみんなから」

「さう?」

と、躊躇はずうけとつて、「ぢア飲むわ!」

「あら?」

と、澤田が目を瞠つて、「いつの間にあんた、そんなことが出來るやうになつたの?」

「どうも有難う」

ひと滴も餘さないコップを突き返すと、背なかに深い息が傳つた。

急に昌造は、蕃聲を張りあげて、歌川の稽古に割り込んで行つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯だより

◇從來高級な綜合雜誌は、その部數もあまりたいしたことはなかつた。しかるに本誌が一度び革命的に三十錢の値下を斷行するや僅々二ケ月にして十一萬部の增加を示したことは實に我國文化史上の一大奇蹟である。この增刷部數には一册半册の還値もない。本年内には五十萬部を突破するかも知れない。

◇論文が時代思潮を正しく指導し、創作が一粒選りの心血を濺げる結晶でなくてどうしてかくの如き歡迎を受け得やう。我誌はいよいよ責任の倍加を痛感せない譯には行かない。

◇日本人は米の飯には永久に飽きない。我誌は誌界の米の飯であり、時代の標識燈である。良藥は口ににがいこともある。いろくむづかしいところや、にがいところがあるかも知れないが、そうしたところに本誌の本領もある。人生行路の正映がある。

◇ボロヂーンは東洋の怪である。彼の行運は悉く？である。？の人物ではあるが、彼が支那全土を動かす現下最大の原動力であることは爭はれぬ。支那革命の研究は先づ彼の思想人物の檢討より始むべきだ。

◇短篇作家として名高い芥川氏が一百四枚の大作を發表したことは文壇の驚異だ。佐藤春夫氏亦堂々六十一枚の谷崎潤一郎論を發表した。何れも近時の特筆すべき大收穫である。

◇本誌の總枚數は實に一千四十二枚に及び改革前の總枚數平均七百二十五枚に比し三百十七枚の增加を示してゐる。八十錢號のときより約一倍半の原稿が這入つている。從來の壹圓貳十錢の分量が五十錢で讀める譯です。實に我社の犧牲的努力には相當に認めて載きたいと思ふ。それにどの頁も稿料に於ても多大の負擔に任じているのである、ボロ屑みたいな原稿は一枚もない。

◇詩人クローデル大使はいくたの業績をのこしつつ我國を去る。いろいろの點で氏の駐劄は賑かで意義ある效果をもたらした。

◇『現代日本文學全集』第四回配本は『島崎藤村集』で三月十日頃より配本を開始します。ふだんの期日より約十五日間配本を繰上げました。『谷崎潤一郎集』も出來上りました、菊判三百四十餘頁に上りました、公約の紙數より四十餘頁も多くなつています。

改造定價

册數	定價	郵送
壹册	五拾錢	貳錢
半ケ年	參圓	郵税不用
壹ケ年	六圓	郵税不用

註文の注意

▲御註文は凡て前金に申受く前金切の時は發送を停止す

▲增大號其他定價變更に依る前金拂込不足の時は御拂込を待つて雜誌を發送す

▲外國よりの御註文は郵税實費を申受く

▲見本御請求の向は振替又は郵券にて定價通り御拂込ありたし但し郵券代用は一割增の事

▲御拂込は振替によらるゝを最も便利とす

昭和二年二月十八日　印刷納本
昭和二年三月一日　發行
(價五拾錢)
東京市麴町區内幸町一ノ三 幸ビルヂング
編輯兼發行印刷人　山本三生
東京市外小石川町二ノ二三
印刷所　秀英舍
發行所　東京麴町區内幸町一ノ三 幸ビルヂング一階
改造社
振替東京　八四〇二
電話銀座　四五五八
營業部　一五〇四八
編輯部　一七三三

現代日本文學全集第一回配本
『尾崎紅葉集』について急告

昭和二年二月十三日大阪毎日新聞社發行「サンデー毎日」第六年第八號一〇頁所載の「現代日本文學全集」中の「尾崎紅葉集」に關する事項は、事實全く無根なり。所定の印税を拂ふこと位は市井の商人と雖怠らじ、我社の如き光榮ある歷史を有するものが印税等をごまかす事などは首にかけてもなし、我社は印税支拂以上の幾多の犧牲さへ忍んでゐるものである。（現に北村透谷氏、樋口一葉氏の如き死後三十年を經過し印税支拂期の消滅せるものにも他の全集と同額の印税を支拂ひおれり）そんなことで改造社の大業が遂げらるゝものにあらず、我社は文學全集の愛讀者及我社に好意を有せらるゝ全國數百萬の人士に對し右宣明す。

泉鏡花氏の書簡

拜啓先刻社員の方おんいでサンデー毎日の記事お見せになり小生も一讀餘りといへば無根の儀に驚き且つ呆れ申候舊冬尾崎家奧樣は御病氣中夏彥樣お學問の餘暇に奧附檢印なされ候が大部數の事ゆゑ一度に十枚づゝ早手まはしの印を工夫し改造社よりも手づたひ毎日二人までなど笑ひながらのお話承り小生も師家のためお喜び申候次第其の後お約束の印税もすら〳〵御入手のよしこれまた奧樣夏彥樣よりぢきに速に承り

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

及び候に印税お支拂ひなきため御社にかけあい申候など跡方もなき事たゞしあの記事にては小生等面目を施しをり候につけても、あなたをはじめ社中御一同御迷惑より何より嘸ぞ／＼御心外御無念のだん深くお察し申上げお慰めの思ひにて寸緒申上候幾十萬の讀者のかた／＼に對しても一刻も早くかゝる沙汰の根もなき事あひわかり候やう偏に祈り申候　早々敬具

二月十二日　鏡太郎

山本實彥様

德田秋聲

去二月十三日の「サンデー毎日」に改造社が現代日本文學全集第一卷尾崎紅葉集の印税を遺族へ支拂はないので私達が交渉して支拂はせたといふ記事を見て實は驚いて居る。多分何かの浮説を聞きかじつて書いたものだらうが、勿論根もない誣言で、間違としても念が入りすぎる。事實は全然反對で山本君も初めから尾崎家に特別の好意をもつてゐたことは私も知つてゐるが、この記事のために迷惑するのは獨り改造社のみならず、尾崎家も同様迷惑を感じてゐることと思ふ。

尾崎家よりの書簡

二月十三日發行「サンデー毎日」に載つた「尾崎紅葉集」に關する記事は、全然虚根の事實で、右印發行後直ちに所定の金額を受取つて居り、又右の集を改造社が發行するについて、同社が非常な好つたことも知つてゐるし、改造社のお骨折には衷心感謝してゐる次第である。どうしてあんな記が掲げられたか、改造社のためには只々お氣の毒である。

尾崎夏

里見弴著

大道無門

定價金貳

送料金二十

最新刊

豐かなる美感と、深刻なる描寫、自由なる構想と、妖艶の美女。吾々は氏の神品に接するごとに、唯々その豐潤なる美の香氣と奇矯なる人生の綾に醉はされきつてしまふのだ。今や、氏の熱誠の總てを傾倒せる駿品大道無門は遂に完成した。一點一劃の技巧をもゆるがせにせぬ氏が、此の長篇こそ、實に我が文壇と讀書界に大渦紋を呼び起さずには置かぬものである。凡そ文藝を口にするものの必讀玩味すべき書だ。

京市麴町區内幸町
ルデング一階
東京八四〇二

改造社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN